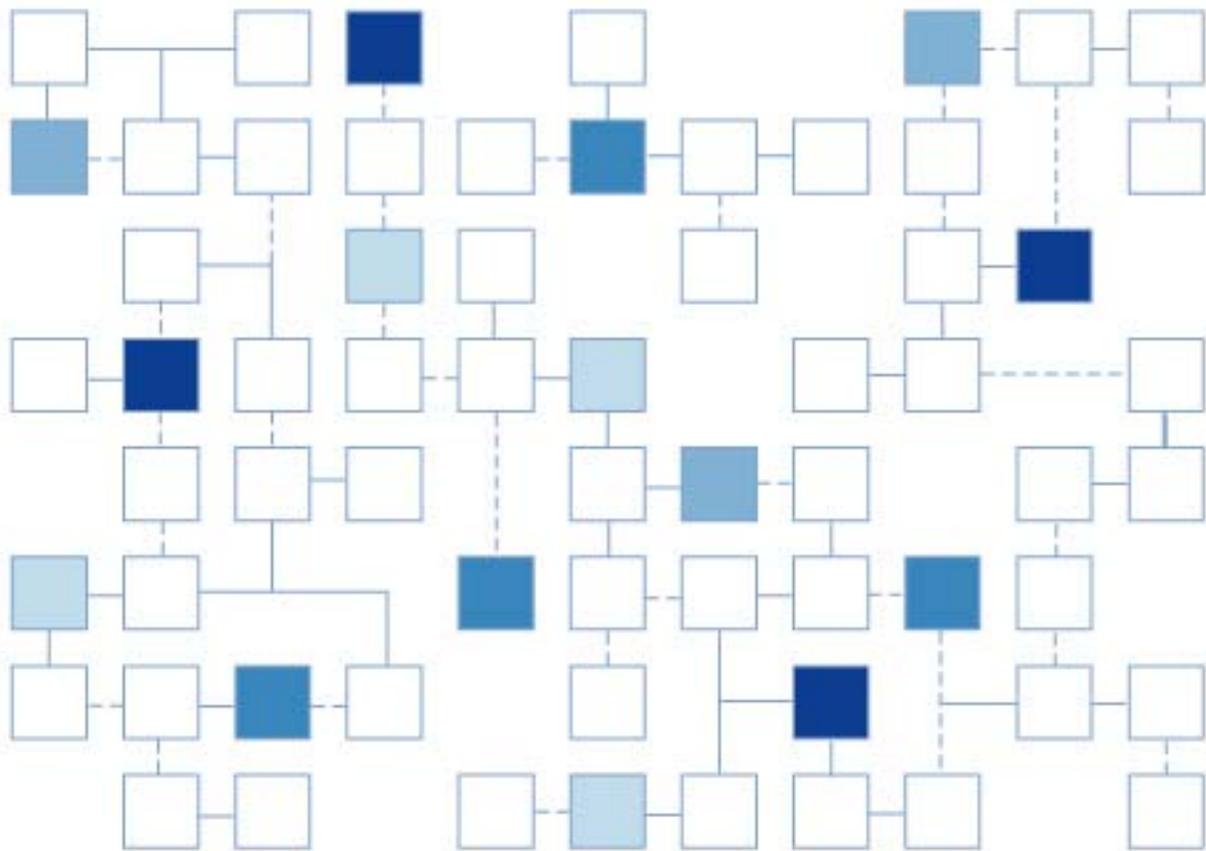




ExtraView アドミニストレーション・ガイド

バージョン 5.2.2





ExtraView Corporation
269 Mount Hermon Road, Suite 100
Scotts Valley, CA 95066

電話: (831) 461-7100
Fax: (831) 461-7104
電子メール: info@extraview.com
www.extraview.com
© 1999 - 2007 ExtraView Corporation
All rights reserved

マニュアル名: ExtraView アドミニストレーション・ガイド
改訂年月日: January 30, 2008

本書に含まれる情報、および本書に登場するソフトウェアは、予告なく変更されることがあります。本書に登場する URL およびその他の Web サイトも変更される場合があります。著作権に基づく権利を制限することなく、本書のいかなる部分も ExtraView Corporation からの書面による明示的な許可なく、複製、検索システムへの格納または導入、任意の形式または手段（電子的、機械的な手段、コピー、録音、その他の手段）による、任意の目的での送信はできません。

本書に登場する対象物に対して、ExtraView Corporation が特許、特許申請、商標、商標登録申請、著作権またはその他の知的財産権を保有する場合があります。ExtraView Corporation から書面によるライセンス契約書が提供される場合を除いて、本書の提供により、これらの特許権、商標権、著作権またはその他の知的財産権が付与されることはありません。

本書に登場する実在の会社名および製品名は、それぞれの所有者の商標である場合があります。

本書について

『ExtraView アドミニストレーション・ガイド』は、ExtraView Web ベースのビジネス・プロセス管理システムのユーザに、次の 2 つの一般的な目標を達成するために必要な知識とスキルを提供します。

1. 要求される適切なすべてのデータ・フィールドとセキュリティ権限を含め、会社のワークフロー・プロセス、ビジネス・ルール、および組織間のボキャブラリーに従って ExtraView をカスタマイズする。
2. ユーザの問い合わせ、関心事、リクエストに効率的に対応するために、ExtraView の稼動中に管理者が適切に管理できるようにする。

本書では、ExtraView の標準的なビジネス・プロセス管理機能の多くについて、読者がある程度の知識を持っていることを前提にしています。そのため本書では、主に ExtraView の管理機能を中心に説明しています。

ExtraView Corporation では、ExtraView に関してほかに次のようなマニュアルを提供しています。

- 『ExtraView ユーザーズ・ガイド』
- 『ExtraView コマンド・ライン・インタフェースおよびアプリケーション・プログラミング・インタフェース・ガイド』
- 『ExtraView インストール / 構成ガイド』
- 『ExtraView User Custom Guide』

本書について

本書に記載されている情報は、次のように構成されています。

| | |
|-----------------|--|
| 初期設定および構成 | ExtraView のインストレーションのカスタマイズに必要なすべての情報を管理者に提供します。 |
| ユーザ管理 | システムにおける、ユーザとユーザのロールの追加および管理についての情報を提供します。プライバシー・グループとユーザ設定についても説明しています。 |
| リスト管理 | 事前定義フィールドとユーザ定義フィールドの両方に含まれる、すべてのリストの保守機能について説明します。 |
| フィールドおよびレイアウト管理 | このセクションでは、データ辞書、セキュリティ権限、レイアウトの作成および保守、および許容値タイプ(親子関係)の設定と保守について説明します。 |
| 表示オプション | 画面、レポート、フォント、色の表示設定の方法を説明します。 |

| | |
|--------------------------------|--|
| ワークフローの設定および操作 | ワークフロー、ステータスの変更、および関係グループの設定方法を説明します。 |
| 電子メール通知 | ExtraView のすべての電子メール通知機能について詳細に説明します。 |
| システム制御 | システムの主要な制御方法および設定方法について説明します。 |
| インポート/エクスポート管理 管理レポート・オプション | メタデータおよび issue データのエクスポートおよびインポートについて説明します。 管理者が理解する必要があるレポート・オプションについて説明します。 |
| システム・ログ | ExtraView でログに記録されるさまざまな情報、およびこの情報を解釈する方法について説明します。 |
| ヘルプ・システム | 組み込みのヘルプ・システムの構成について説明します。 |

表記規則

本書では、次のような特定の表記規則に従います。

- ExtraView で管理者がカスタマイズ可能な用語は*イタリック*で示します。
リストから *製品* を選択します。
- ボタン、リンク、リスト、またはフィールドの名前は**太字**で示します。
[所有者] ドロップダウン・リストから値を選択します。
- 特定の結果を得るために複数の手順が必要な場合は、各手順を数字で表記します。
 1. **[Edit]** ボタンをクリックします。
 2. リストから値を選択します。
 3. **[更新]** ボタンをクリックします。

目次

| | |
|-------------------------------------|-----------|
| はじめに | 13 |
| EXTRAVIEW の概要 | 13 |
| 主要な概念 | 13 |
| <i>ExtraView</i> の設定および構成 | 13 |
| 名前とタイトル | 14 |
| 自社に最適なプロセスの定義 | 15 |
| データ辞書 | 16 |
| ユーザ・インタフェースの柔軟性 | 16 |
| ユーザ | 16 |
| ユーザ・ロールおよびセキュリティ・システム | 17 |
| ビジネス・エリア | 18 |
| 画面およびレポートのレイアウト・エディタ | 20 |
| 電子メール関係者リスト | 20 |
| レポート | 20 |
| アプリケーション・プログラミング・インタフェース(API) | 21 |
| コマンド・ライン・インタフェース(CLI) | 21 |
| 初期設定および構成 | 22 |
| 概念 | 22 |
| クライアント・ブラウザ | 22 |
| サポートされるブラウザ | 22 |
| 画面解像度 | 22 |
| ブラウザのクッキー | 23 |
| ブラウザの [戻る] ボタン | 23 |
| ブラウザの [更新] ボタン | 23 |
| ブラウザ上での文字セット | 23 |
| 動作設定の初期設定 | 23 |
| 動作設定 | 24 |
| 一般的に利用される動作設定 | 26 |
| セキュリティ権限の初期設定 | 28 |
| グローバル化・ファイルの構成 | 29 |
| ユーザ・インタフェースの修正 | 30 |
| Web カスケード・スタイル・シート | 30 |
| メニューの方向 | 32 |
| メニューのサイズ | 34 |
| メニュー・バー | 34 |
| メニューのテキストの色 | 35 |
| 背景およびテキストの色 | 36 |
| ボタンおよび画像 | 37 |
| 色および画像のテーマ | 43 |
| サインオン・ページ | 54 |
| ユーザ管理 | 55 |
| EXTRAVIEW のライセンス方式 | 55 |

| | |
|---|-----------|
| ユーザロック・ライセンス方式..... | 55 |
| フローティング・ライセンス方式..... | 55 |
| 混合ライセンス方式..... | 55 |
| 無償エンドユーザ・ライセンス..... | 56 |
| ADMIN ユーザ..... | 56 |
| 概念..... | 56 |
| リストの管理..... | 57 |
| ユーザ・アカウント・メンテナンス..... | 59 |
| 新規ユーザの追加..... | 59 |
| ユーザ・アカウントの編集..... | 69 |
| セッション管理..... | 73 |
| ユーザが自動的に ExtraView からサインオフされる条件..... | 74 |
| ユーザロック・ライセンスを持つエンド・ユーザのセッション管理..... | 75 |
| フローティング・ライセンスを持つエンド・ユーザのセッション管理..... | 76 |
| ユーザの切断..... | 77 |
| ユーザのサインオン・ログ..... | 77 |
| 権限のないアクセス..... | 79 |
| ユーザ・アクセスの有効化/無効化..... | 81 |
| セキュリティ権限の付与..... | 81 |
| ユーザ設定..... | 82 |
| プライバシー・グループ..... | 85 |
| 新しいプライバシー・グループの作成..... | 87 |
| ユーザ・ロール..... | 89 |
| 現在のユーザ・ロールの変更..... | 90 |
| ユーザ・ロールの追加..... | 91 |
| 会社名のセキュリティ..... | 92 |
| 管理ユーザ・ロールの階層を作成する..... | 96 |
| リスト管理..... | 97 |
| 概念..... | 97 |
| リストのソート..... | 97 |
| 関係者リスト..... | 98 |
| リストへのエントリの追加および編集..... | 99 |
| [Administration]メニューからのリスト管理..... | 99 |
| 大きなリストの管理..... | 103 |
| エンドユーザによるリスト管理..... | 104 |
| エントリのリストと許容値..... | 105 |
| ビジネス・エリアと許容値の関係..... | 106 |
| 別名が付けられたリスト..... | 107 |
| 特別なプロパティのあるリスト..... | 107 |
| ビジネス・エリア..... | 107 |
| プロジェクト・リストにリンクされているビジネス・エリア..... | 108 |
| フィールドの関係者リストが有効にされているリスト..... | 109 |
| 製品ラインリスト..... | 110 |
| 製品名リスト..... | 110 |
| モジュール名リスト..... | 111 |
| [検出リリース] および [修正リリース] リスト..... | 113 |
| ステータス・リスト..... | 114 |

| | |
|--|------------|
| フィールドとレイアウトの管理 | 116 |
| 概念 | 116 |
| データ辞書 | 119 |
| フィールド | 119 |
| 式 | 120 |
| ラベル | 120 |
| 画面 | 120 |
| セッション変数 | 120 |
| 特殊変数 | 120 |
| データ辞書の主な使用方法 | 120 |
| データ辞書項目の編集 | 121 |
| 式フィールド | 135 |
| テキスト・エリア、出力テキスト、ログ・エリアの各フィールドの特別なプロパティ | 135 |
| 特別な目的のデータ辞書フィールド | 136 |
| 添付ファイル | 138 |
| 電子メール・フィールド | 139 |
| ユーザ・フィールド | 139 |
| 履歴フィールド | 140 |
| 関係グループ・フィールド | 141 |
| 事前定義リピーティング行フィールド | 141 |
| ボタン・フィールド | 142 |
| 表示タイプ | 147 |
| ボタン | 148 |
| チェックボックス | 148 |
| 通貨 | 148 |
| カスタム | 148 |
| 日付 | 149 |
| 日 | 149 |
| 小数 | 150 |
| HTML エリア | 150 |
| ラベル | 150 |
| リスト | 150 |
| ログ・エリア | 151 |
| 数値 | 151 |
| ポップアップ | 151 |
| 出力テキスト | 152 |
| タブ | 152 |
| テキスト・フィールド | 152 |
| テキスト・エリア | 153 |
| ユーザ | 153 |
| ユーザ定義フィールド(UDF) | 153 |
| UDF の作成および使用 | 154 |
| ユーザ定義フィールドの追加 | 155 |
| データ辞書フィールドのプロパティ | 155 |
| 既存のユーザ定義フィールドの編集 | 161 |
| セキュリティ権限の付与 | 162 |
| セキュリティ権限の編集 | 163 |

| | |
|--|------------|
| フィールドまたはオプションを読み取り専用にする..... | 165 |
| フィールドまたはオプションを書き込み専用にする..... | 165 |
| 特定のユーザ・ロールに対してフィールドまたはオプションを読み取り/書き込み可能にする | 165 |
| 特定のユーザ・ロールに対してフィールドを非表示にする..... | 165 |
| エリアおよびプロジェクトのレイアウト..... | 166 |
| ユーザ・ロールのレイアウト..... | 168 |
| 埋め込みレイアウト..... | 168 |
| リピーティング行のレイアウト..... | 169 |
| レイアウトの選択方法..... | 170 |
| レイアウトの管理..... | 172 |
| 既存のレイアウトの追加と更新..... | 172 |
| 特定のユーザ・ロールのレイアウト作成..... | 173 |
| レイアウト内の既存のフィールドの再配置..... | 175 |
| レイアウト・セル属性..... | 176 |
| レイアウトの消去および削除..... | 186 |
| レイアウト上での「保存」操作の実行..... | 186 |
| レイアウト内の埋め込みレイアウト- 別の実装方法..... | 187 |
| フィールドの値に基づいて選択される埋め込みレイアウト..... | 188 |
| リピーティング行レイアウトの作成..... | 191 |
| 適切な画面へのリピーティング行レイアウトの追加..... | 194 |
| 履歴レイアウト..... | 195 |
| 追加/編集レイアウトの添付ファイル..... | 196 |
| ATTACHMENT_HISTORY レイアウト..... | 198 |
| レイアウト内のフィールド制限..... | 199 |
| 許容値タイプ..... | 206 |
| 新しい許容値タイプの作成..... | 207 |
| 許容値の入力..... | 208 |
| [* デフォルト*] 親許容値..... | 210 |
| 許容値のカスケード..... | 210 |
| 複数の子値を持つ許容値の親フィールド..... | 211 |
| 許容値の制限事項..... | 211 |
| 許容値およびリピーティング行レコード..... | 212 |
| レイアウト・タイプの作成 / 変更..... | 212 |
| 新しいレイアウト・タイプの作成..... | 212 |
| 複雑なレイアウトの作成..... | 213 |
| 例1 - 関連する issue のレポートを埋め込む..... | 214 |
| 例2 ビジネス・エリアのフィールドを異なるビジネス・エリアに関連付ける..... | 217 |
| 表示オプションの管理..... | 220 |
| レポートとクエリの設定..... | 220 |
| レポートの階層..... | 223 |
| サインオン・メッセージ..... | 226 |
| 企業のサインオン・メッセージの作成または変更..... | 226 |
| フォントと色の設定..... | 228 |
| 表示の設定..... | 230 |
| 新しい会社ロゴの画像をアップロードする..... | 235 |
| ワークフローの設定および操作..... | 236 |
| 概念..... | 236 |

| | |
|--|------------|
| ビジネス・ルールと電子メール・ルール | 237 |
| ルール指示 | 237 |
| ルール式 | 240 |
| ワークフローの設定 | 254 |
| ステータス変更ルール | 259 |
| ステータス変更ルールの有効化 | 259 |
| ADMIN_OVERRIDE_ROLE 動作設定との相互関係 | 260 |
| 自社のワークフロー・プロセスの選択 | 260 |
| ステータス変更ルールのカスタマイズ | 260 |
| ステータス変更ルールの適用 | 262 |
| エリアとプロジェクトに対するステータス変更ルールの適用 | 263 |
| ステータス変更ルールおよび許容値と許可の設定 | 264 |
| issue のクローズ | 264 |
| ステータス・ルールの変更例 | 265 |
| ステータス署名ルールの作成 | 268 |
| ステータス署名ルールの有効化 | 268 |
| 自社のワークフロー・プロセスの選択 | 269 |
| ステータス署名ルールのカスタマイズ | 269 |
| ステータス署名ルールの適用 | 270 |
| 関係グループ | 271 |
| 関係グループの使用 | 275 |
| 関係グループを使用するための ExtraView の設定 | 275 |
| 関連 issue の更新 | 278 |
| 関連する issue と一括更新 | 280 |
| 関連する issue とレポート出力タイプ | 280 |
| 電子メール通知 | 282 |
| 概念 | 282 |
| 管理者が制御する機能 | 282 |
| 電子メール・アドレス | 283 |
| システム全体の電子メールを有効または無効にする | 283 |
| 特定のユーザ・ロールに対して電子メールリストへのアクセスを無効にする | 283 |
| モジュール所有者を割り当てる | 283 |
| 製品の電子メールアドレスを設定する | 284 |
| 電子メール通知の件名をカスタマイズする | 285 |
| CC メールを有効にする | 285 |
| 自動電子メール作成を無効にする | 286 |
| 外部ユーザへの電子メール作成を無効にする | 287 |
| 電子メールテンプレート | 287 |
| 電子メール関係者リスト | 290 |
| フィールドの関係者リストを有効にする | 290 |
| Issue の関係者リストを作成する | 291 |
| フィールド・ベースの関係者リストの管理 | 292 |
| 関係者リストとセキュリティ権限 | 295 |
| 個別のユーザに対する関係者リストの管理 | 295 |
| 電子メール設定 | 296 |
| EXTRA VIEW が ISSUE のメーリング・リストを作成する方法 | 298 |
| エスカレーションとエスカレーション・ルール | 300 |

| | |
|--|------------|
| 初期設定..... | 300 |
| エスカレーション・ルールの作成と保守..... | 301 |
| エスカレーション・ルールの追加と更新..... | 301 |
| エスカレーション・ルールの例..... | 304 |
| ユーザが制御する通知機能..... | 305 |
| ユーザ自身の更新の通知..... | 306 |
| 電子メール形式の選択..... | 306 |
| 電子メールによる ISSUE の追加..... | 310 |
| システム制御..... | 311 |
| 概念..... | 311 |
| セキュリティとセッションの設定..... | 312 |
| セッション失効..... | 316 |
| 環境設定..... | 319 |
| 会社情報の設定..... | 322 |
| システム・ログ..... | 323 |
| アラウドロケール..... | 325 |
| システム・メッセージとプロンプトの翻訳..... | 326 |
| アクセント記号付き文字をローカライズ・システムに入力する..... | 327 |
| エンドユーザの言語選択..... | 327 |
| システム・メッセージとプロンプトの翻訳..... | 328 |
| メタデータ値の翻訳..... | 329 |
| LDAP サーバとシングル・サインオン・サーバ..... | 331 |
| シングル・サインオン (SSO) 接続..... | 332 |
| SSO を使用した Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) 接続..... | 333 |
| Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) の直接接続..... | 336 |
| LDAP および SSO の接続例..... | 338 |
| ExtraView の [追加] および [編集] 画面のフィールドに事前入力する..... | 339 |
| API 設定..... | 343 |
| システムデバッグ&ユーザ・カスタム設定..... | 343 |
| サーバ側テンプレートの管理..... | 344 |
| 統計情報..... | 345 |
| EXTRA VIEW バージョン情報..... | 347 |
| すべての動作設定..... | 350 |
| EXTRA VIEW ライセンス..... | 350 |
| システム・セキュリティ・キー..... | 351 |
| 既存のセキュリティ・キーの編集..... | 351 |
| システムログ・タイプ..... | 352 |
| ユーザ向けスタートページリストの管理..... | 352 |
| [ADMINISTRATION]メニューのタイトルの変更..... | 352 |
| インポート/エクスポートの管理..... | 354 |
| 概念..... | 354 |
| XML のインポートとエクスポートの基本..... | 354 |
| メタデータのエクスポートとインポート..... | 354 |
| ファミリー情報のエクスポート..... | 356 |
| 項目データのインポート..... | 359 |
| 項目データのエクスポート..... | 362 |
| メタデータの XML 形式へのエクスポート..... | 363 |

| | |
|---|-----|
| メタデータの XML 形式からのインポート..... | 364 |
| インポート・プロセス内でのユーザ・データの取り扱い..... | 367 |
| メタデータのインポート中のエラー・ログ..... | 369 |
| メタデータのインポート中に拒否されたレコードの取り扱い..... | 369 |
| XML エクスポートおよび XML インポートを使用したインスタンスの更新..... | 370 |
| インスタンスの種類..... | 370 |
| 手順 1 開発インスタンスを作成する..... | 370 |
| 手順 2 構成作業を実施する..... | 371 |
| 手順 3 開発環境をステージング環境に移行する..... | 371 |
| 手順 4 ステージング・データベースにある ExtraView 環境全体の品質を調査する..... | 372 |
| 手順 5 実働データベースをアップグレードする..... | 372 |
| 項目データの XML インポート..... | 373 |
| バッチ・モード..... | 373 |
| API コマンド..... | 374 |
| 項目データのインポート・エラー..... | 376 |
| ファイル・インポート- ISSUE データ..... | 377 |
| アップロード・ファイルの作成..... | 379 |
| 最大フィールド・サイズ..... | 381 |
| データのマッピングとインポートの実行..... | 381 |
| 既存の Issue の更新..... | 385 |
| リピーティング行データのインポート..... | 385 |
| インポートの方針..... | 387 |
| ファイル・インポート- ユーザ・データ..... | 390 |
| 管理レポート/クエリ・オプション..... | 395 |
| 概念..... | 395 |
| クイックリストと詳細レポート..... | 395 |
| EXTRA VIEW がフィルタ値を記憶する方法..... | 396 |
| グラフ..... | 396 |
| EXTRA VIEW ホーム・ページ画面のカスタマイズ..... | 397 |
| アカウントの詳細の編集..... | 399 |
| カスタム URL にリンクされたレポート..... | 401 |
| レポートへのリンク..... | 402 |
| 無効化された値の検索..... | 403 |
| エージング・レポートとステータス権限キー..... | 403 |
| レコード・セクタ..... | 404 |
| レポートからの ISSUE の一括更新..... | 405 |
| レポートからの ISSUE の複製..... | 409 |
| レポートのローカライズ..... | 410 |
| データ量の多い検索の制御..... | 411 |
| キーワード検索..... | 411 |
| Microsoft ドキュメントのキーワード検索..... | 412 |
| レコードと行..... | 412 |
| レポート式..... | 413 |
| レポート式の構文..... | 413 |
| 式の評価..... | 414 |
| 式のエラー処理..... | 414 |
| レポート・フィールドのタイトル..... | 414 |

| | |
|-------------------------------------|------------|
| セッション変数の使用..... | 415 |
| 関連 ISSUE の例 | 415 |
| 手順1 - 関係グループを作成する..... | 415 |
| 手順2 - フィールドをレイアウトに配置する..... | 416 |
| 手順3 - ビジネス・エリアのリンクを作成する..... | 416 |
| 手順4 - 顧客をカスタマーサポートに関連付ける..... | 417 |
| 手順5 - 関連 issue の表示を作成する..... | 417 |
| 手順6 - レポート階層の作成..... | 421 |
| 手順7 - 階層レポートを作成する..... | 422 |
| ExtraView のカスタム・コーディング拡張..... | 425 |
| JAVA カスタム・コーディング | 425 |
| JAVASCRIPT カスタム・コーディング | 426 |
| ExtraView のヘルプ..... | 428 |
| 組み込みのヘルプ・システム..... | 428 |
| 独自のヘルプ・システムの定義..... | 428 |
| デフォルト・ヘルプ・システムのパス..... | 428 |
| 独自のヘルプ・システムにパスを定義する..... | 429 |
| 独自のヘルプ・システムへのアクセス..... | 429 |
| ExtraView のシステム・ログ..... | 430 |
| アプリケーション・サーバ・ログ..... | 430 |
| アプリケーション・サーバ・ログ・ファイルの形式..... | 432 |
| アプリケーション・サーバ・ログ内のエラー..... | 434 |
| BATCHMAIL ログ..... | 435 |
| BatchMail ログ内のエラー..... | 435 |
| 付録 A 日付と時間の形式..... | 437 |
| 概要..... | 437 |
| ローカライズ可能な日付と時間の形式..... | 437 |
| 標準日付/時間解析形式..... | 437 |
| カスタム日付マスク..... | 438 |
| 付録 B セキュリティ権限キー..... | 441 |
| 付録 C 言語およびロケール・コード..... | 456 |
| 付録 D タイムゾーン..... | 459 |
| 付録 E 文字セットの値..... | 467 |
| 付録 F HTML エリア・ユーティリティ..... | 470 |
| エディタを構成する..... | 471 |
| エディタの制限..... | 472 |
| 索引..... | 473 |

はじめに

ExtraView の概要

ExtraView は次のような特徴を持つ、Web ベースの問題追跡およびワークフロー管理のソフトウェアです。

- インストール、構成、管理が容易で、社内での設定と所有コストを最小化
- 将来的に簡単に拡張可能な機能を提供
- 大幅な修正の必要なく企業のビジネス・プロセスとワークフローをサポート
- 複数の追跡システムをすべて単一のデータベース内で実装でき、各追跡システムを個別に、または他の追跡アプリケーションと連携して動作させることが可能。
- 多数のユーザや issue(案件、問題)をサポートするスケーラビリティを提供
- 自社の用語、データ階層を反映させて容易にカスタマイズでき、自社の組織、製品、サービスを説明するデータの広範な検証が可能
- 他のソフトウェア・システムと容易に統合が可能

主要な概念

ExtraView の設定および構成

このプロセスを適切に実行するには、詳細な計画を立てることが必要です。本書の目的は、初期設定のうち管理者が行う部分について詳細に説明し、インストールをサポートすることです。サーバと ExtraView アプリケーションのインストールの詳細については、個別のプラットフォームの『ExtraView インストール / 構成ガイド』を参照してください。インストール時の設定で推奨される基本的なワークフローは次のとおりです。

- ExtraView をサポートするサーバのハードウェアとネットワーク接続について計画します。ExtraView Corporation のテクニカル・サポート担当者が、適切なプラットフォームについてのアドバイスをを行います。『ExtraView インストール/構成ガイド』を参照することもできます。
- データベース、Web サーバ、およびアプリケーション・サーバ・ソフトウェアをインストールして、企業内ネットワークまたはインターネットを通じた通信を確立します。
- ExtraView アプリケーションをインストールします。プラットフォーム別の注意事項などについては、『ExtraView インストール/構成ガイド』を参照してください。
- ExtraView を設定します。本書では、システムの設計と、自社に必要な機能を設定する方法について説明します。必要な作業の概要は次のようになります。これらの作業の多くは記載されている順に行う必要はなく、任意に実行すること

ができます。

- 少数の汎用的な動作を設定します。これらは、自社の環境での ExtraView 稼動状況に大きな影響を及ぼす設定です。
- リモート・データベースに対して必要な特別な接続を設定します。例えば、リモートのディレクトリ・サービスに対する LDAP または Active Directory、あるいはシングル・サインオン認証用の SSO などがあります。
- システムにアクセスするユーザのさまざまなロール、またはユーザのカテゴリを定義し採用します。
- 事前定義フィールドを補完する、システム内のユーザ定義フィールドを定義および作成します。
- 異なるレコード・タイプの相関関係やリスト値の間に存在する親子関係など、レコード・タイプ間およびフィールド間の関係を定義します。
- 作成したフィールドをサポートする画面の設計とレイアウトを行います。
- 定義した各ユーザのロールについて、各画面へのアクセスをサポートするアクセス権の構造を作成します。
- 自社のプロセスを管理するワークフローを設定します。複雑なワークフローの場合は、Java または JavaScript 言語による、カスタマイズされた「user exit」ルーチンの設計およびプログラミングが必要になる場合があります。
- ユーザが共有可能な標準レポートを設計します。
- システムにユーザ・アカウントを追加します。
- 完成したシステムをテストします。

名前とタイトル

これらの用語は、本書全体で一般的に使用されています。

名前は、データベース内で使用される、フィールドまたはオブジェクトを参照する決められた用語です。一度作成すると、オブジェクトの名前は変更されず、固有の参照先になります。それぞれの名前にはタイトルが付けられます。ExtraView のローカライズ機能を有効にしている場合は、名前が付けられた任意のオブジェクトについて複数のタイトルが定義されている場合があります。

タイトルは、ExtraView のエンド・ユーザに対してユーザ・インタフェース全体で参照される、オブジェクトの参照先として定義されます。したがって、ExtraView 内のタイトルはすべて変更可能ですが、基礎になる参照先のデータは変更されません。

このように、各フィールドとオブジェクトを参照するタイトルまたはラベルは管理者が任意に変更できますが、基礎になるデータは変更されません。例えば、**ID** という名前のフィールドは、「Defect #」から「Tracking Number」にタイトルを変更できます。この変更の時点から、**ID** を参照するすべての画面、レポート、およびその他の画面で新しいタイトルが使用されます。

このように管理者によって行われたメタデータに対する変更は ExtraView によってログに記録され、誰がいつどのような変更を行ったかの監査証跡になります。

名前は ExtraView 内で固有です。名前には、A ~ Z、0 ~ 9、「_」以外の文字は使用できません。名前の最初の文字はアルファベットにする必要があり、最大 30 文字まで使用できます。名前に英語以外のアルファベットの文字を含めることはできません。また、1 つの名前に 2 つのアンダースコアを含めることはできません。

タイトルは ExtraView のインストレーション全体で固有である必要はありません。固有でないタイトルを使用する場合には考慮が必要です。インストレーションの状況によって、固有でないタイトルの使用が可能な場合とそうでない場合があります。タイトルにはほとんどの文字を使用できますが、「特殊」文字である「!」、「"」、「#」、「\$」、「%」、「&」、「'」、「(」、「)」、「@」、「~」、「:」、「;」、「`」はすべての箇所で使用できるとは限りません。信頼性を確保するため、タイトルにはアルファベットのみを使用するようにしてください。ただし、タイトルはローカライズが可能で、ダブルバイト文字セットのアルファベットを含む、どのアルファベットの文字でも含めることができます。

タイトルには HTML を含めることができ、挿入した HTML は画面上のタイトルに表記されます。例えば、タイトルを大きい赤い文字にしたい場合、タイトルを次のように作成します：

```
<font size=5 color=red>My title</font>
```

この機能を利用すると、API または CLI による出力のすべてに、タイトルと同様に組み込み HTML が含まれ、表示されることに注意してください。

自社に最適なプロセスの定義

システム管理者は、ExtraView を使用して、自社の業務形態に適合するプロセスを定義できます。ExtraView は固定した方法を企業に強要することはありません。管理者は、プログラミングを行わずに自社のニーズに適したルールを設定できます。

提示した各 issue は、定義した任意の数のステータス値間で移動できます。この場合、各ステータスは、個別のステータスに関わることを許可されているロールを持つユーザーだけが見ることができます。例えば、オープン issue はエンジニアリング・グループだけに変更することができ、作業後は [修正済み] または [再現不能] とマーキングすることになります。この場合の issue にアクセスできるのは品質管理などの別のロールだけであるため、この同じエンジニアリング・グループが issue を解決することはできません。

ユーザーのロールは、同じルールに従うすべてのユーザーに対して定義されます。一般的に、顧客、サポート・スタッフ、エンジニアリング、品質保証、マネージャ、管理者などが対象となりますが、定義するユーザーのロールの種類や数はまったくの任意です。

さらに、ExtraView 内の“追加”または“編集”フォームそれぞれに、相当量のロジックをプログラミングできます。例えば、特定のフィールドの内容に応じて値がフィールドに

表示されるように設定したり、または特定のフィールドの値を条件とするサブレイアウトをフォーム内に指定することが可能です。

ExtraView の標準機能で対応できないワークフロー・プロセスがある場合には、ExtraView を Java 言語による追加コードで拡張し、ExtraView のユーザ・カスタム クラスを使用して “user exit” ルーチンに簡単に挿入することができます。詳細については、『ExtraView User Custom Guide』を参照してください。ExtraView では、基本製品のソース・コードを修正することなく、ソース・コード内で機能の変更または追加を簡単に行うことができます。これにより、ExtraView の更新またはアップグレード時にも、既存の投資が保護されます。

データ辞書

データ辞書 は、すべてのフィールド定義が一括して格納され保持される場所です。さらに、この ExtraView のコア・コンポーネントは、表示タイプ、表示タイトル、レポートでフィールドが選択可能かどうか、フィールドがリストである場合にそのフィールドの入力に使用される SQL、デフォルト値、ヘルプ・テキストなど、各フィールドの多数の属性を制御します。システムをスムーズに稼働させるには、データ辞書を正しく設定することが不可欠です。ExtraView 内のすべてのフィールドを変更することは可能ですが、結果を正確に予測できる場合のみ変更を行うことを推奨します。

ユーザ・インタフェースの柔軟性

ExtraView では、会社のニーズに合わせて、さまざまな方法でルック・アンド・フィールをカスタマイズできます。

ExtraView では、次のような変更を簡単に行うことができます。変更は管理者または ExtraView Corporation の Professional Services チームが行います。

- 画面の色とフォントの変更
- ExtraView のメイン・メニューを画面上に水平または垂直に配置
- 会社ロゴの追加
- 自社の用語に合わせたすべてのテキスト・ラベルの編集
- メニュー項目の名前変更
- 任意のスタイルで新しいメニュー・ボタンを作成
- ユーザ・グループごとに異なる画面レイアウトの作成
- ユーザのロールごとに異なるレポートと電子メール・レイアウトの作成

ユーザ

ExtraView へのサインオンが認可されている個人をユーザと呼びます。各ユーザは個別のアカウントを持ち、ユーザまたはシステム管理者はアカウント内の個別の動作設定を変更できます。

管理者には、さらにユーザ・アカウントを管理する権限があります。例えば、新規にアカウントを作成し、既存のアカウントを無効にし、ユーザのロールおよびプライバシー・グループでユーザを追加および削除できます。

ユーザ・アカウントは自己登録プロセスを使用して作成できます。ただし、自己登録を行ったユーザには、システム管理者がさらに権限を付与するまで、基本アクセスだけが許可されます。

システムには、*admin* および *system* という 2 つの特別なアカウントがあります。*admin* アカウントには次のような特性があります。

- *issue* の作成または管理には使用できません。
- *issue* を *admin* ユーザに割り当てることはできません。
- *admin* ユーザは、使用可能なライセンス数には含まれません。
- *admin* ユーザはサインオン・メッセージ・エリアを見ることができないため、管理者によってこのエリアに挿入された、不具合のある可能性がある HTML をバイパスできます。
- *admin* ユーザには、データ辞書について、ExtraView がデータベース内の情報の抽出および更新に使用する SQL 文を入力および更新する権限があります。
- *admin* ユーザは、すべてのステータス変更ルールと署名検証ルールをバイパスします。

system アカウントは、ExtraView の担当者用に用意されており、お客様がシステムからロックアウトされた場合、ExtraView 担当者がアクセスを回復させるために使用するものです。危険性を了承の上で、ExtraView サポートが迅速にお客様のシステムにアクセスできない可能性があるとのことご認識があれば、このアカウントの所有権を与えるよう ExtraView サポートに依頼してください。

ユーザ・ロールおよびセキュリティ・システム

この相互関係のある概念グループは、ExtraView を理解するための核になります。

個々のユーザは 1 つまたは複数のユーザのロールに属し、同じ特性とアクセス権を共有します。例えば、あるユーザのロールが特定のフィールドに対する読み取り/書き込みアクセス権を持ち、別のロールでは同じフィールドを表示するだけになる場合があります。フィールドを表示することもできないロールもありえます。

すべてのフィールド、メニュー、および画面には、オブジェクトを保護するセキュリティ・キーが設定されます。例えば、セキュリティ・モジュール自体にアクセスするセキュリティ・キーがあるとします。この場合、別のセキュリティ・キーは、[アドミニストレーション] 画面の [製品] メニュー項目用に設定します。別の例として、[説明] フィールドへのアクセスを制御するためのセキュリティ・キーがあるとします。この場合、表示されるすべてのフィールドは、ユーザのロールが持つ権限に従ってオンまたはオフにできます。ExtraView には文字どおり何百ものセキュリティ・キーがあり、ユーザ定義フィールドを新しく作成するたびに 2 つの新しいセキュリティ・キーが自動的に作成され、新しく作成されたオブジェクトを保護できます。これらの 2 つのキーによって、データベースに新しい項目を追加す

る場合、および更新またはレポートを行う場合に、フィールドへのアクセスを制御できます。

[セキュリティ権限の付与] セクションで、使用中の ExtraView のバージョン内の、これらすべてのアクセス機能を制御できます。マトリックス・ビューでは、セキュリティ・キーとユーザ・ロールの交点が読み取り/書き込みスイッチになります。したがって、定義されたセキュリティ・キーを持つすべての項目について、ユーザがその機能を利用することを許可または禁止するロールを設定できます。

ビジネス・エリア

一般的にこの機能は、1つのタイプのビジネス・プロセスを追跡する以上の要件を持ち、トラッキング・データベースをセグメント化することで多面的な運用をモデリングする必要がある、組織または会社によって使用されます。例えば、不具合のトラッキング、要件の計画、およびコール・センターのトラッキングなどのトラッキング・プロセスなどの対応するビジネス・エリアがあるとします。それぞれのビジネス・エリア内で、複数のプロジェクトを定義することもできます。これが実行された場合、管理者はトラッキング・データベースへのユーザのアクセス権を、個別のプロジェクト、または個別のエリアに制限できます。

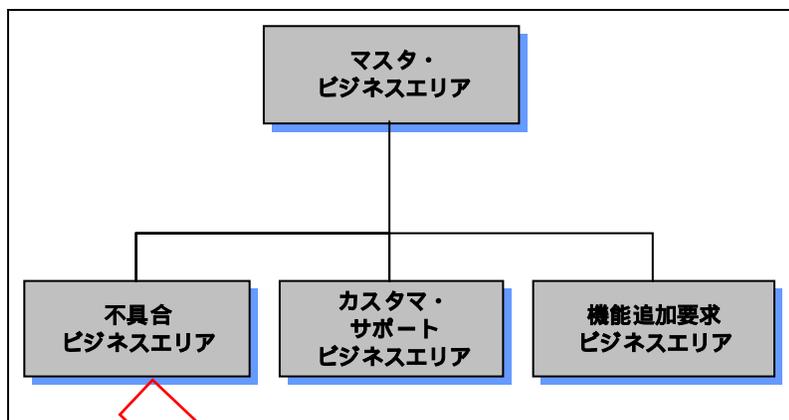
異なるビジネス・ルールのほかに、エリアおよびプロジェクトごとに、画面レイアウトとフィールドが異なるデフォルトのレポートを定義して、組織の各部門ごとに ExtraView を最適化できます。

共通フィールドを使用すれば、複数のエリアまたは組織全体で管理情報を統合できます。

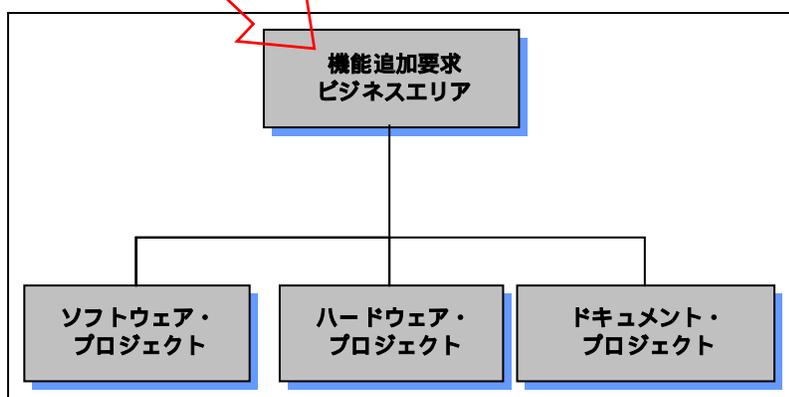
エリアとプロジェクトの使用方法を規定する基本的な原則が、継承です。ExtraView 内の最上位のエリアはマスタ・エリアと呼ばれます。ExtraView 内の最上位のプロジェクトはマスタ・プロジェクトと呼ばれます。マスタ・レベルでは、常にレイアウトとセキュリティ権限が定義されます。マスタ・エリアの下に、さらに継承された値が適用されるエリアやプロジェクトを定義できます。どのレベルでも、継承された値に優先する、その他のレイアウトおよびセキュリティ権限をフィールドに定義できます。

本書に記載されているオプションの多くが、エリアとプロジェクトに依存しています。ただし、わかりやすくするために、本書ではこれらのフィールドについては重要な事象について説明する必要がある場合に言及します。簡単に言えば、エリアとプロジェクトは必要に応じてセキュリティ権限やレイアウトなどの管理者画面に表示され、エリアおよびプロジェクト機能がオフになっている場合は表示されません。

ビジネス・エリアのもう1つの主要な属性は、異なるビジネス・エリアに格納された項目(またはissue)間の関係を作成できることです。これは非常に強力な特徴であり、ユーザは相互に作用する複数のレコード構成を定義することができます。これらの関係を、階層構造にある多くのレベルに拡張することができます。簡単な例としては、「顧客」を1つのビジネス・エリアに格納し、「顧客のissue」を別のビジネス・エリアに格納する場合などです。次にそれら2つのエリアを、顧客名などの共通の属性に基づいて関連付けることができます。レポート作成の際は、関係を使用して「顧客」レコードからのフィールドを、「顧客のissue」レコードからのフィールドと共に表示させることができます。



ビジネス・エリア構造の例



ビジネス・エリア内のプロジェクト構造の例

注: エリアやプロジェクトを使用する場合は、自社のデータを格納するために、デフォルトのビジネス・エリアとデフォルト・プロジェクトを割り当てないようにします。これらはデフォルトのセキュリティ権限やレイアウトの設定用に確保しておきます。

注: 不具合のトラッキングなど、1つの目的で ExtraView を構成する場合は、マスタ・ビジネス・エリアを単純に構成してデータの格納に使用することはお勧めしません。この方法は効果がありますが、トラッキング・システムをさらに導入する場合、将来的な変更がむずかしくなります。

ビジネス・エリアとプロジェクトは、動作設定 `ENABLE_AREAS` および `ENABLE_PROJECTS` によってオンまたはオフにすることができます。これらの設定は、[Administration] の [環境設定] メニューで行うことができます。

画面およびレポートのレイアウト・エディタ

この機能により、[issueを追加]、[issueを編集]、[検索] の各画面のレイアウトを設定および変更できます。さらに、クイックリストや詳細レポートなどの主なレポートでも、この機能によって定義されたレイアウトが使用されます。レイアウトは、システム内のユーザ・ロールごとに非常に柔軟に定義することができます。レイアウトは、各フィールドのセキュリティ権限に連動して機能します。したがって、画面に単純にフィールドを配置しても、自動的にすべてのユーザがそのフィールドの読み取り/書き込みができるわけではありません。[セキュリティ権限の付与] オプションを使用すると、各ユーザ・グループがどのフィールドを表示および更新可能かを定義できます。フィールドのセキュリティ権限は、画面またはレポート上にフィールドを配置する機能に優先して適用されます。

マスタ・レイアウト内には、サブレイアウトを埋め込む場合があります。この場合は、特定のフィールドの値に応じて、別のレイアウトを表示させることもできます。例えば、“ソフトウェア”、“ハードウェア”、および “ドキュメンテーション” という値を持つカテゴリ・フィールドがあるとします。選択する値によって、それぞれのカテゴリについて必要な情報を収集するためのフィールドを持つサブレイアウトを表示させることが可能です。また、これらのサブレイアウトや埋め込みレイアウトは、issue の追加レイアウトまたは編集レイアウトにのみ埋め込むことができます。その他のレイアウトでは必要ありません。

各レイアウト内のフィールドには、1 つまたは複数の属性を定義できます。これらの属性によって、フィールドの表示または処理方法が変わります。例えば、ある属性によって、フィールドのタイトルを 1 つのフォームについてのみ別のタイトルに変えることができます。または、あるフィールドが特定の値を持った場合のみ、特定のフィールドが表示されるように定義することも可能です。

システム内の個別のエリアとプロジェクトのレイアウトを設計および実装する機能を使用すれば、上記の内容に優先する設定を行うことができます。

電子メール関係者リスト

ExtraView のこの強力な機能によって、組織内の該当するユーザにイベントの自動通知を行うことができます。関係者リストは、値のリストを持つ任意のフィールド上のデータ辞書で定義できます。例えば、重要度レベルが “深刻” であるすべての issue について各ユーザに通知する関係者リストや、ある issue が特定のモジュールに影響した場合に各ユーザに通知する関係者リストなどを定義できます。

レポート

ExtraView の管理セクションでは、ユーザのコミュニティ全体がレポートを利用できるように定義できます。レポートは、ExtraView データベースに対するクエリで使用されるフィルタのセットとして定義でき、また単純な表形式またはカスタマイズされたレイアウトと組み合わせることも可能です。作成された他のレポートへのリンク(管理者による内部リンク、または外部リンク)を定義することもできます。

すべてのユーザ・ロール、または個別のユーザ・ロールが利用できる、詳細レポートとクイックリストを作成できます。これにより管理者は、ユーザのその時点でのロールに応じて異なるレイアウトをユーザに提示することが可能です。

ExtraView の管理セクションで、レポート作成にとって最も重要な点は、次のデータ辞書フィールドを正確に設定することです。詳細については本書のデータ辞書のセクションで説明します。

- [レポート上での選択を許可]
- [フィルタ基準]
- [ソート可能]

アプリケーション・プログラミング・インタフェース(API)

ExtraView の API では、ExtraView の機能を拡張することができます。API には主に次のような機能があります。

- ExtraView にアクセスし、issue の追加や更新などのユーザ機能を実行する URL 機能のセット。これによって、Oracle SQLNet などの高価なソフトウェアを各クライアント・コンピュータにインストールする必要がなくなります。
- ExtraView の限定された管理が可能な URL 機能のセット。例えば、ユーザを追加してユーザ・パスワードを変更できます。
- API の上に実装された完全なコマンド・ライン・インタフェース(CLI)により、ユーザはコマンド・ラインからの追加、更新、削除、検索などの機能を利用できます。これは一般的に、UNIX、Linux、または Windows 2000 コマンド・シェルから使用します。

コマンド・ライン・インタフェース(CLI)

CLIは ExtraView APIを使用して実装されています。次のような多数の機能を実行する、Perl スクリプトのセットで構成されています。

- telnet セッションから issue をバッチ・モードまたはインタラクティブ・モードで追加/更新
- 限定された管理機能を実行
- CLI 機能は、さらに ExtraView ユーザがスクリプトで独自の機能を作成して、インタラクティブ・モードまたはバッチ・モードで実行可能

さらに詳しくは、『ExtraViewコマンド・ライン・インタフェースおよびアプリケーション・プログラミング・インタフェース・ガイド』を参照してください。

初期設定および構成

概念

ExtraView Configuration 機能は、高度にカスタマイズされた設計や構成要件を簡単に実装できる、システム管理者のためのツールセットです。この場合、プログラミングはほとんどまたはまったく必要とされません。管理者は、これらの機能を使用して、ほとんどまったくダウンタイムを発生させずに、会社のニーズの変化に応じた継続的なカスタマイズを行うことができます。

このセクションでは、ExtraView の動作設定、環境設定、およびロック・アンド・フィールの初期設定について説明します。

クライアント・ブラウザ

サポートされるブラウザ

ExtraView は、以下のブラウザのサポートが保証されています。

- Netscape Navigator はバージョン8.x 以降がサポートされています。
- Internet Explorer は 6.x 以降のすべてのバージョンがサポートされています。
- Mozilla Firefox は 1.0 以降のすべてのバージョンがサポートされています。
- Apple Safari (Macintoshのみ) は 2.0以降のすべてのバージョンがサポートされています。

これらのブラウザは、Windows 98、Windows ME、Windows XP、Windows 2000、Apple Macintosh、Linux、Solaris、Unix の各プラットフォームで(利用可能な場合)サポートされています。

画面解像度

ユーザが ExtraView を使用するモニタまたは画面の解像度は、最小 1024 x 768 ピクセルを推奨します。ExtraView はこれより低い解像度でも使用できますが、上下左右にスクロールする幅が大きくなり、使いにくくなります。管理者は、設計段階でこれに影響する要素を調整することができます。例えば、大きいサイズから小さいサイズまでのフォントを使用するスタイルシートの設定を変更します。また、画面レイアウトに表示される行や列の数を調整することも有益です。

ブラウザのクッキー

ほとんどブラウザにはクッキーがあり、デフォルトの設定で有効になっています。ExtraView で使用する場合も、クッキーを有効にする必要があります。無効にした場合は、クッキーを有効にしないと ExtraView を使用できない旨の警告が表示されます。

ブラウザの [戻る] ボタン

ExtraView では、ブラウザの [戻る] ボタンを使用しないでください。表示の移動は、必ず ExtraView のメニューに表示されるボタンを使用して行います。

これは、ExtraView では常に情報の整合性を維持する必要があるためです。例えば、ExtraView の [Issueを追加] 画面上のボタンを押して新しいレコードを追加した場合に、[戻る] ボタンを押して再度 [Add] ボタンを押すと、2 つのレコードが挿入されてしまいます。編集したレコードにユーザが戻ろうとする場合、または issue の追加または編集中に、サーバから更新された画面に戻る場合にも同様の問題が発生します。

ブラウザの [更新] ボタン

[戻る] ボタンと同様、ブラウザの [更新] ボタンを使用しないでください。更新を行ってもよい箇所では、ExtraView のメニュー・バーに [更新] ボタンが表示されます。

ブラウザ上での文字セット

ExtraViewは、組織を越えて異なるブラウザの中で入力された情報が互換性を持ち、ExtraViewサーバから一貫した様式で格納および検索が行えるよう、一貫して単一の文字セットで動作させなければなりません。これはアルファベットに基づいている言語ではあまり問題にはなりません、ユーザが日本語や中国語などのダブルバイト言語を使用するシステムを正しく構成する上で不可欠な要素です。

HTTP_CHARSETという動作設定(以降のセクションを参照)により、すべてのブラウザからの入力、ExtraView インスタンスのすべてのユーザを対象として文字エンコーディングを定義することができます。デフォルトでこれは、汎用的ですべての言語をサポートする UTF-8 に設定されています。すべてのユーザにローカル・ブラウザの文字セットを UTF-8 に設定させることを推奨します。変更する場合は、サーバの設定とすべてのクライアント・ブラウザの設定を変更しなければなりません。

注:正しく一貫して文字が表示されるよう、HTTP_CHARSET の値を UTF-8 に設定すること、またすべてのユーザが各自のブラウザの文字セットを UTF-8 にのみ設定することを強く推奨します。

動作設定の初期設定

独自のニーズに合わせて動作を設定するには、管理セクションの動作設定内の複数の場所に初期設定情報を入力する必要があります。主に次の場所に入力します。

- [システム制御] メニュー
 - [セキュリティとセッションの設定]
 - [会社情報の設定]
 - [シングル・サインオンとLDAP の設定](これらの機能を使用する場合)
 - [環境設定]

場合によってはほかにも重要な動作設定はあり得ますが、まず上記のセクションから確認してください。

動作設定

このセクションでは、ExtraView システム全体で使用されるシステム・レベル情報の設定と変更について説明します。動作設定は、ExtraView の管理セクションにある複数のタブを使用して行います。

ある動作設定が複数のメニューに関係する場合には、異なるメニューにその同じ動作設定が含まれる場合があります。この動作設定はいずれかのメニューで変更できます。さらに、[システム制御] メニューのタブには、[すべての動作設定] という設定メニューがあります。このメニューには、すべての動作設定がアルファベット順に表示されています。

[Administration]メニュー内の設定メニューは次のように配列されています。

| [Administration] タブ | 動作設定 |
|---------------------|-------------------------|
| [ユーザ] | [ユーザ設定] |
| [表示] | [レポートとクエリの設定] |
| | [フォントと色の設定] |
| | [表示の設定] |
| [ワークフロー] | [ワークフローの設定] |
| [電子メール通知] | [電子メールの設定] |
| [システム制御] | [セキュリティとセッションの設定] |
| | [環境設定] |
| | [会社情報の設定] |
| | [シングル・サインオンとLDAP の設定] |
| | [API 設定] |
| | [システムデバッグ & ユーザ・カスタム設定] |
| | [すべての動作設定] |

当アドミニストレーション・ガイドの以降のセクションで、すべての設定を詳細に記述しています。

次のスクリーン・ショットは、管理セクションの [システム制御] タブを示しています。



[Administration] メニュー – [システム制御]

動作設定画面のどれかにアクセスすると、次のような画面が表示されます。ここでは [会社情報の設定] 画面を示します。その他の画面も同様の形式で表示されますが、動作設定は設定エリアの文脈に依存します。



会社情報の設定画面

項目の横の [Edit] アイコンをクリックすると、デフォルト設定を変更できます。例えば、この画面では、ウィンドウの背景色を示す [WINDOW_BG_COLOR] を編集できます。



[WINDOW_BG_COLOR] 設定の編集

セクション内でこの値またはその他の値を編集するには、値を変更して [更新] ボタンをクリックします。

一般的に利用される動作設定

200 種類を超える動作設定があるため、各設定の目的と動作を理解するのは簡単ではありません。最も一般的に使用される動作設定をこのセクションにまとめます。本書の各セクションにおいて、すべての設定について詳細に説明しています。

| 設定メニュー | 設定 | 説明 |
|--------|----|----|
|--------|----|----|

| 設定メニュー | 設定 | 説明 |
|-----------------|----------------------------|---|
| [ユーザ] | USER_SELF_REGISTRATION | ユーザに自己登録を許可するか、管理者が登録を行うかを指定します。Yes に設定すると、サインオン画面にプロンプトが表示され、ユーザが ExtraView のユーザとして自己登録できるページに移動できます。この方法で登録したユーザには、LIMITED_USER_ROLE という動作設定で定義されたユーザ・ロールの権限だけが与えられ、アカウントにはユーザ・ロールが設定されません。ユーザが自己登録を行うと、[電子メール通知] 管理メニューの [電子メールの設定] での定義に従って、電子メール通知が管理者に送信されます。 |
| [ユーザ] | USERNAME_DISPLAY | <p>自社の方針に従い、ユーザ名の表示方法を [First]、[Last]、または [ID] から選択できます。</p> <p>[First] – 名前が <i>David Smith</i> のように表示されます。</p> <p>[Last] – 名前が <i>Smith, David</i> のように表示されます。</p> <p>[ID] – 名前が <i>dsmith</i> のように表示されません。</p> |
| [表示 – レポートとクエリ] | ABBREVIATED_HISTORY | 値を YES に設定すると、履歴レコードには変更されたフィールドのみが表示され、監査証跡の表示に履歴レイアウトが使用されません。NO に設定すると、監査証跡の表示に履歴レイアウトが使用されます。YES の場合に表示される結果は、NO の場合よりも簡潔ですが、変更箇所を容易に特定するための固定レイアウトはありません。 |
| [表示 – 表示の設定] | SUPPORT_LINK | サポートが必要な場合にユーザが参照する HTML ページを指定するには、そのリンクとメッセージをここに入力します。 |
| [ワークフロー] | ENFORCE_STATE_CHANGE_RULES | ステータス変更ルールをオンまたはオフにします。 |
| [電子メール] | EMAIL_ADMINISTRATOR_NAME | ExtraView 管理者の電子メール・アドレスまたはエイリアス。ExtraView で自動的に作成される電子メールは、この名前が送信元になります。例としては、ユーザの自己登録時、または権限のないアクセス時に送信される電子メールなどがあります。 |

| 設定メニュー | 設定 | 説明 |
|---------|-----------------------------|---|
| [電子メール] | EMAIL_ADMINISTRATOR_USER_ID | ExtraView から送信される電子メールの送信先電子メール・アドレス。通常、これは、管理者の電子メール・アドレスまたは管理者のエイリアスになります。 |
| [電子メール] | EMAIL_FROM_USER_ID | ExtraView から送信される電子メールに表示される、送信者のアドレスを指定します。例えば、support@myco.com のように指定します。 |
| [電子メール] | EMAIL_SUBJECT_TEMPLATE | この設定により、レコード内のフィールドを、作成された電子メールの件名に挿入できます。挿入するフィールドは、\$\$ と \$\$ で囲みます。例えば、issue のタイトルは \$\$\$SHORT_DESCR\$\$\$ のようになります。次のように指定するとします。 ExtraView Notification [\$\$ID\$\$]: \$\$STATUS\$\$ - \$\$\$SHORT_DESCR\$\$\$ この場合、電子メールの件名は次のようになります。 ExtraView Notification [12345]: Open - Report of a failure |
| [会社情報] | COMPANY_NAME | 自社の会社名を指定します。 |

セキュリティ権限の初期設定

新しいインストールにどのバージョンのExtraViewレイアウトがインストールされているかによって、異なる権限設定が存在する可能性があります。これらの異なるレイアウトは、ユーザ自身がカスタマイズの大部分を行う最小限のレイアウト・セットであるか、またはバグ追跡や顧客サポートなどの「最適な実装方法」で使用される1つ以上の一連のレイアウトであるかもしれません。

インストール内にある個々のフィールドや項目が可視であるかどうかは、ユーザの望みどおりではない場合があります。まず第一に、その設定が不明な場合は、ExtraView インストールのすべてに設定されているADMINユーザがセキュリティ権限の設定を上書きすることから、ある項目がADMINユーザの使用時に可視であれば、権限設定がユーザが望むとおりでないことが分かります。第二に、必要とするフィールドが表示されない場合、または作成したフィールドが期待する場所に表示されない場合は、フィールドが適切なレイアウト上に配置されているか、そしてフィールドに正しく権限が与えられているかをチェックします。本書の他のセクションでこれらすべての項目について説明してありますが、新しいインストールの際に頻繁にチェックし、変更する必要のある権限について、ここに簡潔なリストを示します。

セキュリティ権限キー

説明

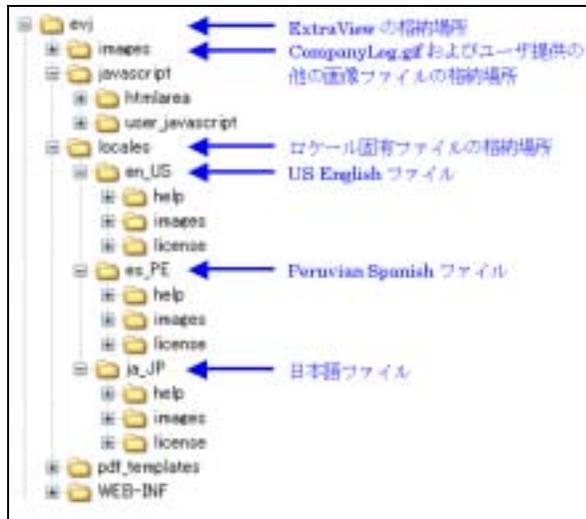
| | |
|---------------------|---|
| AREA.nn | nn はビジネス・エリアの内部 ID です。参照したいビジネス・エリアが表示されていない場合は、これらのキーをチェックします。 |
| CF_AREA | ビジネス・エリアの可視性。管理画面のビジネス・エリアのリストについて追加または編集が可能であるかも含まれます。 |
| CF_PROJECT | プロジェクトの可視性。管理画面のプロジェクトのリストについて追加または編集が可能であるかも含まれます。 |
| CF_PERSONAL_OPTIONS | ユーザのパーソナル・オプションを編集する権限を与えます。 |
| STATUS.xxxxxx | xxxxxx は、インストール内の各ステータス値の名前です。追加画面または編集画面のリストにステータス値が表示されていない場合、このセキュリティ権限キーに正しく許可が与えられていないことが考えられます。 |

グローバリゼーション・ファイルの構成

ユーザ・インターフェースの変更、画像セットの追加、ヘルプ・ページのカスタマイズを検討している場合は、ExtraView が変更やローカライズが可能なファイルをどこに格納しているかを知ることが重要です。変更可能なファイルのタイプは以下のとおりです。

- 画像ファイル – 会社のロゴのファイルは他の画像ファイルとは扱いが異なるため、注意してください
- ヘルプ・ファイル

下の図のツリー構造はディレクトリの位置を示しています。



ディレクトリ構造

- 会社のロゴの画像は、/images というディレクトリに格納されています。ファイル名は CompanyLogo.gif です。会社のロゴのファイルは一つのインスタンスに対し、一つしか設定できません。
- /images ディレクトリには /tab_corners というディレクトリもあります。ここには ExtraView で表示されるタブの構成に使用される画像が格納されます。
- /locales ディレクトリにはロケール固有の画像およびヘルプ・ファイルがすべて格納されます。ExtraView の出荷時には常に少なくとも一つのファイル・セットがこのディレクトリに存在します。これは /en_US と名づけられており、アメリカ英語の画像とヘルプ・ファイルが格納されています。/en_US はインストールにおけるデフォルトのロケールです。その他にロケール固有のディレクトリを作成することができ、そこに該当する画像とヘルプが格納されます。

ユーザ・インタフェースの修正

管理者は、ExtraView のユーザ・インタフェース のさまざまな要素を修正することができます。ExtraView の管理セクションで、背景やテキストの色を変更できます。メイン・メニューの位置や向きも変更できます。オペレーティング・システムのレベルでは、すべてのボタンの画像を、独自に作成した gif ファイルに置き換えることができます。

Web カスケード・スタイル・シート

各ユーザは、3 つのフォント・サイズから 1 つをパーソナル・オプションとして選択できます。フォント・サイズには、小、中、大 があります。ユーザがいずれかを選択すると、ExtraView では対応するカスケード・スタイル・シート (CSS) が読み込まれます。ExtraView にインストールされたスタイル・シートは Web サーバ環境で、デフォルトでは IMG_HOME/stylesheets というディレクトリに置かれます。このディレクトリには、フォント・サイズやその他のスタイル・パラメータなどの複数のセクションがあります。

独自のスタイル・シートを作成する場合は、通常はそれと同時にすべてのボタンに独自の画像セットを作成したいと考えるでしょう。locales/en_US/images 内に新しいディレクトリおよびサブ・ディレクトリを作成して既存の画像セットおよびスタイルシートの構造を保持し、既存の画像セットをこのディレクトリにコピーすることをお勧めします。動作設定のIMG_HOMEを使用して、この新しいディレクトリにポイントするように設定し、その中ですべての変更を加えます。これにより、作成したファイルが将来の ExtraView のアップグレードによって上書きされなくなりますが、新しいエントリ、画像またはスタイルシートの設定がアップグレード対象に含まれる場合、これらのファイルを拡張する必要があるかもしれません。画像セットのローカライズ・バージョンを使用または作成した場合は、スタイルシートを他のロケールのディレクトリにも配置する必要があるでしょう。stylesheets/ ディレクトリには次のファイルを置く必要があります。

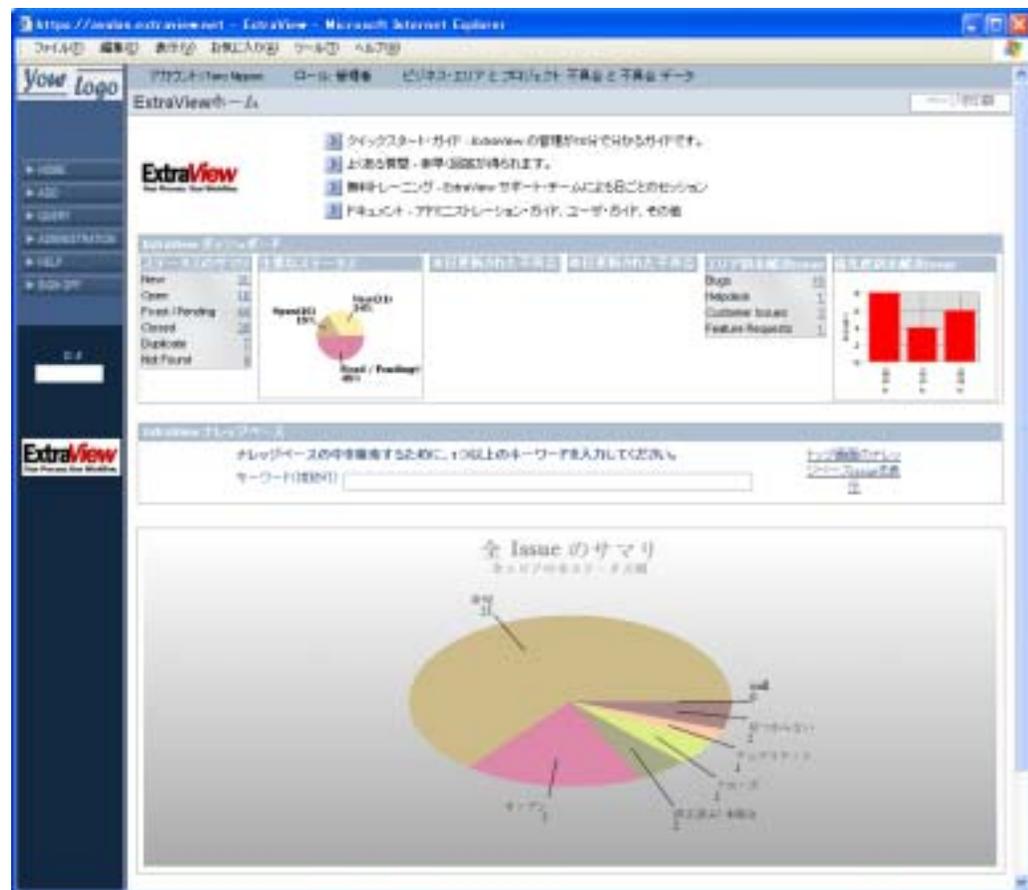
| ファイル | 説明 |
|-----------------------|---|
| small.css | ユーザがパーソナル・オプションのテキスト・サイズを [小]にした場合の主要なスタイルシート。 |
| medium.css | ユーザがパーソナル・オプションのテキスト・サイズを [中]にした場合の主要なスタイルシート。 |
| large.css | ユーザがパーソナル・オプションのテキスト・サイズを [大]にした場合の主要なスタイルシート。 |
| dnd.css | ドラッグ&ドロップするオブジェクトの表示の制御に使用されるスタイル。 |
| menustyle.css | 大部分の画面の最上部で使用されるメニューのスタイル。 |
| popupwindow.css | このスタイルは、サーバで生成されるものではなく、ブラウザ内で生成されるウィンドウ・ポップアップに使用されます。 |
| popupwindowsafari.css | これは popupwindow.css と同様ですが、Apple Safari ブラウザでのみ使用されます。 |
| tooltip.css | 多くの画面で表示されるポップアップ・ツールチップのスタイル。 |

通常はスタイル名を追加したり、既存のスタイル名を変更することはありませんが、既存のスタイルを変更することができます。また、既存のスタイルの一部は ExtraView 画面でのオブジェクトの正確な位置や大きさを決めるのに使用されるため、変更するには注意が必要です。おおよその目安として、色の変更は安全に行えますが、その他のスタイル情報の変更には注意すべきです。

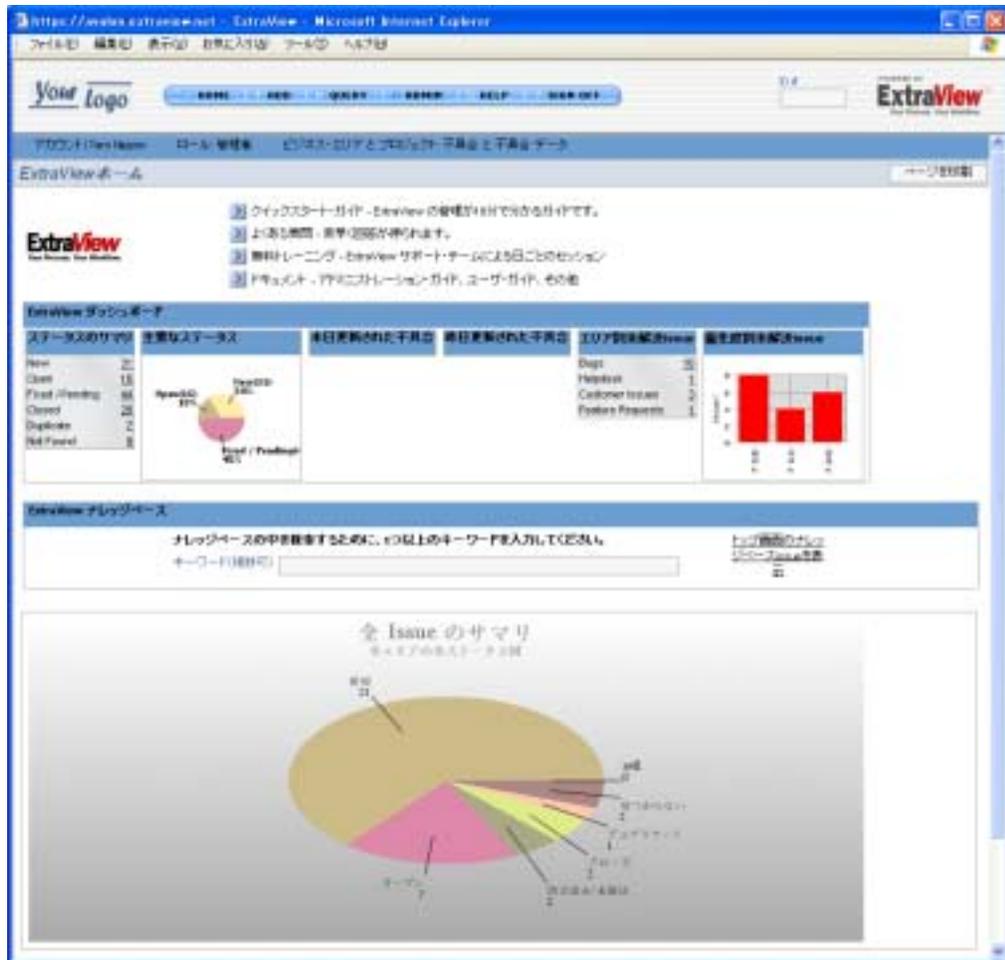
別のスタイルを作成するために使用可能なオプションの詳細については、適切な HTML マニュアルまたは Cascading Style Sheet マニュアルを参照してください。

メニューの方向

これは、[Administration] メニューの [表示] タブにある [表示の設定] 画面の動作設定 MENU_DIRECTION で変更できます。有効な値は VERTICAL および HORIZONTAL です。



[縦方向(VERTICAL)ナビゲーション] メニュー



[横方向(HORIZONTAL)ナビゲーション] メニュー

横方向のメニューでの会社ロゴの画像(CompanyLogo.gif)およびナビゲーション・バーのメニューの正しい位置は、画像の正確な大きさとナビゲーション・ボタンの大きさに依存します。この設定を支援するために、次の動作設定が用意されています。

| 動作設定 | 説明 |
|-----------------------------|--|
| NAV_BAR_DRILLDOWN_BOX_STYLE | ナビゲーション・バーのドリルダウン・ボックスに含まれる表に適用されるCSSスタイルです。これは、MENU_DIRECTIONがHORIZONTALに設定されている横方向スタイルのナビゲーション・バーにのみ使用され、異なるスタイルのナビゲーション・バーでのドリルダウン・ボックスの位置を変更するために使用されます。最も多く使用されるのは、ドリルダウン・ボックスのナビゲーション・バー上の相対位置を決める場合ですが、コントロールの表示を変えるために背景色を変更するなどの効果を使用することもできます。 |
| NAV_BAR_LOGO_STYLE | このスタイルは、MENU_DIRECTIONがHORIZONTALに設定されている場合に、CompanyLogo.gifをナビゲーション・バー上に配置す |

| | |
|-------------------|--|
| NAV_BAR_STYLE | <p>るために使用されます。</p> <p>これにより、CSSスタイルをナビゲーション・バー上のボタンに適用することができます。</p> |
| NAV_BAR_GO_BUTTON | <p>ナビゲーション・バー上のドリルダウン・ボックスの横に [Go] ボタンを配置します。</p> |

メニューのサイズ

メニュー・ナビゲーション・パネルの高さまたは幅(ピクセル)は、[表示] 管理タブの [表示の設定] メニューにある、動作設定 MENU_SIZE で定義されています。

メニュー・バー

メニュー・バーには、現在の画面名のほかに、次の場所へのリンクが表示されます。

- ユーザのアカウント情報
- ユーザが自身に許可されているレポートを実行できる、レポート・メニュー。この方法で生成されるレポートは、画面上の新しいウィンドウに表示されます。
- ユーザが現在のロールを変更するメニュー
- ユーザが現在のビジネス・エリアおよびプロジェクトを変更するメニュー

メニュー・バーは、ホーム・ページ、クエリの初期画面、および [Administration] メニューの最上位メニューのすべてに表示されます。次のセキュリティ権限キーにより、ユーザがタイトル・バーのオプションに対するアクセス権を編集/変更する権限を制御できます。

| メニュー・バーのエントリ | 制御内容 |
|--------------|--|
| [アカウント] | CF_PERSONAL_OPTIONS により、ユーザのアカウントの詳細へのアクセスを制御します。ユーザがこのキーに対する読み取りアクセス権だけを持つ場合は、ユーザ名がタイトル・バーに表示されますが、パーソナル・オプション画面を参照することはできません。パーソナル・オプション画面を参照するには、書き込み許可が必要です。 |

| | |
|------------------|--|
| [レポート] | セキュリティ権限キー SR_MENUBAR_REPORTS により、メニュー・バー上にこのエントリを表示するかどうかは制御されます。お使いのインストールで各ユーザが数百ものレポートへのアクセス権限を持っていると、ユーザが新しい画面に移動するボタンを押すたびに、このレポート・メニューを出力する際に著しいパフォーマンス障害が発生することに注目すべきです。このような環境では、この権限キーを無効にし、ユーザがナビゲーション・バーのQUERYボタンを使用してレポートにアクセスするように設定することをお勧めします。これでマウスをクリックして、新しい画面に移動するごとに1秒以上の時間が節約できます。 |
| [ロール] | 1 つのロールだけが定義されているユーザの場合は、このタイトル・バーのエントリは表示されません。2 つ以上のロールが定義されたユーザの場合はこのエントリが表示され、ユーザは現在のロールを変更する画面にアクセスできます。 |
| [ビジネスエリアとプロジェクト] | CF_AREA および CF_PROJECT というセキュリティ権限キーにより、現在のビジネス・エリアおよびプロジェクトを変更するユーザの権限が制御されます。 |



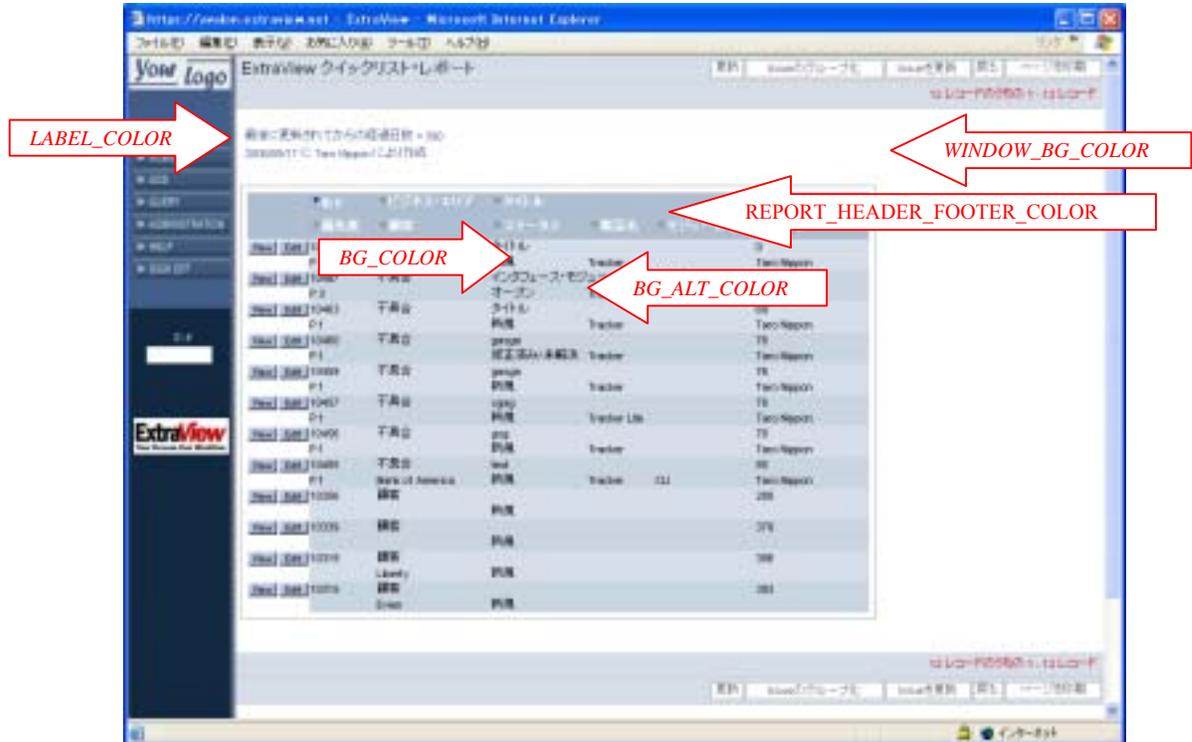
ホーム・ページ上のメニュー・バーの例

メニューのテキストの色

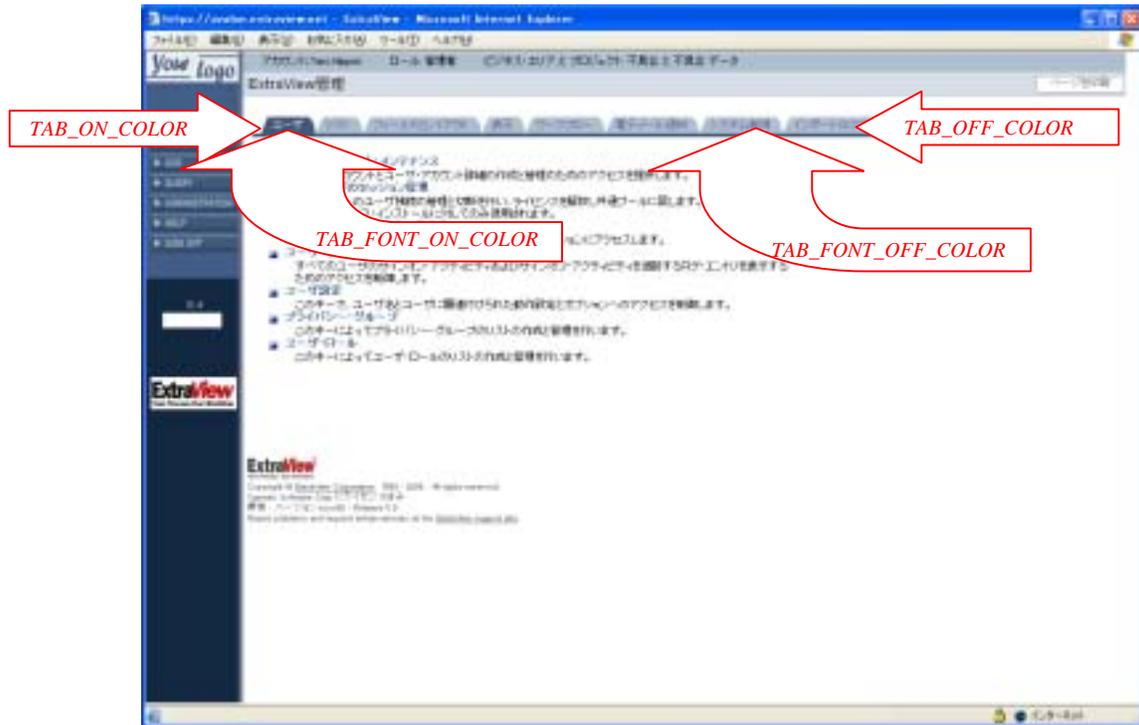
メインのナビゲーション・メニューに表示されるテキストには、コントラストが明瞭な色を定義できるようにすることが重要です。これは、動作設定 MENU_TEXT_COLOR で定義します。

背景およびテキストの色

次のスクリーン・ショットは、[Administration] メニューの [表示] セクション内の [フォントと色の設定] 画面で変更可能な、動作設定の名前を示しています。



色の名前



色の名前

ボタンおよび画像

ExtraView のメニュー・ボタンは gif ファイルとして作成および保存されます。これらのファイルは、インストール設定で定義した画像ディレクトリ、または IMG_HOME 動作設定で定義したパスに置かれます。gif ファイルはいずれも別のファイルに置き換えることができます。ただし、ブラウザの表示に不具合が発生する可能性があるため、あまり大きいサイズの gif ファイルは使用しないようにしてください。次の表に、ユーザが変更可能な標準的な gif ファイル、および推奨されるサイズ (幅 x 高さ) を示します。MENU_DIRECTION の動作設定に従って、異なるサイズの gif が使用される場合は、縦長および横長の画像の両方について、最適なサイズが示されます。

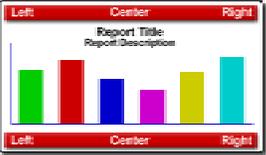
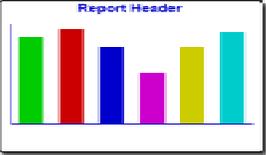
CompanyLogo.gif というファイルは IMG_HOME の場所に格納されておらず、/images というディレクトリの直下にあることに注意してください。このため会社のロゴは 1 箇所に配置され、選択する任意の issue からアクセスしやすくなっています。また、CompanyLogo.gif ファイルをアップロードする管理機能が提供されているため、サーバのファイル・システムにアクセスすることなくアップロードが実行できます。

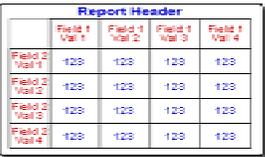
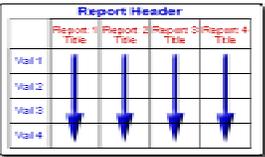
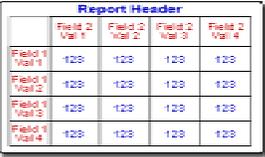
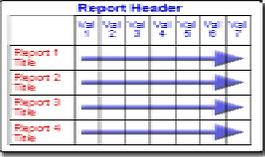
| サンプル画像 | ファイル名 | サイズ | 用途 |
|---|----------------------|-----------------------------|-----------------------------|
|  | bHomeOff.gif | 縦 = 100 x 25 横 = 80 x 30 | オフ状態のホーム・ページ・ボタン |
|  | bHomeOn.gif | 縦 = 100 x 25 横 = 80 x 30 | オン状態のホーム・ページ・ボタン |
|  | bSystemConfigOff.gif | 縦 = 100 x 25 横 = 80 x 30 | オフ状態の [Administration] ボタン |
|  | bSystemConfigOn.gif | 縦 = 100 x 25 横 = 80 x 30 | オン状態の [Administration] ボタン |
|  | bAddProblemOff.gif | 縦 = 100 x 25 横 = 80 x 30 | オフ状態の [Add Problem] ボタン |
|  | bAddProblemOn.gif | 縦 = 100 x 25 横 = 80 x 30 | オン状態の [Add Problem] ボタン |
|  | bSearchOff.gif | 縦 = 100 x 25 横 = 80 x 30 | オフ状態の [Search + Report] ボタン |

| サンプル画像 | ファイル名 | サイズ | 用途 |
|---|--------------------|-----------------------------|--------------------------------|
|  | bSearchOn.gif | 縦 = 100 x 25 横 = 80 x 30 | オン状態の [Search + Report] ボタン |
|  | bHelpOff.gif | 縦 = 100 x 25 横 = 80 x 30 | オフ状態の [Help] ボタン |
|  | bHelpOn.gif | 縦 = 100 x 25 横 = 80 x 30 | オン状態の [Help] ボタン |
|  | bLogoffOff.gif | 縦 = 100 x 25 横 = 80 x 30 | オフ状態の [Sign Off] ボタン |
|  | bLogoffOn.gif | 縦 = 100 x 25 横 = 80 x 30 | オン状態の [Sign Off] ボタン |
|  | AddButton.gif | 30 x 15 | 一般的に使用される追加ボタン |
|  | DescButton.gif | 30 x 15 | 添付ファイルのメタデータへのアクセスに使用 |
|  | DeleteButton.gif | 30 x 15 | レイアウト・エディタ画面またはレポートで使用される削除ボタン |
|  | EditButton.gif | 30 x 15 | 一般的に使用される編集ボタン |
|  | HistoryButton.gif | 30 x 15 | レポートから履歴へのアクセスに使用 |
|  | InsertButton.gif | 30 x 15 | レイアウト・エディタ画面で使用される挿入ボタン |
|  | ListButton.gif | 30 x 15 | 一般的に使用されるリストボタン |
|  | MapButton.gif | 30 x 15 | インポート機能で使用 |
|  | UpdateButton.gif | 30 x 15 | メタデータ画面の更新ボタン |
|  | ViewButton.gif | 30 x 15 | 詳細レポートの表示に使用するボタン |
|  | RemoveButton.gif | 30 x 15 | 関係グループからの issue の削除に使用 |
|  | NextButton.gif | 18 x 18 | レポートの次のページの選択に使用するボタン |
|  | PreviousButton.gif | 18 x 18 | レポートの前のページの選択に使用するボタン |

| サンプル画像 | ファイル名 | サイズ | 用途 |
|---|--------------------------|---------|-------------------------------|
|  | Calendar.gif | 19 x 18 | カレンダーへのアクセスに使用するボタン |
|  | ColorPicker.gif | 19 x 18 | 色選択ツールのポップアップを示すために使用 |
|  | MoveLeft.gif | 19 x 18 | レポートで列の選択解除に使用するボタン |
|  | MoveRight.gif | 19 x 18 | レポートで列の選択に使用するボタン |
|  | LinkButton.gif | 19 x 18 | 画面上での他の機能へのリンクに使用するボタン |
|  | QmarkButton.gif | 19 x 18 | ポップアップ検索リストへのアクセスに使用するボタン |
|  | Style.gif | 19 x 18 | オブジェクト・スタイル設定用のポップアップを示すために使用 |
|  | UsersButton.gif | 19 x 18 | ユーザのポップアップ・リストへのアクセスに使用するボタン |
|  | timerOff.gif | 19 x 18 | タイマー・フィールドに使用 |
|  | timerOn.gif | 19 x 18 | タイマー・フィールドに使用 |
|  | Style.gif | 19 x 18 | オブジェクトのスタイルへのアクセスに使用 |
|  | AgingIcon.gif | 19 x 18 | レポートがエージング・レポートであることを示すアイコン |
|  | ChartIcon.gif | 15 x 15 | レポートがグラフであることを示すアイコン |
|  | ContainerIcon.gif | 15 x 15 | レポートがコンテナ・レポートであることを示すアイコン |
|  | ExternalReportIcon.gif | 15 x 15 | レポートが外部レポートであることを示すアイコン |
|  | MatrixIcon.gif | 15 x 15 | レポートがマトリクス・レポートであることを示すアイコン |
|  | PageLayoutIcon.gif | 15 x 15 | レポートがレイアウトであることを示すアイコン |
|  | ReportIcon.gif | 15 x 15 | レポートが表形式のレポートであることを示すアイコン |
|  | StatisticsReportIcon.gif | 15 x 15 | レポートが統計レポートであることを示すアイコン |

| サンプル画像 | ファイル名 | サイズ | 用途 |
|---|-----------------------------|---|--|
|  | SummaryReport.gif | 15 x 15 | レポートがサマリ・レポートであることを示すアイコン |
|  | AgingIconBig.gif | 19 x 19 | レポートがエージング・レポートであることを示すアイコン |
|  | ChartIconBig.gif | 19 x 19 | レポートがグラフであることを示すアイコン |
|  | ContainerIconBig.gif | 19 x 19 | レポートがコンテナ・レポートであることを示すアイコン |
|  | ExternalReportIconBig.gif | 19 x 19 | レポートが外部レポートであることを示すアイコン |
|  | MatrixIconBig.gif | 19 x 19 | レポートがマトリクス・レポートであることを示すアイコン |
|  | PageLayoutIconBig.gif | 19 x 19 | レポートがレイアウトであることを示すアイコン |
|  | ReportIconBig.gif | 19 x 19 | レポートが表形式のレポートであることを示すアイコン |
|  | StatisticsReportIconBig.gif | 19 x 19 | レポートが統計レポートであることを示すアイコン |
|  | SummaryReportBig.gif | 19 x 19 | レポートがサマリ・レポートであることを示すアイコン |
|  | BannerBackground.gif | 縦 = 130 x 適切な任意のサイズ 横 = 適切な任意のサイズ x 85 | メイン・メニューの背景画像 |
|  | CompanyLogo.gif | 120 x 適切な任意のサイズ | メイン・メニューに表示されるロゴ。この画像は、ExtraView の管理セクションからアップロード可能。 |
|  | GrowButton.gif | 10 x 10 | 編集時にテキスト・エリアの拡大に使用するボタン |
|  | ShrinkButton.gif | 10 x 10 | 編集時にテキスト・エリアの縮小に使用するボタン |
|  | smallbullet.gif | 10 x 10 | 多目的に使用可能なボタン |
|  | ArrowSelectOff.gif | 12 x 12 | ソート可能なレポートの列を示すために使用されるアイコン |

| サンプル画像 | ファイル名 | サイズ | 用途 |
|---|----------------------|-----------|--|
|  | ArrowSelectOn.gif | 12 x 12 | レポートの降順ソート・キーとして現在使用されている列を示すために使用されるアイコン |
|  | ArrowSelectOn2.gif | 12 x 12 | レポートの昇順ソート・キーとして現在使用されている列を示すために使用されるアイコン |
|  | B0.gif .. b9.gif | 18 x 18 | さまざまな場所で使用される、0 ~ 9 の番号が付いた gif ファイルを示します。 |
|  | Arrow.gif | 11 x 9 | メニュー・バーで、サブメニューを持つエントリを示すために使用されます。 |
|  | promote.gif | 15 x 15 | レポートで、昇格可能なグループ見出しを示すために使用されます。 |
|  | SelectorOff.gif | 15 x 15 | レコード・セクターのオフの状態を示すために使用されます。 |
|  | SelectorOn.gif | 15 x 15 | レコード・セクターのオンの状態を示すために使用されます。 |
|  | SortAscend.gif | 15 x 15 | 昇順のソートを示すために使用されます。 |
|  | SortDescend.gif | 15 x 15 | 降順のソートを示すために使用されます。 |
| Add | TreeAddButton.gif | 38 x 15 | 要素を追加するためのツリー・ボタン |
| Edit | TreeEditButton.gif | 38 x 15 | 要素を編集するためのツリー・ボタン |
| Delete | TreeDeleteButton.gif | 38 x 15 | 要素を削除するためのツリー・ボタン |
| View | TreeViewButton.gif | 38 x 15 | 要素を表示するためのツリー・ボタン |
| Opt-in | TreeOptInButton.gif | 38 x 15 | 参加するためのツリー・ボタン |
| Opt-out | TreeOptOutButton.gif | 38 x 15 | 脱退するためのツリー・ボタン |
|  | ChartLayout.gif | 270 x 160 | PDF作成準備の一部 |
|  | GroupChartPic.gif | 270 x 160 | PDF作成準備の一部 |

| サンプル画像 | ファイル名 | サイズ | 用途 |
|---|-----------------------|-----------|--------------------|
|  | GroupColDGPic.gif | 270 x 160 | PDF作成準備の一部 |
|  | GroupColPic.gif | 270 x 160 | PDF作成準備の一部 |
|  | GroupColReportPic.gif | 270 x 160 | PDF作成準備の一部 |
|  | GroupHeadersPic.gif | 270 x 160 | PDF作成準備の一部 |
|  | GroupRowDGBPic.gif | 270 x 160 | PDF作成準備の一部 |
|  | GroupRowPic.gif | 270 x 160 | PDF作成準備の一部 |
|  | ReportLayout.gif | 270 x 160 | PDF作成準備の一部 |
|  | ReportContainer.gif | 150 x 100 | コンテナ・レポートのレイアウトを表現 |
|  | TransitionArrow.gif | 30 x 20 | ステータス推移図の一部として使用 |

| サンプル画像 | ファイル名 | サイズ | 用途 |
|---|-------------------|---------|------------------|
|  | TransitionBar.gif | 20 x 20 | ステータス推移図の一部として使用 |

色および画像のテーマ

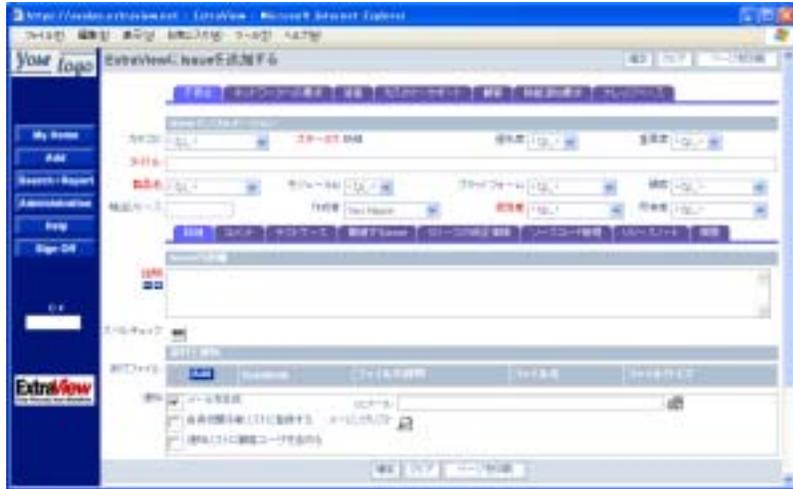
ExtraView のインストレーションには、複数のセットのメニュー画像が用意されています。これらを選択するには、[システム制御] タブにある [環境設定] メニューの動作設定 IMG_HOME を変更します。次のような動作設定があります。

色設定

画像セット

デフォルト設定

ExtraView のデフォルト設定です。IMG_HOME に値を設定しない場合、これがユーザに表示される画像セットになります。



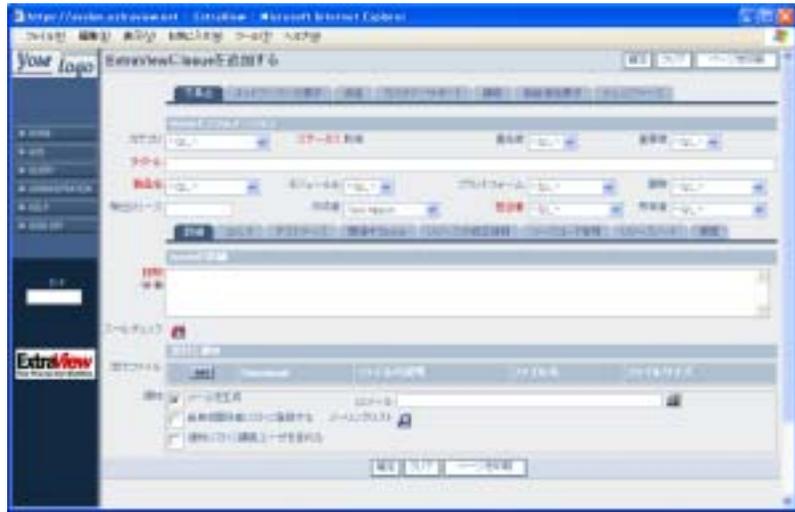
| 設定 | 値 |
|-------------------------------|-------------------|
| IMG_HOME | |
| BG_ALT_COLOR | #CCCCCC |
| BG_COLOR | #DCDCDC |
| BORDER_COLOR | #CCCCFF |
| LABEL_COLOR | #615499 |
| MENU_TEXT_COLOR | #FFFFFF |
| MOUSEOVER_COLOR | #E0E8F3 |
| REPORT_HEADER_FOOTER_COLOR | #ADBFD0 |
| REPORT_SUMMARY_TOTAL_COLOR | #ADBFD0 |
| SCREEN_HEADER_FOOTER_BG_COLOR | #D5DEE9 |
| TAB_FONT_OFF_COLOR | #FFFFFF |
| TAB_FONT_ON_COLOR | #FFFFFF |
| TAB_OFF_COLOR | 615499 |
| TAB_ON_COLOR | 6666FF |
| WINDOW_BG_COLOR | #FFFFFF |
| MENU_DIRECTION | VERTICAL |
| MENU_SIZE | 110 |
| NAV_BAR_STYLE | text-align:center |

色設定

画像セット

ブルー・テーマ

これらの画像は落ち着いた印象の、青を基調としたテーマになります。



設定

値

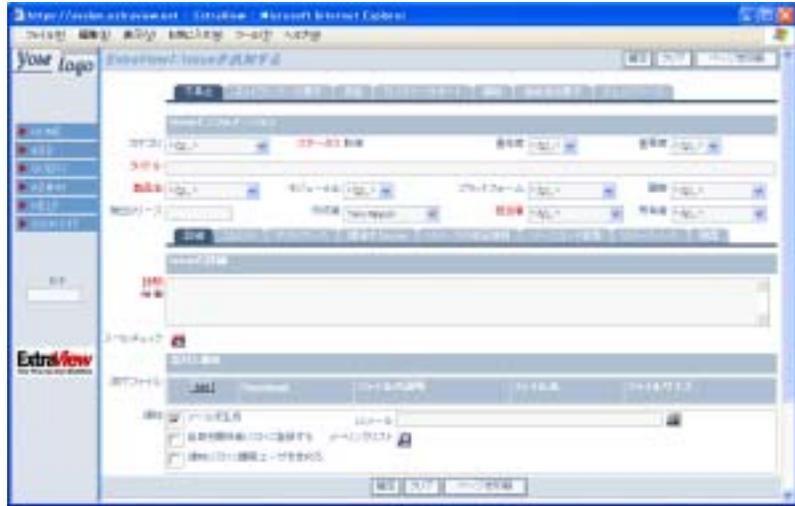
| | |
|-------------------------------|------------------------------|
| IMG_HOME | ../images/images_blue_theme/ |
| BG_ALT_COLOR | #D5DEE9 |
| BG_COLOR | #C9D5E1 |
| BORDER_COLOR | #1292EA |
| LABEL_COLOR | #405E87 |
| MENU_TEXT_COLOR | #ADBFD0 |
| MOUSEOVER_COLOR | #E0E8F3 |
| REPORT_HEADER_FOOTER_COLOR | #ADBFD0 |
| REPORT_SUMMARY_TOTAL_COLOR | #ADBFD0 |
| SCREEN_HEADER_FOOTER_BG_COLOR | #D5DEE9 |
| TAB_FONT_OFF_COLOR | #615499 |
| TAB_FONT_ON_COLOR | #FFFFFF |
| TAB_OFF_COLOR | ADBFD0 |
| TAB_ON_COLOR | 3F5A7A |
| WINDOW_BG_COLOR | #FFFFFF |
| MENU_DIRECTION | VERTICAL |
| MENU_SIZE | 110 |
| WINDOW_BG_COLOR | #EBEDEF |
| NAV_BAR_STYLE | text-align:center |

色設定

画像セット

ライトブルー・テーマ

これらの画像は淡い青を組み合わせ、強調表示の対象色を使用しています。



| 設定 | 値 |
|-------------------------------|------------------------------|
| IMG_HOME | ../images/images_light_blue/ |
| BG_ALT_COLOR | #D5E3EB |
| BG_COLOR | #F5F5FF |
| BORDER_COLOR | #1292EA |
| LABEL_COLOR | #405E87 |
| MENU_TEXT_COLOR | #62686F |
| MOUSEOVER_COLOR | #E0E8F3 |
| REPORT_HEADER_FOOTER_COLOR | #ADBFD0 |
| REPORT_SUMMARY_TOTAL_COLOR | #ADBFD0 |
| SCREEN_HEADER_FOOTER_BG_COLOR | #D5DEE9 |
| TAB_FONT_OFF_COLOR | #FFFFFF |
| TAB_FONT_ON_COLOR | #FFFFFF |
| TAB_OFF_COLOR | ADBFD0 |
| TAB_ON_COLOR | 3F5A7A |
| WINDOW_BG_COLOR | #FFFFFF |
| MENU_DIRECTION | VERTICAL |
| MENU_SIZE | 110 |
| NAV_BAR_STYLE | text-align:right |

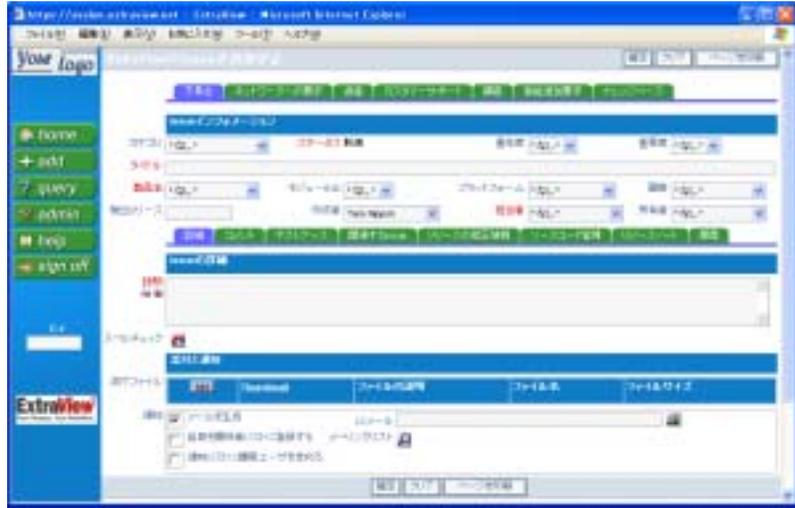
色設定

画像セット

Windows XP スタイル

これらの画像は Microsoft Windows XP のテーマで使用されます。

ル



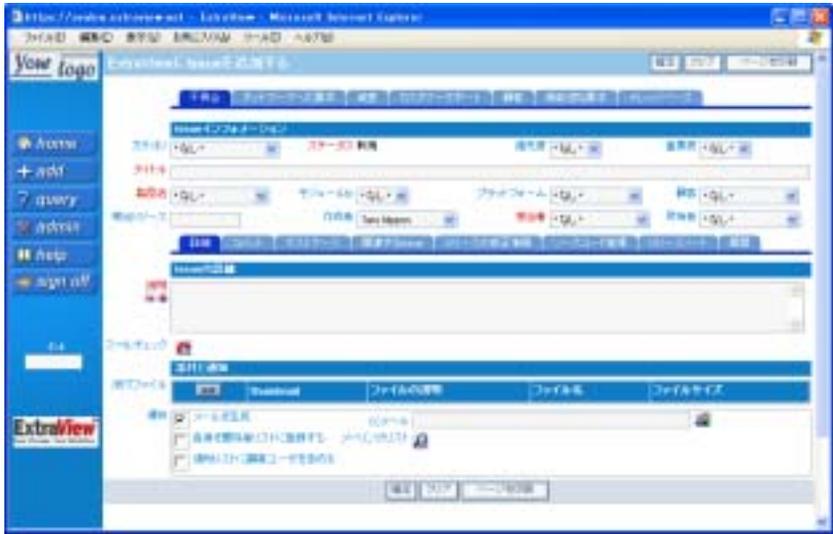
設定

値

| | |
|-------------------------------|----------------------|
| IMG_HOME | ../images/images_xp/ |
| BG_ALT_COLOR | #F1FEF1 |
| BG_COLOR | #E8F7E7 |
| BORDER_COLOR | #1292EA |
| LABEL_COLOR | #405E87 |
| MENU_TEXT_COLOR | #FFFFFF |
| MOUSEOVER_COLOR | #E0E8F3 |
| REPORT_HEADER_FOOTER_COLOR | #98DB98 |
| REPORT_SUMMARY_TOTAL_COLOR | #98DB98 |
| SCREEN_HEADER_FOOTER_BG_COLOR | #9AC1DC |
| TAB_FONT_OFF_COLOR | #FFFFFF |
| TAB_FONT_ON_COLOR | #FFFFFF |
| TAB_OFF_COLOR | 389538 |
| TAB_ON_COLOR | 6666FF |
| WINDOW_BG_COLOR | #FFFFFF |
| MENU_DIRECTION | VERTICAL |
| MENU_SIZE | 110 |
| NAV_BAR_STYLE | text-align:left |

| | |
|-----|-------|
| 色設定 | 画像セット |
|-----|-------|

ブルー画像
 太字ボタンを含むこれらの画像はブルー・テーマを使用し、Windows XP スタイルのボタンに類似しています。



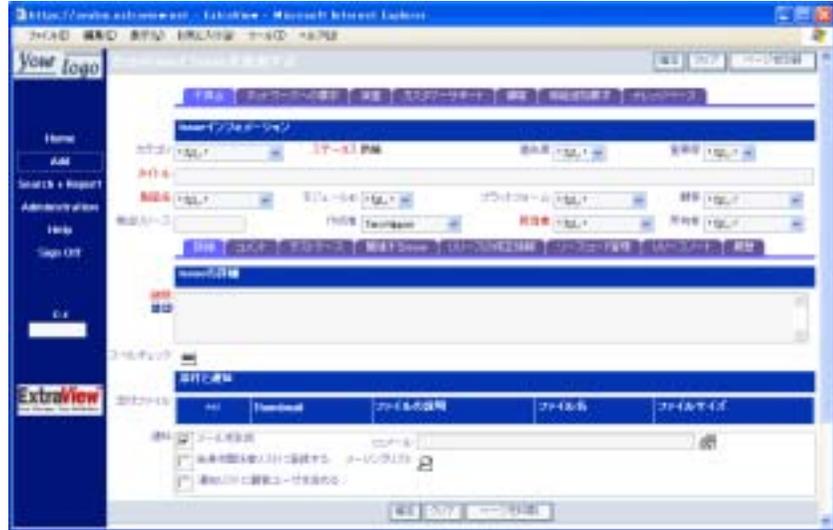
| 設定 | 値 |
|----------------------------|------------------------|
| IMG_HOME | ../images/images_blue/ |
| BG_ALT_COLOR | #EEF2FD |
| BG_COLOR | #D0DBF5 |
| BORDER_COLOR | #1292EA |
| LABEL_COLOR | #007ECC |
| MENU_TEXT_COLOR | #FFFFFF |
| MOUSEOVER_COLOR | #E0E8F3 |
| REPORT_HEADER_FOOTER_COLOR | #9AC1DC |
| REPORT_SUMMARY_TOTAL_COLOR | #9AC1DC |
| TAB_FONT_OFF_COLOR | #FFFFFF |
| TAB_FONT_ON_COLOR | #FFFFFF |
| TAB_OFF_COLOR | 6B9DD0 |
| TAB_ON_COLOR | 0E37C5 |
| WINDOW_BG_COLOR | #FFFFFF |
| MENU_DIRECTION | VERTICAL |
| MENU_SIZE | 110 |
| NAV_BAR_STYLE | text-align:left |

色設定

画像セット

小さい画像

これらの画像もブルー・テーマを使用しますが、通常デフォルトの画像よりサイズが小さくなります。小さいサイズのフォントを使用するユーザの数が多い場合に適します。



設定

値

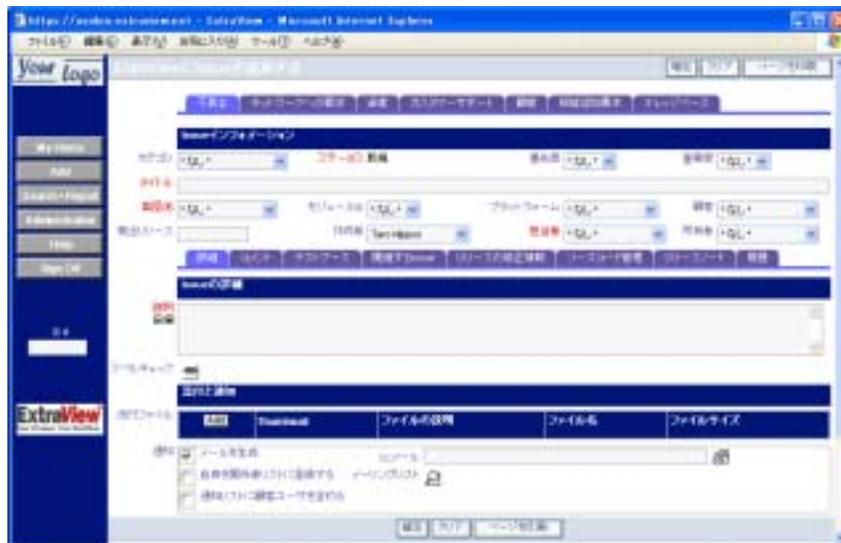
| | |
|-------------------------------|-------------------------|
| IMG_HOME | ../images/images_small/ |
| BG_ALT_COLOR | #CCCCCC |
| BG_COLOR | #DCDCDC |
| BORDER_COLOR | #CCCCFF |
| LABEL_COLOR | #615499 |
| MENU_TEXT_COLOR | #FFFFFF |
| MOUSEOVER_COLOR | #E0E8F3 |
| REPORT_HEADER_FOOTER_COLOR | #8399EA |
| REPORT_SUMMARY_TOTAL_COLOR | #8399EA |
| SCREEN_HEADER_FOOTER_BG_COLOR | #C0D8EA |
| TAB_FONT_OFF_COLOR | #FFFFFF |
| TAB_FONT_ON_COLOR | #FFFFFF |
| TAB_OFF_COLOR | 615499 |
| TAB_ON_COLOR | 6666FF |
| WINDOW_BG_COLOR | #FFFFFF |
| MENU_DIRECTION | VERTICAL |
| MENU_SIZE | 105 |
| NAV_BAR_STYLE | text-align:center |

色設定

画像セット

グレー画像

これらの画像により、テーマのボタンがグレーになります。



設定

値

| | |
|-------------------------------|------------------------|
| IMG_HOME | ../images/images_grey/ |
| BG_ALT_COLOR | #CCCCCC |
| BG_COLOR | #DCDCDC |
| BORDER_COLOR | #CCCCFF |
| LABEL_COLOR | #615499 |
| MENU_TEXT_COLOR | #FFFFFF |
| MOUSEOVER_COLOR | #E0E8F3 |
| REPORT_HEADER_FOOTER_COLOR | #888888 |
| REPORT_SUMMARY_TOTAL_COLOR | #888888 |
| SCREEN_HEADER_FOOTER_BG_COLOR | #BBBBBB |
| TAB_FONT_OFF_COLOR | #000000 |
| TAB_FONT_ON_COLOR | #FFFFFF |
| TAB_OFF_COLOR | E6E6E6 |
| TAB_ON_COLOR | 990000 |
| WINDOW_BG_COLOR | #FFFFFF |
| MENU_DIRECTION | VERTICAL |
| MENU_SIZE | 105 |
| NAV_BAR_STYLE | text-align:center |

色設定

画像セット

水平ストライプ画像 これらの画像により、メニュー・システムが水平方向で表示されます。

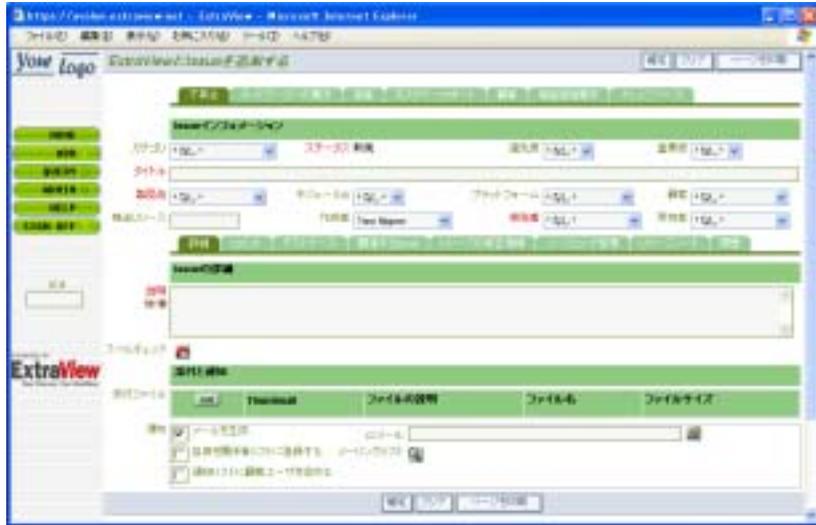


設定

値

| | |
|-------------------------------|--------------------------------|
| IMG_HOME | ../images/images_horiz_stripe/ |
| BG_ALT_COLOR | #DDDDDD |
| BG_COLOR | #B3C1DF |
| BORDER_COLOR | #1292EA |
| LABEL_COLOR | #3366CC |
| MENU_TEXT_COLOR | #3366CC |
| MOUSEOVER_COLOR | #E0E8F3 |
| REPORT_HEADER_FOOTER_COLOR | #6B9DD0 |
| REPORT_SUMMARY_TOTAL_COLOR | #6B9DD0 |
| SCREEN_HEADER_FOOTER_BG_COLOR | #D5DEE9 |
| TAB_FONT_OFF_COLOR | #FFFFFF |
| TAB_FONT_ON_COLOR | #FFFFFF |
| TAB_OFF_COLOR | 6B9DD0 |
| TAB_ON_COLOR | 0E37C5 |
| WINDOW_BG_COLOR | #FFFFFF |
| MENU_DIRECTION | HORIZONTAL |
| MENU_SIZE | 75 |
| NAV_BAR_STYLE | text-align:center |
| NAV_BAR_LOGO_STYLE | padding:20px 0px 0px 25px |

垂直ストライプ画像 これらの画像により、メニュー・システムがグリーン・テーマで垂直方向に表示されます。



推奨される設定:

| 設定 | 値 |
|-------------------------------|-------------------------------|
| IMG_HOME | ../images/images_vert_stripe/ |
| BG_ALT_COLOR | #D1EBD1 |
| BG_COLOR | #EBF6EB |
| BORDER_COLOR | #1292EA |
| LABEL_COLOR | #60831E |
| MENU_TEXT_COLOR | #60831E |
| MOUSEOVER_COLOR | #EAFAA9 |
| REPORT_HEADER_FOOTER_COLOR | #8ECA80 |
| REPORT_SUMMARY_TOTAL_COLOR | #8ECA80 |
| SCREEN_HEADER_FOOTER_BG_COLOR | #B7DF8A |
| TAB_FONT_OFF_COLOR | #FFFFFF |
| TAB_FONT_ON_COLOR | #FFFFFF |
| TAB_OFF_COLOR | 99CC99 |
| TAB_ON_COLOR | 60831E |
| WINDOW_BG_COLOR | #FFFFFF |
| MENU_DIRECTION | VERTICAL |
| MENU_SIZE | 110 |
| NAV_BAR_STYLE | text-align:center |

サインオン・ページ

サインオン・ページは、ユーザのサインオンとサインオフの場所を提供するのが目的です。ExtraView のエントリ・ポイントとして、画像やリンクを含む追加の HTML をページに配置できます。

追加の HTML は、PROMO というデータ辞書から得られます。これはデータ辞書の画面セクションにあります。有効な HTML は [表示タイトル] に配置できます。このフィールドの最大長は 120 文字であるため、JavaScript 機能を使用して、適切な場所に保存されている別のユーザ定義の JavaScript 機能をポイントすることができます。詳細については、JavaScript カスタム・コーディングに関するセクションを参照してください。

例えば、次のようにエントリをフィールドのタイトルに配置します。

```
<script>document.write('<br><img src=../images/ExtraViewLogo.gif>
<br>');</script>
```

これにより、次のスクリーン・ショットのようにサインオン画面に ExtraView のロゴが配置されます。



PROMO データ辞書のエントリの使用

ユーザ管理

ExtraView のライセンス方式

ExtraView はライセンス交付製品です。ExtraView 社からのライセンス購入方法に従って、ライセンス方式にはいくつかのタイプがあります。

ExtraView インストールのライセンス詳細情報は、[Administration]メニューの[システム制御]セクションにある[会社情報の設定]のセクションから参照することができます。

ユーザロック・ライセンス方式

指名されたユーザは、ExtraView 内でそれぞれ固有のユーザ ID を持つ単独の操作者として識別されます。購入したライセンス数より多くのエンドユーザを作成できますが、有効ユーザの最大数がライセンスを交付されたユーザ数を超えることはできません。ライセンス数を遵守するため、1 つ以上のアカウントを無効にすることができます。LIMITED_USER_ROLEという動作設定で指定されたロールのみを持つユーザは、ライセンス構成にカウントされません。そのようなユーザは常にExtraViewへのアクセスが可能です。

フローティング・ライセンス方式

同時実行ユーザによるライセンス方式では、任意の数のユーザ ID を作成できますが、すべてのユーザが同時に ExtraView にサインオンして作業を行うことはできません。それは、ソフトウェアで同時にサインオン可能なユーザの数を、購入した同時実行ライセンスの数の数に制限しているためです。制限された数を上回るユーザがサインオンを試みると、ExtraView 管理者に連絡するよう要求するメッセージがユーザに通知されます。ユーザがアイドル状態のとき、ライセンスをアクティブな状態に保つ時間を動作設定により制御することができます。期限後、ユーザがアイドル状態のままであれば、そのユーザのセッション期限が切れ、別のユーザがライセンスを占有できます。

混合ライセンス方式

混合ライセンスを購入すると、指名ユーザの最大数と同時実行ユーザの最大数が制限されます。新しいユーザが作成されると、そのユーザには自動的に同時実行ライセンスの使用が許可されます。管理者はエンドユーザ・アカウントの管理画面を使用して、任意のユーザを(購入した指名ユーザ・ライセンスの数以内で)同時実行ライセンスから指名ユーザ・ライセンスに移行させることができます。

LIMITED_USER_ROLEという動作設定で指定されたロールのみを持つユーザは、ライセンス構成にカウントされず、常にExtraViewへのアクセスが可能です。そのようなユーザにはユーザロック・ライセンスではなく、フローティング・ライセンスを与えるべきです。この方式がデフォルトの動作になります。

無償エンドユーザ・ライセンス

動作設定 LIMITED_USER_ROLE で指定される ExtraView 内の単一のユーザー・ロールを使用して、無償でライセンスが交付されるユーザを特定することができます。このユーザ・ロールに属するユーザには次のような制限があります。

- issue を更新することはできません。
- issue の所有者になることはできません。
- このロールに属するユーザに issue を割り当てることはできません。
- ユーザは1つのロールにのみ属することができ、ロールの切り替えはできません。

ADMIN ユーザ

このアカウントはすべての ExtraView インストレーションに無償で提供されています。このユーザには特殊な属性があり、いかなる場合でも issue の作成および更新に使用すべきではありません。その理由は、このユーザにはシステム内のほとんどすべてのセキュリティ権限が適用されないからです。したがって、このユーザのパスワードは十分注意して設定してください。このアカウントは、主に次の3つの理由で提供されています。

- ExtraView の初期インストールの際に使用するユーザ・アカウントであり、これを使用してユーザ自身のユーザ ID の入力と作成をおこなうことができます。
- すべての許可を無効にしてしまった場合など、不測の事態により ExtraView からロックアウトされたとき、このアカウントはアクティブなままです。
- ExtraView 社のサポート担当者が、問題の特定のためにこのアカウントを使用するようお願いする場合があります。

概念

このセクションでは、ユーザ管理のあらゆる側面を扱います。ユーザを作成し維持する方法、ユーザに関係する主要な動作設定を変更する方法について説明します。

また、ExtraView のフローティング・ユーザ・セッションのライセンスがある場合はユーザ・セッションの管理方法、さらに ExtraView にアクセスしたユーザに関する詳細について、サインオン・ログを調べる方法についても説明します。

プライバシー・グループは、特定のユーザ・グループに対する issue の表示方法を制御するために使用されます。ユーザは任意の数のプライバシー・グループに属することができます。例えば、特定の顧客を1つのプライバシー・グループに配置すると同時に、内部スタッフがすべてのプライバシー・グループにアクセスできるように設定できます。

ユーザ・ロールは、ExtraView の中心的な機能です。ロールの数は任意に設定できます。各ロールには、すべてのフィールドについてそれぞれ独自の画面レイアウトとアクセス権を設定することが可能です。



ユーザ管理画面

リストの管理

リスト内のエントリの数と ADMIN_LIST_SIZE という動作設定の値によって、リストの動作は異なります。管理リストに取得されるレコードの数が ADMIN_LIST_SIZE の値を超えている場合、使い易さと拡張性とのバランスを取るためです。

リスト内のエントリの数が ADMIN_LIST_SIZE の値より少ない場合、リストに全体がただちに表示されます。エントリ数が設定値を超えている場合、検索画面が表示され、リスト内の各エントリの最初の文字がショートカットとして示されます。これをクリックすると、該当するレコードのみが表示されます。3 番目のケースとして、正の数ではなく負の数を設定した場合、リストは 2 番目のケースと同様に動作しますが、インターフェースは簡略化されます。

また、ワイルドカードを含む検索式を入力して、作業対象のレコードの集合を取得することができます。長い形式のリストでは、[エクスポート] ボタンを使用することにより、リスト値の CSV (カンマ区切りの値) ファイルを作成することができます。

アカウント: TestUser | ロール: 管理者 | ログインおよびアカウント管理: 従業員と子会社ユーザ

ワークフローの設定

| ワークフロー | 名前 | 説明 |
|-----------------------------|-------|---|
| ADMIN_COVERAGE_RULE | ADMIN | ステータス変更履歴の権限を持つロールの範囲。ステータス変更ユーザは、このロールにのみ適用されます。 |
| CLONE_RELATION_CHECK | | 複製関係の重複チェック |
| COMPANY_COVERAGE_RULES | | この設定は表示オブジェクトであるユーザの各フィールドのリストが変更されます。これらのフィールドは存在して、必須があり、追加のチェック機能が動作するユーザを定義します。デフォルトでは、会社名とユーザIDのCOMPARISONフィールドのみが有効です。この設定により、他のフィールドにも検証機能が追加されます。 |
| COPY_ATTACHMENT_ON_CLONE | YES | YESに設定すると、issueを複製したときに元のファイルが複製し、issueにコピーされます。 |
| DEFAULT_STATUS | NEW | この値は既定は変更されません。デフォルトステータスはユーザが作成したワークアイテムに適用されます。デフォルトステータスは特定のユーザにのみ適用され、特定のワークアイテムにのみ適用されます。 |
| DEFAULT_JOB_ROLE | OWNER | ロールが与えられていないユーザのデフォルトのロール。 |
| DISALLOW_ADD_NEW_DATA | YES | NOに設定すると、issueユーザが APPEND に入力されます。これにより、バージョン4.2以前のインストールでの下位互換性が保たれます。バージョン4.2以上でインストールされたインストールでは、issueユーザが APPEND に適用されません。4.2以上のインストールでは、YESに設定する必要があります。 |
| DISALLOW_PROJECT_ID_DATA | YES | NOに設定すると、issueユーザが REASSIGN に入力されます。これにより、バージョン4.2以前のインストールでの下位互換性が保たれます。バージョン4.2以上でインストールされたインストールでは、issueユーザが REASSIGN に適用されません。4.2以上のインストールでは、YESに設定する必要があります。 |
| DISABLE_COMPANY_NAME_ACCESS | YES | この値は既定で YES (デフォルトは NO) に設定すると、ユーザの会社名が issue のグローバル検索に適用され、会社名が検索可能なユーザが作成したすべてのワークアイテムへのアクセスがユーザに許可されます。有効な値は YES と NO です。 |
| ENFORCE_STATUS_CHANGE_RULES | YES | ステータス変更ユーザの権限を制限します。有効な値は YES と NO です。 |
| ENFORCE_UNIQUE_RELATIONS | NO | 1対1のワークアイテム間の RELATIONSHIP の一意性を強制します。このワーク |

デフォルト設定 ADMIN_LIST_SIZE = 200 の場合

表示の設定

リストの表示は既定として、3桁の最大桁の数字を示しています。最初二、三桁として使用する列を識別してください。次に、これらの列がリストを構成するために文字をリンクするか、またはフィールドカードなどの検索オプションを入力します。Issue検索を使用して、現在の画面の表示結果をCSVファイルに生成することもできます。

① レポートの列を識別

② 文字をリンクします。
または検索条件を入力してEnterキーを押すか、検索ボタンを押す。

| ワークフロー | 名前 | 説明 |
|----------------------------|----------------------|---|
| MANDATORY_FIELD_ROOT | <div> | 必須フィールドのラベルの後に配置する HTML タグまたは文字を指定します。デフォルトでは HTML 文字の連続みが使用されますが、有効な HTML または文字で置き換えることができます。 |
| MANDATORY_FIELD_PSE | <div class="MCC000"> | 必須フィールドのラベルの後に配置する HTML タグまたは文字を指定します。デフォルトでは HTML の文字タグが使用されますが、有効な HTML または文字で置き換えることができます。 |
| MENU_DIRECTION | VERTICAL | 画面上のメニューナビゲーションバーを HORIZONTAL または VERTICAL に設定します。 |
| MENU_SIZE | 110 | ナビゲーションバーの幅または高さ(単位はピクセル)。どちらからでも MENU_DIRECTION が VERTICAL か HORIZONTAL に設定します。この設定を調整させるには、EditView からサイン/サインした後、再びサイン/サインする必要があります。ご注意ください。 |
| MULTI_VALUE_HIGHLIGHT_CHAR | SPACE | この値は、UDF の複数値リストフィールドで選択した値が結果表示に使用される文字を示します。デフォルトは SPACE です。単一の文字、またはブラケットが単一の Unicode 文字として解釈できる文字列を使用します。この文字列は Microsoft Windows 4.x のように、ユーザのブラウザで表示されない場合は、+ などの ASCII 文字を参照します。 |

合計 34 レコードから選択された 31 レコード

ADMIN_LIST_SIZE が小さい正の数に設定されている場合

表示の設定

リストの表示は既定として、3桁の最大桁の数字を示しています。最初二、三桁として使用する列を識別してください。次に、これらの列がリストを構成するために文字をリンクするか、またはフィールドカードなどの検索オプションを入力します。Issue検索を使用して、現在の画面の表示結果をCSVファイルに生成することもできます。

① レポートの列を識別

② 文字をリンクします。
または検索条件を入力してEnterキーを押すか、検索ボタンを押す。

ワークフローのワークフロー名 | 名前 | 説明

合計 34 レコードから選択された 31 レコード

ADMIN_LIST_SIZE が小さい負の数に設定されている場合

ユーザ・アカウント・メンテナンス

新規ユーザの追加

必要なユーザ・ロールを作成したら、管理者はシステム内で有効な任意のロールに新しいユーザを追加できます。ユーザには、一度に複数のグループに対する権限を割り当てるのが可能です。

[Administration] メニューの [ユーザ] タブで、[ユーザ・アカウント・メンテナンス] リンクをクリックします。以下のような画面が表示されます。

| ID | ユーザ名 | Eメールアドレス | 有効化 | 会社名 | ユーザグループ | 役割 |
|-------|----------------------|---------------------|-----|-------------------------|----------|-------------------------------|
| ADMIN | System Administrator | admin@ex.com | Y | Superior Software Corp. | 20808502 | System Administrator 20808508 |
| ADMIN | Taro Higashi | taroh@ex.com | Y | Superior Software Corp. | 20808508 | Taro Higashi 20808502 |
| ADMIN | Bill Smith | bill@ex.com | Y | Superior Software Corp. | 20808508 | Bill Smith 20808508 |
| ADMIN | Chris Johnson | christon@exview.com | Y | Superior Software Corp. | 20808208 | System Administrator 20808208 |
| ADMIN | Chris Robinson | crrob@ | Y | Superior Software Corp. | 20808008 | Chris Robinson 20808008 |
| ADMIN | Alley Daniels | alldan@ex.com | Y | Superior Software Corp. | 20808008 | System Administrator 20808008 |
| ADMIN | Greg Goldberg | greg@exview.com | Y | Superior Software Corp. | 20808008 | System Administrator 20808008 |
| ADMIN | Guest User | guest@ex.com | Y | Guest Company | 20808008 | ExView 20808001 |
| ADMIN | George Miller | gmiller@ex.com | Y | Superior Software Corp. | 20808008 | George Miller 20808008 |
| ADMIN | John Jackson | jjjac@ex.com | Y | ABC Software | 20808008 | System Administrator 20808008 |
| ADMIN | Mary Daniels | mary@ex.com | Y | Superior Software Corp. | 20808008 | Bill Smith 20808008 |
| ADMIN | Mary Brown | marybr@ex.com | Y | Superior Software Corp. | 20808008 | Taro Higashi 20808502 |
| ADMIN | Sally Hunt | shunt@exview.com | Y | Superior Software Corp. | 20808008 | Sally Hunt 20808008 |
| ADMIN | Taro Higashi | taroh@exview.com | Y | Toyo Corporation | 20808502 | ExView 20808508 |

ユーザ・アカウント画面

画面上の検索機能に注目してください。有効なユーザと無効なユーザの検索を指定できるだけでなく、リスト上の任意のカラムについての情報(ユーザ名、会社など)を検索するよう指定することができます。

選択リストで指定したレポートのフィルタ・カラムを使用して、リスト上の各エントリの最初の文字を示す文字をクリックするか、または「検索式を入力してください」というエントリのあるテキスト入力ボックスに式を入力してください。次に [検索] ボタンを押すと、検索を実行し、フィルタおよび検索式に一致するレコードを取得することができます。

検索の実行後、[エクスポート]ボタンを押すと、画面上に表示されたすべてのレコードがCSV(カンマ区切りの値)ファイルにエクスポートされます。このファイルは、ExtraViewの外部で任意の用途に使用できます。

新しいユーザを追加するには、[Add] ボタンをクリックします。次の画面が表示されます。

新規ユーザの追加画面

画面の上部に並んでいるタブは、以下の用途で使用されます。

| タブ | 目的 |
|----------------|-------------------------------|
| 個人情報 | ユーザの個人情報の詳細 |
| パーソナル・オプション | ユーザが自身で制御可能なパーソナル・オプション |
| レポート | ホームページ・レポートを含む、ユーザのレポート・オプション |
| 通知オプション | ユーザの電子メール通知オプション |
| ユーザ・ロール/セキュリティ | ユーザのパスワード期限の設定および許可されたユーザ・ |

| | |
|-------------|----------------------|
| ティ | ロール |
| プライバシー・グループ | ユーザに許可されたプライバシー・グループ |

個人情報

ユーザに対し（システムへのログインに使用する）固有のユーザ ID、パスワード、その他のアカウント情報を割り当てます。すべての必須フィールド、さらに入力が必要なオプション・フィールドに情報を入力します。

| 個人情報フィールド | 説明 |
|------------|--|
| [ユーザ ID] | 新しいユーザがシステムへのログインに使用する名前（必須）。ユーザ名には次の文字、数字、記号を使用します。 A-Z 0-9 - _ . @ |
| [名] | ユーザ ID は固有でなくてはなりません。ユーザの名前。[ユーザの詳細を変更] 画面で、このフィールドへのアクセスを USER.USER_FIRST_NAME というセキュリティ権限キーにより制御できます。 |
| [姓] | ユーザの姓（必須）。ユーザ登録時、名前と姓の組み合わせが既に存在していると警告が表示されますが、正しいと判断して、更新を実行することができます。[ユーザの詳細を変更] 画面で、このフィールドへのアクセスを USER.USER_LAST_NAME というセキュリティ権限キーにより制御できます。管理者がこのキーへの書き込み権限を持っていない場合、管理者は新しいユーザを作成することはできません。ユーザの姓が可視でなければ ExtraView の使用意義がないため、このフィールドは常に可視です。したがって、このフィールドに対する読み取り権限を無効にすることはできません。 |
| [パスワード] | ユーザのパスワード（必須）。このフィールドへのアクセスを USER.USER_SECURITY_PASSWORD というセキュリティ権限キーにより制御できます。このフィールドが非表示に設定される可能性があるのは、ユーザ認証に LDAP サーバを使用する場合だけです。また、USER.USER_PASSWORD_MANAGEMENT というセキュリティ権限キーがあります。このキーにより、ユーザのパスワードを期限切れにする機能と、パスワード期限切れの間隔およびパスワード期限切れまでの日数などパスワードに関連する時間間隔の情報が制御されます。これらのフィールドを変更するには、書き込みアクセスが必要です。管理者が USER.USER_SECURITY_PASSWORD への書き込み権限を持っていない場合、管理者は新しいユーザを作成することはできません。 |
| [パスワードを確認] | ユーザのパスワードの再入力（必須）。[パスワード] フィールドと同じセキュリティ権限キーを適用できます。 |

| | |
|--------------------------------|---|
| [電子メール・アドレス] | 自動電子メール通知が送信される電子メール・アドレス EMAIL_NOTIFICATIONという動作設定が YES に設定されている場合は必須です。ユーザ登録時、電子メール・アドレスが既に存在していると警告が表示されますが、正しいと判断して、更新を実行することができます。ユーザの編集時に限り、セキュリティ権限キー USER.USER_EMAIL_ADDRESS によりこのフィールドへのアクセスが制御されます。新しいユーザの作成時は、ユーザの電子メールアドレスは常に書き込み可能です。ユーザの更新時には、このフィールドを読み取り専用または読み取り/書き込み可能にするか、読み取り/書き込み禁止にすることができます。読み取り/書き込み禁止にすると、そのフィールドは非表示になります。 |
| [職位] | ユーザの職位。このフィールドへのアクセスは、USER.USER_JOB_TITLE というセキュリティ権限キーにより制御されます。 |
| [会社名] | 内部ユーザについては、インストール設定の COMPANY_NAME と同じ値が使用されます。このフィールドは、プライバシー・グループの設定に役立ちます。したがって、正確な情報を入力することが重要です。ユーザが ExtraView へのアクセスを自己登録すると、このフィールドはユーザの電子メール・アドレスに設定されます。それにより、値は固有となり、そのユーザがプライバシー・グループのメンバーになることはできず、参照許可を与えられていない issue を参照できなくなります。ユーザのアカウントを更新するとき、このフィールドは USER.COMPANY_NAME フィールドで制御することができます。 |
| [住所] | これは 2 行からなるフィールドで、ユーザ・アカウント画面に常に表示されます。 |
| [市区町村] | ユーザの市区町村。常に表示されます。 |
| [県] | ユーザの住所の県。常に表示されます。 |
| [郵便番号] | ユーザの住所の郵便番号。常に表示されます。 |
| [国] | ユーザの住所の国。常に表示されます。 |
| [勤務先電話] | ユーザの職場の電話番号。常に表示されます。 |
| [自宅電話] | ユーザの自宅の電話番号。常に表示されます。 |
| [携帯電話] | ユーザの携帯電話の番号。常に表示されます。 |
| [ファックス] | ユーザの FAX 番号。常に表示されます。 |
| [ポケットベル] | ユーザのポケットベルの番号。常に表示されます。 |
| [ユーザフィールド 1] – [ユーザフィールド 5] | これら 5 つのフィールド群は、セキュリティ権限キーの USER.USER_DEFINED_1 から USER.USER_DEFINED_5 により、デフォルトでは無効になっています。データ辞書の[組み込みフィールド]セクションのエントリにより、これらのフィールドのタイトルを変更し、任意の用途でこれらのフィールドを使用することができます。 |

個人情報画面

パーソナル・オプション

パーソナル・オプション画面で、管理者やユーザが ExtraView 使用時の基本パラメータを設定することができます。

| パーソナル・オプション・フィールド | 説明 |
|-------------------|---|
| [テキスト・サイズ] | ユーザの表示画面で使用されるフォントのサイズに応じて、リストから [小]、[中]、または [大] を選択します。 |
| [言語] | インストレーションで使用可能な言語のリストから選択します。これにより ExtraView のユーザ・インタフェースには、使用可能なローカライズされたメッセージが表示されます。 |
| [デフォルト・エリア] | ユーザがセッションを開始するビジネス・エリア。ユーザが管理者でない限り、このフィールドの参照や変更ができないことに注意してください。 |
| [デフォルト・プロジェクト] | ユーザがセッションを開始するビジネス・エリア内のプロジェクト。ユーザが管理者でない限り、このフィールドの参照や変更ができないことに注意してください。 |
| [タイムゾーン] | 選択した時間帯がシステム全体のユーザに適用されます。 |

| | |
|--------------------|---|
| [日付形式] | 選択した日付形式が新しいユーザに適用されます。ユーザにデータが表示されるすべての画面でこの形式が使用されます。あるいは、カスタム日付マスクを設定した場合は、要求される仕様に合わせた日付形式を使用します。 |
| [カスタム日付形式] | 日付マスクを使用することで、組み込みの形式がニーズに合わない場合に、日付形式を設定することができます。カスタム日付形式の詳細については、付録 A を参照してください。 |
| [24 時間形式の時間] | Yes または No を指定します。 |
| [開始ページ] | ユーザは開始ページを選択することができます。これは ExtraView に最初にサインオンしたときにユーザが誘導されるページです。デフォルトではホームページですが、このリストにある使用可能な開始ページの一覧から選択することも可能です。USER_DEFINED_START_PAGE という動作設定により、このオプションを完全に無効にすることもできます。管理者は、「ユーザに使用可能な開始ページのリストを管理」という高度な管理機能を使って開始ページを追加することが可能です。ユーザには開始ページを使用する権限と、参照する権限を与えなければなりません。この機能が有効な場合に使用可能な初期値は、[ホームページ]、[検索/レポートページ]、[issue の追加画面]、[システム管理画面] です。 |
| [ブラウザの文字セット] | ユーザの画面で使用する文字セットを選択します。通常は UTF-8 Unicode 8-bit Transfer に設定します。 |
| [MS Office の文字セット] | ExtraView から Microsoft Office 製品に情報をエクスポートする場合に使用する文字を選択します。デフォルトは UTF-16LE Unicode 16-bit LittleEndian です。この設定は、Microsoft Office 製品のほとんどの言語バージョン(およびすべての英語バージョン)に適用できます。Microsoft Excel またはその他の Office 製品にエクスポートされたレポートに読めない文字がある場合、ユーザは使用中の Microsoft 製品の文字設定を調べて、このリストの設定を同じにする必要があります。 |
| [添付ファイルの文字セット] | ユーザが issue の保守の際にアップロードする添付ファイルのデフォルト文字セット。デフォルトの初期値は DEFAULT_ATTACHMENT_CHARSET という動作設定により提供されます。 |
| [メールの文字セット] | ユーザへの電子メール送信に使用されるデフォルトの文字セット。デフォルトは UTF-8 です。EMAIL_CHARSET という動作設定により、デフォルトを変更することができます。 |
| [グラフのフォント] | ユーザ・プロファイルに保存されているグラフ・フォントは、ユーザ設定のロケールで有効なフォントでなければなりません。有効でない場合は、DEFAULT_CHART_FONT の動作設定が調べられます。デフォルトのグラフ・フォントが有効でない場合は、アプリケーション・サーバで使用可能なフォントのリストの、最初の有効なフォントが使用されます。 修正されたフォント名は管理画面に表示されます。 |



パーソナル・オプション画面

レポート・オプション

| レポート・オプション・フィールド | 説明 |
|------------------|--|
| [レポート形式をドリルダウン] | クイックリストまたは詳細レポート |
| [ホーム・ページ・レポート#1] | ユーザのホーム・ページに最初に表示させたいレポートを選択します。このオプションは、ユーザ・アカウント編集時にのみ表示されます。 |
| [ホーム・ページ・レポート#2] | ユーザのホーム・ページに2番目に表示させたいレポートを選択します。このオプションは、ユーザ・アカウント編集時にのみ表示されます。 |
| [ホーム・ページ・レポート#3] | ユーザのホーム・ページに3番目に表示させたいレポートを選択します。このオプションは、ユーザ・アカウント編集時にのみ表示されます。 |

ユーザのホーム・ページ上でレポートを選択および設定する権限は、SR_SET_HOME_PAGE_REPORTS というセキュリティ権限キーにより制御されます。ユーザがこの権限キーへの読み取り権限を持っていない場合、自身のホーム・ページ・レポートを変更できません。しかし、この権限は通常は管理者によって保持されるため、あるユーザがそのホーム・ページ上で参照するレポートを、管理者が選択または凍結することができます。



レポート・オプション画面

通知オプション

ユーザに対して行われるさまざまな通知について、これらのオプションで管理します。

| 通知オプション・フィールド | 説明 |
|------------------------|---|
| [主電子メール・アドレスに通知を受け取る] | このオプションを Yes に設定すると、ユーザは主電子メール・アドレスにメールを受信します。主電子メール・アドレスは[個人情報]タブで設定されます。 |
| [代替電子メール・アドレスに通知を受け取る] | このオプションを Yes に設定すると、ユーザは代替電子メール・アドレスにメールを受信します。代替電子メール・アドレスはこの次のオプションで設定されます。このアドレスを制御するには、そのユーザ・ロールに、セキュリティ権限キー USER.USER_EMAIL_ADDRESS に対する読み取り/書き込み権限がなくてはなりません。 |
| [代替電子メール・アドレス] | これは 1 つ前のプロンプトで制御される、代替電子メール・アドレスです。このアドレスを制御するには、そのユーザ・ロールに、セキュリティ権限キー USER.USER_EMAIL_ADDRESS に対する読み取り/書き込み権限がなくてはなりません。 |
| [自身による更新の通知を受け取る] | 有効 自動電子メール通知を受信します。 無効 自動電子メール通知を受信しません。 |
| [電子メール形式] | HTML、プレーン・テキスト(要約)、またはプレーン・テキスト(全文)。要約オプションでは issue の識別が可能な程度の小数のフィールドのみが表示されます。 |
| [関係者リスト] | 関係者リストへの参加および脱退が可能です。詳しくは、本書の関係者リストのセクションをご覧ください。この画面で関係者リストの管理を行う主な理由は、許可が与えられている関係者リストへの参加と脱退をユーザが行えるようにすることです。 |
| [エスカレーション・ルール] | エスカレーション・ルールへの参加および脱退が可能です。詳しくは、本書のエスカレーション・ルールのセクションをご覧ください。この画面でエスカレーション・ルールの管理を行う主な理由は、許可が与えられている関係者リストへの参加と脱退をユーザが行えるようにすることです。 |

エンドユーザによる、[通知オプション]タブからの関係者リストへのアクセスは、セキュリティ権限キーにより個別に制御されます。CF_INTEREST_LIST 権限キーがこの目的で

使用されます。このキーの読み取り/書き込み権限がなければ、エンドユーザは関係者リストの参照や変更ができません。



通知オプション画面

ユーザ・ロール/セキュリティ

| ユーザ・ロール/セキュリティオプション・フィールド | 説明 |
|---------------------------|--|
| [パスワードの有効期限] | 管理者がこのオプションを選択すると、ユーザのパスワードは [パスワード期限切れまでの日数] 入力フィールドを基に計算が行われて失効します。設定された日数が経過した後、ユーザが次にサインオンを試みると、パスワードの変更が要求されます。このオプションは、LDAP サーバがユーザ認証を制御している場合は表示されません。 |
| [パスワード期限切れまでの日数] | このフィールドのラベルにも、パスワード期限切れまでのおおよその日数が表示されます。このフィールドに任意の日数を設定して、新しい有効期限を指定することができます。この設定を有効にするには [パスワードの有効期限] チェックボックスにチェックを入れる必要があります。この値に0を設定すると、パスワードは直ちに期限切れとなり、ユーザは次のサインオンの際に新しいパスワードを設定しなければなりません。 |

[ユーザ・ロールを選択] 各メンバーが同じ権限のセットを持つ機能別チーム。ユーザが選択可能なロールを、1 つ以上クリックします。



ユーザ・ロール/セキュリティ オプション画面

プライバシー・グループ

| パーソナル・オプション・フィールド | 説明 |
|-------------------|--|
| [プライバシー・グループを選択] | プライバシー・グループを設定することで、ExtraView 内の特定のグループが、issue を [PUBLIC] (すべてのユーザが issue を表示可能) または [PRIVATE] (内部ユーザだけが issue を表示可能) に設定することなく、個別の issue の集合を見ることができます。 |



プライベート・グループ画面

ユーザに対する入力が上の各画面で終了したら、**[ユーザを追加]** ボタンをクリックします。

注:各ユーザに複数のロールが割り当てられている場合は、**[ユーザ・ロール]** リンクをクリックして使用可能なグループ指定を切り替えるようユーザに通知します。

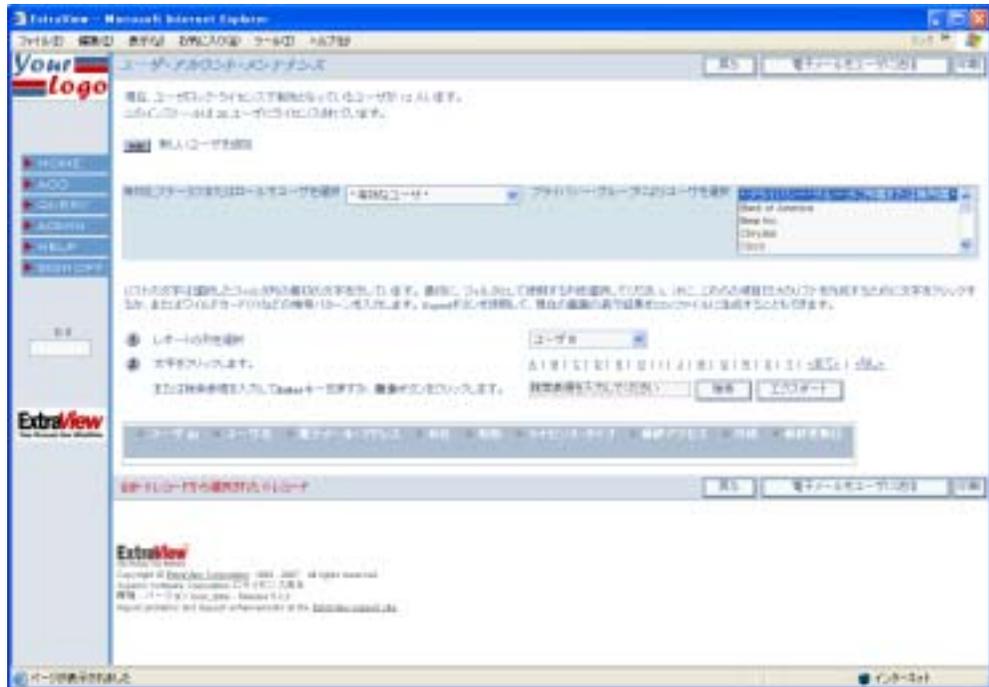
注:新しいユーザが作成され、いずれかのユーザ・ロールに追加されていない場合、ExtraView ではユーザが自動的に動作設定 LIMITED_USER_ROLEで定義されたロールに割り当てられます。これは一般的に顧客またはゲスト・ユーザ・ロールになります。

注:新しいユーザを作成した場合、リスト・ボックスに表示されるホーム・ページ・レポートはパブリックレポートだけです。

注:新しいユーザの作成時、姓と名前の組み合わせが既に存在しているか、電子メールアドレスが既に別のユーザに使用されている場合、警告メッセージが出力され、そのユーザ・アカウントを作成するか確認を求められます。

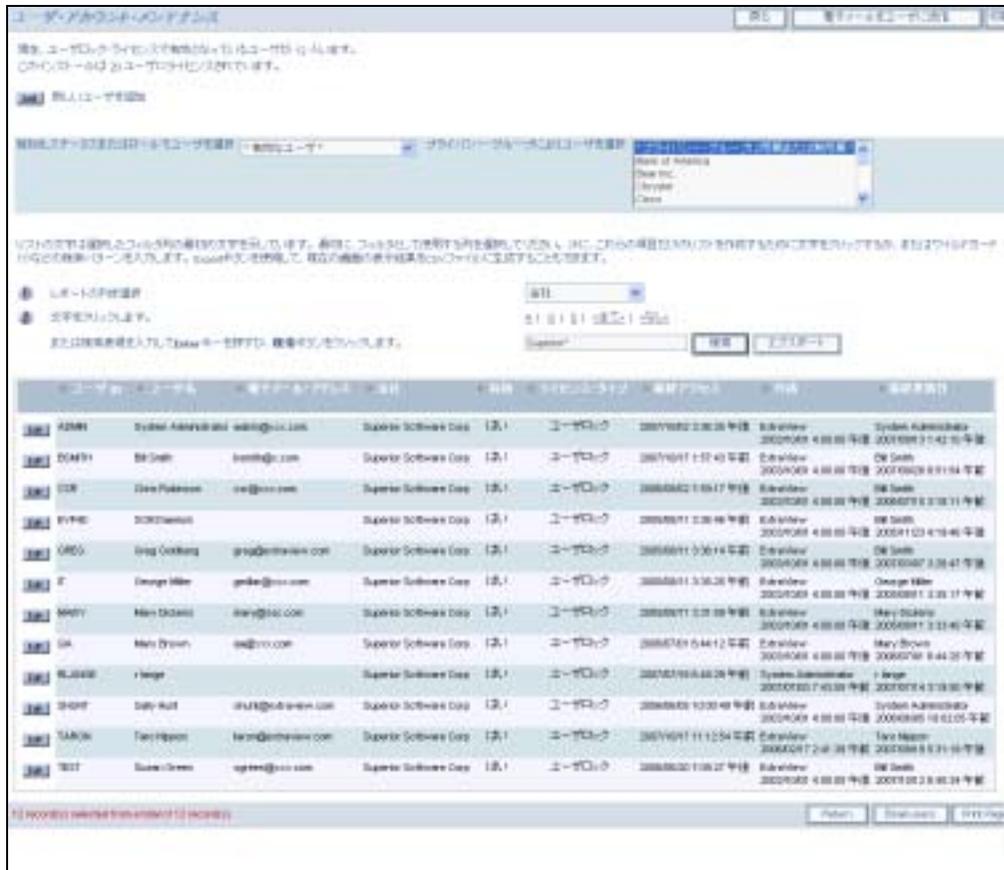
ユーザ・アカウントの編集

ExtraView には、システム内のユーザ・アカウントを簡単に検索して情報を編集できる、多数の機能があります。[Administration] メニューの **[ユーザ]** タブで、**[ユーザ・アカウント]** リンクをクリックします。次の画面が表示されます。



ユーザ・アカウント画面

1. 最初に検索対象を、すべての有効なユーザ(デフォルト)、無効なユーザ、特定のユーザ・ロールに属するユーザのうちから選択します。
2. 最初の選択に基づいて、ユーザ ID、ユーザ名、電子メール・アドレス、有効または無効なユーザ、会社名、アカウントによる最終アクセス日付、作成日付、または更新日付により検索を行うことができます。
3. ここで検索式を入力し(アスタリスク"*"も使用可)、[検索] ボタンを押すか、またはリストにある文字をクリックします。この操作により、フィルタに一致するすべてのレコードの取得が行われます。



会社名が 'Superior' で始まる会社に所属しているすべてのユーザを検索

- 表示された任意のユーザ・アカウントの [Edit] ボタンをクリックすると、次のような画面が表示されます。

[ユーザの詳細情報を変更]画面

5. 必要に応じてタブのユーザ情報を編集し、[ユーザを更新] ボタンをクリックします。
6. ユーザ・アカウント情報の編集時、ユーザのホームページに追加するレポートを、画面の上から下の順に 3 つまでリストから選択することができます。これらは、パブリック・レポートまたはユーザのパーソナル・レポートから選択できます。

注:ユーザ・アカウントを無効にするには、[ユーザ・ロール/セキュリティ]タブをクリックし、[有効なユーザ]チェックボックスを使用してアカウントを無効化または再有効化します。アカウントを無効にすると、そのユーザはシステムにログインできなくなり、ユーザ ID が [担当者] または [所有者] ピック・リストなどに表示されなくなります。ユーザ・アカウントを再度有効にするには、[ユーザ・アカウント・メンテナンス] 画面の [有効化ステータスまたはロールでユーザを選択] ピックリストから [*無効なユーザ*] を選択します。無効なアカウントを特定したら、[ユーザの詳細情報を変更]画面の [ユーザ・ロール/セキュリティ]タブに表示される[有効なユーザ] チェックボックスを使用します。

ユーザを無効化すると、そのユーザはすべての関係者リストおよびエスカレーション・ルールから削除され、あらゆるモジュール・フィールド値のモジュール所有者から除外されます。ユーザを再度有効化するときは、アカウントの復元の際に ExtraView がライセンス・タイプなど一部の値をリセットしている可能性があるため、正確を期すためにすべての設定を確認する必要があります。

注:動作設定 ENFORCE_DETAILED_USER_INFO を Yes にすると、入力が必要なフィールドが追加されます。これらのフィールドは、システムに自己登録するユーザにさらに詳細な個人情報を入力させる場合に使用します。

注:特定のロールに対するユーザのアクセス権を変更または無効にした場合、変更内容は次回そのユーザがサインオンを行う場合に適用されます。アクセス権を変更したときにすでにユーザがサインオンしていた場合は、サインオフするまで変更内容は適用されません。

注:ユーザは ExtraView から物理的に削除されるわけではありません。これは、ほとんどのユーザは一度 ExtraView を使用すると、issue に対する所有者、担当者、またはその他の役割が割り当てられるためです。データの整合性を保持するために、ExtraView ではその後システムを使用しないユーザを含め、すべてのユーザの詳細情報が必要になります。

注: 関係者リスト、エスカレーション・ルールのエントリ、またはユーザの言語設定を変更した場合、アカウントはただちに更新されます。[キャンセル] を押して変更を元に戻すことはできません。

セッション管理

セッションはユーザごとに、様々な動作設定により管理されます。キーの設定は[システム制御]管理セクションの[セキュリティとセッションの設定]から参照できます。

| 設定名 | 説明 |
|------------------------------|---|
| AUTO_SIGNOFF_ON_USER_EXIT | YES または NO を設定して、ExtraViewで最後のウィンドウを閉じたときにそのユーザをサインオフするか、あるいは別のサイトにナビゲートするかを指定します。NOの場合はセッションのCookieが残され、ユーザはブラウザの[戻る] バックボタンを押して各自のExtraViewセッションに戻ることができます。YESの場合は、ユーザが別のサイトに移動するかExtraViewのウィンドウを閉じると、ユーザのセッションが終了します。 |
| KEEP_FAMILY_SESSIONS_TIMEOUT | この動作設定がNOの場合、ExtraView内で新しいセッションを開くウィンドウには個別に SESSION_EXPIRE_TIME_HOURS に対する値が設定されます。これがYESに設定されると、すべてのウィンドウのすべてのセッションで1つの SESSION_EXPIRE_TIME_HOURS が共有されます。値をNOにすると、サーバではより効率的にメモリが使用されますが、ユーザが非常に多くのウィンドウを開いて操作している場合、個々のユーザにEVセッションの予期しないタイムアウトが発生する可能性があります。 |
| SESSION_EXPIRE_TIME_HOURS | これはフローティング・ライセンスを占有しているアイドル状態のユーザのセッション期限が切れるまでの期間を、時間数で示したものです。ユーザロック・ライセンスを占有しているユーザに対する期限とは異なることに注意してください。それらのユーザのセッション期限は、SESSION_NAME_EXPIRE_TIME_HOURS によって定義されます。USER_EXPIRE_TIME_HOURS に設定された期間の後、ここで設定された期間の前にセッション期限が切れると、ExtraView は ユーザ・データの リストアを試みます。SESSION_EXPIRE_TIME_HOURS で指定された時間を超える |

| | |
|--------------------------------|--|
| SESSION_NAME_EXPIRE_TIME_HOURS | と、データは失われます。この設定値が 1 分未満または 0 の場合、セッション・データはサーバが再起動されるまで永続的に保持されます。そのような設定は推奨されません。 |
| SESSION_WARNING_INTERVAL_SECS | これはユーザロック・ライセンスを占有しているアイドル状態のユーザのセッション期限が切れるまでの期間を、時間数で示したものです。フローティング・ライセンスを占有しているユーザに対する期限とは異なることに注意してください。それらのユーザのセッション期限は、SESSION_EXPIRE_TIME_HOURS によって定義されます。USER_EXPIRE_TIME_HOURS に設定された期間の後、ここで設定された期間の前にセッション期限が切れると、ExtraView はユーザ・データのリストアを試みます。SESSION_NAME_EXPIRE_TIME_HOURS で指定された時間を超えると、データは失われます。この設定値が 1 分未満または 0 の場合、セッション・データはサーバが再起動されるまで永続的に保持されます。そのような設定は推奨されません。 |
| USER_EXPIRE_TIME_HOURS | この設定は SESSION_WARNING_INTERVAL_SECS と連携して機能します。ユーザのアイドル時間がセッション期限切れ前に SESSION_WARNING_TIME_SECS に達すると、画面上に警告メッセージが表示され、まもなくセッション期限切れとなることが通知されます。この警告はセッション期限が切れるまで、SESSION_WARNING_INTERVAL_SECS に設定した間隔で繰り返されます。ユーザがこの間に画面上のフォームをサーバにサブミットする何らかのアクションを実行すると、タイマはリセットされ、ユーザセッションはアクティブな状態に保たれます。設定値を 0 にすると、セッション期限がまもなく切れるという警告メッセージは出力されません。 |
| USER_EXPIRE_TIME_HOURS | ユーザがコンピュータを使用していない期間、ExtraView へのサインインが持続する時間数。ある動作によりユーザがサーバにアクセスすると、ExtraView はそのユーザがまだアクティブであると判断します。ユーザのセッション期限が切れると、ExtraView はユーザに再度サインインするよう要求し、挿入または更新対象のデータのリストアを試み、ユーザが作業していた場所に誘導します。データのリストアは、SESSION_EXPIRE_TIME_HOURS で指定された期限内に限り有効です。そのため SESSION_EXPIRE_TIME_HOURS は常に USER_EXPIRE_TIME_HOURS の値以上に設定すべきです。設定値を 1 分未満または 0 にすると、セッションはタイムアウトしません。 |

ユーザが自動的に ExtraView からサインオフされる条件

ExtraView が自動的にユーザをサインオフする最も一般的な理由は、そのユーザがライセンス有効期限に設定されたタイムアウト時間に達したためです。ユーザロック・ライセンスを持つユーザの場合、この期限は SESSION_NAME_EXPIRE_TIME_HOURS で指定された期間です。フローティング・ライセンスを持つユーザの場合、この期限は SESSION_EXPIRE_TIME_HOURS で設定されます。この期間を超えてユーザがアイドル状態 (要求やフォームをブラウザからサーバに送信していない) にあると、ExtraView はユーザに、再度サインオンした後に操作を続行するよう要求します。

ExtraViewが自動的にユーザをサインオフすると、ユーザは操作を継続するために各自のユーザIDおよびパスワードを再入力するよう要求されます。ユーザがExtraViewによってシステムからサインオフされた場合、管理者が設定したコードにより、警告として「セッションは期限切れまたは削除されました」というメッセージが表示されます。

| 警告コード | 意味 |
|-------|--|
| RC1 | 参照されたセッションはもはや存在しません。最も考えられる理由は、システム管理者が割り当てた時間よりも長く、ユーザがアイドル状態にあったため、自動的にシステムからサインアウトされたことです。この状態は、ユーザが作業している最中に管理者がサーバを再起動することによっても起きる場合があります。 |
| RC2 | ブラウザによって返される cookie がサーバに保持されているセッションの cookie と一致しません。 |
| RC3 | フォアグラウンドでセッションの有効期限が切れました。 |
| RC4 | セッションが管理者によって削除されました。 |
| RC5 | セッション中にユーザの IP アドレスが変更されましたが、これはシステム管理者によって禁止されています。通常、ExtraView はセキュリティ目的で、ユーザの IP アドレスが一定であることを確認する処理を行います。ただし、IP アドレスがなんらかの理由で自動的に変換されるネットワークにユーザが属している場合は、この確認処理を無効にできません。これは、VPNまたはプロキシ・サーバ経由で会社のネットワークにアクセスする場合に多くみられます。 |

ExtraViewはユーザのセッション期限が有効である間はサインオン状態を維持するよう試みますが、その制御が及ばない場合があることに注意してください。ユーザのセッション期限が切れる原因がはっきりしない場合、以下の理由のどれかが原因であることが考えられます。

- ユーザがProxyサーバを使用しているかVPN経由でExtraViewにアクセスしている場合、接続の他の部分で起きたタイムアウトにより早期にセッションが切断されることがありますが、ExtraView はこれを制御できません。
- ユーザが複数のウィンドウやタブをブラウザ内で使用してExtraViewにサインオンしている場合、セッション有効期限は通常、ユーザが最初にサインオンしたセッションから適用されます。
- ユーザがExtraViewにサインオンし、作業中に新しいタブやポップアップ・ウィンドウを作成した後に「親の」ウィンドウまたはタブを閉じると、子のウィンドウやタブが親セッションを追跡できなくなり、その結果正しい有効期限が把握できなくなります。

ユーザロック・ライセンスを持つエンド・ユーザのセッション管理

SESSION_NAME_EXPIRE_HOURS という設定は、ユーザロック・ライセンスの期限切れまでの期間を制御します。定義上は、ライセンス認定という観点からみて、ユーザロック・ライセンスを占有するエンド・ユーザのセッションを自動的に終了させることが絶対に必要であるわけではありません。しかし、あらゆるセッションはサーバのリソースを必要とし、そのリソースには限りがあります。ユーザがサインオフしないまま長い時間が経

過した場合以外に、コンピュータやブラウザがクラッシュした場合にもセッションが保留状態のまま残されることがあります。一定の時間が経過した後、これらのイベントは損失をもたらす、他のユーザにパフォーマンスの低下を与えることがあります。ExtraViewでは、ユーザロック・ライセンスには24時間を設定することを推奨します。それにより、アプリケーション・サーバが正しく構成されていれば、サーバに余計な負担をかけることなく未使用のセッションがクリーンアップされるはずです。

フローティング・ライセンスを持つエンド・ユーザのセッション管理

注:この機能は、ExtraView のフローティング・ライセンスを購入している場合のみ有効になります。ユーザロック・ライセンスを購入している場合は有効になりません。ユーザロック・ライセンスではこの機能は不要であるためです。

この機能により、管理者は現時点でシステムにサインオンしているすべてのユーザを確認することができます。この機能を使用する権限を持つ管理者は、任意にユーザをサインオフさせることが可能です。この権限は、ユーザ数がユーザ・ライセンスの最大数に達している場合に、特定のユーザをサインオフさせて、他のユーザがシステムにアクセスできるようにする場合に必要になります。

アクティビティがない状態のまま個別のユーザのセッションが持続する時間は、動作設定 `SESSION_EXPIRE_TIME_HOURS` で指定されます。この動作設定は、[システム制御] タブの [セキュリティとセッションの設定] 管理メニューで設定できます。管理者はこの時間を調整して、ユーザのセッションの失効、他のユーザが使用可能なライセンスの維持、およびセキュリティのバランスをとります。効率化を図るため、各ユーザの画面に表示されるセッション期限切れ時間は、ExtraView 内部で数分ごとに更新されるだけです。そのため表示されるのはおおよその時間です。

さらに、接続している任意のユーザの IP アドレスを確認することもできます。これは、IP アドレスが何らかの目的で変換されるネットワークでのトラブルシューティングに役立ちます。ExtraView では、[セキュリティとセッションの設定] セクションに、セッション中にクライアント接続で一定の IP アドレスを維持する必要があるかどうかを指定する動作設定があります。これは動作設定 `CLIENT_IP_ADDRESS_CHECK` です。通常これは YES に設定しますが、使用中のサーバがプロキシ・サーバからアクセスされ、個別のユーザの IP アドレスが変更されることがある場合は NO に設定します。

そのほかにも、ユーザが最後に開いているウィンドウを閉じるかブラウザを閉じる場合に、ExtraView が最後に開いているウィンドウになったときの、ExtraView の動作を指定する動作設定もあります。動作設定 `AUTO_SIGNOFF_ON_USER_EXIT` を NO (デフォルト) に設定すると、ExtraView ではサインオンしていることがセッション・クッキーを使用して記憶され、オープン・ライセンスが保持されます。YES に設定した場合は、ユーザがブラウザの [戻る] ボタンを押して(またはその他の方法で)ExtraView セッションに戻るには、新しいライセンスで再度サインオンする必要があります。

レポートに2つのタイムスタンプが表示されていることに注目してください。そのうち1つは、現在のユーザに個別に設定された日付/時間の形式で表示されます。もう1つは拡張された、あいまいでない形式で表示されます。

The screenshot shows a web interface for managing user sessions. At the top, there are buttons for 'Disconnect Users', 'Return', and 'Print Page'. Below the buttons, there is a message in Japanese: 'この画面には、30ユーザーがセッションされています。現在、3つのセッションが選択中です。以下のユーザーは現在のViewに存在していません。詳細を確認したいセッションのIDをクリックして、セッションの所有者グループに属しているか、1つのユーザーID、EduView-管理者# 3480に属するセッションIDとも一致します。' Below this message is a table with columns for 'User ID', 'User Name', 'User Group', 'Session ID', 'Start Time', 'End Time', 'Status', and 'Action'. Three rows are visible in the table, each with a checkbox in the 'Action' column.

| User ID | User Name | User Group | Session ID | Start Time | End Time | Status | Action |
|---------|--------------------------------|-------------------------------------|---|------------|-----------|--------------------------|--------|
| 0900 | Greg Hobbins greg@eduvue.com | Superior Software Corp. 20071017 | 1014.200.2.2007.10.17.11.01.28.000.4080 | Yes | Active | <input type="checkbox"/> | |
| 0300 | Chris Robinson chr@eduvue.com | Superior Software Corp. 20071017 | 1014.200.2.2007.10.17.11.01.58.000.4080 | Yes | Completed | <input type="checkbox"/> | |
| 14000 | Tom Hagan tom.hagan@eduvue.com | Superior Software Corp. 10/17, 2007 | 1014.200.2.2007.10.17.11.46.22.000.4080 | No | Completed | <input type="checkbox"/> | |

At the bottom of the table, there are buttons for 'Disconnect Users', 'Return', and 'Print Page'.

接続しているユーザの管理画面

画面には、**活動状態を保持**というカラムがあります。これは、ユーザのセッションがまだ有効であるか、そして休止状態での有効期限の超過により破棄することが可能であることを示します。この値が **No** である場合、セッションは `USER_EXPIRE_TIME_HOURS` の設定値を超えているものの、まだExtraViewによって強制終了されていないことを示します。ユーザが休止状態であっても、追加または編集の画面にアクセスしている場合、値が **YES** のままである場合があります。それは、`SESSION_EXPIRE_TIME_HOURS` の設定時間に達するまで、サーバがユーザのセッション情報を可能な限り長時間にわたって保持するためです。

ユーザの切断

1. [Administration] メニューの [ユーザ] タブにある [エンドユーザのセッション管理] リンクをクリックします。
2. ExtraView 内のアクティブなセッションから切断するユーザに対応する、チェックボックスをクリックします。
3. **[ユーザを切断する]** ボタンをクリックします。これによって、選択したユーザ・セッションが失効してフローティング・ライセンスが解放され、他のユーザがアクセスに使用できるようになります。

ユーザのサインオン・ログ

管理者はユーザのサインオン・ログによって、ユーザによるすべてのサインオン、サインオフ、および失敗したアクセスを確認できます。サインオン・ログにアクセスすると、フィルタを選択できます。

デフォルトのフィルタを選択すると、前月に行われたすべてのユーザの全エントリのリストが表示されます。あるいはログのエントリ・タイプ (サインオン、サインオフ、失敗したサインオン)、単一のユーザ、または任意の日付の範囲でフィルタをかけることができます。



サインオン・ログ画面でのフィルタの選択

サインオン・ログの例を以下に示します。このリストは、[ログエントリ #]、[日付]、[ユーザID]、[エントリタイプ]、[ログエントリ]、[IPアドレス]、[有効なユーザ]、または [ライセンスされていない有効なユーザ] のうち任意の列によってソートできます。ヘッダをクリックして、列をソートします。矢印は現在ソートに使用されている列を示します。選択されている列をクリックするとレポートが再度ソートされますが、昇順ではなく降順でソートされます。

この [有効なユーザ] 列には、サインオンが行われた時点に接続されているユーザ数が表示され、ExtraView に接続されているユーザ数を継続的に監視できます。これは容量計画に役立ちます。

USERNAME_DISPLAY の動作設定によってユーザIDフィールドの表示が異なる場合がありますため注意してください。この動作設定が POPUP の場合、USERNAME_DISPLAY で設定された形式に従ってユーザIDフィールドに名前を入力するか、フィールドの横にあるボタンをクリックして選択したいユーザ名またはユーザIDを探すための検索機能を使用することができます。

アカウント: test@open ロール: 管理者 ビジネスエリアとグローバルメンバーシップと不具合をすべて

ユーザーサインオンログ 戻る ページを印刷

リストの文字は選択したフィルタリングの適用された行を示しています。最初、フィルタリングして使用する列を選択してください。次に、これらの項目向けのリストを作成するためのフィルタリングなどの検索パラメータを入力します。SuperFusionを使用して、現在の画面の表示結果をCSVファイルに生成することもできます。

① レポートの行を選択 ログをリロード

② 文字を入力します。 21111111

または検索条件を入力してEnterキーを押すか、Goをクリックします。 検索条件を入力してください 検索 エクスポート

| タイムスタンプ | 日時 | ユーザー名 | タイプ | ログエントリ | IPアドレス | 実際のユーザー | ライセンスID |
|---------|-------------------|-------|---------------|------------------------|-----------------|---------|---------|
| 21187 | 20060514 14:08:04 | TARON | System Signon | Success | 203.218.123.136 | 1 | 0 |
| 21188 | 20060514 14:08:04 | TARON | System Signon | Success | 203.218.123.136 | 1 | 0 |
| 21189 | 20060514 14:08:04 | TARON | System Signon | Success | 221.117.221.38 | 1 | 0 |
| 22800 | 20060515 14:08:04 | TARON | System Signon | Success | 221.117.221.38 | 1 | 0 |
| 22801 | 20060515 14:08:04 | TARON | System Signon | Success | 221.117.221.38 | 1 | 0 |
| 22812 | 20060515 14:08:04 | TARON | System Signon | Success | 221.117.221.38 | 1 | 0 |
| 22817 | 20060515 14:08:04 | TARON | System Signon | Failed to sign on user | 221.117.221.38 | 1 | 0 |
| 22822 | 20060515 14:08:04 | TARON | System Signon | Success | 221.117.221.38 | 1 | 0 |
| 22827 | 20060515 14:08:04 | TARON | System Signon | Success | 221.117.221.38 | 1 | 0 |
| 22831 | 20060515 14:08:04 | TARON | System Signon | Success | 221.117.221.38 | 1 | 0 |
| 22837 | 20060515 14:08:04 | TARON | System Signon | Success | 221.117.221.38 | 1 | 0 |
| 22842 | 20060515 14:08:04 | TARON | System Signon | Failed to sign on user | 221.117.221.38 | 1 | 0 |
| 22847 | 20060515 14:08:04 | TARON | System Signon | Success | 221.117.221.38 | 1 | 0 |
| 22852 | 20060515 14:08:04 | TARON | System Signon | Success | 221.117.221.38 | 1 | 0 |
| 22857 | 20060515 14:08:04 | TARON | System Signon | Success | 221.117.221.38 | 1 | 0 |
| 22862 | 20060515 14:08:04 | TARON | System Signon | Success | 221.117.221.38 | 1 | 0 |
| 22867 | 20060515 14:08:04 | MARY | System Signon | Success | 221.117.221.38 | 2 | 0 |

[ExtraView サインオン・ログ]

サインオン・ログの増大に対して制限がない場合には、ログが長期にわたって膨大なサイズに増大し、価値のなくなった情報が保持される可能性があります。SYSTEM_LOG_EXPIRE_TIME_DAYS という動作設定により、情報がログに保持される期間が制御されます。この期間のデフォルトは30日間ですが、管理者により変更することができます。ExtraView 内部のシステム・タスクによって、設定期間より古いサインオン・ログ・メッセージは一時間おきに削除され、非常に長い時間を要するタスクが蓄積されないようにしています。

権限のないアクセス

ユーザが繰り返しサインオンを試みて失敗すると、ExtraView ではセキュリティ対策としてそのユーザのアカウントを無効にします。この機能の設定は、管理画面の[システム制御] タブの [セキュリティとセッションの設定] メニューで行います。

| 動作設定 | デフォルト値 | 説明 |
|-------------------------|--------|--|
| [MAX_SIGNON_ATTEMPTS] | 3 | 個別のユーザが連続してサインオンを試みることができる最大回数。これを超えると、そのユーザのアカウントが無効になります。許可される失敗の回数は、SIGNON_PERIOD_MINUTES で定義される期間内で測定されます。 |
| [SIGNON_PERIOD_MINUTES] | 5 | パスワードが無効であるためにユーザがサインオンに失敗した場合は、この期間内に MAX_SIGNON_ATTEMPTS で設定されている回数までサインオンを試みることができます。 |

ユーザのアカウントが無効になると、システム管理者に電子メールで通知されます。あるユーザが特定の IP アドレスから、上記の設定に基づいて同じアドレスから繰り返しサインオンを試み失敗した場合にも、システム管理者に通知されます。

ユーザが ADMIN のユーザ ID を使用してサインオンを試みると、MAX_SIGNON_ATTEMPTS は内部的に、動作設定で指定された値の2倍の値に設定されます。これは、ADMIN アカウントが無効となり、再度有効にできなくなった場合に、重大な保守上の問題となる可能性があるためです。したがって、ExtraView は ADMIN アカウントを無効にするまでのサインオンの試行を何回か余分に認めています。セキュリティ上の見地から、サインオンの試行が無限に可能ではないようにしています。

動作設定 CUSTOM_AUTHENTICATION が YES に設定されている場合、サインオンの試行が繰り返し失敗した場合にもユーザのアカウントは無効にされません。LDAP サーバなどのカスタム認証方法によってユーザのアカウントが無効にされることが想定されるため、2箇所であカウントを無効にする必要はないからです。

通知に関する設定は、[電子メール通知] の [電子メールの設定] メニューで行います。次の設定があります。

| 動作設定 | 説明 |
|-------------------------------|--|
| [EMAIL_ADMINISTRATOR_NAME] | ExtraView 管理者の電子メール・アドレスまたはエイリアス。ExtraView で自動的に作成される電子メールは、この名前が送信元になります。例としては、ユーザの自己登録時、または権限のないアクセス時に送信される電子メールなどがあります。 |
| [EMAIL_ADMINISTRATOR_USER_ID] | ExtraView から送信される電子メールの、送信先電子メール・アドレス。通常、これは、管理者の電子メール・アドレスまたは管理者のエイリアスになります。 |

ユーザ・アクセスの有効化/無効化

例えば、新しい画面レイアウトまたはビジネス・ルールを作成する場合、あるいは多数の issue の一括更新を行う場合などに、管理者が ExtraView に対するユーザのアクセスを禁止することがあります。この要求に効率的に対応するために、[Administration]メニューの [ユーザ] から [ユーザ・アクセスの有効化/無効化] 機能を使用できます。



ユーザ・アクセスの有効/無効の切り替え

この機能を使用すると、管理者には現在サインオンしているすべてのユーザのリストが表示され、アクティビティのレベルを把握することが可能です。

ここでは、サインオンしたときにユーザに表示されるメッセージを定義できます。このメッセージには、サービスの復旧予定を含めることを推奨します。

システムを無効にすると、その旨の確認メッセージが表示されます。管理者がアクセスを再度可能にするまで、エンド・ユーザのアクティビティは禁止され、サインオンを試みると、定義したメッセージが表示されます。

その間も、動作設定 ADMIN_OVERRIDE_ROLE で定義されたグループのメンバーである管理者には、アクセスが許可されます。

この機能へのアクセスは、セキュリティ・キーによって制御されます。このセキュリティ・キーは CF_ENABLE_DISABLE_USER_ACCESS です。

注: ADMIN_OVERRIDE_ROLE のメンバーである管理者以外には、この機能の使用を許可しないようにしてください。

セキュリティ権限の付与

この設定によって、管理者はユーザの動作のあらゆる側面を含め、すべてのフィールドと画面に対するアクセス権を変更できます。入力した値は [フィールドとレイアウト] 管理タブに複製され、内容が表示されます。この機能の詳細については、[フィールドとレイアウト] セクションの記載を参照してください。

ユーザ設定

このエリアには、[Administration]メニューの[ユーザ]タブの[ユーザ設定]リンクからアクセスできます。動作設定は、ユーザの使用状況とユーザ情報の表示に関する内容について行います。可能な設定とその説明を次に示します。

| [ユーザ]メニュー | [ユーザ設定] | 標準的な値 | 説明 |
|------------------------------------|---------|-------|--|
| [ALLOW_PASSWORD_CHG_AT_SIGNO N] | | YES | この設定では、ユーザ・サインオン画面の [パスワードを変更] リンクの表示を制御します。値を YES にするとリンクが表示され、値を NO にするとリンクが非表示になります。また [LDAP_USER_LOOKUP] の設定が YES の場合もリンクが使用不可になります。 |
| [CONTACT_ADMINISTRATOR] | | NO | <p>この設定が YES の場合、サインオン・ページに「パスワードをお忘れですか?」というデフォルト・メッセージと共にプロンプトが表示されます。このリンクが押下されると、EMAIL_ADMINISTRATOR_USER_ID という動作設定で定義されたユーザに対して <i>mailto</i> が起動し、ユーザがメッセージを送信することができます。設定が NO の場合、プロンプトは表示されません。</p> <p>この機能は、アジア言語の文字セットやヨーロッパのアクセント記号付き文字では、一部のメール・クライアントにおいて正しく機能しない可能性があります。<i>mailto</i> プロトコルでは RFC-2047 規格に基づいて、件名と本文での非 ASCII 文字の使用を許可していますが、この手法は多くのメール・クライアントでは正しく実装されていません。現時点では、規格に完全に準拠していると思われるメール・クライアントは Mozilla Thunderbird です。Microsoft Outlook、Netscape Communicator または Eudora では、この規格が正しく、あるいは完全には実装されていないと思われる。</p> <p>RFC-2047 では、<i>mailto</i> プロトコル URI に対して件名および本文 (およびその他のヘッダ・フィールド) の文字セットを指定することを認めています。ExtraView が使用する文字セットは、EMAIL_CHARACTER_SET 動作設定で指定された文字セット、またはそれが指定されていない場合は UTF-8 です。</p> <p>RFC-2047 がこれらのフィールドに対して有効となるのは、7 ビット印刷が可能でない ASCII が件名および/または本文のフィールドに現れている場合のみです。したがって、ダブルバイト文字またはヨーロッパのアクセント記号付き文字がこれらのフィールドに存在する場合、フィールドはエンコードされます。ExtraView はすべての場合において "B" (base64)エンコードを使用して、非 ASCII 文字を送信します。</p> |

| | | |
|----------------------------------|------------|---|
| [ENABLE_PRIVACY_GROUPS] | YES | プライバシー・グループ機能のオン/オフを切り替えます。有効な値は YES と NO です。NO に設定すると、ユーザ管理画面でユーザのプライバシー・グループの設定、つまりプライバシー・グループの作成および保守ができなくなります。 |
| [ENFORCE_DETAILED_USER_INFO] | NO | ユーザ・アカウント画面の必須フィールドにフィールドが追加されます。有効な値は YES と NO です。 |
| [IGNORE_DEACTIVATED_USER_FIELDS] | ORIGINATOR | 区切り記号を含む、表示タイプが USER のフィールドのリスト。このリストにある、非アクティブ化されたユーザがいるフィールドを含む issue を編集しても、ユーザに警告は出されません。このリストに表示されていない USER フィールドに非アクティブ化されているユーザがいる場合は、issue を編集する場合にユーザに警告が出されます。 |
| [OMITTED_IMPORT_USER_COLUMNS] | | security_user というテーブル内の列名のカンマ区切りリスト。XML エクスポート・ファイルを作成した場合、ここに表示された列のリストが除外され、ExtraView の別のインスタンスにインポートされません。したがって SECURITY_PASSWORD など、ユーザによって頻繁に変更されるフィールドは、データのインポート時には上書きされません。 |
| [USER_DEFINED_START_PAGE] | YES | YES に設定すると、ユーザは ExtraView へのアクセス時に、ホームページ、[Issue を追加] 画面、または [検索/レポート] 画面など、よく使用するページを開始ページとして設定できます。これは各ユーザのパーソナル設定ページで設定されます。 |
| [USERNAME_DISPLAY] | FIRST | 選択可能なユーザ名 (ID、FIRST、LAST) が表示されます。例えば、ユーザの名前が Mary Smith でユーザ ID が msmith である場合、ID には msmith、FIRST には Mary Smith、LAST には Smith, Mary と表示されます。 |
| [USER_ADMIN_DISPLAY_COLUMNS] | | ユーザ・アカウント管理画面に表示されるフィールドのデフォルトのリストは、ユーザ ID、ユーザ名、電子メール・アドレス、会社、有効/無効、ライセンス・タイプ、最終アクセス日、作成日、最終更新日です。このリストを変更したい場合は、security_user データベース・テーブルのこの設定にフィールドのリストを置くことができます。画面に配置できる有効なフィールドは、以下の中から選択されます。 |
| | | SECURITY_USER_ID LAST_NAME FIRST_NAME JOB_TITLE WORK_TELEPHONE HOME_TELEPHONE CELL_PHONE |

FAX
PAGER
COMPANY_NAME
ADDRESS_LINE1
ADDRESS_LINE2
CITY
STATE
POSTAL_CODE
COUNTRY
ENABLED_USER
PASSWORD_EXPIRY_DATE
LAST_ACCESS_DATE
EMAIL
EMAIL_FORMAT
LANGUAGE
DATE_FORMAT
RECORDS_PER_PAGE
NOTIFY_ON_OWN_UPDATES
DATE_CREATED
LAST_DATE_UPDATED
LAST_UPDATED_BY_USER
CREATED_BY_USER
DRILLDOWN_REPORT
VARIANT
AREA_ID
PROJECT_ID
TWENTY_FOUR_HOUR_TIME
HTTP_CHARSET
REGION
CHART_FONT
STYLESHEET
MS_OFFICE_CHARSET
FILE_ATTACH_CHARSET
EMAIL_CHARSET
PASSWORD_INTERVAL
USER_FIELD_1
USER_FIELD_2
USER_FIELD_3
USER_FIELD_4
USER_FIELD_5
ADDITIONAL_EMAIL
EMAIL_ON
ADDITIONAL_EMAIL_ON

このほかに、以下の2つの「擬似カラム」が選択可能です。

DISPLAY NAME – ユーザのフルネーム (姓と

| | | |
|--------------------------|------|--|
| [USER_LIST_DISPLAY] | LIST | <p>名前) LICENSE_CONSUMER – ユーザが占有しているライセンスのタイプ</p> <p>POPUP または LIST と表示されます。POPUP の場合は、ユーザはポップアップ・ウィンドウから issue を追加および更新します。LIST の場合は、ユーザ名は選択したリストに表示されます。一般的に、多数のユーザがいる場合は、POPUP を使用します。</p> |
| [USER_POPUP_COLUMNS] | | <p>ユーザ検索ポップアップ・ウィンドウに表示されるフィールドは、この設定を使用して構成可能です。この設定では security_user テーブルからフィールドのリストを取得 (スキーマ・カラム名を使用) し、それをユーザに示します。この設定に値が提供されていない場合は、ユーザ ID、名前、電話番号、電子メールアドレス、会社名、ポケットベルおよび携帯電話の番号の各フィールドが表示されます。security_user テーブルにある、以下のカラムの中から選択できます。</p> <p>USER_ID DISPLAY_NAME PHONE EMAIL COMPANY_NAME PAGER MOBILE USER_DEFINED_1 USER_DEFINED_2 USER_DEFINED_3 USER_DEFINED_4 USER_DEFINED_5</p> |
| [USER_SELF_REGISTRATION] | YES | <p>ユーザに自己登録を許可するか、管理者が登録を行うことができます。Yes に設定すると、サインオン画面にプロンプトが表示され、ユーザが ExtraView のユーザとして自己登録できるページに移動できます。この方法で登録したユーザには、LIMITED_USER_ROLE という動作設定で定義されたユーザ・ロールの権限だけが与えられ、アカウントにはユーザ・ロールが設定されません。ユーザが自己登録を行うと、[電子メール通知] 管理メニューの [電子メールの設定] での定義に従って、電子メール通知が管理者に送信されます。</p> |

プライバシー・グループ

プライバシー・グループは、issue が属するプライバシー・グループのメンバー以外のユーザについて、issue の表示を制限するものです。

例えば、会社に 6 つの部門があり、ExtraView を使用して issue のレポートを行っているとして、ここで他の部門と共有されない、各部門のプライベート issue をレポートする構造を設定する場合があります。最上位のレイヤには、issue の作成元の部門に関わらずすべての issue へのアクセスが可能な、管理または監督機能が配置されます。この機能は、ExtraView で部門ごとのプライバシー・グループを設定することで実行されます。それにより、部門の各メンバーが自身の部門(プライバシー・グループ)の issue だけにアクセスを制限されるとともに、管理機能からはすべてのプライバシー・グループにアクセスできるようになります。

ExtraView のインスタンスでプライバシー・グループを有効にするには、動作設定 `ENABLE_PRIVACY_GROUPS` を使用します。この動作設定は、[ユーザ] 動作設定メニューで行います。

注: `ENABLE_PRIVACY_GROUPS` を `NO` に設定すると、issue のマーキングは `PUBLIC` または `PRIVATE` だけになります。`ENABLE_PRIVACY_GROUPS` を `YES` に設定すると、issue は `PUBLIC`、`PRIVATE`、または作成したプライバシー・グループのメンバーとしてマーキングされます。プライバシー・グループのメンバーの場合は、次のセクションで説明するように、`PUBLIC` および `PRIVATE` のいずれかまたは両方をリストから削除することができます。

注: `ENABLE_PRIVACY_GRP_OVERRIDE` という動作設定があります。この値を `YES` に設定すると、内部ユーザは `PRIVACY` フィールドの値にかかわらずすべての issue を参照することができます。内部ユーザとはユーザ個人の会社名が、`COMPANY_NAME` という動作設定で定義された会社名と同一であるユーザです。`NO` に設定すると、issue が割り当てられているプライバシー・グループのメンバーである場合のみ、その issue を参照できます。

プライバシー・グループに関連する issue の処理についての詳細なルールを次に示します。

- **プライベート issue。** issue がプライベート issue としてマーキングされると、ユーザ・アカウントの会社名の設定が動作設定 `COMPANY_NAME` と同じであるユーザだけが、issue の表示と更新を行うことができます。[Issueを追加] 画面にプライバシー・フィールドが表示されない場合、ExtraView では [プライバシー] フィールドが、データ辞書(通常 `PRIVATE`)で指定されたデフォルト値に自動的に設定されます。デフォルト値がない場合は、ExtraView では値が `PRIVATE` に設定されます。個別のフィールド、画面、機能のセキュリティ権限設定が引き続き適用されます。特定の状況では、動作設定 `ENABLE_COMPANY_NAME_ACCESS` が、この動作に優先する場合があります。詳細については、本書の会社名のセキュリティに関するセクションを参照してください。
- **パブリック issue。** issue がパブリック issue としてマーキングされると、有効なアカウントを持つユーザは issue の表示と更新が可能になります。レコード全体または個別のフィールドを表示および更新できる特定の許可は、各オブジェクトのセキュリティ権限に従って与えられます。
- **プライバシー・グループ内の issue。** ユーザとしてレコードを表示および更新するには、特定のプライバシー・グループのメンバーになる必要があります。この場合も、すべてのオブジェクトに関するセキュリティ権限が適用されます。

PUBLIC および PRIVATE の表示設定(任意)

プライバシー・グループを使用する場合には、PUBLIC および PRIVATE で入力した値が追加、編集、検索の各画面の選択リスト・ボックスにも表示されるかどうかを設定できれば便利です。

例えば、あるプライバシー・グループが例外なくすべての issue で選択されるように設定するとします。

その場合は、次のようにセキュリティ権限キーを設定します。これらの設定は、標準的なセキュリティ権限方法で、ExtraView 内の各ユーザ・ロールに対して設定できます。

| セキュリティ権限キー | 説明 |
|---|---|
| PR_ADD_PROBLEM.SHOW_PRIVATE_IN_PRIVACY_LIST | このセキュリティ・キー書き込み許可は、追加画面の [プライバシー] フィールドの選択リストで Private を設定するために必要です。このキーを N に設定すると、ユーザ・ロールで各 issue をプライベート issue としてマーキングできません。 |
| PR_ADD_PROBLEM.SHOW_PUBLIC_IN_PRIVACY_LIST | このセキュリティ・キー書き込み許可は、追加画面の [プライバシー] フィールドの選択リストで Public を設定するために必要です。このキーを N に設定すると、ユーザ・ロールで各 issue をパブリック issue としてマーキングできません。 |
| PR_RESOLUTION.SHOW_PRIVATE_IN_PRIVACY_LIST | このセキュリティ・キー書き込み許可は、issue の編集画面および検索画面にある [プライバシー] フィールドの選択リストで Private を設定するために必要です。このキーを N に設定すると、ユーザ・ロールで各 issue をプライベートまたは検索済みの issue としてマーキングできません。 |
| PR_RESOLUTION.SHOW_PUBLIC_IN_PRIVACY_LIST | このセキュリティ・キー書き込み許可は、issue の編集画面および検索画面にある [プライバシー] フィールドの選択リストで Public を設定するために必要です。このキーを N に設定すると、ユーザ・ロールで各 issue をパブリックまたは検索済みの issue としてマーキングできません。 |

新しいプライバシー・グループの作成

[Administration] メニューの[ユーザ] タブで、[プライバシー・グループ] ボタンをクリックします。



[Administration]メニュー画面

次のような画面が表示されます。



[プライバシー・グループ]画面

新しくプライバシー・グループを作成するには、[Add] ボタンをクリックします。

次の画面が表示されます。



新規グループ追加画面

データベース名(スペースまたは特殊文字は使用しない)と表示名を入力します。フィールドに関係者リストが許可されている場合、任意でこの値に対して関係者リストを作成してからユーザを追加することができます。準備ができたなら、[追加] ボタンをクリックして新しい値を作成します。

プライバシー・グループが作成されると、管理者ユーザは [ユーザの詳細を変更] 画面で適切なチェック・ボックスを選択して、個々のユーザをグループに割り当てることができます。



[ユーザの詳細を変更] 画面とプライバシー・グループ

ユーザ・ロール

ユーザ・ロールは、会社または外部ユーザによる、ExtraView を使用する機能別チームを表します。ユーザ・ロールは、各ユーザに表示および実行を許可する限度に応じて割り当てられた、特定の権限です。ユーザ・ロールとしては次のようなものがあります。

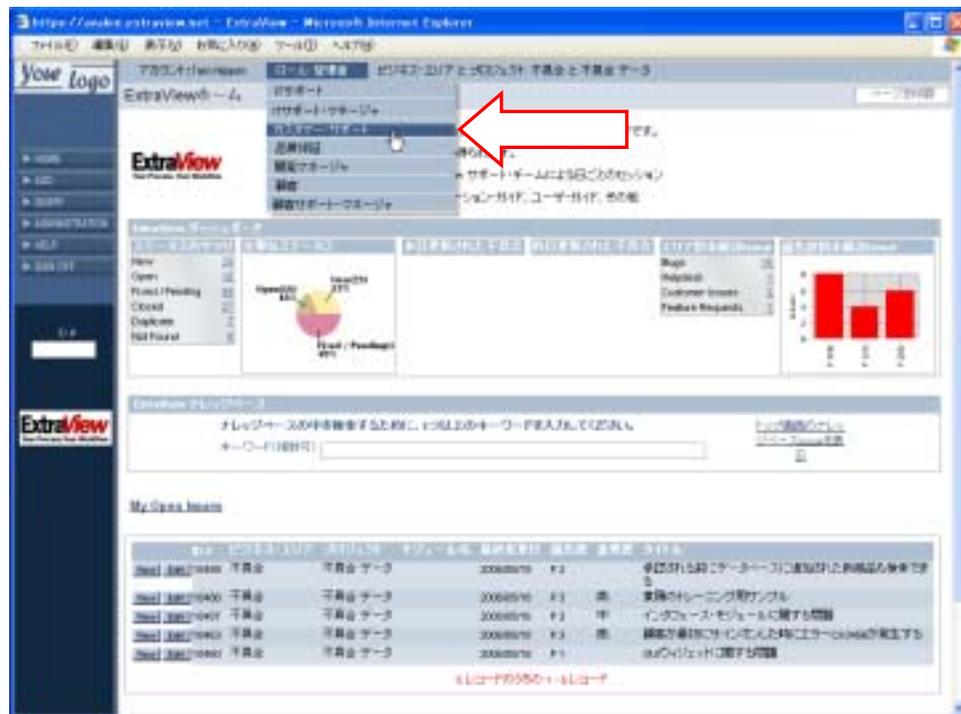
- 管理者
- 顧客
- エンジニア

- 品質保証
- マネージャ

ExtraView システム内には、ユーザ・ロールを無制限に設定できます。新しいユーザ・ロールを作成して、いつでも追加することが可能です。個々のユーザが属することができるユーザ・ロールの数も、無制限に設定できます。複数のユーザ・ロールに属する権限を与えられたユーザには、現在のロールを示すリンクが画面のタイトル・バーに自動的に表示されます。リンクを選択することで、ロールを変更することができます。ユーザは、issue の追加/編集プロセス、またはレポートの準備プロセスでは各自のロールを変更できません。ここでロールを変更すると、許可の内容が大幅に変わり、予期しない動作が起きる可能性があるためです。

現在のユーザ・ロールの変更

ユーザは複数のロールに属している限り、ロールを変更することが可能です。これによりユーザはシステム内での立場を変えることができます。選択したロールに応じて、実行できる機能も異なります。例えば、1人のユーザが *Administrator* と *QA Engineer* の両方のロールを持つことができます。



ホーム・ページ画面

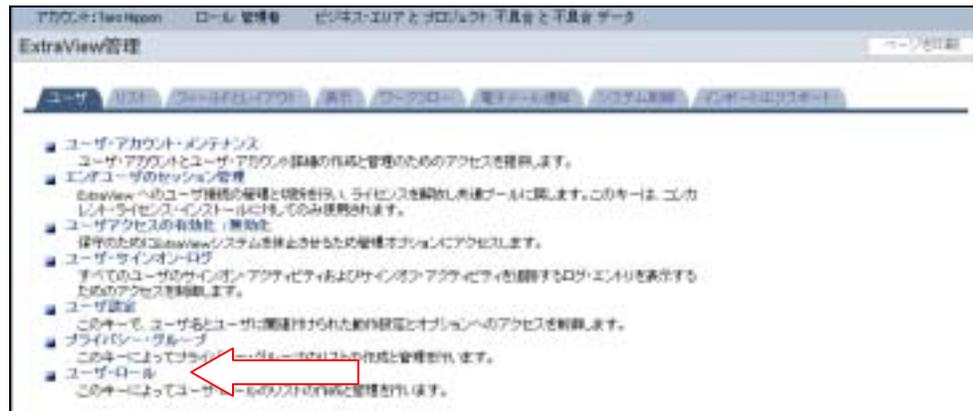
1. 現在のロールを変更するには、[ロール:] というラベル、またはメイン・ウィンドウのメニュー・バーに表示されている現在のロールをクリックします。
2. 目的のロールの名前をクリックして選択します。これでユーザのロールが変更され、変更内容が権限に反映されます。左のナビゲーション・バーにあった一部のボタン

が消えたり、追加/編集画面でフィールドが表示されなくなったり、画面によってはボタンやフィールドが追加される場合があります。これはロールの変更によるものです。

3. 現在所属しているロールを変更すると、ExtraView では、そのロール用にカスタマイズされたさまざまな画面やレポートが自動的に表示されます。

ユーザ・ロールの追加

1. [Administration] メニューの [ユーザ] タブにある [ユーザ・ロール] をクリックします。



管理画面

2. [ユーザ・ロール] 画面で [Add] ボタンをクリックします。



ユーザ・ロールのサマリ画面

1. 固定データベース名を入力し、タイトルとして使用する名前に関連する名前にします。
2. すべての画面やレポートに表示させるタイトルを入力します。

3. 既存の別のユーザのロールからセキュリティ権限を複製するか、またはここでは最初の選択肢である [* 権限を与えない *] を選択しておき、[セキュリティ権限の付与] で独自にセキュリティ権限を設定します。ユーザのロールの複製は、既存のロールに類似したロールを新たに作成する場合に便利です。権限を複製した場合は、[セキュリティ権限の付与] 画面で、新しいロールに必要な変更を加えることができます。

ユーザのロールの追加画面

4. 終了したら [追加] ボタンをクリックします。

会社名のセキュリティ

管理画面の [システム制御] タブにある[会社情報の設定] に、COMPANY_NAME という設定があります。ExtraView では、この設定がメインの会社名として認識されます。したがって、COMPANY_NAME に対応するフィールドの値と異なる会社名で新しいユーザが追加されると、同じ会社のユーザによって提示された PRIVATE issue を見ることはできません。この機能は、特にシステムを利用している顧客に対して、issue の表示について限定された権限だけを与える場合に有益です。

ユーザまたは顧客に ExtraView への自己登録を許可している場合は、ExtraView にサインオンすると、LIMITED_USER_ROLE として入力されているユーザのロールに、各自が自動的に割り当てられます。LIMITED_USER_ROLE は [ワークフローの設定] 管理メニューで設定します。このグループは通常、最小のユーザ権限を持ちます。このロールに割り当てられたユーザは、システム管理者によってさらに 1 つまたは複数のロールに割り当てられるまで、PUBLIC レコードだけを表示できます。

[新しいユーザを追加] 画面

注:会社名をセキュリティとして使用している場合に、あるユーザが 1 つの会社から別の会社に移り、管理者が新しい会社名でそのユーザのレコードを更新すると、移動したユーザが元の会社で入力した issue が、新しい会社に属するすべてのユーザに表示されてしまいます。これを防ぐには、新しいユーザに新しい会社の新しいユーザ ID を与えるか、または元の issue をすべて確実に更新して、移動したユーザが参照できないようにする必要があります。

注:ユーザ ID *admin* でサインオンする場合は、会社名によるセキュリティはバイパスされます。*admin* ユーザはすべてのレコードを参照することが可能です。

注: ENABLE_PRIVACY_GRP_OVERRIDE という動作設定があります。この値を YES に設定すると、内部ユーザは PRIVACY フィールドの値にかかわらずすべての issue を参照することができます。内部ユーザとはユーザ個人の会社名が、COMPANY_NAME という動作設定で定義された会社名と同一であるユーザです。NO に設定すると、issue が割り当てられているプライバシー・グループのメンバーである場合のみ、その issue を参照できます。

issue の会社名とプライバシー

[Administration]メニューの [システム制御] タブにある[会社情報の設定] には、issue のプライバシーと異なる会社の異なるユーザとの相互関係を制御する動作設定があります。これは ENABLE_COMPANY_NAME_ACCESS という動作設定です。これを YES に設定すると、同じ会社名を持つ異なるユーザが、その会社の任意のメンバーが入力したすべての issue を見ることができます。この設定は、PRIVATE のプライバシー設定に優先します。ENABLE_COMPANY_NAME_ACCESS を NO に設定すると、プライバ

シー設定が動作設定に優先し、すべての issue が厳密に PRIVATE に維持されます。詳細についてはプライバシーに関するセクションで説明します。

一般にこの設定は、顧客に対して ExtraView へのアクセスを許可し、顧客の任意のメンバーが、他のメンバーが入力したすべての issue を見ることができるようにする場合に使用します。

注: ユーザ自身が作成した issue については、会社名に関わらずいつでも見ることができます。

COMPANY_OVERRIDE_FIELDS という動作設定があります。これには、表示タイプが User であるフィールドの名前がカンマ区切りでリストされています。これらのフィールドはデータ辞書に存在していなければなりません。またこれらのフィールドには、会社名セキュリティ機能が働くユーザが含まれます。デフォルトでは、会社名セキュリティは作成者フィールドに対してのみ働きます。設定により、この機能を他のフィールドにも拡張することができます。

この機能の使用例を以下に示します。

COMPANY_NAME を *Host Company* に設定します。これは ExtraView サイトのホストです。issue が会社 A のユーザにサブMITされたとします。会社 A のユーザは、issue の作成者であるため、この issue を参照することができます。

issue はすべての *Host Company* ユーザに可視となります。デフォルトの会社名セキュリティにより、すべての issue が参照できるようになっているからです。*Host Company* ユーザは、issue の所有者に設定されています。そしてこの issue を、*Host Company* ユーザでも会社 A のユーザでもないユーザに割り当てたいとします。

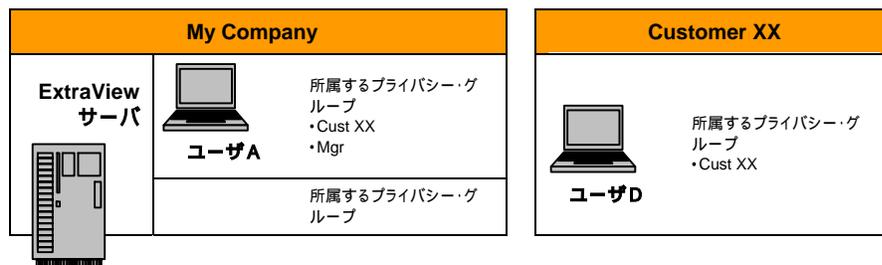
例えば、会社 B という会社のメンバーであるユーザに issue を割り当てたいとします。

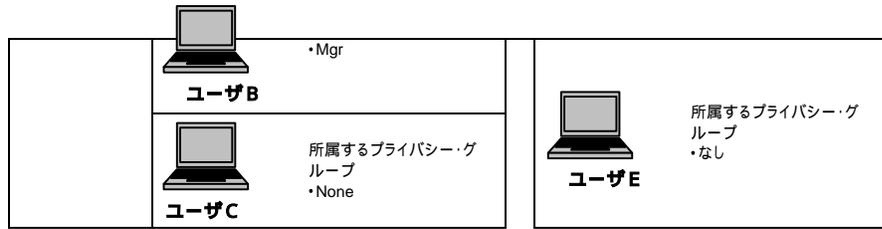
これを実現するには、最初に会社 A のユーザにより作成された issue を、issue の割り当て先である会社 B のユーザが参照できるように会社名セキュリティを拡張します。会社 B のユーザは、会社 A のユーザが作成した他の issue も、*Host Company* ユーザが作成した他の issue も見ることができません。会社 B のユーザは、他の issue の担当者 (ASSIGNED_TO) ではないからです。

会社名とプライバシー・グループ

[ENABLE_COMPANY_NAME_ACCESS] で設定する会社名によるセキュリティとプライバシー・グループによるセキュリティは、ExtraView の別個の機能ですが、組み合わせで使用することもできます。次の例で、会社名によるセキュリティとプライバシー・グループの、動作と相互関係を示します。

プライバシー・グループの例





issue のプライバシー

- [COMPANY_NAME] 動作設定は *My Company* に設定
- [ENABLE_COMPANY_NAME_ACCESS] は YES に設定
- [ENABLE_PRIVACY_GROUPS] が有効
- *Cust XX* and *Mgr* というプライバシー・グループを作成

ユーザ A

- ユーザ A は *My Company* の従業員 (ユーザ画面の上の会社名は *My Company* に設定)
- プライバシー・グループ *Cust XX* のメンバー
- プライバシー・グループ *Mgr* のメンバー

ユーザ B

- ユーザ B は *My Company* の従業員
- プライバシー・グループ *Mgr* のメンバー

ユーザ C

- ユーザ C は *My Company* の従業員
- いずれのプライバシー・グループにも属さない

ユーザ D

- ユーザ D は *Customer XX* の従業員で、*My Company* の ExtraView へのアクセス権限が与えられている
- プライバシー・グループ *Cust XX* のメンバー

ユーザ E

- ユーザ E は *Customer XX* の従業員で、*My Company* の ExtraView へのアクセス権限が与えられている
- いずれのプライバシー・グループにも属さない

どのユーザがどこまで issue を見ることができるでしょうか。次の表は、異なるプライバシー・グループで作成された issue と、それらの issue を見ることができるユーザを示しています。「Y」は、該当する issue をそのユーザが見ることができることを示します。プライバシー・フィールドの表示や変更が可能なユーザは、セキュリティ権限設定とデフォルト設定によって指定できます。

| | My Company | | | Customer XX | |
|-------------------|------------|-------|-------|-------------|-------|
| プライバシー・グループ - ユーザ | ユーザ A | ユーザ B | ユーザ C | ユーザ D | ユーザ E |
| PUBLIC | Y | Y | Y | Y | Y |
| PRIVATE | Y | Y | Y | - | - |
| Cust XX | Y | - | - | Y | - |
| Mgr | Y | Y | - | - | - |

この場合、issue を作成したのがユーザ D またはユーザ E であり、issue が PRIVATE のままである場合は、上記のシナリオのすべてのユーザが issue を参照できます (ただしその他の会社に属するユーザは参照できません)。これは、[ENABLE_COMPANY_NAME_ACCESS] が YES に設定されていることによります。

管理ユーザ・ロールの階層を作成する

規模の大きい組織では、複数の管理者を任命して、それぞれに特定の管理機能のみのアクセスを与えるか、特定のビジネス・エリアの特性を変更するアクセスのみを与えることが有用であることがあります。例えば、新しいユーザの追加およびそれらのユーザの設定やオプションの変更のみを行うことができる準管理者的な役割を作成したいと考えるかもしれません。

ユーザ・ロールの階層を作成するには、以下の手順に従ってください。:

- *admin* ユーザ・ロールを持つユーザで、管理画面に入り、[ユーザ] タブで新しいユーザ・ロールを作成します。既存の *Administrator* ロールから権限の初期設定をコピーすることができます。
- 管理画面の[フィールドとレイアウト]タブの [セキュリティ権限の付与]を使用して、作成した新しいロールの管理者権限を変更します。[* すべての管理オプション キー *] という一般カテゴリを使用して、管理機能へのアクセスを制御するすべてのキーを表示します。
- アクセス権の制限および付与が可能であることを覚えておいてください。

リスト管理

概念

リスト管理は、ExtraView 内のメタデータ値を構成するすべてのリストを操作できる、中心的な管理セクションです。例えばここでは、製品、モジュール、およびその他さまざまな項目のリストを管理します。これには、ユーザ定義フィールドとして作成するすべてのリストが含まれます。

便宜上、この画面の項目のリストには、プライバシー・グループとユーザ・ロールが含まれます。これらのリストは、この管理セクションとユーザ・セクションの両方で表示および変更できます。

この画面に表示されるメタデータ・フィールド・リストには、データ辞書の表示タイプがリストおよびタブであるすべてのフィールドが含まれています。

リストの値は、他のリストの値によって異なる場合があります。これは許容値と呼ばれます。詳細については、本書の「フィールド管理」のセクションで説明しています。

リストを保持するフィールドの値については、関係者リストも保持されています。例えば、特定の製品に関する関係者リスト、または優先度 1 の issue の関係者リストを保持する場合は、各リストの追加および編集機能を使用します。

リストのソート

リスト管理内のエントリにソート順を割り当てることで、各リスト・フィールドについて、追加、編集、検索の各画面内でフィールド・リストをソートできます。ソート順は、数字または文字列で表されます。有効なソート順は次のような形になります。

```
23    2    a    2a    open
```

ソート順を指定しない場合は、リストはフィールドのタイトルを使用してアルファベット順にソートされます。ソート順を指定した場合は、リストに入力された項目は ASCII ソート順でソートされます。

リストのソート順は、後で新しい値を挿入できるように設定することをお勧めします。これによってリストを柔軟に使用できます。例えば 5 つの値でリストを作成して、以後エントリが追加される場合は、次のようなソート順を使用します。

```
010   020   030   040   050
```

これにより、後で必要に応じて各エントリの間に新しく値を挿入できるようになります。

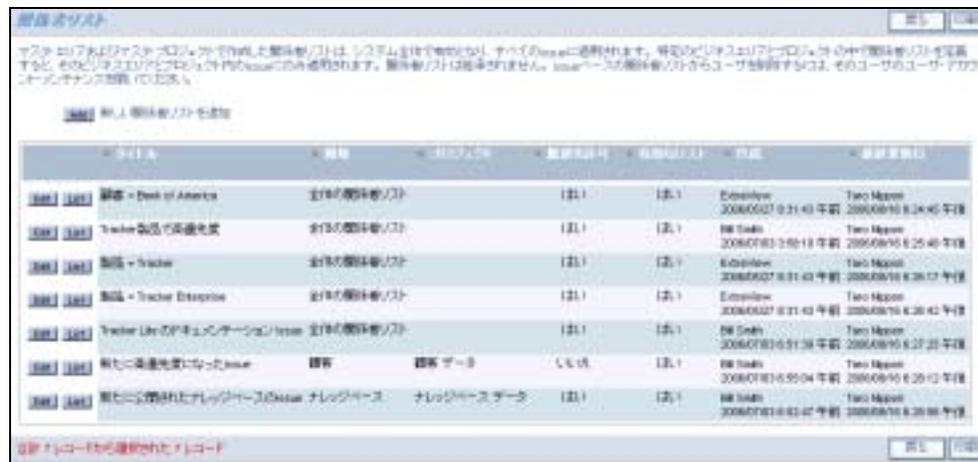
関係者リスト

関係者リストは、ある値またはフィールド値の組み合わせに対して作られ、ある issue の該当フィールドにその値が含まれる場合、1 人以上のユーザに通知されます。例えば、製品管理マネージャは、自身が関連する[製品]に関わるすべての issue の関係者リストを望むかもしれません。また、エンジニアリング管理者は、自動的に[重要度レベル]が critical になっているすべての issue を見たいと望むかもしれません。

管理者およびユーザ(範囲は限定されます)が関係者リストを取り扱うことができます。issue 全体に影響する特別な関係者リストが 1 つあり、それは issue 内のどのフィールドの値にも依存しません。この場合、関係者リストのメンバーはその issue へのすべての変更について、通知を受け取るようになります。

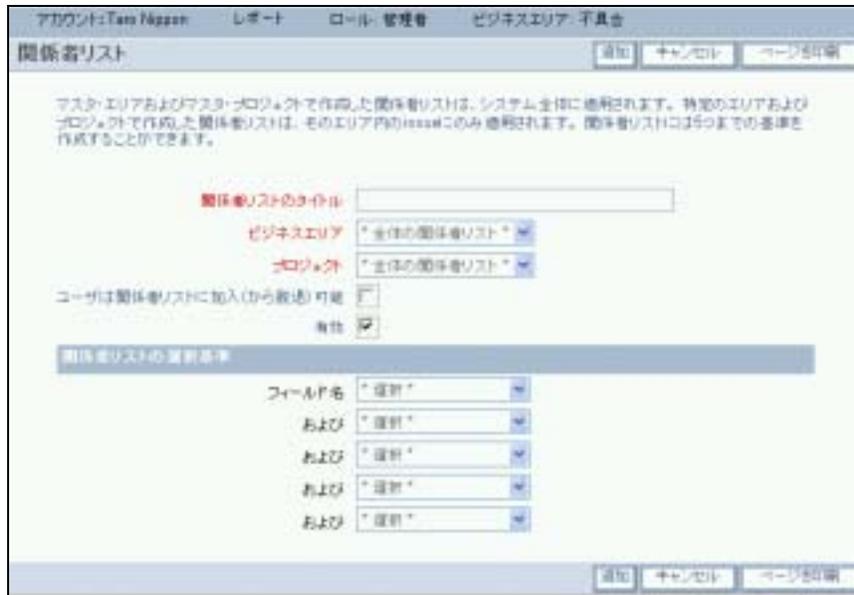
関係者リストはグローバルである場合と、ビジネス・エリアとプロジェクトの単一の組み合わせである場合があります。関係者リストはレイアウトやセキュリティ権限とは違い、継承されません。

関係者リストは、フィールドのデータ辞書の定義によって、各フィールドで有効になります。管理画面の電子メール通知セクションに、[関係者リスト]というメニュー・エントリがあります。このメニュー・エントリをクリックすると、次のような画面が表示されます。



関係者リストの定義

この画面で、すべてのフィールドの関係者リストを管理できます。任意のエントリの横にある[Edit] ボタンを使用して既存の関係者リストの詳細を変更し、[List] ボタンを使用してその関係者リストに属するユーザを変更します。新しい関係者リストを作成するには、[新しい関係者リストを追加] というプロンプトで [Add] ボタンをクリックします。新しい関係者リストを追加するときは次のような画面が表示されます。



新しい関係者リストの追加

作成する関係者リストをグローバルにしたい場合は、ビジネス・エリアおよびプロジェクトのフィールドに *** 全体の関係者リスト *** を指定して関係者リストを作成します。関係者リストへの参加を、すべてのユーザに対して必須にするには、**[ユーザは関係者リストに参加(から脱退)可能]** のボックスをチェックしないでください。このボックスにチェックを入れると、ユーザが関係者リストからの脱退を自分のアカウント・オプション画面から行えるようになります。また、**[有効]** チェックボックスにより、関係者リストをシステムから削除せずに無効にすることができます。

注:関係者リストに追加できるのは、ExtraView の正規のユーザだけです。ライセンス契約書の条項により、関係者リストには、動作設定 LIMITED_USER_ROLE だけに属するゲストおよびその他のユーザを追加することはできません。

リスト管理エリアにあるフィールドのリスト値を作成していて、関係者リストがそのフィールドに対して有効である場合、管理者は関係者リストの管理画面に移動せずにこの場所で当該フィールドに対する関係者リストを作成することができます。これは完全に便利さを追求した機能です。

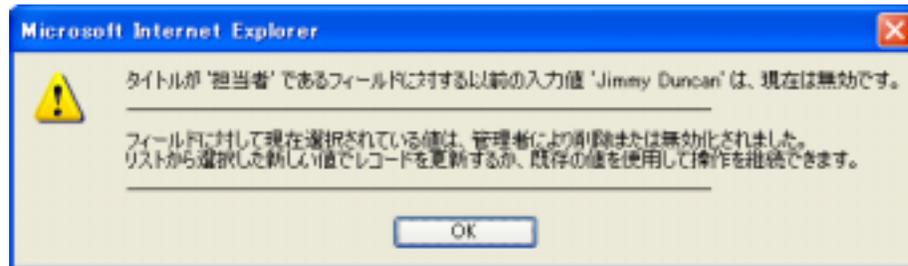
また、ユーザが CF_INTEREST_LIST に対する書き込み権限を持っている場合、ユーザにはすべてのグローバル関係者リストが表示され、そのリストに参加またはリストから脱退することができます。ユーザがこの中で定義された関係者リストに参加または脱退するには、個々のビジネス・エリアおよびプロジェクトに対する書き込み権限が必要です。

リストへのエントリの追加および編集

[Administration]メニューからのリスト管理

[Administration] メニューから、[リスト] タブをクリックします。この画面から、リストに値を追加したりリストから値を除外することができます。issue の追加や更新により、リスト・フ

フィールドに対して1つ以上の値を入力すると、そのリスト値を削除することはできません。値に対してデータが記録された後にその値をリストから除外したい場合、ほとんどのリストでは値を無効にして、追加画面や編集画面に表示されないようにすることができます。無効にされた値がリスト内にある issue を編集すると、次のようなメッセージが表示されます。



無効にされた値を表示したときの警告メッセージ

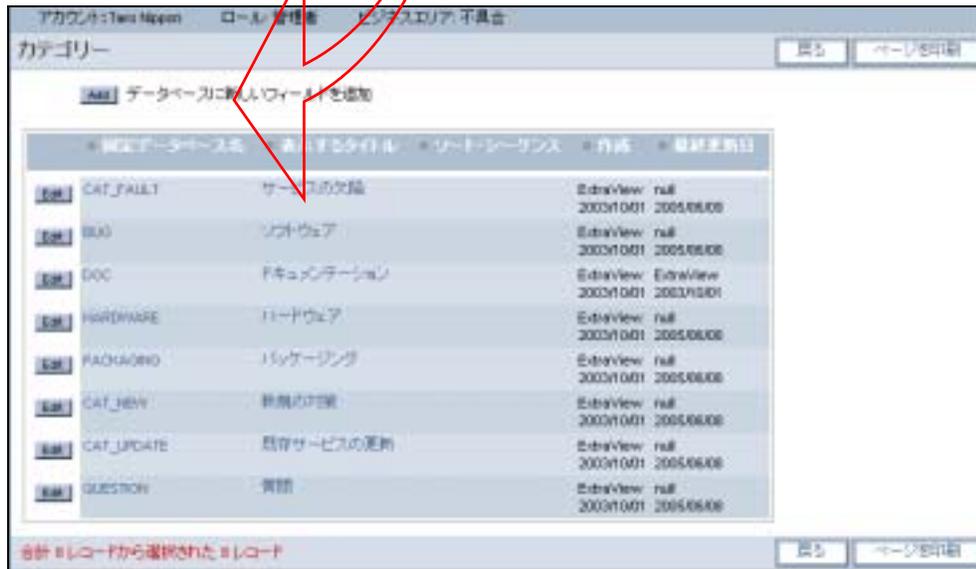
ユーザは無効にされた値でレコードを更新するか、リストから新しい有効なエントリを選択することができます。無効な値がリストから除外された後レコードが更新されると、再度その値を選択することはできなくなります。

いくつかの例外を除き、編集可能なすべてのリストが、次のように画面に表示されます。



リスト管理画面

リストを編集するには、リストの名前または横のボタンをクリックします。次の画面に、カテゴリというフィールドの例を示します。これは依存関係のない単純なリストです。



値のリスト

例外として、リスト管理画面にあるいくつかの組み込みフィールドは、次のように少し異なるプロパティを持っています。

- **ビジネス・エリアおよびプロジェクトのリスト。**これらのリストは、システム内でビジネス・エリアとプロジェクトの設定や保守を行うために使用されます。これらのリスト内の値を無効にすることはできません。セキュリティ権限キーにより、個別のユーザ・ロールに対するビジネス・エリアの有効/無効を切り替えることができます。
- カテゴリ、優先度、製品ライン、ステータス、ユーザ・ロールの各リストにある値を無効にすることはできません。セキュリティ許可フィールドを使用して、ステータス・フィールドの値の表示/非表示を制御できます。
- 製品フィールドとモジュール・フィールドは連動しているため、モジュール・フィールドの管理上、モジュールの保守を行う前に有効な製品を選択する必要があります。モジュール・フィールドの値を無効にすることはできません。

見出しに ■ 記号が付いている列見出しをクリックすると、リストをソートできます。昇順でソートされ、▼が表示されている列見出しをクリックすると、ソート記号が▲に変わり、リストがその列の降順でソートされます。

リストにエンTRIESを追加するには、[Add] ボタンをクリックします。ENTRIESを編集するには、編集する値で [Edit] ボタンをクリックします。



リストのエンTRIESの編集

上の画面での作業を終了するときに、管理者がフィールドに新しい値を追加していて、関係者リストがフィールドに対して有効であれば、管理者はそのフィールド値に関係者リストを作成して、その関係者リストに1人のユーザを割り当てることができます。値に対して関係者リストのより高度な処理が要求される場合、管理者は[Administration]メニューの[電子メール通知]タブの下にある[関係者リスト]メニューを使用する必要があります。

この画面で、表示するタイトル、この値の所有者(issue でエンTRIESが更新されると通知される)、およびこの値のソート順を編集できます。

値を変更したら、[更新] をクリックして保存します。

大きなリストの管理

[表示] という管理タブの [表示の設定] というエントリに、ADMIN_LIST_SIZE というエントリがあります。このエントリで、大きなリストの動作を制御します。HTML ブラウザでは、(一般的に 400 行以上のデータを表示する)大きなリストの処理は比較的遅くなります。処理中のリストに ADMIN_LIST_SIZE で指定した値よりも多いエントリがある場合、リストの動作が変わり、検索機能とドリルダウン機能を使用できるようになります。次のスクリーン・ショットはこの機能を示しています。



大きなリストの最初の入力画面

① で表示される選択リストは、結果リストに表示されるどの列が検索用フィルタとして使用されるかを示しています。

どの列がフィルタとして使用されるかを指定したら、次にある文字をクリックしてその文字または数字で始まるすべてのエントリを表示するか、<all> をクリックしてすべてのエントリを表示するか、またはテキスト・ボックスに検索パターンを入力します。検索パターンでは、「*」をワイルドカードとして使うことができます。

リストにエントリがある文字だけが表示されるため、空のリストが表示されることはありません。次の画面は、大きなリストで「H」を選択した場合の、ドリルダウンの結果を示しています。



大きなリストでのドリルダウン

また、大きなリストは Microsoft Excel や CSV (カンマ区切りの値) ファイルにエクスポートすることができます。それを行うには、画面上の [エクスポート] ボタンを押します。現在リストに表示されているレコードの一部のみがエクスポートされることに注意してください。

注:大きなリストを分割して検索する機能は、[Administration] 内のすべてのリストで使用できます。ADMIN_LIST_SIZE の値に従って、この機能が使われる場所としては、ほかにデータ辞書があります。

エンドユーザによるリスト管理

管理者がセキュリティ権限でそれを有効にし、特定のレイアウトでその機能を有効にしていれば、エンドユーザがリストに新しい値を追加することができます。

エンドユーザが、新しい値をリストに追加する機能は次のように表示されます。



リストに新しい値を追加

エンドユーザがリストから * 新規 * エントリを選択すると、ウィンドウがポップアップし、リストの詳細情報の入力が必要されます。このポップアップの外観は、そのリストが組み込

みのリストフィールド(**PRODUCT_NAME** など)であるか、子値のリスト(**MODULE_ID**、**RELEASE_FOUND**、**RELEASE_FIXED** など)であるか、ユーザ定義フィールドであるかにより若干異なります。組み込みフィールドの場合、さらにフィールドの固定名およびそのタイトルの入力が必要です。依存する子フィールドの場合、選択されるべき親フィールド、当該する固定名、および/またはそのタイトルが必要です。ユーザ定義フィールドの場合、タイトルの入力のみが必要です。ポップアップの例を次に示します。

リストフィールドから新しい値を追加

この機能を利用できるようにフィールドを構成するには、以下の手順に従ってください。利用可能な組み込みフィールドはごく少数ですが、ユーザ定義フィールドのリストはどれでも構成が可能です。

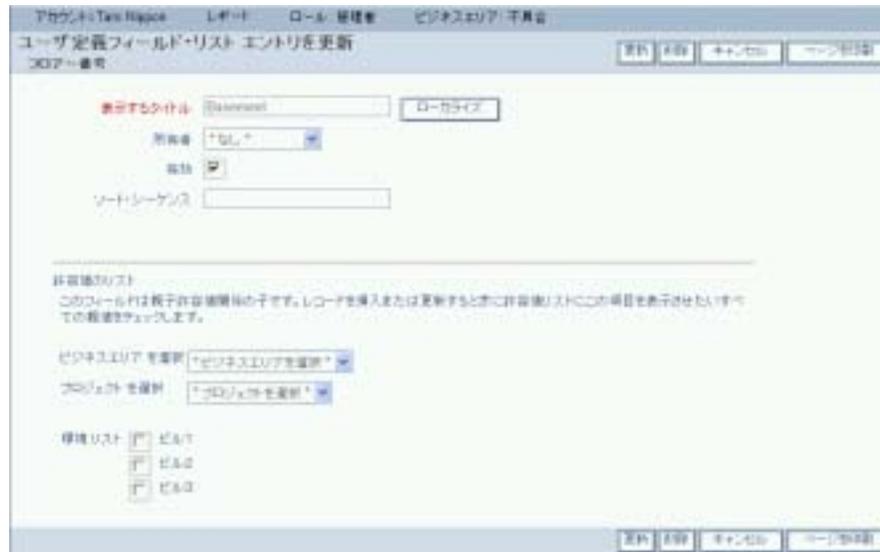
| フィールド | セキュリティ権限キー |
|--|--------------------|
| PRODUCT_NAME | CF_PRODUCT |
| MODULE_ID | CF_MODULE |
| RELEASE_FOUND, RELEASE_FIXED | CF_PRODUCT_RELEASE |
| 表示タイプが List であるすべての UDF (複 数値を持つリストを除く) | CF_UDF_LIST |

1. リストに新しい値を追加できるようにしたいユーザ・ロールに対し、上記の表に示したセキュリティ権限キーの書き込み権限を与えてください。
2. 該当する追加/編集画面のレイアウト上にあるフィールドにレイアウト・セル属性を追加することにより、*新規* というエントリがリストに追加されます。そのレイアウト・セル属性は、[*新規* エントリをリスト・フィールドに追加 – 追加および編集のレイアウトに適用]です。

エントリのリストと許容値

許容値の関係で子であるリストの編集については、多少違いがあります。以下のスクリーン・ショットのように、親になりうる項目が、それぞれチェックボックスが付いて表示されます。また、ビジネス・エリアとプロジェクトが有効になっている場合は、許容値を設定するビジネス・エリアとプロジェクトを選択する必要があります(次のセクションを参照)。

この子を関連付けることができる親の値をそれぞれクリックします。この例では、環境というフィールドが親で、フロー番号というフィールドが子である 2 つのフィールド間の許容値の関係を示しています。



許容値の関係は子のリストでも保持される

この画面では、1 つの画面の 1 つの親について、許容値の子の変更が可能になっています。これは既存の関係を変更する場合に最適です。異なる親について一連の許容値の関係を追加する場合は、管理画面の [許容値タイプ] を使用するのが便利です。どちらの方法でも同じ変更を行えますが、「ボトムアップ」よりも「トップダウン」のアプローチの方が便利な場合があります。

ビジネス・エリアと許容値の関係

ビジネス・エリアとプロジェクトを有効にすると、設定する許容値は選択したビジネス・エリアとプロジェクトだけに適用されます。これは、上のように保守画面にプロンプトを追加することで制御できます。

各ビジネス・エリアとプロジェクトについて、許容値の関係を設定する必要があります。

注: ビジネス・エリア・フィールドが許容値の関係で親フィールドである場合は、ビジネス・エリアに対する許容値の相互関係に注意する必要があります。その場合、許容値の関係の子が、現在選択されているビジネス・エリアに属するかどうかだけを定義できます。その子を他のビジネス・エリアで選択可能にする理由はありません。したがって、現在選択されているビジネス・エリアだけが、チェックボックスが付いた可能な許容値のリストとして表示されます。

注: 1 つの関係に対して、複数のデフォルト値の組を設定可能です。任意のビジネス・エリアおよびプロジェクトで特別の設定により上書きされない限り、そのデフォルト値が使用されます。

別名が付けられたリスト

データ辞書の中に、他のフィールドの別名であるフィールドを作成することができます。ExtraView は2つ(またはそれ以上)のリストの値を同期させて保持します。ただし、編集できるのは元のリストの値のみです。あるフィールドに別名が付けられたフィールドが存在する場合は、リストの編集時に次のようなメッセージが表示されます。

このフィールドは '顧客'、'OEM顧客' の別名になっています。このリストの値を変更すると、すべてのリストにあるすべての値が変更されます。

フィールドが他のフィールドの別名である場合は、その値は編集できません。次のようなメッセージが表示されます。

このフィールドは '顧客' フィールドの別名です。このフィールドのリストの値を編集することはできません。このリストのエントリを変更するには、別名リストに進んでください。

表示タイプが[リスト]、[ポップアップ]、[タブ]であるフィールドに対し、別名リストが作成できます。

特別なプロパティのあるリスト

ビジネス・エリア

ビジネス・エリアは、その他のあらゆるリストと同様のリストとして作成されます。管理者の観点からは、ビジネス・エリアはその他のあらゆるリストと同様に作成されます。内部的には、新たに追加されたビジネス・プロセスに ExtraView が対応するために、さまざまな処理が行われます。要約すると次のようになります。

- DISALLOW_AREA_0_DATA と DISALLOW_PROJECT_0_DATA を YES に設定すると、2つのプロジェクトが自動的に作成されます。そのうち1つには、新しいビジネス・エリアのタイトルに *Project Defaults* を追加した名前が付けられます。もう1つには、新しいビジネス・エリアのタイトルに *Project Data* を追加した名前が付けられます。*Project Defaults*は、PROJECT_ID が0であるプロジェクトです。これは、その他のプロジェクトにとって特性の継承元となるプロジェクトです。*Project Data*は、当該ビジネス・エリアに他のプロジェクトを作成しないことを前提としたとき、issue データが格納されるプロジェクトです。これらのプロジェクトのタイトルは、ユーザの用途に応じて変更が可能です。
- 各ユーザ・ロール(ユーザの役割)の新しいビジネス・エリアについて、セキュリティ権限キーが作成されます。これにより、ExtraView 内の各ユーザ・ロールについて、ビジネス・エリアを有効または無効にすることができます。これらのセキュリティ権限キーは、[セキュリティ権限の付与]画面で、次のような表記規則に従って名前が付けられます。

AREA.id (area_title)

ここで、id はビジネス・エリアの内部 ID で、area_title はビジネス・エリアのタイトルを表します。

ユーザ・ロールに対するセキュリティ権限キーの効果は、すべての追加、編集、クエリ機能でビジネス・エリアの表示および選択を行う、特別なロール内のユーザの許可を有効または無効にすることです。この機能を持つビジネス・エリアから、任意のユーザ・ロールをロックアウトすることができます。

- レイアウト・エディタにより、新しいエリアで新しいレイアウトを作成できるようになります。新しいエリアで新しいレイアウトを作成するまでは、マスタ・エリアからレイアウトが継承されます。
- 新しいエリアはステータス・ルール管理画面で使用可能になり、新しいエリアのステータス・ルールを設定できます。新しいエリアでステータス・ルールを作成するまでは、マスタ・エリアからルールが継承されます。
- 管理機能にアクセス可能な、複数のロールを定義できます。ただしこれら各ロールには、特定の組み合わせのビジネス・エリアの表示だけが許可されます。
- **注:**あるユーザ・ロールがビジネス・エリアを表示する許可を持たない場合でも、そのロールでそのエリアからレコードを取得することができます。例えば、ビジネス・エリアの種類に関らず、表示する許可がないエリアからのレコードを含め、すべての「オープン」な issue を取得することを求めるクエリなどが、その役割を持ちます。この動作は、クエリ・レイアウトのレイアウト・セル属性の値を「*なし* エントリを削除」に設定することで防止できます。これによりユーザは、クエリの一部としてアクセス可能な、1 つまたは複数のエリアの選択を強制されます。

プロジェクト・リストにリンクされているビジネス・エリア

ビジネス・エリアは、プロジェクトと相互にリンクされています。この関係では、多数のプロジェクトが1つのビジネス・エリアに属しています。

ExtraView Corporation では、マスタ・ビジネス・エリア(内部 ID が 0 であるビジネス・エリア)をデータの保存に使用することは推奨していません。マスタ・ビジネス・エリアは、システム全体のデフォルトとして使用されるセキュリティ権限や、システム全体で共通のレイアウトなど、主にインストレーションにおけるメタデータの保存に使用します。この手順により、複数のトラッキング目的に使用される場合に、ExtraView のインストレーションがわかり易くなります。

同じ原則が各ビジネス・エリア内のマスタ・プロジェクトにも適用されるため、データの保存に使用することは推奨しません。

ただし、ExtraView を単一のトラッキング機能として使用する場合は不便であるため、この動作は変更することも可能です。この違いに対応するため、[Administration] の [ワークフローの設定] メニューには 2 つの動作設定が用意されています。

| 設定名 | デフォルト値 | 説明 |
|-----|--------|----|
|-----|--------|----|

| | | |
|-------------------------|-----|--|
| DISALLOW_AREA_0_DATA | YES | NO に設定すると、issue データが AREA 0 に入力されます。これにより、バージョン 4.2 以前のインストレーションとの下位互換性が得られます。バージョン 4.2 以上で作成されたインストレーションでは、issue データを AREA 0 に置くことはできません。4.2 以上のインストレーションでは、YES に設定する必要があります。 |
| DISALLOW_PROJECT_0_DATA | YES | NO に設定すると、issue データが PROJECT 0 に入力されます。これにより、バージョン 4.2 以前のインストレーションとの下位互換性が得られます。バージョン 4.2 以上で作成されたインストレーションでは、issue データを PROJECT 0 に置くことはできません。4.2 以上のインストレーションでは、YES に設定する必要があります。 |

DISALLOW_AREA_0_DATA が YES の場合、リスト変更画面内のデフォルト・ビジネス・エリアのリストに、マスターとなる area(0) のためのエントリは含まれません。また、DISALLOW_PROJECT_0_DATA が YES の場合、マスターとなる project(0) のためのエントリは含まれません。

さらに、エリアを追加または編集する場合に、DISALLOW_PROJECT_0_DATA が YES で、追加または変更されたエリアにマスタ・プロジェクト以外のプロジェクトがない場合は、警告が出されます。

フィールドの関係者リストが有効にされているリスト

フィールドに対して関係者リストが有効にされていると、管理者は新しい値がリストに追加されるとき、作成される値に対して関係者リストのエントリを作成することができます。そのような状況においては、項目を関係者リストに追加する画面には、[この値に対してグローバル関係者リストを作成]および[関係者リストにユーザを追加]という2つのフィールドが追加されます。この画面を、次のようなスクリーン・ショットで示します。



リストに新しい値を追加する際に関係者リストのエントリを作成する

製品ラインリスト

注: このフィールドは現在は非推奨であり、既存のアプリケーション内においてのみ使用すべきです。新規に構成されるアプリケーションでは製品ラインリストの代わりに、新しいユーザ定義リスト・フィールドを作成し、このフィールドを親として **product_name** フィールドを子とする許可値の関係を作成するべきです。

製品ライン(**product_line** フィールド)は、製品(**product_name** フィールド)と特別な関係が設定されています。1 つの製品が属する製品ラインの数は、無制限に設定できます。

1 つの製品を 1 つ以上の製品ラインに追加する

製品ラインを追加または編集する場合には、それぞれチェックボックスが付いたすべての製品のリストが表示されます。製品ラインに製品を追加するには、チェックボックスをクリックします。

追加画面または編集画面に製品ラインと製品フィールドの両方を配置すると、次のように動作します。

| 状態 | 動作 |
|--------------------------------------|--|
| PRODUCT_NAME フィールドに許容値がない | 製品ラインを選択すると画面が更新され、製品リストに製品ラインのリスト内の製品の値が反映されます。 |
| 許容値の関係で PRODUCT_NAME が子になっている | 関係の中の製品ラインまたは親フィールドが選択されると、画面が更新され、表示される製品リストは、製品ラインに属するとともに、許容値の関係で子である製品のリストになります。 |

製品名リスト

製品名リスト(**PRODUCT_NAME**)には、製品を無効にすることを可能にする属性があります。ある製品を無効にすると、その製品は追加画面および編集画面の選択画面に表示されなくなります。ユーザが無効な製品で **issue** を編集すると、その製品が無効になっていることを示す警告が出されます。ユーザは無効な製品で **issue** を更新するか、有効な製品を新しく選択できます。



製品の無効化

モジュール名リスト

モジュール名は、他のリストとは多少異なる方法で管理します。これは、**PRODUCT_NAME** と **MODULE_ID** との間に定義済みの関係があるためです。ExtraView では、モジュール名の管理に許容値の関係を使用しません。

モジュールを追加または変更するには、[リスト] タブの [モジュール名] をクリックします。次の画面が表示されます。



[モジュール名] 画面

新しいモジュール名を作成するには、[Add] アイコンをクリックします。モジュールは製品に依存するため、適切な製品をドロップダウン・リストから選択し、新しいモジュールに関連付ける必要があります。適切なフィールドに入力して、[更新] ボタンをクリックします。



モジュール名の追加

既存のモジュール名を変更するには、[Administration] メニューに戻り、手順 4 と同様に、[リスト] タブに戻り、[モジュール名] を選択します。編集するモジュールに関連する製品を選択します。

ある issue でそのモジュールが選択されると、モジュールの所有者に自動的にメール通知が送られます。また、次の2つの動作設定が、モジュールフィールドに関する通知の送信方法に影響します。

| 設定 | 説明 |
|---------------------------|---|
| EMAIL_MODULE_OWNER_ALWAYS | issue が割り当てられているかどうかにかかわらず、モジュールの所有者にメールを送信します。有効な値は YES または NO です。 |
| LINK_MODULE_USER | モジュール所有者フィールドを特定のユーザ・フィールドにリンクします。これにより、指定されたユーザ・フィールドの値は、自動的に「モジュールの所有者」フィールドに格納された値に設定されます。取り得る値は、ASSIGNED_TO、CONTACT または OWNER です。 |



既存のモジュールの編集

変更するモジュールの横の [Edit] ボタンをクリックします。表示される画面で値を編集して、レコードを更新します。

[検出リリース] および [修正リリース] リスト



| リリースID | リリースタイプ | リリース名 | リリースステータス |
|--------|---------|----------------------|-----------|
| 1.0 | Y | EM Smith 200W1205 | Y |
| 1.1 | Y | EM Smith 200W1205 | Y |
| 1.2 | Y | EM Smith 200W1205 | Y |
| 1.3 | Y | EM Smith 200W1205 | Y |
| 1.4 | Y | EM Smith 200W1205 | Y |

[検出リリース] および [修正リリース] 保守画面

これらのリストには、次のようないくつかの特別なプロパティがあります。

- 2つの事前定義フィールド [RELEASE_FOUND] および [RELEASE_FIXED] に関するプロパティです。
- これらのフィールドは、リピーティング行のレコードに属します。リピーティング行のレコード以外のレイアウトでは使用できません。RELEASE_FOUND または RELEASE_FIXED の機能を追加または編集などのレイアウトで1つまたは複数のフィールドを使用する場合は、UDFを定義してプロパティを使用します。
- これらのフィールドでは PRODUCT_NAME が親の値として使用されるため、システム内の各製品について個別のリストを定義できます。
- どちらのリストでも同じ値が使用され、リスト保守画面内の1つの場所で保持されます。
- リリースが無効になる場合があります。無効になると、issueを追加または更新してもリストに表示されません。ただし、検出されたリリースまたは修正されたリリースが無効である場合に issue を編集すると、警告が表示されますが、これは無視することができます。
- [検出リリース] および [修正リリース] リストは、昇順または降順でソートできます。これは [ワークフローの設定] 管理メニューの動作設定 RELEASE_SORT_ORDER で制御します。



リリース・リストに新しいエントリーを追加する

ステータス・リスト

ステータス・リストはワークフローを駆動するものです。ステータス・リストについては、このガイドの『ワークフローの設定』というタイトルのセクションで詳しく説明します。リストにはワークフローの駆動の他に、以下に示すような特殊な性質があります。

- ステータス・リストの各エントリーに対し、セキュリティ権限キーが作成されます。これにより、完全な形でユーザ・ロールごとのリスト・エントリーに対しステータス・エントリーの可視/不可視を制御することができます。
- STATUS_CLOSED_NAME という動作設定が用意されています。これはお使いのインストレーション内で「クローズ済」を意味する値を表すステータス名に設定してください。通常は CLOSED ですが、必要に応じて変更することができます。ただしこの値は本番システムでは変更すべきではありません。issue がクローズされた日付に関する履歴の追跡ができなくなるからです。この値は実装時にのみ設定してください。
- ステータス・リストの値は[ワークフローの設定]セクションで設定されたルールに従って、追加画面と編集画面で実装されます。基本的には、ワークフローはビジネス・エリア、プロジェクト、ユーザ・ロール、製品の組み合わせによって別々に設定することも、同一に設定することもできます。
- ExtraView ではリスト内のタイトルを重複させることも可能ですが、ステータスの値を重複して作成しないことが強く推奨されます。重複した値を作成すると、ExtraView により警告が表示されます。

ステータス名および値の削除

すべてのフィールド同様に、ステータス名および値を削除する前には依存するデータすべてを削除または除去する必要があります。以下にステータス名とその値を削除する際に推奨される順序を示します。

- 最初に、そのステータス値を持つ issue が存在しないことを確認してください。空のデータベースの場合、何もする必要はありません。値が存在する場合、レポートで提供されている一括更新機能を使用して削除したい値を持つすべて

のレコードを選択し、その値を作成した新しい値に変更するか、既存のステータス値の一つに変更します。

- 次に、削除したい値を使用しているすべてのステータス変更ルールを削除しなければなりません。このバージョンでは、これらを別々に削除する必要があります。将来のバージョンでは簡素化される予定です。
- 削除しようとする値が STATUS_CLOSED_NAME という動作設定の値ではないことを確認します。
- 削除しようとする値がデータ辞書の STATUS フィールドのデフォルト値ではないことを確認します。
- 最後に、[ステータス・リスト保守]画面からステータス値を削除します。

フィールドとレイアウトの管理

概念

ExtraView のすべてのフィールドおよびレイアウトとその動作に関する設計では、フィールド・エリア管理セクションが中心になります。データ辞書ではフィールドの保守を行い、新しくユーザ定義フィールドを定義し、すべてのフィールドの動作を制御します。

[セキュリティ権限の付与] 画面では、すべてのユーザ・ロールについて、システム内のすべてのフィールドへのアクセス権をカスタマイズします。アクセス権としては、完全な読み取り/書き込みアクセス権、読み取り専用アクセス権、またはアクセス権なしを設定できます。

レイアウト・エディタを使用して、カスタマイズした画面やレポートを ExtraView に作成することができます。フィールドを特定のユーザ・ロールに対して追加または削除したり、デフォルトのレイアウトにフィールドを追加して[セキュリティ権限の付与]によりユーザのアクセス権を制御することができます。

[許容値タイプ] では、フィールド間の親子関係を設定できます。ExtraView には固有のアーキテクチャがあります。新しく設定された関係は、データベースに新しいメタデータとしてのみ反映され、データベース自体には反映されません。これにより高度な柔軟性が得られ、データベースのスキーマや内部の動作についての知識がなくても、アプリケーションを大幅に変更できます。

フィールドを使用するには、多数のプロパティについて理解する必要があります。それらのプロパティについて、次の表で簡単に説明します。さらにこのセクションで詳細に説明します。

| フィールドのプロパティ | 説明 |
|-------------|--|
| 名前 | システム内で使用されるフィールドの固定名。 |
| タイトル | レポートや画面フォームに表示されるフィールドのタイトル。このタイトルはシステムの動作を中断することなく変更できます。 |
| タイプ | フィールドが、事前定義フィールド、ユーザ定義フィールド、ラベル、画面、またはその他のフィールドのどれであるかを示すインジケータ。 |
| 表示タイプ | フィールドの外観や動作を設定するデータ・タイプ。表示タイプの例としては、テキスト、数字、チェックボックス、日付などがあります。 |
| エイリアス | 既存のリスト/ポップアップ・フィールドの別名をリスト・フィールドに定義することができます。 |
| レポート上での選択 | フィールドをレポートで選択できるかどうかを指定するスイッチ。 |

| | |
|---------------|---|
| レポート上の合計フィールド | レポート上で数値フィールドの合計値を出力するかを指定するスイッチ。 |
| 最後の値を記憶 | 追加画面で使用された最後の値を、全ユーザ用にフィールドが記憶するかどうかを示すスイッチ。 |
| 関係者リストを有効化 | フィールドの関係者通知リストを有効にするスイッチ。 |
| 複数値 | 表示タイプがリストであるフィールドで、複数の値を選択可能にするかどうかを示すフラグ。 |
| フィルタ基準 | フィールドをクエリのフィルタとして使用できるようにするスイッチ。 |
| ソート可能 | レポートの出力でそのフィールドによるソートができるかどうかを示すスイッチ。 |
| URLリンクとして表示 | URLリンクのオン/オフを切り替えるスイッチ。 |
| URLリンク | フィールドを他のアプリケーションにリンクする、オプションの URL。 |
| デフォルト値 | 新しく issue が追加されたときにフィールドに入力されるデフォルト値。デフォルト値が編集画面で使用される特殊な状況があることに注意してください。フィールドにレイアウト・セル属性の[*なし* エントリを削除]が設定されている、編集画面にレンダリングされるレイアウトで、編集画面のレコードがフィールドに値が格納されない状態でレンダリングされた場合(当該フィールドが追加レイアウト上に配置されていないか、フィールドに[Visible if]の条件が適用された場合に起きることがある)、デフォルト値を使用してフィールドに値が与えられます。これが行われなければ、フィールドにヌル値を許容しないルールに違反することになります。 |
| ヘルプ・テキスト | ユーザのヘルプ用に使用されるツールチップ・ヘルプ。 |
| ヘルプURL | フィールドのユーザ定義のヘルプ・ページにリンクする、オプションの URL。 |

ExtraView には、インストレーション内に常に用意されている、デフォルトのシステム・レイアウトが多数あります。これらのレイアウトについては以下に示します。ただし、管理者はレイアウトを追加で作成して、デフォルトのシステム・レイアウトに埋め込むことができます。例えば、複数の画面やレポートで常に同じ順序で表示するフィールドのブロックがある場合は、用意されているレイアウトにこれらのフィールドを組み込んで、そのレイアウトをデフォルトのフォームで簡単に使用できます。組み込みのレイアウトのもう 1 つの使

用方法は、特定のフィールドの値に依存してフォームに条件付きで含まれる、フィールドのブロックを作成することです。例えば、不具合のトラッキング・システムに、ユーザがソフトウェア、ハードウェア、またはドキュメントのどのカテゴリを選択したかによって、異なるフィールドのブロックを表示して情報を記録する場合があります。

特定の階層内に画面レイアウトを作成することで、システムの設計に従って、多数の異なるレイアウトが表示されるようにすることができます。

- 次の画面やレポートに対するデフォルトのレイアウトが常に用意されています。これらのレイアウトは ExtraView のデフォルトのインストレーションに含まれており、特定のニーズに合わせて変更することができます。ただし削除することはできません。
 - [Issue の追加] 画面
 - [添付ファイル履歴] 画面
 - [Issue の編集] 画面
 - [要約電子メール通知] レイアウト
 - ホーム・ページのナレッジベースに対するフィルタ・レイアウト
 - [全文電子メール通知] レイアウト
 - 関係グループ電子メール・フィルタ
 - 関係グループ・フィルタ(関係グループ管理用)
 - [組み込みリピーティング行] レイアウト
 - [詳細レポート] レイアウト
 - [履歴レポート] レイアウト
 - [クイックリスト・レポート] レイアウト
 - [詳細検索フィルタ] 画面
 - [クイック検索フィルタ] 画面
 - [グラフ・フィルタ] 画面
 - エージング・レポートの検索
- これらのレイアウトは、ExtraView ではすべてレイアウト・タイプとして記述されています。それぞれの標準レイアウトについて、異なるレイアウト・タイプが用意されていますが、異なるビジネス・エリア、プロジェクト、またはユーザ・ロールについてレイアウトが作成されている場合は、同じレイアウト・タイプが使用されます。
- 新しくレイアウト・タイプを作成することができます。例えば、新しい埋め込みレイアウトが必要な場合は、特定のレイアウト・タイプを作成して、異なるビジネス・エリア、プロジェクト、ユーザ・ロールの一部として、またはフィールドの値に従って選択される異なるレイアウトとして、必要に応じて再利用できます。
- インストレーション内の各ユーザ・ロールについて、上記のものと異なるレイアウトを定義できます。この場合も、別のレイアウトを定義しない限り、デフォルトのレイアウトが継承されて使用されます。

- インストレーション内でエリアやプロジェクトが使用されている場合は、エリアおよびプロジェクトの両方のレベルで、上記の各レイアウトについて異なるレイアウトを指定できます。別のレイアウトを定義しない限り、デフォルトのレイアウトが継承されて使用されます。
- インストレーションでエリアやプロジェクトが使用されている場合は、ユーザ・ロールごとに別のレイアウトを定義できます。これにより、それぞれのユーザ・ロール、プロジェクト、エリアについて、別のレイアウトを定義できます。
- すべてのフィールドに対して設定されたセキュリティ権限は、レイアウト上のフィールドの配置に優先します。これにより、多数のユーザ・ロールで同じレイアウトを使用しながら、すべてのフィールドの表示と使用を、セキュリティを確保しながら簡単に制御できます。
- 追加および編集のレイアウトには、必ず ID フィールドを含めることが重要です。ID フィールドは、issue を作成または特定する際のキー項目になるからです。ただし、フィールドを表示したくない場合は、レイアウトセル属性を使用してフィールドを非表示にすることができます。

注:ExtraView のインストレーションでは、すべての画面とレポート用に、事前定義の標準レイアウトが用意されています。これらは組織のニーズに応じて変更できます。

データ辞書

データ辞書 は、すべてのフィールド定義が一括して格納され保持される場所です。データ辞書は、[フィールドとレイアウト] 管理メニューにあります。



[データ辞書] 画面のタブ

フィールド

ExtraView には、すべてのプロセスの中で使用されるフィールドがあります。フィールドには、組み込みフィールドとユーザ定義フィールド(UDF)の2種類があります。組み込みフィールドは、すべてのExtraView インストールの一部として提供されます。組み込みフィールドに対しては、タイトルやデフォルト値などのさまざまな属性を変更することができますが、決して組み込みフィールドを削除すべきではありません。ユーザは、インストールに必要な数のUDFを作成できます。作成可能なUDFの数は制限されていません。すべてのフィールドには、固定名、タイトルおよび表示名の3つの基本的なプロパティがあります。フィールドが機能するうえで重要な働きを持つのが表示タイプです。このセクションでは後に、すべてのフィールド・タイプに関する詳細な説明が記述されています。データ辞書にUDFが定義されると、それは組み込みフィールドと同様に動作するようになります。ユーザは、フィールドに権限を割り当てたり、レイアウト上に配置したり、フィールドのレポートを作成したりできます。エンド・ユーザは、組み込みフィールドとUDFとの違いを見分けられません。

技術的な見地からは、ユーザが作成するUDFの数に実質的な制限はありません。さらに、UDFを作成することで根本的なデータベース・スキーマが変更されることはありません。また、UDFを多数作成することによってシステムの性能が低下することはありません。

式

式フィールドはレポート作成において、レポート・カラムの値を導出または計算するために使用されます。式はそれぞれデフォルトの式を持つことができ、それが自動的に式フィールドを含むレポートで使用されます。また式フィールドはある範囲の表示タイプを持つことができますが、この範囲はフィールドの表示タイプよりも制限されています。ユーザは任意の数の式フィールドを追加して定義することができ、または同じ式フィールドを、異なるレポートに別の目的で再使用することができます。

ラベル

このセクションでは、データベース・フィールドではないフィールド画面の要素を定義または変更できます。この場合も、管理者がこのセクションからフィールドを削除することはほとんどありません。またラベルはユーザ定義フィールドとしても追加できるため、管理者がデータ辞書のこのセクションにフィールドを新しく追加することは稀です。

画面

これらのキーは、ExtraView の事前定義画面で使用されます。このエリアには、画面表示を変更できるいくつかのサポート・フィールドがあります。管理者は、このセクションからエントリを追加または削除する必要はありませんが、インストレーション内の個々の画面の名前を変更することができます。

セッション変数

このエリアのキーは、ユーザの現在の有効な ExtraView セッションのオプションに関連しています。

特殊変数

一般にこれらのキーは、内部のデータ/タイム・スタンプ機能などの計算機能を管理するために使用します。

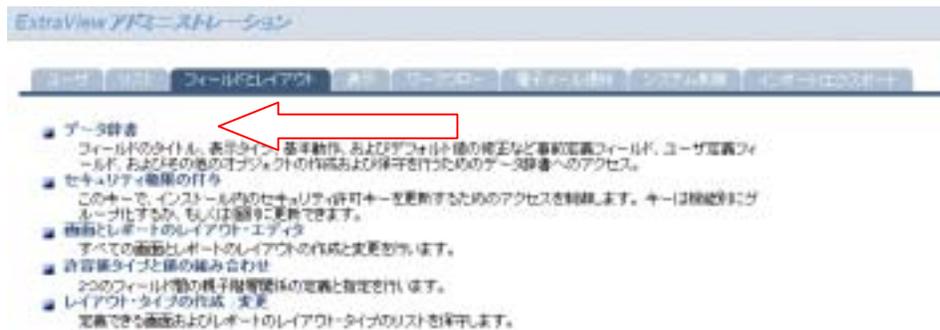
データ辞書の主な使用方法

ExtraView のこのコア・コンポーネントでは、各フィールドの次のような多数の属性が制御されます。

- 各フィールドの表示タイプ
- 各フィールドの表示タイトル。すべての画面ラベルで使用されるタイトルは、各フィールドで任意に変更できます。
- レポートでフィールドが選択可能かどうか
- フィールドの依存関係の設定
- リストへの値の取り込み
- デフォルト値
- ヘルプ・テキスト

データ辞書項目の編集

- (a) [Administration] メニューの [ExtraView アドミニストレーション] タブで、[フィールドとレイアウト] をクリックします。



[ExtraView アドミニストレーション] 画面

- (b) [データ辞書] メニューのエントリをクリックします。

次のような画面が表示されます。

| フィールド名 | フィールドタイプ | フィールドの値 | 注 | 編集ボタン |
|-----------------------------|---------------|-----------|----------------------------------|----------------------------------|
| ADDRESS | 郵便 | 〒451-8501 | 2007/10/10 0:00:00 年経 "なし" | 2007/10/11 11:21 年経 [Edit] |
| ALY_ID | 郵便 | 〒451-8501 | 2008/10/1 0:00:00 年経 [Edit] | 2008/10/1 0:00:00 年経 "なし" |
| AREA | 住所 | 港区 | 2008/10/1 0:00:00 年経 [Edit] | 2008/10/1 0:00:00 年経 [Edit] |
| ASSIGNED_ID | 担当者 | ユーザ | 2008/10/1 0:00:00 年経 [Edit] | 2008/10/1 0:00:00 年経 "なし" |
| ATTACHMENT_ID | 添付 | ファイル | 2008/10/1 0:00:00 年経 [Edit] | 2008/10/1 0:00:00 年経 [Edit] |
| ATTACH_COMMENT_TITLE | 変更タイプ | ファイル | 2008/10/11 11:42:00 年経 [Edit] | 2008/10/11 11:42:00 年経 [Edit] |
| ATTACH_COMMENT_TITLE | 添付ファイルのタイプ | ファイル | 2008/10/1 0:00:00 年経 [Edit] | 2008/10/1 0:00:00 年経 [Edit] |
| ATTACH_COMMENT_TITLE | 作成者 | ユーザ | 2008/10/1 0:00:00 年経 [Edit] | 2008/10/1 0:00:00 年経 [Edit] |
| ATTACH_COMMENT_TITLE | 作成日 | ファイル | 2008/10/1 0:00:00 年経 [Edit] | 2008/10/1 0:00:00 年経 [Edit] |
| ATTACH_FILE_NAME | ファイルの名称 | ファイル | 2008/10/1 0:00:00 年経 [Edit] | 2008/10/1 0:00:00 年経 [Edit] |
| ATTACH_FILE_NAME | ファイル名 | ファイル | 2008/10/1 0:00:00 年経 [Edit] | 2008/10/1 0:00:00 年経 [Edit] |
| ATTACH_FILE_SIZE | ファイルサイズ | ファイル | 2008/10/1 0:00:00 年経 [Edit] | 2008/10/1 0:00:00 年経 [Edit] |
| ATTACH_FILE_SIZE | 複数のファイルサイズ | ファイル | 2008/10/11 11:42:00 年経 [Edit] | 2008/10/11 11:42:00 年経 [Edit] |
| ATTACH_LAST_UPDATED | 最終更新日 | ファイル | 2008/10/11 11:42:00 年経 [Edit] | 2008/10/11 11:42:00 年経 [Edit] |
| ATTACH_LAST_UPDATED_BY_USER | 最終更新者 | ユーザ | 2008/10/11 11:42:00 年経 [Edit] | 2008/10/11 11:42:00 年経 [Edit] |
| ATTACH_LAST_UPDATED_COMPANY | 最終更新者会社 | ファイル | 2008/10/11 11:42:00 年経 [Edit] | 2008/10/11 11:42:00 年経 [Edit] |
| ATTACH_PATH | 添付ファイルのディレクトリ | ファイル | 2008/10/1 0:00:00 年経 [Edit] | 2008/10/1 0:00:00 年経 [Edit] |
| ATTACH_REFERENCE | サムネイル | ファイル | 2008/10/1 0:00:00 年経 [Edit] | 2008/10/1 0:00:00 年経 [Edit] |
| ATTACH_SIZE | 容量 | チェックボックス | 2007/10/10 0:00:00 年経 "なし" | 2007/10/11 11:21 年経 [Edit] |

[データ辞書] 画面

変更する項目の横の [Edit] ボタンをクリックします。編集画面で [更新] をクリックすると、変更が保存されます。表示タイプがリストであるフィールドにはボタンが示され、そこからリスト値にアクセスしてリスト値を追加、編集および削除することができます。

次の画面例のように、この画面で多数の異なる機能の追加または変更を行うことができます。

注:ADMIN ユーザ ID でサインオンしていない限り、このスクリーン・ショットに示すすべてのフィールドが表示されるわけではありません。これらのフィールドを変更する必要がほとんどなく、不用意に変更されるのを防ぐためです。また、組み込みフィールドを追加できるのは ADMIN ユーザだけであることに注意してください。

データ辞書 エントリを変更

| | |
|---------------|--|
| フィールドタイプ | Input field |
| フィールド所属先 | Issueレコード |
| 固定データベース名 | CATEGORY |
| 表示するタイトル | カテゴリ ローカライズ |
| データテーブル名 | ITEM |
| データ列名 | CATEGORY |
| 参照テーブル | CATEGORY |
| 参照キー | NAME |
| リスト参照テーブル | CATEGORY |
| リスト参照キー | NAME |
| 最初の参照列 | TITLE ↑ ↓ |
| 2番目の参照列 | ↑ ↓ |
| 3番目の参照列 | ↑ ↓ |
| 参照列 | CATEGORY_ID ↑ ↓ |
| 親テーブル | |
| 親キー | |
| 子キー | ITEM_ID |
| 表示タイプ | リスト ▼ |
| レポート上での選択を許可 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| レポート上の合計フィールド | <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ |
| 最後の値を記憶 | <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ |
| 関係者リストを有効にする | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| フィルタ基準 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| ソート可能 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| URLとして表示 | <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ |
| URL | |
| デフォルト値 | デフォルトを選択 |
| プライマリ SQL | select category name, category site, category site_map_key from category ↑ ↓ |
| 依存 SQL | ↑ ↓ |
| 最初の親フィールド名 | |
| 最初の親 SQL | ↑ ↓ |
| 2番目の親フィールド名 | |
| 2番目の親 SQL | ↑ ↓ |
| SQLによる順序 | order by CATEGORY.sort_seq, CATEGORY.site ↑ ↓ |
| ヘルプテキスト | Issueのカテゴリです。 ローカライズ |
| ヘルプ URL | help/glossary.html#category |

データ辞書項目の編集画面 - 事前定義フィールド

データ辞書項目の編集画面－ユーザ定義フィールド

| フィールド名 | ADMIN の 易合のみ表 示 | 説明 |
|-------------|-----------------------|---|
| [フィールド・タイプ] | | フィールドが組み込みフィールド(Inbuilt)であるか、ユーザ定義フィールド(UDF)であるかを示します。組み込みフィールド(Inbuilt)は、ExtraViewの基本構造の一部であり、タイトルやデフォルト値などの属性を変更することは可能ですが、決して削除してはなりません。ユーザ定義フィールドは、管理者によって作成および削除が可能です。UDF に対してデータが入力されると、その UDF を削除することはできません。 |
| [フィールド所属先] | | 値は [issue レコード] または [リピーティング・レコード] になります。この値により、フィールドがメインの issue レコードまたはリピーティング・レコードのどちらに属するかが決定されます。レコードがリピーティング・レコード・フィールドの親である場合、リピーティング・レコードはレコードの階層構造に属します。 |
| | | 項目タイプの issue レコードの UDF を作成すると、フィールドはメインの issue に属し、任意のエリアおよびプロジェクトの issue レコードの一部として、レイアウトに配置できます。UDF の項目タイプがリピーティング・レコードである場合は、フィールドはリリース・レイアウト (RELEASE.LAYOUT) などのレイアウトで使用されます。新しいリリース行が issue に追加されると、追加された行に RELEASE タイプが自動的に入力されます。 |

| | |
|-------------|---|
| [固定データベース名] | <p>ExtraView データベース内のフィールドの固定名。一度作成すると、フィールドのデータベース名を変更することはできません。データベース名には、A ~ Z、0 ~ 9、「_」、「.」以外の文字は使用できません。最初の文字はアルファベットにする必要があり、最大 30 文字まで使用できます。</p> |
| [表示するタイトル] | <p>ExtraView システム内のフィールドの画面タイトル。フィールドにタイトルを入力して更新します。フィールド名は、ExtraView のすべての画面とレポートで直ちに更新されます。画面タイトルの長さは、最大 40 文字までとします。</p> |
| [データ・テーブル名] | <p>✓ データ辞書の要素が置かれるデータベース・テーブル名。既存のフィールドについて、このデータを変更する理由はありません。またこの情報は、ExtraView によってユーザ定義フィールドに自動的に与えられます。ExtraView の事前定義フィールドが保存されるデータベース・テーブルは、ITEM と呼ばれます。</p> |
| [データ列名] | <p>✓ このデータ辞書の要素が保存される場所に関連する列名。この列名は、上記のデータ・テーブルに保存されます。既存のフィールドについて、このデータを変更する理由はありません。通常これは、ITEM テーブルの列名です。</p> |
| [参照テーブル] | <p>✓ 通常、ExtraView 内の情報はデータ・テーブルに固定名で保存されます。これはユーザにとって必ずしも意味のある情報ではありません。Lookup テーブルは、エンド・ユーザが情報のアクセスに使用するテーブルです。例えば、データ・テーブルの主要な値が ID である場合には、lookup テーブルでは姓と名などその他の情報が得られません。</p> |
| | <p>例:[担当者] フィールドの lookup テーブルは、[security_user] というデータ・テーブルです。</p> |
| | <p>例:[優先度] フィールドの lookup テーブルは、[priority] というデータ・テーブルです。</p> |
| | <p>ExtraView 以外のデータ・テーブルに、値のリストを検索するデータ・ソースとしてアクセスし、ExtraView のリスト・ボックスにデータ検証の目的で入力することができます。この強力な機能により、管理者は同じデータベース・テクノロジーを使用してテーブルを直接読み込み、ExtraView と他のシステムを統合できます。ただしその際は、許容値が外部テーブルには適用されないことに注意してください。</p> |

| | | |
|------------|---|---|
| [参照キー] | ✓ | <p>このキーは、lookup テーブルのプライマリ・キーです。許容値を設定する場合は、lookup キーと最初の lookup 列を設定する必要があります。ほとんどの ExtraView テーブルで、これらは通常名前とタイトルのペアになります。これにより、固定されたデータベース名ではなく、ユーザが理解可能な有意の情報が許容値のリストに入力されます。</p> <p>例:security_user データ・テーブルの lookup キーは、security_user_id という名前です。</p> <p>例:priority データ・テーブルの lookup キーは、name という名前です。</p> |
| [最初の参照列] | ✓ | <p>lookup テーブルから返される最初の項目です。lookup の結果として、最大 3 つの lookup 値が返されます。</p> <p>例:[担当者] フィールドの最初の lookup 列は [first_name] です。</p> <p>例:[優先度] フィールドの最初の lookup 列は [title] です。</p> |
| [2 番目の参照列] | ✓ | <p>lookup テーブルから返される 2 番目の項目 (ある場合) です。</p> <p>例:[担当者] フィールドの 2 番目の lookup 列は [last_name] です。</p> |
| [3 番目の参照列] | ✓ | <p>lookup テーブルから返される 3 番目の項目 (ある場合) です。</p> <p>例:[担当者] フィールドの 3 番目の lookup 列は [email] です。</p> |
| [親テーブル] | ✓ | <p>このデータ辞書項目の親テーブルです。ExtraView では、ITEM テーブルがほとんどのフィールドの親になります。この親テーブル・フィールドは、データ・テーブル名が ITEM でない場合のみ入力されます。入力された場合は、そのデータ辞書項目が ITEM テーブルに含まれず、別のテーブルから読み込まれることを示します。</p> |
| [親キー] | ✓ | <p>親テーブルのキーです。ほとんどのフィールドで、このキーは ID フィールドになります。このフィールドも、値がデフォルト値と異なる場合のみ入力されます。</p> |
| [子キー] | ✓ | <p>データ・テーブルの外部キーです。これにより、親とデータ・テーブルとの関係が明示的に定義されます。依存関係にあるフィールドの設定、およびデータ・エントリとデータ更新画面における画面の更新に使用されます。この関係はオプションです。</p> |
| [表示タイプ] | | <p>a. チェックボックス。これにより、画面上にチェックボックスが 1 つ作成されます。管理者はフィールドのタイトルを設定するほかに、ボックスのチェックの有無によってレポートに表示される値を選択できます。デフォルトでは、ボックスがチェックされている場合には Y が、チェックされていない場合には N が表示されま</p> |

すが、これらは他のタイトルに変更できます。

- b. 通貨。この表示タイプと、通貨表示タイプの選択肢の横に表示されるオプションにより、通貨タイプのフィールドの作成および保守を行うことができます。
- c. カスタム。この表示タイプにより、管理者はユーザ・カスタム・コードから直接フィールドに入力できます。

このフィールド表示タイプは、高度な使用方法のみに対応するもので、すべてカスタム・コードを使用して内容が表示されます。これは ExtraView に新しいフィールド・タイプを設定できる、強力なメカニズムです。

コードでは、EmbeddedObject というデータ・タイプが使用されます。ExtraView でこのタイプのフィールドが作成されると、getEmbeddedObject というユーザカスタム・メソッドが EmbeddedObjectType.renderR から呼び出され、内容が入力されます。このメソッドにより文字列が返されます。パラメータは *dbconn*、*session*、*selectedVals*、*ddName*、および *attributes* です。

詳細については、『User Custom Guide』を参照してください。

- d. 日付。このフィールドでは、日付を入力して保存できます。日付フィールドには、日にちと共に時刻のコンポーネントが格納および表示されます。日付フィールドは、ユーザのタイムゾーンを考慮して表示されます。ExtraView 内部では、すべての日付は UTC 時刻に変換されてから格納されます。各ユーザは一定のタイムゾーンに属するため、この方法により日付が常に絶対時刻の単位で表示されます。
- e. 日。日フィールドは日付(日、月および年)だけが意義を持つフィールドです。日フィールドには時刻のコンポーネントは格納されず、表示されません。日フィールドは任意のタイムゾーンのために修正されません。
- f. 小数。このフィールドにより、数値表示タイプよりも多くの精度で小数の値を構成できます。さらに、出力での千桁区切りを任意で設定することができ、負の数値の表示形式をさまざまな書式から選択することができます。
- g. HTML エリア。この表示タイプでは、HTML エディタでテキストを入力および編集できます。現時点では、このフィールド・タイプを使用して HTML を表示できるのは Microsoft Internet Explorer ブラウザだけです。今後のバージョンでは他のブラウザもサポートされる予定です。使用しているブラウザが Microsoft Internet Explorer でない場合は、このフィールドはテキストとして表示されるため、HTML がソース形式で表示されます。

この表示タイプを使用してフィールドの入力または更新を行うと、メニュー・バーからワード・プロセッサのようなフォーマットを選択できます。表示タイプが HTML エリアであるフィールドを出力するレポートを作成すると、HTML は通常のブラウザと同様の形式で表示されます。このタイプのフィールドは、追加画面または編集画面に 1 つだけ配置できます。ExtraView 全体の HTML エリアの行の高さは、動作設定 HTMLAREA_ROW_HEIGHT で設定できます。

- h. ラベル。単純な形式のラベルです。ラベルに対してデータは保存されません。
- i. リスト。値のリストです。リスト表示タイプのフィールドでは、管理画面の [フィールド・リストの保守] セクションに入力されます。このセクションで、リスト項目の追加または削除ができます。
- j. ログ・エリア。このフィールドは、フィールドに対する連続的なテキスト・エントリのログとして機能します。
PR_RESOLUTION.EDIT_LOGAREA_FIELDS というセキュリティ権限キーに対するアクセス権がないユーザは、以前のエントリの編集または削除はできず、エントリの追加だけが可能です。各エントリについては、ユーザ名とタイムスタンプが表示されます。ログ・エリア・フィールドには、最大 32k のテキストを入力できます。フィールドを更新できる場合は、テキスト・エリアを拡大および縮小するためのボタンが 2 つ、フィールドの横に表示されます。[Administration] の [表示の設定] 箇所に、LOG_AREA_DISPLAY_CHARS という動作設定があります。この動作設定は、編集画面に表示される古いエントリのサイズを短縮するために使用されます。このフィールドを短縮すると、最後に「詳細…」が表示され、これをクリックすると画面にエントリ全体が表示されます。ログ・エリア・フィールドは、リピーティング・レコードのレイアウトではサポートされていません。

注:ユーザがセキュリティ権限キー

PR_RESOLUTION.ASSIGNED_TO に対する読み取り許可を持たない場合は、ログ・エリアへの入力を行ったユーザ名を見ることができません。これは、顧客またはゲストに、入力したユーザを知らせずにコメントを参照させる場合に便利です。

- k. 数値。これは数値の入力と保存だけが可能なフィールドです。数字には小数点を使用できますが、他の形式を使用することはできません。任意で数値フィールドの出力における千桁区切りを設定することができ、負の数値の表示形式をさまざまな書式から選択することができます。
- l. ポップアップリスト表示タイプと同様ですが、可能な値のリストのウィンドウが別が開きます。ユーザがリストから選択すると、ウィンドウが閉じて、選択した値がこのフィールドに入力されます。ポップアップ・ボックスは検索が容易であるため、このフィールドは、リストの項目数が多い場合 (エントリ数が 100 を超える場

合など)に便利です。例えば、権限のあるユーザのリストに使用できます。

- m. 出力テキスト。テキスト・エリア・タイプのフィールドと似ていますが、フィールドの表示に固定幅フォントが使用されます。このタイプは、フィールドに +-----+ などの文字で描かれた図が頻繁に入力され、図中の正確な間隔を保持したい場合に使用できます。出力テキストフィールドには、一度に最大 32k のテキストを入力できます。フィールドを更新できる場合は、テキスト・エリアを拡大および縮小するためのボタンが 2 つ、フィールドの横に表示されます。出力テキストのテキスト出力フィールドによるレポートでは、データ内のスペースや改行を含め、フィールドを作成したときのスペースが正確に保持されます。入力された状態が保持されることで、詳細レポートなどのレポートが表示される幅が通常より広くなる場合があります。
- n. タブ。画面上でタブのセットとして表示される値のリスト。通常このフィールドは、選択したタブによってその後表示されるフィールドが変わる場合など、画面上で高度な選択を可能にするために使用されます。この表示タイプは、サポートするリストに 6 項目を超えるエントリがある場合は使用できません。
- o. テキスト・エリア。これは複数行のテキスト・フィールドです。フィールドが更新可能なモードである場合は、ユーザが拡大および縮小でき、最大 32k のテキストを入力できます。
- p. テキスト・フィールド。これは単一行のテキスト・フィールドです。テキスト・フィールドには最大 255 文字まで入力できます。
- q. ユーザ。これはユーザ・ベースの要素だけに割り当てることができます。これらのフィールドは、[担当者]、[作成者]、[所有者]、[連絡先] です。これらのフィールドが表示されるユーザ・リストには、[ユーザ設定] 管理画面の USERNAME_DISPLAY プロパティの設定に従い、first_name、last_name、またはユーザ ID が表示されます。

表示タイプとして User を選択している場合は、lookup 列に特定の列を設定する必要があります。設定しない場合は、レポートやその他のレイアウトが正しく機能しません。次の列を設定する必要があります。

第 1 の lookup 列 = first_name

第 2 の lookup 列 = last_name

第 3 の lookup 列 = email

ユーザ・フィールド [作成者] と [連絡先] は、フィールド [担当者] および [所有者] とわずかに動作が異なります。[作成者] と [連絡先] にはすべてのユーザのリストが含まれますが、[担当者] および [所有者] フィールドには、動作設定 LIMITED USER ROLE で定義されたユーザ・ロール以外にも

ルールが割り当てられたユーザのリストだけが含まれます。この動作は、社内のユーザと顧客などが区別されるリストを作成する場合に役立ちます。

[エイリアス]

このフィールドは、新しいフィールドの作成時、または表示タイプがリスト、ポップアップまたはタブであるフィールドの編集時にのみ、このフィールドが表示されます。それらのタイプのフィールドを作成する場合のみ、オプションが有効です。新しいフィールドの作成時、別のリスト・フィールドを指定すると、新しいフィールドを指定したフィールドの別名にすることができます。新しいフィールドは最初のフィールドと同期した状態に保たれます。

他のフィールドの別名になっている既存のエントリを編集し、別名のエントリを削除することができます。それ以降、そのフィールドは独立して機能します。

[レポート上で
の選択を許
可]

これにより、レポートで特定のフィールドを選択できるようになります。レポートで使用できないフィールドを指定することもできます。例えば、ExtraView のインストレーション内の一部のフィールドを使用せず、ユーザのビューで非表示にすることができます。またデータ辞書には、レポートで選択不可にする必要がある画像、ボタン、画面などのフィールドがあります。

使用しないフィールドはすべて No に設定することを強くお勧めします。それにより、ユーザが選択可能なフィールド・リストに不必要なエントリが取り込まれないようにすることができます。

[最後の値を
記憶]

この値を Yes に設定すると、[Issue の追加] および [クエリ] 画面で個々のユーザが入力または選択した最後の値が記憶されます。これにより、頻繁に変更しない値を記憶しておくことができます (多数のユーザが同じ製品を長期間使用する場合がある)。

[関係者リスト
を有効にする]

Yes を選択すると、そのフィールドの [フィールド・リストの管理] で、特定の値に基づく関係者リストのエントリを作成できます。例えば、重要度レベルが“緊急”である issue に基づく関係者リストを作成する場合があります。重要度レベルに基づく関係者リストを有効にすると、重要度レベル・リストの“緊急” なリスト項目を編集して、関係者リストにユーザ名を追加できます。

ただし、表示タイプによっては関係者リストを有効にできない場合があります。表示タイプがボタン、カスタム、ラベル、テキスト、HTML エリア、数値、テキスト・エリア、ログ・エリア、出力テキストおよびユーザのフィールドは、関係者リストとして使用することができません。さらに、関係者リストがない事前定義フィールドもあります。例えば、ユーザ・フィールドは関係者リストを持つことができません。

[複数値]

このオプションは、表示タイプがリスト、ポップアップ、ユーザであるフ

フィールドだけに表示されます。Yes を選択すると、使用可能なすべてのエントリのリストにある複数の値をフィールドに保存できます。ユーザが選択可能な多数のオプションがある場合に、複数の値のリストを選択して、ユーザにリスト内の任意の数の項目を選択させることができます。

このオプションは、表示タイプがリスト、ポップアップ、ユーザである UDF でのみ使用できます。複数值を持つフィールド内の値が選択されていることを示すために使用される文字を、動作設定の MULTI_VALUE_HIGHLIGHT_CHAR を使用して設定することができます。デフォルト値は `▶` です。これにより選択された値に対して ▶ が表示されます。ほとんどのクライアント・コンピュータのブラウザの基本文字セットにある文字を使用したい場合は、+ の文字を使用するとよいでしょう。

複数值リスト・フィールドの例:



[フィルタ基準]

検索画面の検索基準として要素を選択できます。この項目を選択しないと、該当するフィールドを検索画面のレイアウトに配置することができなくなります。

ただし、フィルタ基準として使用できない表示タイプもあります。表示タイプがラベル、画像、テキスト・エリア、ログ・エリア、出力テキストのフィールドは、フィルタ基準として使用することができません。

フィルタ基準として使用されるフィールドは、ソート可能にする必要はありません。

[URL として表示]

このオプションは、どの UDF の場合にも必須ではありません。フィールドに関連する名前または値を、作成する URL の一部として使用できます。これにより、フォームのフィールド値を任意のリモート・アプリケーション(または URL でアクセス可能な事前定義の ExtraView 機能)にリンクして、フォームの値を使用して別のアプリケーションにパラメータとして渡すことが可能です。

URL へのリンクを設定してフィールドを有効にするには、[URL として表示] ラジオ・ボタンを Yes に設定します。

- a. [URL として表示] ラジオ・ボタンの下のフィールドに、適切な URL を入力します。

- b. 定義するデータ辞書フィールドから、またはフォームの他のフィールドから値を渡すことができます。パラメータとして渡すことができる値のフォームには、次のものがあります。

| パラメータ | 説明 |
|----------------------|---|
| \$\$VALUE\$\$ | フィールドの現在の値をリクエストのパラメータとして渡します。 |
| \$\$DDNAME.VALUE\$\$ | DDNAME フィールドの現在の値をリクエストのパラメータとして渡します。 |
| \$\$DDNAME.NAME\$\$ | DDNAME フィールドの項目名を、データベースに保存されるパラメータとして渡します。例えば、STATUS というフィールドに FIXED と名前が付けられ、値が Fixed の場合は、\$\$STATUS.NAME\$\$ はパラメータとして FIXED を渡します。 |
| \$\$DDNAME.TITLE\$\$ | DDNAME フィールドの項目のタイトルを、データベースに保存されるパラメータとして渡します。例えば、STATUS というフィールドに FIXED と名前が付けられ、値が Fixed の場合は、\$\$STATUS.TITLE\$\$ はパラメータとして Fixed を渡します。これは \$\$DDNAME.VALUE\$\$ パラメータと同等です。 |

- c. URL への相対パスまたは絶対パスを指定します。フィールドの入力が **http://** で始まり、有効な URL で完結する場合、入力された絶対パスが設定されます。**http://** で始まっていない場合、ExtraView は入力されたパスが自分のパスとの相対パスであると想定します。
- d. 実行中の ExtraView のインスタンスに現在のパスを含めるには、タグ \$\$APP_HOME\$\$ を使用します。
- e. DDNAME がデータ辞書の特殊変数 (SYSDATE など) である場合、渡される値は特殊変数の値です。
- f. DDNAME がデータ辞書のセッション変数 (USER など) である場合、渡される値は特殊変数の値です。
- g. ExtraView のその他の機能呼び出して、適切な動作を実行することができます。例えば、検索機能を使用し、クイックリスト・レポート

に結果を表示するリンクをフィールドに設定できます。

例 1 – リモート・アプリケーションにパラメータとして値を渡します。

```
http://search.yahoo.com/search?p=$$VALUE$$
```

これによりフィールドの現在の値が Yahoo に渡され、値の検索が実行されます。検索結果は新しいウィンドウに表示されます。

例 2 – ユーザの詳細を示すウィンドウが表示されます。

```
$$APP_HOME$$ExtraView?p_action=
showUserDetails&p_option=
admin.UserAccountsDisplay&
p_user_id=$$NAME$$
```

これにより、ユーザの詳細について、ExtraView のポップアップ表示が参照されます。この URL は、ユーザ表示タイプ・フィールドと合わせて使用します。

例 3 – キーワードで検索を行い、結果をクイックリストで表示します。

```
?p_action=doRunQuicklist&p_option=search.SearchDis
play&searchword=$$VALUE
&product_name=$$PRODUCT_NAME
&assigned_to=$$ASSIGNED_TO
```

この例は、searchword フィールドの URL に置かれます。これにより、表示フィールド searchword の値と [product_name] および [assigned_to] フィールドの現在の値を使用して、ExtraView の検索クラスにアクセスすることで、クイックリスト・レポートが作成されます。

[ソート可能]

このフィールドを Yes に設定すると、レポート作成画面でフィールドがソート順リストに表示されます。通常、表示タイプがリスト、タブ、ポップアップのフィールドではユーザのソートが可能で、表示タイプがラベル、ログ・エリア、数字、出力テキスト、テキスト・エリア、テキスト・フィールド、画像のフィールドではソートができません。

ソート可能なフィールドもフィルタ基準にする必要があります。

[デフォルト値]

この値はほとんどの場合、[Issue の追加] 画面の空のフィールドへの入力に使用されます。この場合、フィールドの値ではなく、フィールド名または ID を使用します。[最後の値を記憶] をオンにしている場合は、デフォルト値に優先して最後の値が使用されます。

デフォルト値は、フォーム上でフィールドが表示されているかどうかにかかわらず、レコード内のフィールドの入力に使用されます。これには、次の例に示すように非常に重要な利点があります。例えば、customer というユーザ・ロールについて [Issue の追加] 入力フォームを作成し、顧客がサブミットした issue に自動的にステータス

unassigned が与えられるようにし、同時に [ステータス] というフィールドが ExtraView 内にあることが顧客にはわからないようにするとします。この場合はデフォルト値を使用します。顧客が使用する [Issue の追加] 画面にはステータス・フィールドを設定しないか、または顧客がフィールドでの読み取りまたは書き込みができないように、ステータス・フィールドのセキュリティ・キーを設定します。

データ辞書の STATUS フィールドには、重要なルールが 1 つあります。動作設定 ENFORCE_STATE_CHANGE_RULES を Yes に設定した場合は、[STATUS] フィールドにデフォルト値を指定する必要があります。

注: フィールドのデフォルト値を追加できるのはデータ辞書の更新時に限られます。フィールドの初回作成時にはデフォルト値は追加できません。

編集中のフィールドが式フィールドである場合は、デフォルト値を使用して、レポート上に配置する結果を計算するためのデフォルト式が格納されます。

| | | |
|--------------|---|---|
| [プライマリ SQL] | ✓ | このフィールドの内容を変更できるのは admin ユーザだけです。これは、データ辞書の要素にデータを入力する場合に使用される SQL です。例えば項目がリストである場合、この SQL 文はリスト・ボックスの入力に使用されます。これにより、さらに高度なカスタマイズが可能になります。リストの入力には、特定の要件(日付の範囲、「より大きい」)を満たす項目だけが使用されます。 |
| [依存 SQL] | ✓ | このフィールドの内容を変更できるのは admin ユーザだけです。このフィールドは、ユーザが変更することはできません。 |
| [最初の親フィールド名] | ✓ | このフィールドの内容を変更できるのは admin ユーザだけです。許容値リストを作成する場合、このフィールドは、親データ辞書の要素が更新された場合に、画面の更新が行われるトリガとして機能します。詳細については、許容値についてのセクションを参照してください。 |
| [最初の親 SQL] | ✓ | このフィールドの内容を変更できるのは admin ユーザだけです。このフィールドを修正することはできません。通常は、画面のレンダリング要素としてのみ使用されます。 |
| [2 番目の親 SQL] | ✓ | このフィールドの内容を変更できるのは admin ユーザだけです。このフィールドを修正することはできません。通常は、画面のレンダリング要素としてのみ使用されます。 |
| [ヘルプ・テキスト] | | フィールドの横にあるラベルの上にマウスを置くと表示される、ツール・チップ・メッセージです。ツール・チップには、最大 500 文字まで指定できます。 |

[ヘルプ URL]

作成したオンライン・ヘルプ・システムのブックマークまたはページにリンクすることができます。お客様の ExtraView が ExtraView Corporation によってホストされている場合、この URL を当社のサーバに設定する必要はありません。これらのファイルは、インターネット上の任意の場所に保存してアクセスできます。

式フィールド

式フィールドは、カラム・レポート、詳細レポートまたはクイックリスト・レポートの計算結果を算出および表示するために使用されます。式に対して有効な表示タイプは以下のとおりです。

| 表示タイプ | 説明 |
|-------|----------------------------|
| 数値 | 浮動小数点数として表示 |
| 小数 | 指定された小数形式で表示 |
| 通貨 | 指定された通貨形式で表示 |
| 日付 | ユーザが指定した日付形式で日付を表示 |
| 日 | ユーザが指定した日付形式で、時刻部分を除く日付を表示 |
| テキスト | 文字列の中にある一連の文字として直接表示 |

式フィールドのデフォルト値には、フィールドがレポート上に配置されるときにデフォルトとして評価される式が保存される場合があります。本書の『管理レポート/クエリ・オプション』のセクションに、有効な式に関する記述があります。

テキスト・エリア、出力テキスト、ログ・エリアの各フィールドの特別なプロパティ

HTML は、表示タイプがテキスト・エリア、出力テキスト、またはログ・エリアのいずれかであるレポート上のフィールドで表示することができます。これは、通常 HTML を使用するフィールドである、表示タイプが HTML エリア であるフィールドの機能とは異なります。テキスト・エリア、出力テキスト、ログ・エリアの各フィールドの通常の動作では、ExtraView ブラウザのレポートに HTML が送信されません。例えば、これらのタイプのフィールドに送信される HTML はソース形式で表示され、ブラウザ内では HTML 形式では表示されません。ExtraView は HTML コードによる不具合やバグのトラッキングに使用されるため、これが通常モードの動作になります。状況によっては、テキスト・フィールド内でコードを実際に HTML として表示する場合があります。その場合は、作成するテキスト・フィールドに次のテキストを入力します。

```
<!-- generated valid html - don't escape! -->
```

これに続くフィールド内のコードはすべて、変換されてブラウザ上に表示されます。ユーザは、上記のテキストに続くコードを有効な HTML にし、適切に表示されるようにする必要があります。さらにこの機能を使用することで、フィールド内にボタン、フォーム、JavaScript が用意された完全なプログラムを作成することも可能です。

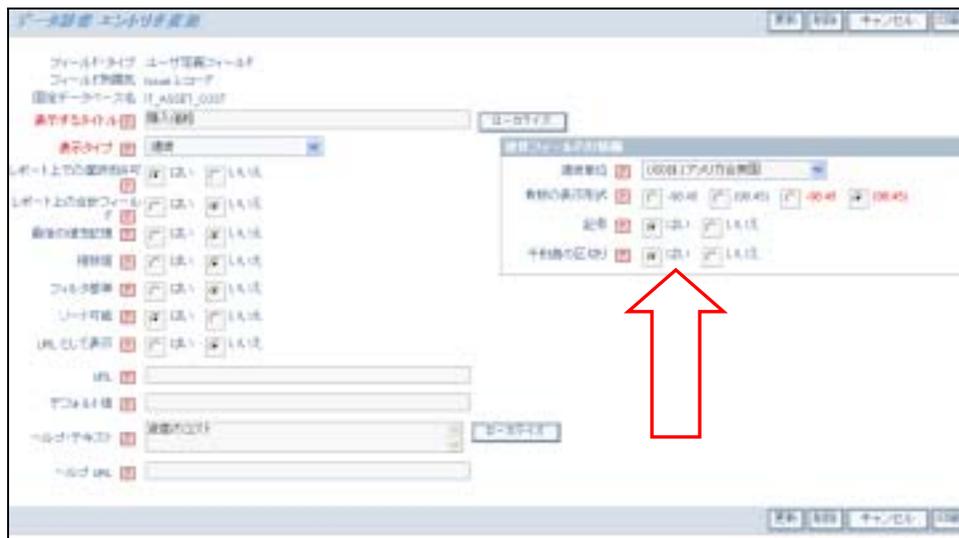
フィールドには、ユーザ・カスタム・ルーチン内のコードを使用して入力できます。例えば、追加画面または編集画面内のフィールドには、クエリのすべての結果をレポート・フォーマットで表示することができます。

特別な目的のデータ辞書フィールド

データ辞書内のほとんどのフィールドは、追加レイアウト、編集レイアウト、検索レイアウト、またはレポート・レイアウト内のフィールドを参照します。例えば、[製品名] や [ID] などの事前定義フィールド、または [コメント] や [説明] などの UDF があります。ただし、目的によってさらに詳細な説明が必要なフィールドもあります。

通貨フィールド

通貨フィールドを作成または編集するとき、データ辞書画面に一連のフィールドが追加表示され、そこからユーザが通貨フィールドの形式に関する情報を入力することができます。その画面は以下のスクリーン・ショットのように表示されます。



データ辞書の通貨フィールド

通貨フィールドの書式設定に必要なオプションを、提供されているオプションから選択します。

日付フィールド

次に示すデータ辞書内の日付フィールドでは、issue が最初に作成された日付から計算された、issue についての情報を表示できます。

| フィールド名 | タイトル | 定義 |
|--------|------|----|
|--------|------|----|

| | | |
|-------------|-----------------|---|
| DAYS_OPEN | オープンの日数 | issue がオープンな(クローズされていない)状態で経過した日数。クローズ・ステータスは、動作設定 STATUS_CLOSED_NAME で定義します。結果の値は最も近い日付に切り上げられます。 |
| WEEKS_OPEN | オープンの週 | issue がオープンな(クローズされていない)状態で経過した週数。クローズ・ステータスは、動作設定 STATUS_CLOSED_NAME で定義します。結果の値は最も近い週に切り上げられます。 |
| MONTHS_OPEN | オープンの月数 | issue がオープンな(クローズされていない)状態で経過した月数。クローズ・ステータスは、動作設定 STATUS_CLOSED_NAME で定義します。結果の値は最も近い月に切り上げられます。 |
| SYSDATE | 現在の日付 | これは特殊変数フィールドです。このフィールドが \$\$\$SYSDATE\$\$ の形式でクエリ内の日付フィールドに表示されると、ExtraView では現在の日付がすべて現在の時間と合わせて置換されます。これによりユーザは、現在の日付に関連付けられたクエリを作成して保存できます。 |
| SYSDAY | 現在の日付 (午前0時) | これは特殊変数フィールドです。このフィールドが \$\$\$SYSDAY\$\$ の形式でクエリ内の日付フィールドに表示されると、ExtraView では現在の日付が時間表示なしで置換されます。時間は 00:00 に設定されます。これによりユーザは、現在の日付(午前 0 時以後)に関連付けられたクエリを作成して保存できます。 |

日付範囲フィールド

ExtraView データベース内の日付フィールドには、日付と連動したデータ辞書で定義されるフィールドが追加されています。この追加フィールドは ExtraView レポート画面のフィルタとして機能し、特定の日付からの日数に基づく結果が選択されるレポートを定義できます。

日付フィールドと追加フィールドには、次のものがあります。

| データ辞書のメイン・フィールド | データ辞書の追加フィールド | コメント |
|-------------------------|-------------------------------|------------------------|
| DATE_CREATED | DATE_CREATED_SINCE | issue の作成後に経過した日数 |
| TIMESTAMP | TIMESTAMP_SINCE | issue の更新後に経過した日数 |
| DATE_LAST_STATUS_CHANGE | DATE_LAST_STATUS_CHANGE_SINCE | issue のステータス変更後に経過した日数 |
| DATE_CLOSED | DATE_CLOSED_SINCE | issue のクローズ後に経過した日数 |

ID フィールド

| フィールド名 | タイトル | 定義 |
|--------------------|-------------|---|
| ALT_ID_START_SINCE | 開始 Issue ID | このフィールドはALT_ID_STOP_SINCE と併用し、任意のクエリ・フィルタ・レイアウト上での issue の検索範囲を指定します。このフィールドと ALT_ID_STOP_SINCE フィールドをレイアウト上に作成してください。ユーザはこのフィールドで検索の開始範囲を入力できます。このフィールドが空白で ALT_ID_STOP_SINCE フィールドに値がある場合、ALT_ID_STOP_SINCE より小さい値のすべての issue が返されます。 |
| ALT_ID_STOP_SINCE | 終了 Issue ID | このフィールドはALT_ID_START_SINCE と併用し、任意のクエリ・フィルタ・レイアウト上での issue の検索範囲を指定します。このフィールドとALT_ID_START_SINCE フィールドをレイアウト上に作成してください。ユーザはこのフィールドで検索の終了範囲を入力できます。このフィールドが空白で ALT_ID_START_SINCE フィールドに値がある場合、ALT_ID_START_SINCE より大きい値のすべての issue が返されます。 |

添付ファイル

| フィールド名 | タイトル | 定義 |
|------------------------|---------------|--------------------|
| ATTACHMENT_ID | 添付ID | 添付ファイルの内部 ID |
| ATTACH_CONTENT_TYPE | 添付ファイルのタイプ | 添付ファイルの MIME タイプ |
| ATTACH_CREATED_BY_USER | 作成者 | 添付ファイル の作成者 |
| ATTACH_DATE_CREATED | 添付された日付 | 添付ファイルが作成された日付 |
| ATTACH_FILE_DESC | ファイルの説明 | 添付ファイルの説明 |
| ATTACH_FILE_NAME | ファイル名 | 添付ファイルのファイル名 |
| ATTACH_FILE_SIZE | ファイルサイズ | 添付ファイル のファイル・サイズ |
| ATTACH_PATH | 添付ファイルのディレクトリ | 添付ファイルが保存されていた元のパス |

電子メール・フィールド

| フィールド名 | タイトル | 定義 |
|----------------|------------|--|
| MAILING_LIST | メーリングリスト | このフィールドは、セキュリティ権限と合わせて使用して、追加画面および編集画面上のメーリング・リストを見ることができるユーザ・ロールを定義します。 |
| CC_EMAIL | CCメール | このフィールドは、セキュリティ権限と合わせて使用して、追加画面および編集画面上の CC 電子メール・リストを表示して使用することができるユーザ・ロールを決定します。 |
| GENERATE_EMAIL | メールを生成 | このフィールドはセキュリティ権限と合わせて、追加画面および編集画面の [メールを生成] チェックボックスの表示の制御に使用します。許可がない場合、このチェックボックスは表示されません。 |
| CUSTOM_EMAIL | カスタム Email | このフィールドはセキュリティ権限と合わせて、編集画面内のアクション・バーにある [電子メール] ボタンの表示の制御に使用します。許可がある場合、そのユーザ・ロールでカスタム電子メールを送信することができます。 |
| EMAIL_ADDRESS | メールアドレス | このフィールドは、レイアウト上に置くことができます。これは特別な目的に使用されます。ユーザが編集画面からカスタム電子メール機能にアクセスして、アドホック電子メールの送信や、定義済みのテンプレートによる電子メールの作成を行う場合、このフィールドを使用することで、電子メールが送信されるアドレスが自動的に入力されます。これによって、issue のレポート時に電子メール・アドレスを入力するユーザなどの通信が容易になります。このフィールドに保存されている値によって、自動的に返信用アドレスが得られます。 |

ユーザ・フィールド

これらのフィールドは、[所有者]、[作成者]、[連絡先]、[担当者] の標準的なユーザ・フィールドに加えて使用されるフィールドです。

| フィールド名 | タイトル | 定義 |
|------------------|-------------|--|
| LAST_CHANGE_USER | 最後の变更者 | 最後に issue を更新したユーザのユーザ ID。 |
| USER | * 現在のユーザ名 * | このフィールドの値には、\$\$USER\$\$ が使用されます。ExtraView では、この値が、現在のセッションにサインオンしたユーザのユーザ ID として解釈されます。 |

履歴フィールド

| フィールド名 | タイトル | 定義 |
|--------------------|--------------------|---|
| PRODUCT_NAME_HIST | 過去の製品 リファレンス | このフィールドでは、issue の履歴監査証跡内の製品名 (PRODUCT_NAME) が参照されます。 |
| RELEASE_FOUND_HIST | 過去のリリース のリファレンス | 履歴は、ExtraView 内のリピーティング行で保持されています。このフィールドでは、その履歴が参照されます。 |
| STATUS_HIST | 過去のステータス | issue に対するステータス変更の履歴がすべて保持されています。このフィールドでは、そのステータス履歴が参照されます。 |
| MINI_HISTORY | 履歴 | <p>これはカスタム表示タイプの UDF で、レイアウト(通常は編集画面のレイアウトおよび詳細レポート)上に配置できます。ユーザ・カスタム・クラス BestPractices.java が同梱されるExtraView の標準配布版には、この機能が含まれています。このフィールドはユーザの画面とほぼ同じ幅のフィールドを生成し、そこにステータス変更日および変更責任者を表示します。このフィールドを独自の環境に作成する場合は、データ辞書の[レポート上での選択を許可]をYesに設定して、情報の参照を許可するロールにこのフィールドへの読み取り権限を与えてください。</p> <p>データ辞書内のフィールドに、幅と高さ(単位ピクセル)のデフォルト値を設定することにより、このフィールドの幅と高さを変更できます。値はセミコロンで区切ります。例えば、デフォルト値を1000;100 とするとフィールドのサイズは幅が1,000ピクセル、高さが 100 ピクセルになります。エラーがチェックされないため、デフォルト値の構文は正確に入力しなければなりません。デフォルト値を指定しない場合、幅 900 ピクセル、高さ 80 ピクセルとなります。フィールドが詳細レポート上に配置されている場合、詳細レポートの標準の幅が使用され、フィールドの高さは必要に応じてスクロールの必要がないように自動的に拡張されます。これによって、ユーザは詳細レポートを印刷し、すべてのデータを確認することができます。</p> <p>例を下図に示します。</p> |



MINI_HISTORY フィールド

関係グループ・フィールド

| フィールド名 | タイトル | 定義 |
|----------------------------|---------------|---|
| RELATIONSHIP_GROUP_CHILD | 関係グループの子フィールド | このフィールドは追加画面または編集画面に配置して、現在のissue に対する子 issue を指定するフィールドとして使用できます。 |
| RELATIONSHIP_GROUP_ID | 関係グループ | 関係グループの内部 ID。このフィールドに対して管理者が行う重要な変更は、「関係グループ」のタイトル変更だけです。 |
| RELATIONSHIP_GROUP_OWNER | 関係グループの所有者 | このフィールドは、関係グループの所有者のユーザ ID の指定に使用します。このフィールドに対して管理者が行う重要な変更は、「関係グループの所有者」のタイトル変更だけです。 |
| RELATIONSHIP_GROUP_PARENT | 関係グループの親フィールド | このフィールドは追加画面または編集画面に配置して、現在のissue に対する親 issue を指定するフィールドとして使用できます。 |
| RELATIONSHIP_GROUP_TITLE | 関係グループのタイトル | このフィールドは、関係グループのタイトルの指定に使用します。このフィールドに対して管理者が行う重要な変更は、「関係グループのタイトル」のタイトル変更だけです。 |
| RELATIONSHIP_GROUP_TYPE | 関係グループのタイプ | このフィールドは、関係グループのタイプの指定に使用します。このフィールドは、ExtraView 内部でのみ使用します。 |
| RELATIONSHIP_GRP_PARENT_ID | 関係グループの親のID # | このフィールドは、関係グループの親である issue の ID の指定に使用します。このフィールドに対して管理者が行う重要な変更は、「関係グループの親のID #」のタイトル変更だけです。 |

事前定義リピーティング行フィールド

| フィールド名 | タイトル | 定義 |
|---------------------|-----------|---|
| RELEASE | リリース・レコード | リピーティング行に画面上のタイトルを付けるための主要なフィールド。このフィールドのセキュリティ権限によって、追加画面および編集画面上のリピーティング行の有無を制御します。 |
| RELEASE_ASSIGNED_TO | リリースの担当者 | [リリースの担当者] にタイトルを付けるために使用します。このフィールドのセキュリティ権限により、値に対するアクセスが制御されます。 |

| | | |
|--------------------|----------------|--|
| RELEASE_FIXED | 修正リリース | [修正リリース] にタイトルを付けるために使用します。このフィールドのセキュリティ権限により、値に対するアクセスが制御されます。 |
| RELEASE_FOUND | 検出リリース | [検出リリース] にタイトルを付けるために使用します。このフィールドのセキュリティ権限により、値に対するアクセスが制御されます。 |
| RELEASE_FOUND_HIST | 過去のリリースのリファレンス | 履歴は、ExtraView 内のリピーティング行で保持されています。このフィールドでは、その履歴が参照されません。 |
| RELEASE_OWNER | リリースの所有者 | [リリースの所有者] にタイトルを付けるために使用します。このフィールドのセキュリティ権限により、値に対するアクセスが制御されます。 |
| RELEASE_PRIORITY | リリースの優先度 | [リリースの優先度] にタイトルを付けるために使用します。このフィールドのセキュリティ権限により、値に対するアクセスが制御されます。 |
| RELEASE_PRODUCT | リリースの製品 | [リリースの製品] にタイトルを付けるために使用します。このフィールドのセキュリティ権限により、値に対するアクセスが制御されます。 |
| RELEASE_RESOLUTION | リリースの解決策 | [リリースの解決策] にタイトルを付けるために使用します。このフィールドのセキュリティ権限により、値に対するアクセスが制御されます。 |
| RELEASE_SEVERITY | リリースの重要度 | [リリースの重要度] にタイトルを付けるために使用します。このフィールドのセキュリティ権限により、値に対するアクセスが制御されます。 |
| RELEASE_STATUS | リリースのステータス | [リリースのステータス] にタイトルを付けるために使用します。このフィールドのセキュリティ権限により、値に対するアクセスが制御されます。 |

ボタン・フィールド

| フィールド名 | タイトル | 定義 |
|----------------|--------|---|
| DELETE_BUTTON | 削除ボタン | 項目の削除ボタン。このボタンに対するセキュリティ権限により、ユーザが issue を削除できます。 |
| EDIT_BUTTON | 編集ボタン | レポートおよび電子メールで使用される、ドリルダウン編集ボタン。 |
| HISTORY_BUTTON | 履歴ボタン | 編集画面またはレポートから履歴にアクセスするためのボタン。 |
| VIEW_BUTTON | ビューボタン | issue についての詳細なレポートを表示するためのドリルダウン・ボタン。 |

ユーザ定義のボタン・フィールド

データ辞書でカスタム表示タイプのフィールドを定義し、その名前が**BUTTON_**で始まる場合、フィールドをレイアウト上に配置するとボタンが画面上に生成されます。

ボタンの定義に使用される項目を以下に示します。

| データ辞書フィールド | 用途 |
|------------|--|
| 固定データベース名 | フィールドの名前を定義します。例えば、 BUTTON_GENERATE は有効なボタン名です。 |
| 表示タイプ | 必ず Custom とします。 |
| 表示するタイトル | 通常、1 つの空白文字です。 |
| ヘルプ・テキスト | ボタン上に表示するテキストです。 |

このボタンに関連する動作を実行するには、ユーザ・カスタム・コードが必要です。

ユーザ・カスタム・クラス `BestPractices.java` が同梱される `ExtraView` の標準配布版には、この機能が含まれています。

画像フィールド

データ辞書でカスタム表示タイプのフィールドを定義し、その名前が**IMAGE_**で始まる場合、フィールドをレイアウト上に配置すると画像が画面上に生成されます。

画像の定義に使用される項目を以下に示します。

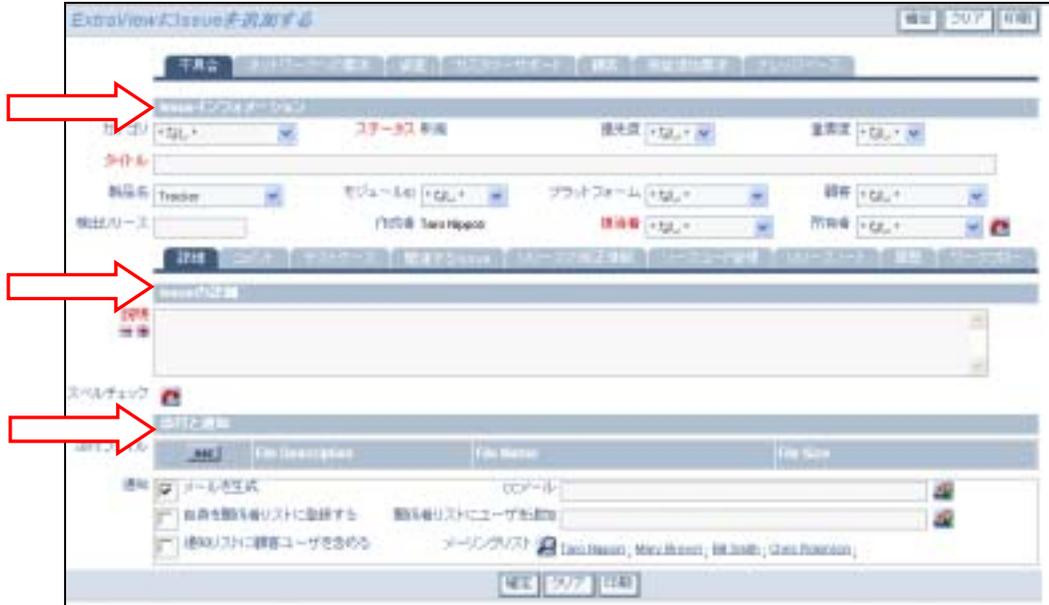
| データ辞書フィールド | 用途 |
|------------|---|
| 固定データベース名 | フィールドの名前を定義します。例えば、 IMAGE_WORKFLOW は有効なフィールド名です。 |
| 表示タイプ | 必ず カスタム とします。 |
| 表示するタイトル | 通常、1 つの空白文字です。 |
| ヘルプ・テキスト | 画像のファイル名です。これは動作設定 <code>IMG_HOME</code> の <code>image</code> への相対パスです。 |

この機能で画面上に配置できる画像は、静止画像に限られます。

ユーザ・カスタム・クラス `BestPractices.java` が同梱される `ExtraView` の標準配布版には、この機能が含まれています。

ルーラー・フィールド

ルーラー・フィールドは、追加画面および編集画面で見出しを生成するために使用されます。ルーラー・フィールドにより、間隔調整やテキスト配置に際してユーザ支援を行うことができます。



追加画面のルーラー・フィールド

| データ辞書フィールド | 用途 |
|------------|--|
| 名前 | フィールドの名前を定義します。例えば、RULE_WORKFLOW は有効なフィールド名です。ルーラー・フィールドは、名前がそれぞれ RULE_ という文字で始まっていれば、必要な数だけ定義することができます。 |
| 表示タイプ | 必ず カスタム とします。 |
| 表示するタイトル | 通常、1 つの空白文字です。 |
| ヘルプ・テキスト | 追加画面または編集画面でルーラ上に表示するテキスト。 |

ユーザ・カスタム・クラス BestPractices.java が同梱される ExtraView の標準配布版には、この機能が含まれています。

STATUS フィールド

STATUSフィールドにはいくつかの特性があり、それらによってこのフィールドの機能は組み込みフィールドを含むその他のフィールドと区別されています。その名前が示すと

おり、このフィールドは設定したワークフローの中で遷移するissueの ステータス を追跡するために使用されます。STATUSフィールドの操作には、以下に示す特性があります。

- STATUSフィールドは、issueにおいてワークフローを管理するために使用されます。リピーティング行に使用可能な、RELEASE_STATUSという相補的なフィールドがあります。両フィールドは、同一の値セットおよび同一のワークフローを共有します。両方のリストの値は、STATUSフィールドリストに定義されます。
- 各STATUS値の間におけるissueの状態の遷移について、ワークフローを設定することができます。このワークフローは、ロール単位または製品単位で設定可能です。また、グローバルに設定して異なるビジネス・エリア間およびプロジェクト間で継承したり、特定のビジネス・エリアとプロジェクトの組み合わせで個別に設定することができます。
- STATUSフィールドは、それぞれの値(オープンまたはクローズなど)に2つのセキュリティ権限キー(1つはissueの追加用、1つはissueの更新用)が与えられる点が特徴的です。ユーザがSTATUSの追加用の値に書き込み権限を持っていない場合、値はSTATUSリストに表示されません。ユーザがissueの更新時にキーへの権限を持っていない場合でも、リスト内の値は参照できますが、リストからその値を選択してissueを更新することはできません。ユーザはそれでも、自分に権限のあるその他のSTATUS値を持つissueを編集および更新することができます。しかしユーザは、issueのSTATUSフィールドを自分に権限のない値に更新することはできません。この機能は、ユーザにissueを更新する権限があったとしても、個別のSTATUS値に更新する権限がない場合があるため必要です。クエリ画面では、ユーザは読み取り/書き込み権限があるかどうかに関係なく、すべてのSTATUS値が見られます。ユーザに対してSTATUS値を非表示にする必要がある場合、STATUSを子値とする許容値の関係を使用して、この機能によって個別のSTATUS値の表示の可否を制御してください。

[STATUS_TRANSITION] フィールド

このフィールドはデータ辞書内で **カスタム** 表示タイプの UDF として定義されます。このフィールドは、ステータス・フィールドに代わるもので、issue のステータスを強調表示し、ワークフローとステータス変更ルールに基づいて、issue が次に移行する正しいステータスを示します。これは以下のように表示されます。



STATUS_TRANSITION フィールド

現在のステータスが強調表示されます。表示されているステータスをクリックすると、issue をそのステータスに移行させることができます。このように機能させるには、同じレイアウト上にステータス・フィールドを残しておき、レイアウト・セル属性 [Visible If] を使用して非表示にします。例えば、ステータス・フィールドの [Visible If] を ID = 0 の場合とします。この条件は絶対に真にならないため、STATUS_TRANSITION フィールドのみが表示されることとなります。同じ画面上にステータス・フィールドを表示すると、ステータス・フィールドと STATUS_TRANSITION フィールドが両方とも縦に並んで機能します。

データ辞書内のフィールドに、幅と高さ(単位ピクセル)のデフォルト値を設定することにより、このフィールドの幅と高さを変更できます。値はセミコロンで区切ります。例えば、デフォルト値を **1000;100** とするとフィールドのサイズは幅 1,000 ピクセル、高さ 100 ピクセルになります。エラーがチェックされないため、デフォルト値の構文は正確に入力しなければなりません。デフォルト値を指定しない場合、幅 900 ピクセル、高さ 80 ピクセルとなります。

[キーワード] フィールド

[キーワード] フィールドは検索レイアウト上で使用され、ExtraView データベースのキーワード検索を行うためのテキスト入力ボックスが表示されます。このフィールドには、PR_RESOLUTION.KEYWORD という通常のセキュリティ権限キーが関連付けられています。ただし、PR_RESOLUTION.ATTACH_TEXT という第 2 のセキュリティ権限キーもあります。このキーも、[キーワード] データ辞書フィールドに適用されます。あるユーザー・ロールにこのキーの読み取り権限がある場合、[キーワード] フィールドの下にチェックボックスが表示されます。このチェックボックスを使用することで、クエリの一部としての添付ファイル検索が可能になります。

[FILTER_CHILD_VALUES] フィールド

[FILTER_CHILD_VALUES] フィールドでは、クエリによってすべての子レコードが返されるかどうかを制御します。このフィールドを検索レイアウトに配置すると、チェックボックスが表示されます。チェックボックスをオンにすると、リピーティング行レコードを生成するクエリによって、issue 内のすべてのリピーティング行が返されます。チェックボックスをオフにすると、クエリ内の残りのフィルタに適合するリピーティング行レコードだけが、クエリによって返されます。

[PROMO] フィールド

[PROMO] フィールドは、ExtraView のサインオン画面内にあります。フィールドのタイトルを使用して、JavaScript を含む HTML を保存します。HTML は、サインオン・ページのユーザー名とパスワードの上に表示されます。HTML には JavaScript を使用することができ、またユーザー定義の JavaScript 関数を呼び出すこともできます。データ辞書内のタイトル・フィールドには 100 文字の制限があるため、単純な入力以外では、多くの場合ユーザー定義の JavaScript 関数が必要になります。

タイマー・フィールド

このフィールドの機能は、画面上のタイマーを作成して、issue の処理にかかった時間の測定に使用することです。追加または編集のレイアウトでは、TIMERFIELDのデフォルト値を使用して、タイマーを **on** または **off** の状態に初期化できます。タイマーが **on** である場合、時間は連続する編集セッションごとにフィールドで累積されます。ユーザーは、タイマーが有効となっていて、毎秒更新されているのが確認できます。

通話時間 

レイアウト上のタイマー・フィールド

現時点では、1つのインストールにおいて1つのビジネス・エリア内でサポートされるタイマー・フィールドは1つだけです。

タイマーを設定するには、データ辞書内に以下のフィールドを定義しなければなりません。

| フィールド | 設定値 |
|--------------|---|
| TIMERFIELD | <p>表示タイプ – カスタム</p> <p>レポート上での選択を許可 – No</p> <p>デフォルト値 – On または Off</p> <p>ヘルプ・テキスト – この issue の処理にかかった時間</p> <p>このフィールドを追加または編集のレイアウトに配置して、タイマーの有効と無効との切り換えに使用するボタンと共にタイマーを表示することができます。このフィールドはカスタム・フィールドであり、レポートに使用することはできないため、レポート作成に使用するためのもう1つのフィールドが定義されています。</p> |
| TIME_ON_CALL | <p>表示タイプ – テキスト・フィールド</p> <p>レポート上での選択を許可 – Yes</p> <p>フィルタ基準 – Yes</p> <p>ソート可能 – Yes</p> <p>ヘルプ・テキスト – この issue の処理にかかった時間</p> <p>このフィールドはExtraViewのカスタム・コードによって保守され、issueの追加時または更新時に TIMERFIELD から値が取得されます。</p> |

表示タイプ

ExtraView の各フィールドには、事前定義フィールドかユーザ定義フィールドかにかかわらず、追加画面と編集画面の入力モードおよびレポート出力の両方で、フィールドの表示および動作を制御する表示タイプがあります。設定可能な表示タイプの範囲は次のとおりです。

ボタン

現時点では、表示タイプが「ボタン」の UDF を作成することはできません。これらの UDF がリストに含まれているのは、システム内で作成された、ラベルとして定義されるボタンで使用されるためです。事前定義の [View]、[Edit]、[History]、および [Delete] フィールドは、ボタン・タイプとして定義され、レポートから適切な機能にアクセスするために使用されます。

チェックボックス

これにより、画面上にチェックボックスが 1 つ作成されます。管理者はフィールドのタイトルを設定するほかに、ボックスのチェックの有無によってレポートに表示される値を選択できます。デフォルトでは、ボックスがチェックされている場合には Y が、チェックされていない場合には N が表示されます。これらの値は、Yes/No や On/Off など、その他のタイトルに変更できます。

通貨

このフィールドにより、入力する数値を通貨での金額の書式(通貨記号、千桁区切り、小数点など)で表示させることができます。ユーザは、有効な通貨記号のリストから選択でき、負の数の書式および千桁区切りの設定を行えます。通貨フィールドに対する書式情報は、表示タイプの[通貨]を選択リストから選択したときにデータ辞書に表示されるボックスの中に入力されます。

カスタム

このフィールドでは、ExtraView のユーザ・カスタム・コードによってフィールドの内容と管理方法が指定されるため、新しいカスタム表示オブジェクトによって ExtraView の機能を拡張できます。フィールドのタイトルは、通常どおりオブジェクトのタイトルを使用して付けられます。コードを得るためのユーザ・カスタムに対するメソッド呼び出しは次のとおりです。

```
ucValue = Z.userCustom.ucRenderEmbeddedObject (
    dbconn,
    session,
    layoutType,
    dde,
    ddName,
    selectedVals,
    selectedVal,
    multipleVals,
    attributes,
    prefix,
    le,
    row,
    styleVal,
    doHiddenInput) ;
```

これによって返される値 ucValue は文字列です。この表示タイプの詳細については、『User Custom Guide』を参照してください。ただし、この表示タイプを使用することで、ほとんどのようなコードでもレイアウトに表示することができます。

日付

このフィールドでは、日付を入力して保存できます。日付フィールドでは、それぞれの追加画面または編集画面で、自動的にポップアップ・ボタンが設定されます。このボタンにより、カレンダーへのアクセスが可能になります。

日付は、ユーザのロケールに合わせて設定されます。例えばロケールが [US English] である場合、日付 1/5/05 は 2005 年 1 月 5 日と解釈され、ロケールが [GB English] である場合は、日付 1/5/05 は 2005 年 5 月 1 日と解釈されます。

日付はすべて時間コンポーネントと合わせて保存されます。ユーザのタイムゾーンが動作設定 DB_TIMEZONE に保存されているタイムゾーンと異なる場合は、ユーザが入力する時間と日付は、DB_TIMEZONE の対応する値に変換されて保存されます。同じユーザがその日付にアクセスして表示すると、そのユーザのタイムゾーンに変換されて再表示されます。ユーザのタイムゾーンが、日付と時間を入力したユーザのタイムゾーン、および DB_TIMEZONE と異なる場合、日付と時間はそれぞれのタイムゾーンに変換されて表示されます。

いずれかのユーザが日付フィールドを表示すると、日付はそのユーザ固有の日付形式で表示されます。

お使いのアプリケーションで、格納したい日付に対して時刻が必要でない場合、フィールドの定義に「日」の表示タイプを使用することをお勧めします。

注: Microsoft SQL Server では制限によって 1753 年以前の日付は無効であり、保存できません。また 1753 年以前の日付を基準とした計算も無効です。お使いのインストールが SQL Server 上で稼働している場合、この制限について ExtraView で対応することはできません。

日

日数フィールドは、日付表示タイプのフィールドとは動作が異なります。第 1 に時間コンポーネントがなく、画面またはレポートには日付だけが表示されます。

第 2 に、日付はユーザのローカルのタイム・ゾーンから DB_TIMEZONE に変換されません。日付は入力されると同時に保存され、タイムゾーンの種類にかかわらず、保存された値と同じ形式ですべてのユーザに表示されます。フィールドの一部に時刻が必要な場合は、「日付」表示タイプ・フィールドを使用してください。

日付は、選択した日付形式で各ユーザに表示されます。

注: Microsoft SQL Server では制限によって 1753 年以前の日付は無効であり、保存できません。また 1753 年以前の日付を基準とした計算も無効です。お使いのインストールが SQL Server 上で稼働している場合、この制限について ExtraView で対応することはできません。

小数

小数点以下の位をもつ数値を入力・保存することができます。ExtraView の実装では、精度38桁、小数点以下10桁(小数点の左側28桁、右側10桁)を使用して値がデータベースに保存されます。Javaバージョン1.4の制限により、実際に利用可能なのは全体で15桁までの小数になります。基盤となるJavaのサポートがバージョン1.5以降で提供されるようになれば、小数点の左側28桁、右側10桁からなる全部の精度が利用可能となります。

HTML エリア

この表示タイプでは、HTML エディタでテキストを入力および編集できます。このフィールドは追加画面および編集画面に、ツールバー付きでテキストエディタのように表示されます。レポート上には、画像などの埋め込みオブジェクトを含むフィールド内のHTMLがレンダリングされます。ツールバー上に表示するボタン、およびツールバーのスタイルはそれぞれ動作設定のEDITOR_BUTTONSおよびEDITOR_STYLEによって制御可能です。

ラベル

ラベルは表示項目としてのみ使用されます。データベースにはラベル・フィールドに対するいかなるデータも保存されません。通常、ラベルにはデータ辞書のデフォルト値フィールドの値が与えられ、画面に読み取り専用モードで表示されます。一部の事前定義ラベルはExtraView内部でも使用され、ユーザのインストレーションにおいて「problem」などの用語をExtraViewで使用される用語に変換するための手段として使用されます。

リスト

値のリストです。リスト表示タイプのフィールドでは、管理画面の[リスト]セクションに入力されます。このセクションで、リスト項目の追加または削除ができます。リストは多くの場合許容値と合わせて使用され、データ入力モードで個々の項目の有無を制御します。2つ以上のフィールドで、同一の値のリストを実装する必要がある場合、2番目以降のフィールドは「エイリアス」機能を使用して作成することができます。作成した最初のフィールドで値のリストを管理すれば、ExtraViewが自動的に別名のリストを更新します。この機能により労力が削減され、同一のリストを同内容に保つことができます。同時に、各フィールドに対して別々の許容値のエントリを定義することができます。

また、レイアウト・セル属性の[* 新規 * エントリをリスト・フィールドに追加]を使用して、ユーザが管理者権限を持たない場合にも、新しい値をリストに作成できるように設定することもできます。

拡張性を維持するため、表示タイプがリストであるフィールドはポップアップ表示タイプに変更が可能です。この変更を行う際、実行されているビジネス・ルールはすぐには更新されません。そのため変更したフィールドを使用しているどのルールも、ルール自体が更新される(数時間ごとに実行される自動処理により)までは機能しません。ただちにルールを実施したい場合は、ルール画面に移動し、[更新]ボタンを押します。

ログ・エリア

このフィールドは、フィールドに対する連続的なテキスト・エントリのログとして機能します。PR_RESOLUTION.EDIT_LOGAREA_FIELDS というセキュリティ権限キーに対するアクセス権がないユーザは、以前のエントリの編集または削除はできず、エントリの追加だけが可能です。各エントリについては、ユーザ名とタイムスタンプが表示されます。ログ・エリア・フィールドには、最大 32k のテキストを入力できます。フィールドを更新できる場合は、テキスト・エリアを拡大および縮小するためのボタンが 2 つ、フィールドの横に表示されます。[Administration] の [表示の設定] エリアに、LOG_AREA_DISPLAY_CHARS という動作設定があります。この動作設定は、編集画面に表示される古いエントリのサイズを短縮するために使用されます。このフィールドを短縮すると、最後に「詳細…」が表示され、これをクリックすると画面にエントリ全体が表示されます。ログ・エリア・フィールドは、リピーティング行のレイアウトに配置することはできません。

ログ・エリアフィールドの各エントリの前にはヘッダーがあり、ユーザの名前、ユーザの会社名、コメントのタイムスタンプの組み合わせが表示されます。このヘッダーの表示様式を調整するには、動作設定 LOG_AREA_TEMPLATE のテキストを参照してください。

注:ユーザがセキュリティ権限キー PR_RESOLUTION.ASSIGNED_TO に対する読み取り許可を持たない場合は、ログ・エリアへの入力を行ったユーザ名を見ることはできません。これは、顧客またはゲストに、入力したユーザを知らせずにコメントを参照させる場合に便利です。

レイアウト・セル属性の `onkeyup=autoSize(this);` を追加することにより、ログ・エリアフィールドの大きさをフィールド内のテキストの長さに合わせて自動設定することができます。この属性は、それが設定されたレイアウトの中でのみ適用されます。この属性を設定すると、ユーザがさらにテキストを入力したとき、フィールドが占有する行の数が自動的に増加します。

数値

これは数字の入力と保存だけが可能なフィールドです。数字には小数点を使用できませんが、他の形式を使用することはできません。数値 データ・タイプに使用される内部データ・タイプは `double` で、精度は十進数でおおよそ 16 桁 (0 から 9007199254740992) まで許容されます。これより大きい数値を入力すると、精度と正確さが失われることとなります。

ポップアップ

リスト表示タイプと同様ですが、別に可能な値のリストのポップアップ・ウィンドウが開きます。ユーザはエントリをフィールドに直接入力するか、またはポップアップ・ウィンドウのリストから値を選択します。ポップアップ・ボックスは検索が容易であるため、このフィールドは、リストの項目数が多い場合 (エントリ数が 100 を超える場合など) に便利です。動作設定 POPUP_LIST_SIZE で定義された項目数よりもリストのエントリ数が多い場合は、ポップアップ・リストに検索ボックスとデータ・エントリの最初の文字のリスト (通常は A ~ Z) が表示され、リストの検索を容易に行うことができます。

出力テキスト

テキスト・エリア・タイプのフィールドと似ていますが、フィールドの表示に固定幅フォントが使用されます。このタイプは、フィールドに +-----+ などの文字で描かれた図が頻繁に入力され、図中の正確な間隔を保持したい場合に使用できます。出力テキスト・フィールドには一度に最大 32k のテキストを入力できます。編集モードの場合には、テキスト入力エリアを拡大または縮小できるボタンが 2 つ、フィールドの横に表示されます。出力テキストのテキスト出力フィールドによるレポートでは、データ内のスペースや改行を含め、フィールドを作成したときのスペースが正確に保持されます。入力された状態が保持されることで、詳細レポートなどのレポートが表示される幅が通常より広くなる場合があります。

レイアウト・セル属性の `onkeyup=autoSize(this);` を追加することにより、出力テキストフィールドの大きさをフィールド内のテキストの長さに合わせて自動設定することができます。この属性は、それが設定されたレイアウトの中でのみ適用されます。この属性を設定すると、ユーザがさらにテキストを入力したとき、フィールドが占有する行の数が自動的に増加します。

タブ

このフィールドは表示タイプ・リストと同様に機能しますが、値のリストがタブのセットとして画面全体に表示されます。通常このフィールドは、選択したタブによってその後表示されるフィールドが変わる場合など、画面上で高度な選択を可能にするために使用されます。この表示タイプは、表示されるリストに画面内に収まらないほどのエントリ数がある場合は使用できません。

テキスト・フィールド

これは単一行のテキスト・フィールドです。テキスト・フィールドには最大 255 文字まで入力できます。テキスト・フィールドが使用される各レイアウト内でデータを入力するテキスト・ボックスの幅は、レイアウト・セル属性 [Size] を使用して調節できます。

テキスト・フィールドにおける電話番号の書式設定

米国の電話番号の標準形式を適用するためにテキスト・フィールドに適用可能な、組み込みの機能があります。テキスト・フィールドでこの機能を有効にするには、以下の3つのHTML修飾子を持つレイアウト・セル属性を作成します。

```
onkeypress=return formatAsPhoneNum2(this, event)
```

```
onkeyup=formatAsPhoneNum2(this)
```

```
onchange=formatAsPhoneNum2(this)
```

ここには HTML 修飾関数である `formatAsPhoneNum()` を使用した、現在は推奨されない電話番号形式があります。これはすべてのブラウザ内で機能するとは限らないため、もう使用すべきではありません。

電話番号に異なる書式を設定する必要がある場合、または任意のテキスト・フィールドの書式を効率的に設定する必要がある場合は、ユーザ JavaScript 関数を記述して、それをフィールドのHTML修飾子から呼び出すことが推奨されます。

テキスト・エリア

これは複数行のテキスト・フィールドです。テキスト・エリア・フィールドには、最大 32k のテキストを入力できます。フィールドが編集モードである場合は、テキスト入力エリアを拡大または縮小するためのボタンが 2 つ、フィールドの横に表示されます。テキスト・フィールドにはタブ文字を入力することはできません。

レイアウト・セル属性の `onkeyup=autoSize(this);` を追加することにより、テキスト・エリア・フィールドの大きさをフィールド内のテキストの長さに合わせて自動設定することができます。この属性は、それが設定されたレイアウトの中でのみ適用されます。この属性を設定すると、ユーザがさらにテキストを入力したとき、フィールドが占有する行の数が自動的に増加します。

ユーザ

ユーザ・フィールドには、事前定義フィールドの `[担当者]`、`[作成者]`、`[所有者]`、`[連絡先]` があります。これらのフィールドが表示されるユーザ・リストには、動作設定の `USERNAME_DISPLAY` プロパティに従い、`名`、`姓`、またはユーザ ID が表示されます。

ユーザ定義フィールドは、ユーザ表示タイプで定義できます。これにより、システム内で有効なユーザのリストが作成されます。

ユーザ定義フィールド(UDF)

ユーザ定義フィールド(UDF)は、出荷時の製品には含まれていない、ExtraView のインストレーションに独自に設定されるフィールドです。ニーズに合わせてサイトをカスタマイズし、特定の適切なフィールドを設定したい場合に、UDF を利用できます。これは非常に効率的で拡張性が高いメカニズムです。UDF は制限なく作成することができます。UDF は、データ辞書で作成および保持されます ([Administration] メニューの [フィールドとレイアウト] タブの [データ辞書] を参照)。

UDF は、`テキスト`、`数字`、または `日付` など、多数の表示タイプのいずれかを使用して入力します。さらに、`リスト・タイプ` の UDF には同時に複数の値を入力して、値をリスト全体の個別のメンバーとすることができます。

UDF の名前はインストレーション内で固有でなければならず、データ辞書に保存されている他の名前と競合しないようにする必要があります。UDF の名前では、`A ~ Z`、`0 ~ 9`、`「_」` 以外の文字は使用できません。最初の文字はアルファベットにする必要があり、最大 30 文字まで使用できます。

さらに、UDF 名として使用できない予約語があります。除外用語は、`ACTION`、`CALLED_FROM`、`CHILD`、`CUSTOMER`、`CLASS`、`CUSTOM_URL`、`FROM_ACTION`、

FROM_OPTION、GROUP、INTERFACE、LAYOUT_SESSION_TAG、NEW_REPORT、NOTIFY、OPTION、PAGE_LENGTH、PAGE_SIZE、PARENT、RECORD_COUNT、RECORD_START、REPORT_AS_OF、REPORT_DESC、REPORT_ID、REPORT_OWNER、REPORT_START、REPORT_STOP、REPORT_TITLE、SEARCH_ATTACH_SIZE、SECURITY、SELECTED、SELECTEDSO、SHOW_EXPANDED、SOURCE、SOURCE_SO、TEMPLATE_EXPANDED、UDF、VALUE です。

UDF の作成および使用

このプロセスには 3 つの手順があり、作成する新しいユーザ定義フィールドそれぞれについて実行する必要があります。

1. データ辞書で UDF を作成します ([フィールドとレイアウト] メニュー)。
2. フィールドに各ユーザ・ロールに対する適切な許可が設定されるように、セキュリティ・キー許可を設定します ([フィールドとレイアウト] メニュー)。
3. 適切な画面とレポート・レイアウトに UDF を配置します ([フィールドとレイアウト] メニュー)。

| フィールド名 | タイプ | 説明 | 作成者 | 作成日時 | 最終更新日時 |
|-----------------------------|-------------------|-------------------|-----------------------------|------------------------|------------------------|
| ABSTRACT | 文字列 | テキストエリア | | 2005/11/09 5:50:08 午後 | 2005/03/01 11:50:21 午前 |
| ALT_ID | 整数 | 中央リポートフィールドのIDです。 | | 2005/01/01 5:50:08 午後 | 2005/11/07 5:50:08 午後 |
| AREA | ビジネスエリア | タブ | 社内の部署も利用可能なエリアです。 | 2005/01/01 5:50:08 午後 | 2005/01/01 5:50:08 午後 |
| ASSIGNED_TO | 担当者 | ユーザ | 現在の状態の担当者になっているユーザの名前です。 | 2005/01/01 5:50:08 午後 | 2005/05/09 9:44:25 午後 |
| ATTACHMENT_ID | 添付ID | ラベル | 添付フィールドのIDです。 | 2005/01/01 5:50:08 午後 | 2005/01/01 5:50:08 午後 |
| ATTACH_CHANGE_TYPE | 変更タイプ | ラベル | 添付フィールドの変更タイプ | 2006/02/04 11:42:00 午前 | 2006/02/01 2:48:28 午後 |
| ATTACH_CONTENT_TYPE | 添付フィールドのタイプ | ラベル | 添付フィールドのフィールドタイプです。 | 2006/01/01 5:50:08 午後 | 2006/01/01 5:50:08 午後 |
| ATTACH_CREATED_BY_USER | 作成者 | ユーザ | 添付フィールドの作成者です。 | 2005/01/01 5:50:08 午後 | 2005/01/01 5:50:08 午後 |
| ATTACH_DATE_CREATED | 作成日 | ラベル | 添付フィールドの日付です。 | 2005/01/01 5:50:08 午後 | 2006/04/09 7:20:10 午後 |
| ATTACH_FILE_DESC | ファイルの説明 | ラベル | 添付ファイルの説明です。 | 2005/01/01 5:50:08 午後 | 2005/01/01 5:50:08 午後 |
| ATTACH_FILE_NAME | ファイル名 | ラベル | 添付ファイルのファイル名です。 | 2005/01/01 5:50:08 午後 | 2005/01/01 5:50:08 午後 |
| ATTACH_FILE_SIZE | ファイルサイズ | ラベル | 添付ファイルのファイルサイズです。 | 2005/01/01 5:50:08 午後 | 2005/01/01 5:50:08 午後 |
| ATTACH_MIME_TYPE | 添付フィールドの MIME タイプ | ラベル | 添付フィールドの MIME タイプです。 | 2006/02/04 11:42:00 午前 | 2006/11/07 12:40:34 午後 |
| ATTACH_LAST_DATE_UPDATED | 最終更新日 | ラベル | 添付フィールドの最後に更新された日付です。 | 2006/02/04 11:42:00 午前 | 2006/02/07 18:37:36 午前 |
| ATTACH_LAST_UPDATED_BY_USER | 最終更新者 | ユーザ | 添付フィールドの最後の更新者です。 | 2006/02/04 11:42:00 午前 | 2006/02/09 8:35:00 午前 |
| ATTACH_LAST_UPDATE_COMPANY | 最終更新者の会社 | ラベル | 最終入力ユーザの会社 | 2006/02/01 8:37:36 午前 | 2006/04/09 7:21:38 午後 |
| ATTACH_PATH | 添付フィールドのディレクトリ | ラベル | 添付フィールドが保存されている元のディレクトリです。 | 2005/01/01 5:50:08 午後 | 2005/01/01 5:50:08 午後 |
| ATTACH_TEMPLATE | サンプiel | ラベル | 添付フィールドのサンプielテンプレートを選択します。 | 2006/05/06 7:40:01 午前 | 2006/10/25 11:00:54 午前 |
| AUTOMATED | 自動化 | チェックボックス | | 2005/11/09 5:50:08 午後 | 2005/05/05 9:24:26 午前 |

ユーザ定義フィールド画面

ユーザ定義フィールドの追加

1. [Administration] メニューから [フィールドとレイアウト] タブを選択し、[データ辞書] ボタンをクリックします。
2. 新しく UDF を追加するには、[Add] ボタンをクリックします。次の画面が表示されたら、必要な値を入力します。
3. [更新] ボタンをクリックします。

データ辞書に新しいフィールドを追加

追加 キャンセル 印刷

フィールド所属先 [?] Issue レコード

固定データベース名 [?]

表示するタイトル [?]

表示タイプ [?] *リストから表示タイプを選択*

エイリアス [?] *エイリアスを選択*

レポート上での選択を許可 [?] はい いいえ

レポート上の合計フィールド [?] はい いいえ

最後の値を記憶 [?] はい いいえ

複動値 [?] はい いいえ

フィルタ基準 [?] はい いいえ

ソート可能 [?] はい いいえ

URL として表示 [?] はい いいえ

URL [?]

ヘルプテキスト [?]

ヘルプ URL [?]

追加 キャンセル 印刷

ユーザ定義フィールド追加画面

データ辞書フィールドのプロパティ

フィールド所属先

[フィールド所属先] – プロンプトに対して UDF が関連付けられるレコード・タイプを入力します。この場合、2つの選択肢があります。

[Issueレコード] – UDF が、データベース内の各 issue のメイン・レコードに関連付けられることを示します。

[リピーティング・レコード] – UDF が、メインの issue に追加される各リピーティング行に関連付けられることを示します。リピーティング行では issue と多対一の関係が保持される

ため、作成する UDF は、メインの issue に追加される各リピーティング行レコードで使用できます。

注: フィールドの作成後は、このプロパティを変更することはできません。

固定データベース名

フィールドの決められたデータベース名です。このフィールドは必須です。名前¹の長さは 1 ~ 30 文字とし、次の文字以外は使用できません。

A ~ Z 0 ~ 9 _ .

固定データベース名には、アンダースコアを連続して使用することはできません。

表示するタイトル

タイトルは画面やレポートに表示されます。タイトルの長さは 1 ~ 100 文字とします。このフィールドは必須です。どのような文字でも使用できます。複数のロケールが有効になっている場合、このフィールドは任意の有効な言語に変換されます。この場合、フィールドの長さは 3,800 文字までとなります。

表示タイプ

有効な表示タイプについては、このガイドの前のセクションで説明しています。

小数フィールドの情報

この情報ブロックは、フィールド表示タイプに小数を選択した場合にのみ表示されます。フィールドに要求される書式を、ラジオボタンを使用して選択します。

| 小数フィールドの情報 | |
|------------|--|
| 負数の表示形式 | <input type="radio"/> ? <input checked="" type="radio"/> -98.45 <input type="radio"/> (98.45) <input type="radio"/> -98.45 <input type="radio"/> (98.45) |
| 千桁毎の区切り | <input type="radio"/> ? <input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ |

小数フィールドの情報

数値フィールドの情報

この情報ブロックは、フィールド表示タイプに数値を選択した場合にのみ表示されます。フィールドに要求される書式を、ラジオボタンを使用して選択します。

| 数値フィールドの情報 | |
|------------|--|
| 負数の表示形式 | <input type="radio"/> ? <input checked="" type="radio"/> -98.45 <input type="radio"/> (98.45) <input type="radio"/> -98.45 <input type="radio"/> (98.45) |
| 千桁毎の区切り | <input type="radio"/> ? <input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ |

数値フィールドの情報

通貨フィールドの情報

このブロックは、フィールド表示タイプに**通貨**を選択した場合にのみ表示および使用されます。

通貨フィールドの情報

通貨単位のリストは完結しており、各フィールドに対して1つずつ選択できます。1つのフィールドで異なる通貨を表したい場合、通貨表示タイプのフィールドは使用できません。表示された4つのオプションから、通貨のマイナス表示の方法を選択します。その他のオプションでは、通貨記号と千桁毎の区切り文字について、表示するかどうかを選択することができます。

エイリアス

他のフィールドのエイリアスになるフィールドは、表示タイプをリスト、ポップアップ、タブとして作成されたフィールドに限られます。この設定でフィールドを作成すると、フィールドの値リストはユーザが保守するのではなく、[エイリアス] 選択リストから選択したフィールドの値リストを使用して作成されます。この機能により労力が軽減され、同一の値リストを複数のフィールドで使用する必要があり、リストは単一の場所で管理したい場合に利用できます。例えば、製品のリリースリストを作成して、このリストを[検出リリース]と[修正リリース]の2つのフォームで使用したいとします。両フィールドを単一の編集画面に配置し、フィールドを個別に更新しますが、フィールドの保守は一箇所で行います。

それでも、他のフィールドの[エイリアス]であるフィールドは、独自の許容値リストにより制御が可能です。これにより、基となる1つのリストから、マスターリストの部分集合となる個別のリストを作成することができます。

レポート上での選択を許可

レポートで使用できないフィールドを指定することができます。例えば、特定のインスタレーションにおいて、ユーザが使用できないフィールドに関してはそれを表示しないようにすることによって、有効なフィールドだけが表示され、選択が簡単に行えるようになります。またデータ辞書には画像、ボタン、画面など、レポートでの選択に適さないフィールドが多数あるため、この設定が有益です。

レポート上の合計フィールド

表示タイプが数値の場合にのみ有効です。選択されると、カラム・レポートで自動的にフィールドの合計値が算出されます。この設定は、表示タイプが数値でない場合は無視されます。

最後の値を記憶

このオプションを設定すると、[Issueを追加] および [クエリ] 画面で個々のユーザが入力または選択した最後の値が記憶されます。これにより、頻繁に変更されない値を記憶することができます。例えばこれにより、多数のユーザが同じ製品を長期間使用することができます。

複数值

UDF で複数の値を入力するには、リスト、ポップアップまたはユーザの表示タイプを使用する必要があります。UDF で複数の値を入力できるようにすると、ユーザは有効なエントリとして、任意の数の項目をリストから選択できます。例えば、issue を記録できる OS のリストを設定するとします。issue が一部の OS だけに含まれるようにするには、該当するエントリをリストから選択します。SORT_SELECTED_VALUES という動作設定により、複数值リストで選択された値のソート順が制御されます。これが NO に設定されると、すべての複数值リストはフィールドの標準ソート順として設定された順序で表示されます。この値が YES に設定されると、選択されたすべての値はそれらのソート順を使用してリストの最初に表示され、次に選択されていない値がそのソート順を使用して表示されます。

フィルタ基準

このオプションにより、フィールドがクエリ・フィルタ・レイアウトで検索基準として選択可能になります。この項目にチェックを入れた場合のみ、フィールドをフィルタ画面レイアウトに配置して、クイック検索、カラム・レポート、サマリ・レポート、グラフが可能になります。

関係者リストを有効にする

データ辞書項目内のこのフラグにより、フィールドの特定の値についての関係者リストの通知が可能になります。例えば、重要度レベルが critical である issue に基づく関係者リストを作成する場合があります。重要度レベルに基づく関係者リストを有効にすると、管理者は重要度レベル関係者リストの critical なリスト項目を編集して、関係者リスト内のユーザ名リストを保守できます。

ソート可能

このオプションを Yes に設定すると、レポート作成画面でフィールドがソート順リストに表示されます。次のような表示タイプの一般的なフィールドに、ソート可能/不可のフラグを付ける必要があります。

| ソート可能 | ソート不可 |
|----------|------------|
| チェックボックス | ボタン |
| 日付 | カスタム |
| 日数 | HTML エリア |
| リスト | ラベル |
| 数値 | ログ・エリア |
| ポップアップ | 出力テキスト |
| タブ | テキスト・フィールド |
| ユーザ | テキスト・エリア |

URL として表示

このオプションは、どの UDF の場合にも必須ではありません。フィールドに関連する名前または値を、作成する URL の一部として使用できます。これにより、フォームのフィールド値を任意のリモート・アプリケーション (または URL でアクセス可能な事前定義の ExtraView 機能) にリンクして、フォームの値を使用して別のアプリケーションにパラメータとして渡すことが可能です。

URL へのリンクを設定してフィールドを有効にするには、[URLとして表示] ラジオ・ボタンを Yes に設定します。

- a. [URLとして表示] ラジオ・ボタンの下のフィールドに、適切な URL を入力します。
- b. 定義するデータ辞書フィールドから、またはフォームの他のフィールドから値を渡すことができます。パラメータとして渡すことができる値のフォームには、次のものがあります。

| パラメータ | 説明 |
|----------------------|--|
| \$\$VALUE\$\$ | フィールドの現在の値をリクエストのパラメータとして渡します。 |
| \$\$DDNAME.VALUE\$\$ | DDNAME フィールドの現在の値をリクエストのパラメータとして渡します。 |
| \$\$DDNAME.NAME\$\$ | DDNAME フィールドの項目名を、データベースに保存されるパラメータとして渡します。例えば、STATUS というフィールドに FIXED と名前が付けられ、値が Fixed の場合は、\$\$STATUS.NAME\$\$ はパラメータとして FIXED を渡します。 |
| \$\$DDNAME.TITLE\$\$ | DDNAME フィールドの項目のタイトルを、データベースに保存されるパラメータとして渡します。例えば、STATUS というフィールドに FIXED と名前が付けられ、値が Fixed の場合は、\$\$STATUS.TITLE\$\$ はパラメータとして Fixed を渡します。これは \$\$DDNAME.VALUE\$\$ パラメータと同等です。 |
| \$\$URL\$\$ | 現在のフィールドの非エスケープ値をリクエストのパラメータとして渡します。 |
| \$\$DDNAME.URL\$\$ | DDNAME というフィールドの非エスケープ値をリクエストのパラメータとして渡します。 |

- c. エントリ末尾の \$\$ は任意です。
- d. 実行中の ExtraView のインスタンスに現在のパスを含めるには、タグ \$\$APP_HOME\$\$ を使用します。
- e. DDNAME がデータ辞書の特殊変数 (SYSDATE など) である場合、渡される値は特殊変数の値です。
- f. DDNAME がデータ辞書のセッション変数 (USER など) である場合、渡される値は特殊変数の値です。

- g. ExtraView のその他の機能呼び出して、適切な動作を実行することができます。例えば、検索機能を使用し、クイックリスト・レポートに結果を表示するリンクをフィールドに設定できます。

例 1 – リモート・アプリケーションにパラメータとして値を渡します。

[http://search.yahoo.com/search?p=\\$VALUE\\$\\$](http://search.yahoo.com/search?p=$VALUE$$)

これによりフィールドの現在の値が Yahoo に渡され、値の検索が実行されます。検索結果は新しいウィンドウに表示されます。

例 2 – ユーザの詳細を示すウィンドウが表示されます。

```
$$APP_HOME$$ExtraView?p_action=showUserDetails&
p_option=admin.UserAccountsDisplay&p_user_id=$$NAME$$
```

これにより、ユーザの詳細について、ExtraView のポップアップ表示が参照されます。この URL は、ユーザ表示タイプ・フィールドと合わせて使用します。

例 3 – キーワードで検索を行い、結果をクイックリストで表示します。

```
?p_action=doRunQuicklist&p_option=search.SearchDisplay
&searchword=$$VALUE&product_name=$$PRODUCT_NAME
&assigned_to=$$ASSIGNED_TO
```

この例は、searchword フィールドの URL に置かれます。これにより、表示フィールド searchword の値と [製品名] および [担当者] フィールドの現在の値を使用して、ExtraView の検索クラスにアクセスすることで、クイックリスト・レポートが作成されます。

- h. URL フォームは、フィールドを完全整形 URL に特殊文字をエスケープせずにリンクするために使用されます。例えば、データ辞書の URL 値 \$\$URL\$\$ を使用すると、[URL として表示] ボタンをクリックした場合、<http://www.yahoo.com> が含まれるフィールドは直接 Yahoo! のサイトにリンクします。

デフォルト値

フィールドのデフォルト値を入力すると、新しい issue を追加したときに、指定した値が自動的に選択されます。フィールドに設定した最後の値が記憶されている場合は、デフォルト値に優先してその最後の値が使用されます。

デフォルト値は、レイアウト上でフィールドが表示されているかどうかにかかわらず、レコード内のフィールドの入力で使用されます。これには、次の例に示すように非常に重要な利点があります。顧客ユーザ・ロールの [Issueを追加] レイアウトを作成し、レイアウトにステータス・フィールドが表示されていない場合でも、顧客がサブミットした issue に対して自動的にステータス *unassigned* が与えられるようにするには、デフォルト値を使用します。顧客が使用する [Issueを追加] レイアウトにはステータス・フィールドを設定しないか、または顧客がフィールドでの読み取りまたは書き込みができないように、ステータス・フィールドのセキュリティ・キーを設定します。

注: 表示タイプがチェックボックス、リスト、ポップアップ、タブ、ユーザであるフィールドのデフォルト値は [デフォルトを選択] ボタンを使用して入力する必要があります。これらのフィールドのボックスにテキストを入力しても機能しません。その理由は、表示される値だけではなくこれらのフィールドの内部 ID を ExtraView が認識する必要があるからです。テキストなど、上記以外の表示タイプの場合は、直接テキストを入力することができます。デフォルト値は、フィールドが作成された後、フィールドの編集により入力できます。



デフォルト値の入力

ヘルプ・テキスト

このフィールドに入力することで、フィールドの横にあるラベルの上にマウスを置くと表示される、ツール・チップ・メッセージを設定できます。ExtraView インスタンスでローカライズ機能が有効でない場合、ツール・チップには、最大 2,000 バイトまで指定できます。ローカライズ機能が有効である場合、ツール・チップには 3,800 バイトまで格納できます。しかし、Windows やその他の OS での表示方法からみて、あまり文字数の多いツール・チップを設定することはお勧めしません。通常、ツール・チップが表示されるのは約 2 秒間であるため、その間に読み取れないような情報量を含めないようにしてください。

ヘルプ URL

ヘルプ URL は、作成したオンライン・ヘルプ・システムのブックマークまたはページにリンクすることができます。お客様の ExtraView が ExtraView Corporation によってホストされている場合、この URL を当社のサーバに設定する必要はありません。これらのファイルは、インターネット上の任意の場所に保存してアクセスできます。

注:UDF(またはその他のフィールド)を上記のように作成した場合は、ユーザの画面上にはまだ表示されません。表示するには、さらに 2 つの手順を実行する必要があります。フィールドを作成したら、[セキュリティ権限の付与] 画面で適切なユーザ・ロールでフィールドを表示可能にし、目的の場所にあるすべての画面およびレポート・レイアウトに、新しいフィールドを配置する必要があります。

注:UDF の表示タイプがリストまたはタブである場合は、管理画面の [リスト] タブにエントリが表示され、リストに表示される項目を追加および編集できます。

既存のユーザ定義フィールドの編集

データ辞書の [UDF] タブで、変更する UDF の横にある [Edit] アイコンをクリックします。

次のような画面が表示されます。

[データ辞書 エントリを変更] 画面

必要な変更を行い、[更新] ボタンをクリックします。

セキュリティ権限の付与

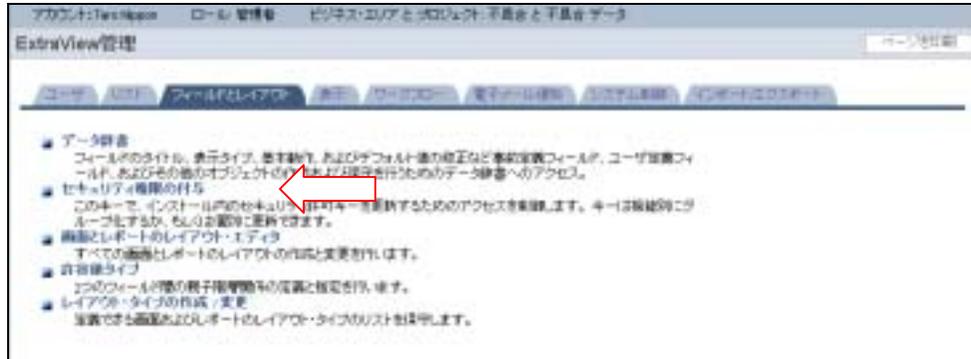
[セキュリティ権限の付与] では、ExtraView のすべてのフィールド、ボタン、機能に対する、各ユーザ・ロールのアクセス権を制御します。許可の設定では、システム管理者がこのような項目について、読み取り/書き込み専用、読み取り/書き込み可能、非表示などの設定を行うことができます。

ExtraView のこの機能は、エリアやプロジェクトが有効になっている場合、わずかに作用が異なります。セキュリティ・システムでは、継承の概念が適用されます。各エリアおよびプロジェクトは、各キーに対して異なるセキュリティ権限を持つ場合があります。ただし、エリア・レベルでなんらかの設定が行われない場合は、マスタ・レベルのキーの値が使用されます。同様に、プロジェクト・レベルで値が設定されていない場合は、キーに対してエリア・レベルの値が設定されます。これにより、マスタ・レベルと異なるセキュリティ・キーだけに値を設定する場合に、ExtraView を効率的に管理できます。

1 つまたは複数のセキュリティ権限キーを更新すると、許可の変更は変更を行った管理ユーザについて直ちに有効になります。その他すべてのユーザについては、動作設定 SECURITY_CACHE_MINUTES で定義された時間によって各ユーザのセキュリティ・キャッシュが更新された時点で、変更が有効になります。この場合のデフォルトの時間は 30 分であるため、サインオンしているユーザに対してはこの時間内に変更結果が表示されます。新たにサインオンしたユーザに対しては、更新された許可が直ちに表示されます。

セキュリティ権限の編集

1. [Administration] メニューの [フィールドとレイアウト] タブで、[セキュリティ権限の付与] をクリックします。



管理画面

次の画面が表示されます。



[セキュリティ権限の付与] 画面

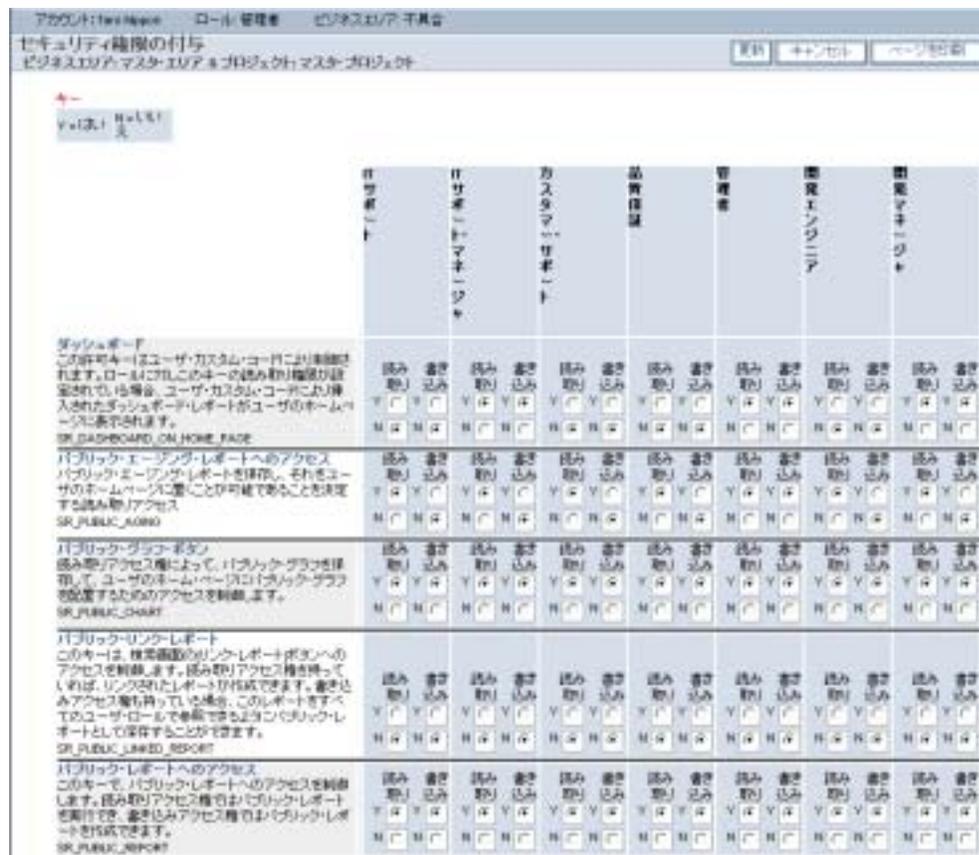
2. この画面では、すべてのシステム・セキュリティ・キーに対するユーザ・ロール許可を変更できます。次のようなオプションがあります。

- [すべての画面へのアクセス キー]
- [すべてのレコードの追加 キー]
- [すべての管理オプション キー]

- [すべてのビジネス・エリアのセキュリティ キー]
- [すべてのレコードおよびクエリの編集 キー]
- [すべてのセキュリティ・アクセス キー]
- [すべてのステータス キー]
- [すべてのユーザ定義フィールド・キー]
- 個別のセキュリティ・キー、または個別のセキュリティ・キーのグループ

3. 1つまたはすべてのユーザ・ロール、セキュリティ・キーのカテゴリ、または個別のセキュリティを選択したら、[選択したキーの許可を設定] ボタンをクリックします。キーボードの Ctrl キーと Shift キーの標準的な組み合わせとマウス・ボタンを使用して、複数のキーを選択できます。この場合のキーの組み合わせは、ブラウザのタイプや OS によって異なります。ブラウザのマニュアルを参照してください。

ビジネス・エリアとプロジェクトを使用しない場合は、次のような画面が表示されます。



[セキュリティ権限の付与] 画面

ビジネス・エリアとプロジェクトを使用する場合は、上記のように画面が修正され、個々のキーに対するセキュリティ権限の継承先、および上書き先を確認できます。次のスクリーン・ショットに例を示します。

フィールドまたはオプションを読み取り専用にする

1. 権限を変更するユーザ・ロールの列見出しを特定します。
2. そのユーザ・ロールについてのみ、**[読み取り]** ボックスのラジオ・ボタンをクリックします。
3. **[更新]** ボタンをクリックします。

フィールドまたはオプションを書き込み専用にする

1. 権限を変更するユーザ・ロールの列見出しを特定します。
2. そのユーザ・ロールについてのみ、**[書き込み]** ボックスにチェック・マークを入れます。
3. **[更新]** ボタンをクリックします。

特定のユーザ・ロールに対してフィールドまたはオプションを読み取り/書き込み可能にする

1. 権限を変更するユーザ・ロールの列見出しを特定します。
2. そのユーザ・ロールについてのみ、両方のボックスにチェック・マークを入れます (読み取り/書き込み)。
3. **[更新]** ボタンをクリックします。

特定のユーザ・ロールに対してフィールドを非表示にする

1. 権限を変更するユーザ・ロールの列見出しを特定します。
2. そのユーザ・ロールについて、両方のボックスのチェック・マークを外します (読み取り/書き込み)。
3. **[更新]** ボタンをクリックします。

エリアおよびプロジェクトのレイアウト

ビジネス・エリアとプロジェクトはデフォルトでシステム内で有効になっていますが、単純で用途が1つである追跡システムが要求される場合、無効にすることができます。通常、デフォルトのシステムには、ビジネス・エリア単位で編成されたいくつかのレイアウトが用意されています。特定のビジネス・エリア用にレイアウトが定義されていない場合、ExtraView は継承を行い、マスタ・ビジネス・エリアからのレイアウトを使用します。

継承

原則として、各ビジネス・エリア/プロジェクトではそれぞれ特定のレイアウトが使用されます。特定のレイアウトがない場合は、次の方法でレイアウトが継承されます。

- 特定のビジネス・エリアやプロジェクト用のレイアウトがある場合は、そのレイアウトが使用されます。
- 特定のレイアウトがない場合は、ビジネス・エリアとそのマスタ・プロジェクト用のレイアウトがあれば、それが使用されます。
- そのレイアウトもない場合は、マスタ・レベル用の事前定義のレイアウトが継承されて使用されます。

継承は重要な原則で、これによって ExtraView 内の各目的に応じて選択されるレイアウトが決定されます。さらに、新しく作成したビジネス・エリア内の [Add] 画面など、特定の目的のためにレイアウトを作成する場合には、検索フィルタや電子メールのレイアウトなどその他すべてのレイアウト・タイプについて、必ずしもレイアウトを作成する必要はありません。各レイアウトは個別に継承されるため、大幅な柔軟性が得られ、また必要な設定も少なくすみます。

継承とユーザ・ロールのレイアウト

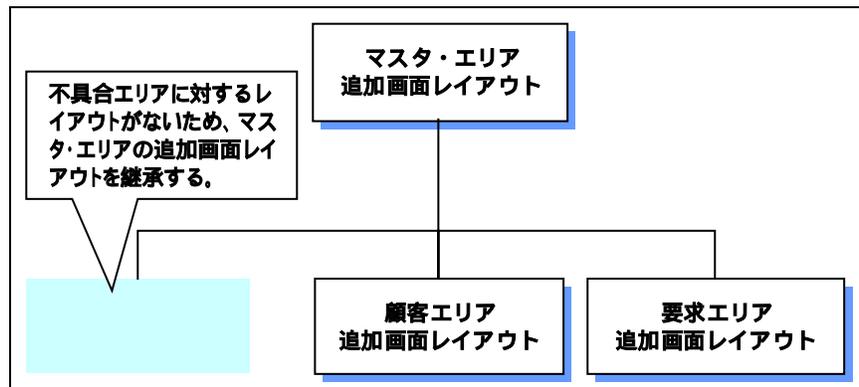
レイアウトは、システム内で作成した各ユーザ・ロールについて定義できます。これについては、以下で詳細に説明します。なお、ユーザ・ロール、ユーザ・ロール内のビジネス・エリア、ビジネス・エリア内のプロジェクトに対するレイアウトの定義は、組み合わせることができます。例えば、*Customer Calls* というビジネス・エリアがある場合は、個別のプロジェクトに分割される場合を含め、*Technical Support* や *Managers* などの異なるユーザ・ロールに対して、異なるレイアウトを定義できます。

レイアウト間の issue データの記憶

レイアウト上にタブとして表示されるビジネス・エリアまたはプロジェクトをユーザが(エリアまたはプロジェクトの表示タイプをデータ辞書で *タブ* に設定して)変更すると、REMEMBER_BETW_TABS の動作設定に従って、次のように動作します。

- エリアまたはプロジェクトにタブを設定し、REMEMBER_BETW_TABS を *NO* に設定すると、値は追加画面または編集画面上の各ビジネス・エリアまたはプロジェクト間のユーザ・タブとして保持されません。
- エリアまたはプロジェクトにタブを設定し、REMEMBER_BETW_TABS のデフォルトが *YES* に設定されている場合は、値が追加画面または編集画面上の各ビジネス・エリアまたはプロジェクト間のユーザ・タブとして保持されます。ほとんどのアプリケーションで、この動作が必要になります。

- エリアまたはプロジェクトが変更され、エリアにタブが設定されていない場合は、エリアまたはプロジェクトが変更されていれば、値がタブ間で保持されます。



レイアウトの継承

注: ビジネス・エリアとプロジェクト・フィールドの両方について、表示タイプが **タブ** に設定されていれば、データ辞書のデフォルト値に設定する必要があります。ただし、**[最後の値を記憶]** の設定がこれに優先します。データ辞書のビジネス・エリアとプロジェクトの一方または両方に対してこの値が設定されている場合は、**[Issueを追加]** 画面の入力によって表示されるタブは、デフォルト値ではなく、最後に使用されたタブになります。

ルール、セキュリティ権限、およびレイアウト・セル属性を使用して、1つのタブに入力されたフィールド・レベルのデータを2番目のタブに表示するか、または2番目のタブに表示すると同時にレコードの挿入または更新の際にレコードと共に値を保存するかを決定することができます。

顧客情報を「顧客」というタブに挿入および更新するアプリケーションを考えてみましょう。「顧客issue」という2番目のタブを作成し、そこに顧客が報告したissueを記録することができます。おおよその構成は、次のようになるでしょう。

- 顧客および顧客 issue の **追加** および **編集** レイアウトに対し、CUST_CONTACT_NAME および CUST_ADDRESS などのフィールドを配置する
- 次のようなルールを使用して、リンクを作成する(作成方法については、「**ビジネス・ルールと電子メール・ルール**」というタイトルのセクションを参照)

```
<== refresh ==>
# rules to set the customer fields in the Customer Issues area
if (CUST_LIST={CHANGED}) {
  CUST_CONTACT_NAME = (customerLink).CUST_CONTACT_NAME;
  CUST_PHONE_NUMBER = (customerLink).CUST_PHONE_NUMBER;
  CUST_ADDRESS      = (customerLink).CUST_ADDRESS;
  CUST_EMAIL        = (customerLink).CUST_EMAIL;
  CUST_PHONE_CELL   = (customerLink).CUST_PHONE_CELL;
  CUST_CONTRACT_NUM = (customerLink).CUST_CONTRACT_NUM;
}
##
## Link types - link records from different business areas
```

```
##  
<== link customerLink ==> AREA='Customers',CUST_LIST=CUST_LIST
```

各操作ごとに顧客の詳細情報を顧客 issue に保存したい場合、REMEMBER_BETW_TABSに NO の値を設定する必要があるかどうかに従って、異なる方法でそれを実現することができます。詳細情報を保存したいがユーザに顧客の詳細情報を編集させたくない場合、各フィールドに対する許可を read/write に設定した後、顧客issueレイアウトにある各フィールドのレイアウト・セル属性に READ ONLY IF の値を設定すべきです。例えば、ID がヌルでない場合にのみCUST_ADDRESSフィールドを読み取り専用を設定するとします。この条件は常に真となるため、フィールドはユーザには読み取り専用として表示されますが、詳細情報はレコードごとに保存されます。ユーザに読み取り権限を与えただけでは、顧客の詳細情報はレコードには保存されません。

REMEMBER_BETW_TABS を YES に設定した場合、ユーザの現在のロールが顧客エリア内のフィールドへのアクセス権を持っていると、フィールドは顧客issueエリアのアクセス権に関係なく、顧客issueレコードごとに保存されます。このモードでは実際に、すべてのタブにまたがる全フィールドの全内容をデータベースに保存することになります。

ユーザ・ロールのレイアウト

各ユーザ・ロールについて、異なるレイアウトを設定することができます。例えば、顧客ロールのレイアウトでは限定された数のフィールドを表示し、エンジニアリングおよび QA ユーザ・ロールではすべてのフィールドが表示されるレイアウトを共有するなどが可能です。インストレーション内のエリアとプロジェクトを使用する場合は、各エリアおよびプロジェクト内で必要に応じてレイアウトを設定できます。

埋め込みレイアウト

追加画面と編集画面のフォームで、他のレイアウトに埋め込まれる新しいレイアウトを作成できます。例えば、わずかに異なるレイアウトを多数作成し、そのうち多くのフィールドに共通の特性がある場合は、1 つのレイアウトを定義して他の多数のレイアウトに埋め込むことができます。

また、あるレイアウトを他のレイアウトに埋め込むと同時に、メイン・レイアウトのフィールドの値に応じてランタイムに表示される別のレイアウトを定義できます。例えば、メイン・レイアウト上のフィールド内でユーザが選択したハードウェア、ソフトウェア、またはドキュメントに従って、ハードウェアとソフトウェアについてのデータのコレクションに関するフィールドがある、異なるレイアウトを埋め込む場合があります。ユーザがこのフィールドを選択すると、画面が更新されて、適切な埋め込みレイアウトが作成されます。

注:レイアウトおよび埋め込みレイアウト上に、同じフィールドを配置しないようにしてください。同じフィールドを配置すると、予期しない結果やエラーが発生することがあります。埋め込みレイアウトはレイアウトから独立して作成でき、また交換可能であるため、この状態は ExtraView では画面表示のコードを実行する前にチェックされません。

注:同じタイプの別の埋め込みレイアウト上に、同じフィールドを配置しないでください。埋め込みレイアウト上のフィールドは、使用されているレイアウト・タイプ固有です。

注:1 つのタイプのレイアウトは、すべて埋め込みレイアウトのテンプレートが作成された同じビジネス・エリアとプロジェクト内で使用する必要があります。例えば、同じフィールドに従属する、選択可能な一連の埋め込みレイアウトを作成する場合、これらの埋め込みレイアウトはすべて同じビジネス・エリアとプロジェクト内に置かれなければなりません。

注:許容値の関係の子フィールドが外部のレイアウトに含まれる場合、埋め込みレイアウトには、その親フィールドを含めることはできません。親フィールドと子フィールドの両方を同じレイアウトに置くか、または親フィールドを最も外側のレイアウトに置き、子フィールドを埋め込みレイアウト内に置くようにします。

注:詳細レポートまたはクイックリストなどのレポート・レイアウト上に、レイアウトを埋め込むことはできません。ただし、レポート上のすべてのフィールドを表示し、また動作設定 REPORT_SUPPRESS_BLANK_LINES を使用して、レポート上の値が含まれないフィールドのグループを非表示にすることができます。

注:一般的に、他の埋め込みレイアウトの中に埋め込みレイアウトを含めないようにすべきです。またレイアウトの中に決してそのレイアウト自体を組み込まないでください。反復または無限ループとなる条件が発生します。ExtraView は実行時までこの条件を検出できないため、重大なシステム上および動作上の問題を引き起こす可能性があります。

埋め込みレイアウトと条件フィールド

埋め込みレイアウト、または“visible if”というレイアウト・セル属性の条件付きで表示されるフォーム上の複数のフィールドを使用しても、同様の効果を得ることができます。レイアウト・セル属性については、以下で詳細に説明します。

例えば、リスト・ボックスで選択された値に従って、レイアウト上に 3 つのセルを表示させるとします。これは埋め込みレイアウトを使用して設定するか、または 3 つのセルそれぞれにレイアウト・セル属性“visible if”を指定することで設定できます。

最も効果的な方法を選択するには、次のことを考慮する必要があります。

- いくつかのまたは多数のフィールドを表示する場合には、埋め込みレイアウトの処理が多少高速になるため、エンド・ユーザのパフォーマンスが向上します。
- 埋め込みレイアウトの設定にはいくらか手間がかかるため、条件属性を使用するほうが設定と保守が簡単です。
- 埋め込みレイアウトは、一度設定すると追加画面と編集画面の両方で再利用できますが、条件属性の場合はレイアウトごとに設定する必要があります。

リピーティング行のレイアウト

これについては後に詳しく説明します。リピーティング行のレイアウトの基本原理は、フィールドの繰り返しブロックを提供して、画面上に追加フィールドを作成することです。繰り返しブロックはユーザにより実行時に追加可能です。例えば、サブ issue を参照するフィールドを持つ行を作成して、issue の一部を個人に割り当てたい場合があるかもしれません。必要な数の行を作成して、issue の異なる部分を別々の人に割り当てることができ

まず、各行は RELEASE_STATUS というフィールドを持つことができ、それを使用して作成したワークフローを追跡することができます。

追加 または 編集 のレイアウトには、リピーティング行のレイアウトを1つだけ埋め込むことができます。追加 または 編集 のレイアウトで2つ以上のリピーティング行レイアウトが必要となる可能性がある場合は、1つのレイアウトにいくつでも組み込み可能な関連 issue の表示を使用することを検討してください。

レイアウトの選択方法

レイアウトを継承するだけでなく、ユーザ・ロール、ビジネス・エリア、プロジェクトを任意に組み合わせて個別にレイアウトを定義または追加できるため、システム内に多数のレイアウトが作成される可能性があります。継承によって、ユーザが表示する個別のレイアウトが選択されるかまたは継承されるかを厳格に制御することができます。次の表に、ExtraView で選択されるレイアウトがどのように解決されるかを示します。

| Order | Role | | Area | | Project | | Data Dictionary Name | | Data Dictionary Value | |
|-------|--------|-----------|---------|---------|---------|---------|----------------------|------|-----------------------|------|
| | A Role | All Roles | An Area | Area-ID | A Proj | Proj-ID | A name | None | A value | None |
| 1 | ✓ | | ✓ | | ✓ | | ✓ | | ✓ | |
| 2 | ✓ | | ✓ | | | ✓ | ✓ | | ✓ | |
| 3 | ✓ | | ✓ | | | ✓ | ✓ | | | ✓ |
| 4 | ✓ | | ✓ | | | ✓ | | ✓ | | ✓ |
| 5 | ✓ | | | ✓ | | ✓ | ✓ | | ✓ | |
| 6 | ✓ | | | ✓ | | ✓ | ✓ | | | ✓ |
| 7 | ✓ | | | ✓ | | ✓ | | ✓ | | ✓ |
| 8 | | ✓ | ✓ | | ✓ | | ✓ | | ✓ | |
| 9 | | ✓ | ✓ | | | ✓ | ✓ | | ✓ | |
| 10 | | ✓ | ✓ | | | ✓ | ✓ | | | ✓ |
| 11 | | ✓ | ✓ | | | ✓ | | ✓ | | ✓ |
| 12 | | ✓ | | ✓ | | ✓ | ✓ | | ✓ | |
| 13 | | ✓ | | ✓ | | ✓ | ✓ | | | ✓ |
| 14 | | ✓ | | ✓ | | ✓ | | ✓ | | ✓ |

レイアウトの選択

ExtraView では、この表の上から順に、ユーザと現在のロールについて管理者が定義した条件を満たすレイアウトを探していきます。表の最後の 2 列は、埋め込みレイアウトを選択する場合のみ使用されます。ここでは次のように選択が行われます。

複数のレイアウトがある場合は、以下の基準を順番に適用して選択されます。

- ユーザ・ロール

- ビジネス・エリア
- プロジェクト
- データ辞書名
- データ辞書名ごとの値

さらに以下の基準が適用されます。

- 追加レイアウトと編集レイアウトは、上記すべての基準に基づいて選択されます。
- 電子メール通知レイアウトでは、ユーザ・ロール、ビジネス・エリア、プロジェクトが使用されます。データ辞書内のフィールドに基づく選択は行われません。
- レイアウトが上記の表の複数行に適合する場合があります。この表では、ユーザの現在の設定に適合する最初の行が使用されます。
- 上記の表の最後の 2 列は、埋め込みレイアウトを選択する場合のみ使用されません。

詳細レポートのレイアウトの選択

詳細レポートは異なる基準で作成されます。つまり、詳細レポート上の個々の issue にはその issue のビジネス・エリアとプロジェクトに関連する詳細レポートのレイアウトが使用されます。また、ユーザの現在のロールも選択に使用されます。ここでも継承は使用されますが、最終的には個別の issue では別々のレイアウトが使用される可能性があり、issue との関連性が最も大きいレイアウトが使用されます。

クイックリスト・レポートのレイアウトの選択

1 つのクイックリストには、異なる多くのビジネス・エリアとプロジェクトに属する、個々の issue を含めることができます。レポート全体に対しては 1 つのレイアウトのみが選択されます。レイアウトは以下の条件のどれか 1 つに該当しない限り、ユーザの現在のビジネス・エリア、プロジェクト、およびロールから選択されます。

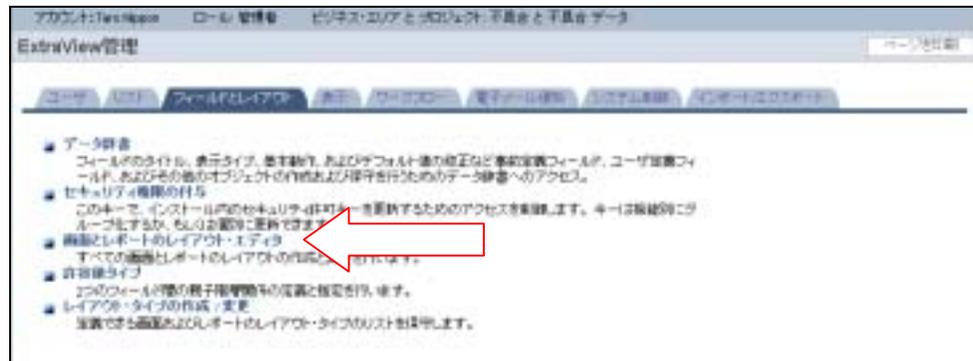
- 単一のビジネス・エリア(AREA)を選択するフィルタが指定されている場合、ExtraView はこのエリアのプロジェクト 0 に関連するレイアウトを選択します。このレベルで定義されているレイアウトが存在しない場合、継承が使用されます。
- 単一のビジネス・エリアを選択するフィルタが指定されている場合、ExtraView はこのエリアとプロジェクトに関連するレイアウトを選択します。このレベルで定義されているレイアウトが存在しない場合、継承が使用されます。
- ビジネス・エリアが選択されていないか、1 つ以上選択されている場合、そして/または選択されたプロジェクトがビジネス・エリアと衝突する場合、ユーザの現在のビジネス・エリアとプロジェクトに関連するレイアウトが選択されます。

レイアウトの管理

既存のレイアウトの追加と更新

[Administration] 画面で、[フィールドとレイアウト] タブの [画面とレポートのレイアウト・エディタ] を選択します。

次の画面が表示されます。



[Administration] 画面

1. 個別のユーザ・ロールのレイアウトを表示または更新する場合は、選択リスト [ユーザ・ロールを選択] からロールを選択します。すべてのロールについてデフォルトのレイアウトを選択すると、特定のユーザ・ロールに固有のロールが設定されていない限り、使用されるレイアウトが表示されます。
2. ビジネス・エリアとプロジェクトを選択するプロンプトは、これらがシステム内で有効になっている場合に限り表示されます。
3. 選択リスト [システム全体に新しいレイアウトを追加] では、エリア、プロジェクト、およびユーザ・ロールの個々の組み合わせについて、使用可能なレイアウトのリストから新しいレイアウトを追加できます。この組み合わせのためのレイアウトがすでにある場合、そのレイアウトは選択リストには表示されず、画面の下部に [Edit] ボタンと合わせて表示されます。
4. [Edit] ボタンをクリックすると、レイアウトを変更することができます。

注:レイアウトは、管理者が独自に作成したのもでも、また ExtraView によって作成されたものでも、編集機能によって削除することができます。ただし、ExtraView によって作成されたレイアウトは削除しないでください。削除すると、ExtraView が正常に機能しなくなります。



画面とレポートのレイアウト・エディタ

特定のユーザ・ロールのレイアウト作成

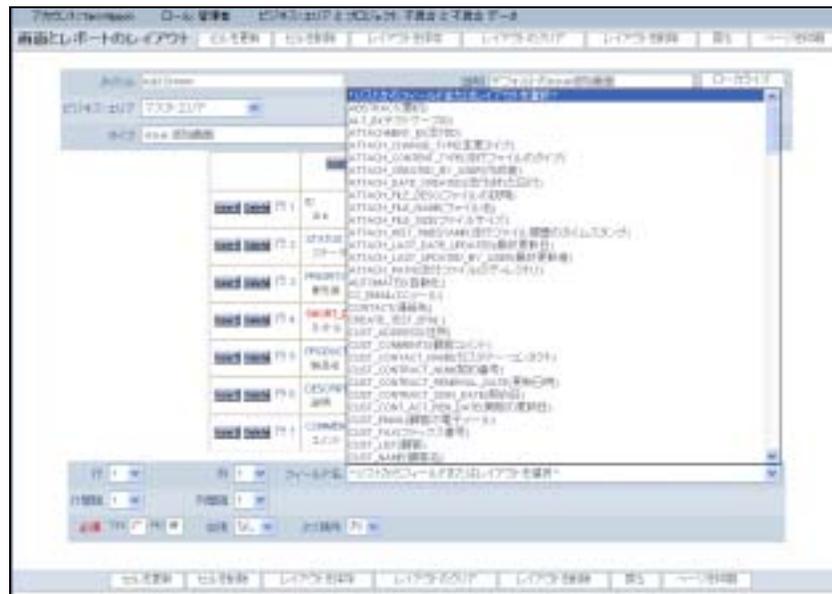
1. 画面最上部にある選択リストから、レイアウトを適用するユーザ・ロールを選択します。さらに、デフォルトのレイアウトを使用して、[Administration] 画面の [セキュリティ権限の付与] セクションでユーザ・ロール画面とフィールドへのアクセスを制御できます。
2. 既存のレイアウトを編集して新しいユーザ・ロールに変更し、レイアウトを保存することで、新しいユーザ・ロールのためのレイアウトを複製できます。
3. (同じタイプの既存のレイアウトがある場合に) レイアウトを追加するには、使用する既存のレイアウト・タイプの例の横にある [Edit] ボタンをクリックします (使用可能なタイプのレイアウトがない場合は、[追加するレイアウト・タイプを選択] メニューから必要なレイアウト・タイプを選択します)。

[Edit] ボタンをクリックすると、次のような画面が表示されます。



[画面とレポートのレイアウト] 画面

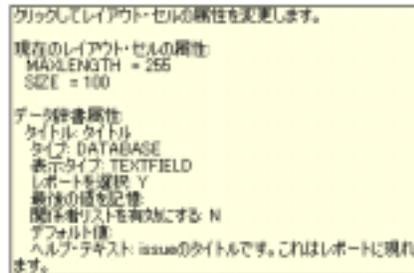
4. 新しいフィールドを表示する行と列の位置を、画面下部にあるツールバーのカウンタを使用して選択します。セルがすでにある場合は、それをクリックすると行と列が自動的に設定されます。



フィールド名選択メニュー

5. [フィールド名] メニューから、目的のデータベース・フィールド名を選択します。ExtraView では、このレイアウト用に選択可能なすべてのフィールドがリストに表示されます。フィールド・リストのソート方法を、フィールド名によるソートまたはフィールド・タイトルによるソートとの間で切り替えるには、リスト内の最初のフィールド・エントリの前にあるオプションを選択します。このオプションは、[* リスト内のすべてのフィールドの名前とタイトルのソート順を逆にする *]と表示されます。

6. フィールドの上にカーソルを置くと、サイズ制限や、特定のビジネス・ルールに従うかどうかなど、そのフィールドの属性を示すツール・チップが表示されます。



ツール・チップ・ヘルプ

7. レイアウト上のセルに新しい値を入力したら、[セルを更新] ボタンをクリックします。
8. この画面には、そのほかにもオプションがあります。例えば、必要なフィールドを設定して、さらにフォームにデータが入力された場合のカーソルの動作を指定するフォーム内のタブの順序を設定できます。この設定は行ごとまたは列ごとに行います。
9. データ入力時の表示または機能の制御に使用する、各セル内の属性を設定できます。これらの属性は、下部にある[レイアウト・セル属性] セクションで指定します。
10. 新しいレイアウトが作成されたら、[レイアウトを保存] ボタンをクリックします。

注: レイアウトからセルを編集または削除する際に、最初に有効なフィールド名を選択する必要があることを知らせる警告が表示されることがあります。これは、セルの編集または削除を行う前にレイアウト上のフィールドをクリックしていないためです。

レイアウト内の既存のフィールドの再配置

1. 適切な列および行を選択して、特定のフィールドを配置する場所を指定します。例えば、[タイトル] フィールド(データベース名は SHORT_DESCR)を現在の場所から同じ行の別のセル(上の第3列)に移動するには、[SHORT_DESCR](赤で強調表示される)をクリックします。次に、該当するドロップ・ダウン・メニューの[行]、[列]、[行間隔]、[列間隔]の値を変更して、目的の場所を指定します。
2. 値を指定したら、[セルを更新] ボタンをクリックします。
3. フィールドを元の場所から削除します。

注: 目的のセルのスペースを作成するために新しい行や列を作成する場合は、必要に応じて [Insert] ボタンをクリックします。

だし、API または CLI を通じてフィールドにアクセスしている場合、HTML は出力まで使用できません。

変更したフィールド・タイトルのテキストが、フォームが表示されたときの HTML 内でダブル・クォーテーション(“)で囲まれている場合は、変更されたフィールド・タイトルでは使用できません。ただしシングル・クォーテーション(‘)は使用でき、通常これらは置換可能です。

例:組織の内部では issue に *Defects* というラベルを付け、顧客に対しては同じ issue に *Issues* というラベルを付けることができます。その場合は新しい属性フォームで、*[Alternate field name]* を *[Issue]* に設定します。

例:フォーム上のあるフィールドに「*Target Software Release*」という長いタイトルが付けられており、動作設定 LABEL_WRAP_POSITION で設定したシステムのデフォルトでは、見づらい形で折り返されてしまいます。分割される場所を「*Target
Software
Release*」のような形で指定することができます。

- b. [*** 新規 * エントリをリスト・フィールドに追加 – 追加および編集のレイアウトに適用**]。この属性は追加および編集のレイアウトにのみ適用されます。この属性により、ユーザ定義のリスト・フィールド、**PRODUCT_NAME** フィールド、**MODULE_ID** フィールド、**RELEASE_FOUND** フィールドまたは **RELEASE_FIXED** フィールドを変更し、リスト内に *** 新規 *** という値を含めることができます。この値が選択されると、ポップアップ・ウィンドウからリストに新しい項目を追加することができます。管理者がリスト管理機能を使用して新しい項目をリストに追加するのと同じ機能が、ここでエンド・ユーザに提供されています。この機能をユーザ・ロール単位で制御することも可能です。設定方法に関してより詳しくは、「リストへのエントリの追加および編集」のセクションを参照してください。
- c. [**DISPLAY FORMAT**]。これにより、ユーザ定義のフォーマットに従って、項目の値の表示が変更されます。このフォーマットは、テキストや他のフィールドの値を含むことができます。この属性を適切に使用するための特別なルールがあります。
- この属性の適用先となるフィールドは、表示タイプがテキストでなくてはなりません。
 - フォーマットの中で参照しているすべてのフィールド名は、レイアウト上に存在していなければなりません。
 - フィールドはユーザに対して読み取り専用になります。
 - フィールドの依存関係はチェックされません。そのため、表示する画面での値は編集処理の間に古くなってしまう場合があります(例えば、参照されるフィールドのうち 1 つの値が変更された場合など)。当然、これはレポート・レイアウトでは問題になりません。

例:*[ID]* フィールドは、*PROJECT + ‘.’ + ID* などの特定の形式で表示

されるように変更できます。ID が標準のシーケンスですが、*MyProj.12345* のような値が表示されます。

- d. **[DO NOT USE ALLOWED VALUES]**。これは、クイック検索、フル検索、グラフフィルタ・レイアウトなど、検索フィルタ・レイアウトに配置されたフィールドにのみ適用されます。このレイアウト・セル属性が設定されており、フィールドが許容値関係の中で子である場合、子リストは親によってフィルタリングされず、取り得る値がすべて表示されます。このセル属性が機能するためには、関係の親フィールドもレイアウト上に存在する必要があります。

- e. **[FIELD HIGHLIGHTED IF]**。あるフィールド値が別のフィールドの値に応じて、異なる色で強調表示されるかどうかを示します。色は、動作設定 HIGHLIGHT_COLOR に値を設定することにより選択されます。1 つのフィールドに、複数の FIELD HIGHLIGHTED IF 属性を設定することができます。より大きいまたは より小さいの演算子を使用すると、それらは数値の比較でのみ機能します。

例: issue の優先度が P1 である場合、issue の担当者を強調表示したいとします。これを実現するには、優先度 というフィールドが P1 と等しい場合、担当者フィールドに Highlighted セル属性を設定します。

- f. **[FIELD NOT REQUIRED IF]**。この属性は **FIELD REQUIRED IF** の反対の条件であり、通常はフィールドに非常に多くの値があるものの、ごく少数の値でのみフィールドが必須でなくなる場合に使用されます。このような条件下では、ごく少数の値に対して **FIELD_NOT_REQUIRED_IF** を設定して、フィールド全体の必須状態を **YES** に設定します。演算子 より大きいまたは より小さいは数値の比較でのみ機能します。

- g. **[FIELD READONLY IF]**。この属性は、フィールド値が別のフィールドの値に応じて、レイアウト上で読み取り専用モードで表示されることを示します。1 つのフィールドに対し、複数の FIELD READONLY IF 属性を設定することができます。当然ながら、この属性は追加または編集のフォームとして表示されるレイアウト内で使用される場合にのみ機能します。演算子 より大きいまたは より小さいは数値の比較でのみ機能します。

例: 顧客が既に追加されている場合、編集レイアウトの顧客というフィールドに顧客名を表示し、値がない場合はユーザが顧客名を入力できるよう、フィールドを読み取り/書き込み可能にしたいとします。これには、顧客がヌルでない場合の FIELD READONLY IF 属性を追加します。

フィールドではなく埋め込みレイアウトを含むレイアウト・セルに FIELD READONLY IF 属性を設定すると、埋め込みレイアウト上のすべてのフィールドは、属性のロジックに設定された条件に従って読み取り専用になります。

- h. **[FIELD REQUIRED IF]**。あるフィールド値が、別のフィールドの値に応じて必要になるかどうかを示します。

[Field Required If] による依存関係は、表示タイプが *リスト* であるフィールドに対してのみ機能します。さらにこの依存関係は、フィールドがデータ辞書で複数値リストに設定されている場合、またはフィールドがポップアップ・リストである場合にも機能しません。1つのフィールドに対し、複数の FIELD REQUIRED IF 属性を設定できます。当然ながら、この属性は追加または編集のフォームとして表示されるレイアウト内で使用される場合にのみ機能します。演算子 *より大きい* または *より小さい* は数値の比較でのみ機能します。

例: フォーム上で、CUSTOMER_ISSUE というフィールドの値が Yes である場合には、CUSTOMER_NAME というフィールドが必要になります。この場合は、フィールド CUSTOMER_NAME にレイアウト要素の属性を追加します。値は *Yes*、フィールド名は CUSTOMER_ISSUE、同値は *equals* に設定します。

- i. **[FIELD VISIBLE IF]**。ある要素が、それ自体の値を含め、なんらかの要素の値に応じて表示されるかどうかを示します。1つのフィールドに対し、複数の FIELD VISIBLE IF 属性を設定できます。

あるフィールドによって [Field Visible If] 依存関係の階層が制御され、非表示になった場合、依存関係ツリーで下位にあるフィールドも、それぞれの条件に従ってすべて非表示になります。

[Field Visible If] による依存関係は、表示タイプが *リスト* であるフィールドに対してのみ機能します。さらにこの依存関係は、フィールドがデータ辞書で複数値リストに設定されている場合、またはフィールドがポップアップ・リストである場合にも機能しません。FIELD VISIBLE IF 属性は、追加または編集のフォーム内に表示されるレイアウトでのみサポートされています。演算子 *より大きい* または *より小さい* は数値の比較でのみ機能します。

フィールドではなく埋め込みレイアウトを含むレイアウト・セルに FIELD VISIBLE IF 属性を設定すると、埋め込みレイアウト上のすべてのフィールドは、属性のロジックに設定された条件に従って表示または非表示になります。

- j. **[HEIGHT]**。これはテキスト・エリア、ログ・エリア、出力テキストフィールド、および当該オブジェクトを現在のフォームに組み込んでいれば関連issue表示レイアウトに適用されます。

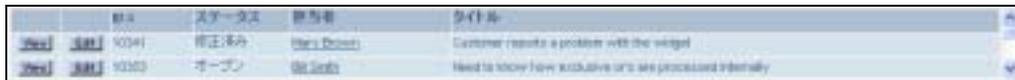
高さは、追加または編集のレイアウトをユーザが最初に開いたときにフィールドが表示される高さを、おおよその文字数で示したものです。関連issueレイアウトの場合、高さはピクセル単位で表されます。

この属性が LAYOUT.RELATED_ISSUE_DISPLAY というレイアウト

に追加され、追加または編集のフォームに組み込まれると、値は組み込まれた関連 issue の表示の高さを示します。この高さを超えるとスクロールバーが表示され、ユーザはそれを使用してリスト内を移動することになります。

例:初期表示での高さが 20 文字であるテキスト・エリア・フィールドを作成するには、HEIGHT 属性の値を 20 にして追加します。

例: 下のスクリーン・ショットでは関連 issue の表示に HEIGHT 属性が使用されています。



| # | Status | Name | Details |
|--------|--------|------|--|
| #10041 | Closed | 修正済み | Customer reports a problem with the widget |
| #10003 | Open | 開 | Need to know how exclusive or's are processed internally |

- k. **[HTML MODIFIER]**. これによりユーザは、HTML タグ内で属性を追加することができます。セル上には任意の数の HTML 修飾子属性を指定できます。

例:属性に *DISABLED* HTML 修飾子を指定することで、フィールドが無効になります。この場合ほとんどのブラウザで、このフィールドが薄いグレーで表示されます。

例:HTML 修飾子を使用してユーザ定義の JavaScript 関数を呼び出すか、または ExtraView で定義済みの JavaScript 関数を呼び出します。この関数はサーバ上に置かれ、レイアウト用に作成された HTML に自動的に挿入されます。HTML 修飾子内で指定された、ユーザ定義の JavaScript 関数を呼び出すための構文は、次のようになります。

```
onclick='myFunction(param1, param2)';
```

詳細については、『ExtraView User Custom Programming Guide』を参照してください。

レイアウトの要素にスタイル属性を追加する場合は、(HTML 修飾子の属性ではなく)スタイルを使用します。スタイルを使用しないと、要素に 2 つのスタイル属性が指定されることになり、HTML 構文として無効になります。Netscape 4.x では、多数のスタイル属性はサポートされていません。http://css.nu/pointers/bugs-nn.html に、有効なスタイルを示すドキュメントが用意されています。当然ながら、この属性は追加または編集のフォームとして表示されるレイアウト内においてのみ機能します。

- 1. **[MAXLENGTH]**. これによりフィールドの HTML 表タグに *MAXLENGTH=nnn* 属性が追加され、フィールド内に入力可能な最大文字数が制御されます。属性が設定されていない場合のデフォルトは 50 文字です。この属性は追加または編集のフォームとして表示されるレイアウト内においてのみ機能します。

例:フィールドで属性 MAXLENGTH を 25 に設定すると、フィールドに
入力可能な文字数が 25 文字に制限されます。

- m. **【関係グループ名】**。この属性は、次のうちどれかを含むセルに対してのみ使用されます。
- a) LAYOUT.RELATED_ISSUE_DISPLAY レイアウトまたは名前が RELATED で始まるその他のレイアウト。例えば、LAYOUT.RELATED_CUSTOMERS は関係グループ名として有効な名前です。
 - b) RELATIONSHIP_GROUP_PARENT フィールド
 - c) RELATIONSHIP_GROUP_CHILD フィールド

この属性は上記以外のセルでは無視されます。これはフィールドに使用される関係グループの名前を示します。a) の場合、関連する issue の検索対象となる関係グループを定義します。b) および c) の場合、新しい関係が追加される関係グループを定義します。a) の場合、関係グループ名にすべての関係グループを示すワイルドカード「*」を使用することもできます。a) で属性を指定しない場合、ExtraView はすべての関係グループを検索します(値に「*」が使用された場合と同様)。b) および c) の場合、ExtraView はワークフロー設定の動作設定 RELATION_GROUP_DEFAULT で指定された関係グループ名を置き換えます。どちらの場合も、ワイルドカード以外の関係グループ名を指定する場合、その関係グループが存在している必要があります。

- n. **【関係グループ参照フィールド】**。
LAYOUT.RELATED_ISSUE_DISPLAY (またはその他の関係issueレイアウト)が含まれているレイアウト上のセルにこのセル属性が使用されていない場合、ExtraView は ID フィールドの値に基づいて issue を関連付けているものと想定します。動作設定 ITEM_ID_DISPLAY を ID ではなく ALT_ID に変更した場合、issue は ID フィールドではなく ALT_ID フィールドをもとに関連付けられます。しかし、このエントリを使用してレイアウト上にある他のフィールドの値に基づいて関連付けることができます。この機能は非常に柔軟性があり、issue の任意のグループを、任意のフィールドに基づいて関連付けることができます。
- o. **【関係グループ関係タイプ】**。このセル属性は、RELATED_ISSUE_DISPLAY (または名前がRELATEDで始まるその他のレイアウト)内での関連するレコードの表示方法を定義します。値は以下の 4 つのうちどれかになります。
- MEMBERS – これ以外の 3 つのうちいずれかの値で変更されない場合、この属性のデフォルト値です。この場合、RELATED_ISSUE_DISPLAY により参照 issue も含め グループのすべてのメンバーが表示されます。したがって、issue の親、子、お

よびグループ内で参照 issue とは直接の関係がないその他の Issue も含まれます。

- CHILDREN – 関連する issue の表示には、参照 issue の子 issue のみが含まれます。
 - PARENTS – 関連する issue の表示には、参照 issue の親である issue のみが含まれます。ExtraView のデータ・モデルでは、特定の issue に対して複数の親 issue を定義することができます。詳しくは『関係グループ』のセクションをご覧ください。
 - RELATED – この場合 ExtraView は特定のグループ内にある参照 issue の親と子を RELATED_ISSUE_DISPLAY に表示します。関連する issue の親と子は表示されません。関連 issue の表示レイアウトは、名前の最初に RELATED を付ければ、作成および使用が可能です。
- p. **【関係グループソート順】**。このセル属性には、RELATED_ISSUE_DISPLAY に示されるレコードのソート順を指定します。具体的には、以下の内容を設定できます。
- a) 順序付けに使用するフィールド名
 - b) ソート順におけるこのフィールドのランク(この属性のその他のソート順と相対的に設定)
 - c) ソート順の方向(昇順または降順)

複数のフィールドについて順序を指定するには、複数の関係グループソート順を挿入します。ソート優先度におけるソート順フィールドの表示位置を指定するには、ランク番号を使用します。

たとえば、2つの属性は以下のように指定可能です。

| フィールド名 | ランク/方向 |
|----------|--------|
| STATUS | 1/ASC |
| PRIORITY | 2/DESC |

通常通り、順序付けはフィールド定義内の SORT_SEQ に従って行われ、その次にフィールド値のタイトルが考慮されます。

- q. **【[* すべて *] エントリをリストおよびユーザ フィールドから削除】**。この属性を設定すると、レイアウトが検索フィルタ画面として使用される場合、選択リストに [* すべて *] のエントリは表示されません。これにより、検索を実行する前に、ユーザに必ずリストから値を選択させるようにでき

ます。これは、フィールドをレイアウト上で必須にするのと同様の動作になります。

- r. **[[* なし *]エントリをリストおよびユーザ フィールドから削除]**。この属性を設定すると、追加または編集のレイアウト上の選択リストから、[* なし *]のエントリが削除され、ユーザに必ず1つ以上のエントリを選択させるようにできます。何らかの値が常に選択されるため、フィールドは必須になります。
- s. **[SELECTED]**。タブまたはリスト値に応じて、画面上でどの埋め込みレイアウトを使用するかを示します。このメカニズムにより、ExtraView ではタブまたはリスト・フィールドの値に応じて別のレイアウトが表示されます。

例:ユーザがソフトウェアまたはハードウェアのどちらのカテゴリを選択するかによって、異なるフィールド・セットを持つ異なるレイアウトを編集フォームに埋め込みます。

注: リストやタブの値に従って選択されるレイアウトを作成する場合、そのリスト・フィールドまたはタブ・フィールドにデフォルト値を設定することが強く推奨されます。デフォルト値を設定せず、フィールドに値がない場合、どの埋め込みレイアウトも選択されません。

埋め込みレイアウトを実装するために必要な具体的な手順は、次のセクションの**[埋め込みレイアウトの追加]**に記載されています。

- t. **[SIZE]**。この属性には使用されるフィールドによって2つの用途があります。
 - 一般的な用途として、これによりフィールドの HTML 表タグに `MAXLENGTH=nnn` 属性が追加されます。属性が設定されていない場合のデフォルトは 11 文字です。

例:画面上のテキスト・ボックスの幅を変更して狭くします。それには、`SIZE=30` などの要素属性を指定します。
 - この属性が `LAYOUT.RELATED_ISSUE_DISPLAY` またはその他の `RELATED` で始まる名前のレイアウトに追加され、追加または編集のフォームに組み込まれると、値は組み込まれた関連 issue の表示の高さを示します。この高さを超えるとスクロール・バーが表示され、ユーザはそれを使用してリスト内を移動することになります。

例: 下のスクリーン・ショットでは関連 issue の表示に `SIZE` 属性が使用されています。

SIZE



| | ID | ステータス | 担当者 | タイトル |
|-----|-------|-------|-------------|--|
| New | 11381 | 修正済み | Shy, Ryohei | Customer reports a problem with the widget |
| New | 11382 | オープン | Shy, Ryohei | Need to know how a relative url are processed internally |

- u. **[STYLE]**。要素のフォント・スタイルを示します。他のフィールドに依存する場合もあります。この属性は、追加または編集のレイアウトでのみサポートされます。また、フィールドが読み取りおよび書き込みの両方のモードにある場合にサポートされます。

レイアウトの要素にスタイル属性を追加する場合は、(HTML 修飾子の属性ではなく)スタイルを使用します。スタイルを使用しないと、要素に2つのスタイル属性が指定されることになり、HTML 構文として無効になります。Netscape 4.x では、多数のスタイル属性はサポートされていません。http://css.nu/pointers/bugs-nn.html に、有効なスタイルを示すドキュメントが用意されています。

例: レポート上のフィールドの優先度の値が *PI* になった場合に、そのフィールドを赤で表示します。

例: Issue の追加画面で、issue がデータベースに追加された後、つまりユーザが追加確認画面に到達してから ID フィールドを表示するようにしたいとします。これを実現するには、属性タイプを Field Visible If に、フィールドを ID に、同値を Is Not Null に設定します。こうすると、issue の追加確認画面でのみ ID フィールドが表示されます。

- v. **[VALIDATE HIDDEN FIELD]**。この属性は、動作設定 REMEMBER_BETW_TABS と合わせて機能します。タブ間の検証により、ExtraView のレイアウトにある必須フィールドの存在が、画面に表示されていない場合でも検証されます。非表示になるのは、画面レイアウトが、全レコードの一部が選択した各タブに表示されるように設定されている場合などです。この機能は、現在選択しているタブに表示されているフィールドだけでなく、全レコードにわたるフィールドに値が存在することを検証する目的で使用されます。
[REMEMBER_BETW_TABS] を [YES] に設定すると、任意のフィールドまたはレイアウト全体について [Validate Hidden] の属性が設定され、現在表示されている画面にフィールドが表示されているかどうかにかかわらず、ユーザが必須フィールドに値を入力する必要があります。これは多くの場合、レコードをサブミットする前に、ユーザが画面上の複数のタブに値を入力することを意味します。

レイアウト全体についての属性設定は、従属する(埋め込み)レイアウトが組み込まれたレイアウトで行います。

[LAYOUT.embedded_layout_name] フィールドを選択します。このフィールドに [Validate Hidden] レイアウト・セル属性を追加すると、レイアウト内のすべてのフィールドがチェックされます。

埋め込みレイアウト内の個別のフィールドの属性を設定するには、レイアウト内のフィールドに属性を追加します。

フィールドではなく埋め込みレイアウトを含むレイアウト・セルに VALIDATE_HIDDEN 属性を設定すると、埋め込みレイアウト上のすべてのフィールドは、VALIDATE_HIDDEN のロジックの適用対象となります。

注: [Validate Hidden] と、 [Visible If] 属性を持つフィールドとの間には、重要な相互関係があります。レイアウト要素に VISIBLE_IF 条件が設定され、REMEMBER_BETW_TABS が [YES] に設定され、要素に VALIDATE_HIDDEN 属性が設定されている場合は、タブ間の検証を実行する必要があります。ExtraView では、このチェックが自動的に実行されます。

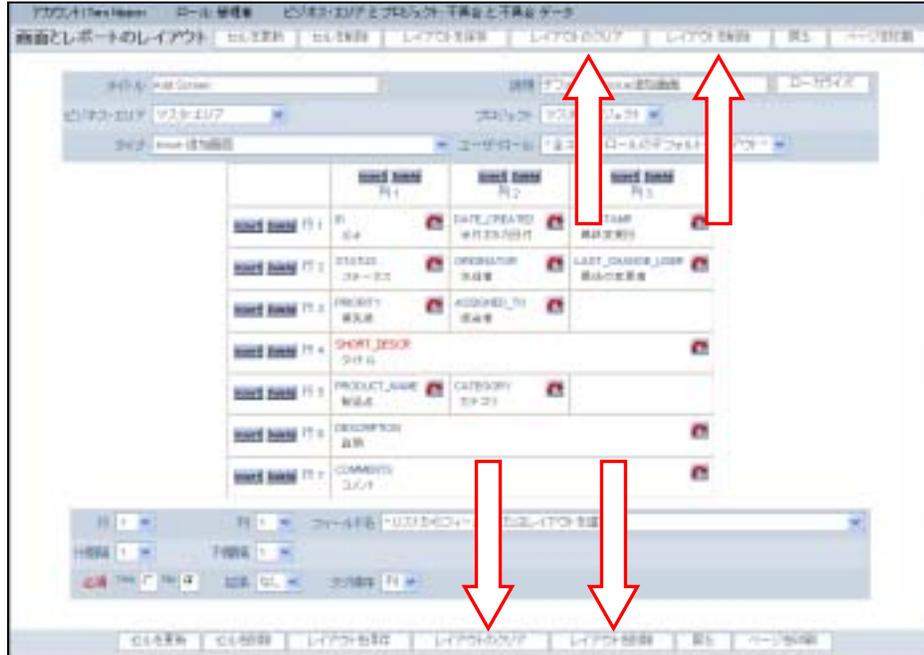
注: [Required If] 属性は、 [Validate Hidden] 属性と同じフィールド内で使用する場合には [Validate Hidden] 属性の後に指定する必要があります。ExtraView が属性を正しい順序で処理するようにするためです。

注: [Field Required] や [Field Visible If] などの条件属性は、1 つのフィールドに複数回適用できます。この機能を使用する場合、検証では 'OR' ロジックが使用されます。例えば、次のような 2 つの [Field Visible If] ルールを設定できます。

- (a) [ステータス] が *[pending]* である場合に、*[action]* というフィールドが表示される。
- (b) [ステータス] が *[fixed]* である場合に、*[action]* というフィールドが表示される。

このルールでは、(a) または (b) のいずれかが真であれば *[action]* フィールドが表示されます。

レイアウトの消去および削除



[画面とレポートのレイアウト] 画面

レイアウトの消去

1. レイアウトを消去するには、[レイアウトのクリア] ボタンをクリックします。
2. 表示される警告メッセージの指示に従います。
3. [レイアウトを保存] をクリックします。

レイアウトの削除

1. [レイアウトを削除] ボタンをクリックします。
2. 表示される警告メッセージの指示に従います。
3. [レイアウトを保存] をクリックします。

マスター・エリアからはレイアウトを削除できないことに注意してください。

レイアウト上での「保存」操作の実行

別のエリアやプロジェクト、ロールのレイアウトをコピーしたり、1つのレイアウト・タイプを異なるタイプとして保存することができれば役に立つでしょう。例えば、追加レイアウトを作成してから、それを編集レイアウトとして保存したい場合があるかもしれません。これを

行うには、単にコピーしたいレイアウトを開き、ビジネス・エリア、プロジェクト、タイプまたはユーザ・ロールを変更します。また、タイトルや説明も変更できます。

その後はレイアウトを保存するだけです。

追加や編集のレイアウトをレポート形式のレイアウトに変更する場合は、データ辞書の [レポート上での選択を許可] 属性のエントリが *No* であるフィールドが消去されてしまうことに注意してください。そういったフィールドは、レポートのレイアウトに対応していないためです。同様に、用途が *Report* に設定されていない埋め込みレイアウトも消去されます。

レイアウト内の埋め込みレイアウト - 別の実装方法

他のレイアウトの中に1つ以上のレイアウトを埋め込みたいと考える理由はいくつかあります。

最も単純な理由は、フィールドのグループを一括して作成し、このフィールド・グループを同一の方法で使用したいというものです。例えば、1つのレイアウトを、追加レイアウト、編集レイアウト、詳細レポート・レイアウト、およびその他のレイアウトに埋め込むことができます。この埋め込みレイアウトがマスタ・エリア内に配置されれば、多くのビジネス・エリアやプロジェクトの中にある多くのレイアウトにそれを継承することができます。これにより、システム全体で共通なフィールドを効率的に伝達することができます。セキュリティ権限はこの場合にも、埋め込みレイアウトが使用される個々の場所に適用されることに注意してください。

その次に多い埋め込みレイアウトの作成理由は、表示/非表示を1つの動作で制御できるフィールド・グループを持ちたいというものです。例えば、追加レイアウトに **TYPE** という1つのフィールドを配置したいとします。その場合、レイアウト内に埋め込みたい2つのレイアウトを作成し、1つを **TYPE_A**、もう1つを **TYPE_B** とします。**TYPE_A** レイアウトには、**FIELD_VISIBLE_IF TYPE = TYPE_A** というレイアウト・セル属性を指定します。そして **TYPE_B** レイアウトには、**FIELD_VISIBLE_IF TYPE = TYPE_B** というレイアウト・セル属性を指定します。すると期待どおりに、ユーザが **TYPE** フィールドに選択する値に従って、異なるレイアウトが表示されます。

これと同様の結果をもたらす、レイアウトの表示/非表示を制御するもう1つの方法として、下に記述するような **SELECTED** レイアウト・タイプを使用する方法があります。2つの方法を理解するうえで重要となる相違点がいくつかあります。

- 上述した方法を使用して埋め込みレイアウトを構成する方が、より単純で迅速です。
- **SELECTED** レイアウトは、動作設定の **REMEMBER_BETW_TABS** をサポートします。この設定により、**SELECTED** レイアウトで複数のタブ上のフィールドを制御することができ、ユーザがタブを切り替えたときに値を記憶しておくことができます。単純な埋め込みレイアウトでは値が保持されません。
- **SELECTED** レイアウトは、動作設定の **VALIDATE_HIDDEN** をサポートします。この機能により、フォームを送信したときに画面上で非表示である場合にも、フィールドを必須にすることができます。単純な埋め込みレイアウトでは、このような動作を実装することはできません。

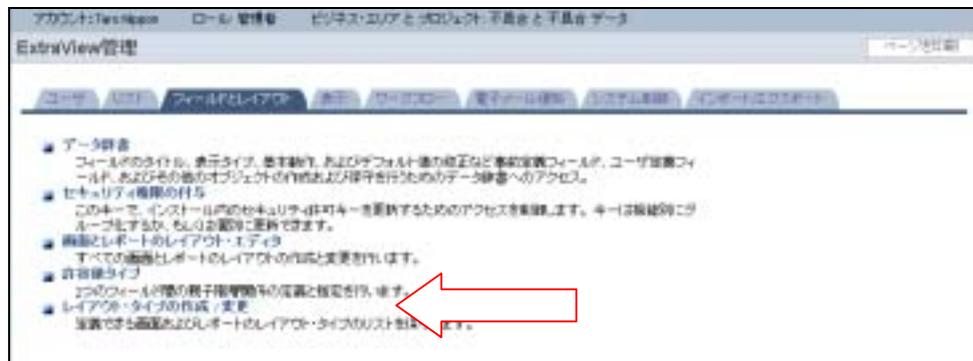
フィールドの値に基づいて選択される埋め込みレイアウト

この機能により、管理者は一連のレイアウトを設計して、追加画面や編集画面などのマスタ・レイアウトで使用することができます。これらのレイアウトは、トリガ・フィールドの値に基づいています。例えば、追加する issue のカテゴリに従って、レイアウト内で一連のフィールドを設定するとします。[Issue Type] というタイトルの [ISSUE_TYPE] UDFの異なる値として、ソフトウェア、ハードウェア、ドキュメントごとに異なる埋め込みレイアウトを表示する場合は、[Issue Type] フィールドを選択します。

ユーザが Issue Type の値を選択すると、埋め込みレイアウトは更新され、トリガ・フィールドの値に結びつけられたレイアウトが表示されます。1つの有用な機能として、ブラウザ・ウィンドウの中にウィンドウの高さより長いフォームがあるとき、トリガ・フィールドに別の値を指定すると、ExtraView は新しい埋め込みレイアウトを画面の上部に表示されるよう配置し、新しいレイアウトがウィンドウの下に隠れてしまわないようにします。

選択可能な埋め込みレイアウトの作成に必要な管理操作の手順を、以下に示します。

1. 最初に、異なる埋め込みレイアウトを表示するトリガとして使用されるフィールドを決定します。例えば、[Issue Type] フィールドの異なる値として、ソフトウェア、ハードウェア、ドキュメントごとに異なる埋め込みレイアウトを表示する場合は、[Issue Type] フィールドを選択します。
2. [Administration] 画面で、[フィールドとレイアウト] タブの [レイアウト・タイプの作成 / 変更] を選択します。



[Administration] 画面

次の画面が表示されます。

11. ここで画面上に埋め込みレイアウトを置きます。この例では、レイアウトの名前は **[LAYOUT. ISSUE_TYPE]** です。埋め込みレイアウトには、レイアウト内の適切な列間隔を指定します。
12. **[Issue Type]** フィールド(この例ではソフトウェア、ハードウェア、ドキュメント)のそれぞれの値について、手順 13 を繰り返します。これらの値それぞれについて、手順 8 で作成したテンプレートから埋め込みレイアウトを作成して保存します。
13. **[LAYOUT. ISSUE_TYPE]** エントリの横にある属性アイコンをクリックします。このアイコンは  のように表示されます。**[Issue Type]** フィールドにレイアウト要素属性 **[Selected]** を追加し、必要な埋め込みレイアウトごとに、適切な値を選択します (**[Issue Type]** の値ごとに埋め込みレイアウトが存在する場合がありますが、その必要はありません)。例えば、埋め込みレイアウトをソフトウェアの値が **[Issue Type]** のときに使用したい場合は、**[ソフトウェア]** を選択してレイアウトに戻ります。
14. レイアウトを保存し、**[戻る]**を押して前画面に戻ります。新しいレイアウトがレイアウトのリストに表示されます。**[選択フィールド]**には **[Issue Type]** のタイトルが入力され、**[選択した値]**には **SELECTED**属性で指定された値が入力されます。
15. 将来、仕様変更が生じた場合(または選択元の UDF に値を追加した場合は、他の値について手順 13 ~ 14 を繰り返します。レイアウト・エディタから、**[LAYOUT.ISSUE_TYPE]**フィールドのレイアウト要素属性の編集に直接移行して、選択した値を追加し、レイアウトを保存できます。それぞれの **SELECTED** 属性に追加された新しい値について、新しい埋め込みレイアウトが自動的に作成されます。
16. 他のレイアウトと同様に、選択可能な埋め込みレイアウトを削除することができます。ただし、手順 8 で作成した「テンプレート」レイアウトは削除しないでください。削除してしまうと、そのタイプの新しい選択可能な埋め込みレイアウトを追加できなくなります。

埋め込みレイアウトの配置

ExtraView は、埋め込みレイアウトの列は、常にそれを埋め込むレイアウトの列と一直線に並ぶよう設計されています。これがユーザにとって最も好ましいフィールドの表示方法です。ただし HTML の制約により、正しく整列されるのは、埋め込みレイアウトが、それが作成されたレイアウト内の最初の列から開始するように定義されている場合に限りです。埋め込みレイアウトに複数の行がある場合(ほとんどの埋め込みレイアウトが該当)、2 番目以降の行は常に 2 番目以降の行の最初の列から表示されることになり、列がずれる可能性があります。これを防ぐため、埋め込みレイアウトの左側のフィールドの **行間隔**を、埋め込みレイアウト内の行数より 1 行多く設定してください。

この効果については、以下の 2 つのレイアウトおよび結果表示の違いを確認してください。

レイアウト 1

| | | |
|--|------------------|---|
|   IT 7 | COMMENTS コメント |  |
|   IT 8 | CONTACT 連絡先 | TEST_EMBEDDED_LAYOUT 埋め込みレイアウト  |
|   IT 9 | OWNER 所有者 | LAYOUT_TEST_EMBEDDED_LAYOUT  |

埋め込みレイアウトを含むレイアウトの定義

このレイアウトでは、埋め込みレイアウトが誤って表示されることになり、埋め込みレイアウトのタイトルは正しく表示されますが、データ行は一番左の列に揃えられます。



レイアウトの表示

レイアウト2

| 追加 | 削除 | 行 7 | COMMENTS コメント |
|----|----|------|------------------|
| 追加 | 削除 | 行 8 | CONTACT 連絡先 |
| 追加 | 削除 | 行 9 | OWNER 所有者 |
| 追加 | 削除 | 行 10 | |

最初の列を拡張したフィールドを含むレイアウトの定義

このレイアウトでは、所有者 フィールドの 行間隔 が 2 に設定されていることに注意してください。これにより、埋め込みレイアウトの行の位置は正しく整理されます。



レイアウトの表示

リピーティング行レイアウトの作成

リリース・レイアウトなどのリピーティング行は、特殊なケースです。これらのレコードは個別の画面ではなく、他の画面レイアウトに組み込まれている画面レイアウトです。これにより、例えば各 issue 内に複数のリリース・レコードがある issue を設定するシステムを作成できます。異なる複数のレイアウトを設計して、必要に応じて追加画面と編集画面の両方に埋め込むことができます。

この場合、レイアウト自体にレイアウトを組み込んで再帰が発生しないように注意してください。1 つのリピーティング行レコードしか使用しない(各 issue について 1 つのリリースが固定されている)システムを必要とする場合は、リピーティング行レコードを使用するべきではありません。他のすべてのフィールドと同様に、適切な画面レイアウトおよびレポート・レイアウトに、単純に適切なリリース・フィールドを埋め込む方法をとってください。この方法の方が効率的で、またリリース・フィールドの追加を許可するプロンプトが画面に表示されることもありません。

リピーティング行には、次の名前とデフォルトの画面タイトルを持つフィールドがあります。

| | |
|------------------------|------------|
| RELEASE_FOUND | 検出リリース |
| RELEASE_FIXED | 修正リリース |
| RELEASE_SEVERITY_LEVEL | リリースの重要度 |
| RELEASE_PRIORITY | リリースの優先度 |
| RELEASE_STATUS | リリースのステータス |
| RELEASE_OWNER | リリースの所有者 |
| RELEASE_ASSIGNED_TO | リリースの担当者 |
| RELEASE_RESOLUTION | リリースの解決策 |

これらの各フィールドは、セキュリティ権限キー(追加画面用に 1 つ、編集および検索画面用に 1 つ)で保護されています。これらのセキュリティ権限キーは、「**セキュリティ権限の付与**」セクションで説明したように、標準的な方法で操作されます。

注：セキュリティ権限キーには、PR_ADD_PROBLEM.RELEASE と PR_RESOLUTION.RELEASE という 2 つの種類があります。これらのキーによってリピーティング行全体の存在が制御され、個別のユーザ・ロールについて、構造全体の有効または無効が切り換えられます。リピーティング行全体に対するアクセスの有効/無効を切り換えるには、書き込み権限を使用します。

メインの issue レコードに追加されるのではなく、リピーティング行に添付される UDF を作成することもできます。ただしその場合は注意が必要です。例えば、リピーティング行の各行にログ・エリアなどのフィールド表示タイプを追加することは、ユーザにとって、またレポート作成にとって問題になります。したがって、ログ・エリア・フィールドはリピーティング行レイアウトではサポートされていません。リピーティング行に添付される UDF など、UDF の設定方法については、データ辞書に関するセクションで説明されています。

ExtraView では、issue が issue レベルだけでなくリピーティング行レベルでもトラッキングされるため、メインの issue データの下、説明などの長文のテキスト・エリアの上にある「リピーティング行」内のデフォルトのレイアウトで、リピーティング・データがグループ化されます。単一行のリピーティング行レイアウトを作成すると、[セキュリティ権限の付与] で設定した許可に従って、これらのフィールドが追加画面と編集画面に表示されます。これについては、次のセクションで詳細に説明します。

リピーティング行のユニーク/非ユニークの設定

目的に応じて、リピーティング行レコードがユニークキー・フィールドを含む、または含まないように実装することが必要な場合があります。この機能は2箇所を設定します。初めに、ワークフロー動作設定画面において [ENFORCE_UNIQUE_RELEASES] によりユニークキー・フィールドを有効にする機能をオンにします。次に、RELEASE_FOUND という名前のフィールドをリピーティング行レコードに配置します。表示タイプは通常リストですが、タブ およびポップアップ もサポートされています。データ辞書のフィールド・タイトルは、ご使用のインストレーションに応じて適切なタイトルに変更できます。

また、RELEASE_FOUND フィールドおよび RELEASE_FIXED フィールドは、PRODUCT_NAME フィールドを親とする子フィールドであることに注意してください。したがって、リピーティング行レコードに RELEASE_FOUND フィールドまたは RELEASE_FIXED フィールドがある場合、そのリピーティング行レコードを含む追加または編集画面には、その親となる PRODUCT_NAME フィールドが存在しなければなりません。

リピーティング行とカスタム・コード

リピーティング行で作業しているとき、イベントのターゲットにしている行がわかれば有用であることがあります。例えば、リピーティング行の特定のフィールドに値を返すポップアップ・フィールドがあるとします。その場合、返された値のターゲットとなる行を知る必要があります。このタスクをより簡単にするため、追加 および 編集 のレイアウトでは JavaScript 関数が利用でき、それをHTML修飾子から任意のセルに呼び出すことができます。この関数は `getRowNumber` といい、次のように使用されます。

```
var rowNum = getRowNumber(this, this.form);
```

この関数は次の `rowNum` を返します。

-1 フィールドが単独のリピーティング行である場合

0 - nn フィールドが2つ以上の行を持つリピーティング行にある場合。ただし、nn はフィールドがある行を示します。

リピーティング行レイアウトのフィールド制限

リピーティング行のレイアウトでは、次のフィールドはサポートされていません。

- ログ・エリア表示タイプのフィールド
- 複数値表示タイプのフィールド
- [フィールド所属先] の値が [リピーティング・レコード] に設定されていないデータ辞書フィールド

リピーティング行レイアウトの作成

1. [Administration] メニューの [フィールドとレイアウト] タブで、[画面とレポートのレイアウト・エディタ] をクリックします。

2. 画面上のリストの [Edit] ボタンをクリックします。

次の画面が表示されます。



リリース・レイアウトの追加

3. ExtraView の特定のインスタンスに適するフィールドを次の中から選択して追加します。

- a. RELEASE_FOUND
- b. RELEASE_FIXED
- c. RELEASE_ASSIGNED_TO
- d. RELEASE_OWNER
- e. RELEASE_PRIORITY
- f. RELEASE_SEVERITY_LEVEL
- g. RELEASE_STATUS – このフィールドはワークフロー・ステータス・ルールで設定されたワークフロー・ルールに従うことに注意してください
- h. RELEASE_OWNER

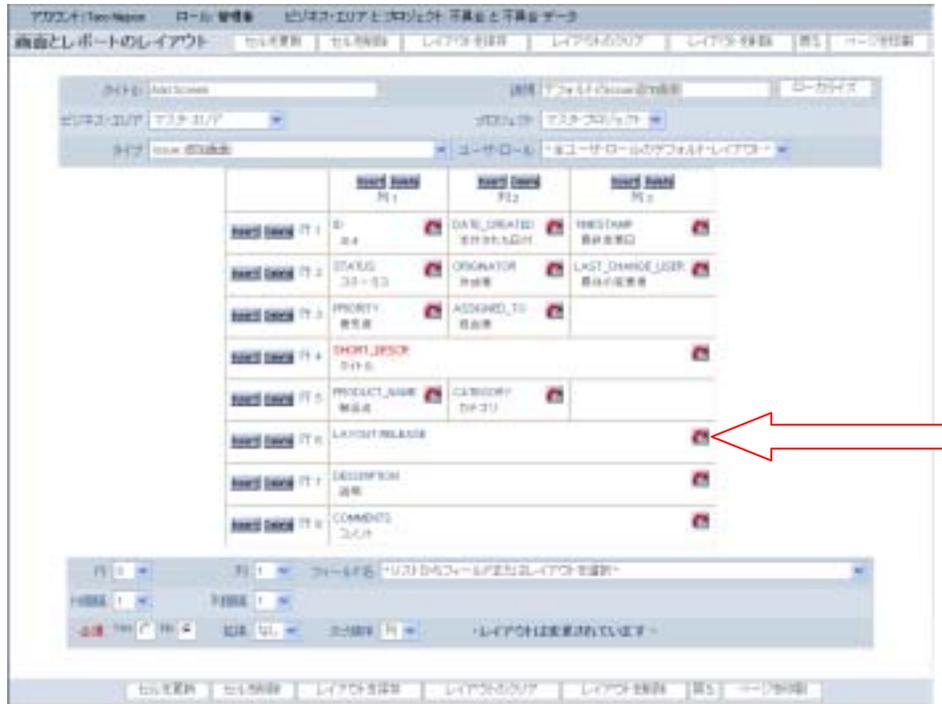
さらに、リピーティング・レコード・タイプである、作成した任意の UDF を選択できます。

4. [レイアウトを保存] ボタンをクリックして、現在のレイアウトを保存します。

適切な画面へのリピーティング行レイアウトの追加

1. [Administration] 画面で [画面とレポートのレイアウト・エディタ] をクリックします。
2. 追加画面と編集画面の両方で、ドロップダウン・リストから [LAYOUT.RELEASE] を選択します。

3. 行のドロップダウン・リストから行を選択するか、新しい行を挿入する [Insert] ボタンをクリックして、リピーティング行情報を追加する行を選択します。
4. 変更を保存して結果を表示します (レイアウト内にレイアウトを埋め込む)。



[画面とレポートのレイアウト] 画面

履歴レイアウト

履歴レイアウトでは、プロセス全体で行われた、issue の各フィールドに対するすべての変更が表示されます。レポート – 履歴レイアウトには、監査証跡プロセスの一部として表示させたいフィールドが表示されます。履歴レイアウトには、次のような重要なポイントがあります。

- 監査証跡は、レイアウト上のフィールドだけでなく、すべてのフィールドについて保持されます。したがって、レイアウトにはいつでもフィールドを追加でき、新しいフィールドには issue の作成時に遡って監査証跡が表示されます。
- チェックボックス・フィールドが編集レイアウトにあって追加レイアウトになく、issue を最初に更新したときにフィールドの値を変更していない場合、このフィールドには変更の状態が [N] (またはデータ辞書で定義したオフを示すタイトル) と表示されます。これは、ExtraView では、フィールドが追加画面における null 状態から編集画面における N に変更されたと解釈されるためです。これを防ぐには、フィールドのデフォルト値をデータ辞書で [N] に定義します。

追加/編集レイアウトの添付ファイル

以下に示すセキュリティ権限により、追加画面および編集画面のレイアウトからファイルを添付する許可を管理できます。セキュリティ権限のエントリには、PR_ADD_PROBLEM および PR_RESOLUTION の両方のキーのセットそれぞれに対応するものがありますが、ATTACHMENT_DELETE、ATTACHMENT_EDIT、ATTACHMENT_HIST、ATTACHMENT_VIEW は PR_RESOLUTION キーのセットにのみ対応しています。

| フィールド/セキュリティ権限キー | |
|-------------------|---|
| ATTACHMENT | <p>このキーで、添付ファイルを作成する機能全体を制御します。このキーに対する書き込み許可は、添付ファイルの作成または保守を行うユーザ・ロールで必要になります。読み取り許可がない場合は、レイアウトに添付ファイル・レコードが配置されません。</p> <p>このフィールドは、詳細レポートなどの添付ファイルを表示する場合に、レポートに配置する唯一のフィールドです。添付ファイル用の残りのフィールドは、フィールドに読み取り許可があるかどうかに従い、ExtraView によってレポート上に配置されます。</p> <p>レポート上の添付ファイルに対する読み取り許可がある場合は、レポートに添付ファイルの [View] ボタンが自動的に配置され、これによって issue のすべての添付ファイルの内容を直接表示できます。</p> |
| ATTACHMENT_ADD | 添付ファイルに対する Add ボタンの有無を制御します。制御するには書き込み権限が必要です。 |
| ATTACHMENT_DELETE | 添付ファイルの削除 ボタンの有効/無効を切り替えます。 |
| ATTACHMENT_EDIT | 以前にアップロードされた添付ファイルのコメント欄を、あるユーザ・ロールで編集可能かどうかを制御します。制御するには書き込み許可が必要です。 |
| ATTACHMENT_HIST | 編集画面で添付ファイル内に Hist ボタンを表示するかどうかを制御します。このボタンを押すと、レイアウト・エディタで ATTACHMENT_HISTORY として定義されたレイアウトをもつウィンドウに、添付ファイルに対する更新やアクセスの履歴レコードが表示されます。通常、このレイアウトはマスタ・エリアで定義され、すべてのビジネス・エリアおよびプロジェクトに継承されます。 |
| ATTACHMENT_VIEW | 以前にアップロードされた添付ファイルを、あるユーザ・ロールで参照可能かどうかを制御します。制御するには、読み取り許可または書き込み許可が必要です。 |
| ATTACHMENT_ID | ExtraView で使用される内部 ID です。どのようなユーザ・ロールに対しても、このキーについての許可を与えることはほとんどありません。 |

| | |
|------------------------|---|
| ATTACH_CONTENT_TYPE | 添付ファイルの MIME コンテンツ・タイプです。このキーの表示は、読み取り許可で管理できます。このフィールドに書き込むことはできません。 |
| ATTACH_CREATED_BY_USER | 添付ファイルを作成したユーザ名です。この場合もフィールドに書き込むことはできず、表示および非表示は読み取りフラグによって管理します。 |
| ATTACH_DATE_CREATED | 添付ファイルが作成された日付です。この場合もフィールドに書き込むことはできず、表示および非表示は読み取りフラグによって管理します。 |
| ATTACH_FILE_DESC | ユーザが入力する、添付ファイルについての説明です。このフィールドでは、読み取りと書き込みの両方を許可できます。 |
| ATTACH_FILE_NAME | issue に添付されているファイルの名前です。この場合もフィールドに書き込むことはできず、表示および非表示は読み取りフラグによって管理します。 |
| ATTACH_FILE_SIZE | 添付ファイルのサイズ(バイト数)です。この場合もフィールドに書き込むことはできず、表示および非表示は読み取りフラグによって管理します。 |
| ATTACH_PATH | ファイル作成者のコンピュータのローカル・ファイル・システムにある、ファイルの元の保存場所へのパスです。この場合もフィールドに書き込むことはできず、表示および非表示は読み取りフラグによって管理します。 |
| ATTACH_THUMBNAIL | 画像形式(JPG、PNG、および GIF)の添付ファイルを、小さいサイズでプレビューします。これによりユーザは、issue の追加や更新の際に画像を参照することができます。また、添付ファイルのレコードを参照しながら、レポート上のフィールドを見ることができません。 |

ユーザ・ロールに許可が与えられている場合、issue には、追加画面と編集画面の両方から複数のファイルを添付することができます。ただし、issue の追加画面から添付ファイルを削除することはできません。ユーザが issue 追加プロセスで誤ってファイルを添付した場合は、そのまま続行し、issue をデータベースに追加し、issue を編集してから添付ファイルを削除します。

issue の更新時に issue に添付ファイルを追加すると、issue 自体が直ちに更新されます。

| サムネイル | 添付ファイル名 | 説明 | MIMEタイプ | サイズ |
|-------|------------------------------|------------------------------|------------|---------|
| | Thumbnail image | Thumbnail image | image/jpeg | 2000000 |
| | Thumbnail image with 200.jpg | Thumbnail image with 200.jpg | image/jpeg | 2000000 |

編集画面の添付ファイル表示部分

| Thumbnail | ファイルの説明 | ファイル名 | ファイルサイズ | 最終更新者 |
|---|-------------------------|------------------------------|---------|---------------------------|
|  | Prototype board | Prototype board with Z80.JPG | 2087 | Taro Nippon 2006/06/22 |
|  | Finalized product board | Finished-product.JPG | 2972 | Taro Nippon 2006/06/22 |

詳細レポートの添付ファイル表示部分

ATTACHMENT_HISTORY レイアウト

編集画面にある Hist ボタンにより、添付ファイルに対する追加、更新、削除の履歴のポップアップ画面が表示されます。また、この画面には、添付ファイルを自分のコンピュータにダウンロードしたすべてのユーザのレコードが表示されます。

通常はインストレーション全体にわたり、同一の ATTACHMENT_HISTORY レイアウトが使用されます。このレイアウトはマスタ・レイアウトでのみ定義可能であり、その他のビジネス・エリアやプロジェクトには、自動的にマスタ・レイアウトから継承されます。当然ながら、ビジネス・エリアやプロジェクトごとに異なる ATTACHMENT_HISTORY レイアウトを定義できます。

| ファイル名 | 変更タイプ | ファイルID | ファイルの説明 | 作成者 | 添付日時 | 参照者 | 参照日時 |
|-------------|-------|--------|-----------------------------|-------------|-----------------------|-------------|-----------------------|
| testdoc | 挿入 | 10004 | ビジネスタイプ活動の記録 | Taro Nippon | 2006-05-26 03:04:58.0 | Taro Nippon | 2006-05-26 03:04:59.8 |
| testdoc | 更新 | 10004 | ビジネスタイプ活動の記録 | Taro Nippon | 2006-05-26 03:04:58.0 | Taro Nippon | 2006-05-26 03:04:59.8 |
| testdoc.pdf | 挿入 | 3028 | ファイルは参照されるIssueをイメージしたものです。 | Taro Nippon | 2006-05-26 03:05:28.0 | Taro Nippon | 2006-05-26 03:05:29.8 |
| testdoc.pdf | 更新 | 3028 | ファイルは参照されるIssueをイメージしたものです。 | Taro Nippon | 2006-05-26 03:05:28.0 | Taro Nippon | 2006-05-26 03:05:29.8 |
| testdoc.pdf | 更新 | 3028 | ファイルは参照されるIssueをイメージしたものです。 | Taro Nippon | 2006-05-26 03:05:28.0 | Taro Nippon | 2006-05-26 03:05:29.8 |
| testdoc.pdf | 更新 | 10004 | ビジネスタイプ活動の記録 | Taro Nippon | 2006-05-26 03:04:58.0 | Taro Nippon | 2006-05-26 03:04:59.8 |

添付履歴画面

レイアウト上に、以下に示すフィールドが配置されます。参照可能にするためには、そのユーザ・ロールに読み取り権限がなくてはなりません。

| Field Name | Purpose |
|--------------------------|------------------------------------|
| ATTACH_CHANGE_TYPE | 添付ファイルへの操作。削除、挿入、更新、表示のうちどれかになります。 |
| ATTACH_CONTENT_TYPE | 添付ファイルの内容の形式。 |
| ATTACH_CREATED_BY_USER | 添付ファイルを作成したユーザの名前。 |
| ATTACH_DATE_CREATED | 添付ファイルの作成日付。 |
| ATTACH_FILE_DESC | 添付ファイルの説明。 |
| ATTACH_FILE_NAME | 添付ファイルのファイル名。 |
| ATTACH_FILE_SIZE | バイト単位で示した添付ファイルのサイズ。 |
| ATTACH_HIST_TIMESTAMP | ユーザが添付ファイルを参照した、などのイベントのタイムスタンプ |
| ATTACH_LAST_DATE_UPDATED | 添付ファイルのメタデータの変更、または添付ファイル |

ATTACH_LAST_UPDATED_BY_USER
ATTACH_PATH

の削除のタイムスタンプ
操作を行ったユーザ
添付ファイルが保存されていた、クライアント・マシン上
の元のパス

レイアウト内のフィールド制限

フィールドはあらゆるレイアウトに無制限に追加できるわけではありません。また、リピーティング行レイアウトに多数のフィールドを配置することには制限があります。次の表に、すべての事前定義フィールドとそれらの使用に関する制限事項を示します。そのフィールドがデータ辞書のエントリで正しく定義されている限り、ユーザ定義フィールドはすべてのレイアウトに配置することができます。

| データ辞書のフィールド名 – DATABASE フィールド・タイプ | 説明 |
|-----------------------------------|---|
| ALT_ID | リピーティング行レイアウトを除くレイアウト |
| AREA | このフィールドは、追加レイアウトまたは編集レイアウトに直接配置することはできません。ExtraView では、ビジネス・エリアが有効になっている場合に、このフィールドがレイアウト上に置かれます。リピーティング行では使用不可 |
| ASSIGNED_TO | リピーティング行レイアウトを除くレイアウト |
| ATTACHMENT_ID | 内部使用のみ |
| ATTACH_CONTENT_TYPE | 添付ファイル・レコードの一部として、レイアウト上に自動的に配置されます。セキュリティ権限により管理 |
| ATTACH_CREATED_BY_USER | 添付ファイル・レコードの一部として、レイアウト上に自動的に配置されます。セキュリティ権限により管理 |
| ATTACH_DATE_CREATED | 添付ファイル・レコードの一部として、レイアウト上に自動的に配置されます。セキュリティ権限により管理 |
| ATTACH_FILE_DESC | 添付ファイル・レコードの一部として、レイアウト上に自動的に配置されます。セキュリティ権限により管理 |
| ATTACH_FILE_NAME | 添付ファイル・レコードの一部として、レイアウト上に自動的に配置されます。セキュリティ権限により管理 |
| ATTACH_FILE_SIZE | 添付ファイル・レコードの一部として、レイアウト上に自動的に配置されます。セキュリティ権限により管理 |
| ATTACH_PATH | 添付ファイル・レコードの一部として、レイアウト上に自動的に配置されます。セキュリティ権限により管理 |
| ATTACH_THUMBNAIL | 添付ファイル・レコードの一部として、レイアウト上に自動的に配置されます。セキュリティ権限により管理 |

| データ辞書のフィールド名 – DATABASE フィールド・タイプ | 説明 |
|-----------------------------------|---|
| AVAILABLE_FOR_DOWNLOAD | レイアウト上で使用不可 |
| CATEGORY | リピーティング行レイアウトを除くレイアウト |
| CONTACT | リピーティング行レイアウトを除くレイアウト |
| DATE_CLOSED | 編集画面での読み取り専用 |
| DATE_CLOSED_SINCE | レポート・フィルタのみ |
| DATE_CODE_FREEZE | レイアウト上で使用不可 |
| DATE_CREATED | 追加および編集画面での読み取り専用。リピーティング行では使用不可 |
| DATE_CREATED_DAY | 追加 / 編集画面またはリピーティング行では使用不可。レポート目的でのみ使用。 |
| DATE_CREATED_MONTH | 追加 / 編集画面またはリピーティング行では使用不可。レポート目的でのみ使用。 |
| DATE_CREATED_SINCE | 追加 / 編集画面またはリピーティング行では使用不可。レポート目的でのみ使用。 |
| DATE_CREATED_TRUNC | 追加 / 編集画面またはリピーティング行では使用不可。レポート目的でのみ使用。 |
| DATE_CREATED_WEEK | 追加 / 編集画面またはリピーティング行では使用不可。レポート目的でのみ使用。 |
| DATE_CREATED_YEAR | 追加 / 編集画面またはリピーティング行では使用不可。レポート目的でのみ使用。 |
| DATE_FIRST_CUSTOMER_SHIP | レイアウト上で使用不可 |
| DATE_LAST_STATUS_CHANGE | 編集画面での読み取り専用。追加画面では使用不可。リピーティング行では使用不可 |
| DATE_LAST_STATUS_CHANGE_SINCE | レポート・フィルタのみ |
| DATE_RELEASE_TO_QA | レイアウト上で使用不可 |
| DAYS_IN_STATUS | レポートのみ |
| DAYS_OPEN | レポートのみ |
| ID | 追加および編集画面での読み取り専用。リピーティング行では使用不可 |
| ITEM_ID | レイアウト上で使用不可 |
| LAST_CHANGE_USER | 編集画面での読み取り専用。追加画面では使用不可。リピーティング行では使用不可 |

| データ辞書のフィールド名 – DATABASE フィールド・タイプ | 説明 |
|-----------------------------------|---|
| LAYOUT | レイアウト上で使用不可 |
| LAYOUT_TYPE | レイアウト上で使用不可 |
| MODULE_ASSIGNED | このフィールドは廃止されており使用できません。 |
| MODULE_DATE_CREATED | このフィールドは廃止されており使用できません。 |
| MODULE_ID | リピーティング行では使用不可 |
| MODULE_NAME | レイアウト上で使用不可 |
| MODULE_PRODUCT | このフィールドは廃止されており使用できません。 |
| MODULE_STATUS | このフィールドは廃止されており使用できません。 |
| MODULE_TIMESTAMP | このフィールドは廃止されており使用できません。 |
| MODULE_TITLE | レイアウト上で使用不可 |
| MODULE_TYPE | このフィールドは廃止されており使用できません。 |
| MODULE_VERSION | このフィールドは廃止されており使用できません。 |
| MONTHS_IN_STATUS | レポートのみ |
| MONTHS_OPEN | レポートのみ |
| ORIGINATOR | リピーティング行レイアウトを除くレイアウト |
| OWNER | リピーティング行レイアウトを除くレイアウト |
| PRIORITY | リピーティング行レイアウトを除くレイアウト |
| PRIVACY | リピーティング行レイアウトを除くレイアウト |
| PROBLEM_RELEASE_ID | レイアウト上で使用不可 |
| PRODUCT_LINE | リピーティング行レイアウトを除くレイアウト |
| PRODUCT_NAME | リピーティング行レイアウトを除くレイアウト |
| PRODUCT_NAME_HIST | レイアウト上で使用不可 |
| PROJECT | このフィールドは、追加レイアウトまたは編集レイアウトに直接配置することはできません。ExtraView では、ビジネス・エリアが有効になっている場合に、このフィールドがレイアウト上に置かれます。リピーティング行では使用不可 |
| RELATIONSHIP_GROUP_ID | レイアウト上で使用不可 |
| RELATIONSHIP_GROUP_OWNER | レイアウト上で使用不可 |
| RELATIONSHIP_GROUP_TITLE | レイアウト上で使用不可 |

| データ辞書のフィールド名 – DATABASE フィールド・タイプ | 説明 |
|-----------------------------------|---|
| RELATIONSHIP_GROUP_TYPE | レイアウト上で使用不可 |
| RELATIONSHIP_GRP_PARENT_ID | レイアウト上で使用不可 |
| RELEASE | レイアウト上で使用不可。[LAYOUT.RELEASE] フィールドを追加および編集画面に組み込んで、リピーティング行に対応できます。 |
| RELEASE_ASSIGNED_TO | リピーティング行およびレポートのみ |
| RELEASE_DATE_CREATED | リピーティング行およびレポートのみ |
| RELEASE_DIRECTORY | レイアウト上で使用不可 |
| RELEASE_DOC_FILENAME | レイアウト上で使用不可 |
| RELEASE_FIXED | リピーティング行およびレポートのみ |
| RELEASE_FOUND | リピーティング行およびレポートのみ |
| RELEASE_FOUND_HIST | レイアウト上で使用不可 |
| RELEASE_OWNER | リピーティング行およびレポートのみ |
| RELEASE_PRIORITY | リピーティング行およびレポートのみ |
| RELEASE_PRODUCT | リピーティング行およびレポートのみ |
| RELEASE_RESOLUTION | リピーティング行およびレポートのみ |
| RELEASE_SEVERITY | リピーティング行およびレポートのみ |
| RELEASE_STATUS | リピーティング行およびレポートのみ |
| RELEASE_TIMESTAMP | リピーティング行およびレポートで読み取り専用 |
| RELEASE_TYPE | 廃止 – 使用不可 |
| REL_GRP_DATE_CREATED | レイアウト上で使用不可 |
| REL_GRP_TIMESTAMP | レイアウト上で使用不可 |
| RESOLUTION | リピーティング行レイアウトを除くレイアウト |
| SEVERITY_LEVEL | リピーティング行レイアウトを除くレイアウト |
| SHORT_DESCR | リピーティング行レイアウトを除くレイアウト |
| START_DATE | レポートのみ。このフィールドを機能させるためには、データ辞書設定の[フィルタ基準]が Yes に設定されている必要があります。 |
| START_UPDATE | レポートのみ。このフィールドを機能させるためには、データ辞書設定の[フィルタ基準]が Yes に設定されている必要があります。 |

| データ辞書のフィールド名 – DATABASE フィールド・タイプ | 説明 |
|-----------------------------------|---|
| STATUS | リピーティング行レイアウトを除くレイアウト |
| STATUS_HIST | レイアウト上で使用不可 |
| STOP_DATE | レポートのみ。このフィールドを機能させるためには、データ辞書設定の[フィルタ基準]が Yes に設定されている必要があります。 |
| STOP_UPDATE | レポートのみ。このフィールドを機能させるためには、データ辞書設定の[フィルタ基準]が Yes に設定されている必要があります。 |
| TIMESTAMP | 追加および編集画面での読み取り専用。リピーティング行では使用不可 |
| TIMESTAMP_DAY | 追加 / 編集画面またはリピーティング行では使用不可。レポート目的でのみ使用。 |
| TIMESTAMP_MONTH | 追加 / 編集画面またはリピーティング行では使用不可。レポート目的でのみ使用。 |
| TIMESTAMP_SINCE | 追加 / 編集画面またはリピーティング行では使用不可。レポート目的でのみ使用。 |
| TIMESTAMP_TRUNC | 追加 / 編集画面またはリピーティング行では使用不可。レポート目的でのみ使用。 |
| TIMESTAMP_WEEK | 追加 / 編集画面またはリピーティング行では使用不可。レポート目的でのみ使用。 |
| TIMESTAMP_YEAR | 追加 / 編集画面またはリピーティング行では使用不可。レポート目的でのみ使用。 |
| WEEKS_IN_STATUS | レポートのみ |
| WEEKS_OPEN | レポートのみ |

| データ辞書のフィールド名 – LABEL フィールド・タイプ | 説明 |
|--------------------------------|---|
| CC_EMAIL | レイアウト上で使用不可。このフィールドは、通知フィールドと合わせて追加および編集レイアウトに自動的に追加されます。 |
| DELETE_BUTTON | レポートのみ |
| EDIT_BUTTON | レポートのみ。このフィールドは、すべてのカスタム・レポートに自動的に追加されます。 |
| EMAIL | レイアウト上で使用不可 |
| FILTER_CHILD_VALUES | レイアウト上で使用不可 |
| GENERATE_EMAIL | レイアウト上で使用不可。このフィールドは、通知フィールドと合わせて追加および編集レイアウトに自動的に追加されます。 |
| HISTORY_BUTTON | レポートのみ |
| KEYWORD | レポート・フィルタのみ |
| PROBLEM | レイアウト上で使用不可 |
| RELATIONSHIP_GROUP_LINK | レイアウト上で使用不可 |
| REPORT | レイアウト上で使用不可 |
| REPORT_BY | レイアウト上で使用不可 |
| REPORT_NAME | レイアウト上で使用不可 |
| REPORT_OUTPUT | レイアウト上で使用不可 |
| REPORT_TYPE | レイアウト上で使用不可 |
| SORT | レイアウト上で使用不可 |
| VIEW_BUTTON | レポートのみ。このフィールドは、すべてのカスタム・レポートに自動的に追加されます。 |

| データ辞書のフィールド名 – SCREEN フィールド・タイプ | 説明 |
|---------------------------------|-------------|
| ADD_PROBLEM | レイアウト上で使用不可 |
| ADD_PROBLEM_SUMMARY | レイアウト上で使用不可 |
| ADMINISTRATION | レイアウト上で使用不可 |

| データ辞書のフィールド名 – SCREEN フィールド・タイプ | 説明 |
|---------------------------------|---|
| ATTACHMENT | 添付ファイル・レコードを追加および編集画面に配置するフィールドです。詳細レポートとクイックリストにも配置することができますが、レポート・フィルタ・レイアウトに置くことはできません。[ATTACH_FILE_NAME] や [ATTACH_FILE_SIZE] などの個別のフィールドにセキュリティ権限を設定して、表示を管理します。 |
| BATCH_COMMANDS | レイアウト上で使用不可 |
| COMPANY_NAME | レイアウト上で使用不可 |
| CUSTOM_EMAIL | レイアウト上で使用不可 |
| HOME_PAGE | レイアウト上で使用不可 |
| PAGE_SIZE | レイアウト上で使用不可 |
| PROBLEM_RELEASE_DELETE | レイアウト上で使用不可 |
| PROBLEM_SUMMARY_EDIT | レイアウト上で使用不可 |
| PROMO | レイアウト上で使用不可。このフィールドはサインオン画面に自動的に含まれ、ページ内に表示されるフィールドのタイトルに HTML を含めることができます。この HTML では画像や JavaScriptを使用できます。 |
| QUICK_LIST | レイアウト上で使用不可 |
| RELATIONSHIP_GROUP | レイアウト上で使用不可 |
| SEARCH_REPORT | レイアウト上で使用不可 |
| SECURITY_GROUP | レイアウト上で使用不可 |
| SECURITY_KEYS | レイアウト上で使用不可 |
| SECURITY_PERMISSION | レイアウト上で使用不可 |
| SIGN_ON | レイアウト上で使用不可 |
| STATUS_CHANGE | レイアウト上で使用不可 |
| SYSTEM_LOG_TYPE | レイアウト上で使用不可 |
| UDF | レイアウト上で使用不可 |
| USER_ACCOUNTS | レイアウト上で使用不可 |

| データ辞書のフィールド名 – SESSION および SPECIAL フィールド・タイプ | 説明 |
|--|-------------|
| USER | レイアウト上で使用不可 |
| SYSDATE | レイアウト上で使用不可 |

許容値タイプ

[許容値リスト] では、特定のフィールド・リストとその値が、他のリストにあるフィールドの値に依存するように設定できます。例えば、最初に関連する親製品を選択した場合にのみ、特定のプラットフォームのリストが表示されるように設定できます。下図のように親子の関係を設定すると、OS 9 または OS 10 のプラットフォームは Mac 製品の場合にのみ表示され、Red Hat プラットフォームは Linux の場合にのみ表示されるようにすることができます。

| 製品 | プラットフォーム |
|------------------|------------|
| Macintosh クライアント | OS 9.x |
| Macintosh クライアント | OS 10.x |
| Linux クライアント | Red Hat |
| Windows クライアント | Windows 98 |
| Windows クライアント | Windows XP |

上記の例では、Macintosh クライアントという製品を選択すると、ExtraView の [issueを追加] または [issueを編集] 画面が更新され、[プラットフォーム] というタイトルのフィールドに OS 9.x と OS 10.x の 2 つの値が表示されます。

この機能を使用することにより、適正なデータを、最小限の選択肢から入力することができます。許容値を関連付けることで、値のセットをカスケードすることができます。一般的な許容値の例は次のとおりです。

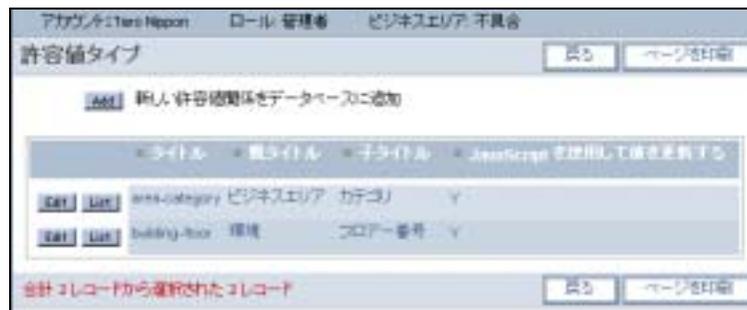
1. 製品名 モジュール
2. モジュール 所有者
3. カテゴリ モジュール リリース(カスケード・リストの例)
4. カテゴリ 製品名

フィールドの組み合わせによっては、許容値として作成できないものもあります。例えば、MODULE_ID または MODULE_NAME と PRODUCT_NAME の組み合わせで、許容値を作成することはできません。この組み合わせを処理する事前定義のメカニズムが別にあるためです。

新しい許容値タイプの作成

1. [Administration] メニューの [フィールドとレイアウト] タブで、[許容値タイプと値の組み合わせ] をクリックします。

次の画面が表示されます。



[許容値タイプ] 画面

カテゴリと優先度間の親子依存関係(サンプル・タイトル「Test」を使用)は、次のように設定します。

1. タイトルは、許容値タイプ用に任意の値を指定します。
2. 親データベースの名前として、親子関係で親になっているフィールドを選択します。次に、選択した親の値に依存する子データベースの名前を選択します。
3. [JavaScript を使用して値を更新する] を選択すると、クライアント・ブラウザでは許容値リストの更新に JavaScript が使用されます。許容値リストが非常に長い場合を除き、これによって、親の値が変更されたときにサーバを使用してリストの値を保持する場合に比べ、パフォーマンスが大幅に向上します。JavaScript による更新を使用したときに表示される可能性のあるリストの大きさは、REFRESH_LIST_MAX_SIZE という動作設定により制御されます。この設定は、ExtraView がサーバ側での更新を使用する前に、クライアント・ブラウザでの処理用にダウンロードされる親値と子値の組み合わせの数を示します。しかしながら、親フィールドが常に画面の更新を引き起こす場合(例えばエリア・フィールドとプロジェクト・フィールドは常に更新を引き起こします)、JavaScript による更新を有効にすることは逆効果です。その理由は、サーバは変わらず JavaScript による更新に必要な情報をブラウザにダウンロードするからです。この処理には時間がかかり、画面のパフォーマンスを低下させる可能性があります。
4. [追加] ボタンをクリックします。

注:あるフィールドが複数の許容値の関係で親になっている場合は、[JavaScript を使用して値を更新する] を使用することはできません。

注:許容値の関係は、親フィールドの名前を指定せずに作成することができます。これは次のような場合に有用です。あるリスト自体を基にしたリストを作成したい場合があるかもしれません。奇異なことに思われるかもしれませんが、そうするとリストの一部の値の

みを画面上に表示させることができます。これにより、特定の値を無効にしているなどの場合、それらをリスト上から非表示にすることができます。

新しい許容値タイプ

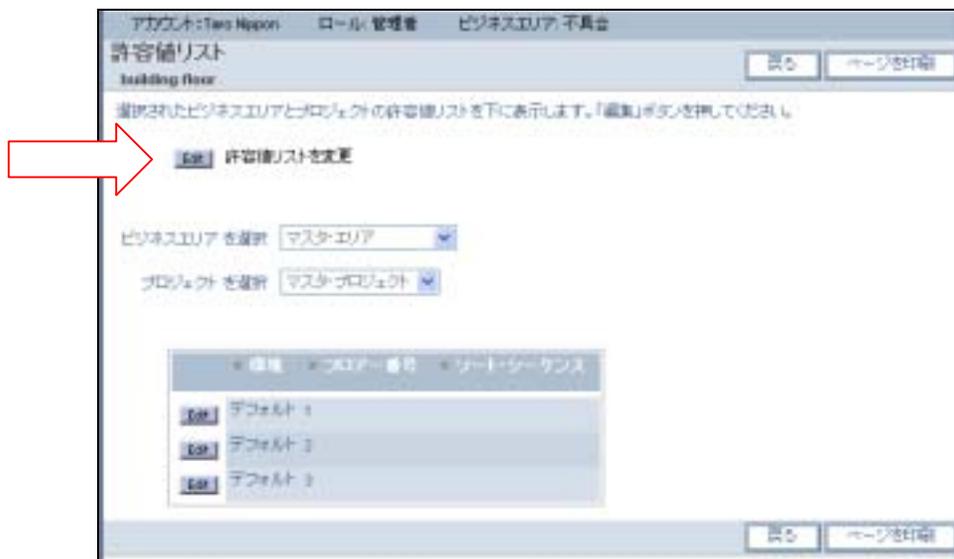
許容値の入力

許容値タイプを作成したら、[Administration] メニューの [フィールドとレイアウト] タブにある [許容値タイプと値の組み合わせ] に移動します。

次の画面にメタデータが表示されます。

[許容値タイプ]

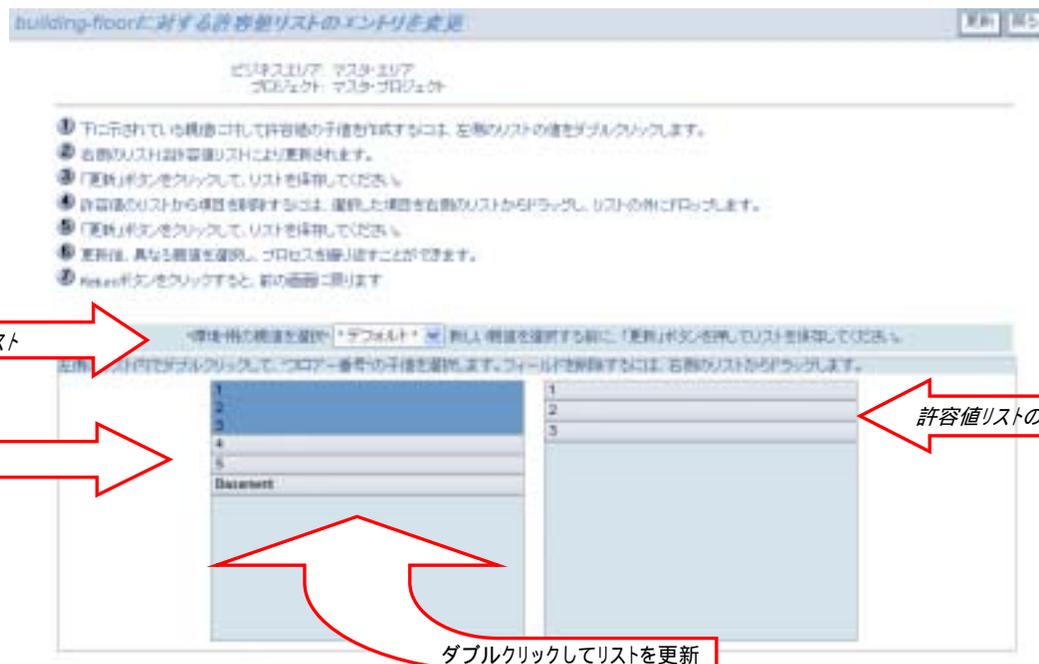
上記の依存関係を設定すると、関係の詳細を表示または指定できるようになります。例えば、選択したカテゴリに基づくリスト・ボックスに、所有者のどの値が表示されるかを確認または変更できます。これを行うには、該当する許容値のタイトルの横にある [List] アイコンをクリックします。ビジネス・エリアとプロジェクトについてのプロンプトは、これらの項目がシステムで有効になっている場合のみ表示されます。



[許容値リスト]

ビジネス・エリアとプロジェクトのいずれかまたは両方が有効になっている場合は、リストから任意の組み合わせを選択して、その許容値の関係について定義されているすべての値のリストを表示できます。

許容値リストを変更するには、[Edit] ボタンをクリックします。ビジネス・エリアとプロジェクトのいずれかまたは両方が有効になっている場合は、マスタ・エリアとマスタ・プロジェクトの値を定義するか、または選択したビジネス・エリアとプロジェクト内だけで有効な値を定義できます。



許容値リストの管理

許容値リストを変更する場合、画面は上の例のようになります。左側のリストで子として許容したい値をそれぞれダブルクリックして、許容値の子値を選択します。すると、値が右側のリストに現れます。許容値の子値を削除するには、右側のリストにあるリスト項目の上でマウスボタンを押したまま、その値を選択ボックスの外にドラッグします。親フィールドが AREA の場合、この画面からは親リストの値の変更はできず、前の画面に戻って新たに選択し直す必要があります。左側のリストにある有効な子のリストから値を選択すると、[更新] ボタンをクリックしたときに値が更新されます。選択されたリストでは、他の画面のリストに表示される順序で子の値が表示されます。この順序は、デフォルトの英数字順を使用する場合を除き、リストの値の管理画面で設定できます。

リストを変更したら、[更新] ボタンをクリックして変更内容をデータベースに反映させる必要があります。必要に応じて他の親を選択して子を変更するか、[戻る] をクリックして前の画面に戻ります。

注:親の値が [AREA] フィールドまたは [PROJECT] フィールドである場合は、値は前の許容値リストからのみ選択できます。

注:許容値の保守は、リストの保守画面で行うこともできます。リスト・フィールドの値が許容値の関係で子である場合は、リストの保守画面で、子が属する親を選択します。許容値の保守を行うには、2 つの補完的な方法があります。ここで説明する方法は、親フィールドから入力する場合に便利ですが、リストの保守画面で使用可能な方法は、子フィールドで変更を行う場合に便利です。

[* デフォルト*] 親許容値

親許容値にはそれぞれ [* デフォルト *] というエントリがあります。このエントリによって、親に他の許容値のセットがない場合に、デフォルトとして使用する子許容値を設定できます。これにより、親の値が多数あり、そのうちの多くが同じセットの子の値を必要とし、少数の親だけが独自の子の値のセットを必要とする場合に、効率的に許容値を設定できます。

特定の値のセットを必要とする親について、許容値を設定します。次に、[* デフォルト *] の親について子の値を設定します。これにより、その他すべての親の値に [* デフォルト *] の子の値が適用されます。また、子フィールドの追加画面および編集画面で [* なし *] を指定すると、デフォルトの子が使用されます。

許容値のカスケード

「カスケードする」許容値の関係を設定することができます。この場合は、1 つのフィールドのペアについて親子関係を定義し、次に第 1 の関係で親であるフィールドが子になる、第 2 の親子関係を定義します。これにより、3 つのフィールド間で祖父 - 親 - 子の関係が設定されます。この方法にはいくつかの制限事項があります。

- すべてのフィールドのデータ辞書の表示タイプは、[リスト]、[ポップアップ]、または [タブ] のいずれかにする必要があります。他の表示タイプは機能しません。
- 表示タイプが [ポップアップ] または [タブ] である場合は、それぞれの許容値の関

係について、[JavaScript を使用して値を更新する]を [No] に設定する必要があります。

子フィールドの選択リストには、祖父の値と親の値を選択するまで、可能な値として常に [* なし *] だけが表示されます。

レコードを編集すると子のレコードが無効になるように、許容値を関連付けているメタデータを変更すると、ExtraView では子の値が無効になったことをユーザに通知する警告が表示されます。ただし、無効な値はこの時点でもまだ表示されています。ユーザが祖父または親の値を変更すると、子フィールドの無効な値は表示されなくなります。

複数の子値を持つ許容値の親フィールド

1つのフィールドを複数の子フィールドの親とすることができます。このシナリオでレイアウトを設定する場合、1つのレイアウト上の子フィールドが10個以下であれば、JavaScript による更新を使用してユーザ用のリストを保守することができます。非常にまれで例外的な状況であるものの、1つの親に 11 以上の子フィールドを必要とする場合にも、サーバ側の更新は機能します。サーバ側の更新では、1つの親に対する子フィールドの数の制限はありません。

許容値の制限事項

許容値の関係では、有効な組み合わせにならないフィールドの親子関係もあります。有効な組み合わせには次のようなものがあります。

| 親表示タイプ | 有効な子表示タイプ |
|--------|----------------------------|
| リスト | リスト ポップアップ タブ ユーザ |
| ポップアップ | リスト ポップアップ タブ ユーザ |
| タブ | リスト ポップアップ タブ ユーザ |
| ユーザ | リスト ポップアップ タブ ユーザ |

注:その他の表示タイプ(チェックボックス、日付、ログ・エリア、数値、出力テキスト、テキスト・エリア、テキスト・フィールド)は、許容値の関係ではサポートされていません。

許容値およびリピーティング行レコード

リピーティング行レコードで許容値の関係を使用するには、いくつかの制限事項があります。次のようなものがあります。

- 許容値の関係について、[JavaScript を使用して値を更新する]を *No* に設定する必要があります。この場合は、子リストで正しく子の値が入力されるように、画面を更新する必要があります。
- 親フィールドと子フィールドはいずれも UDF でなければなりません。
- 許容値が右にあるリピーティング行フィールド内の一括更新機能は、現時点ではサポートされていません。

レイアウト・タイプの作成 / 変更

レイアウト・タイプは、異なるタイプのレポートまたはレイアウトそれぞれに名前とラベルを付けるために使用されます。これらは多くの場合、ExtraView で [Issue の追加] 画面や検索フィルタなどの埋め込み機能を記述するために使用されます。

レイアウト・タイプを使用することで、同じタイプの個別のレイアウトを作成できます。例えば、システム全体のユーザ・ロール、エリア、プロジェクトそれぞれについて、[Issue の追加] 画面を作成できます。

管理者がレイアウト・タイプを新たに作成するのは、多くの場合、新しい埋め込みレイアウトを作成する必要があるときです。埋め込みレイアウトは、1 つまたは複数のレイアウトに含めることができます。一般的にこの機能は、[カテゴリ] などのフィールドの値に従って埋め込みレイアウトを選択するために使用されます。例えば カテゴリ = DOCUMENTATION と設定すると、埋め込みレイアウト上でドキュメントの issue に関するフィールドが表示されます。カテゴリ = HARDWARE と設定すると、ハードウェアの issue に関するフィールドが表示されます。

新しいレイアウト・タイプの作成

新しいレイアウト・タイプを作成するには、[フィールドとレイアウト] という管理タブで、[レイアウト・タイプの作成 / 変更] リンクをクリックします。

次の画面が表示されます。

アカウント: Tera Nippon ロール: 管理者 ビジネスエリア: 不具合

レイアウト・タイプの作成 / 変更

[Add] データベースに新しいレイアウト・タイプを追加

| 名前 | タイトル | 用途 | 作成 | 最終更新日 |
|--------------------------|---------------|------|-------------------------|-------------------------|
| [Edit] EMAIL_DETAIL | 電子メール 本文、要約 | レポート | 2005/01/01 ExtraView | 2005/01/01 ExtraView |
| [Edit] ADD_PROBLEM | issue 追加画面 | 画面 | 2005/01/01 ExtraView | 2005/01/01 ExtraView |
| [Edit] EDIT_PROBLEM | issue 編集画面 | 画面 | 2005/01/01 ExtraView | 2005/01/01 ExtraView |
| [Edit] SEARCH_QUICKLIST | レポート、クイックリスト | レポート | 2005/01/01 ExtraView | 2005/01/01 ExtraView |
| [Edit] SEARCH_DETAIL | レポート、詳細 | レポート | 2005/01/01 ExtraView | 2005/01/01 ExtraView |
| [Edit] RELEASE | スピーチングレコード | 画面 | 2005/01/01 ExtraView | 2005/01/01 ExtraView |
| [Edit] SEARCH_EXPANDED | 検索、フル検索 | 検索 | 2005/01/01 ExtraView | 2005/01/01 ExtraView |
| [Edit] SUMMARY_REPORT | レポート、サマリ | レポート | 2005/01/01 ExtraView | 2005/01/01 ExtraView |
| [Edit] SIMPLE_COL_SELECT | 検索ウィンドウ-レイアウト | レポート | 2005/01/01 ExtraView | 2005/01/01 ExtraView |
| [Edit] SEARCH_QUICK | 検索、クイック検索 | 検索 | 2005/01/01 ExtraView | 2005/01/01 ExtraView |
| [Edit] EMAIL_FULL | 電子メール 本文、全文 | レポート | 2005/01/01 ExtraView | 2005/01/01 ExtraView |
| [Edit] HISTORY | レポート、履歴 | レポート | 2005/01/01 ExtraView | 2005/01/01 ExtraView |
| [Edit] SEARCH_EMAIL | 電子メール フル検索 | 検索 | 2005/01/01 ExtraView | 2005/01/01 ExtraView |

レイアウト・タイプの保守

レイアウト・タイプを新しく追加するには、[Add] ボタンをクリックして次の画面を使用します。

アカウント: Tera Nippon ロール: 管理者 ビジネスエリア: 不具合

新しいレイアウト・タイプの作成 / 変更を追加

[Add] [キャンセル] [ページを印刷]

名前

表示するタイトル

用途

[Add] [キャンセル] [ページを印刷]

レイアウト・タイプの保守

[用途] から選択できる値は、[画面]、[レポート]、[検索]、[ユーザ・レポート] です。

注:レイアウト・タイプは、管理者が独自に作成したもので、また ExtraView によって作成されたものでも、編集機能によって削除することができます。ただし、ExtraView によって作成されたレイアウト・タイプは削除しないでください。削除すると、ExtraView が正常に機能しなくなります。

複雑なレイアウトの作成

ExtraView では同一または異なるビジネス・エリアからの情報を埋め込むレイアウト、および異なるビジネス・エリアから追加画面または編集画面へと情報を取得するレイアウトを作成することができます。

例 1 関連する issue のレポートを埋め込む

より詳細な例は、本書の「**関連する issue の例**」というタイトルのセクションに掲載されています。issue を1つ以上の関連 issue に関連付け、それによって関係グループを構成したり、issue を既存の関係グループに関連付けたりすることができます。その画面は以下のように表示されます。



関連する issue のレイアウトの例

ユーザが **[親となる ID#]** フィールドに **ID 番号** を入力すると [1]、画面上で関連する issue が埋め込みレポートに表示されます [2]。**[親となる ID#]** フィールドの横にあるリンクボタン [3] を押すことにより、別の編集画面上に issue を表示させることができます。関係を作成する前に類似した issue を検索したい場合は、**[類似する issue を検索]** フィールドにキーワードを入力し [4]、リンクボタンをクリックします。新しいウィンドウがポップアップし、検索結果のクイックリストが表示されます。

このサンプル・レポートは、次の手順で作成することができます。

1. データ辞書に **[親となる ID#]** というフィールドを以下の内容で作成します。

フィールド Issue レコード
所属先

固定データ PARENT_ID
ベース名

表示するタ 親となる ID#
イトル

表示タイプ 数

レポート上 Yes
での選択を
許可

フィルタ基 Yes
準

ソート可能 Yes

URLとして Yes
表示

表示

URL ?p_action=doEditDisplay&p_id=\$\$VALUE\$\$&p_option=Display&p_from_action=search&p_from_option=search

ヘルプ・テキスト この issue の親のIDです。その issue およびこれを親とするすべてのissueが [関連するissue] フィールドに表示されます。

2. データ辞書に **[類似する issue を検索]** というフィールドを以下の内容で作成します。

フィールド Issue レコード

所属先

固定データ SIMILAR_SEARCH

ベース名

表示するタイトル 類似するissueを
検索

表示タイプ テキスト・フィールド

URLとして表示 Yes

URL ?p_action=doRunQuicklist&p_option=search.SearchDisplay&keyword=\$\$VALUE&product_name=\$\$PRODUCT_NAME\$\$

ヘルプ・テキスト 同一製品名を持つ類似レコードを検索します。ポップアップ・クイックリスト上に結果が表示されます。現在のレコードには影響しません。

3. データ辞書に **[関連issue]** という名前のフィールドを以下の内容で作成します。

フィールド Issue レコード

所属先

固定データ RELATED_ISSUE_DISPLAY。関連issueの表示レイアウトを
ベース名 RELATED_ISSUE_DISPLAY とは異なる名前で作成した場合、その名前のフィールドをデータ辞書に作成してください。名前はRELATED_SUPPLIERS のように、RELATEDで始める必要があります。

表示するタイトル 関連issue

表示タイプ カスタム

4. この機能を使用するすべてのユーザ・ロールに対し、これら 3 つのフィールド

に対する読み取り権限と書き込み権限を付与します。

- [レイアウト・タイプの作成 / 変更]メニューから、新しいレイアウト・タイプを以下の内容で作成します。

名前 RELATED_ISSUE_DISPLAY。
RELATEDで始まる名前を付ければ、RELATED_ISSUE_DISPLAYと同様に機能する別のレイアウトを作成できます。

表示するタイトル 埋め込みレイアウトとして含める関連issueレイアウト

用途 画面

- [画面とレポートのレイアウト・エディタ]から、関連issueを表示させたいユーザー・ロール、ビジネス・エリア、プロジェクトに移動します。
- 「システム全体に新しいレイアウトを追加」から、先程作成した関連issueレイアウトを追加します。
- このレイアウトを編集し、埋め込みレポート上に表示したいフィールドを追加します。以下のフィールド・セットの例は必要に応じて変更が可能です。

| 行 | 列 | フィールド | 属性 | |
|---|---|-------|---------------|--|
| 1 | 1 | ID | Size | 10 |
| | | | HTML Modifier | <LINK group(PARENT_ID)/><ORDER ID DESC/> |
| 1 | 2 | ステータス | Size | 12 |
| 1 | 3 | 担当者 | Size | 20 |
| 1 | 4 | タイトル | | |

size 属性により埋め込みレポート上のフィールド幅が指定できます。値を指定しない場合フィールド幅は固定されません。また、関連issueのリストの生成に使用される HTML 修飾子のリンク式の構文に注意してください。

- 関連する issue の表示を含むレイアウト上に PARENT_ID というフィールドを配置し、以下の属性を与えてください。これにより、親の ID を入力すると、画面が更新されて関連 issue のリストが検索されます。

HTML_MODIFIER onchange=submitChange(this.name)

- 関連issue表示を含むレイアウト上に、RELATED_ISSUE_DISPLAY という名前の(または別の名前の)フィールドを配置し、以下のように属性を設定します。

MAXLENGTH 4

SIZE 100

VISIBLE_IF Visible if PARENT_ID is not null

maxlength 属性は埋め込みレポートのテキストの行数で、これを超えるとスクロール・バーが表示されます。size 属性では埋め込みレポート全体の文字幅が設定されます。visible_if 属性を設定すると、表示すべき1つ以上の関連issueがない場合には埋め込みレポートを非表示にします。ほとんどの場合、RELATED_ISSUE_DISPLAY を issue の追加レイアウトに配置することは無意味です。その理由は、既存の issue を相互に関連付けることだけが可能であり、issue を追加しているときにはその issue はまだ存在していないからです。ただし、postupdate ルールなどのビジネス・ルールを使用して、issue の作成後ただちに新しい issue を関係グループに追加することができます。

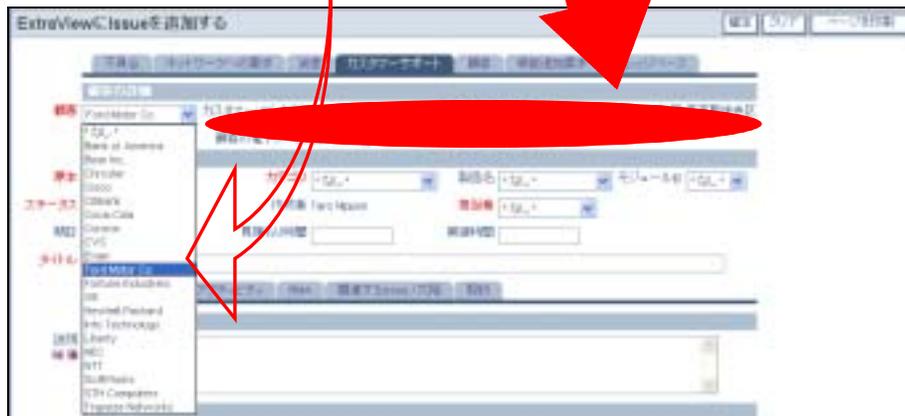
11. この対処方法は ExtraView から入手可能なカスタム・コードに依存します。システムにコードがインストールされていない場合は、ExtraView にお問い合わせください。コードは ExtraView のv4.3.2 以降のすべての出荷バージョンに同梱されています。

例 2 ビジネス・エリアのフィールドを異なるビジネス・エリアに関連付ける

この例では、あるビジネス・エリアで名前と ID をフリーテキストとして入力して顧客を作成し、次に別のビジネス・エリアのリスタイプのフィールドから、その顧客にアクセスする方法を示します。リンクが作成されると、ユーザは担当者名や電話番号などの別のフィールドを取得することができます。



顧客追加画面



顧客サポートissue追加画面

基本的には、顧客の詳細情報を追加画面で入力することにより顧客を作成できます。ここで顧客名、住所、担当者名、電話番号などの情報が追加されます。顧客が入力されると、その顧客は顧客サポート issue の追加画面に顧客リストのメンバーとして表示されます。リストから顧客が選択されると、担当者名、電話番号などの情報が顧客エリアから取り出され、顧客サポートissue の構成に使用されます。この設定を行うには、以下の手順に従ってください。

1. 顧客レイアウトを作成し、レイアウト上に CUST_NAME (テキスト・フィールド)、CUST_CONTACT、CUST_PHONE_NUMBER などのフィールドを配置します。V4.3.2 以降の新規インストールに同梱されている ExtraView カスタム・コードでは、CUST_NAME が新規に入力される度に CUST_LIST フィールドの保守を行います。カスタム・コードを入手していない場合、ExtraView サポートにご連絡ください。
2. 顧客サポートissueレイアウトを作成します。作成には、CUST_NAME フィールドに対応する、表示タイプがリストである CUST_LIST というフィールドを使用します。その他の CUST_CONTACT や CUST_PHONE_NUMBER などのフィールドは顧客レイアウトと同じフィールドになります。その他のフィールドのレイアウト・セル属性の Visible If に、CUST_LIST is not null を設定します。これにより顧客リストから顧客が選択されるまで、フィールドを非表示にできます。
3. 顧客エリアにおいて、フィールドの読み取りおよび書き込み権限を付与します。
4. 顧客サポートissueエリアにおいて、CUST_NAME フィールドの読み取りおよび書き込み権限を付与します。その他のフィールドには読み取り権限のみを付与します。
5. 2つのエリア間のリンク作成には、ビジネス・ルール・エンジンが使用されます。これについてはこの文書の次のセクションで詳細に記述します。以下のエントリによりこの機能が提供されます。

```
<== link customerLink ==> AREA='Customers', CUST_LIST=CUST_LIST

<== refresh ==>
if (CUST_LIST={CHANGED}) {
    CUST_CONTACT_NAME           = (customerLink).CUST_CONTACT_NAME;
    CUST_PHONE_NUMBER           = (customerLink).CUST_PHONE_NUMBER;
    CUST_ADDRESS                 = (customerLink).CUST_ADDRESS;
    CUST_EMAIL                   = (customerLink).CUST_EMAIL;
    CUST_PHONE_CELL              = (customerLink).CUST_PHONE_CELL;
    CUST_CONTRACT_NUM            = (customerLink).CUST_CONTRACT_NUM;
    CUST_CONTRACT_SIGN_DATE      = (customerLink).CUST_CONTRACT_SIGN_DATE;
    CUST_CONTRACT_RENEWAL_DATE   = (customerLink).CUST_CONTRACT_RENEWAL_DATE;
    CUST_CONTRACT_ACT_RENEWAL_DATE=(customerLink).CUST_CONTRACT_ACT_RENEWAL_DATE;
}
```

link ルールにより、CUST_LIST フィールドを含むどの画面からも顧客ビジネス・エリアへリンクすることが可能になります。CUST_LIST フィールドが変更されると、通常は顧客サポート issue ビジネス・エリアの issue 追加画面を更新する際に refresh ルールが起動し、当該フォームのすべてのフィールドに値が割り当てられます。

表示オプションの管理

レポートとクエリの設定

これらの設定により、ExtraView 内のレポートとクエリの動作を制御します。これらの設定は次のように変更できます。

| [表示]メニュー – [レポートとクエリの設定] | 標準的な値 | 説明 |
|--------------------------------|--|--|
| ABBREVIATED_HISTORY | NO | 値が YES の場合は、変更されたフィールドが履歴レコードのみに表示され、監査証跡の表示に履歴レイアウトは使用されません。値が NO の場合は、監査証跡の表示に履歴レイアウトが使用されます。YES の場合には NO の場合よりも結果が簡潔に表示されますが、変更を確認するための特定のレイアウトはありません。 |
| ABBREVIATED_HOME_PAGE | NO | 値が NO の場合は、サインオン・メッセージと、最大 3 つのユーザ定義レポートがホーム・ページに表示されます。値が YES の場合は、サインオン・メッセージだけが表示されます。 |
| ALLOWED_ATTACH_SEARCH_FILE_EXT | txt, html, doc, htm, application/base64 .. | ユーザが [添付ファイルを検索?] ボックスにチェックを入れた場合に、このリストでキーワード検索の対象になる添付ファイルの形式。検索されるリスト内で、これらの拡張子を持たないファイルはスキップされます。この機能は、画像ファイルなどのファイル検索をスキップして、検索プロセスを効率化するために使用されます。 |
| ALLOW_CHART_PRODUCT | YES | PRODUCT に基づいてユーザがグラフを作成できます。有効な値は YES と NO です。NO に設定すると、PRODUCT にグラフを表示するオプションが表示されません。 |
| ALLOW_CHART_RELEASE | YES | RELEASE リピーティング行に基づいてユーザがグラフを作成できます。有効な値は YES と NO です。NO に設定すると、RELEASE にグラフを表示するオプションが表示されません。 |
| ALLOW_CHART_STATUS | YES | ステータスに基づいてユーザがグラフを作成できます。有効な値は YES と NO です。NO に設定すると、ステータスにグラフを表示するオプションが表示されません。 |
| ALLOW_SEARCH_DEACTIVATED_USERS | NO | この動作設定は、USER_LIST_DISPLAY が POPUP に設定されている場合、ユーザ検索時に無効化されたユーザを検索対象に含めることを許可するかを制御します。値が YES の場合、ポップアップ検索画面にもう 1 つのオプションが表示されます。このオプションを使用して、無効化されたユーザの検索を有効にすることができます。USER_LIST_DISPLAY が NO の場合、他の無効化された値を検索するときと同様の方法で、無効化されたユーザを検索できます。 |
| ALLOW_SEARCH_TEXT_UDFS | NO | YES に設定すると、キーワード検索に表示タイプが Text の UDF が含まれます。これは検索スピードに影響する場合があります。有効な値は YES と NO です。 |
| ALLOW_UNLIMITED_SEARCH | YES | 検索の際にクエリから返される行の件数を無制限とするか否かを設定します。有効な値は YES および NO です。大容量のデータベースでは、システム管理者は通常、大量のリソースを消費するレポートを実行させたくないと考えられるでしょう。この設定は LIMIT_QUERY_ROWS と併用され |

| | | |
|-------------------------------|---------|---|
| ALLOW_SEARCH_TEXT_UDFS | NO | <p>ます。</p> <p>この設定が YES である場合、キーワード検索にはテキスト表示タイプの UDF の検索も含まれます。これにより検索速度がパフォーマンス上の影響を受ける場合があります。有効な値は YES と NO です。</p> |
| DEFAULT_SORT_ORDER | ID:DESC | レポートのデフォルトのソート順。 |
| DEFAULT_TEXT_REPORT_DELIMITER | : | テキスト・レポートのデータ・フィールド間に置かれる単一の文字。結果をテキスト・ファイルに出力する場合、または API / CLI を通じて出力する場合は、この文字を使用して個々のフィールドを区切ります。 |
| DRILLDOWN_ATTRIBUTE | ID | 検索基準に使用するデータ辞書の入力名。これは一般的に issue の ID が使用されますが、システム構成に従って ALT_ID または別のフィールドになる場合があります。 |
| EXCEL_CELL_CHAR_LIMIT | 31000 | Excel の単一のセルにエクスポートされる文字数を指定します。フィールドのテキスト長がこの数を超える場合は、余分な文字が切り捨てられます。Excel では 1 つのセルで最大 32,000 文字を使用できるため、この数値は小さくなります。 |
| FILL_IN_REPEATING_RECORDS | YES | テキスト形式および Microsoft Excel 形式のレポートで、空白のリピーティング行を親データで埋めるかどうかを指定します。NO を選択すると、各リピーティング行の子の値として親データが反復されます。値は YES または NO になります。 |
| FOLD_TEXT_POSITION | 100 | テキスト・エリア および ログ・エリア・フィールドでテキスト行を折り返す文字位置を指定します。65 未満の数値を指定することはできません。99999 など大きい数値を指定すると、入力されたテキストは折り返されません。 |
| FOLD_WORD_POSITION | 100 | テキスト・エリア および ログ・エリア・フィールドで文字数の多い単語を分割する文字位置を指定します。65 未満の数値を指定することはできません。99999 など大きい数値を指定すると、文字数の多い単語が分割されません。 |
| HIGHLIGHT_LAST_CHANGE_USER | YES | YES に設定すると、電子メール通知や履歴レポートで、LAST_CHANGE_USER フィールドが常に強調表示されます。有効な値は YES と NO です。 |
| HIGHLIGHT_TIMESTAMP | YES | YES に設定すると、電子メール通知や履歴レポートで、TIMESTAMP フィールドが常に強調表示されます。有効な値は YES と NO です。 |
| HOME_PAGE_REFRESH_SECONDS | 900 | ホーム・ページが自動的に更新される頻度を、秒数で指定します。0 を指定すると、ホーム・ページは更新されません。これによって、新しい issue の発生と更新に従ってホーム・ページのレポートの情報が変更されるため、ユーザは常に更新されたデータを見ることができます。 |
| INSERT_REPORT_HEADERS | YES | この設定により、Microsoft Excel または Text で出力されるレポートにヘッダおよびフッタ情報を挿入するかどうかを制御します。値は YES または NO を指定します。ヘッダおよびフッタは、常にブラウザおよび Microsoft Word へのレポート出力用に生成されます。 |
| ITEM_TABLE_CARDINALITY | | 索引付けされたクエリの最適な順序。 |
| LIMIT_QUERY_ROWS | 10000 | 検索クエリによって返される最大行数。これは ALLOW_UNLIMITED_SEARCH と合わせて使用され、クエリおよび MAX_UNLIMITED_ROW_COUNT によって返される最大行数を指定します。 |

| | | |
|-------------------------------|--------------|--|
| LIMIT_WORD_DETAILED_RECORDS | 10000 | MS Word レポートにおける詳細なレコードの最大数。Microsoft Word で、サイズの大きい HTML レポートのダウンロードまたは読み込み時にフリーズするバグが発生した場合に使用します。 |
| LIMIT_WORD_RECORDS | 25000 | MS Word レポートの検索で返される最大レコード数。大量の HTML データの読み込み時に Word がフリーズするバグが発生した場合に、Word に送信される HTML データの量を制限するために使用します。 |
| LOG_AREA_DISPLAY_CHARS | 250 | issue 編集画面で切り捨てられない、ログ・エリア・フィールドの最大文字数。切り捨てが行われると「詳細」という文字が表示され、ユーザがこれをクリックすると残りのテキストが表示されます。80 未満または 32000 を超える文字は設定しないでください。 |
| MENUBAR_SEARCH_TARGET_WIN | main | ナビゲーション・バーから issue に移動すると、メイン・ウィンドウのナビゲーション・バーの横に表示される値が MAIN になります。値を _BLANK にすると、新しいウィンドウが表示されます。 |
| MINIMUM_SEARCH_FIELDS | 0 | キーワード検索を実行する前にさらに選択する必要があるフィルタ数。リソースが多量に消費されるデータベース全体に対する検索を、ユーザが行わないように指定するものです。小規模のインスタレーションでは 0、中規模のインスタレーションでは 1、大規模なインスタレーションでは 2 以上を使用します。 |
| MS_OFFICE_CHARSET | UTF-16LE | Microsoft Office 製品に送信されるレポート用のデフォルトの文字セット。デフォルト値は UTF-16LE です。この値は、MS Office の英語バージョン、およびその他ほとんどの各国語バージョンに適します。 |
| RECORDS_PER_PAGE | 20, 100, 500 | レポートでユーザが選択可能な、表示ページあたりのレコード数。これらの値が [検索 / レポート] 画面のリスト・ボックスに入力されます。[ALLOWED_UNLIMITED_SEARCH] が YES の場合は、値のリストに Unlimited が付加されます。この設定が YES の場合、詳細レポートは各 issue のエリア / プロジェクトおよび現在のユーザのロールに対するレイアウトを使用して表示されます。NO の場合、ユーザの現在のエリア、現在のプロジェクトおよび現在のロールに対するレイアウトが使用されます。 |
| REPORT_DTL_ITEM_DATA_LAYOUT | NO | NO に設定すると、現在のロールに応じたレポートだけが、ユーザの [クエリ / レポート] ページに表示されます。一般的にはこの場合、パーソナル・レポート、公開レポート、およびその他現在のロールに応じたレポートが表示されません。YES に設定した場合は、他のロールに対応するレポートのうち表示可能なものも表示されます。 |
| REPORT_FILTER_BY_CURRENT_ROLE | NO | NO に設定すると、ExtraView のメイン・ウィンドウに [クイックリスト] と [詳細レポート] が表示されます。YES に設定すると、[クイックリスト] と [詳細レポート] が新しいウィンドウに表示されます。 |
| REPORT_IN_NEW_WINDOW | NO | NO に設定すると、ExtraView のメイン・ウィンドウに [クイックリスト] と [詳細レポート] が表示されます。YES に設定すると、[クイックリスト] と [詳細レポート] が新しいウィンドウに表示されます。 |
| REPORT_LABELS_POSITION | TOP | レポート上のデータに対するラベルの位置を指定します。有効な値は LEFT と TOP です。値を LEFT に設定すると、目的に従って定義されたレイアウトが詳細レポートで使用されます。値を TOP に設定すると、詳細レポートが 1 つの列で、ラベルが左に、値が上から下に表示されます。フィールドの順序は詳細レポートのレイアウトに従って、左から右、上から下の順序になります。 |

| | | |
|------------------------------|-----------|--|
| REPORT_REL_ISSUES_EXCEL_TEXT | NO | この動作設定を YES にすると、Microsoft Excel またはテキストに出力するレポートに、出力対象レコードの関連 issue のための RELATED_ISSUE_DISPLAY レイアウトが含まれます。この設定を NO にすると、関連 issue は Microsoft Excel またはテキストには表示されません。ブラウザおよび Microsoft Word の出力には常に、RELATED_ISSUE_DISPLAY が定義されていればそれに関連 issue が表示されます。 |
| REPORT_SUPPRESS_BLANK_LINES | YES | YES に設定すると、詳細レポートでデータ値がすべて null であるすべての行が表示されなくなります。有効な値は YES と NO です。これは、空白のセルを多く含むレポートの長さを短縮するために使用します。 |
| REPORT_WITH_FIXED_WIDTH_FONT | NO | YES に設定すると、表示タイプがテキスト・エリアおよびログ・エリアであるフィールドの内容が、FIXED_WIDTH_FONT で表示されます。NO に設定すると、これらのフィールドの内容が DEFAULT_FONT を使用して表示されます。この設定は、編集画面のログ・エリア・フィールドの表示にも適用されます。 |
| RESTRICT_ROLE_BASED_REPORTS | | この設定に対する値は、COMPANY_NAME、COMPANY_NAME_OR_ADMIN_USER または空白のうちどれかになります。COMPANY_NAME に設定されると、特定のユーザ・ロール用に保存されたレポートは、DEFAULT_USER_ROLE という動作設定で定義されているロールを持つ、各自の会社名がレポート作成者の会社名と一致するユーザにのみ可視となります。COMPANY_NAME_OR_ADMIN_USER に設定されると、Admin ユーザによって作成されたロールベースのレポートがシステム全体で利用可能になります。空白の場合、ユーザの COMPANY_NAME に関係なく、あるユーザ・ロール用に保存されたすべてのレポートが可視となります。 |
| SEARCH_ATTACH_THRESHOLD | 100000000 | パフォーマンスに影響する旨の警告が出されることなくユーザが検索可能な、添付ファイルのサイズを指定します。検索される添付ファイルのサイズがこの値を超えると、ユーザ画面にダイアログ・ボックスが表示され、検索を続行するかどうかを確認されます。 |

レポートの階層

レポートの階層を使用することにより、管理者はレポート目的で関係を設定することができます。これらの関係には、最小で1つの親と1つの子を持つ単一のレベルを設定可能です。10個までのレベルのレポート階層を設定することができますが、実際には3個ないし4個以上のレベルが必要となるケースはあまりないでしょう。

レポート階層のいくつかの例を以下に示します。

顧客 → 顧客のissue

1つの顧客が多くのissueを報告している場合や、顧客名、連絡先およびメール・アドレスなどの顧客情報と共に、その顧客によって報告された個々のissueすべての詳細情報(issueタイトル、ステータスおよび解決方法など)をレポートに表示したい場合。

要求 → 開発指示

ExtraViewの中に、新しい製品を構築するというハイレベルの要求を保持するビジネス・エリアを

設定したい場合。これらのハイレベルの要求はそれぞれ、新しい製品の各部分を構成する、多数の個々の開発指示の親となります。

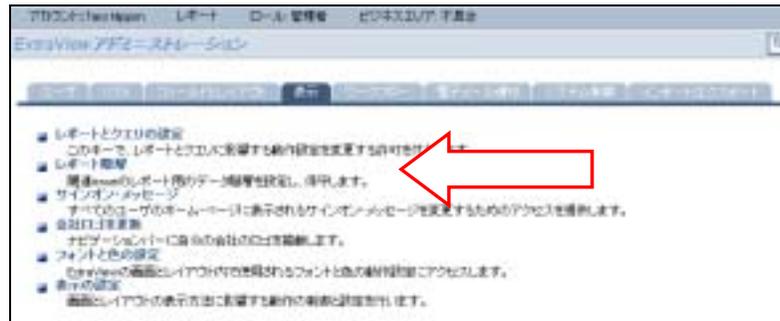
ビジネス・ライン → アクション計画
→ アクション項目

1つの会社は多くのビジネス・ラインに分けることができ、それぞれのビジネス・ラインには多数のハイレベルなアクション計画があり、各アクション計画自体がさらにアクション項目に細分されます。これをレポート階層によって示すことができます。

レポート階層内の親レベルと子レベルの関係は、ExtraView内では関係グループによって表されます。関係グループの設定および保守の方法について、またこれらの関係グループの中にissueが配置される方法については、本書の当該セクションを参照してください。

レポート階層とは単に、関係グループに基づいてレポートを作成し参照することを可能にする構造を定義したものです。レポート階層を使用したレポートの作成方法については、『ExtraViewユーザ・ガイド』のカラム・レポートのセクションを参照してください。

レポート階層を作成するには、ExtraViewの[Administration]セクションの[表示]タブにある[レポート階層]というエントリを選択します。このメニュー・エントリ内のこの項目の表示 / 非表示は、セキュリティ権限キーの CF_HIERARCHY および CF_HIERARCHY_LEVEL によって制御されます。これらの権限キーのどちらかにアクセス権を与えるのであれば、レポート階層を設定可能であるように両方の権限キーに対してアクセス権を与えるべきです。



レポート階層へのアクセス

[レポート階層] オプションを選択すると、次の画面が表示されます。



レポート階層の管理

この画面から[Add] ボタンを使用すると新しい階層が作成でき、[Edit]ボタンを使用すると既存のレポート階層のタイトルを変更できます。[Delete] ボタンを使用すると既存のレポート階層を消去することができ、[List] ボタンを使用するとレポート階層を管理できます。

新しいレポート階層を追加すると、下のような単純な画面が表示され、ここから階層の固定名およびタイトルを入力することができます。

新しいレポート階層の追加

固定名およびタイトルを入力したら、[新しい階層を追加]ボタンをクリックします。

既存のレポート階層に新しい階層レベルを追加するには、[レポート階層の管理] 画面から[List] ボタンをクリックします。すると階層の既存のレベルが表示され、これに新しいレベルを追加できます。次のスクリーンショットは、1つのレベルを持つ既存のレポート階層を示しています。

単一レベルのレポート階層

このレベルのメタデータを変更するために[Edit] ボタンを使用すると、次のような画面が表示されます。

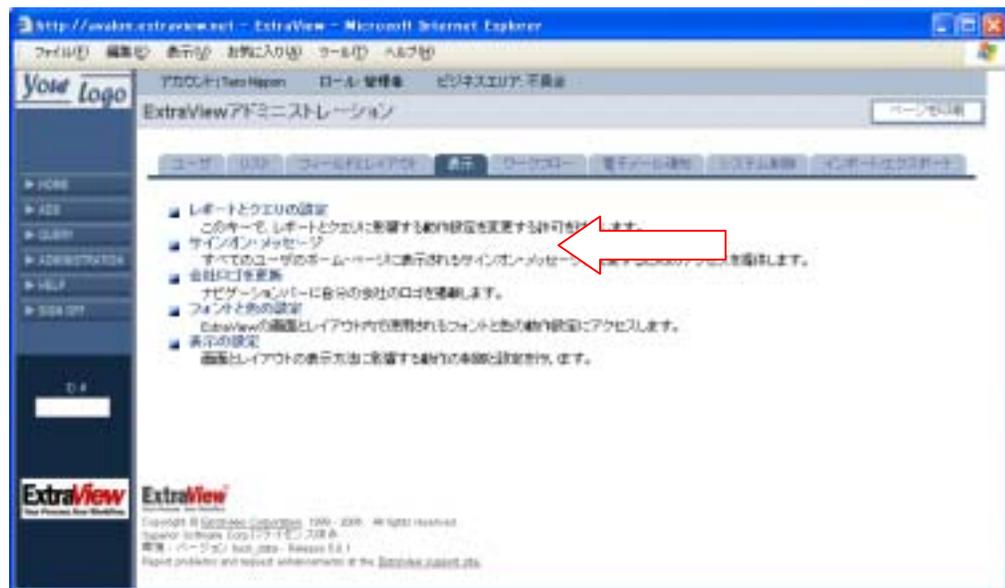
階層レベルの編集

上のスクリーンショットでは、レベルが1であり、これを変更できないことに注意してください。階層に新しいレベルを追加すると、それらは自動的に1つずつ上位のレベルに設定されます。したがって、追加する次のレベルは 2、のようになります。新しい階層レベルを追加する際、既存の関係グループを選択し、次に関係タイプを選択して関係を示さなければなりません。関係タイプは、CHILDREN、PARENTS、RELATED または MEMBERS のうちどれかでなければなりません。これらは関係グループのセクションで定義されます。

上述した一連のスクリーンショットは、顧客がissueの親となっている、顧客issueのレポート階層を示しています。階層構造のレポートに関係グループを設定するための1つ1つの手順については、「管理レポート/クエリ・オプション」にある「関連するissueの例」というセクションを参照してください。

サインオン・メッセージ

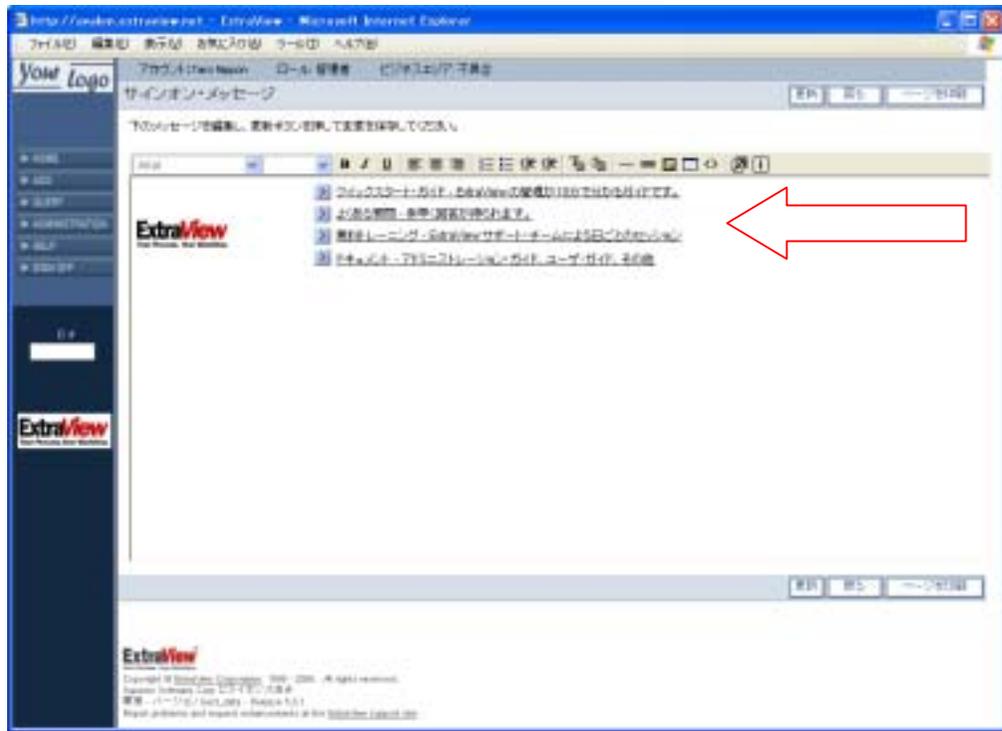
多くの組織で、サインオン・メッセージ画面が、組織のメンバーに対するシステム全体にわたるメッセージングのための掲示板として使用されています。サインオン・メッセージは、HTMLのすべての機能を使用して独自にカスタマイズできます。



管理画面

企業のサインオン・メッセージの作成または変更

[Administration] 画面の [表示] で、[サインオン・メッセージ] をクリックします。次の画面が表示されます。



[サインオン・メッセージ] 画面

ブラウザとして Internet Explorer を使用している場合は、[HTML エリア] ユーティリティを使用してサインオン・メッセージの入力と編集を行います。このユーティリティを使用してメッセージを編集する方法については、付録 F を参照してください。その他のブラウザを使用している場合は、表示される編集ボックスでメッセージの HTML を直接編集します。

サインオン・メッセージは、有効な HTML を使用してどのような表示にも変更できます。この画面では、ページの最上部にあるホーム画面に HTML を表示できます。変更が終了したら、[更新] ボタンをクリックします。

サインオン・メッセージでは、HTML ではなく CSS スタイルを使用して、表示されるメッセージのフォントを形成します。これにより、ユーザが文字に指定したいスタイルが有効となるようにしています。テキストの HTML スタイルのいくつかは、ドキュメント全体で使用されるスタイルの優先度により、表示されない可能性があります。

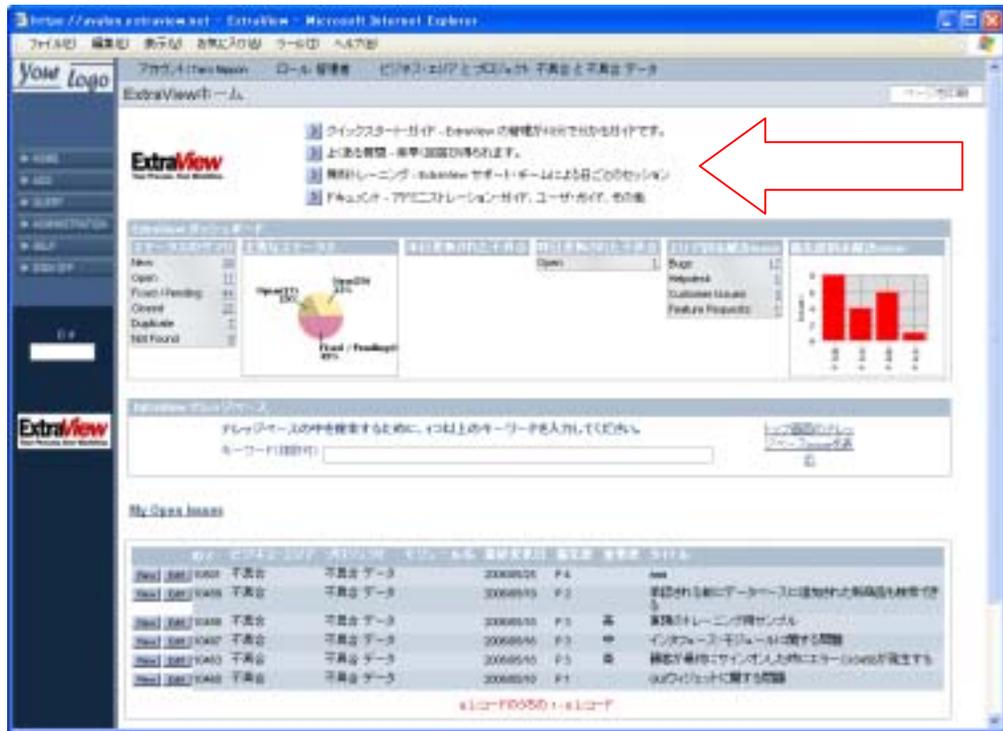
1 つの例として、次の形式を使用すべきです。

```
<span style="font-size:20px">ここにテキストがあります</span>
```

次の形式は使用しないでください。

```
<font size="7">ここにテキストがあります</font>
```

サインオン・メッセージが表示されたホーム画面の例を次に示します。



ホーム・ページ画面

このサインオン・メッセージの最大長は 4000 文字に制限されています。この文字数は HTML タグおよび属性のすべてを含みます。これを越える文字数を入力しようとするとエラーが発生するため、メッセージのサイズを減らす必要があります。ただし、JavaScript 関数への参照を UserJavaScript.js に含めることが可能です。そこから document.write 文を使用して追加の HTML を生成することができます。

サインオン・ページに有効な HTML を挿入することは、管理者の責任です。すべてのユーザをシステムからロックアウトするサインオン・メッセージを作成することも可能です (例えば <A...> タグの後に対応する タグを置かないで)。この場合は、admin ユーザ・アカウントとパスワードで ExtraView にサインオンする必要があります。これによってサインオン・メッセージがバイパスされ、メッセージを編集して、不具合のある HTML を削除することができます。

フォントと色の設定

フォントと色の設定により、ExtraView のロック・アンド・フィールを指定する動作設定を行うことができます。これらの設定は、「初期設定および構成」セクションで説明されているように、ExtraView の CSS スタイル・シートと合わせて機能します。

次のような動作設定があります。

[表示] メニュー - [フォントと色の設定]

標準的な値

説明

| | | |
|------------------------|--------------------------------------|--|
| BG_ALT_COLOR | #DEF0F8 | 選択可能なテーブルの背景色を指定します。BG_COLOR の補助色として使用されます。 |
| BG_COLOR | #dddddd | テーブルの背景色を指定します。BG_ALT_COLOR の補助色として使用されます。 |
| BORDER_COLOR | #C7C9C7 | [検索/レポート] ページの枠の色を指定します。 |
| DEFAULT_CHART_FONT | SansSerif | 表示されるグラフで使用するフォントを指定します。指定するフォントは 1 つだけにして、また ExtraView の実行時にサーバで使用できるようにします。 |
| DEFAULT_FONT | Arial, Helvetica, sans-serif | ほとんどすべてのページの本文で使用されるフォントを指定します。プラットフォームが異なる別のブラウザではリスト内のフォントの一部しか利用できない場合があるため、優先順位に従って 3 つのフォントを指定するようにしてください。 |
| DEFAULT_PDF_FONT | Arial | PDF 用のテキスト・フォント選択時のデフォルト・フォント。このフォントがサーバに存在し、ユーザが Adobe PDF 文書に表示させる可能性のあるすべての文字が含まれていなければなりません。日本語などのダブルバイト言語を処理している場合、これは特に重要です。 |
| FIXED_WIDTH_FONT | 'Lucida Console', Courier, monospace | ユーザ定義フィールドの出力テキストの表示に使用され、また REPORT_WITH_FIXED_WIDTH_FONT が YES である場合に、読み取り専用の説明フィールドと古いログ・エリア・フィールドで使用されるフォントを指定します。 |
| HIGHLIGHT_COLOR | #FF0000 | レイアウト要素の Highlight 属性を使用した場合に、テーブルのセルの強調表示色を指定します。 |
| HIGHLIGHT_COLOR_ADD | #FF0000 | 履歴通知および電子メール通知で、レコードの更新時点で追加されている値を示す色を指定します。 |
| HIGHLIGHT_COLOR_DELETE | #CCCCCC | 履歴通知および電子メール通知で、レコードの更新時点で削除された値を示す色を指定します。 |
| HIGHLIGHT_COLOR_UPDATE | #ff0000 | 履歴通知および電子メール通知で、更新された値を示す色を指定します。 |
| IMG_HOME | | 値がシステムのデフォルト値でない場合のみ使用されます。これはお使いの言語に対する locales ディレクトリ内の相対パスです。お使いの言語用に locales ディレクトリまたは image ディレクトリが存在しない場合、ExtraView はデフォルト・ロケール (通常は locales/en_US) にある画像セットを使用します。独自に画像セットを作成したい場合は、既存の image ディレクトリ (サブディレクトリを含む) を locales/en_US/images パス内の新しいフォルダ (locales/en_US/images/my_images など) にコピーします。そして、この動作設定の値を images/my_images/ に設定します。 |
| LABEL_COLOR | #0000FF | 追加、編集、および検索画面のフィールド・ラベルの色 |
| MENU_TEXT_COLOR | #FFFFFF | ナビゲーション・バーのテキストの色を指定します。 |
| MOUSEOVER_COLOR | #E0E8F3 | ユーザが行の上にマウス・ポインタを置いたときの、レポート上の行の色 |
| RECORD_COUNTER_COLOR | #CC0000 | レポートのレコード・カウンタの表示色を指定します。 |
| TAB_FONT_OFF_COLOR | #444444 | タブ表示タイプによって生成され、管理エリア内に表示される、選択されていないタブのフォントの色を指定します。 |
| TAB_FONT_ON_COLOR | #FFFFFF | 選択されているタブのフォントの色を指定します。この設定は、管理エリア内で表示タイプがタブであるフィールドで使用されます。 |
| TAB_OFF_COLOR | CCCCFF | Off 色は、タブ表示タイプによって生成され、管理エリア内に表示される、選択されていないタブの色です。 |

| | | |
|-----------------|---------|---|
| TAB_ON_COLOR | 6666FF | On 色は、選択されているタブの色です。この設定は、管理エリア内で表示タイプがタブであるフィールドで使用されます。 |
| WINDOW_BG_COLOR | #ffffff | ウィンドウの背景色を指定します。 |

表示の設定

以下の設定により、ExtraView のさまざまな部分の動作設定を制御します。
 [MENU_DIRECTION] を除き、すべての設定は直ちに有効になります。
 [MENU_DIRECTION] は、次回 ExtraView にサインオンしたときに有効になります。

| [表示] メニュー – [表示の設定] | 標準的な値 | 説明 |
|-----------------------------|-----------|--|
| ADMIN_LIST_SIZE | 400 | 管理画面内のリストに表示されるレコード数を指定します。表示される行の数がこの動作設定の値を上回ると、レコードはすぐには表示されません。代わりにドリルダウン機能が利用可能になり、管理者がリストを検索するか、検索対象のエントリの最初の文字を使用して、エントリ数を限定して表示させることができます。負の数値を使用すると、同じ結果になりますが、検索機能は画面上で 1 行に圧縮されます。 |
| ALLOW_HELP | YES | YES を設定すると、追加画面と編集画面でマウス・カーソルをフィールド・ラベルに置いたときにツールチップ・ヘルプが表示され、フィールド・ラベルをクリックすると、そのフィールドに関するヘルプを示すポップアップ・ウィンドウが表示されます。NO に設定すると、ツールチップやポップアップ・ウィンドウは生成されません。 |
| CACHE_AREA_PROJECT | YES | YES を指定すると、レイアウトから作成されたテンプレートで、[area/project] ドロップダウン・リストのキャッシングが可能になります。NO を指定すると、各画面が追加モードまたは編集モードで更新されたときに、[area/project] リストが動的に更新されます。この設定では、USER_CUSTOM コードによる動的なリスト変更が行われない限り、YES を指定します。 |
| CALENDAR_STYLE | Fancyblue | この設定を使用して、日付の選択に使用されるポップアップ・カレンダーの色と形式を設定します。有効なエントリは、aqua、bluexp、fancyblue、forest、green、greengrass、maroon、win2k、winter、winxp、wood および yellow です。 |
| CLICK_LOCKDOWN_TIMEOUT_SECS | 0 | 追加/編集画面のロード開始後、ページのロックを解除してマウスのクリックや入力を可能にするまで待機する秒数。0 に設定するとページはロックされません。ロードが完了すると、ページのロックはただちに解除されます。多くのユーザが非常に低い帯域幅で ExtraView にアクセスすることにより、追加/編集画面のロードに長い時間を要する場合、このオプションを設定してください。そのような場合、画面の更新が生じるフィールドに値を設定しようとすると、エラーが出力される場合がありますが、初期画面のロードは完了していません。 |
| DB_TIMEZONE | JST | データベース・サーバが属するタイムゾーンと、各ユーザについてすべての現地時間が計算される基準を指定します。この値は ExtraView のインストール時に設定し、変更しないようにします。この設定を別のタイムゾーンに変更すると、システム内のすべてのタイムスタンプが、実際に作成された時間と異なる時間で表示されてしまいます。通常このタイムゾーンは、インストール先のサーバのシステム・クロックと同じタイムゾーンに設定します。この設定を有効にするには、ExtraView サーバを再起動する必要があります。 |

| | | |
|---------------------|---|---|
| DEFAULT_DATE_FORMAT | MEDIUMDATE | システムのデフォルトの日付形式。次のいずれかを指定します。結果は例のように表示されます。 |
| | SHORTDATE | 11/28/03 |
| | MEDIUMDATE | Nov 28, 2003 |
| | LONGDATE | November 28, 2003 |
| | FULLDATE | Friday, November 28, 2003 |
| | SHORTDATETIME | 11/28/03 7:20 AM |
| | MEDIUMDATETIME | Nov 28, 2003 7:20:08 AM |
| | LONGDATETIME | November 28, 2003 7:20:08 AM WST |
| | FULLDATETIME | Friday, November 28, 2003 7:20:08 AM WST |
| EDITOR_BUTTONS | 'fontName', 'fontSize', 'newPanel', 'bold', 'italic', 'underline', 'newPanel', 'foreColor', 'backColor', 'insertLink', 'insertImage', 'insertTable', 'newPanel', 'justifyLeft', 'justifyCenter', 'justifyRight', 'newPanel', 'insertOrderedList', 'insertUnorderedList', 'newPanel', 'copy', 'cut', 'paste', 'newPanel', 'outdent', 'indent', 'newPanel', 'undo', 'redo', 'newPanel', 'switcher' | サインオン・メッセージ画面およびアドホック電子メール・エントリ画面のHTML エリア・フィールドに表示されるときボタンとその並び順。オプションの完全なリストは、アドミニストレーション・ガイドを参照してください。 |
| EDITOR_STYLE | winxp | この設定により、アドホック電子メールのエディタおよびサインオン・メッセージのエディタにある HTML エリア・フィールドで使用される、HTML エディタのボタン・バーに対して異なるスタイルを指定できます。有効なスタイルとして"default"または"winxp"のどちらかを選択できます。値は小文字で指定しなければなりません。 |
| FOLD_TEXT_POSITION | 100 | 表示タイプがテキスト・エリアおよびログ・エリアであるフィールドの、テキスト行を折り返す文字位置を指定します。65 未満の数値を指定することはできません。99999 など大きい数値を指定すると、入力されたテキストは折り返されません。ただし、この設定より[FOLD_WORD_POSITION]の設定が優先されます。 |

| | | |
|-----------------------------|--------------------------------|--|
| FOLD_WORD_POSITION | 100 | [テキスト・エリア]、[出力テキスト]、および [ログ・エリア] フィールドで文字数の多い単語を分割する文字位置を指定します。65 未満の数値を指定することはできません。99999 など大きい数値を指定すると、文字数の多い単語が分割されません。これは FOLD_TEXT_POSITION と合わせて使用できます。テキスト・フィールドで頻繁に長い URL を使用する場合は、[FOLD_WORD_POSITION] に大きい数値を設定します。これにより、URL が複数行に分割されないようになり、ユーザが正しく URL をクリックできます。 |
| HTMLAREA_ROW_HEIGHT | 10 | 追加画面または編集画面で、表示タイプが HTML エリアであるフィールドに表示される行数を指定します。 |
| LABEL_WRAP_POSITION | 15 | 追加/編集画面および検索画面のラベル・テキストを折り返す文字の位置を指定します。[Alternative Title] フィールドでレイアウト要素の属性を設定した場合にはこの設定は無視され、管理者が独自にフィールドの形式を設定します。 |
| LOG_AREA_BREAK_LINE | NO | この値が Yes であり ExtraView が LOG_AREA フィールドをテキストではなく HTML として表示する場合、 または <p> タグのある箇所まで表示し、”詳細”という文字のリンクをその後に付けます。”詳細”のリンクをクリックすると、フィールド全体が表示されます。この設定を [LOG_AREA_DISPLAY_CHARS] の設定による機能より優先させることができます。[LOG_AREA_DISPLAY_CHARS] の設定より優先させたい場合、値を 32000 に設定します。 |
| LOG_AREA_DISPLAY_CHARS | 250 | issue 編集画面で切り捨てられない、ログ・エリア・フィールドの最大文字数。切り捨てが行われると「詳細」という文字が表示され、ユーザがこれをクリックすると残りのテキストが表示されます。80 未満または 32000 を超える文字は設定しないでください。 |
| MANDATORY_FIELD_POST | | 必須フィールド・ラベルの後に配置する HTML タグまたは文字を指定します。デフォルトでは HTML 終端の太字タグが使用されますが、有効な HTML または文字で置換することができます。 |
| MANDATORY_FIELD_PRE | | 必須フィールド・ラベルの前に配置する HTML タグまたは文字を指定します。デフォルトでは HTML の太字タグが使用されますが、有効な HTML または文字で置換することができます。 |
| MENU_DIRECTION | VERTICAL | 画面上のメイン・ナビゲーション・バーを HORIZONTAL または VERTICAL に設定します。 |
| MENU_SIZE | 105 | MENU_DIRECTION の VERTICAL または HORIZONTAL の指定に従って、ナビゲーション・バーの幅または高さをピクセルで指定します。 |
| MULTI_VALUE_HIGHLIGHT_CHAR | ▶ | この値は、UDF の複数値リスト・フィールドで選択した値の強調表示に使用される文字を示します。デフォルトは ▶ です。単一の文字、またはブラウザが単一の Unicode 文字として解釈できる文字列を使用します。この文字が (Netscape Navigator 4.x のように) ユーザのブラウザで表示されない場合は、+ などの ASCII 文字を選択します。 |
| NAV_BAR_DRILLDOWN_BOX_STYLE | position: relative; left:-30px | ナビゲーション・バーのドリルダウン・ボックスに含まれる表に適用される CSS スタイルです。これは、MENU_DIRECTION が HORIZONTAL に設定されている横方向スタイルのナビゲーション・バーにのみ使用され、異なるスタイルのナビゲーション・バーでドリルダウン・ボックスの位置を変更するために使用されます。最も多く使用されるのは、ドリルダウン・ボックスのナビゲーション・バー上の相対位置を決める場合ですが、コントロールの表示を変えるために背景色を変更するなどの効果を使用することもできます。 |
| NAV_BAR_GO_BUTTON | NO | これにより、ドリルダウン・ボックスの横のナビゲーション・バーに [Go] ボタンが配置されます。有効な値は YES と NO です。この設定を有効にするため、設定変更後に ExtraView からサインオフし、再度サインオンしてください。 |

| | | |
|-----------------------|---|--|
| NAV_BAR_LOGO_STYLE | padding:20px 0px 0px 25px | このスタイルは、MENU_DIRECTION が HORIZONTAL に設定されている場合に CompanyLogo.gif をナビゲーション・バー上に配置するために使用されます。 |
| NAV_BAR_STYLE | text-align:right | これにより、ナビゲーション・バーのボタンに CSS スタイルを適用することができます。例えば、スタイルを使用してナビゲーション・バー上のすべてのボタンを左寄せまたは右寄せにすることができます。 |
| POPOP_LIST_SIZE | 100 | 項目のリスト自体から、A ~ Z の文字のリストを通じたアクセスに切り替わる、ポップアップ・リストの最大項目数を指定します。 |
| REFRESH_LIST_MAX_SIZE | 200 | このサイズを下回る大きさのリストにおいて、許容値の關係に [JavaScript を使用して値を更新する] オプションが選択されている場合、JavaScript を使用した高速な更新が行われます。この設定により管理者は、メタデータをブラウザにロードする時間をかけて選択が行われた際に高速な更新を行うか、あるいはメタデータ・リストをサーバから更新するために時間をかけるかのどちらかをユーザのために選択することができます。 |
| SUPPORT_LINK | 障害および改善要求を報告 します: <u>ExtraView support site</u> | この HTML 文は各画面の著作権表示の最後にあるリンクに使用されています。通常は、ユーザをサポート用の所定のページに誘導するために使用されます。 |
| TABS_PER_ROW | 10 | 追加画面や編集画面などのフォームのタブ数を、追加または編集画面に表示される場合に 1 行に制限します。この数値を超える数を表示する必要がある場合は、別の行に配置されます。 |
| TAB_SEPARATED_EXPORT | NO | 管理リスト・ユーティリティから情報をエクスポートする際、デフォルトではデータは CSV (カンマ区切りの値) 形式でエクスポートされます。ほとんどのブラウザでは、デフォルトでこの情報を Microsoft Excel のスプレッドシートに配置します。しかし、このリスト情報を TSV (タブ区切りの値) 形式にエクスポートしたい場合もあるでしょう。この設定を YES にすることによりそれが可能です。ほとんどの作業をダブルバイトの文字セットで行う場合 (日本語で作業を行っているなど)、TSV の方が望ましい形式であるかもしれません。多くの場合、ブラウザを設定して TSV ファイルを操作できるようにすることが可能です。この機能が必要な場合、それを実現する方法については、お使いのブラウザのマニュアルを参照してください。 |
| TEXTAREA_ROW_HEIGHT | 4 | 表示タイプがテキスト・エリア、出力テキスト、ログ・エリアであるフィールドの追加画面および編集画面に表示される、データ行数の初期設定。 |

USER_ADMIN_DISPLAY_COLUMNS

ユーザ・アカウント管理画面に表示されるフィールドのデフォルトのリストは、ユーザ ID、ユーザ名、電子メール・アドレス、会社、有効/無効、ライセンス・タイプ、最終アクセス日、作成日、最終更新日です。このリストを変更したい場合は、security_user データベース・テーブルのこの設定にフィールドのリストを置くことができます。画面に配置できる有効なフィールドは、以下の中から選択されます。

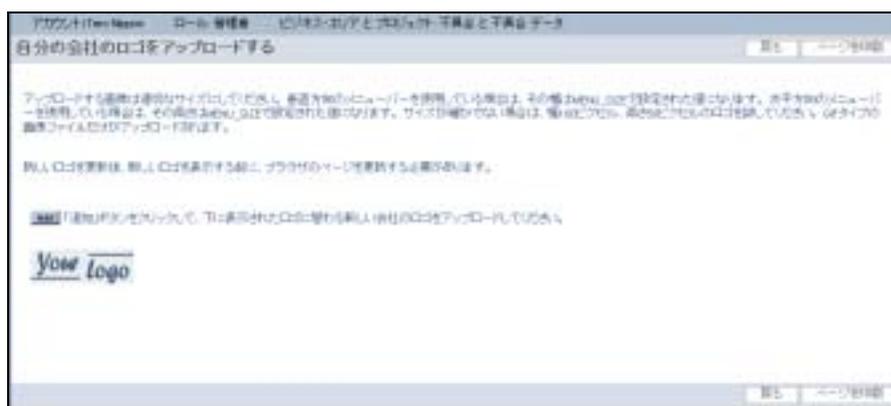
SECURITY_USER_ID
 LAST_NAME
 FIRST_NAME
 JOB_TITLE
 WORK_TELEPHONE
 HOME_TELEPHONE
 CELL_PHONE
 FAX
 PAGER
 COMPANY_NAME
 ADDRESS_LINE1
 ADDRESS_LINE2
 CITY
 STATE
 POSTAL_CODE
 COUNTRY
 ENABLED_USER
 PASSWORD_EXPIRY_DATE
 LAST_ACCESS_DATE
 EMAIL
 EMAIL_FORMAT
 LANGUAGE
 DATE_FORMAT
 RECORDS_PER_PAGE
 NOTIFY_ON_OWN_UPDATES
 DATE_CREATED
 LAST_DATE_UPDATED
 LAST_UPDATED_BY_USER
 CREATED_BY_USER
 DRILLDOWN_REPORT
 VARIANT
 AREA_ID
 PROJECT_ID
 TWENTY_FOUR_HOUR_TIME
 HTTP_CHARSET
 REGION
 CHART_FONT
 STYLESHEET
 MS_OFFICE_CHARSET
 FILE_ATTACH_CHARSET
 EMAIL_CHARSET
 PASSWORD_INTERVAL
 USER_FIELD_1
 USER_FIELD_2
 USER_FIELD_3
 USER_FIELD_4
 USER_FIELD_5
 ADDITIONAL_EMAIL
 EMAIL_ON
 ADDITIONAL_EMAIL_ON

USE_ALLOWED_VALUE_SORT_ORDER NO

YES に設定すると、許容値の子値リストはメタデータの sort_seq ではなく許容値テーブルの sort_seq によりソートされます

新しい会社ロゴの画像をアップロードする

ナビゲーション・バーの左上に表示される会社のロゴを、独自の画像に置き換えることができます。これを行うには、[Administration] メニューから[表示] タブをクリックします。次に、[会社ロゴを更新]というリンクをクリックしてください。すると以下のような画面が表示されます。



自分の会社のロゴをアップロードする

[Add] ボタンをクリックすると、ダイアログボックスが表示され、自分のローカル・コンピュータからアップロードするファイルを選択できます。

ExtraView ではアップロード可能なファイル・サイズの制限を設けていませんが、当然、バランスの取れていないロゴは見栄えが悪くなります。通常、幅 100 - 150 ピクセル、高さ 30 - 60 ピクセルのロゴが最も適しています。

アップロード可能なファイルは、gif 形式のファイルに限られます。

注: 新しい会社ロゴの画像は、特にアップロードする新しい画像が前の画像と同じサイズである場合、すぐにページ上に表示されないことがあります。これは、ブラウザで画像がキャッシュされており、新しいコピーをダウンロードすべきであることが検出されない場合があるためです。ナビゲーション・バーのHomeボタンをクリックして、新しいロゴが元の場所にあることを確認してください。

注: インストール済み War ファイルから ExtraView を起動している場合、この機能は使用できません。ログファイルを単に、サーバ上の適切な場所にコピーしてください。

ワークフローの設定および操作

概念

ExtraView ではユーザ管理とセキュリティ管理に加えて、システム管理者がステータス変更ルールとステータス署名ルールを作成して実行することで、多数の動作設定によってワークフローとプロセスを管理できます。

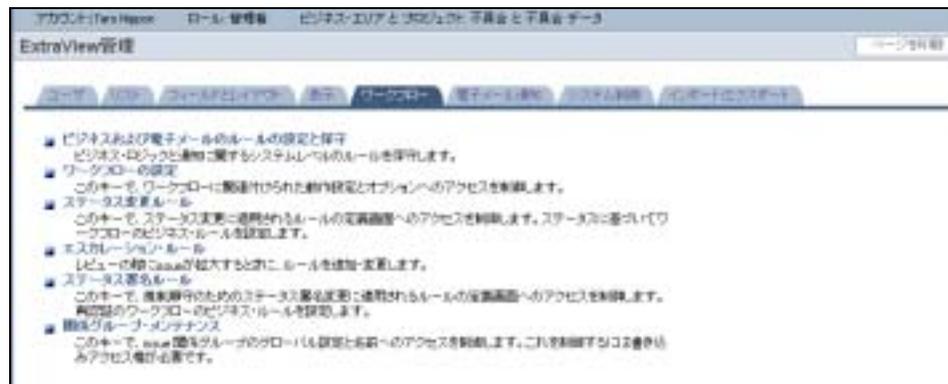
ビジネス・ルールにより、管理者は ExtraView のフィールド値を他の任意のフィールドの値に応じて割り当てることができます。同様に、電子メールのルールにより、通知のデフォルト設定を使用せずに一連のルールを使って通知プロセスを管理することができます。

ステータス変更ルールにより、ステータス間の有効な移行方法を決定できます。これは管理者が完全に管理することができ、ビジネス・エリア、プロジェクト、ユーザ・ロールごとに個別に設定できます。

エスカレーション・ルールを使って、issueがイベントを発生させたときに自動通知が一組のユーザに送信される際の基準を定義することができます。イベントは通常、issueが特定のステータスに留まっている時間がある一定の期間を超えた場合です。例えば、P1のissueが 作業中 から別のステータスに 4 時間以内に変更されない場合、エスカレートするように設定できます。また、その後issueが解決するまで定期的にリマインダを送信することもできます。

ステータス署名ルールに従い、ユーザは 1 つのステータスから別のステータスに移行する際に、さらに検証が必要になります。ステータス移行についてルールが適用される場合、ユーザはトランザクションを完了するためにユーザID とパスワードを入力する必要があります。これは、米国政府の FDA 21 CFR Part 11 など、さまざまな法令上の順守要件に準拠しなければならないシステムで必要です。

このセクションでは、関係グループの保守も可能です。関係グループにより、issue を接続することができます。リンクされている場合に、issue の 1 つに更新を適用すると、関係グループ内の他の issue にステータス更新とコメントを自動的に適用できます。



ワークフロー管理メニュー

ビジネス・ルールと電子メール・ルール

フィールドの値を1つ以上のフィールドの値に基づいて設定する必要がある場合も多いでしょう。現代のソフトウェア製品では通常、プログラム言語を修正することによってこれを実現しています。ExtraView ではシステム管理機能を使用してフィールド値を設定することができます。フィールド値はプロセス上の様々なポイントにおいて設定することができます。

ビジネス・ルールも異なるビジネス・エリアにある値を結び付け、異なるビジネス・エリア間の関係を作成するために使用されます。例えば、関係を作成して、顧客のリストを含むビジネス・エリアで作成された顧客名の値に基づいて一連のフィールドを カスタマーサポート ビジネス・エリアにあるフィールドに格納することができます。

また、電子メール・ルールを作成し、issueの作成時または更新時に誰がメールを受信するかを効率よく制御することができます。ExtraView のデフォルト通知様式では、フォームに名前が表示される全ユーザおよび関係者リストのメンバーにメールが送信されます。電子メール・ルールによってこの様式を補足したり置き換えたりすることができ、通知プロセスを的確に制御することができます。例えば、ステータスが特定の値に変更された場合、または別のステータスに変更された場合にユーザに通知を送信することができます。

ExtraView 組み込みの通知ルールは依然として有効であるため、通常どおりユーザ通知が行われることに注意してください。ただし、SUPPRESS_STANDARD_EMAIL_LISTという動作設定を YES にした場合を除きます。これはメール設定管理機能に含まれています。

ビジネス/電子メール・ルールの編集

ルール指示

ルール指示は以下の目的で使用されます。

- 1) **ルールタイプの指定。** 指示の後に続くルールは、Refresh ルール、PreLoad ルール、Database ルール、Mail ルールまたは Clone ルールです。書式は、<== type_directive ==> です。タイプ指示の後に続くルールは次にタイプ指示が表れるまで、すべてそのタイプに解釈されます。

- 2) **関連issueのリンクの指定。** 異なるビジネス・エリアにある1つ以上の関連issueを見つける方法です。値はその関連issueから取得します。例えば、

```
<== link customer ==> AREA='Customer'; CUSTOMER=CUSTOMER
```

という文は次のようなルールの操作に解釈されます。

```
ASSIGNED_TO=(customer).OWNER
```

これはIssue レコードの担当者フィールドに、Customer レコードの所有者 フィールドを設定する方法です。

- 3) **あるフィールドに入力された値を自動的にリンクして、別のフィールドにあるリストのメンバにする。** 例えば、次のようなルールを作成するとします。
<== object cust ==> AREA='Customers', LINK=CUST_LIST, TITLE=CUSTOMER, PRIVACY=false

このリンクは以下のようなルールで使用することができます。

```
if (CUST_LIST.{changed}) {
  CUST_CONTACT = (cust).CUST_CONTACT;
  EMAIL_ADDRESS = (cust).EMAIL_ADDRESS;
}
```

全体ではこのリンクは、顧客ビジネス・エリアのCUSTOMERフィールドに入力された値を自動的にCUST_LISTというリストに追加します。このリストは他のどのビジネス・エリアでも利用でき、顧客がリストから選択されたときに顧客に関連する値を現在の画面に呼び出すために、ルールにおいて使用されます。オプションで PRIVACY=true を追加すると、顧客は同じタイトルを持つプライバシー・グループに追加され、現在のユーザがそのプライバシー・グループに追加されます。

- 4) **ルール解析の停止。** この指示の書式は <== end ==> であり、これより下の行は無視されます。これはルールのデバッグに有用であり、ルールのファイルの複数の箇所はこの指示を入力して、ルールの部分ごとに逐次テストを行うことができます。

構文

ルール指示は次のうちいずれかの書式で表されます。

```
<== directive ==>
```

```
<== directive ==> value(s)
```

```
<== directive name ==> value(s)
```

指示の一覧表を以下に示します。

| 指示 | タイプ | 使用法 |
|----|-----|-----|
|----|-----|-----|

| | | |
|------------------------------|-----|--|
| end | | ルール・ファイルの解析を終了します。この指示がルール・ファイルの中に見つかったとき ExtraView は操作を停止し、以降のルールを無視します。 |
| load | L | 追加または編集画面が出力される前に呼び出されます。この指示に続くルールが画面表示の前に実行されます。それにより画面がロードされる前にフィールドの値をセットすることができます。 |
| refresh | R | この指示に続くルールは画面の更新の都度、実行されます。特定のフィールド値を変更するか、または HTML 修飾子をフォーム上のフィールドの中に配置して強制的に画面更新ルールを実行すると、画面が更新されます。 |
| preupdate または database | D | preupdate ルールはデータベース更新の前に実行されます。追加画面でボタンを押して issue をデータベースに送信した後、または編集画面で[更新]ボタンを押した後にこれらのルールが実行されます。指示の preupdate と database は同義です。将来のバージョンでは、database という用語は指示の目的を十分に説明していないため、非推奨となります。 |
| postupdate | D | postupdate ルールは、追加画面または編集画面のデータベース更新の後に実行されます。 |
| mail | M | mail ルールはユーザに更新を通知するために使用されます。SUPPRESS_STANDARD_EMAIL_LIST という動作設定の値に応じて、組み込みの通知ルールを補足、または置き換えることができます。 |
| clone | C | この指示は複製プロセスの動作中にルールまたは割り当てを実行するために使用されます。例えば、データベースに複製レコードが保存される前にフィールドの値を設定または設定解除することができます。 |
| link | n/a | この指示は、関連レコードをあるビジネス・エリアから別のビジネス・エリアに結びつけ、それによって 2 つのビジネス・エリア間の関係を作成する方法を指定するために使われます。 |
| object | n/a | この指示は、異なるタイプの 2 つのフィールド間のリンクとして使用されるオブジェクトを定義するために使われます。通常、各フィールドは異なるビジネス・エリアまたはプロジェクトに属します。 |
| info | n/a | ルールが実行されていることをログ・エントリにより確認できるようにします。最小限の情報がリストされます。 |
| log | n/a | エンドユーザによるルールの実行確認に十分な程度に、ルールの起動状態を記録します。条件評価と代入を表示します。 |
| debug | n/a | ExtraView 内部の値を含め、ルールの起動状態を記録します。主に ExtraView サポートにより使用されます。 |

ルール式

ルール

ルールは、アクションおよび任意指定の条件から成り立っています。条件を省略すると、アクションは常に起こります。それ以外の場合、すべての条件が真である場合にアクションが起こります。

ルールは次のうちいずれかの構文となります。

- `<Rule Action>`
- `if (<Rule Condition >) <Rule Action> ; <Rule Action>`
- `if (<Rule Condition > && <Rule Condition > ...) {
 <Rule Action> ; <Rule Action>
 <Rule Action> ; <Rule Action>
 <Rule Action> ; <Rule Action>
 <Rule Action> ; <Rule Action>
}`

また、否定条件の場合には特殊な構文を使います。

```
if !(<Rule Condition >)
```

ルールでは次に示す条件演算子も使用できます。これらの条件演算子は、数値または日付のすべての表示フィールド・タイプに対して機能します。また、テキストおよびリストの表示タイプと共に使用した場合、文字列比較演算子を使用した演算子として機能します。

| 演算子 | 意味 |
|-----|-------|
| > | より大きい |
| < | より小さい |
| <= | 以下 |
| >= | 以上 |

注:条件は複数行に分けることもでき、その場合は括弧で制御します。

注:load、refresh、clone の各指示では AREA フィールドおよびPROJECTフィールドの値を設定することはできません。

例

1. 以下はloadルールで、ステータスのフィールド値を[オープン]に、PRIVACYのフィールド値をカスタム値に設定します。条件を設定していないため、これらは常に実行されます。

```
<== load ==>  
  
STATUS=Open;  
  
PRIVACY=Engineering;
```

2. 以下は、アクションが単一行で表される if 文の例です。作成者が内部ユーザである場合、issue を現在のユーザに割り当てます。

```
if (USER.{is internal}) ASSIGNED_TO=USER;
```

3. 単一のアクションをもつルールを複数行で記述することもでき、条件またはアクションのうち一方を複数の部分で構成することができますが、アクションは単一行で構成されます。

```
if (USER.{is internal} && AREA=Defect &&  
    ASSIGNED_TO.{is null} )  
    ASSIGNED_TO=USER; STATUS=Open;
```

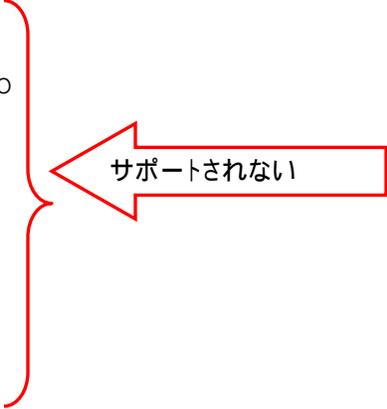
4. 次に複数のアクションの行を含む if 文の例を示します。if 文では中括弧で囲むことによりアクションを複数行で記述することができます。次のルールでは SUB_STATUS という名前のフィールドに Needs Review という値を設定し、issue を BSMITH という名前のユーザに割り当て、期限を当日に設定しています。ただし外部のユーザにより入力された新規の顧客サポート issue の場合にのみ行います。

```
if (AREA='Customer Support' && STATUS='Submitted'  
    && ORIGINATOR.{is external}) {  
    SUB_STATUS="Needs Review"; OWNER=ASSIGNED_TO;  
    DUE_BY_DATE = SYSDAY;  
}
```

有効な式の記述

ネストした if 文、*else / else if*、*()*、*or* 節はサポートされていません。ただし、目的とする動作を行うように式を記述できる場合もあります。例えば、次のような式の場合、

```
if (AREA='Customer Support') {
    if (STATUS='Submitted') {
        SUB_STATUS="Needs Review"; OWNER=ASSIGNED_TO
        DUE_BY_DATE = SYSDAY
    }
} else if (AREA= 'Bugs') {
    STATUS = 'New';
} else {
    STATUS = 'Unassigned';
}
```



サポートされない

下のように記述することができます。またこのように記述しなければなりません。

```
if (AREA='Customer Support' && STATUS='Submitted') {
    SUB_STATUS="Needs Review"; OWNER=ASSIGNED_TO
    DUE_BY_DATE = SYSDAY
}
if (AREA= 'Bugs') {
    STATUS = 'New';
}
if (AREA = 'Customer Support' && AREA != 'Bugs')
    STATUS = 'Unassigned';
}
if (AREA != 'Customer Support' && AREA != 'Bugs')
    STATUS = 'Unassigned';
}
```

ルール式

<Rule Condition> および <Rule Action> は共に <ルール式> です。ルール式は次のうちいずれかの書式になります。

- <Rule Value>
- <Rule Value>='Constant'
- <Rule Value>=<Rule Value>

- `<Rule Value>!=<Rule Value>`

このドキュメントで前述したAREA='Customer Support'、OWNER=ASSIGNED_TO と表されたパラグラフがルール式です。

式の値の解釈はこれが条件であるかアクションであるかによって微妙に異なります。

1. 条件は左辺の値と右辺の値を比較することにより評価されます。
2. アクションは右辺の値を左辺に割り当てた結果になります。
3. アクションでは演算子 +=、 -=、 &=、 *=、 /= も使用できます。これらの演算子は概ね Java / C 演算子と同様に機能します。例えば、1つのフィールドの内容を別のフィールドに追加したい場合、 += を使用します。また、 *= を使用すると2つのフィールドの内容が複合されます。

特殊なケースを以下に示します。

- テキスト・フィールドの場合

- += テキストの前に付加。「エリア」タイプのテキスト・フィールドの場合、追加されるテキストの前後に改行が含まれます。
- &= テキストの後に付加。「エリア」タイプのテキスト・フィールドの場合、追加されるテキストの前後に改行が含まれます。
- *= テキストの前に付加。「エリア」タイプのテキスト・フィールドの場合、追加されるテキストの前後に改行は含まれません。
- /= テキストの後に付加。「エリア」タイプのテキスト・フィールドの場合、追加されるテキストの前後に改行は含まれません。

- 日付フィールドの場合、 + 演算および - 演算は日数の単位で行われます。

リピーティング行のうちいずれかの行が条件に適合する場合、リピーティング行は真であると評価されます。条件にリピーティング行の要素が含まれていない場合、リピーティング行の割り当てはすべての行に適用されます。条件にリピーティング行の要素が含まれている場合、条件に一致する行のみが更新されます。

ルール値

ルール値は以下に示す書式の式です。

- ‘値’ – 値は解釈が不明瞭な場合、単一引用符で囲むことも、引用符を付けないこともできます(スペースで囲まれていない場合など)。これが参照フィールドである場合(通常、表示タイプがリスト、タブ、またはポップアップ であるフィールド)、表示タイトルとして扱われ、データベースに対する妥当性がチェックされません。
- 特殊な値はその名前が示すとおり、システムが提供する値の プレースホルダーです。これらは USER または SYSDATE などの値です。特殊な値の全リストを後述します。

- DD_NAME – データ辞書名は、ASSIGNED_TO などのデータ要素と関連付けられている値の参照のために使用することができます。データ辞書名は演算子のどちら側で使用しても構いません。データ辞書名は必ず大文字で表さなければなりません。
- (リンク名).DD_NAME – DD_NAME の前にリンク名を指定して関連issueに含まれる値を参照することができます。リンク名は Link 指示によって指定しなければなりません。
- 複合識別子はリンク式(任意指定)、DD_NAME、1つ以上の修飾子から構成されています。修飾子は {is external} などのプロパティ、または {changed} などの条件です。{changed_from: 'value'} などの複合条件にすることもでき、この場合 'value' は単純な値として解釈されます。
- IDENT: 'Value' – これは特殊な書式で、識別子を特殊なタイプとして評価することを強制するために使用されます。例えば、データ辞書のエントリに同一の値がある場合、その値をユーザIDとして評価することを強制するために使用できます。以下の書式のうちいずれかを使用します。
 - EMAIL により電子メール・アドレスを指定
 - USER によりユーザIDを指定
 - ROLE によりユーザ・ロールを指定

値識別子

値識別子は以下のうちいずれかになります。

- データ辞書名
- ユーザID
- ユーザ・ロール
- 特殊な値

これらは大文字、かつそれぞれの値の内部名と一致していなければなりません。

値識別子は、IDENT: の場合を除き、データ辞書名、ユーザID、ユーザ・ロールの順に解釈されます

修飾子

修飾子はデータ辞書名または特殊な値に適用され、条件または特殊な値を返します。有効な修飾子を以下に示します。:

- {null} – フィールドがnullの場合、真となる
- {not null} – フィールドがnullでない場合、真を返す
- {changed} – フィールドが変更されている場合、真を返す
- {changed to: Value} – フィールドが新しい値 'Value' に変更されている場合、真となる
- {changed from: Value} – フィールドの前の値が 'Value' であった場合、

真となる

- {old value} – フィールドの前の値を返す
- {company name} – User フィールドの会社名を返す
- {is internal} – User フィールドの会社名がサイトの会社名と一致する場合、真となる
- {is external} – User フィールドの会社名が COMPANY_NAME という動作設定で定義されるサイトの会社名と一致しない場合、真となる。
- {is guest} – ユーザのロールが LIMITED_USER_ROLE という動作設定で定義されるロールのみである場合、真となる
- {is active} – User フィールドが有効なユーザを参照している場合、真となる
- {is inactive} – User フィールドが無効になったユーザを参照している場合、真となる

特殊な値

特殊な値を以下に示します。

- USER – 現在のユーザを参照
- USER_ROLE – 現在のユーザ・ロールを参照または設定

ユーザ・ロールの設定は、以下に示す特殊な条件下でのみ実行できます。

- a) 設定は追加画面では機能せず、編集画面においてのみ機能します。
- b) 現在のユーザに新しいロールを設定するには、そのユーザが新しいロールを採用可能でなければなりません。つまり、そのユーザ・アカウントについて、ユーザ設定の一部で新しいロールの採用が許可されていることを指定する必要があります。
- c) ルールにおいて、ユーザが許可されていないロールの設定を試みると、そのロールは LIMITED_USER_ROLE という動作設定で指定されているロールに変更されます。したがって、1つのロールが定義されているユーザのロール変更を行うことは可能ですが、そのロールは通常は Guest または Customer となります。

- SYSDATE – 現在のタイムスタンプの値を提供
- SYSDAY – 現在の時刻の Date値を提供
- SCREEN_NAME – ADD、EDIT、ADD_CONFIRMATION または MASS_UPDATE のうちいずれかの値。追加、編集、追加確認または一括更新のいずれかの画面においてのみ実行するルールを定義することができる。例えば、

If (SCREEN_NAME='ADD') && (STATUS='OPEN') とするとissueの追加時、ステータスが オープン の場合にのみルールが実行される。

タイプの変換

ほとんどの場合、異なるデータ・タイプの間では自動変換が行われます。例えば、リストタイプのフィールドをテキスト・フィールドに割り当てると、リスト値の表示タイトルが自動的に提供されて使用されます。同様に、テキスト・フィールドをリスト値に割り当てると、テキスト値を逆方向にルックアップしてリスト・フィールドに値が入られます。当然ながら、この最後のタイプの割り当てを行う場合、テキスト・フィールドの値がリスト・タイトルの既存の値に対応している必要があり、そうでない場合にはエラーが出力されます。

特殊なアクション

以下に示す値はアクションにのみ指定可能です。

- {ADD: field_1 = value_1 [, field_2 = value_2] }
–これにより、フィールドがデータ辞書のフィールド名であり、値がフィールドの表示タイプに対して有効である場合に、一連の名前と値の組に基づいて新しい項目がExtraViewデータベースに追加されます。例えば以下のコードでは、ADD_SERIAL_BUTTON というボタンが押されたときに新しいレコードが追加されます。

```
if (ADD_SERIAL_BTN.{changed} && UNIT_SERIAL.{not null})
{
  {ADD: AREA='Calibration',
    PROJECT='Unit',
    UNIT_SERIAL,
    COMPONENT,
    SITE,
    FACILITY};
}
```

追加処理に対して値を提供するフィールドがログ・エリア・タイプである場合 (COMMENTSフィールドなど)、元のissueからの最後のエントリだけが新しいissueに追加されます。

- {CLEAR} – フィールドをクリアします。例えば、PRIORITY というフィールドの内容をクリアするには次のようにします。
PRIORITY.{clear}
- {DEFAULT} – フィールドをデフォルト値に設定します。例えば、PRIORITY というフィールドの内容をそのデフォルト値に設定するには次のようにします。
PRIORITY.{default}
- {ERROR: Message} – データベース・ルールにのみ指定可能。更新を行わずに、ユーザにMessageのテキストを警告として返します。
- {LOG: Message} – Messageをシステム・ログに書き込みます。

- {MAIL: `template_name`, user} – このアクションは template_name というアドホックのメール・テンプレートを使用して、user というユーザに送信される通知の形式を設定します。
- {UPDATE: linkName field_1 = value_1 [, field_2 = value_2] } – これにより、リンク仕様の定義に基づいて1つ以上のレコードが更新されます。リンクが2つ以上のレコードを示している場合、影響を受けるすべてのレコードが更新されます。例えば以下のコードでは、顧客の連絡先が変更されると、すべての顧客連絡先レコードが更新されます。

```
<== link custCSRInfo ==> AREA='CSR Calls', CUST_LIST
if (AREA = 'Customers' && CUST_CONTACT_PHONE.{changed})
{
  {UPDATE: custCSRInfo CUST_CONTACT, CUST_CONTACT_PHONE}
}
```

更新処理に対して値を提供するフィールドがログ・エリア・タイプである場合 (COMMENTSフィールドなど)、元のissueからの最後のエントリだけが新しいissueに追加されます。

引用符の使用

リテラル値は単一引用符または二重引用符で囲むことができます。現在はエスケープ文字は使用できません。

コメント

コメントは「#」で始まる行です。その行の「#」以降にある文字はすべて無視されます。

ルール解析

指示は大文字/小文字を区別しません。

条件式は大文字/小文字を区別しません。

VALUE_IDENTIFIERS は大文字/小文字を区別します。通常は大文字とします。

値は通常表示タイトルであり、大文字/小文字を区別します。値がlookup タイプ(リスト、ポップアップなど)である場合、内部値であるか判定するために逆検索が行われます。ユーザ・フィールドの場合は例外で、ExtraView ユーザIDと見なされ、大文字/小文字を区別しません。

再帰

プログラマは再帰に関する話題になじみ深くなるでしょう。ルールを使用して、更新を引き起こすルールを記述することが可能であり、関連するルールが発効すると、同じルールまたは別のルールが発効され、その後また別の更新が引き起こされます。このような処理は反復可能なサイクルで発生し、ExtraView がその発生を感知する方法はありません。ルールはサーバ上で発効され続ける可能性があり、無限のサイクルが開始したことはユーザには通知されません。そのため、ルールを慎重に調べる必要があります。特に postupdate 指示によってissueを追加または更新するルールには注意が必要です。不

用意に無限ループを実行させてしまった場合、ただちにアプリケーション・サーバを再起動したのち、当該ルールを変更してこの現象が再び起きないようにしなければなりません。

例

1. issue の担当者の現在の値がnullである場合、issueの更新者を設定します。

```
if (ASSIGNED_TO={null} && USER.{is internal})
    ASSIGNED_TO = USER
```

2. ステータスが最初にオープンから解決済みに変更されたとき、Date First Fixed という UDF フィールドを現在の日付に設定します。

```
if (STATUS={changed_to:Fixed} &&
    STATUS={changed_from:Open}
    && DATE_FIRST_FIXED.{is null} )
    DATE_FIRST_FIXED = SYSDATE
```

3. ステータスが解決済みに変更されたとき、コメント・フィールドを必須入力フィールドにします。コメントを入力しない場合、ユーザにエラーを通知します(データベースのみのルール)。

```
if (STATUS={changed_to:Fixed} &&
    STATUS={changed_from:Open}
    && COMMENTS.{is null} )
    {Error: Comments are required when an issue is marked
    fixed.}
```

ルールの実行

ルールがいつ実行されるかはルール・タイプによって異なります。

- **Load ルール**は画面に最初に入る前に実行されます
- **Refresh ルール**は追加画面または編集画面で再表示が行われる度に実行されます
- **Database (preupdate および postupdate)ルール**はレコードの追加または更新の直前、およびレコードの追加または更新の直後に実行されます。**preupdate**ルールと**postupdate**ルールが再帰的な更新をもたらさないように十分注意しなければなりません。再帰的な更新は、**preupdate**ルールまたは**postupdate**ルールをADDやUPDATEのアクションと組み合わせたときのエラーによって最も多く発生します。可能であれば条件付きの更新を使用してこれを制御し、**preupdate** および **postupdate** の指令がADDおよびUPDATEのアクションをトリガとして実行された場合、これらの更新での値自体が同じデータベース・ルー

ルを再度起動しないようにします。

- **Email ルール**は画面下部に電子メールリストが再表示される際、追加/更新プロセスの一部として実際にユーザへの通知を生成するとき実行されます。電子メール・ルールは電子メール通知の追加目的でのみ使用され、フィールドへの値の代入は行われないことに注意してください。
- **Clone ルール**はissueが複製された後、その表示前に実行されます。issue がデータベースに書き込まれているため、issueを更新しなければここで加えた変更が失われることに注意してください

ビジネス・ルールに使用されるフィールドの表示タイプを変更する

データ辞書を使用して、管理者がフィールドの表示タイプを変更することができます。変更が可能であるとはいえ、フィールドがビジネス・ルールに使用されている場合、ある影響をもたらす場合があります。例えば、フィールドの表示タイプをリストからポップアップに変更したとします。これは適正な変更であり、フィールドに対して記述したルールは依然として有効です。しかし、効率化を図るためフィールドの表示の情報は ExtraView 内にキャッシュされるため、表示タイプは変更されても情報は古いまま残ります。ExtraView は、1日に数回ルールを更新してこの情報をキャッシュし直しますが、キャッシュに古い情報が残っている期間があります。これが問題となる場合は、ルール・ファイルを入力後、[更新] ボタンを押して情報を更新してください。

制限

このバージョンのルール・エンジンでは複数値をもつUDFはサポートしていません。

このバージョンではルールはローカライズできません。すべての値は、ローカライズした値ではなく、データベース内のフィールドの値を使用しなければなりません。

状況に応じたビジネス・ルールの設定例

- **追加画面のフィールドの値を設定するには**

```
if (AREA=Issues && PROJECT=Issues && SCREEN_NAME='ADD')
    {FIELD_NAME=VALUE;}
```
- **編集画面のフィールドの値を設定するには**

```
if (AREA=Issues && PROJECT=Issues && SCREEN_NAME=EDIT)
    {FIELD_NAME=VALUE;}
```
- **条件を指定せずにフィールドの値を設定するには**

```
FIELD_NAME=VALUE;
```
- **ASSIGNED_TO などのユーザ・フィールドの値を現在のユーザ名に設定するには**

```
if (AREA="Contracts" && SCREEN_NAME='ADD') {
    ASSIGNED_TO=USER;}
```

- 現在のユーザが特定の操作が可能なAdministratorロールを持っているかを調べるには

```
if (AREA='Bugs' && STATUS={changed_to:'Closed'} &&
    USER_ROLE!=Administrator)
    {COMMENTS='OK!'};
```

- 別の値が変更されたときにある値を変更するには

```
if (STATUS={changed})
    {FIELD_X='Changed'};
```

- フィールドの値にユーザのパーソナル・オプションからの値を設定するには

```
if (AREA='Issues' && SCREEN_NAME='ADD'){
    PHS_COMPANY_NAME = USER.{company name};
    PHS_FIRST_NAME = USER.{first name};
    PHS_LAST_NAME = USER.{last name};
    PHS_JOB_TITLE = USER.{job title};
    PHS_ADDRESS = USER.{address};
    PHS_WORK_PHONE = USER.{work phone};
    PHS_EMAIL = USER.{email};
}
```

- UNIT_PRICE の値と TAX の値を加算し、その結果をTOTAL_PRICEというフィールドに入れるには

```
if (AREA='Bug' && UNIT_PRICE.{not null} && TAX.{not
null}){
    TOTAL_PRICE = UNIT_PRICE;
    TOTAL_PRICE *= TAX;
}
```

- PRICE フィールドの値から DISCOUNT の値を減算し、その結果をDISC_PRICEに入れるには

```
if (AREA='Issues' && DISCOUNT.{not null} ){
    DISC_PRICE = PRICE;
    DISC_PRICE -= DISCOUNT;
}
```

- HOURS と AMOUNTの2つの値を乗じ、その結果をPRICEフィールドに入れるには

```
if (AREA='Customer Issues' && HOURS.{not null} ){
```

```

PRICE = AMOUNT;
PRICE *= HOURS;
}

```

- TOTAL_COST の値を HOURS_WORKED の値で割り、その結果を PRICE_PER_HOURフィールドに入れるには

```

if (AREA='Issues' && HOURS_WORKED.{not null} ){
    PRICE_PER_HOUR = TOTAL_COST;
    PRICE_PER_HOUR /= HOURS_WORKED;
}

```

- あるテキスト・フィールドを他のテキスト・フィールドから構成するには

```

if (AREA="Customers" && SCREEN_NAME='ADD') {
    SHORT_DESCR="New Customer - ";
    SHORT_DESCR&=CUST_NAME;
    SHORT_DESCR&=" - ";
    SHORT_DESCR&=CUST_LEGAL_INDENTITY;
}

```

- 日付フィールドの値に現在の日付を設定するには

```

if (AREA='Issues' && ACT_PERCENT_COMPLETE={changed}) {
    COMPLETE_AS_OF_DATE = {SYSDATE};
}

```

- 日付フィールドをインクリメントするには

```

NEXT_MAINTENANCE_DATE = MAINTENANCE_COMPLETION_DATE;
NEXT_MAINTENANCE_DATE += MAINTENANCE_INTERVAL;

```

- 押されたボタンに従ってフィールドの値を設定するには

```

if (AREA=Reviews && ADD_EXPENSE_BTN={changed})
    {EXPENSE_ADD='Y';}
}

```

- エラー・メッセージをポップアップするには

```

if (AREA=Issues && SEVERITY_LEVEL=1 && STATUS=Pending)
{
    ERROR: Invalid status with this severity level
}

```

- フィールドの値に関連するissueフィールドの値を設定するには

```

if (AREA='Contracts' && CUST_LIST.{not null}) {
    RELATIONSHIP_GROUP_PARENT = (customerLink).ID;
}

```

- あるフィールドに入力された値を、別のフィールドにあるリストのメンバになるように追加するには

最初に、テキスト・フィールドからリスト・フィールドへの値の移動に使用されるオブジェクトを定義します。

```

<== object cust ==> AREA='Customers', LINK=CUST_LIST,
TITLE=CUSTOMER, PRIVACY=false

```

そして、下に示すような方法でルールを使用します。

```

if (CUST_LIST.{changed} && AREA='Issues') {
    CUST_CONTACT = (cust).CUST_CONTACT;
    EMAIL_ADDRESS = (cust).EMAIL_ADDRESS;
}

```

- 複数値フィールドを処理するには

```

if (AGENCY.{contains 'Federal'})
    {GROUP = 'Fed';}

```

- あるフィールドにヌル値があることをチェックするには

```

if (AREA=Issues && THEME={null})
    { DRAFT=Y }

```

- あるフィールドにヌル値が含まれないことをチェックするには

```

if (AREA=Issues && THEME={not null})
    { DRAFT=N }

```

- 条件に応じて特定のメール・テンプレートをユーザに送信する電子メール・ルールを作成するには

```

if (AREA=Issues && STATUS={changed_to:Pending Approval}) {
    {MAIL:'Issue Approval Request', APPROVER} }

```

- あるロールを持つすべてのユーザにメールを送信する電子メール・ルールを作成するには

```

if (AREA="Contracts" && STATUS.{changed to:Finished}) {
    ROLE:MANAGER; }

```

- 画面上のボタンを押したユーザに応じて新しいレコードを追加するには

```

if (ADD_SERIAL_BTN.{changed} && UNIT_SERIAL.{not null}) {
    {ADD: AREA='Calibration',

```

```

PROJECT='Unit',
UNIT_SERIAL,
COMPONENT,
SITE,
FACILITY};
}

```

- 現在の画面にある変更中のフィールドに応じて既存のレコードを更新するには

```

if (CALIBRATED_DATE.{changed} && CALIBRATED_DATE >
(unitLink).CALIBRATED_DATE && AREA='Calibration') {
{UPDATE: unitLink
CALIBRATED_DATE,
UNIT_CAL_EXPIRES };
}

```

- issueの作成後に関連issueのレコードをデータベースに追加する方法。この例には他にも有用なテクニックが示されています。“if”条件を使用することによって、新しいレコードの追加後の再帰処理を避け、今追加されたレコードに対してルールが再度起動されないようにしていることに注意してください。また、新しいレコードに追加される前にissueのSHORT_DESCRを変更するテクニックにも注目してください。

```

if (AREA='Helpdesk' && EMPLOYEE_NAME.{not null} &&
SCREEN_NAME='ADD' && STATUS='New') {
SHORT_DESCR = 'Install new computer for - ';
SHORT_DESCR &= EMPLOYEE_NAME;
{ADD: AREA,
PROJECT,
ASSIGNED_TO = 'BSMITH',
STATUS = 'Open',
PRIORITY = 'P 3',
IT_SELECT_TABS = 'New Employee',
SHORT_DESCR,
IT_DATE_REQUESTED,
IT_APPROVED_BY,
ORIGINATOR,
EMPLOYEE_NAME,
EMPLOYEE_DEPT,

```

```

EMPLOYEE_START_DATE; };
}

```

- 担当者 (ASSIGNED_TO) フィールドに入力されている人へのみ、issue の更新権限を与える方法。これは、そのユーザが担当者でない場合に、ユーザの現在のロールを変更することによって実現できます。通常どおり Guest ユーザに issue の更新が許可されていない場合、ロールを Guest のロールまたは動作設定 LIMITED_USER_ROLE によって指定されているロールに変更すると、そのユーザが担当者でない場合にはレコードが読み取り専用モードで表示されるようになります。

```

if (USER != ASSIGNED_TO) USER_ROLE = Guest;

```

ワークフローの設定

[ワークフローの設定] は非常に重要なセクションです。これは、管理者が設定および保守を行うワークフローの動作設定を制御するための、主要な場所になります。

[ワークフローの設定] にアクセスするには、[Administration] の [ワークフロー] タブで [ワークフローの設定] リンクをクリックします。次のような画面が表示されます。

| 設定名 | 値 | 説明 |
|--------------------|-------|---|
| ASSIGNED_TO | Yes | スターと作業進捗の管理を許可するロールの追加。スターと作業進捗は、このユーザーロールには許可されません。 |
| ASSIGNED_TO_FILTER | Yes | 権限管理の優先順位。 |
| ASSIGNED_TO_FILTER | Yes | この設定は、スターと作業進捗の管理を許可するロールの追加。スターと作業進捗は、このユーザーロールには許可されません。 |
| ASSIGNED_TO_FILTER | Yes | Yes に設定すると、issue を検索し、コメントに追加する権限は、issue に追加されます。 |
| ASSIGNED_TO_FILTER | Yes | この設定は、権限管理にのみ有効です。Admin のスターと作業進捗の管理を許可するロールに設定して、このユーザーは権限管理のみを許可して、検索のロールは許可されません。 |
| ASSIGNED_TO_FILTER | Guest | ロールが変更された場合、ユーザーは Guest のロール。 |
| ASSIGNED_TO_FILTER | Yes | No に設定すると、issue ユーザー Admin にのみ許可されます。これは、Jira のインストール時に許可されています。バージョン 4.0 以上のインストールでは、Yes に設定する必要があります。 |
| ASSIGNED_TO_FILTER | Yes | No に設定すると、issue ユーザー Admin にのみ許可されます。これは、Jira のインストール時に許可されています。バージョン 4.0 以上のインストールでは、Yes に設定する必要があります。 |
| ASSIGNED_TO_FILTER | Yes | この設定は、issue ユーザー Admin にのみ許可されます。これは、Jira のインストール時に許可されています。バージョン 4.0 以上のインストールでは、Yes に設定する必要があります。 |
| ASSIGNED_TO_FILTER | Yes | スターと作業進捗の管理を許可します。有効な場合は Yes と No です。 |
| ASSIGNED_TO_FILTER | No | この設定は、issue ユーザー Admin にのみ許可されます。これは、Jira のインストール時に許可されています。バージョン 4.0 以上のインストールでは、Yes に設定する必要があります。 |
| ASSIGNED_TO_FILTER | No | Yes、No、Off のいずれかを指定します。この設定は、Jira のインストール時に許可されています。バージョン 4.0 以上のインストールでは、Yes に設定する必要があります。 |
| ASSIGNED_TO_FILTER | No | この設定は、issue ユーザー Admin にのみ許可されます。これは、Jira のインストール時に許可されています。バージョン 4.0 以上のインストールでは、Yes に設定する必要があります。 |
| ASSIGNED_TO_FILTER | Off | この設定は、issue ユーザー Admin にのみ許可されます。これは、Jira のインストール時に許可されています。バージョン 4.0 以上のインストールでは、Yes に設定する必要があります。 |
| ASSIGNED_TO_FILTER | Guest | このロールは、issue を検索して、コメントに追加する権限は、issue に追加されます。 |

ワークフローの動作設定

次のような設定があります。

| [ワークフロー]メニュー – [ワークフローの設定] | 標準的な値 | 説明 |
|--------------------------------|-------|--|
| ADMIN_OVERRIDE_ROLE | ADMIN | <p>複数のセキュリティ制御をバイパスし、特殊なプロパティを持つユーザ・ロール名。現在のロールとしてこの名前を指定されているユーザには、次のプロパティがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ステータス変更の優先権限。ステータス変更ルールは、このユーザ・ロールには適用されません。これが、ユーザ・ロール ADMIN_OVERRIDE_ROLE が通常の操作では使用されない大きな理由です。 ロール ADMIN_OVERRIDE_ROLE を持つすべてのユーザが、権限のないアクセスについて、「ExtraView に対するログインが X 分間に Y 回試みられ、失敗しました」などのメッセージを内容とする電子メール通知を受け取ります。これらのユーザには、攻撃者の IP アドレスも通知されます。 セキュリティ・キー CF_SECURITY_ROLES および admin バイパス・グループによって、他のユーザのプライバシー・グループやユーザ・ロールの表示および編集に必要なユーザ・ロールが決定されます。例えば、ロール ADMIN が読み取り/書き込み権限を持ち、SUPPORT が ADMIN_OVERRIDE_ROLE のユーザ・ロールである場合、ユーザ・ロールが ADMIN であるメンバーは、プライバシー・グループと、ADMIN のその他のユーザ・ロールだけを編集できます。ADMIN_OVERRIDE_ROLE のユーザ・ロールが ADMIN である場合、ADMIN のメンバーはプライバシー・グループと、すべてのユーザ・ロールを編集できます。 ExtraView のアクセスが管理者によって無効になっている場合は、ExtraView へのアクセスが回復するまで、ユーザ・ロール ADMIN_OVERRIDE_ROLE のメンバーだけが ExtraView にアクセスできます。 |
| ALLOW_BILEVEL_GROUPS | NO | <p>この設定は、下位互換性を保つために提供されています。バージョン 5.0 以降、双方向レベル関係グループは多対多および一対多の関係グループに置き換えられました。お使いのシステムがバージョン 5.0 より前に作成されており、以前に双方向レベル関係グループを使用していた場合にのみ YES を設定します。NO を設定すると、新しい関係グループに対する値に双方向レベルを選択できません。</p> |
| AUTO_SCROLL_TO_EMBEDDED_LAYOUT | NO | <p>この値が YES に設定されると、ユーザが埋め込みレイアウト内のフィールドをクリックし、それによって画面が更新される場合、その画面は自動的に埋め込みレイアウトの一番上にスクロールされます。追加/編集画面がかなり長い場合、画面更新の都度フォームの一番上が表示されるのではなく、ユーザが操作していた画面の領域に誘導されるため、この機能は有用となるでしょう。この値が NO である場合、画面の更新時にはフォームの一番上が表示されます。</p> |
| COPY_ATTACHMENT_ON_CLONE | YES | <p>YES に設定すると、issue を複製した場合に添付ファイルが新しい issue にコピーされます。</p> |
| LIMITED_USER_ROLE | GUEST | <p>ロールが与えられていないユーザのデフォルトのロール。</p> |

| | | |
|-----------------------------|-----|---|
| DISALLOW_AREA_0_DATA | NO | NO に設定すると、issue データが AREA 0 に入力されます。これにより、バージョン 4.2 以前のインストールとの下位互換性が得られます。バージョン 4.2 以上で作成されたインストールでは、issue データを AREA 0 に置くことはできません。4.2 以上のインストールでは、YES に設定する必要があります。 |
| DISALLOW_PROJECT_0_DATA | NO | NO に設定すると、issue データが PROJECT 0 に入力されます。これにより、バージョン 4.2 以前のインストールとの下位互換性が得られます。バージョン 4.2 以上で作成されたインストールでは、issue データを PROJECT 0 に置くことはできません。4.2 以上のインストールでは、YES に設定する必要があります。 |
| ENABLE_COMPANY_NAME_ACCESS | YES | この動作設定を YES(デフォルト値)に設定すると、ユーザの会社名が issue のプライバシー設定に優先し、会社名が同じである他のユーザが作成したすべてのレコードへのアクセスがユーザに許可されます。有効な値は YES と NO です。 |
| ENABLE_PRIVACY_GRP_OVERRIDE | NO | 値を YES に設定すると、内部ユーザは PRIVACY フィールドの値にかかわらずすべての issue を参照することができます。内部ユーザとは、ユーザの個人情報の会社名が COMPANY_NAME という動作設定で定義された会社名と同一のユーザです。値を NO に設定すると、issue が割り当てられたプライバシー・グループのメンバーである場合に限り、issue を参照することができます。 |
| ENFORCE_ONE_TO_MANY_RG | YES | この設定には YES または NO の値を指定できます。YES に設定すると、一对多の関係グループに属する issue は、1 度に 1 つの親しか持つことができません。したがって、1 つの issue に別の親 ID を設定すると、ExtraView は元の issue の子となっている issue を削除し、その issue に新しい親 ID を設定します。この設定を NO にすると、1 つの issue は 1 度に 2 つ以上の親を持つことができます。 |
| ENFORCE_STATE_CHANGE_RULES | NO | ステータス変更ルールの実施を切り換えます。有効な値は YES と NO です。 |
| ENFORCE_UNIQUE_RELEASES | YES | リピーティング行での RELEASE_FOUND の固有性を指定します。このデフォルト値が YES である場合は、RELEASE_FOUND が null である場所にリピーティング行を追加することはできません。さらに、RELEASE_FOUND の値は単一のレコードで複製されません。 このデフォルト値が NO である場合は、画面上のリピーティング行の書き込み可能フィールドが空白でない(デフォルト値を含む)場合に、リピーティング行が追加されます。また、RELEASE_FOUND フィールドおよび RELEASE_FIXED フィールドは、PRODUCT_NAME フィールドを親とする子フィールドであることに注意してください。したがって、リピーティング行レコードでこれらのフィールドを使用する場合、そのレイアウト上に PRODUCT_NAME フィールドが存在しなければなりません。 |
| FILTER_CHILD_VALUES | NO | YES、NO、USER のいずれかを指定します。この設定はクエリ・フィルタにリピーティング行の値が含まれる場合の検索の動作を制御します。YES に設定すると、検索基準に一致する行のみが検索結果として返されます。NO に設定すると、少なくとも一行が検索基準に一致する issue のすべての行が返されます。USER に設定すると、検索画面に表示されるチェックボックスによりこの動作が制御されます。 |

| | | |
|---------------------------|---|--|
| FILTER_MODULE_BY_CATEGORY | NO | <p>カテゴリによるモジュールのフィルタを可能にします。有効な値は YES と NO です。</p> <p>これにより、モジュール・タイプとカテゴリの両方に基づいてモジュールのサブセットを選択できます。[カテゴリ]を選択すると、追加画面および編集画面のモジュールの選択リストで、対応するモジュール・タイプだけが有効な選択として表示されます。</p> <p>例えば、製品にハードウェア、ソフトウェア、ドキュメントの各モジュールがあるとします。issue がソフトウェアに関連する場合は、ソフトウェアのモジュールだけが選択可能になります。</p> <p>この機能は、項目レコードの[カテゴリ]フィールドを使用して、モジュール・タイプの値を保存します。FILTER_MODULE_BY_CATEGORY を YES に設定すると、カテゴリに入力した値は、製品（[製品名]フィールド）を親の第1の値として使用する場合と同様に[モジュール・タイプ]の値を設定することで、モジュール（[モジュール ID]フィールド）で親の第2の値として使用されます。</p> <p>この場合、[カテゴリ]と[モジュール・タイプ]の両方で同じ列挙値を使用する必要があります。</p> <p>[モジュール ID]フィールドのデータ辞書設定で、次のように設定します。</p> <p>[最初の親フィールド名] = PRODUCT_NAME [最初の親 SQL] = where product_name [2 番目の親フィールド名] = CATEGORY [2 番目の親 SQL] = and module.category</p> <p>データ辞書でこれらの変更を行うには、ExtraView に admin ユーザ・アカウントでサインオンする必要があります。</p> |
| LIMITED_USER_ROLE | GUEST | <p>このロールには issue を割り当てることはできません。これは一般的にゲストまたは顧客ユーザ・ロールになります。</p> |
| LINK_MODULE_USER | ASSIGNED_TO | <p>モジュール所有者フィールドと指定されたユーザ・フィールドとのリンクを設定します。値は [ASSIGNED_TO]、[CONTACT] または [OWNER] になります。</p> |
| LOG_AREA_TEMPLATE | <p>\$\$LA_DATE\$\$</p> <p>\$\$LA_USER\$\$</p> | <p>この設定により、表示タイプがログ・エリアであるフィールドのヘッダーの表示方法が制御されます。ヘッダでは任意のテキストおよび \$\$LA_DATE\$\$、\$\$LA_USER\$\$、\$\$LA_COMPANY\$\$ という変数を使用できます。変数はそれぞれ、フィールド更新日、更新したユーザの名前、更新したユーザの会社名を表します。</p> |
| MULTIPLE_FIELD_SEPARATOR | -/- | <p>子レベルの複数値 UDF の区切り文字として使用されず。</p> |
| REFRESH_LIST_MAX_SIZE | 200 | <p>このサイズを下回る大きさのリストにおいて、許容値の關係に[JavaScript を使用して値を更新する] オプションが選択されている場合、JavaScript を使用した高速な更新が行われます。この設定により管理者は、メタデータをブラウザにロードする時間をかけて選択が行われた際に高速な更新を行うか、あるいはメタデータ・リストをサーバから更新するために時間をかけるかのどちらかをユーザのために選択することができます。</p> |

| | | |
|--------------------------------|------------|---|
| RELATIONSHIP_GROUP_EMAIL_LIMIT | 30 | 関係グループ内の issue のステータスを更新すると、各 issue には標準の通知プロセスが適用されます。グループ内に [RELATIONSHIP_GROUP_EMAIL_LIMIT] を超える数のエントリがあった場合、通知は親 issue のユーザにのみ送られ、この情報についてのコメントが issue に挿入されます。 |
| RELATIONSHIP_GROUP_MAX_DISPLAY | 0 | 関係グループ画面の issue の最大数を指定します。0 は無制限を意味します。ユーザのロールが ADMIN_OVERRIDE_ROLE に定義されている場合、すべての issue が常に表示されます。 |
| RELATIONSHIP_LINK_DISPLAY | SELECT | 編集画面の関係グループ・インジケータの表示を選択します (LINK または SELECT)。 |
| RELEASE_SORT_ORDER | DESCENDING | ASCENDING または DESCENDING |
| REMEMBER_BETW_TABS | YES | 追加画面および編集画面のタブ間の値を記憶します。 |
| SAVE_AREA_PROJECT_CHANGES | NO | この動作設定が YES の場合、ユーザが issue の追加/更新時にビジネス・エリアおよび/またはプロジェクトを変更すると、その変更が現在のセッションとユーザのパーソナル・デフォルトの両方に反映されます。NO の場合、ビジネス・エリアおよび/またはプロジェクトに対する変更はユーザの個人設定または現在のセッションでの値には影響しません。 |
| SAVE_ROLE_CHANGES | YES | サイトでの特定の要求に従って動的にロールの切り換えを行うカスタム・コードがない場合、この値を常に YES に設定して、ユーザ自身または管理者によるユーザのロールの変更を許可し、それが ExtraView データベースに保存されるようにします。ユーザのロールを切り換えるカスタム・コードが存在し、ロールの変更をデータベースに記録したくない場合、またはユーザから可視にたくない場合は、値を NO に設定します。 |
| SEPARATE_WORK_FLOW | PRODUCT | USERGROUP (ロール)、PRODUCT、または NONE ごとに異なるワークフローを許可します。 |
| SHOW_CLOSED_REL_GROUPS_PERIOD | 0 | 関係グループの項目リストが、この値によって指定した最小日数ですべての issue が解決するまで表示されます。有効な値は 0 以上の数値です。0 は、関係グループ内のすべての項目が STATUS_CLOSED_NAME で指定されたステータスになると、関係グループのリストに表示されなくなることを意味します。 |
| SORT_SELECTED_VALUES | NO | この設定が NO の場合、すべての複数値リストはフィールドの標準のソート順として設定された順序で表示されます。YES の場合、選択されたすべての値はそのソート順を使用してリストの最初に表示され、次に選択されていない値がそのソート順を使用して表示されます。 |
| STATUS_CLOSED_NAME | CLOSED | issue が解決した状態のデータ辞書名。この値は通常新しいシステムの構成時に設定されますが、それ以降は変更しないでください。値を変更して異なる値を使用すると、履歴が保持されず、過去の issue がいつクローズされたかを知ることができなくなります。 |
| STATUS_SIGNATURES | NO | ステータス・ルールの変更に電子署名が必要かどうかを決定します。有効な値は YES と NO です。YES に設定すると、ステータス変更が承認されるためには、ユーザはユーザ ID とパスワードの再認証を受ける必要があります。 |

ステータス変更ルール

ステータス変更ルールにより、管理者は issue のステータスを変更するプロセスを制御できます。自社のワークフローに適合するために、ExtraView では次の 3 つの異なるワークフロー・フォーマットに基づいて、ステータス変更ルールを作成できます。

- I. **デフォルト・フォーマット:**すべてのユーザが、すべての異なる製品、プロジェクト、カテゴリ、モジュールなどについて、同じルールに従う必要があります。
- II. **ユーザ・ロール・フォーマット:**会社内の異なるユーザ・ロールに対して、異なるステータス変更ルールが適用されます。
- III. **製品フォーマット:**特定の製品について、他の製品に適用されるステータスと異なるステータスに変更できます。

ステータス変更ルールは、動作設定 ENFORCE_STATE_CHANGE_RULES によって一括してオンまたはオフに切り換えることができます。

さらに、ビジネス・エリアやプロジェクトを使用している場合は、ステータス変更ルールを組み合わせごとに個別に設定できます。これにより、エリア、プロジェクト、ユーザ・ロール、またはエリア、プロジェクト、製品の任意の組み合わせに対して、柔軟にステータス変更ルールを設定できるようになります。ステータス変更ルールにより、1 つのデータベース内で、独自のプロセスとワークフローを持つ多様なトラッキング・システムを設定できます。

ステータス変更ルールには、継承という重要な概念があります。ユーザ・ロールまたは製品と合わせてビジネス・エリアとプロジェクトの組み合わせを定義すると、継承によって、階層の任意のポイントのワークフローを定義し、すべての従属ポイントで同じワークフローが継承されます。これにより、ビジネス・エリア、プロジェクト、ユーザ・ロール、プロジェクトのすべての組み合わせについてワークフローを設定することなく、ワークフローを効率的に定義できます。

注:階層の任意のレベルでワークフロー・マトリックスに 1 つでも値を入力すると、すべてのレベルのワークフローで使用されます。

ステータス変更ルールの有効化

1. [Administration] メニューの [ワークフロー] タブで、[ワークフローの設定] をクリックします。
2. ENFORCE_STATE_CHANGE_RULES のデフォルト値の横にある [Edit] ボタンをクリックします。
3. 値を NO から YES に変更して、[更新] ボタンをクリックします (値がすでに YES である場合はそのままにします)。

ADMIN_OVERRIDE_ROLE 動作設定との相互関係

ステータス変更ルールは、現在のロールが動作設定 ADMIN_OVERRIDE_ROLE で設定されたロールであるユーザには適用されません。したがって、現在のロールが管理者であるユーザは、一般的に issue のステータスある値から別の値に任意に変更できます。この場合も、issue の監査証跡には移行が表示されます。

自社のワークフロー・プロセスの選択

注:この手順では、自社に最適なワークフローを決定する必要があります。この場合は(上記のように)、DEFAULT、PRODUCT、USERGROUP から選択できます。

注:この設定は、ステータス署名ルールと共有されます。

1. [Administration] の [ワークフロー] タブで、[ワークフローの設定] をクリックします。
2. SEPARATE_WORK_FLOW のデフォルト値の横にある [Edit] ボタンをクリックします。この設定は、ステータス署名ルールを定義する機能と共有されます。同じ設定が、ステータス変更ルールでも使用されます。
3. 値を DEFAULT、USERGROUP、または PRODUCT に変更して、[更新] ボタンをクリックします。

ステータス変更ルールのカスタマイズ

[Administration] メニューの [ワークフロー] タブで、[ステータス変更ルール] をクリックします。選択したワークフロー・フォーマットに基づいて、次の 3 つの画面の 1 つが表示されます(各画面はここに示すものとわずかに異なる場合がありますが、機能は同じです)。

表の行と列の [移行先ステータス] と [移行元ステータス] では、値 [* なし *] が使用されません。異なる値間での issue の移動を制御するほかに、[* なし *] を許容値にするかどうかも指定できます。[* なし *] は、データ辞書のステータス・フィールドのデフォルト値として設定できます。

有効なステータスの移行を示すマトリックスにアクセスすると、すべてのチェックボックスがグレイ表示されている場合があります。これは、ユーザ・ロール/製品、ビジネス・エリア、プロジェクトの組み合わせが継承されているため、この組み合わせに対して明示的に設定できないことを意味します。継承関係を破棄し、明示的な組み合わせの値を設定するには、更新 ボタンを一回クリックするか、コピー元 オプションによりユーザ・ロール/製品、ビジネス・エリア、プロジェクトの別の組み合わせから値を選択します。



すべての issue に対するステータス変更ルールの適用



異なるユーザ・ロールに対するステータス変更ルールの適用



異なる製品に対するステータス変更ルールの適用

ステータス変更ルールの適用

- 製品またはユーザ・ロールのワークフローについて、[設定の定義] リストにあるドロップダウン・リストから製品またはユーザ・ロールを選択します。
- 最初に [移行元ステータス] (左側) から [移行先ステータス] (上部) の各チェック・ボックスをクリックします。ステータス移行を許可する、[移行元ステータス] と [移行先ステータス] の交点にあるボックスをクリックします。
- [移行元ステータス] と [移行先ステータス] の値を決定したら、[更新] ボタンをクリックします。
- リストから別の製品またはユーザ・ロールを選択し、1 ~ 3 の手順に従います。この手順を各製品またはユーザ・ロールについて繰り返します。
- 任意の製品またはユーザ・ロールの設定を、異なる製品またはユーザ・ロールからコピーすることができます。次の手順に従います。
 - [設定の定義] リストで、定義する製品またはユーザ・ロールを選択します。
 - [移行元ステータス] リストから、設定をコピーする製品またはユーザ・ロールを選択します。
 - [コピー元] ラジオ・ボタンをクリックします。

コピーした値が配置されて画面が更新されます。

最後の更新の後で、ステータス変更ルールが完全に導入されます。これにより、issue を編集してステータスを変更し、機能をテストすることができます。どの時点でも、issue の現在のステータスに従って、リストにはステータスの移動先として有効なステータスだけが表示されます。

エリアとプロジェクトに対するステータス変更ルールの適用

上記のように、継承の原則を使用して、複数のユーザ・ロール、複数のエリア、複数のプロジェクトについて、ステータス変更ルールを管理できます。



異なるエリアまたはプロジェクトからのステータス・ルールの継承

ユーザ・ロール、エリア、プロジェクトの階層のすべてのレベルで、デフォルトでは階層の上位のレベルからステータス変更ルールが継承されます。詳細については、本書の「レイアウト・エディタ」の継承のセクションで説明しています。

上のスクリーンショットは、マスタ・レベルでのビューを示しています。このように、上位のレベルからの継承はできません。マスタ・エリアとマスタ・プロジェクトの下位のレベルについて [設定の定義] を選択すると、値を継承できるレベルが [継承元] フォームのセクションに表示されます。これを [設定の定義] のレベルの要件に適する値に変更します。

また、異なる組み合わせのユーザ・ロールまたは製品、およびエリアとプロジェクトから、[設定の定義] で設定した場所に設定をコピーすることもできます。

ステータス変更ルールおよび許容値と許可の設定

ExtraView では、無制限にステータスを作成することができます。これにより、表示されるマトリックスの縦横の幅が非常に大きくなることで、ステータス変更ルールを 1 つの画面で表示および設定するのがむずかしくなる場合があります。一般的に、ビジネス・エリアでは許容値の関係で [エリア] フィールドが親になり、[ステータス] フィールドが同じ関係で子になります。

[ステータス変更ルール] 画面では、現在のビジネス・エリアの子であるステータスだけが表示されるように制限されます。これにより、画面がより使いやすくなります。

同時に、ユーザ・ロールとビジネス・エリアの任意の有効な組み合わせでセキュリティ権限キーを使用し、ステータスを無効にすることができます。

有効なステータス変更の移行を制限し、セキュリティ権限を有効にするか、または許容された移行用に許容値を変更すると、画面上での移行についてチェックボックスが表示されなくなるため、問題が発生する場合があります。

これらの条件の下でメタデータの管理を容易にするため、ステータス変更ルール画面には 3 つのチェックボックスがあり、これにより非表示になった移行を表示し、誤った設定をチェックすることができます。



[すべて表示] – 許可や許容値にかかわらず、すべてのチェックボックスが表示されます。

[許容値による不許可を表示] – 許容値の関係によって無効になっていたチェックボックスが表示されます。

[セキュリティ権限による不許可を表示] – セキュリティ権限の設定によって無効になっていたチェックボックスが表示されます。

issue のクローズ

ExtraView では、各 issue がクローズされた正確な日付の記録が保持されます。これは、issue がクローズ・ステータスに移行したときに、システムの現在のタイムスタンプが issue に挿入されることで可能になります。クローズ・ステータスは、動作設定 STATUS_CLOSED_NAME によって定義されます。デフォルト値は [CLOSED] ですが、これは管理者が変更することができます。値の変更は新しいシステムの実装中のみ行うべきです。システムにデータが蓄積された後にこの設定を変更すると、issue がクローズされた時点の履歴を参照することができなくなります。

ただし、ワークフローによっては、クローズされた issue を再度オープンにすることができない場合もあります。データベースの [DATE_CLOSED] の日付を設定するルールは次のとおりです。

1. [DATE_CLOSED] の初期値は [NULL] です。issue のステータスを動作設定 [STATUS_CLOSED_NAME] の値に設定しない限り、[DATE_CLOSED] は [NULL] になります。
2. ステータスを [STATUS_CLOSED_NAME] に変更すると、現在の日付の値が

[DATE_CLOSED] に割り当てられます。

3. ユーザがセキュリティ権限キー [PR_RESOLUTION.ALLOW_EDIT_CLOSED] に対する書き込み許可を持つ場合に、[STATUS_CLOSED_NAME] 以外の値にステータスを変更すると、issue が [STATUS_CLOSED_NAME] のステータスに再度変更されるまで、[DATE_CLOSED] の設定が NULL に戻ります。

注:[DATE_LAST_STATUS_CHANGE] フィールドの初期値は、常に issue が最初に作成された日付に設定され、その後ステータスの値が変更された場合のみ変更されます。

ステータス・ルールの変更例

この例では、ステータス変更ルールを設定してワークフローを構成する際の主要な要素を示します。またこの例では 2 つのユーザ・ロール、開発エンジニアおよび品質保証エンジニアに対する設定を示します。ほとんどの会社では、他にもロールが設定され、ワークフロー(ステータス)はさらに多くの手順により構成されるでしょう。

基本的なワークフロー・タスクは、リスト管理の[ステータス]フィールドで設定されている、定義済みの一連のステータスに集中しています。

| タスク | 開発エンジニア | 品質保証エンジニア |
|---------------------------------------|---------|-----------|
| 新規 issue を作成 | ✓ | ✓ |
| issue を新規 ステータスから作業目的で オープン | ✓ | |
| オープンされている issue を 修正 | ✓ | |
| 修正済みにマークされている issue を再 オープン | ✓ | ✓ |
| 修正済みにマークされている issue を クローズ | | ✓ |
| オープンされている issue を デュプリケート にマーク | ✓ | |
| 以前にデュプリケートにマークされた issue を オープン | ✓ | ✓ |
| 以前にクローズされた issue を再 オープン | | ✓ |
| オープンされている issue を 再現不能 にマーク | ✓ | |
| デュプリケートにマークされた issue を再 オープン | ✓ | ✓ |

ユーザが [ステータス] リスト内のステータスを [* なし *] に設定できないようにするため、追加および編集のレイアウトの [ステータス] フィールドについて、レイアウト・セル属性の [* なし *] エントリを削除を設定します。



開発エンジニア・ロールに対するステータス・ルールの例



品質保証ロールに対するステータス・ルール例

上記の 2 つの表が設定されると、編集画面のステータス・フィールドは、以下の [ステータス] の値に応じて次のように表示されます。これらの例ではSTATUS_TRANSITION フィールドを使用してステータスの値を表示していることに注意してください。編集画面レイアウトで STATUS フィールドを使用する場合、各ロール、各ステータスに同一の値が表示されますが、ドロップダウン選択リストになります。

| ステータス | 開発エンジニアでの表示 | 品質保証での表示 |
|--------------|-------------|----------|
| 新規 | | |
| オープン | | |
| 修正済み/ 未解決 | | |
| クローズ | | |
| デュプリ ケート | | |

ステータス署名ルールを作成

ステータス署名ルールまたはデジタル署名により、管理者は issue のステータス変更が行われた時点でユーザの再認証を要求することで、プロセスを制御できます。これは例えば、21 CFR Part 11 として知られる米国政府の FDA 規則に準拠するために、システムで要求される電子署名ルールを適用する場合に使用できます。再認証は、ポップアップ画面からユーザ ID とパスワードの再入力进行を要求する形式で行われ、そのユーザがトランザクションを開始したユーザであり、有効なユーザであることが確認されます。

注: 現時点では、この機能を利用するには LDAP または Active Directory サーバが必要です。

自社のワークフローに適合するために、ExtraView では次の 3 つの異なるワークフロー・フォーマットに基づいて、ステータス署名ルールを作成できます。

- I. **デフォルト・フォーマット:** すべてのユーザが、すべての異なる製品、プロジェクト、カテゴリ、モジュールなどについて、同じルールに従う必要があります。
- II. **ユーザ・ロール・フォーマット:** 会社内の異なるユーザ・ロールに対して、異なるステータス署名ルールが適用されます。
- III. **製品フォーマット:** ステータス署名ルールは、システム内の各製品について個別に作成できます。

さらに、ビジネス・エリアやプロジェクトを使用している場合は、ステータス署名ルールを組み合わせごとに個別に設定できます。

ステータス署名ルールの有効化

1. [Administration] メニューの [ワークフロー] タブで、[ワークフローの設定] をクリックします。
2. STATUS_SIGNATURES のデフォルト値の横にある [Edit] ボタンをクリックします。
3. 値を NO から YES に変更して、[更新] ボタンをクリックします (値がすでに YES である場合はそのままにします)。
4. 動作設定 REAUTH_URL (再認証が要求された場合の ExtraView のアクセス先を指定) および REAUTH_REDIRECT_PARAM (再認証が完了した場合の ExtraView サーバのアクセス先を指定) の値を入力します。

自社のワークフロー・プロセスの選択

注:この手順では、自社に最適なワークフローを決定する必要があります。この場合は(上記のように)、DEFAULT、PRODUCT、USERGROUP から選択できます。これらのうち1つを使用してステータス変更ルールを設定したら、以後この設定を変更すべきではありません。変更した場合、すべてのワークフローの設定が失われる可能性があり、その結果すべてのワークフローの設定を再作成しなければなりません。

注:この設定は、ステータス変更ルールと共有されます。

1. [Administration] の [ワークフロー] タブで、[ワークフローの設定] をクリックします。
2. SEPARATE_WORK_FLOW のデフォルト値の横にある [Edit] ボタンをクリックします。この設定は、ステータス署名ルールを定義する機能と共有されます。同じ設定が、ステータス変更ルールでも使用されます。
3. 値を DEFAULT、USERGROUP、または PRODUCT に変更して、[更新] ボタンをクリックします。

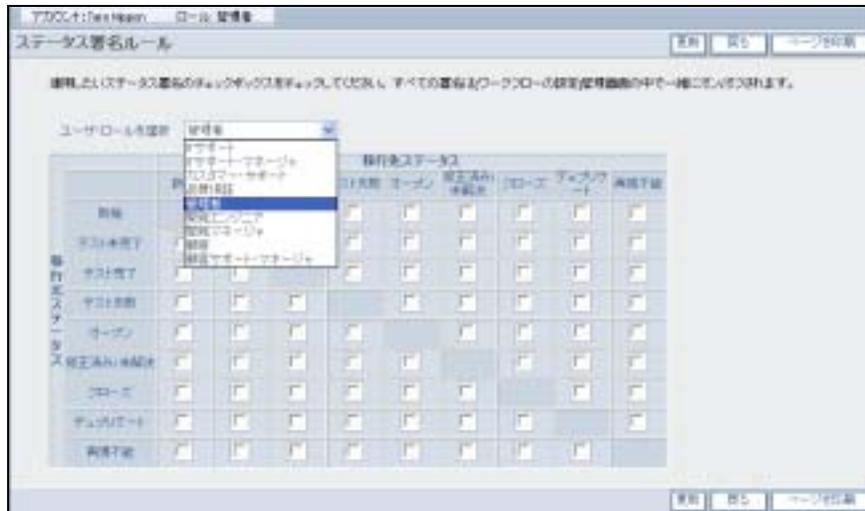
ステータス署名ルールのカスタマイズ

[Administration] メニューの [ワークフロー] タブで、[ステータス署名ルール] をクリックします。選択したワークフロー・フォーマットに基づいて、次の3つの画面の1つが表示されます(各画面はここに示すものとわずかに異なる場合がありますが、機能は同じです)。

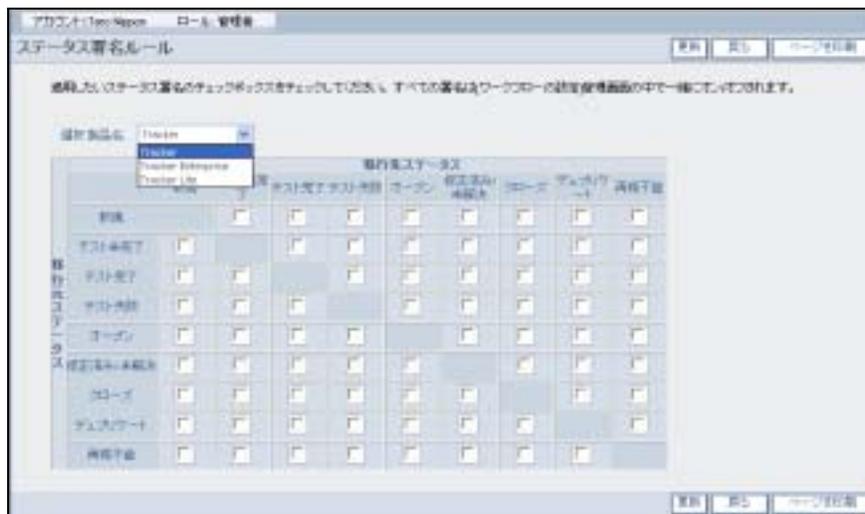
ビジネス・エリアとプロジェクトが有効である場合、画面にはそれらに対するプロンプトも表示されます。ステータス署名ルールはシステム内の各ビジネス・エリアとプロジェクトに対して作成することが可能であるためです。



すべての issue に対するステータス署名ルールの適用



異なるユーザ・ロールに対するステータス署名ルールの適用



異なる製品に対するステータス署名ルールの適用

ステータス署名ルールの適用

1. 製品またはユーザ・ロールのワークフローについて、ドロップダウン・リストから製品またはユーザ・ロールを選択します。
2. 最初に [移行元ステータス] (左側) から [移行先ステータス] (上部) の各チェック・ボックスをクリックします。ステータス移行を許可する、[移行元ステータス] と [移行先ステータス] の交点にあるボックスをクリックします。
3. [移行元ステータス] と [移行先ステータス] の値を決定したら、[更新] ボタンをクリックします。
4. リストから別の製品またはユーザ・ロールを選択し、1 ~ 3 の手順に従います。この手順を各製品またはユーザ・ロールについて繰り返します。

最後の更新の後で、ステータス署名ルールが完全に導入されます。これにより、issue を編集してステータスを変更し、機能をテストすることができます。どの時点でも、issue の現在のステータスに従って、リストにはステータスの移動先として有効なステータスだけが表示されます。

関係グループ

関係グループにより、ExtraView のユーザは個別の issue を相互に関連付けることができます。例えば、次のような場合に issue 間の関係を作成したいと考えるかもしれません。更新時やレポート作成時に複数の issue を 1 つのまとまりとして考えたいとき、または issue のグループ更新を強制するワークフローを実施したい場合、またはすべての子 issue が処理されていないければ親 issue をクローズできないワークフローを作成したい場合などです。関係グループは、多くの異なる動作タイプにより構成することができます。関連issueを中心としたシステムの構築方法の詳細な例は、本書の「**関連するissueの例**」というセクションに掲載されています。定義可能な組み込み関係グループには、次のようなタイプがあります。

| 関係グループのタイプ | 用途 |
|------------|---|
| 双方向レベル | これは単一の issue が任意の数の子 issue の親 issue として機能する、単純な関係グループです。大部分は一对多タイプに移行されましたが、下位互換性を維持するため、継続して使用されています。新しいExtraView アプリケーションを設計しようとする場合、または既存のインストレーションに關係グループを追加する場合は、双方向レベルグループは使用しないことが推奨されます。このタイプの關係グループを継続して使用し、双方向レベルグループが更新されるようにするためには、RG_UPDATE_BILEVEL_ONLYという名前の動作設定をYESに設定してください。双方向レベルタイプの新しい關係グループを追加できないようにするには、動作設定のALLOW_BILEVEL_GROUPSをNOに設定します。この設定をYESに設定しないと、双方向レベル關係グループは正しく機能しません。 |
| 一对多 | このタイプも同様に、単一の親 issue と複数の子 issue から成りますが、双方向レベルタイプとは異なる点や、改善された点があります。新しいアプリケーションでは、双方向レベルタイプではなくこのタイプの關係グループを使用してください。issueの更新を実行する際、すべての関連issueを更新したい場合は、RG_UPDATE_BILEVEL_ONLYという名前の動作設定をNOに設定しなければなりません。 |
| 多対多 | 多対多の關係グループ・タイプでは、1 つのissue が複数の關係グループに属することができます。多くの |

複数の関係グループに属することができ、多くの issue を多様に関連付けることができます。issueの更新を実行する際、すべての関連issueを更新したい場合は、RG_UPDATE_BILEVEL_ONLYという名前の動作設定をNOに設定しなければなりません。

関係グループは、レポート・フィルタを使用した issue のグループ化より有用です。例えば、共通の検索可能なフィールド(特定の製品に影響する issue または優先度が同じ issue など)があれば、issue をグループ化したレポートを簡単に生成することができます。

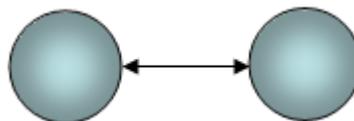
関係グループには、次に示す共通の特徴があります。

- 異なる項目または issue をまとめて関係付けることができます。ユーザは、追加画面または編集画面から関連付けを行います。管理者は、[関係グループ・メンテナンス]画面からこれを行うことができます。
- 関連issueのグループに属するメンバーを更新するとき、グループ内の関連するメンバーをすべて更新できるようにする動作を任意で設定することができます。グループ内の1つのメンバーが更新されると、すべてのissueで更新されるフィールドを、レイアウトに組み込んで作成できます。
- ユーザは、追加画面または編集画面により、グループから項目を削除することができます。これについても、管理者が [関係グループ・メンテナンス]画面から行うことができます。
- 追加画面や編集画面、またはクイックリストや詳細レポートなどのレポートから、関係グループのすべての項目を参照することができます。これらのうち任意の場所から、また許可が与えられていれば、ドリルダウンを行ったり、issue の参照や編集を行うことができます。
- 許可が与えられていれば、関係グループのメンバーである issue を更新する際、そのグループの他のメンバーにもその更新を適用することができます。
- issueを複製したとき、ルールを使用してそれらのissueを1つの関係グループに入れることができます。

ここで関係グループの使用例をいくつか挙げ、異なる用途に対してそれぞれがどのように構成されるかを示します。

単純な関係

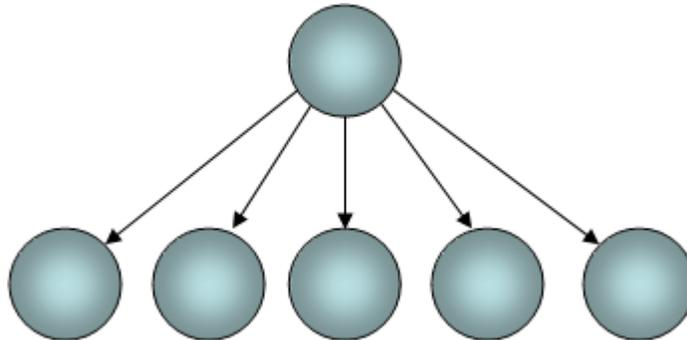
最も単純な関係として、2つの issue を関連付けたい場合が考えられます。例えば、同様の現象を示していることや同じ顧客から報告されたなどの場合です。この関係は、次のように図に表すことができます。



どのタイプの関係グループでもこの形態をとることができます。ただし、issue の一方が他方の親となる必要がある場合もあります。

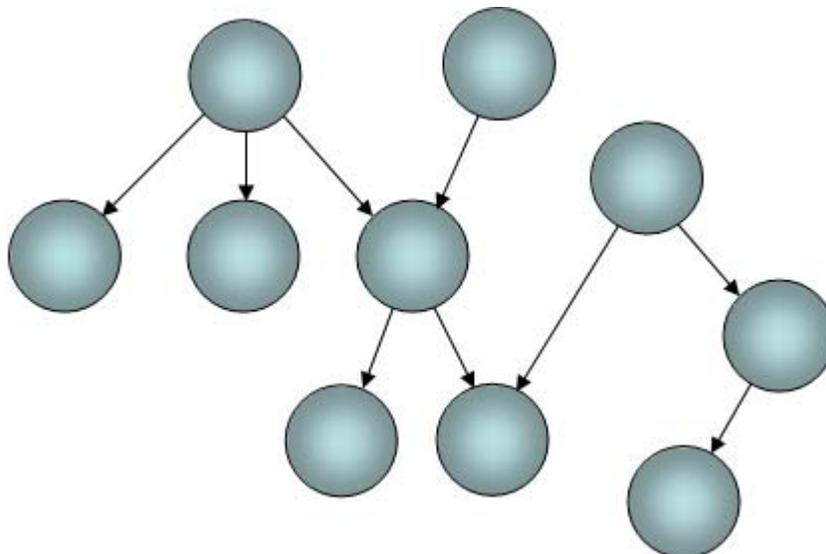
親 - 子関係

通常、親 - 子関係グループは多対多のグループ・タイプで実装されます。最も一般的な使用例は、子 issue の動作を単一の issue で制御したい場合です。例えば、複数の顧客により報告された issue は、その問題に対する解決策を制御する技術的 issue が解決されてクローズされるまではクローズできない場合などです。この場合、技術的 issue が制御を行う親 issue です。



複雑または任意の関係

多対多の関係グループ・タイプにより、非常に柔軟性に富む issue の関連付けの構造を形成することができます。ここではほとんどすべての形態に issue の関連付けが可能であり、単一の issue が複数のグループのメンバーとなることも可能です。ここで示す使用例は、異なる issue のグループが結合可能な、非常に自由な形式の構造です。この機能により、構造のなかを上下にたどって、issue の親、issue の子、直接の関係の範囲外までを参照することが可能です。また、関連する issue 同士をその issue の親または子に含めることもできます。この関係を、次の図に表します。



関係グループ用のセキュリティ・キー

| キー | 説明 |
|---|--|
| CF_RELATIONSHIP_GROUP_VIEW_PROBLEM_BUTTON | [関連するissue] 画面の [View] ボタンの外観を指定します。双方向レベル関係グループにのみ使用します。 |
| PR_ADD_PROBLEM.RELATIONSHIP_GROUP | 追加画面での RELATIONSHIP_GROUP ボタンへのアクセスを制御します。 |
| PR_RESOLUTION.RELATIONSHIP_GROUP | 双方向レベル関係グループについて、[関連するissue] (編集画面上の ID の横にあるボタン) へのアクセスを管理し、編集画面での RELATIONSHIP_GROUP フィールドの表示を制御します。 |
| PR_RESOLUTION.RELATIONSHIP_GRP_ADMIN | 双方向レベル関係グループについて、編集画面上の [関係グループの管理] ボタンの表示/非表示を指定します。 |
| CF_RELATIONSHIP_GROUP | レポート上の [issue のグループ化] ボタン (カラム・レポート、サマリ・レポート、クイックリスト、詳細レポートの各画面において上部および下部の更新ボタンの横にあるボタン) の表示/非表示を指定します。 |

関係グループ用の動作設定

| キー | 説明 |
|--------------------------------|--|
| CLONE_RELATIONSHIP_GROUP | 複製関係に使用する関係グループ名。issue が複製されると、自動的にこの設定で指定された名前の関係グループに配置されます。 |
| RELATION_GROUP_DEFAULT | 関係グループに配置される issue に使用する関係グループの名前。このデフォルト値は、レイアウト・セル属性 RELATED_ISSUE_DISPLAY を使用するか、追加または編集のレイアウトにある RELATIONSHIP_GROUP フィールドを使用してユーザが関係グループを選択できるようにすることにより、上書きすることができます。 |
| RELATIONSHIP_GROUP_EMAIL_LIMIT | 関係グループに属する issue のステータスを更新すると、各 issue に対して標準の通知処理が実行されることとなります。グループのエントリが RELATIONSHIP_GROUP_EMAIL_LIMIT の値を超えると、親 issue のユーザにのみ通知され、issue のコメントにその情報が追記されます。 |
| RELATIONSHIP_GROUP_MAX_DISPLAY | 関係グループ画面に表示される issue の最大数。0 は、制限がないことを示します。ADMIN_OVERRIDE_ROLE に定義されている管理者ユーザは、この設定の値に関係なく、常にすべての issue を参照できることに注意してください。 |

| | |
|-------------------------------|--|
| RELATIONSHIP_LINK_DISPLAY | <p>データ辞書のエントリの RELATIONSHIP_GROUP_LINK が編集画面レイアウトに配置されている場合は、タイトルの横にリンクまたはリストが表示されます。フィールドの表示は、動作設定 RELATIONSHIP_LINK_DISPLAY によって制御します。このフィールドの値には SELECT または LINK を指定します。RELATIONSHIP_GROUP_LINK のエントリは、追加画面に配置することはできません。</p> <p>値が LINK の場合は、フィールドが編集画面にグループ内の issue の数を指定するリンクとして表示されます。このリンクをクリックしてオンにすると、ユーザが [関連するissue] 画面にリダイレクトされます。</p> <p>値が SELECT の場合、フィールドが選択リストとして表示されます。これにより、ユーザは、変更する issue をリストから選択してリンク・ボタンをクリックし、その issue の編集画面に移動できます。動作設定 POPUP_LIST_SIZE で指定した数を超えるエントリがリストにある場合は、[* 詳細 *] というエントリがリストに追加されます。ユーザがこの値を選択してリンク・ボタンをクリックすると、ユーザは [関連するissue] 画面にリダイレクトされ、グループ化されているすべての issue のリストを使用できます。</p> |
| RG_UPDATE_BILEVEL_ONLY | <p>この動作設定は、ExtraView バージョン4.x との下位互換性を保つためのものです。YES に設定すると、関連する issue の更新はステータス フィールドへの更新が発生した場合のみ起動されます。NO に設定すると、関連する issue の更新はそれ以外のイベントでも起動し、異なるフィールドで多くの更新が発生することがあります。</p> |
| SHOW_CLOSED_REL_GROUPS_PERIOD | <p>関係グループの項目のリストは、すべての issue がクローズされた後、この値で指定された日数が経過するまでは表示されます。有効な値は、0 以上の数値です。0 に指定すると、関係グループ内のすべての項目が STATUS_CLOSED_NAME で指定されたステータスになると、ただちに関係グループのリストから表示されなくなります。</p> |

関係グループの使用

企業によっては、issue の関連付け方法について異なる動作を定義したい場合があります。多くの場合、組み込みの関係グループの動作を変更し、企業のニーズに合わせてカスタマイズすることは容易です。詳しくは ExtraView サポートにご連絡ください。

以下に、通常の関係グループの構成方法と使用方法を説明します。

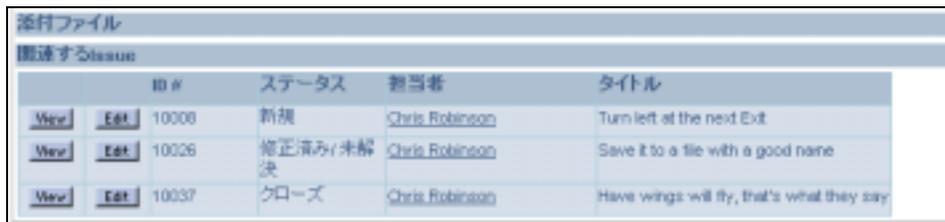
関係グループを使用するための ExtraView の設定

関係グループを使用するためのビジネス・エリアの設定は、いくつかの手順により行います。これらのうち一部は、使用する関係グループのタイプに依存します。

関連するissueおよびそれらの動作コンポーネントを含む実際のシステム設定例は、本書の「**関連するissueの例**」のセクションに詳しく掲載されています。

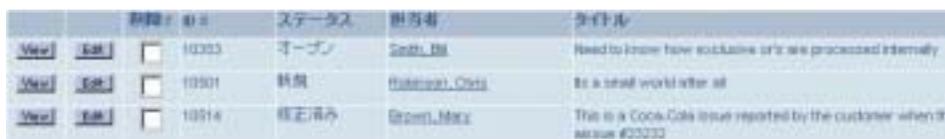
関連する issue の表示および管理

関連する issue を表示するには、RELATED_ISSUE_DISPLAY タイプのレイアウトを変更または作成する必要があります。このレイアウト・タイプは、関連するレコードを追加画面、編集画面、レポートで表示するために使用されます。このレイアウトの[用途]は **レポート** にしなければなりません。レイアウトは通常、それを使用するビジネス・エリアかプロジェクトにより継承されます。このレイアウトには、関連する issue を参照する際に表示したいフィールドが含まれています。新規インストール時のデフォルトのフィールドは、ビューボタン、編集ボタン、関係グループの削除ボタン、ID、ステータス、担当者、タイトルです。



| | | ID # | ステータス | 担当者 | タイトル |
|----------------------|----------------------|-------|----------|----------------|---|
| View | Edit | 10008 | 新規 | Chris.Robinson | Turn left at the next Exit |
| View | Edit | 10026 | 修正済み/未解決 | Chris.Robinson | Save it to a file with a good name |
| View | Edit | 10037 | クローズ | Chris.Robinson | Have wings will fly, that's what they say |

レポート上の関連する issue



| | | ID # | ステータス | 担当者 | タイトル |
|----------------------|----------------------|--------------------------|-------|----------------|--|
| View | Edit | <input type="checkbox"/> | オープン | Scott_Bill | Need to know how exclusive or's are processed internally |
| View | Edit | <input type="checkbox"/> | 新規 | Robinson,Chris | It's a small world after all |
| View | Edit | <input type="checkbox"/> | 修正済み | Scott,Mark | This is a Cook,Colts issue reported by the customer when they issue #00000 |

追加画面や編集画面での関連する issue

さらに別の関連する issue の表示レイアウトを作成し、同様に管理することができますが、それらのレイアウトの名前は RELATED で始めなければなりません。例えば、RELATED_ISSUE_DISPLAY と同様に、RELATED_SUPPLIERS および RELATED_CUSTOMERSという別の関連issueレイアウトを作成することができます。

RELATIONSHIP_GROUP_REMOVE_BTNフィールドは、特別に処理される組み込みフィールドです。このフィールドはデータ辞書において、タイプがラベル、表示タイプがボタンで定義されます。これはRELATED_ISSUE_DISPLAYレイアウト上に配置されますが、レイアウトが編集画面の中でレンダリングされる場合にのみ表示され、追加画面、レポート・レイアウトおよびPOST_EDIT_UPDATEレイアウトでは無視されます。セキュリティ権限キーPR_RESOLUTION.RELATIONSHIP_GROUP_REMOVE_BTNによって、編集画面上に[削除?] チェックボックスを表示するかどうかを制御されます。この機能によって、エンドユーザが関係グループから関連するissueを削除することが可能です。ユーザは任意の数の関連issueにチェックを付けることができ、チェックが付けられたissueは現在のissueの更新時に関係から削除されます。

レポート上では、関連する issue はスクロール付きのボックス内に表示されないため、結果を明確に出力することができます。追加画面と編集画面では、関連する issue はスクロール付きのボックスに表示され、その大きさはレイアウト上の LAYOUT.RELATED_ISSUES_DISPLAYに対する size および height の両レイアウト・セル属性により制御されます。レイアウト・セル属性の size を指定していない場合、デフ

ォルトは 900 ピクセルになります。レイアウト・セル属性のheight を指定していない場合、デフォルトは 70 ピクセルになります。また、レイアウト内のRELATED_ISSUE_DISPLAY にある個々のフィールドの幅を、size レイアウト・セル属性により制御することもできます。size 属性を使用しない場合、セルの幅は固定されず、ブラウザにより幅が決まります。

レイアウト・セル属性 RELATIONSHIP_GROUP_RELATION_TYPE を使用して、表示対象の関連 issue を制御することができます。この属性の値は、以下のうちどれかになります。

- MEMBERS – この値は、他の 3 つのうちどの値も指定しない場合のデフォルト値です。この場合 RELATED_ISSUE_DISPLAY は、参照先 issue を含む、グループに属するすべてのメンバー（つまり参照先 issue の親、子、グループ内の参照 issue に直接関連しないその他の issue）を示します。
- CHILDREN – 関連する issue には、参照先 issue の子である issue のみが表示されます。
- PARENTS – 関連する issue には、参照先 issue の親である issue のみが表示されます。ExtraView のデータ・モデルでは、ある issue に対して複数の親 issue を定義することが可能です。詳しくは、関係グループのセクションをご覧ください。
- RELATED – この場合は、ExtraView は特定のグループに属する参照先 issue の親と子を、RELATED_ISSUE_DISPLAY で表示します。関連する issue の親と子は表示されません。

1 つの関係グループか複数の関係グループか

インスタレーション全体にわたり、1 つの関係グループに issue を配置するか、または複数の関係グループを使用するかを決定してください。1 つの関係グループを使用する場合、関係グループを作成して、ワークフロー設定画面からそのグループ名を動作設定 RELATION_GROUP_DEFAULT に入力するか、RELATED_ISSUE_DISPLAY のレイアウト・セル属性 RELATIONSHIP_GROUP_NAME にそのグループ名を入力してください。複数の関係グループを使用可能にすると、追加または編集のレイアウトに RELATIONSHIP_GROUP というフィールドが配置され、アクセス許可が与えられると、次のようなフィールドが表示されます。



これは複数値フィールドであり、1 つの issue を複数の関係グループの中に異なる用途で配置することができます。issue の更新の際、ユーザは [関係グループ] フィールドを使用してその issue を他の関係グループに追加したり、選択された値をクリックしてその issue を関係グループから削除したりすることができます。

親 issue の定義

追加画面または編集画面でこれを実行するには、RELATIONSHIP_GROUP_PARENT という組み込みフィールドを画面に追加し、関係

の作成が可能なユーザ・ロールに対する適切な読み取り/書き込み権限を与えてください。issue の作成時や更新時に、ユーザは現在の issue と関係付けたい親 issue の ID を入力することができます。issue のサブミット時または更新時にその関係が作成されます。親 ID が存在しないなどのエラーが発生すると、エラー・メッセージが生成されてユーザに示されます。

注: その issue が既にその関係グループにおいて現在の issue の親になっている場合、エラーは表示されず、関係に対する変更は行われません。

ユーザが次にその issue を参照するとき、関係グループの関係タイプが MEMBER、PARENT または RELATED である場合、RELATED_ISSUE_DISPLAY には親 issue が表示されます。

子 issue の定義

追加画面または編集画面でこれを実行するには、RELATIONSHIP_GROUP_CHILD という組み込みフィールドを画面に追加し、関係の作成が可能なユーザ・ロールに対する適切な読み取り/書き込み権限を与えてください。issue の作成時や更新時に、ユーザは現在の issue と関係付けたい子 issue の ID を入力することができます(つまり現在の issue が親になります)。issue のサブミット時または更新時にその関係が作成されます。子 ID が存在しないなどのエラーが発生すると、エラー・メッセージが生成されてユーザに示されます。

注: その issue が既にその関係グループにおいてその親 issue の子になっている場合、エラーは表示されず、関係に対する変更は行われません。

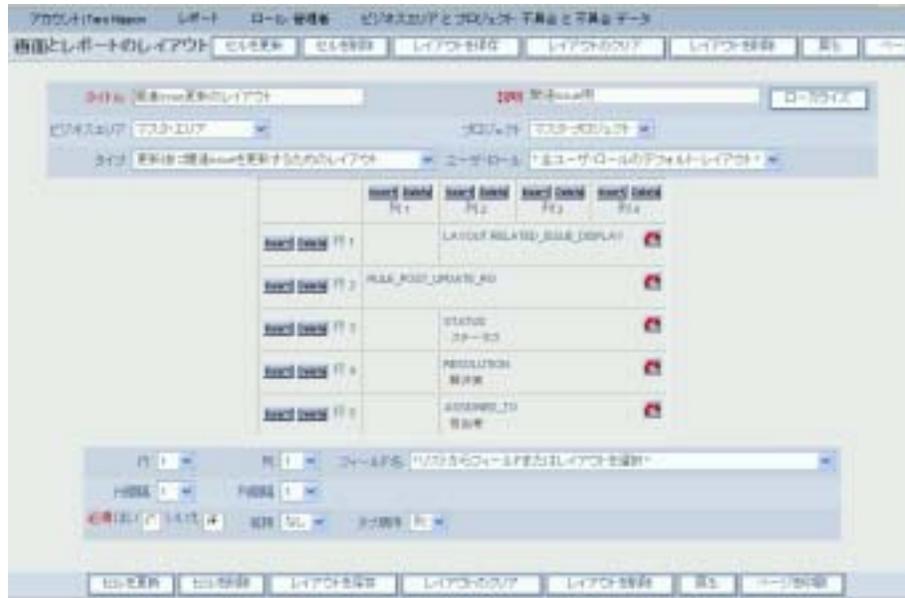
ユーザが次にその issue を参照するとき、関係グループの関係タイプが MEMBER、CHILD または RELATED である場合、RELATED_ISSUE_DISPLAY には子 issue が表示されます。

関連 issue の更新

この設定には、いくつかの手順が必要です。

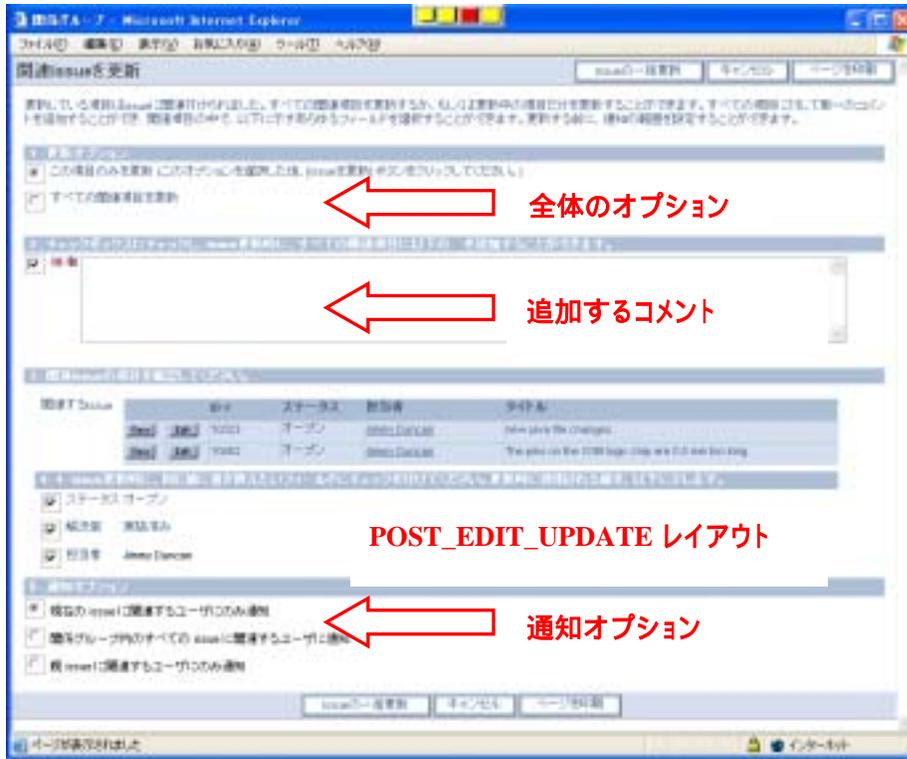
1. 双方向レベル関係グループを使用している場合、動作設定 RG_UPDATE_BILEVEL_ONLY を YES に設定します。それ以外のすべてのタイプの関係グループには、この動作設定の値を NO に設定します。
2. POST_EDIT_UPDATE タイプのレイアウトが定義されていることを確認してください。お使いのインストールで当該タイプのレイアウトが定義されていない場合、[フィールドとレイアウト]管理メニューにある [レイアウト・タイプの作成 / 変更] を使用して定義してください。
3. POST_EDIT_UPDATE タイプのレイアウトをシステムに追加します。追加する場所は、必要とするビジネス・エリアおよびプロジェクト、またはレイアウトが継承される場所です。
4. 関連 issue の更新処理を行う際に利用可能にしたいレイアウト上に、フィールドを配置します。次に示すスクリーンショットのように表示されるはずですが、STATUS、RESOLUTION、ASSIGNED_TO の各フィールドは、関連 issue で更新されるフィールドです。埋め込みレイアウトの LAYOUT.RELATED_ISSUE_DISPLAY をこのレ

アウト上に配置しなければなりません。また、RULE_POST_UPDATE_RG というフィールドがカスタム・フィールドとして定義されていることに注意してください。そのフィールドのヘルプ・テキストは、「4 下のリスト内にある、更新する issue の値と同じ値に更新したいフィールドをチェックしてください。新しい値が表示されています。」と定義されています。LAYOUT.RELATED_ISSUE_DISPLAY に対して
 RELATIONSHIP_GROUP_NAME、
 RELATIONSHIP_GROUP_REFERENCE_FIELD、
 RELATIONSHIP_GROUP_RELATIONSHIP_TYPE の各レイアウト・セル属性を設定する必要がある場合があります。



関連 issue の更新のレイアウト

- 上記のレイアウトに基づいて、関係グループのメンバーである issue を更新すると、次のような画面が表示されます。



関連 issue の更新時に表示されるレイアウト

ユーザはまず、単一の issue を更新するか、関連する issue をすべて更新するかを選択します。このとき、更新されるすべての関連 issue に適用するコメントを任意で追加することができます。ユーザは関連 issue をすべて見ることができ、フィールドにチェックを付けるかチェックを外すことにより、関連 issue でのフィールド更新の可否を設定できます。最後に通知オプションを設定して、現在の issue に関わるユーザにのみ通知するか、関連 issue に関わるユーザすべてに通知するか、親 issue に関わるユーザにのみ通知するかを指定できます。

関連する issue と一括更新

ユーザが一括更新を実行する際、いくつかのレコードが関係グループの一部である場合、関連する issue の各項目には変更が行われません。その理由は、一括更新では何千件もの issue が対象となる可能性があり、それぞれが他の issue と何らかの関連があることが考えられるため、ExtraView が関連する issue を更新すべきかどうかを issue ごとに問い合わせることになるからです。

関連する issue とレポート出力タイプ

レポートに RELATED_ISSUE_DISPLAY が含まれている場合、様々なレポート出力タイプに従って以下に示すように処理されます。その理由は、いくつかの出力タイプはデータを他のプロセスやプログラムに対する入力として使用しやすいように意図的にフ

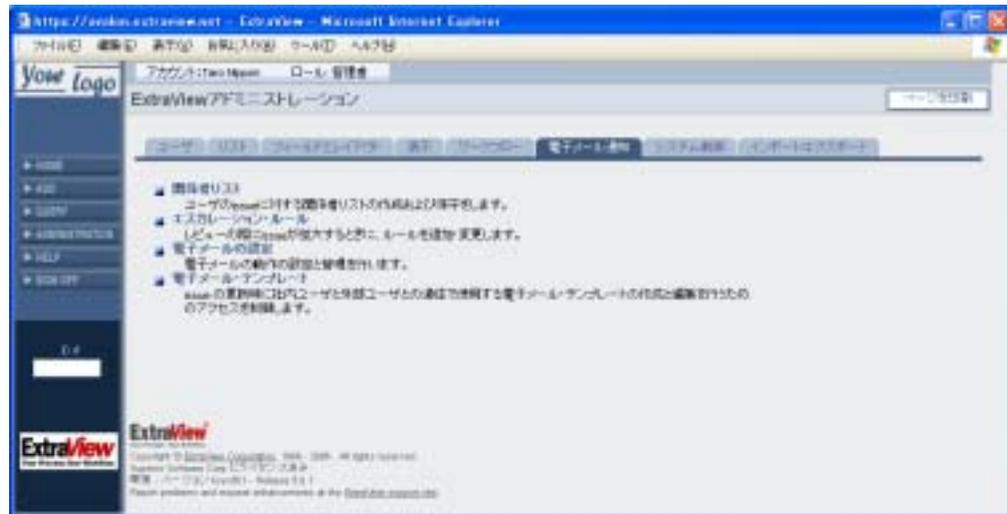
フォーマットされているためです。これらのレポート内で関連するissueからのデータ項目の数が変わると、それらの処理が不可能になります。

| レポート出力タイプ | 制約 |
|-----------------|---|
| ブラウザ | 制約はなく、すべてのフィールドが表示されます。 |
| Microsoft Excel | RELATED_ISSUE_DISPLAYからのフィールドは表示されません。 |
| Microsoft Word | Microsoft Word レポートに表示される他のデータと同様、[View]や[Edit]などのボタンは表示されませんが、すべての英数字による情報は表示されます。 |
| テキスト | RELATED_ISSUE_DISPLAY からのフィールドは表示されません。 |

電子メール通知

概念

ExtraView には、グループ間、部門間、企業と顧客間の通信管理を最大限に効率化することを目的とした、多数の電子メール通知機能があります。通常のデフォルト設定で、ExtraView は issue(案件、問題)を作成したユーザ、issue の担当ユーザ、issue の所有者として選ばれたユーザに電子メールを送信します。これらの設定は変更可能です。



電子メール管理画面

管理者が制御する機能

- システム全体の電子メールを有効または無効にします。
- ユーザ・ロール(ユーザの役割)のための電子メール作成機能を無効にします。
- 外部ユーザへの電子メールを有効または無効にします。
- 新しい issue または更新された issue の通知を自動受信するモジュール所有者をオプションで割り当てます。
- 新しい issue または更新された issue の製品マネージャを通知するための、製品の電子メール・アドレスをオプションで設定します。
- 管理者は、条件に合致する場合にアクションを起動させるための条件を設定することができます。多くの場合これは、プロセスで必要とされるよりも長期間にわたって issue が特定のステータスに留まっている場合、その issue のエスカレーションを行うために使用されます。
- 現在の issue 内のテキストまたは任意のフィールドを入れて、電子メールの件名をカスタマイズできます。
- 電子メール受信者に対して通知先の CC リストをオプションで表示します。
- テキストまたは HTML で、電子メールのテンプレートを管理者が定義できます。これらのテンプレートには、ExtraView ユーザに対する issue の標準通知に必要な分だけのデータを入れることができます。

- 管理者は、現在の issue からのデータと事前定義のテキストを統合して、顧客またはユーザとの通信に使用できる電子メール・テンプレートの範囲をオプションで定義できます。これらのテンプレートは、ユーザ・ロールごとに使用できます。

電子メール・アドレス

各ユーザは ExtraView 内に、主メール・アドレスおよび代替メール・アドレスの2つの電子メール・アドレスを持つことができます。主要メール・アドレスは、[ユーザ・アカウントの管理]画面の[個人情報]タブで保守されます。代替メール・アドレスおよびメール受信の制御は、[ユーザ・アカウントの管理]画面の[通知オプション]タブにあります。

管理者またはエンドユーザは、メールの受信先を主要メール・アドレスにするか代替メール・アドレスにするかのオプションを各エンドユーザに対して個別に選択できます。

動作設定 CHECK_EMAIL_ADDRESS_FORMAT の値を YES にすると、各電子メール・アドレスの形式が入力時または更新時にチェックされ、形式が無効な場合にはエラーメッセージが返されます。

システム全体の電子メールを有効または無効にする

1. [Administration] メニューの [電子メール通知] タブで、[電子メールの設定] をクリックします。
2. 下へスクロールして、EMAIL_NOTIFICATION を表示します。
3. [Edit] をクリックして、システム全体で電子メール通知を有効にするときは値を YES に変更し、無効にするときは値を NO に設定します。
4. [更新] ボタンをクリックします。

特定のユーザ・ロールに対して電子メールリストへのアクセスを無効にする

セキュリティ権限キー、PR_ADD_PROBLEM.MAILING_LIST および PR_RESOLUTION.MAILING_LIST によりメールリング・リストへのアクセスを制御できます。あるユーザ・ロール、ビジネス・エリア、プロジェクトの組み合わせに対してこれらのキーが無効になっている場合、そのユーザは追加画面と編集画面の[電子メール通知]セクションの制御、または参照が行えません。

モジュール所有者を割り当てる

システム管理者は、特定のモジュールのある issue に対する変更によって指定された所有者への自動電子メール通知が行われるように、モジュール所有者を割り当てることができます。さらに、[ワークフローの設定]画面の LINK_MODULE_OWNER_ASSIGNED_TO という動作設定の値を YES に設定している場合、モジュール所有者を使用して [Issueの追加]画面の [担当者] フィールドに

値を自動的に入力できます。それによって、リストからモジュールを選択すると、担当者が自動的にモジュール所有者に設定されるように [Issueの追加] 画面を作成できます。

1. [Administration] メニューの [リスト] タブで [モジュール名] をクリックします。
2. *所有者を割り当てるモジュール*を特定し、関連する [Edit] ボタンをクリックします。



アカウント: Two Nippon ロール: 管理者 ビジネスエリアとプロジェクト: 不具合と不具合データ

モジュール名 - エントリを変更 更新 キャンセル 印刷 ページを印刷

製品名: 000

モジュール名固定名: PROCESSOR

モジュール名タイトル: Processor ローカライズ

モジュール名タイプ: なし

所有者: Susan Green ←

シートシーケンス

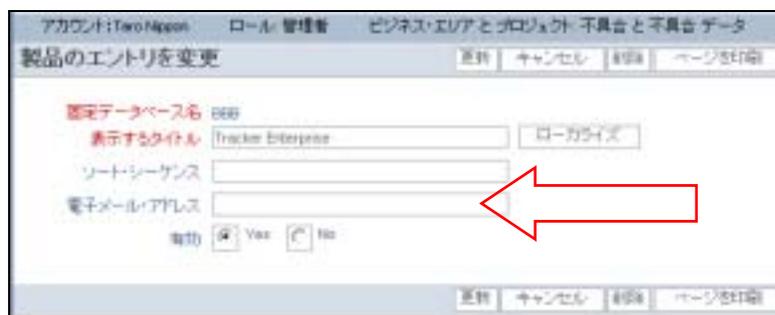
更新 キャンセル 印刷 ページを印刷

モジュール所有者の更新

3. 該当ユーザのリストをスクロールするか、ポップアップ・テキスト・ボックスから所有者を選択します。
4. [更新] ボタンをクリックします。

製品の電子メールアドレスを設定する

管理者は、特定の製品の電子メール・アドレスを設定して、その製品に関連付けられた ExtraView ユーザが製品関連の issue に関する自動電子メール通知を受信できるようにできます。これは、[Administration]メニューの [リスト] タブにある製品リストを使って行います。



アカウント: Two Nippon ロール: 管理者 ビジネスエリアとプロジェクト: 不具合と不具合データ

製品のエントリを変更 更新 キャンセル 印刷 ページを印刷

固定データベース名: 000

表示するタイトル: Tracker Enterprise ローカライズ

シートシーケンス

電子メールアドレス ←

有効: Yes No

更新 キャンセル 印刷 ページを印刷

製品の電子メール・アドレスの設定

電子メール通知の件名をカスタマイズする

ExtraView では、issue の挿入や更新が行われると自動的に送信される電子メールの件名を管理者がカスタマイズできます。

1. [Administration] メニューで **[電子メール通知]** タブをクリックし、**[電子メールの設定]** をクリックします。
2. 下へスクロールして、EMAIL_SUBJECT_TEMPLATE という動作設定を表示し、関連する **[Edit]** ボタンをクリックします。
3. 表示するフィールド名を入力します。電子メールの件名には、ExtraView で設定されている任意のフィールドを入れてカスタマイズできます。この値は、特定の issue に基づき動的に生成されます。
4. 電子メールの件名に値を入れる場合は、その値を“\$\$”で囲みます。普通の変化しない値を入力できます。以下の例をご覧ください。

| サンプル・テキスト | 件名の出力結果 |
|--|--------------------------------------|
| \$\$ID\$\$ - \$\$SHORT_DESC\$\$ | 12345 - リスト・エントリの問題 |
| \$\$ASSIGNED_TO\$\$ (\$\$PRODUCT_NAME\$\$; \$\$MODULE_ID\$\$) - これは電子メールです | rlloyd (製品 X; モジュール Y) - これは電子メールです |
| Issue # \$\$ID\$\$ - これは \$\$ASSIGNED_TO\$\$ に割り当てられます | Issue # 12345 - これは rlloyd に割り当てられます |

CC メールを有効にする

この機能を使うと、特定の issue に直接関係していない人たちに1回限りの電子メールを送信することができます。

この機能は、以下に示すセキュリティ権限設定によって制御します。システム内のユーザ・ロールごとに異なる設定を使用できます。

| セキュリティ・キー名 | |
|-------------------------------|---|
| [PR_RESOLUTION.CC_EMAIL] | [Issue の編集] 画面の [CC メール] 入力ボックスの表示/非表示を定義します。 |
| [PR_ADD_PROBLEM.CC_EMAIL] | [Issue の追加] 画面の [CC メール] 入力力ボックスの表示/非表示を定義します。 |
| PR_RESOLUTION.CC_EMAIL_BUTTON | [Issue の編集] 画面のユーザ・ポップアップ・ボタンの有無を制御します。このボタンを使って、メールを送信できる ExtraView のユーザのリストにアクセスできます。 |

| | |
|--------------------------------|---|
| PR_ADD_PROBLEM.CC_EMAIL_BUTTON | [Issue の追加] 画面のユーザ・ポップアップ・ボタンの有無を制御します。このボタンを使って、メールを送信できる ExtraView のユーザのリストにアクセスできます。 |
|--------------------------------|---|

CC メール機能を活用するには、[CC メール] フィールドに電子メール・アドレスを入力（カンマまたはセミコロンで区切る）してから issue を更新するか、はじめに人のアイコンをクリックして、リストから特定のユーザを選択します。お使いのインストールで ExtraView ユーザ以外のユーザに電子メールを送信できるライセンスを取得していない場合は、入力された電子メール・アドレスは登録済みかつ有効な ExtraView ユーザのものでなければなりません。また、issue にプライバシー・グループの制限がある場合は、名前、ID または電子メール・アドレスが入力されたユーザが issue を参照する権限を持っていないければなりません。



[追加] 画面および[編集]画面の電子メール通知

自動電子メール作成を無効にする

issue を追加または編集するたびに、[追加] および [編集] 画面の一番下にある [メールを生成] チェックボックスのチェックを外すことにより、すべての電子メールの作成を停止することができます。

これは、以下のセキュリティ権限キーによって制御されます。

| セキュリティ・キー名 | 説明 |
|-----------------------------|---|
| PR_RESOLUTION.EMAIL_SWITCH | [Issue の編集] 画面の [メールを生成] チェックボックスの表示/非表示を定義します。 |
| PR_ADD_PROBLEM.EMAIL_SWITCH | [Issue の追加] 画面の [メールを生成] チェックボックスの表示/非表示を定義します。 |



[追加] 画面と [編集] 画面の電子メール部分

外部ユーザへの電子メール作成を無効にする

顧客が issue に入力する必要があっても、その issue のあらゆるステータス変更をその顧客には見せたくないという状況がしばしば発生します。issue への追加や更新を行う際に、オプションで外部ユーザへの電子メールを停止することができます。

これは、次のような各ユーザ・ロールのセキュリティ権限キーによって制御します。

| セキュリティ・キー名 | 説明 |
|-------------------------------|--|
| PR_RESOLUTION.EMAIL_CUSTOMER | [Issue の編集] 画面の [通知リストに顧客ユーザを含める] チェックボックスの表示/非表示を定義します。 |
| PR_ADD_PROBLEM.EMAIL_CUSTOMER | [Issue の追加] 画面の [通知リストに顧客ユーザを含める] チェックボックスの表示/非表示を定義します。 |

[追加] および [編集] 画面の一番下に、次に示すような画面が表示されます。デフォルト設定では、外部ユーザに電子メールを送信しません。「顧客」という用語は、各サイトのゲストや顧客を表す名前に置き換えられます。



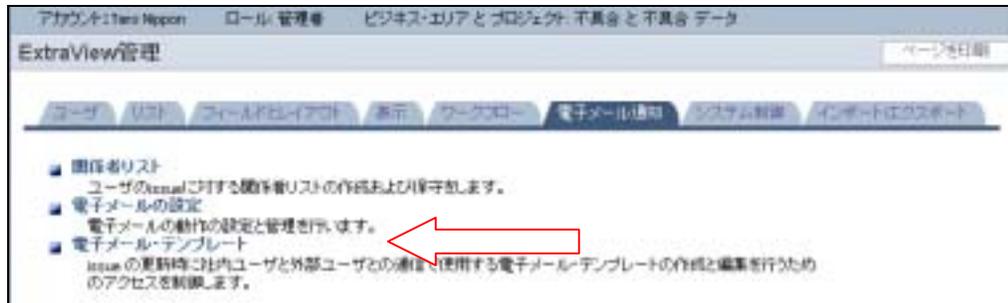
[追加] 画面と [編集] 画面の電子メール通知

外部ユーザも電子メールを受信できるようにする場合は、[通知リストに顧客ユーザを含める] チェックボックスをクリックして issue の更新を続行します。

電子メールテンプレート

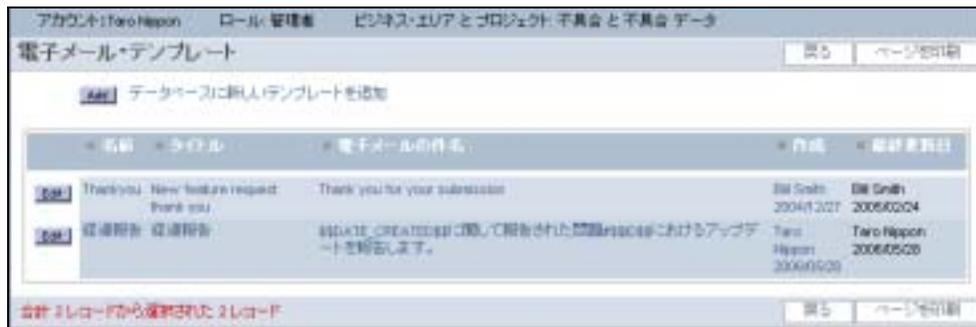
この機能を使用すると、管理者は確実に標準の返信が返ってくる電子メール通知用として、標準の電子メール・テンプレートを作成できます。例えば、ベータ・テスト・グループのメンバーが入力した複数の issue が製品チームにあり、解決策があれば必ずグループ・メンバーに標準の確認を送信できるようにする場合、この機能を採用できます。もう一つの例として、カスタマ・サポート担当者が、issue をレポートしている顧客への返信を、いくつかの標準の返信から選択できるということが挙げられます。このような返信により、issue の受信確認、顧客に対する issue 解決に向けての進捗状況報告、または issue が解決した旨の通知を連動して行うことができます。

[Administration] メニューの [電子メール通知] タブで、[電子メール・テンプレート] ボタンをクリックします。



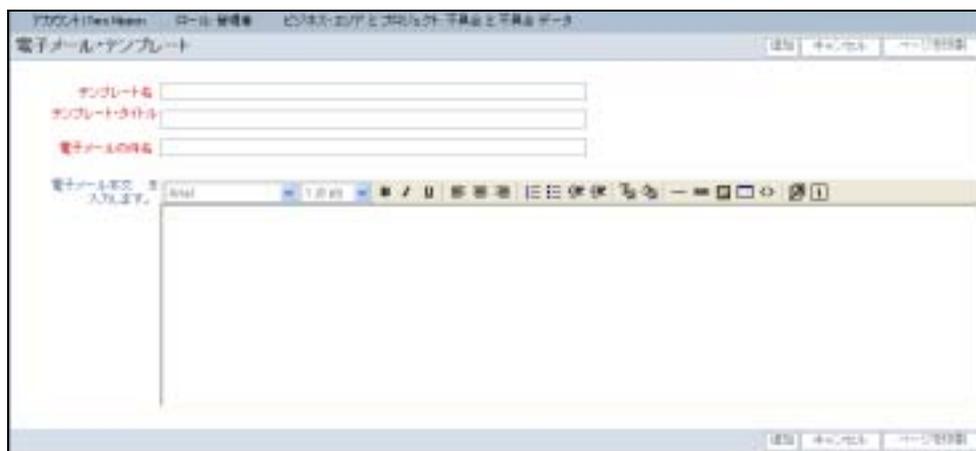
[Administration]メニュー画面

次の画面が表示されます。



[電子メール・テンプレート]画面

新しい電子メール・テンプレートを追加するには、[Add] ボタンをクリックします。使用しているブラウザが Internet Explorer の場合、HTML エリア・ユーティリティを活用した画面により、電子メール・テキストの入力が楽になります。その他のブラウザでは、HTML またはプレーン・テキストを入力するための、テキスト入力ボックスが表示されます。<HTML> ... </HTML>タグがない場合、ExtraView により追加されるため、電子メールは常に HTML 形式で送信されます。ユーティリティの詳細については、付録 F を参照してください。次の画面が表示されます。



電子メール・テンプレート追加画面

- テンプレートの名前を入力します。

- テンプレートのタイトルを入力します。
- 送信する電子メールの件名を入力します。以下で説明しますが、ここには電子メールを送信するときにフィールド値に置き換わるトークンを含めることができます。
- 送信する電子メールをテキスト・エリアで作成します。電子メールのテキストはプレーン・テキストでも HTML でもかまいません。

メールの件名および本文には、電子メールを送信するときに置き換えられるトークンを挿入することができます。これらのトークンは、メールの送信中に表示されているレコードのフィールドに関連付けられた値を表します。例えば、メールの issue ID を置き換える場合は \$\$ID\$\$ を使用します。issue ステータスを挿入するには、\$\$STATUS\$\$ を使用します。有効なトークンは、データ辞書フィールド名、データ辞書 UDF、および \$\$SYSDATE\$\$ です。

本文の例:

| |
|--|
| <p>\$\$CUSTOMER_NAME\$\$ 様</p> <p>\$\$DATE_CREATED\$\$ 付けで貴殿から報告のありました issue については、現在早急に対応しているところです。弊社の記録によると、貴殿からの issue の報告は以下の内容となっています。</p> <p>\$\$DESCRIPTION\$\$</p> <p>貴殿の報告に対する解決策が見つかり次第、ご連絡いたします。</p> <p>よろしくお願い申し上げます。</p> <p>\$\$OWNER\$\$</p> |
|--|

これが次のような電子メールとして出力されます。

| |
|--|
| <p>ブライアン・ジョーンズ様</p> <p>12/11/2002 付けで貴殿から報告のありました issue については、現在早急に対応しているところです。弊社の記録によると、貴殿からの issue の報告は以下の内容となっています。</p> <p>電源キャビネット内の一番上の装置は、電源をオフにして電気を遮断した状態にしなければ取り扱うことができません。このような変更は、機器の電源を切らなくても行えるのではないかと思います。解決策を教えてくださいませんか?</p> <p>貴殿の報告に対する解決策が見つかり次第、ご連絡いたします。</p> <p>よろしくお願い申し上げます。</p> <p>トニー・スミス</p> |
|--|

1. [Add] ボタンをクリックします。

2. issue の [編集] 画面から [電子メール] ボタンをクリックすると、テンプレートのドロップダウン・ボックスにテンプレートが表示されるようになりました。

注: メールアドレス というフィールドは、表示タイプがテキストである UDF フィールドとして使用できます。このフィールドは、レイアウトの際に設定できます。これは特殊な用途に使用します。編集画面からカスタム電子メール機能にアクセスして、アドホック電子メールまたは事前定義したテンプレートから作成した電子メールを送信するとき、ユーザはこのフィールドを使用して、メール送信先の電子メール・アドレスにデータを自動入力します。それによって、例えば issue をレポートするときに電子メール・アドレスを入力するユーザとの通信が簡単になります。このフィールドに保存された値は、自動的にアドレスを返します。

電子メール関係者リスト

関係者リストは、ある値またはフィールド値の組み合わせに対して作られ、ある issue の該当フィールドにその値が含まれる場合、1 人以上のユーザに通知されます。例えば、製品管理マネージャは、自身が関連する[製品]に関わるすべての issue の関係者リストを望むかもしれませんが、また、エンジニアリング管理者は、自動的に[重要度レベル]が critical になっているすべての issue を見たいと望むかもしれませんが。関係者リストは、フィールドの組み合わせに対して作成することができ、例えば、STATUS = オープン および CUSTOMER = ABC という基準で作成できます。

管理者およびユーザ (範囲は限定されます) が関係者リストを取り扱うことができます。issue 全体に影響する特別な関係者リストが 1 つあり、それは issue 内のどのフィールドの値にも依存しません。この場合、関係者リストのメンバーはその issue へのすべての変更について、通知を受け取るようになります。

issue ベースの関係者リストは、フィールド・ベースの関係者リストとは別に管理されます。

関係者リストはグローバルである場合と、ビジネス・エリアとプロジェクトの単一の組み合わせである場合があります。関係者リストはレイアウトやセキュリティ権限とは違い、継承されません。

フィールドの関係者リストを有効にする

関係者リストは、表示タイプがリスト、タブ、ポップアップ、ユーザであるフィールドで有効にすることができます。またエンドユーザは、セキュリティ権限キー PR_ADD_PROBLEM.INTEREST_LIST または PR_RESOLUTION.INTEREST_LIST に対する許可がユーザ・ロールに与えられている場合、issue の関係者リストを作成できます。フィールドの関係者リストはデータ辞書内で有効にします。

1. [Administration] メニューの [フィールドとレイアウト] タブで、[データ辞書] をクリックします。
2. ユーザ定義フィールドの関係者リストを有効にしたい場合、[UDF] タブをクリックします。ExtraView 組み込みフィールドの関係者リストを有効にしたい場合、[フィールド] タブをクリックします。

3. 下へスクロールして製品(PRODUCT_NAME)を表示し、この値の横にある[編集]ボタンをクリックします。

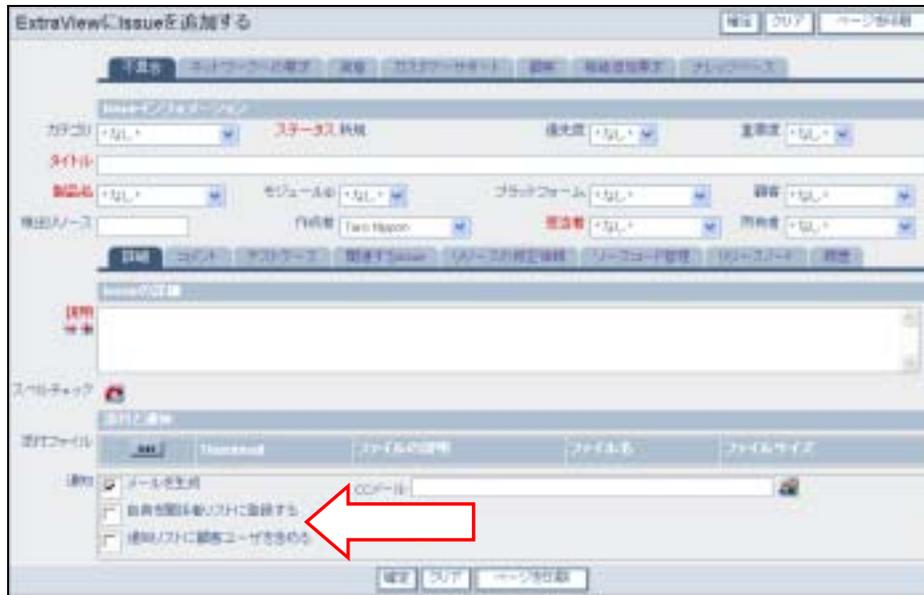
関係者リストを有効にするオプション

4. [電子メール関係者リスト] オプションの [Yes] ラジオ・ボタンにチェックを付けて、このデータ辞書エントリの関係者リストを有効にします。
5. 画面の一番下にある [更新] ボタンをクリックします。

Issue の関係者リストを作成する

追加画面および編集画面には、[自身を関係者リストに登録する] というチェックボックスがあります。このボックスをチェックすると、ユーザ自身をこの issue に対する関係者リストに参加させることができます。ユーザが既に関係者リストに参加している場合、チェックボックスのチェックを外すと、関係者リストから脱退することができます。

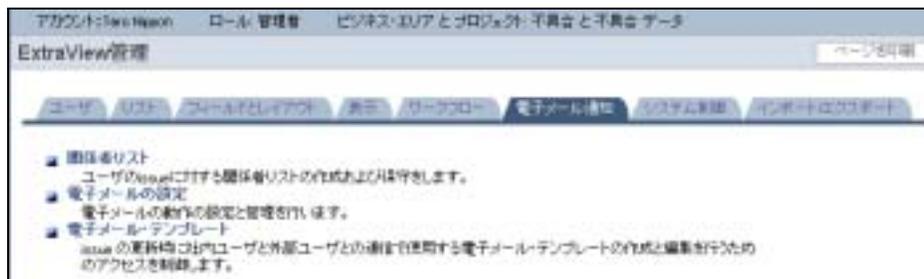
ユーザのパーソナル通知オプションにより、登録していた issue ベースの関係者リストからユーザ自身を脱退させることができますが、issueベースの関係者リストにユーザ自身を追加するには、issueを更新して[自身を関係者リストに登録する] のチェックボックスをチェックする方法しかありません。その理由は、大規模なインストールでは個々の issue ベースの関係者リストが数万件に及ぶ可能性があり、管理画面では制御できないためです。



issue の関係者リストへの参加と脱退

フィールド・ベースの関係者リストの管理

関係者リストはフィールドのデータ辞書の定義により、各フィールドごとに有効にすることができます。管理画面の[電子メール通知]セクションに、[関係者リスト] というメニュー項目があります。この管理機能は、セキュリティ権限キーのCF_INTEREST_LIST により制御されます。



関係者リストのアクセス

この権限キーに対する権限を、管理者ではないユーザに与えることができます。権限を与えると、そのユーザのパーソナル・オプション画面の[通知] セクションにプロンプトが表示され、そこからユーザが関係者リストを管理することができます。これによりユーザには管理者レベルの権限が与えられ、関係者リストの作成および削除、関係者リストへのユーザの追加および削除などの操作が可能となることに注意してください。

このメニュー・エントリを選択すると、次のような画面が表示されます。



関係者リストの定義

この画面から新しい関係者リストの作成、既存の関係者リストの変更、関係者リストに参加しているユーザのリストの管理を行うことができます。

新しい関係者リストを作成するには、[Add] ボタンをクリックします。すると次のような画面が表示されます。



新しい関係者リストの追加

作成する関係者リストをグローバルにしたい場合は、ビジネス・エリアおよびプロジェクトの値を [* 全体の関係者リスト *] に設定して作成します。関係者リストへの参加を、すべてのユーザに対して必須にするには、[ユーザは関係者リストに参加(から脱退)可能] のボックスをチェックしないでください。このボックスにチェックを入れると、ユーザが関係

者リストからの脱退をパーソナル・アカウント・オプション画面から行えるようになります。また、[有効] チェックボックスにより、関係者リストをシステムから削除せずに無効にすることができます。

関係者リストの評価基準に選択したフィールドが複数値リスト・フィールドである場合、その関係者リストに対しては単一の値しか選択できません。複数の値を選択する必要がある場合、複数の関係者リストを設定する必要があります。

関係者リストの構成条件は、フィールドがある値に等しい場合だけではなく、例えば、表示タイプがリスト、ポップアップ、タブであるフィールドには、フィールドが特定の値に(へ変更)、または特定の値から(から変更)変更された場合という条件で関係者リストを作成できます。以下のスクリーン・ショットは、その構成方法を示します。

| 関係者リストの演算子 | |
|------------|------|
| フィールド名 | カテゴリ |
| および | *選択* |

関係者リストのフィールドに対する演算子の設定

表示タイプがテキスト・エリア、ログ・エリア、テキスト・フィールド、出力テキストであるフィールドには **changed** 演算子がサポートされており、これを使用してユーザは変更されたフィールドのテキストに応じて関係者リストを設定することができます。

関係者リストの追加後、関係者リストの詳細画面にある[**List**]ボタンを使用して、リストに関連しているユーザを管理します。以下のスクリーン・ショットは、関係者リストのメンバーの表示方法と保守を行う場所を示します。



関係者リスト上のユーザ・リストの保守

新しいユーザを関係者リストに追加するには、選択リストから名前を選択し、[更新] ボタンを押します。リストからユーザを削除するには、名前の横にある[Delete] ボタンを押します。

注: 関係者リストに追加できるのは、ExtraView の正規のユーザだけです。ライセンス契約書の条項により、動作設定 LIMITED_USER_ROLE のみに属するゲストおよびその他のユーザを関係者リストに追加することはできません。

関係者リストとセキュリティ権限

あるユーザに対して有効なユーザ・ロールが変更されたり、あるフィールドに対してセキュリティ許可が変更されたりする可能性があることから、関係者リストの設定とその関係者リストに所属していると思われるユーザとの間には直接的な関係はありません。例えば、あるユーザが *any_field* というフィールドの関係者リストに属しているとします。特定のユーザの現在のロールがこのフィールドを参照する権限を持っていない可能性がありますが、*any_field* への参照を含む関係者リストに属しているかもしれません。

重要な点は、*any_field* の値が変更されるとユーザへの通知が生成されることがありますが、そのユーザがセキュリティ権限キーに対する権限を持っていないければ、フィールドやその内容を決して見ることができないことです。

また、EMAIL_NOTIFY_USERS_ALWAYS という動作設定があり、これを設定することにより、任意のユーザが参照可能なフィールドがissueの更新時に変更されない場合、そのユーザに対する通知を抑止できることを覚えておいてください。

個別のユーザに対する関係者リストの管理

ユーザまたは管理者により、個々のユーザに対する関係者リストのメンテナンスを行う方法に関しては、「ユーザ・アカウント・メンテナンス」のセクションを参照してください。

電子メール設定

ここまで詳細を説明したすべての電子メール設定を以下に示します。

| [電子メール] メニュー - [電子メールの設定] | 標準的な値 | |
|-------------------------------|--|--|
| [AD_HOC_EMAIL_FROM_ADDRESS] | | テンプレートまたはアドホック・テキスト入力を使用して送信されたすべての電子メールに、アドレスを返します。これらは、編集画面の [電子メール] ボタンを使用して送信された電子メールです。 |
| [AD_HOC_EMAIL_FROM_SENDER] | | 編集画面の [電子メール] ボタンを使用してテンプレートおよびテキスト電子メールを送信した、すべてのユーザのユーザ ID。ユーザの電子メール・アドレスは、ユーザのアカウント情報を基に決定されます。 |
| [CHECK_EMAIL_ADDRESS_FORMAT] | YES | この値を YES に設定すると、ユーザ・アカウント画面で入力された電子メールアドレスは、完全修飾による有効な形式であるか検証されます。NO に設定すると、電子メールアドレスの形式はチェックされません。 |
| [EMAIL_ADMINISTRATOR_NAME] | ExtraView Administrator | ExtraView 管理者の電子メール・アドレスまたはエイリアス。ExtraView で自動的に作成される電子メールは、この名前が送信元になります。例としては、ユーザの自己登録時、または権限のないアクセス時に送信される電子メールなどがあります。 |
| [EMAIL_ADMINISTRATOR_USER_ID] | admin@my_company.com | ExtraView から送信される電子メールの、送信先電子メール・アドレス。通常、これは、管理者の電子メール・アドレスまたは管理者のエイリアスになります。 |
| [EMAIL_BCC_ARCHIVE] | | テンプレートとアドホック電子メールのコピーが BCC として送信される電子メール・アドレス。 |
| [EMAIL_CHARSET] | UTF-8 | ExtraView サーバにより電子メール通知が送信される際、各ユーザが使用するデフォルト文字セット |
| [EMAIL_CONTACT_ADMINISTRATOR] | admin@my_company.com | ユーザが「パスワードをお忘れですか?」のリンクをクリックしたときにサインオン・ページから連絡する、管理者の電子メールアドレス。 |
| [EMAIL_CUSTOMER_BOX] | UNCHECKED | この設定では CHECKED または UNCHECKED を指定します。CHECKED を指定すると、LIMITED_USER_ROLE のユーザ (主に顧客) を制御する、追加画面および編集画面のチェックボックスが、デフォルトでチェックされます。 |
| [EMAIL_DIRECTORY] | /usr/local/extraview/BatchMail/mailbox | 送信されるメッセージが保存される電子メール・ディレクトリを指定します。これは、バッチメール・プロセスで、送信するメールをプロセスがサーバ上で特定する場所です。 |
| [EMAIL_FROM_USER_ID] | support@yourcompany.dom | ExtraView から送信されるすべての電子メールのアドレスを返します。これにより電子メールの受信者は電子メールに返信することができ、有効な宛先があることを認識できます。 |

| | | |
|------------------------------|--|--|
| [EMAIL_FROM_USER_NAME] | | 電子メールの送信元になる実際のユーザ名のエイリアス。送信される通知のヘッダ情報に挿入されます。 |
| [EMAIL_MODULE_OWNER_ALWAYS] | YES | issue に割り当てられているかどうかにかかわらず、電子メール・モジュールの所有者。有効な値は YES と NO です。 |
| [EMAIL_NOTIFICATION] | YES | 変更に関する電子メール通知のオン/オフを切り換えます。有効な値は YES と NO です。これは、電子メールの有効と無効を切り換えるマスタ・コントロールになります。NO に設定すると、ユーザの作成または編集の際に電子メールアドレスが必須ではなくなります。 |
| EMAIL_NOTIFY_USERS_ALWAYS | YES | この動作設定は、ExtraView が issue の更新時に常にユーザに通知するか、またはユーザとの交信に使用されるレイアウト上の 1 つ以上のフィールドが変更された場合にのみ通知を送るかを制御します。ユーザが必ず通知を受け取るようにしたい場合、この値を YES に設定してください。 ここで言う変更とは、更新する issue へのあらゆる変更ではなく、メール・レイアウト上にあるフィールドに変更が発生しなければならないことに注意してください。また、1 つのレコードに対して 1 分以内に複数の更新が発生し、ユーザのタイムスタンプに秒の単位が含まれていない場合、ユーザにはその 1 分間で最初に発生した更新のみが送られます。1 分以内に複数の更新通知を受け取ることが想定される場合、ユーザは、個人設定の日付形式に秒を含めるように設定することができます。 |
| [EMAIL_STYLESHEET] | * {font-family: Arial,Helvetica,sans-serif; font-size:10pt} .text {font-size : 10pt} .report_text {font-size : 10pt} | HTML 電子メールのスタイル。ユーザが電子メールを読む際にサーバにアクセスする必要があるように、これは送信される電子メール通知の本文に含められます。 EMAIL_STYLESHEET 内のエントリは完全な CSS であり、HTML の<style>...</style>タグの中に埋め込まれるため、ユーザはメール受信の際にオンライン状態である必要はありません。 ここにはグローバル形式、あるいはテキストまたはレポート・テキスト形式で有効な CSS を入力することができます。 |
| [EMAIL_SUBJECT_TEMPLATE] | ExtraView Notification [\$\$ID\$\$] : \$\$STATUS\$\$ - \$\$SHORT_DESCR\$\$ | 電子メールの件名行のフォーマット。\$\$ 記号間のトークンは、現在のレコードの実際の値によって置換されます。 |
| [GENERATE_EMAIL_BOX] | CHECKED | 追加画面および編集画面の [メールを生成] ボックスのデフォルト値。有効な値は CHECKED と UNCHECKED です。 |
| [SET_EMAIL_ENCRYPTION] | NO | アドホック電子メール画面の暗号化オプションを表示します。有効な値は YES と NO です。 |

ExtraView が issue のメーリング・リストを作成する方法

電子メール通知で使用するユーザのタイプは3種類あります。これらすべてのユーザについて、このセクションで説明する検証プロセスが適用されます。

1. **関係者リストのユーザ。** これらは関係者リストの条件および参加状態に基づいてメーリングリストに参加することが認められたユーザです。
2. **CCメールのユーザ。** これらは手動でCCメールボックスに入力された ユーザIDまたは電子メール・アドレスです。
3. **組み込みのユーザ。** 以下に示すユーザは組み込みのユーザであり、自動的にメーリングリストに参加することが認められます。それらのユーザは標準メール受信者とも呼ばれます。WEB-INFディレクトリにある Configuration.properties ファイルにおいてSUPPRESS_STANDARD_EMAIL_LIST = YES と設定することにより、このリストを抑止することができます。

データ辞書のフィールド名

```
OWNER  
ASSIGNED_TO  
CONTACT  
ORIGINATOR  
LAST_CHANGE_USER  
前の OWNER  
前の ASSIGNED_TO  
前の CONTACT  
前の ORIGINATOR  
リリース ASSIGNED_TO  
リリース OWNER  
モジュール ASSIGNED_TO  
UDF リスト OWNER  
動作設定 EMAIL_MODULE_OWNER_ALWAYS = YES の場合、モジュール・デフォルト OWNER
```

issue が作成または更新されたとき、ExtraView は上記のリスト内のユーザのうち誰に通知するかを決定します。電子メール通知を実行するルールは、EMAIL_CUSTOMER の設定が YES であるか NO であるかの基準に従って決定されます。その値は追加または編集の画面にあるチェックボックスから取得します。カスタム電子メールの場合、値は常に YES になります。

- Configuration.properties ファイル内のパラメータ SUPPRESS_STANDARD_EMAIL_LIST の値が YES であるか NO であるかをチェックします。
- 各ユーザの電子メール・アドレスおよび代替電子メール・アドレスが有効であることを、VALID EMAIL ADDRESS の値が YES であるか NO であるかによりチェックします。プログラムでは、各電子メール・アドレスに @ 記号があるか、また最後から3番目または4番目の位置に ”.” があるかをチェックします。有効なアドレスの例は、john@extraview.com や john@extraview.com.jp

などです。アドレスが無効である場合にも処理は停止しませんが、無効なアドレスは通知リストから除外されます。

- issueが各ユーザによって参照可能であるかどうかを調べるために、チェックが行われます。これは **PRIVACY GROUP TEST** に設定される PASS または FAILED の値になります。この試験は ExtraView によって実行されます。生成されるメールがカスタム電子メールである場合、結果は常に PASS です。issueのプライバシー・グループが PUBLIC または PRIVATE である場合、または試験対象ユーザが issue のプライバシー・グループに属している場合、基本的な試験結果は PASS になります。
- 試験対象ユーザのロールが調べられます。それは **USER ROLE CHECK** の値が PASS であるか FAIL であるかによりチェックします。動作設定 LIMITED_USER_ROLEが未定義または空白である場合、この値は常に PASS です。ユーザのロールがLIMITED_USER_ROLE で定義されているロールと同じである場合、結果は FAIL になります。
- ユーザに対する **RECEIVE NOTIFICATION AT PRIMARY ADDRESS** の値が YES であるか NO であるかがチェックされます。この値はユーザのパーソナル・オプションに由来します。これにより、通知が送信される初期アドレスが定義されます。
- ユーザに対する **RECEIVE NOTIFICATION AT ALTERNATE ADDRESS** の値が YES であるか NO であるかがチェックされます。この値はユーザのパーソナル・オプションに由来します。これにより、通知が送信される代替アドレスが定義されます。
- 次に、ユーザのパーソナル・オプション **RECEIVE NOTIFICATION ON OWN UPDATES** の値が YES であるか NO であるかがチェックされます。これにより、issue を挿入または更新しているユーザが通知リストから除外されるかどうかチェックされます。
- 最後に、動作設定 **EMAIL_MODULE_OWNER_ALWAYS** の値が YES であるか NO であるかがチェックされます。チェックにより YES が返されると、MODULE_ID フィールドに関連付けられたユーザIDが通知リストに追加されます。

これらのチェックの終了時には、ExtraView は通知対象のユーザのリストを取得しています。その後、それらのユーザを順番に見ていき、各ユーザ用の送信メールをロールおよびすべてのセキュリティ権限に基づいて作成します。

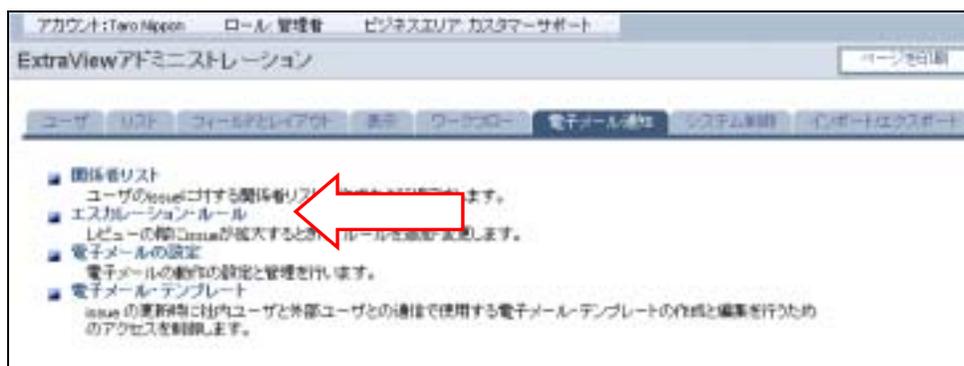
エスカレーションとエスカレーション・ルール

エスカレーションとは、ユーザが指定した時間ベースの評価基準に基づいてExtraViewが自動的に issue を調べ、その一定期間を超過した issue について警告を行うプロセスです。例えば、issue のステータス値が 作業中 から別のステータスに 24 時間以内に変更されなかった場合、その issue のエスカレーションを行いたいという要求があるかもしれません。

ExtraView のエスカレーションは `evescalation` という CLI コマンド(または同等の API コール)を定期的に行うことにより行われます。その実行方法は、`evescalation` コマンドを実行するサーバのオペレーティング・システムに依存します。例えば Linux、Solaris、UNIX のオペレーティング・システムの場合、`cron` 機能が使用されます。Microsoft Windows サーバの場合は `AT job` 機能が使用されます。詳しくは、『ExtraView コマンドライン・インターフェイスおよび アプリケーション・プログラミング・インタフェース・ガイド』を参照してください。

エスカレーション・ルールは指定されたステータスでの経過時間に基づいて issue を更新するために使用されます。issue の更新により通知メールが作成され、issue の所有者への通知が行われます。

エスカレーション・ルールの設定は、[エスカレーション・ルール]というタイトルの管理タブから実行することができます。



エスカレーション・ルール

エスカレーション・ルールはマスタ・エリアおよびマスタ・プロジェクトで定義してグローバルに設定するか、特定のビジネス・エリアおよびプロジェクトに定義することができます。エスカレーション・ルールは、ビジネス・エリアおよびプロジェクトの階層のなかでは継承されません。

初期設定

エスカレーション機能を使用するため、以下の 2 つの UDF が定義されています。

- `EV_ESCALATED_LAST`、日付フィールド
- `EV_ESCALATED_COUNT`、数値フィールド。

データ辞書において、[レポート上での選択を許可]と[フィルタ基準]の両方を YES に設定しなければなりません。さらに、escalation スクリプトで使用されるユーザの現在のユーザ・ロールに対して、これらのフィールドの読み取り許可と更新許可が設定されている必要があります。これらのフィールドはレイアウト上に表示されなくても構いません。新しい ExtraView のシステムでは、これらのフィールドには adminユーザ・ロールに対する読み取り許可および書き込み許可が設定されます。

また、エスカレーション・スクリプトを実行する ExtraView ユーザの日付マスクは、単純な日数の形式ではなく、時間の要素が含まれていなければなりません。

エスカレーション・ルールの作成と保守

初期設定の管理画面には、お使いのインストレーション内のすべてのエスカレーション・ルールの概要が表示されます。

エスカレーション・ルール



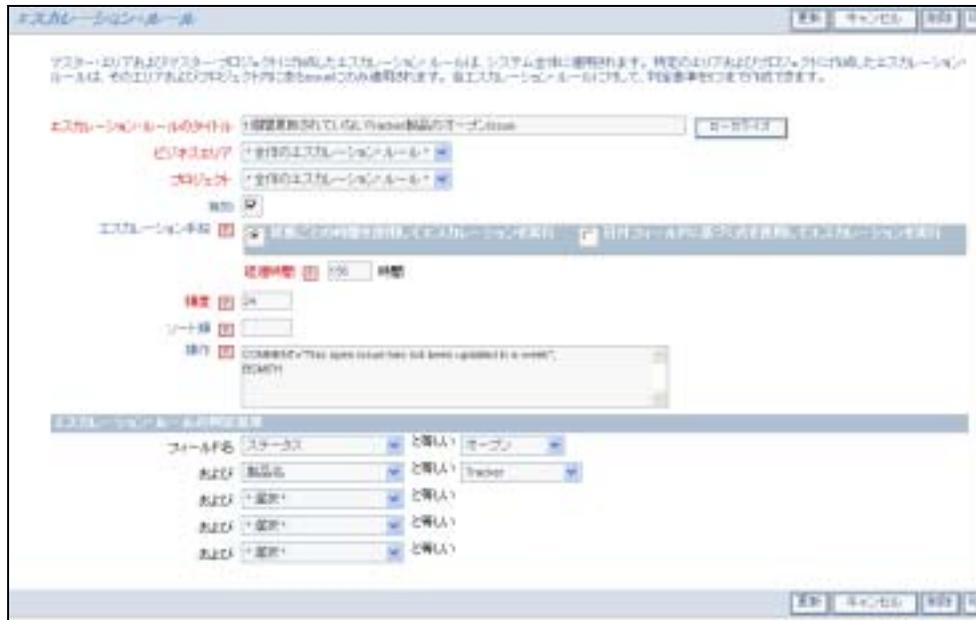
エスカレーション・ルールの管理

この画面から、新しいエスカレーション・ルールを作成したり、各エスカレーション・ルールに関連付けられたユーザのリストを管理することができます。また、エスカレーション・ルールがグローバルであるか、個々のビジネス・エリアやプロジェクトに対して実行されるかを確認することができます。

また、CF_ESCALATION_RULES に対する書き込み権限を持っている場合、そのユーザはすべてのグローバル・エスカレーション・ルールを参照することができ、それらのリストへの参加および脱退が可能です。特定のビジネス・エリアやプロジェクトの中で定義されているエスカレーション・ルールへの参加および脱退を可能にするためには、そのユーザが個々のビジネス・エリアおよびプロジェクトに対する書き込み権限を持っている必要があります。

エスカレーション・ルールの追加と更新

エスカレーション・ルールの **追加** または **編集** の際、次のような画面が表示されます。



エスカレーション・ルールの追加と更新

| フィールド | 用途 |
|-------------------|--|
| エスカレーション・ルールのタイトル | ルールに参加または脱退する際に管理者およびユーザに示される、エスカレーション・ルールのタイトル |
| ビジネス・エリアおよびプロジェクト | 定義するルールの範囲がグローバルの場合、これらを[* 全体のエスカレーション・ルール*]に設定します。特定のエリアとプロジェクトを選択すると、ルールは個々のエリアとプロジェクトにのみ適用されます。 |
| 有効 | これによりルールの有効と無効を切り替えます。 |
| エスカレーション方法 | issue は、そのステータスが変更されずに特定のステータスで留まっている時間数に基づいて、または当該 issue のエリアおよびプロジェクトの編集レイアウトにある日付タイプまたは日タイプのフィールド値に基づいて、エスカレーションを行うことができます。 |
| | <p>ステータス残存時間に基づくエスカレーション</p> <p>エスカレーションが行われる前に issue が特定のステータスに留まっている時間数。数値に小数点を使用して、1時間未満の時間を表すことができます。issue のエスカレーションに使用されるタイマーの作動の関係で、経過時間に達した後ただちに issue がエスカレーションされるわけではなく、タイマーの作動後、最初に経過時間に達したときにエスカレーションが行われます。このエスカレーション方法を使用するには、[状態ごとの時間を使用してエスカレーションを実行]をクリックします。</p> |
| | |
| | <p>ステータスに基づいたエスカレーションのための経過時間の設定</p> |

式に基づくエスカレーション

issue の編集レイアウトに含まれる日付フィールドの値にオフセットを加算または減算した値に基づいて、issue のエスカレーションを行うことができます。例えばある項目の期限日の 1 日前にリマインダを設定したり、ある項目が期限日に達するときにリマインダを設定したりすることができます。エスカレーションはユーザが作成したルールに基づいて、escalation スクリプトの起動時に実行されます。このエスカレーション・タイプを使用するには、ラジオボタンの[日付フィールドに基づく式を使用してエスカレーションを実行]をクリックします。



issue の日付フィールドに基づいたエスカレーション

オフセットは空白にすることもでき、その場合にはユーザが選択した日付フィールドの値に従って、次のスクリプト起動時にエスカレーションが行われます。また、オフセットには必要に応じて正または負の時間数を設定することができます。1時間単位でのみ指定可能であり、1時間未満の端数は使用できません。

| | |
|------------------|---|
| 頻度 | issue がエスカレーションされた後に、その issue が再びエスカレーションされるまでの経過時間。1時間単位でのみ指定可能であり、1時間未満の端数は使用できません。 |
| ソート・シーケンス | エスカレーション・ルールには 2 つの目的でソート順序が指定されます。1 つは、表示する際の順序に反映させます。ソート順序がない場合、ルールはアルファベット順に表示されます。より重要なもう 1 つの目的として、ルールはソート順序に従って実行されます。したがって、互いに衝突する複数のルールがある場合、順序が優先されるため、重要度の高いルールの順位を高く設定し、重要度が低いルールよりも先に実行されるようにしなければなりません。 |
| 操作 | これはフィールドへの値の割り当てを設定する場所であり、これらのフィールドがアクションに指定した新しい値に更新されます。アクションはセミコロンで区切られ、本書の「ビジネス・ルール」セクションで説明しているものと同じ構文ルールに従います。issue 内のフィールド値を変えずに、単にエスカレーション・ルールによってユーザへの通知を行いたい場合にはこのフィールドを空白にします。 |
| エスカレーション・ルール判定基準 | これらは特定の値のセット、および選択する任意の日付の値を得るために使用されるフィルタです。例えば、製品の値または issue の現在の優先度に基づいて特定の場合にのみトリガを起動するフィルタを設定することができます。 |

注: フィールドは EV_ESCALATED_LAST の 1 つだけです。このフィールドがすべてのエスカレーション・ルールで共有されます。最初に起動するルールによりこのフィールドが更新され、他のルールはおそらく起動しません。最初のルールだけでなく他のルールも起動させたい場合は、間隔を 0 に設定してください。それによりエスカレーション・エンジンが起動する度にルールが起動します。この動作は主にパフォーマンス上の理由から望ましくありませんが、問題を解決する方法の 1 つです。

注: 1つのルールに従って issue がエスカレーションされると、再びエスカレーションを行う際に同じ基準を満たさない可能性があります。同じステータスを使用する別の規則が起動されることがあります。しかし、以前の EV_ESCALATED_LAST の値により新しいルールが早く起動されてしまう可能性があります。この場合、ビジネス・ルールを作成して issue の更新時にEV_ESCALATED_LASTをクリアし、最初のルールが適用されないようにしてください。

エスカレーション・ルールの例

例 1

優先度=P1 および **ステータス=オープン** であるすべての issue について、ステータスが 4 時間以上変更されていない場合にエスカレーションを行います。**ステータス** および **優先度** が変更されない限り、その後 2 時間おきに issue のエスカレーションを繰り返します。エスカレーションの都度、該当する issue に所定のテキストが挿入された新しい コメント・フィールドを追加し、エスカレーション・ルールに属するすべてのメンバーに通知を送信します。

| フィールド | 値 |
|-------------------|---|
| エスカレーション・ルールのタイトル | すべての P1 およびオープンの issue をエスカレーション |
| ビジネス・エリア | マスタ・エリア |
| プロジェクト | マスタ・プロジェクト |
| 経過時間 | 4 |
| 頻度 | 2 |
| 有効 | チェックを入れる |
| 操作 | COMMENTS = “優先度が P1、ステータスがオープンのため、この issue はエスカレーションされません”; COMMENTS &= SYSDATE; |
| エスカレーション・ルール判定基準 | ステータス= オープン 優先度=P 1 |

例 2

重要度 が *High* であるすべての 不具合 issue について、**ステータス** が 2 時間以上変更されていない場合にエスカレーションを行います。**重要度** および **ステータス** が変更されない限り、その後 1 時間おきに issue のエスカレーションを繰り返します。エスカレーションの都度、エスカレーション・ルールに参加しているすべてのメンバーに通知メールを送信します。

| フィールド | 値 |
|-------------------|---|
| エスカレーション・ルールのタイトル | 重要度レベルが High で 2 時間以上経過しているすべての issue をエスカレーション |
| ビジネス・エリア | 不具合 |
| プロジェクト | 不具合 データ |

| | |
|----------------------|--|
| 経過時間 | 2 |
| 頻度 | 1 |
| 有効 操作 | チェックを入れる COMMENTS = “重要度レベルが High のため、この issue はエスカレーションされます”; COMMENTS &= SYSDATE; |
| エスカレーション・ルー ル判定基準 | 重要度=High; |

例 3

すべての P 2 のカスタマーサポート issue について、issue のステータスが **オープン** である場合に **due_date** という日付フィールドの値に基づいて、期限到来の 24 時間後にエスカレーションを行います。**優先度** に新しい値 **P 1** を設定します。

| フィールド | 値 |
|-----------------------|--|
| エスカレーション・ルー ルのタイトル | 作成後 1 日経過した P 2 のカスタマーサポート issue がま だオープンの状態である場合、エスカレーションを実行 |
| ビジネス・エリア | カスタマーサポート |
| プロジェクト | カスタマーサポート デフォルト |
| 日付フィールド | 期限日 |
| オフセット | 24 |
| 頻度 | 24 |
| 有効 操作 | チェックを入れる COMMENTS = “P 2 issue の SLA でこの issue を 24 時間 以内に処理しなければならないと規定しているため、この 顧客 issue は P 1 にエスカレーションされます”; PRIORITY = "P 1"; |
| エスカレーション・ルー ル判定基準 | ステータス= オープン |

ユーザが制御する通知機能

- ユーザ自身の更新通知を有効または無効にします。
- 受信電子メールの表示形式をテキストと HTML から選択します。
- テキストを受信する際の通知形式を全文と要約から選択します。
- 自動電子メール作成を無効にします。
- CC メール
- 顧客その他のユーザへ情報を送る際に、管理者が設定したテンプレートを使用して、事前定義した形式の電子メールを送信します。

注: 本書では、ユーザが制御する電子メール機能を管理者機能とともに説明します。この機能をおさらいしておくことで、ExtraView の電子メール機能をより確実に把握できます。

ユーザ自身の更新の通知

この機能により、個々のユーザは、issue を追加または更新するとユーザ自身に送られてくる自動電子メールを無効にすることができます。管理者がこのオプションをユーザに代わって適用することも可能です。

1. 個別のユーザとして、タイトル・バーにあるアカウント名をクリックし、アカウントの詳細を編集するか、[Administration] メニューの [ユーザ] タブで [ユーザ・アカウント・メンテナンス] オプションをクリックし、アカウントを変更したいユーザを編集します。そして[通知オプション]タブをクリックします。

次のような画面が表示されます。



[ユーザの詳細を変更] 画面

2. [ユーザ自身の更新を通知] ラジオ・ボタンをクリックして、オプションのオン/オフを切り替えます。
3. [ユーザを更新] ボタンをクリックします。

電子メール形式の選択

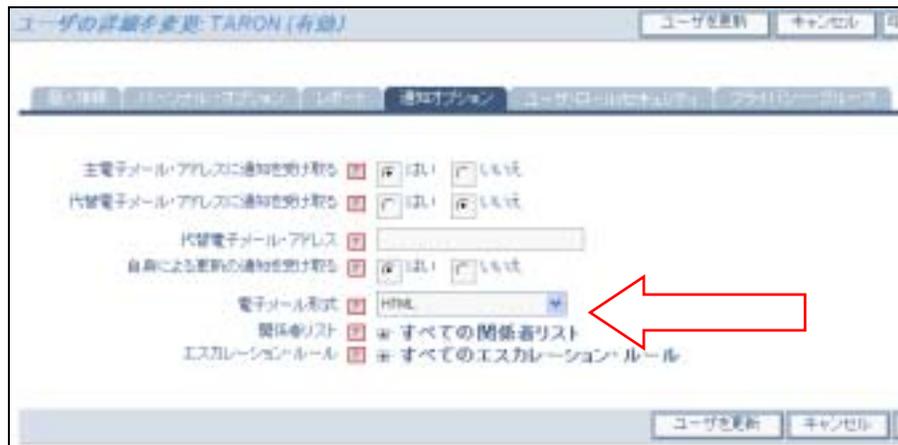
この機能により、個々のユーザは、受信通知の電子メールの形式をテキストと HTML のどちらかから選ぶことができます。管理者がこのオプションをユーザに代わって適用することも可能です。受信電子メールの表示形式を HTML、プレーン・テキスト(全文)、プレーン・テキスト(要約)、プレーン・テキスト(要旨)の 4 種類の形式から選択します。

| タイプ | 用途 |
|---------------|---|
| HTML | レイアウト EMAIL_FULL を使用して、HTML 形式で通知が送信されます。 |
| プレーン・テキスト(全文) | レイアウト EMAIL_FULL を使用して、プレーン・テキスト形式で通知が送信されます。 |

| | |
|---------------|--|
| プレーン・テキスト(要約) | レイアウト EMAIL_BRIEF を使用して、プレーン・テキスト形式で通知が送信されます。 |
| プレーン・テキスト(要旨) | 通知にレイアウトは使用されず、プレーン・テキスト形式のメールが送信されます。issue の追加または更新の操作により変更されたフィールドのみが表示されます。フィールド値が変更された場合、その前に * の文字が付けられます。フィールド値が挿入された場合、その前に + の文字が付けられます。 |

1. 個別のユーザとして、タイトル・バーにあるアカウント名をクリックし、アカウントの詳細を編集するか、[Administration] メニューの [ユーザ] タブで [ユーザ・アカウント・メンテナンス] オプションをクリックし、アカウントを変更したいユーザを編集します。そして[通知オプション]タブをクリックします。

次のような画面が表示されます。



[ユーザの詳細を変更] 画面

2. デフォルトの電子メール形式は、HTML です。電子メール通知を別の形式で表示したい場合は、電子メール形式のリストから希望の形式を選択します。
3. [ユーザを更新] ボタンをクリックします。

各種の電子メール形式の例を以下に示します。



Microsoft Outlook での HTML 形式の電子メール

```

送信者: "ExtraView" <system@ExtraView.com>
宛先: <ExtraView@ExtraView.com>
件名: ExtraView Notification [10409]: オープン - After rebooting the processor, the screen will s
日時: 2006年7月5日 19:52

ID #: 10409
作成日: 2006/07/04
最終修正日: [+]2006/07/05

カテゴリ:
作成者: Taro Nispon
最後の更新者: [+]Taro Nispon

タイトル: After rebooting the processor, the screen will show a wrong module

製品名: Tracker
優先度: P 4
重要度:

モジュールID:
担当者: [+]Chris Robinson
ステータス: オープン

オペレーティングシステム:
両機性:
顧客:

テストケース:

解決策:
ドキュメントの修正が必要: No

発信リリース:

説明: After rebooting the processor, the screen will show a wrong module

コメント:
ドキュメントへの影響:

cc: Bill Seith; Mary Brown; Taro Nispon

```

プレーン・テキスト (全文)

```

送信者: "ExtraView" <system@ExtraView.com>
宛先: <ExtraView@ExtraView.com>
件名: ExtraView Notification [10409]: オープン - After rebooting the processor, the screen will s
日時: 2006年7月5日 19:58

ID #: 10409

タイトル: After rebooting the processor, the screen will show a wrong module

作成日: 2006/07/04
最終修正日: [+]2006/07/05

製品名: Tracker
モジュールID:
ステータス: オープン

作成者: Taro Nispon
担当者: [+]Bill Seith

解決策:

説明: After rebooting the processor, the screen will show a wrong module

cc: Mary Brown; Bill Seith; Taro Nispon

```

プレーン・テキスト (要約)

注: これらの標準の電子メール形式は、レイアウト・エディタを使用してEMAIL_FULL レイアウトまたは EMAIL_BRIEF レイアウトを修正することにより変更できます。

電子メールによる Issue の追加

多くの組織において、社員や顧客から送信される電子メールを利用して、新しい issue を ExtraView にサブミットしたいという要望があります。ExtraView では、API コマンドの evmail によってこの機能が提供されています。このコマンドの使用に関して詳しくは、『ExtraView コマンド・ライン・インタフェースおよびアプリケーション・プログラミング・インタフェース・ガイド』を参照してください。

システム制御

概念

[システム制御] は、全体の設定や環境に影響する ExtraView 内での動作設定です。その設定は、次のセクションに分かれています。

- [セキュリティとセッションの設定] – システム全体の設定のタイミングとデフォルト。
- [環境設定] – システム上のリソースへの物理パス、および ExtraView にアクセスするための URL の情報
- [会社情報の設定] – 会社名、アドレス、連絡先の情報。
- [システム・ログ] – システム管理上の変更を誰がいつ行ったかを、管理者が診断できます。
- [アラウドロケール] – システム上でこのユーティリティが有効である場合、インストール内新しい言語のロケールを追加することができます。
- [シングル・サインオンとLDAP の設定] – ExtraView を SSO および LDAP サーバとともに動作するよう設定します。
- [API 設定] – API を経由して ExtraView にアクセスするときのデフォルト。
- [システムデバッグ&ユーザ・カスタム設定] – ユーザ・カスタム・コードへのアクセスを制御し、デバッグの有効/無効を切り替える動作設定
- [ExtraView API を使用するためのサーバ・サイドのテンプレートをアップロード] – 外部のウェブ・ページで使用するサーバ・サイドのテンプレートを作成する場合、このユーティリティによりサーバのファイル・システムにアクセスすることなくテンプレートをアップロードすることができます。
- [統計情報] – ExtraView 使用状況に関する主要な統計値
- [ExtraView バージョン情報] – サーバ・インストールの情報を表示
- [すべての動作設定] – ExtraView 全体のすべての動作設定へのアクセスを制御する唯一のメニュー
- [ExtraView ライセンス] – ExtraView のエンド・ユーザ・ライセンス契約書 (EULA)
- [システム・セキュリティ・キー] – インストール内のセキュリティ・キーの表示および作成を行います。セキュリティ・キーへの許可は[セキュリティ権限の付与]で行います。
- [システム・ログ・タイプ] – システム・ログ内に記録された項目のリストを保守します。
- [スタートページの管理] – ユーザが最初に ExtraView にログインしたときに直接移動できるページのリストを管理します。
- [管理タブのラベルを編集] – 管理画面のタブのラベルを編集できます。この機

能は、タブのラベルをローカライズする目的でのみ使用します。



システム制御の管理メニュー

セキュリティとセッションの設定

これらの動作設定では、セキュリティのアクセスおよびセッションの制限に影響する ExtraView へのアクセスを制御します。次のような設定があります。

| [システム制御] メニュー – [セキュリティとセッションの設定] | 標準的な値 | 説明 |
|-----------------------------------|-------|--|
| AUTO_SIGNOFF_ON_USER_EXIT | NO | YES または NO を指定して、ユーザが ExtraView の最後のウィンドウを閉じた場合、または別のサイトに移動した場合に、サインオフするかどうかを設定します。NO を指定すると、セッションの cookie が残り、ユーザはブラウザの [戻る] ボタンを押して、ExtraView のセッションに戻ることができます。YES を指定すると、ユーザが別のサイトに移動するか、または ExtraView のウィンドウを閉じると、ユーザのセッションが終了します。 |
| CACHE_COHERENCY_POLL_TIME | | 各アプリケーション・サーバ上にある更新されたキャッシュ済みメタデータ情報がチェックされる間隔を示す秒数。これは、複数のアプリケーション・サーバが同じ物理デー |

| | | |
|------------------------------|---------------------|---|
| | | <p>データベースにアクセスしている場合に使用されます。稼働しているアプリケーション・サーバが1台だけである場合には使用されません。</p> <p>値を入力しない場合のデフォルトは5秒間です。クラスタ化されたアプリケーション・サーバを伴うインストール上で頻繁にメタデータを変更するのであれば、あらゆるメタデータの変更が即座にすべてのアプリケーション・サーバに伝達されるように、この値を5秒に保つことをお勧めします。ほとんどメタデータを変更しない場合、またはメタデータはステー징・サーバ上でのみ変更され、その後本稼働サーバに伝達される場合は、この時間を延長してもよいでしょう。</p> |
| CLIENT_IP_ADDRESS_CHECK | YES | <p>YES または NO を指定して、セッション中にクライアント・ワークステーションが一定の IP アドレス を保持していることをチェックするかどうかを設定します。通常は YES に設定しますが、サーバがプロキシ・サーバによってアクセスされる場合は、NO に設定します。</p> |
| DEFAULT_TIMEZONE | America/Los_Angeles | <p>このタイムゾーンは、作成されたすべての新しいユーザのデフォルトとして使用されます。タイムゾーンのスペルが正しいことを確認してください。有効なタイムゾーンのリストについては、付録 C を参照してください。</p> |
| KEEP_FAMILY_SESSIONS_TIMEOUT | NO | <p>この動作設定を NO にすると、ExtraView で新しいセッションを開始する各ウィンドウで、SESSION_EXPIRE_TIME_HOURS に対する独自の測定基準が設定されます。YES に設定すると、すべてのウィンドウのすべてのセッションで、1 つの SESSION_EXPIRE_TIME_HOURS が共有されます。NO に設定すると、サーバの使用メモリが効率化されます。ただし個別のユーザが開くウィンドウ数が多すぎると、そのユーザについて、ExtraView で予期しないセッションのタイムアウトが発生する場合があります。</p> |
| MAX_SIGNON_ATTEMPTS | 3 | <p>個別のユーザが連続してサインオンを試みることができる最大回数。これを超えると、そのユーザのアカウントが無効になります。許可される失敗の回数は、SIGNON_PERIOD_MINUTES で定義される期間内で測定されます。ユーザのアカウントが無効化されると、ADMIN_OVERRIDE_ROLE で定義された管理者ロールをもつすべてのユーザにメールで通知されます。</p> |
| NOSPILL_SESSION_COUNT | 500 | <p>2 つの数値を指定して、任意のある時点でメモリが許容するセッション数を定義します。</p> <p>- SPILL_SESSION_COUNT - NOSPILL_SESSION_COUNT</p> <p>セッションは、ユーザからのログインに応じて、または以前に作成したセッションのサブセッションとして、メモリで作成されます。これらのセッションでは、メモリのリソースで、個別のユーザと ExtraView との対話のコンテキストが保持される必要があります。セッション数が多くなりすぎると、メモリなどのリソース消費量が過大になり、システムが連続して稼働することがむずかしくなります。そのため、あふれた古いセッションをディスクに移行させて、必要に応じて取り出すメカニズムがあります。</p> <p>メモリ内のセッション数が NOSPILL_SESSION_COUNT の数値以上になると、最も古い部類に入るセッションがデータベースに書き込まれ、メモリから削除されます。この場合、最も古いセッションとは、ユーザによって最も長い期間アクセスされていなかったセッションです。ディスクへのセッション・データの書き込みはバックグラウンドのタスクとして行われ、メモリ内のセッションの作成または使</p> |

用には直接影響しません。反応性に影響があるのは、セッションのシリアル化解除のために短い遅延を必要とし、データベースからメモリに再構成されるユーザのアクティビティによって、ディスク上のセッションが実行される場合だけです。

メモリ内のセッション数が SPILL_SESSION_COUNT の数値に達すると、メモリ内のセッション・キャッシュが満杯になり、新しいセッションのリクエストは、古いセッションがデータベースに書き込まれるまで待機しなければなりません。この場合、ユーザは、古いセッションが書き込まれ、メモリ内のセッション・スロットが使用可能になるまで待機する必要があるため、反応性に対する直接的な影響が発生します。多くの場合、この遅延は認識できません。

別の面から見ると、システムは任意の時点で常に次の3つの状態のうちの1つになります (N_SESSIONS は、メモリ内のセッション数を示す)。

1. あふれなし状態:

$N_SESSIONS < NOSPILL_SESSION_COUNT$

この状態では、データベースに書き込まれるセッションはなく、新しいセッションが直接メモリに作成されます。

2. あふれ状態:

$SPILL_SESSION_COUNT > N_SESSIONS \geq NOSPILL_SESSION_COUNT$

この状態では、バックグラウンド・タスクで最も古いメモリ内セッションがディスクに書き込まれ、新しいセッションが遅延なくメモリに作成されます。

3. 満杯状態:

$SPILL_SESSION_COUNT \leq N_SESSIONS$

この状態では、新しいセッションの作成リクエストは、少なくとも1つの古いセッションがディスクに書き込まれ、新しいセッション用のスロットが解放されるまで遅延されます。

どのような場合でも、 $NOSPILL_SESSION_COUNT < SPILL_SESSION_COUNT$ になります。動作設定がこの不変式に反する場合は、デフォルト値(480/500)が使用されます。

また、これらの動作設定は ExtraView の起動時に設定する必要があり、起動後に調べられることはありません。変更した設定を反映させるには、ExtraView アプリケーション・サーバを再起動する必要があります。

PASSWORD_RULES

0,0,0,0

PASSWORD_RULES は、4つの数値をカンマで区切って設定します。最初の数値は、ユーザのパスワードに含まれる最小限の文字数です。デフォルトは0で、パスワードは任意の長さで設定できることを示します。2番目の数値は、パスワード内の数字の最小限の文字数です。数字は0から9までの値を持ちます。デフォルトは0で、パスワードに数字を含める必要がないことを示します。3番目の数値では、大文字にしなければならない最小限の文字数を定義します。大文字はAからZまでの値を持ちます。(すべてのパスワードでは大文字と小文字が区別されます。)4番目の数値は、アルファベット以外および数値以外の文字の最小限の文字数です。これらは0から9、aからzおよびAからZの範囲に含まれない文字で、パスワードへの格納が有効であ

| | | |
|----------------------------------|------|---|
| REAUTH_REDIRECT_PARAM | | る文字です。2バイト文字は使用できませんが、-、=、+、!、@、#、\$、%などの文字は使用できます。 |
| REAUTH_URL | | ステータス署名による再認証の後、ExtraViewの移動先となるURLおよびパラメータです。 |
| SECURITY_CACHE_MINUTES | 30 | セッション・セキュリティ・キャッシュが行われるまでの分数。セキュリティ権限設定の変更に、このサイクルで設定が自動的に更新されるまで待てない場合は、一度サインオフしてからサインオンすることで更新されます。 |
| SESSION_EXPIRE_TIME_HOURS | 24 | ユーザに再ログインが要求されるまでの、セッションの最大アイドル時間を時間数で指定します。1時間未満の時間設定が必要な場合は、0.5などの小数を使用できません。 |
| SESSION_EXPIRE_TIME_HOURS | 24 | ユーザのセッションのデータが保持される、セッションの最大アイドル時間を時間数で指定します。 USER_EXPIRE_TIME_HOURSに設定された期間の後、ここで設定された期間の前にセッション期限が切れると、ExtraViewはユーザ・データのリストアを試みます。SESSION_EXPIRE_TIME_HOURSで指定された時間を超えると、データは失われます。この設定値が1分未満または0の場合、セッション・データはサーバが再起動されるまで永続的に保持されます。そのような設定は推奨されません。 |
| SESSION_WARNING_INTERVAL_SECONDS | 0 | この設定はSESSION_WARNING_TIME_SECSと共に作用します。ユーザのアイドル時間がセッション期限切れ前にSESSION_WARNING_TIME_SECSに達すると、画面上に警告メッセージが表示され、まもなくセッション期限切れとなることが通知されます。この警告はセッション期限が切れるまで、SESSION_WARNING_INTERVAL_SECONDSに設定した間隔で繰り返されます。ユーザがこの間に画面上のフォームをサーバにサブミットする何らかのアクションを実行すると、タイマはリセットされ、ユーザセッションはアクティブな状態に保たれます。設定値を0にすると、警告メッセージは繰り返されません。 |
| SESSION_WARNING_TIME_SECS | 0 | この設定はSESSION_WARNING_INTERVAL_SECONDSと共に作用します。ユーザのアイドル時間がセッション期限切れ前にSESSION_WARNING_TIME_SECSに達すると、画面上に警告メッセージが表示され、まもなくセッション期限切れとなることが通知されます。この警告はセッション期限が切れるまで、SESSION_WARNING_INTERVAL_SECONDSに設定した間隔で繰り返されます。ユーザがこの間に画面上のフォームをサーバにサブミットする何らかのアクションを実行すると、タイマはリセットされ、ユーザセッションはアクティブな状態に保たれます。設定値を0にすると、セッション期限が切れる前の警告メッセージは発行されません。 |
| SIGNON_PERIOD_MINUTES | 5 | パスワードが無効であるためにユーザがサインオンに失敗した場合は、この期間内にMAX_SIGNON_ATTEMPTSで設定されている回数までサインオンを試みることができます。ユーザのアカウントが無効化されると、ADMIN_OVERRIDE_ROLEで定義された管理者ロールをもつすべてのユーザにメールで通知されます。 |
| SPILL_SESSION_COUNT | 1000 | [NOSPILL_SESSION_COUNT]の項目を参照してください |

| | | |
|-----------------------------|----|--|
| SYSTEM_LOG_EXPIRE_TIME_DAYS | 30 | い。 これはシステム・ログ内およびユーザ・サインオン・ログにおいて、システムから消去される前に情報が保たれる履歴の日数です。デフォルトは 30 日間ですが、より長期にわたって情報を保持したい場合はこの値を増やすことができます。ログにアクセスするたびに古い情報は消去されますが、ログにアクセスする前にこの設定を変更した場合、情報は保持されます。 |
| USER_EXPIRE_TIME_HOURS | 8 | 説明 -- ユーザがコンピュータを使用していない期間、ExtraView へのサインインが持続する時間数。ある動作によりユーザがサーバにアクセスすると、ExtraView はそのユーザがまだアクティブであると判断します。ユーザのセッション期限が切れると、ExtraView はユーザに再度サインインするよう要求し、挿入または更新対象のデータのリストアを試み、ユーザが作業していた場所に誘導します。データのリストアは、SESSION_EXPIRE_TIME_HOURS で指定された期限内に限り有効です。そのため SESSION_EXPIRE_TIME_HOURS は常に USER_EXPIRE_TIME_HOURS の値以上に設定すべきです。設定値を 1 分未満または 0 にすると、セッションはタイムアウトしません。 |

セッション失効

セッションの失効は 2 段階で処理されます。ユーザがアイドル状態の場合 (つまり USER_EXPIRE_TIME_HOURS で定義された時間数の間、ブラウザからサーバにアクセスしていない場合)、次回のサーバ・アクセスの際に ExtraView からセッション期限切れのメッセージを受信します。ユーザがそのセッションで新しい issue の作成または既存の issue の編集を行っていた場合、ExtraView は、ユーザの最後のデータ入力以降にブラウザに保持されているすべてのデータのリストアを試みます。これは、ユーザがサインオンにより再認証された後に実行されます。

この機能では、サーバがアプリケーション・サーバのメモリ内にセッションを復元するために必要なすべてのデータを保持しなければならないため、負荷がかかります。非常に多数のユーザが作業する場合、メモリが満杯になる可能性があるため、SESSION_EXPIRE_TIME_HOURS により第二のタイムアウトが定義されます。この時間の経過後にユーザがセッションのリストアを試みると、データのリストアは行われず、通常のサインオンの際に表示されるページ (通常はホームページ) に誘導されます。

ユーザが [セッションの失効または削除] という警告を受けた場合、理由は次のうちの 1 つである可能性があります。

| 警告コード | 意味 |
|-------|--|
| RC1 | 最も考えられる理由は、管理者が [SESSION_EXPIRE_TIME_HOURS] の動作設定で割り当てた時間よりも、ユーザが長くアイドル状態にあったことです。そのため、ExtraView はユーザをシステムからサインオフしました。この状態は、ユーザが作業している最中に管理者がサーバを再起動することによっても起きる場合があります。 |
| RC2 | ブラウザによって返される cookie がサーバに保持されているセッションの cookie と一致しません。 |

| | |
|-----|--|
| RC3 | フォアグラウンドでセッションの有効期限が切れました。 |
| RC4 | セッションが管理者によって削除されました。これは、管理者が [Manage Connected Users] 管理機能を使用してユーザのセッションをキャンセルすると起こります。 |
| RC5 | セッション中にユーザの IP アドレスが変更され、[CLIENT_IP_ADDRESS_CHECK] が "YES" になっています。通常、ExtraView はセキュリティ目的で、ユーザの IP アドレスが一定であることを確認するチェックを実行します。ただし、ユーザの IP アドレスがなんらかの理由で自動的に変更されるネットワークにユーザが参加している場合は、このチェックを無効にできます。これは、プロキシ・サーバにより VPN 経由で会社のネットワークにアクセスする場合によくあります。 |

2つの動作設定、SESSION_WARNING_TIME_SECS および SESSION_WARNING_INTERVAL_SECS を使用して、セッション期限切れの警告を有効にすることができます。これらの設定により、ユーザにセッションの期限切れが近づいていることを警告することができます。

フローティング・ライセンスを占有するユーザの場合、セッション期限の失効はいくつかの設定(一部はオプション、一部は必須)により制御されます。2つの必須の設定を以下に示します。

| 動作設定 | 用途 |
|---------------------------|--|
| SESSION_EXPIRE_TIME_HOURS | これはフローティング・ライセンスを占有しているアイドル状態のユーザのセッション期限が切れるまでの期間を、時間数で示したものです。ユーザロック・ライセンスを占有しているユーザに対する期限とは異なることに注意してください。それらのユーザのセッション期限は、SESSION_NAME_EXPIRE_TIME_HOURS によって定義されます。USER_EXPIRE_TIME_HOURS に設定された期間の後、ここで設定された期間の前にセッション期限が切れると、ExtraView はユーザ・データのリストアを試みます。SESSION_EXPIRE_TIME_HOURS で指定された時間を超えると、データは失われます。この設定値が1分未満または0の場合、セッション・データはサーバが再起動されるまで永続的に保持されます。そのような設定は推奨されません。 |
| USER_EXPIRE_TIME_HOURS | ユーザがコンピュータを使用していない期間、ExtraView へのサインインが持続する時間数。ある動作によりユーザがサーバにアクセスすると、ExtraView はそのユーザがまだアクティブであると判断します。 |

ユーザのセッション期限が切れると、ExtraView はユーザに再度サインインするよう要求し、挿入または更新対象のデータのリストアを試み、ユーザが作業していた場所に誘導します。データのリストアは、SESSION_EXPIRE_TIME_HOURSで指定された期限内に限り有効です。そのため SESSION_EXPIRE_TIME_HOURSは常にUSER_EXPIRE_TIME_HOURSの値以上に設定すべきです。設定値を1分未満または0にすると、セッションはタイムアウトしません。

さらに詳細な設定を使用して、ユーザが実際にアイドル状態であるのか、あるいはユーザがブラウザを閉じて別のページに移動していたり、別の操作を実行しているために、サーバに保持されているセッション情報がもう必要とされない状態になっているのかを識別することができます。この機能は主として、USER_EXPIRE_TIME_HOURS の設定時間経過後、SESSION_EXPIRE_TIME_HOURS の設定時間に達する前の、管理者によるフローティング・ライセンスの配分の微調整を可能にするために、またユーザが必要のないときにライセンスを保持しないようにするために使用されます。基本原則として、リソースがサーバに保持されることをユーザが必要としている場合には、この期間そのユーザのライセンスは保持されますが、サーバ上にリソースを必要としない場合には、ライセンスは解放されます。ユーザが以下の機能のうち1つで作業中の場合、サーバ上にリソースが必要です。

- 追加画面
- 編集画面
- 項目の履歴画面
- 関連する Issue の更新画面

この機能では、クライアント・ブラウザとサーバとの間で一定間隔で通信を行うことによりユーザの状態が判定されるため、パフォーマンスの負荷が低く抑えられています。これらの情報のパケットがパフォーマンスに影響する可能性があるため、この機能は有効と無効を切り換えることができ、チェックを実行する頻度を管理者が決定することができます。

ユーザロック・ライセンスを使用している場合は、USER_TIMEOUT_SESSION_REMOVAL の設定を使用してこの機能を無効にすることをお勧めします。

| 動作設定 | 用途 |
|------------------------------|---|
| USER_TIMEOUT_SESSION_REMOVAL | この設定は、この機能の有効 / 無効を切り換えるために使用されます。値をYESにすると、ユーザが追加 / 編集画面モードのアクティブなセッションを持っていない場合、セッションはUSER_EXPIRE_TIME_HOURSの設定時間超過後にキルされます。NOにする |

| | |
|----------------------------------|--|
| <p>KEEPALIVE_INTERVAL_SECS</p> | <p>と、設定時間超過後もそれらのセッションはキルされません。ユーザのブラウザはSESSION_MONITOR_POLL_SECSの設定間隔でサーバによってチェックされ、ExtraViewセッションがアクティブ状態にあるか調べられます。クライアントは、サーバのこの情報をKEEPALIVE_INTERVAL_SECSの秒数の間隔で更新します。</p> <p>追加 / 編集画面からのポーリングの実行間隔を示す秒数。このタイマーを使用して、ユーザのブラウザからサーバにメッセージが送信され、サーバが追加または編集のセッションをオープンしているユーザを追跡することを可能にします。ユーザがブラウザを閉じるか、追加 / 編集のページから移動すると、サーバがこのイベントを認識することができます。</p> |
| <p>SESSION_MONITOR_POLL_SECS</p> | <p>ユーザのセッション期限切れによるセッションの削除を目的とした、サーバからの周期的なテストの実行間隔を示す秒数。サーバはユーザがまだオープン状態のセッションを保持しているかをこの間隔で調べます。この設定はUSER_TIMEOUT_SESSION_REMOVALがYESである場合に限り使用され、セッションがまだアクティブ状態にあることをKEEPALIVE_INTERVAL_SECSのタイマーによってユーザのブラウザがサーバに報告していない場合にのみ使用されます。</p> |

環境設定

環境設定には、[Administration]メニューの[システム制御]セクションからアクセスします。これらはインストレーションの基本属性です。初期インストールの完了後にこの設定を変更することはほとんどありません。



環境設定

利用可能な設定を以下に示します。

| [システム制御メニュー] - [環境設定] | 標準的な値 | 説明 |
|-------------------------------|----------|---|
| [APP_HOME] | | 値がシステムのデフォルト値でない場合のみ使用されます。これは ExtraView Java servlet へのパスになります。 |
| [ATTACHMENT_REPOSITORY_DMA X] | 999 | 外部のディレクトリ構造で1つのノード下に作成される、ファイルまたはディレクトリの最大数。デフォルト値は999です。通常はこの値を変更する必要はありません。 |
| [ATTACHMENT_REPOSITORY_OPT] | INTERNAL | この設定は、添付ファイルについて、内部的にデータベースに格納するか、外部的にファイル・システムに格納するか、またはその両者を組み合わせた方法で格納するかを制御します。設定値が INTERNAL である場合、すべての添付ファイルはデータベース内に内部的に格納されます。設定値が EXTERNAL である場合、すべての添付ファイルは外部のファイル・システムに格納されます。あるいは、ファイル拡張子をカンマで区切ったリストを指定して、それらの拡張子を持つすべてのファイルが外部的に格納され、他のファイルはすべてデータベースに格納されるように設定することもできます。例えば設定値を "avi.png.gif.jpg" とすると、これらのタイプのファイルが外部的に格納されます。この手法では、内部的にデータベースに格納されたファイルはキーワード検索が可能な状態に保たれ、画像ファイルおよびビデオ・ファイルは外部的に格納されます。デフォルト値は INTERNAL です。また、添付ファイルをデータベースの外部に保存する前に、動作設定 ATTACHMENT_REPOSITORY_ROOT が正しく設定されていることを確認してください。 |

| | | |
|------------------------------|----------|--|
| [ATTACHMENT_REPOSITORY_ROOT] | | 添付ファイルが格納されるファイル・システム上のディレクトリ名。添付ファイルが外部的に格納される前に、動作設定 ATTACHMENT_REPOSITORY_OPT を適切に設定しなければなりません。また、ExtraView が稼働しているアプリケーション・サーバからみてパスが有効であること、ストレージへの読み取り権限および書き込み権限があることを確認する必要があります。さらに、データベースをバックアップしても添付ファイルのバックアップは行われなくなるため、このストレージのバックアップ方法を別途設定しておく必要があります。 |
| [CSS_HOME] | | アクセス対象の画像セットに対して、動作設定の IMG_HOME で指定された組み込みの CSS スタイルシートをオーバーライドしたい場合にのみ使用します。ExtraView は IMG_HOME パス内の stylesheets/ というディレクトリで CSS スタイルシートを探し、この場所がスタイルシートの保存場所として最適であるため、通常この設定は使用されません。この設定に特定のパスを指定する場合は、ディレクトリ内に small.css、medium.css および large.css の 3 つのスタイルシートを用意する必要があります。 |
| [DEFAULT_ATTACHMENT_CHARSET] | UTF-8 | ExtraView にアップロードするファイルの、デフォルトの文字エンコード。新しいユーザの作成時に管理者に示す初期値を指定するために使用されます。 |
| [DEFAULT_LANGUAGE] | en | インストレーションでデフォルトで使用される言語。通常は、英語を表す EN です。 |
| [DEFAULT_REGION] | us | インストレーションでデフォルトで使用される地域設定。通常は、米国を表す US です。 |
| [DEFAULT_VARIANT] | | インストレーションでデフォルトで使用される別形式。通常は使用されません。 |
| [DOMAIN] | | cookie のドメイン。 |
| [ENABLE_AREAS] | YES | この設定により、インストレーションで複数のビジネス・エリアと単一のビジネス・エリアのどちらを扱うかを指定できます。値は YES または NO を指定します。 |
| [ENABLE_PROJECTS] | YES | この設定により、各ビジネス・エリアで複数のプロジェクトを実行できるかどうかを指定します。有効な値は YES または NO です。YES を指定した場合は、[ENABLE_AREAS] も YES に設定する必要があります。 |
| [HELP_HOME] | | デフォルトは null で、その場合 ExtraView はデフォルトのロケールの ../WEB-INF/locales/en_US/help を参照します。ローカライズ版のヘルプは別の locales/xx_XX ディレクトリの下に置くことができます。その場合、ExtraView はロケールが作成されていると見なし、自動的にディレクトリを探します。また、HELP_HOME に絶対 URL を設定することもできます。値が「http://」、https:// または「file://」で始まる場合、その url の下にヘルプファイルが格納される「help」ディレクトリがあると見なされます。 |
| [HTTP_CHARSET] | UTF-8 | ユーザのブラウザで使用されるデフォルトの文字セットの名前。これは「UTF-8」に設定することを推奨します。 |
| [IMG_HOME] | | 値がシステムのデフォルト値でない場合のみ使用されます。これは、images ディレクトリの、APP_HOME への相対パスになります。 |
| [LOCALIZE_TITLES] | NO | 管理画面のローカライズ・ボタンのオン/オフを切り換えるために使用します。ExtraView のユーザ・インタフェースで複数の言語を使用する場合に選択します。このオプションを YES に設定すると、別の言語にローカライズ可能なすべてのメタデータのタイトルと値の横に、[ローカライズ] というボタンが表示されます。有効な値は YES と NO です。 |
| [MS_OFFICE_CHARSET] | UTF-16LE | Microsoft Office 製品に送信されるレポート用のデフォルトの文字セット。デフォルト値は UTF-16LE です。この値は、MS Office の英語バージョン、およびその他のほとんどの各国語バージョンに適します。 |

| | | |
|----------------|----|--|
| [MULTI_LOCALE] | NO | <p>この値を NO に設定すると、ExtraView は動作設定 DEFAULT_LANGUAGE で指定した言語を使用する、単一ロケールのシステムとして動作します。YES に設定すると、管理者はシステムに言語ロケールを追加して、各ロケールに対しローカライズされたメッセージとメタデータを設定できます。</p> |
| [SITE_URL] | | <p>http://extraview.company_name.com など、サイトを示す完全な URL。この値の指定は任意です。値を指定しない場合、ExtraView では、会社のネットワークで使用される値、および外部に対して使用される値の 2 つの値が割り当てられます。ExtraView アプリケーション・サーバが初期化されると、この動作設定の値が参照されます。サーバを起動するリクエストを SSL セッションから受信した場合、内部で設定される 2 つの値は例えば次のようになります。</p> <p>サイトの URL: http://extraview.company_name.com/evj サイトの EXT URL: https://extraview.company_name.com/evj</p> <p>設定した値はアプリケーション・サーバ・ログで確認できます。</p> <p>サーバを起動するリクエストが標準の HTTP セッションから送信された場合は、2 つの URL が同じになります。管理者は状況によっては、異なる URL を設定する必要があります。その場合は、[SITE_URL] に URL を直接入力します。この設定が必要になる一般的な状況としては、ExtraView から受け取った電子メールに [Edit] ボタンがなく、URL が誤っている場合などがあります。Web サーバで転送設定を行っている場合には、これらの URL が異なっていることがあります。お使いの環境で SSL が使用されており、ExtraView にアクセスする URL が https:// で開始する場合は、電子メールやその他のリモート・アプリケーションからの参照が正しく機能するように、SITE_URL を https://extraview.companyname.com/evj に設定する必要があります。</p> |

会社情報の設定

[会社情報の設定] を使用して、管理者はユーザの企業名および所在地の詳細を設定できます。インストールのライセンスの詳細も表示されますが、それらは変更できません。これらの設定には、[Administration] の [システム制御] セクションの [会社情報の設定] という見出しのページからアクセスします。

次のスクリーン・ショットのような画面が表示されます。



[会社情報の設定]

設定できる動作設定は次のとおりです。

| [システム制御]メニュー-[会社情報の設定] | 標準的な値 | 説明 |
|------------------------------|-------|---|
| [COMPANY_NAME] | | 会社名 |
| [COMPANY_ADDRESS1] | | 会社の所在地 |
| [COMPANY_ADDRESS2] | | 会社の所在地(2行目) |
| [COMPANY_CITY] | | 会社の所在地(市区町村) |
| [COMPANY_STATE] | | 会社の所在地(県) |
| [COMPANY_ZIP] | | 会社の郵便番号 |
| [COMPANY_PHONE] | | 会社の電話番号 |
| [COMPANY_EMAIL] | | 会社の電子メール・アドレス |
| [ENABLE_COMPANY_NAME_ACCESS] | YES | この動作設定を YES (デフォルト値) に設定すると、ユーザの会社名が issue のプライバシー設定に優先し、会社名が同じである他のユーザが作成したすべてのレコードへのアクセスがユーザに許可されます。有効な値は YES と NO です。 |
| COMPANY_OVERRIDE_FIELDS | | この設定には、表示タイプがユーザであるフィールドの名前をカンマで区切ったリストが含まれています。それらは存在している必要があり、会社名のセキュリティ機能が作用するユーザが含まれていなければなりません。デフォルトでは、会社名のセキュリティは作成者フィールドに対してのみ機能します。この設定により、他のフィールドにもその機能が拡張されます。 |
| LICENSEE | | 当該インストールでのライセンス付与先の名前。このフィールドは読み取り専用です。 |
| LICENSE_METHOD | | フローティング・ライセンスのユーザが認証されている場合、これには CONCURRENT と表示されます。ユーザロック・ライセンスのみが使用されている場合、これには USER と表示されます。インストールにおいてユーザロック・ライセンスとフローティング・ライセンスの両方がサポートされている場合、値は MIXED と表示されます。このフィールドは読み取り専用です。 |
| NUM_CONCURRENT_USERS | | フローティング・ライセンスを占有できるユーザ数。この制限に達すると、新たなユーザは他のユーザがサインオフするまでサインオンできません。ADMIN ユーザのアカウントでは、サインオンおよび現在接続中のユーザの切断が可能です。このフィールドは読み取り専用です。 |
| NUM_LICENSE_USERS | | インストール内の個別のライセンスを占有できる、ユーザロック・ライセンスのユーザ数。ユーザを無効にしてライセンスを解放することができます。このフィールドは読み取り専用です。 |

システム・ログ

システム・ログにより管理者は、ユーザのサインオンおよびサインオフを除く、全ユーザによるすべての重要なメタデータ・トランザクションを識別することができます。サインオンとサインオフの操作については、[Administration]メニューの[ユーザ]タブにある ExtraView サインオンログから確認できます。またこの機能により、アプリケーション・サーバのログ・ファイルへのアクセスも提供されます。システム・ログにアクセスする際、フィルタを指定することができます。

デフォルトを選択すると、前月における全ユーザの全エンTRIESを示すリストが表示されます。ログ・エンTRIES・タイプ(サインオン、サインオフ、サインオンの失敗)や単一のユーザ、日付の範囲によるフィルタリングが可能です。

このオプションは管理画面の [システム制御] セクションにある、[システム・ログ] という見出しの下にあります。



システム・ログへのアクセスにおいてフィルタを指定する

システム・ログのサンプル画面を以下に示します。ログエンTRIES#、日付、ユーザID、タイプ、ログエンTRIESのうち任意の列でリストをソートすることができます。ヘッダをクリックして、列をソートしてください。矢印が付いている列が現在ソートに使用されている列です。現在選択されている列をクリックすると、再度レポートが昇順ではなく降順でソートされることに注意してください。

| ログ・エンTRIES # | 日付 | ユーザID | タイプ |
|--------------|------------|--------|-------------------------------------|
| 101866 | 2008/04/01 | 100006 | License Binding APPLICATION_DEFAULT |
| 101870 | 2008/04/01 | 100006 | License Binding APPLICATION_DEFAULT |
| 101870 | 2008/04/01 | 100006 | License Binding APPLICATION_DEFAULT |
| 101868 | 2008/04/01 | 100006 | License Binding APPLICATION_DEFAULT |
| 101869 | 2008/04/01 | 100006 | License Binding APPLICATION_DEFAULT |
| 101869 | 2008/04/01 | 100006 | License Binding APPLICATION_DEFAULT |
| 101868 | 2008/04/01 | 100006 | License Binding APPLICATION_DEFAULT |
| 101868 | 2008/04/01 | 100006 | LICENSE_ACCEPTANCE |
| 101874 | 2008/04/01 | 100006 | License Binding APPLICATION_DEFAULT |

ExtraView サインオン・ログ

ログ・エンTRIESには、ExtraView データベースの更新に使用された実際のSQLが表示されます。SQL文には一連の疑問符(?)が含まれていることに注意してください。これらの疑問符は、実行時にはパラメータ・リストから取得した値に置き換えられます。

システム・ログの増大に対して制限がない場合には、ログが長期にわたって膨大なサイズに増大し、価値のなくなった情報が保持される可能性があります。SYSTEM_LOG_EXPIRE_TIME_DAYS という動作設定により、情報がログに保持される期間が制御されます。この期間のデフォルトは30日間ですが、管理者により変更することができます。ExtraView 内部のシステム・タスクによって、設定期間より古いサインオ

ン・ログ・メッセージは一時間おきに削除され、非常に長い時間を要するタスクが蓄積されないようにしています。

アプリケーション・サーバのログ・ファイルのコピーを参照したい場合は、[システム・ログ]画面の[アプリケーション・サーバ・ログを見る]というボタンを押します。これにより、新しいウィンドウにログ・ファイルの内容が表示されます。このファイルは非常に大きい可能性があり、このウィンドウへのダウンロードにある程度の時間を要する場合があります。このファイルはサーバのファイル・システム上のエディタで直接閲覧する方が便利かもしれませんが、このボタンは、セキュリティ権限キーのCF_VIEW_APP_SERVER_LOG に対する読み取り権限を与えられている場合にのみ、システム・ログ管理画面に表示されます。

アラウドロケール

この機能により、ユーザ管理画面の[言語]プロンプトからユーザが選択可能なロケールを定義することができます。このオプションを管理画面に表示するには、MULTI_LOCALEという動作設定をYESに設定し、CF_ALLOWED_LOCALESというセキュリティ権限キーに対する読み取り/書き込み権限がそのユーザに付与されていなければなりません。

この機能に最初にアクセスする際、設定されているロケールのリストが表示されます。[Edit] ボタンを押してこれらの設定を変更するか、新しいロケールを追加することができます。



利用可能なロケールのリスト

新しい言語パッケージを追加すると、ユーザはすぐにその言語に切り替えられますが、その言語にローカライズされたメッセージが存在しない場合があります。[システム・メッセージおよびプロンプトを翻訳]を使用するか、[ローカライズ] ボタンを使用して、定義した新しい言語によるメッセージを登録することができます。

新しいロケールを追加すると、メッセージをその言語に翻訳できるようになるだけではありません。すべての日付形式やその他のロケール固有の機能で異なるデフォルトを使用できるようになります。例えば、デフォルト・ロケールが en_US (アメリカ英語)の場合、新規にイギリス英語のロケール en_GB を追加すると、デフォルトの日付形式は米国のユーザが通常使う従来の形式ではなく、英国のユーザが通常使う形式になるでしょう。

ローカライズ版のメッセージが存在しない場合、またはプログラムに特定言語にローカライズしたメッセージが記述されていない場合、ExtraView は動作設定 DEFAULT_LOCALE で指定された言語を表示します。通常、これは en_US です。英国などの国のユーザはローカライズ版のメッセージをいくつか置き換えて、アメリカ英語のつづりを除去することができます。

注: ExtraView データベースの MULTI_LOCALE を YES に設定してテキスト・メッセージを変更した後に、設定値を NO に変更しないでください。変更すると、複数のロケールでテキストが表示されることがあります。

システム・メッセージとプロンプトの翻訳

このオプションが有効な場合、エンド・ユーザはパーソナル設定として、操作時の言語を選択できます。ローカライズしたメッセージを入力し、保持できる基本エリアが 3 つあります。

- すべてのシステム・メッセージおよびプロンプトを含む ExtraView のユーザ・インタフェース。一般に、これらのメッセージは ExtraView のすべてのインストレーションで共通です。例えば、ExtraView ソフトウェアからの通知メッセージやエラー・メッセージなどです。
- 管理者が提供するメタデータ値。これはインストレーションごとにローカルなものです。例えば、管理者が所属する組織全体で使用する各ステータス値のタイトルを英語で作成し、それをフランス語、ドイツ語、日本語にローカライズする場合は、該当する翻訳を挿入できます。
- ユーザが提供するメタデータ値。これはインストレーションごとにローカルなものです。例えば、ユーザが所属する組織全体で使用するレポートのタイトルを英語で作成し、それをフランス語、ドイツ語、日本語にローカライズする場合は、そのユーザが別のユーザが該当する翻訳を挿入できます。

これらのローカライズ・エリアは独立しており、互いに排他的に使用できます。

ローカライズ版の画像をサーバにインストールすることも可能です。詳しくは『初期設定および構成』のセクションを参照してください。

注: 特定の用語やメッセージが特定の言語に翻訳されていない場合、ExtraView はその項目をデフォルトのロケールで表示するように選択します (通常はアメリカ英語)。これは、例えばイギリス英語にローカライズする場合、アメリカ英語とスペルが異なるメッセージやメタデータを翻訳するだけの作業で済むので便利です。

注: ユーザの言語設定がどのようになっているにも、ユーザの文字セットやブラウザが必要なサポートを提供していれば、データの入力や更新に任意の言語を使用できます。このため ExtraView では、Oracle データベースのインストールで使用するデフォルトの文字セットは UTF-8、Microsoft SQL Server データベースの文字は UCS-2 を使用することを推奨しています。

注: ローカライズを実行する前に、使用しているブラウザが UTF-8 の文字セットを使用するように設定されているかを確認してください。これを怠ると、以前に保存したアクセント記号付き文字や全角文字を含むメッセージが壊れてしまう可能性があります。ブラウザが適切に構成されているかどうか不明な場合は、データベースのバックアップを取ってから作業を開始してください。

ExtraView のメタデータやプロンプトを他言語にローカライズする際、テストは非常に重要な作業です。本稼働環境への導入を行う前に、自分の行った作業を徹底的にチェックしてください。

アクセント記号付き文字をローカライズ・システムに入力する

前述したように、ブラウザでは UTF-8 文字セットを使用するように設定します。

ただし、文字を入力する際に注意するいくつかの問題が残っています。最も問題となる文字は、引用符 (‘) と二重引用符 (“) です。その理由は、これらの文字がコンピュータ・プログラム内で、ユーザ・インタフェースへ送られる文字列値を指定するのにしばしば使用されるからです。例えば、次の文

```
document.write(‘Today is Wednesday’)
```

が JavaScript 機能により画面に書き込まれます。これをフランス語に翻訳すると、次のように表示されます。

```
document.write(‘Aujourd'hui est mercredi’)
```

テキストの途中に付け加えられた引用符は、ブラウザが文字を表示するときに構文エラーを発生します。このため、引用符の文字の値を次のように置き換える必要があります。

```
document.write(‘Aujourd&#39hui est mercredi’)
```

または

```
document.write(‘Aujourd&#x27hui est mercredi’)
```

最初の方法では引用符の 10 進値を、2 つ目の方法では 16 進値を使用しています。

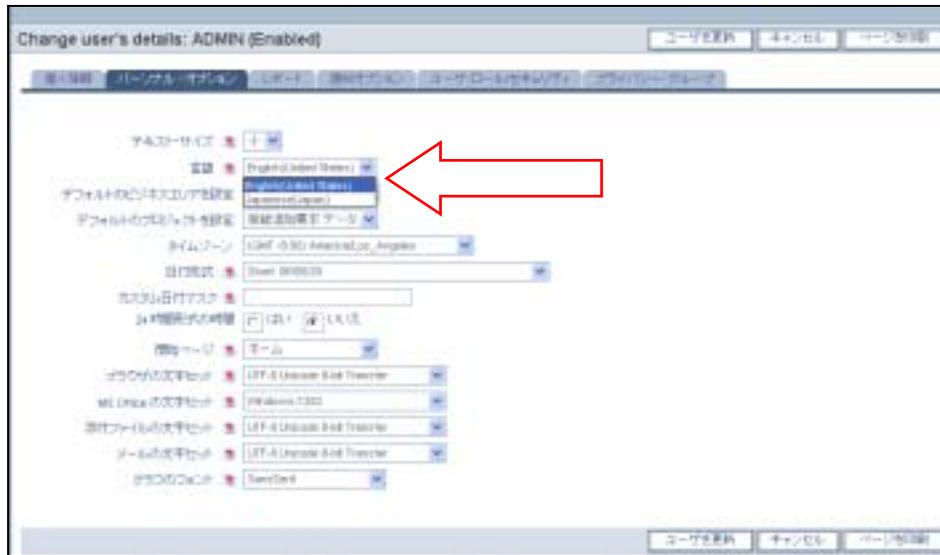
同じ原則がすべての文字に適用されます。付録 E の文字のリストに、それぞれの 10 進値と 16 進値を記載していますので参照してください。ちなみに二重引用符は次のような形になります。

```
&quot;
```

エンドユーザの言語選択

個々のユーザは、アカウント・オプションを更新することによって使用言語を選択できます。各画面の一番上にあるタイトル・バーから、[アカウント:] リンクをクリックしてパスワードを入力し、[パーソナル・オプション] タブをクリックすると、次のような画面が表示されます。

[言語] のプルダウン・リストに、そのインストレーションで使用できる言語が表示されます。言語を選択すると、アカウントが更新され、すべてのシステム・メッセージ、プロンプト、およびメタデータの表示にその言語が使用されます。



ユーザ・アカウント画面

システム・メッセージとプロンプトの翻訳

この機能には、[Administration] の [システム制御] タブにある [システム・メッセージとプロンプトの翻訳] からアクセスします。このリンクを選択すると、次のような画面が表示されます。



翻訳する言語の選択

ローカライズする言語を選択して画面を更新すると、次のように表示されます。



メッセージのローカライズ画面

すべてのメッセージを表示するか、未翻訳のメッセージのみを表示するかをラジオ・ボタンで指定できます。これにより、すべてのメッセージを参照する代わりに、ローカライズしていないメッセージに絞り込むことができます。

翻訳元の言語のメッセージがアルファベット順に表示されます。任意のメッセージまたはプロンプトを編集してから、画面の下にある[更新]ボタンをクリックします。

- メッセージには、次のようにカッコで囲んだ数字が 1 つ以上含まれていることがあります。

Add entry to the {0} for {1}

カッコで囲んだ数字は、ローカライズしたメッセージから削除しないでください。カッコで囲んだ数字は、ローカライズしたメッセージのどこに置いてもかまいません。

- 次のような HTML 形式のタグがメッセージ内にある場合、

<i>ExtraView</i> は cookie が存在しないと正しく機能しません。 .

HTML タグは任意で変更可能ですが、そのままにしておくことをお勧めします。

メタデータ値の翻訳

ExtraView のインストレーション内でローカライズを有効にすると、管理セクション内のタイトルでローカライズ可能なすべてのタイトルに [ローカライズ] という新しいボタンが表

示されます。例えば、リストの付いている項目のタイトルがローカライズ可能であれば、データ辞書内のタイトルもローカライズできます。

繰り返しますが、ある値に対してローカライズした値を提供しない場合、ExtraView はデフォルト・ロケールの言語に表示を戻します。通常はアメリカ英語です。

例えばステータス値を編集すると、画面は次のように表示されます。

メタデータの [ローカライズ] ボタン

[ローカライズ] ボタンを初めてクリックすると、次のような画面が表示されます。

メタデータのローカライズ

この値に対するローカライズがまだ完了していないので、すべての対応言語の値も「Open」と表示されています。日本語の値に編集すると、次のような画面が表示されます。

日本語のステータス値の作成

ローカライズしたステータス・フィールドの値をすべて編集し終わると、この値の画面は次のように表示されます。



ローカライズが完了したステータス値のテキスト

LDAP サーバとシングル・サインオン・サーバ

ExtraView は、Lightweight Directory Access Protocol(LDAP)サーバと Single Sign On (SSO)サーバの両方で機能するように構成できます。

これらの機能を設定する際、LDAP(および必要であれば SSO も)の管理を習熟している人に問い合わせることを強くお勧めします。

LDAP サーバに直接接続することも、SSO 経由で LDAP サーバに接続することも可能です。一般に、LDAP サーバのみを構成するよりも、LDAP サーバと SSO サーバを組み合わせて構成する方が少し簡単です。

このセクションでは、まず ExtraView を SSO と LDAP の両方に接続する方法を説明した後、SSO を介さずに LDAP と直接接続する方法を説明します。

LDAP も SSO も ExtraView の構成要素ではなく、ExtraView との統合が可能な別のアプリケーションです。LDAP および SSO には多くの「種類」や実装方法があり、それらを個々の組織ごとにさまざまな方法で構成することができます。ExtraView は LDAP および SSO への接続と使用が可能ですが、多くの場合、構成はインストールごとに異なっています。ExtraView のプロフェッショナル・サービス・チームが ExtraView と LDAP / SSO サーバとの統合を支援することは可能ですが、それは標準のインストールの一部ではないため、別途サポート料金が発生する場合があります。

ExtraView の動作設定

LDAP と SSOを有効にするには、次の動作設定を正しく設定します。

| 動作設定 | 説明 |
|-------------------------|--|
| [CUSTOM_AUTHENTICATION] | 組み込みのユーザ認証方式ではなく、カスタマイズされた認証(LDAP または SSOなど)が使用されます。YES に設定すると、ユーザカスタム・ルーチンによって ExtraView ユーザの認証が行われます。NO に設定すると、ExtraView に組み込まれている標準の認証方式が使用されます。簡潔に言うと、ユーザカスタム・ルーチンは TRUE を応答として返すだけで、それ以上の認証サービスを提供しませんが、必要な特定の認証を実行するようプログラムできます。 |
| [LDAP_DEFAULT_AREA] | LDAP サーバから詳細を取得して新しいユーザを追加する場合に設定される、デフォルトの area_id。 |
| [LDAP_DEFAULT_PROJECT] | LDAP サーバから詳細を取得して新しいユーザを追加する場合に設定される、デフォルトの project_id。 |
| [LDAP_HOST] | LDAP サーバの URL (ldap://blah.com:389 など)。 |

| | |
|--------------------|---|
| [LDAP_PSWRD] | LDAP サーバへのパスワード。 |
| [LDAP_ROOT] | LDAP サーバまたは検索ベースのルート・ディレクトリ(ou=blahWorker, o=blah.com など)。 |
| [LDAP_USER_LOOKUP] | この動作設定を YES に設定すると、あるユーザが別のユーザの詳細を検索した場合、ExtraView では必要な情報が LDAP サーバから取得されます。これと同時に、ExtraView 内のユーザが取得する情報は、LDAP レコード内の情報と同期がとられます。 |
| [SSO_STATE] | このインスタンスでシングル・サインオンと LDAP を有効にします (YES/NO)。 |

シングル・サインオン (SSO) 接続

シングル・サインオン機能を使用すると、別のアプリケーションがExtraViewへのユーザ・アクセスを制御することができます。ExtraViewの動作設定によってこの機能を有効にすると(上記を参照)、SSO アプリケーションが各ユーザの認証をすべて担当します。認証が完了すると、SSOアプリケーションが認証情報をExtraViewへ転送し、ExtraViewが自動的にユーザをサインオンします。必要であれば、またライセンス上の制限によっては、新しいユーザをExtraView内部で作成します。

ユーザ認証メカニズムとして SSO を使用するように ExtraView を構成するには、ブラウザを SSO サインオン・ページにポイントします。ExtraView はユーザ ID とその他の関連データを HTTP リクエスト・ヘッダから抽出し、そのユーザを ExtraView へ自動的にログインさせます。ExtraView のサインオン・ページは表示されません。サインオン処理の間に、ExtraView は LDAP サーバが構成されているという前提で、このサーバ内にあるユーザの全情報にアクセスします。このユーザが存在しない場合は、新規の ExtraView ユーザが作成されます。このユーザが ExtraView データベースに存在する場合は、レコードが更新されて LDAP サーバとの同期がとられます。

SSO ヘッダのマッピング

SSO からの “login” HTTP ヘッダには、認証を受けるユーザの情報が含まれます。security_user テーブルに保持されている ExtraView 管理データで、ExtraView が使用するヘッダと、各フィールドが ExtraView のどこに保存されるかを定義します。これらのフィールドはすべて、ユーザ・データを含む個々のフィールドにマッピングされます。このマッピングは、LDAP ユーザ・データと併せて使用されるので、管理者はこの情報を指定する新規のユーザを追加する必要がありません。

ExtraView の構成ファイル(Configuration.properties)では、次の例で示されるように、これらのフィールドがホストのヘッダ・データと一致するようにマッピングされます。

```
#####
## SSO HEADER MAPPING ##
#####
SSO_PRIMARYKEY      = USER_NAME
SSO_SURNAME         = SURNAME
SSO_GIVENNAME       = GIVEN_NAME
SSO_EMAIL           = EMAIL_ADDRESS
SSO_STREET          = STREET
SSO_CITY            = CITY
SSO_STATE           = STATE
SSO_POSTALCODE      = POSTALCODE
SSO_COUNTRY         = COUNTRY
SSO_PHONE           = TELEPHONE_NUMBER
SSO_MOBILE          = MOBILE_NUMBER
SSO_PAGER           = PAGER_NUMBER
```

上の例の `USER_NAME` や `CITY` などのフィールドと同様に、ExtraView の `security_user` テーブルにあるユーザ定義フィールドをマッピングすることも可能です。ユーザ定義フィールドには、`USER_FIELD_1` から `USER_FIELD_5` までの 5 つのフィールドがあります。

シングル・サインオン環境での ExtraView API の使用

ExtraView API にアクセスする必要がある、シングル・サインオン・サーバが配備されている場合、すべての API 呼び出しが正しく認証され、あらゆるアクセスが認証済みのソースから行われるようにするために、特別な必要事項があります。ExtraView は次のロジックを使用して、シングル・サインオン・サーバが配備されている場合に API 呼び出しが認証可能であるかを検証します。

1. API 呼び出しが調べられ、`user_id` および `password` のパラメータが存在する場合、それらがユーザの認証に使用されます。
2. 最初のチェックで有効なユーザが確認されなかった場合、SSO 接続から返されたヘッダーが調べられます。その中に有効なユーザ ID とパスワードが含まれていれば、それらがユーザの認証に使用されます。
3. それでも認証されるユーザが存在しない場合、動作設定の `ALLOW_ANONYMOUS_API_ACCESS` が YES に設定されていれば、動作設定 `ANONYMOUS_API_USER_ID` に設定されたユーザのロールの権限を使用して、匿名の接続が確立されます。

SSO を使用した Lightweight Directory Access Protocol(LDAP) 接続

ExtraView は、ユーザの詳細用として LDAP ディレクトリを使うように構成できます。これはオプションであり、SSO が有効か無効か(`SSO_STATE`)を表すのと同じ動作設定によって制御されます。詳しくは、本書の「シングル・サインオン」のセクションを参照してください。

LDAP サーバ情報

もう一度、接続を制御する上記の ExtraView の動作設定を確認してください。また、ExtraView 構成ファイル Configuration.properties は、LDAP サーバへアクセスするのに必要なパラメータを指定します。

LDAP サーバが 1 つだけ構成されるということが前提になっています。以下の情報も、管理者が LDAP サーバの構成を熟知していることが前提となります。

ExtraView の構成ファイルでは、以下のフィールドがホストの LDAP データ構造と一致するようにマッピングされます。

```
#####
## LDAP SEARCH MAPPING ##
#####
LDAP_PRIMARYKEY           = primary_key
LDAP_SURNAME              = surname
LDAP_GIVENNAME            = given_name
LDAP_COMMONNAME           = common_name
LDAP_DISTINGUISHEDNAME   = distinguishedname
LDAP_EMAIL                 = email_address
LDAP_STREET                = street_address
LDAP_CITY                 = city
LDAP_STATE                 = state
LDAP_POSTALCODE           = postal_code
LDAP_COUNTRY              = country_name
LDAP_PHONE                 = telephone_number
LDAP_MOBILE                = mobile_number
LDAP_PAGER                 = pager_number
LDAP_COMPANYNAME          = your_companyname
```

ExtraView によって以下の LDAP フィールドが使用されるよう構成され、LDAP にアクセス可能な場合、ExtraView はこれらのフィールドをマッピングします。

| ExtraView フィールド | LDAP フィールド | マッピング済み | コメント |
|-----------------|-----------------|---------|--|
| [ユーザ ID] | LDAP_PRIMARYKEY | Yes | ログインおよびユーザ認証に使用されます。 |
| [名] | LDAP_GIVENNAME | Yes | |
| [姓] | LDAP_SURNAME | Yes | |
| [パスワード] | LDAP_PRIMARYKEY | Yes | ログインおよびユーザ認証に使用されます。パスワードは、LDAP 接続によって新しいユーザを挿入したとき、および [CUSTOM_AUTHENTICATION] の動作設定が [NO] に設定されているときに限り使用されます。 |
| [パスワードの失効] | 該当なし | No | |

| | | | |
|----------------------------|------------------|-------|----------------------------------|
| [ユーザ・ロール] | 該当なし | オプション | このフィールドのマッピングにはルール・マッピングを使用できます。 |
| [プライバシー・グループ] | 該当なし | オプション | このフィールドのマッピングにはルール・マッピングを使用できます。 |
| [デフォルトのビジネス・エリアを設定] | 該当なし | オプション | このフィールドのマッピングにはルール・マッピングを使用できます。 |
| [デフォルトのプロジェクトを設定] | 該当なし | オプション | このフィールドのマッピングにはルール・マッピングを使用できます。 |
| [メール・アドレス] | LDAP_EMAIL | Yes | |
| [日付形式] | 該当なし | No | |
| [24 時間形式の時間] | 該当なし | No | |
| [レポート形式をドリルダウン] | 該当なし | No | |
| [タイム・ゾーン] | 該当なし | Yes | |
| [ユーザ自身の更新を通知] | 該当なし | No | |
| [職位] | 該当なし | Yes | |
| [会社名] | LDAP_COMPANYNAME | Yes | これはマッピングに使用しません。 |
| [住所] | LDAP_STREET | Yes | |
| [市区町村] | LDAP_CITY | Yes | |
| [県] | LDAP_STATE | Yes | |
| [郵便番号] | LDAP_POSTALCODE | Yes | |
| [国] | LDAP_COUNTRY | Yes | |
| [勤務先電話] | LDAP_PHONE | Yes | |
| [自宅電話] | 該当なし | Yes | |
| [携帯電話] | LDAP_MOBILE | Yes | |
| [Fax] | LDAP_FAX | Yes | |
| [ポケットベル] | LDAP_PAGER | Yes | |
| [いずれかの UDF フィールド] | 識別名 | Yes | |
| [User Expired] | 該当なし | Yes | 値は使用しますが、ExtraView 内には保存されません。 |
| [Session expiration limit] | 該当なし | No | |

注: 上記の表で太字で示したフィールドは、ExtraView では通常必須となっています。

注: ExtraView のフィールドのほとんどは、ユーザの管理画面からアクセス可能です。

注: ExtraView のユーザ・ロール情報は、LDAP サーバに保存されません。

Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) の直接接続

ExtraView が直接 LDAP サーバと連動するように構成すると、ExtraView 内でまったくカスタム・プログラミングを行わなくても、以下の機能が有効になります。

- 無制限数の LDAP フィールドへのアクセス。
- ExtraView の 1 つ以上のフィールドから 1 つ以上の LDAP フィールドへのマッピングをカスタマイズ。
- ExtraView の追加および編集画面上で、マップ済みのフィールドの事前データ入力をカスタマイズ。
- ポップアップ・リンクによるフィールドの事前入力をカスタマイズ。
- 設定値に基づき、ExtraView ユーザ・テーブルへのデータの「upsert」が可能。「upsert」とは、挿入 (insert) と更新 (update) を組み合わせたものです。レコードが存在すれば更新し、存在しない場合は挿入します。

Configuration.properties ファイル内の LDAP フィールドの設定

アプリケーション・サーバの構成ファイル (Configuration.properties) には、LDAP_FIELDS というパラメータがあります。このパラメータは、LDAP とともに使用するマッピングのメタ名です。これらはカンマで区切り、1 行に表示します。

以下のフィールドは必須であり、upsert 操作のフィールドとして入力する必要があります。

```
LDAP_FIELDS =      LDAP_PRIMARYKEY,
                   LDAP_SURNAME,
                   LDAP_GIVENNAME,
                   LDAP_COMMONNAME,
                   LDAP_EMAIL,
                   LDAP_STREET,
                   LDAP_CITY,
                   LDAP_STATE,
                   LDAP_POSTALCODE,
                   LDAP_COUNTRY,
                   LDAP_PHONE
```

他のフィールドも追加できます。同じ命名規則に従ってください。これらは、情報を取得するフィールドを表しています。例えば、以下のようなフィールドを追加することができます。

```
LDAP_MOBILE,
LDAP_PAGER,
LDAP_COMPANYNAME,
LDAP_DEPARTMENT,
LDAP_TITLE
```

LDAP_FIELDS 内のフィールドを LDAP ディレクトリ内の値にマッピングする

これらのフィールドは、以下の例のように 1 対 1 の関係でマッピングされます。

```
LDAP_PRIMARYKEY    =    employeenumber
LDAP_SURNAME       =    sn
LDAP_GIVENNAME     =    givenname
LDAP_COMMONNAME    =    cn
```

| | | |
|------------------|---|------------------------|
| LDAP_EMAIL | = | <i>mail</i> |
| LDAP_STREET | = | <i>street</i> |
| LDAP_CITY | = | <i>l</i> |
| LDAP_STATE | = | <i>st</i> |
| LDAP_POSTALCODE | = | <i>postalcode</i> |
| LDAP_COUNTRY | = | <i>postaladdress</i> |
| LDAP_PHONE | = | <i>telephonenumber</i> |
| LDAP_MOBILE | = | <i>mobile</i> |
| LDAP_PAGER | = | <i>pager</i> |
| LDAP_COMPANYNAME | = | <i>displayname</i> |
| LDAP_DEPARTMENT | = | <i>department</i> |
| LDAP_TITLE | = | <i>title</i> |

LDAP_FIELDS 内のフィールドを ExtraView の値にマッピングする

2 つ以上の ExtraView フィールドを 1 つの LDAP_FIELD にマッピングできます。その場合、LDAP フィールドのメタ名の先頭に *EV_* という文字を付ける必要があります。例えば、LDAP_PRIMARYKEY は EV_LDAP_PRIMARYKEY とします。複数の値はカンマで区切ってください。

| | | |
|---------------------|---|----------------------|
| EV_LDAP_PRIMARYKEY | = | USR_ID |
| EV_LDAP_SURNAME | = | USR_LNAME |
| EV_LDAP_GIVENNAME | = | USR_FNAME |
| EV_LDAP_COMMONNAME | = | USR_NAME |
| EV_LDAP_EMAIL | = | USR_EMAIL |
| EV_LDAP_STREET | = | |
| EV_LDAP_CITY | = | USR_CITY |
| EV_LDAP_STATE | = | USR_STATE |
| EV_LDAP_POSTALCODE | = | |
| EV_LDAP_COUNTRY | = | |
| EV_LDAP_PHONE | = | USR_PHONE,USR_PHONE2 |
| EV_LDAP_MOBILE | = | USR_MOBILE |
| EV_LDAP_PAGER | = | |
| EV_LDAP_COMPANYNAME | = | |
| EV_LDAP_DEPARTMENT | = | USR_DEPT |
| EV_LDAP_TITLE | = | |

[追加] 画面および [編集] 画面でフィールドを事前入力する

各フィールドはカンマで区切り、必ず 1 行で入力します。

| | |
|--------------------------|---|
| ADD_SCREEN_LDAP_FIELDS = | USR_NAME, USR_TITLE, USR_DEPT, USR_EMAIL, USR_PHONE, USR_PHONE2, USR_MOBILE, USR_FAX, USR_CITY, USR_STATE, USR_BUILDING |
|--------------------------|---|

```
EDIT_SCREEN_LDAP_FIELDS =      USR_NAME,
                                USR_TITLE,
                                USR_DEPT,
                                USR_EMAIL,
                                USR_PHONE,
                                USR_PHONE2
```

ExtraView ユーザ情報を最新の LDAP サーバの情報に更新するかどうかを指定する

これを YES に指定した場合、各ユーザが ExtraView にサインオンすると、コードが LDAP ディレクトリから直接ユーザ情報を ExtraView ユーザ・テーブルに upsert します。

```
LDAP_UPSERT = YES
```

LDAP および SSO の接続例

以下は、LDAP サーバと SSO サーバの両方と接続するときの入力を示す Configuration.properties ファイルからの抜粋です。

```
.....
.....

#####
## SSO HEADER MAPPING ##
#####
SSO_PRIMARYKEY   = SM_USER
SSO_SURNAME      = SSO_SURNAME
SSO_GIVENNAME    = SSO_GIVENNAME
SSO_EMAIL        = SSO_MAIL
SSO_STREET       = SSO_STREET
SSO_CITY         = SSO_CITY
SSO_STATE        = SSO_STATE
SSO_POSTALCODE   = SSO_POSTALCODE
SSO_COUNTRY      = SSO_COUNTRY
SSO_PHONE        = SSO_TELEPHONENUMBER
SSO_MOBILE       = SSO_MOBILE
SSO_PAGER        = SSO_PAGER

LDAP_FIELDS                                            =
LDAP_PRIMARYKEY,LDAP_SURNAME,LDAP_GIVENNAME,LDAP_COMMONNAM
E,LDAP_EMAIL,LDAP_STREET,LDAP_CITY,LDAP_STATE,LDAP_POSTALCODE,LD
AP_COUNTRY,LDAP_PHONE,LDAP_MOBILE,LDAP_PAGER,LDAP_COMPANYNA
ME,LDAP_DEPARTMENT,LDAP_TITLE

#####
## LDAP SEARCH MAPPING ##
#####
LDAP_PRIMARYKEY = employeenumber
LDAP_SURNAME    = sn
LDAP_GIVENNAME  = givenname
LDAP_COMMONNAME = cn
LDAP_EMAIL      = mail
```

これは 1 行です

```

LDAP_STREET    = street
LDAP_CITY      = l
LDAP_STATE     = st
LDAP_POSTALCODE = postalcode
LDAP_COUNTRY   = postaladdress
LDAP_PHONE     = telephonenumber
LDAP_MOBILE    = mobile
LDAP_PAGER     = pager
LDAP_COMPANYNAME = displayname
LDAP_DEPARTMENT = department
LDAP_TITLE     = title

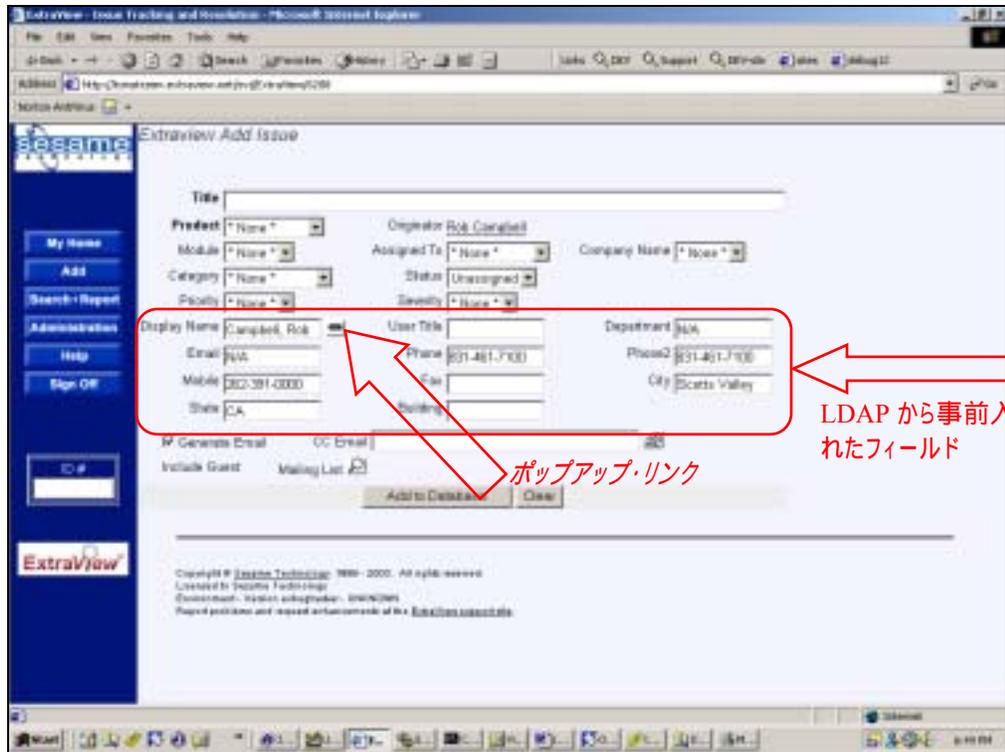
EV_LDAP_PRIMARYKEY = USR_ID
EV_LDAP_SURNAME    = USR_LNAME
EV_LDAP_GIVENNAME  = USR_FNAME
EV_LDAP_COMMONNAME = USR_NAME
EV_LDAP_EMAIL      = USR_EMAIL
EV_LDAP_STREET     =
EV_LDAP_CITY       = USR_CITY
EV_LDAP_STATE      = USR_STATE
EV_LDAP_POSTALCODE =
EV_LDAP_COUNTRY    =
EV_LDAP_PHONE      = USR_PHONE,USR_PHONE2
EV_LDAP_MOBILE     = USR_MOBILE
EV_LDAP_PAGER      =
EV_LDAP_COMPANYNAME =
EV_LDAP_DEPARTMENT = USR_DEPT
EV_LDAP_TITLE      =
.....
.....

```

ExtraView の [追加] および [編集] 画面のフィールドに事前入力する

上記の構成パラメータが設定済みであると仮定して、ExtraView の [追加] 画面をロードすると、Configuration.properties の ADD_SCREEN_LDAP_FIELDS に対して選択したフィールドに、Configuration.properties で構成した LDAP のマッピングに従って LDAP ディレクトリからの値が事前入力されます。

以下の例の線で囲んだフィールドはすべて、現在のユーザ (Campbell, Rob) に基づき、LDAP から事前入力されます。



LDAP サーバから事前入力されたフィールドの例

ポップアップ・リンクの構成

[追加] 画面および [編集] 画面のレイアウトにどのフィールドを入れるかを決定したら、そのうちの 1 つ (通常はユーザ名などの基本識別子) をピックアップして、その横に URL リンクのポップアップ・ウィンドウを設定することができます。このポップアップ・ウィンドウにより、LDAP ディレクトリの動的検索が可能です。また、[追加] 画面および [編集] 画面の複数のフィールドに、基本識別子の値が入力されます。ExtraView のフィールドには、Configuration.properties で設定したマッピングに基づいて LDAP ディレクトリの値が入ります。

まず、データ辞書内で該当する URL のリンクを構成します。この方法についての詳細は、本書のデータ辞書に関するセクションをご覧ください。

ポップアップ・リンクを構成するデータ辞書の項目

- [URLとして表示] を [Yes] に設定します。
- URL の最初の部分を表示のとおりに入力します。フィールドの入力を完了させないでください。

`?p_action=doDisplay&p_option=security.SearchLDAPDisplay`

- この URL に、事前入力させたいフィールドのリストを以下のパターンで付け加えます。ただし、インストレーションで使っているフィールドを使用してください。

```
&FIELD=USR_NAME&FIELD=USR_TITLE&FIELD=USR_DEPT
&FIELD=USR_EMAIL&FIELD=USR_PHONE
&FIELD=USR_PHONE2&FIELD=USR_MOBILE
&FIELD=USR_FAX&FIELD=USR_CITY&FIELD=USR_STATE
&FIELD=USR_BUILDING
```

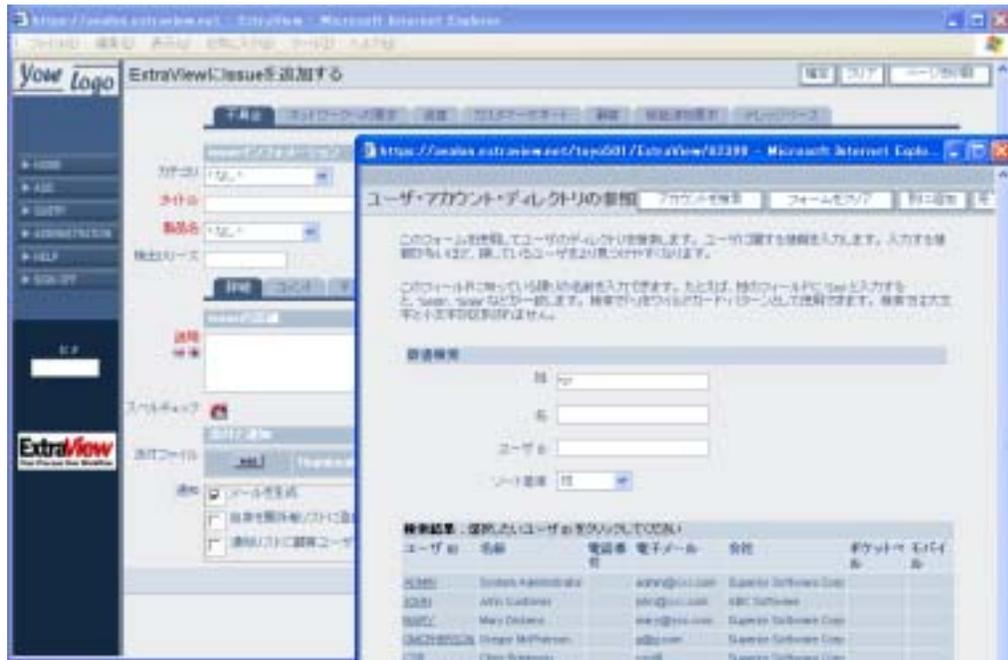
各フィールドのパターンは `&FIELD=DataDictionaryName` です。

最終的に、URL は次のように表示されます。

```
?p_action=doDisplay&p_option=security.SearchLDAPDisplay
&FIELD=USR_NAME&FIELD=USR_TITLE&FIELD=USR_DEPT
&FIELD=USR_EMAIL&FIELD=USR_PHONE
&FIELD=USR_PHONE2&FIELD=USR_MOBILE
&FIELD=USR_FAX&FIELD=USR_CITY&FIELD=USR_STATE
&FIELD=USR_BUILDING
```

ポップアップ・リンクの使用

基本識別子の横にあるポップアップ・リンクをクリックすると、ExtraView は新しいウィンドウを開きます。このウィンドウで検索基準を入力することにより、ユーザを検索できます。以下のスクリーン・ショットにその画面を示します。



LDAP ディレクトリ内でユーザを検索する

検索基準を使用した後、ID フィールド内の結果の 1 つをクリックします。親の [追加] 画面や [編集] 画面のフィールドには、リクエストしたすべてのフィールドが入ります。

ExtraView ユーザ・テーブルの更新

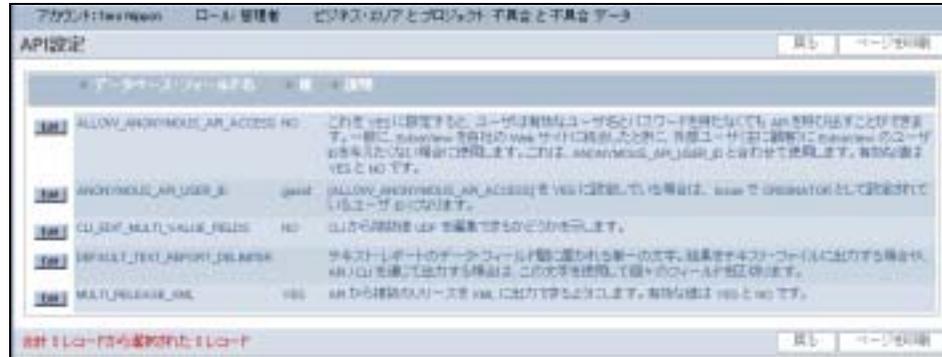
LDAP_UPSERT = YES 機能を Configuration.properties で設定すると、ExtraView のユーザ情報が LDAP ディレクトリ内の最新情報に更新されます。これは、ユーザ側が何の操作もしなくても、ユーザが ExtraView にサインオンすると自動的に行われます。

この機能により、ExtraView 管理者は、LDAP ディレクトリ内の LDAP_PRIMARYKEY と同じ固有の ID を使用して、新しいユーザのアカウントを作成するだけで済みます。ユーザがサインオンした時点で、ExtraView 内のアカウント情報が更新されます。マッピングされたすべてのフィールドが更新され、その後も自動的に最新情報に保たれます。

注: ユーザは継続してユーザ・テーブルに新しいライセンスを追加できますが、この機能は ExtraView のフローティング・ライセンスを使用している場合のみ使用できます。

API 設定

この動作設定のセクションには、[Administration] メニューの [システム制御] タブからアクセスします。



[API 設定] 画面

次のような設定があります。

| [システム制御] メニュー - [API 設定] | 標準的な値 | 説明 |
|---------------------------------|-------|--|
| [ALLOW_ANONYMOUS_API_ACCESS] | NO | これを YES に設定すると、ユーザは有効なユーザ名とパスワードを持たなくても API を呼び出すことができます。一般に、ExtraView を自社の Web サイトに統合したときに、外部ユーザ（主に顧客）に ExtraView のユーザ ID を与えたくない場合に使用します。これは、ANONYMOUS_API_USER_ID と合わせて使用します。有効な値は YES と NO です。 |
| [ANONYMOUS_API_USER_ID] | guest | [ALLOW_ANONYMOUS_API_ACCESS] を YES に設定している場合は、issue で ORIGINATOR として設定されているユーザ ID になります。 |
| [CLI_EDIT_MULTI_VALUE_FIELDS] | NO | CLI から複数値 UDF を編集できるかどうかを示します。 |
| [DEFAULT_TEXT_REPORT_DELIMITER] | : | テキスト・レポートのデータ・フィールド間に置かれる単一の文字。結果をテキスト・ファイルに出力する場合や、API/CLI を通じて出力する場合は、この文字を使用して個々のフィールドを区切ります。 |
| [MULTI_RELEASE_XML] | NO | API から複数のリリースを XML に出力できるようにします。有効な値は YES と NO です。 |

システムデバッグ&ユーザ・カスタム設定

この設定は、[Administration] の [システム制御] メニューから行います。このオプションにアクセスすると、次のような画面が表示されます。



システムのデバッグとユーザのカスタム設定画面

設定とそれぞれの意味は次のとおりです。

| [システム制御] メニュー – [システムデバッグ&ユーザ・カスタム設定] | 標準的な値 | 説明 |
|---------------------------------------|-------|---|
| [ALLOW_DEBUG_URL] | YES | アプリケーション・サーバ・ログのデバッグ・レベルをユーザが設定できるようにします。有効な値は YES または NO です。オフにすると、ユーザは URL を含むログのデバッグ・レベルを変更できません。URL の形式は次のようになります。 http:// server.extraview_domain.com /ExtraView/evSignon?DEBUG=6 デバッグ・メッセージのデフォルトのレベルは 6 です。有効な値は 1 ~ 12 の数値です。 |
| [USER_CUSTOM_CLASSNAME] | | 完全修飾クラス名 (com.extraview.usercustom.UserCustom など) を指定するかまたは空白にします。 |
| [USER_CUSTOM_ENABLE_METRICS] | NO | 各ユーザのカスタム・メソッドの呼び出しのログ・タイミング・データ。有効な値は YES と NO です。 |

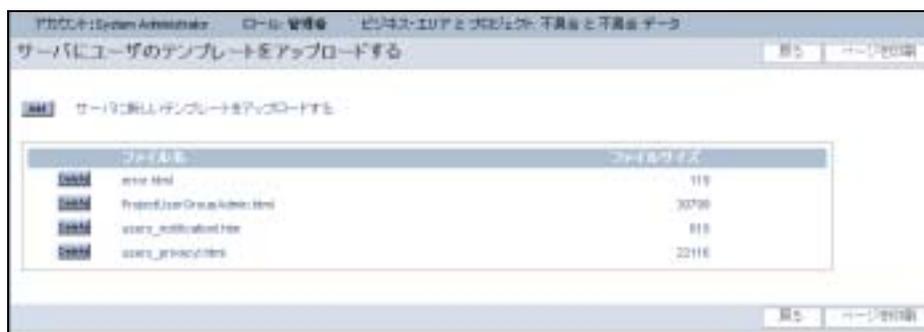
サーバ側テンプレートの管理

サーバ側テンプレートは、API からクライアント・ブラウザまたはスクリプトへ返される情報をフォーマットするために使用されます。例えば、新しい issue を API から ExtraView に入力する場合、コマンドにより返される情報 (issue の ID、またはコマンド失敗の場合はエラー) をテンプレートを使って、ユーザの企業のウェブサイトと同じ形式の出力にフォーマットすることができます。

このことは『ExtraView コマンド・ライン・インタフェースおよびアプリケーション・プログラミング・インタフェース・ガイド』に詳しく記述されています。通常テンプレートは WEB-INF/user_templates というディレクトリに格納されます。お使いのサーバのディレクトリ構造にアクセスできない場合にサーバにテンプレートを格納するため、この管理機能を使えばサーバ側テンプレートのアップロードおよび削除を行うことができます。これらはユーザのクライアント・コンピュータ上で編集する必要があります。

この機能へのアクセスは、CF_UPLOAD_USER_TEMPLATES というセキュリティ・キーによって制御されます。

[Administration]メニューから、[システム制御] タブをクリックします。そして [ExtraView API を使用するためのサーバ・サイドのテンプレートをアップロード] というリンクをクリックします。すると以下のような画面が表示されます。



サーバ側テンプレートの管理

[Add] ボタンを使って新しいテンプレートを追加することができます。テンプレートがサーバにアップロードされた後は、[Delete] ボタンを使ってそれを削除することができます。

注: ExtraView を配備済み War ファイルから稼動している場合は、この機能を使用できません。

統計情報

ExtraView は、重要な情報に関する統計情報を保持しています。統計情報には、[Administration]メニューの [システム制御] タブからアクセスします。

[統計情報] をクリックすると、統計情報が表示されます。

このページは、[ユーザ統計情報]、[Issue統計情報]、[添付ファイル] という 3 つの主要セクションに分かれています。

| ユーザ統計情報 | |
|--------------------------------------|----|
| ユーザの合計数 (有効および無効) | 21 |
| 有効なユーザ数 | 20 |
| 有効な顧客ユーザ数 | 3 |
| 内部ユーザ数(顧客以外) | 17 |
| ユーザ・ロール <i>File Import</i> の有効なユーザ数 | 2 |
| ユーザ・ロール <i>ITサポート</i> の有効なユーザ数 | 10 |
| ユーザ・ロール <i>ITサポート・マネージャ</i> の有効なユーザ数 | 8 |
| ユーザ・ロール <i>カスタマー・サポート</i> の有効なユーザ数 | 9 |
| ユーザ・ロール <i>品質保証</i> の有効なユーザ数 | 11 |
| ユーザ・ロール <i>管理者</i> の有効なユーザ数 | 8 |
| ユーザ・ロール <i>開発エンジニア</i> の有効なユーザ数 | 11 |
| ユーザ・ロール <i>開発マネージャ</i> の有効なユーザ数 | 7 |
| ユーザ・ロール <i>顧客</i> の有効なユーザ数 | 12 |
| ユーザ・ロール <i>顧客サポート・マネージャ</i> の有効なユーザ数 | 6 |

[ユーザ統計情報] セクション

- **[ユーザの合計数(有効および無効)]**。ExtraView のデータベースに保存されているユーザの総数。有効なユーザ・アカウントと無効なユーザ・アカウントの両方が含まれます。
- **[有効なユーザ数]**。有効なユーザ・アカウント数。無効なアカウントは除外されます。
- **[有効な顧客ユーザ数]**。[LIMITED_USER_ROLE] の動作設定で指定されたユーザ・ロール内で有効なユーザ数。
- **[内部ユーザ数(顧客以外)]**。[LIMITED_USER_ROLE] 以外のユーザ・グループに割り当てられたユーザの数。あるユーザに [LIMITED_USER_ROLE] とその他のグループが両方割り当てられている場合は、この合計に表示されます。
- **[ユーザ・ロール *group_name* の有効なユーザ数]**。 *group_name* というユーザ・ロール内の有効なユーザ数。

| Issue 統計情報 | |
|------------------------|-----|
| データベース内の issue の合計数 | 375 |
| 今月の今日までに作成された issue 数 | 13 |
| 先月に作成された issue 数 (4月) | 2 |
| 最近 30 日間に作成された issue 数 | 13 |
| 今月の今日までに適用された更新数 | 159 |
| 先月に適用された更新数 (4月) | 8 |
| 最近 30 日間に適用された更新数 | 159 |

[Issue 統計情報] セクション

| 添付ファイル | |
|-------------------|--------|
| システム内の添付ファイル数 | 49 |
| 添付ファイルの平均サイズ (KB) | 3343 |
| 添付ファイルの最大サイズ (KB) | 102400 |

[添付ファイル] セクション

ExtraView バージョン情報

この機能は [Administration] メニューの [システム制御] タブにあり、システム・ユーザに対して特定の ExtraView インストレーションの操作、メンテナンス、トラブルシューティングに関する最重要情報を提供します。自社のサーバを ExtraView のホスト・コンピュータとして使用している企業では、この機能を使用すると、ExtraView のビルド番号、サード・パーティ・ソフトウェアのバージョン、オペレーティング・システムの詳細、Java 環境の詳細など、環境に関する情報を容易に検索できます。

ExtraView のバージョン情報を表示するには

[システム制御] タブから、[ExtraView バージョン情報] ボタンをクリックします。



管理画面

次のような画面が表示されます。

この情報はサポートの際に役立ちます。ExtraView のサポート担当者は、デバッグ障害が発生した場合、この画面の情報を確認するようお願いすることがあります。

すべての動作設定

[Administration] メニューの **[システム制御]** セクションにあるこのメニュー項目は、動作設定の全リストをアルファベット順に表示します。これらはすべて、各管理タブにある個別の動作設定メニューから複製したものです。使い勝手を考えて、このように 1 カ所にまとめてあります。このメニューから任意の動作設定を編集するのは、専用のメニューからオプションを編集するのと結果的に同じです。



動作設定の全リストへのアクセス

ExtraView ライセンス

ExtraView エンド・ユーザ・ライセンス契約書 (EULA) は、[Administration] メニューの **[システム制御]** セクションで読むことができます。

システム・セキュリティ・キー

ExtraView 内の各フィールド、ボタン、および機能には対応するシステム・セキュリティ・キーがあります。[フィールドとレイアウト] タブの [セキュリティ権限の付与] セクションから、これらのキーによって管理される要素の表示を制御できるので、これらのフィールド、ボタン、機能へのアクセスを制限できます。

注: システム・セキュリティ・キー・エリアの変更は、システム全体に関わります。ExtraView Corporation では、表示タイトル([セキュリティ権限の付与] 画面に表示)の編集以外でこのエリアを変更するときには、あらかじめ ExtraView のサポート窓口へ連絡して下さるよう強くお願いしております。新しいキーを作成する必要はまず考えられません。

| システム・セキュリティ・キー名 | 機能に適用するオブジェクト | 説明 |
|--------------------------|-----------------------|---|
| QF_ADMIN_MENU | 管理タブからのリンク編集 | これらすべてのローカライズが可能できます |
| QF_ALLOWED_LOCALES | アラウドロップ | このインストール内のユーザーが設定できるローカルのリストを管理します。ローカルが定義されていても、既定のロケーションがなければなりません。 |
| QF_ALLOWEDVALUE_TYPE | 非推奨タイプと値の組み合わせ | このユーザーが特定の親子関係の定義と値を定義を行います。 |
| QF_ALLOWED_VALUES | 非推奨リスト | 非推奨リストの操作のための画面へのアクセス。非推奨リストの管理も、子リスト管理画面から実行することもできます。 |
| QF_ALLOW_CHANGE_ROLE | ロールを適用したユーザー上の変更オプション | このキーに基づき権限が与えられていると、そのユーザーがロールでのアクセス時にメニューアイテムに表示されるプルダウンメニューからロールの変更を行うことができます。また、ロールにユーザーを割り当てない以上、ユーザーが特定のロールの権限が与えられているか、ADMIN_OVERRIDE_ROLEの権限が与えられているかを判断する必要があります。 |
| QF_ALL_BEHAVIOR_SETTINGS | すべての動作設定 | このリストからすべての動作設定の完全なリスト(アラウドロップ)の表示と修正を行うことができます。 |
| QF_AR_SETTINGS | AR設定 | ARを管理、Troubleshootにアクセスする動作設定を選択するための設定画面へのアクセス。 |
| QF_AREA | ビジネスエリア | 事前定義のAREA(フィールドとビジネス・エリア)リストを管理します。 |
| QF_CATEGORY | カテゴリ | 事前定義のCATEGORY(フィールドのカテゴリ)リストを管理します。 |
| QF_COMPANY_SETTINGS | 会社情報の設定 | 会社名、所在地、連絡先の情報を設定する管理画面へのアクセス。この画面が特定のメニューアイテムのサイドメニューを管理することもできます。 |
| QF_DATA_DICTIONARY | データ辞書 | フィールドのタイプ、表示タイプ、標準動作、およびフィールドの相互関係など事前定義フィールド、ユーザー定義フィールド、およびその他のオブジェクトの構成および管理を行うためのアーキタイプへのアクセス |

システム・セキュリティ・キーのサマリ画面

既存のセキュリティ・キーの編集

1. [Administration] メニューの [システム制御] タブで、[システム・セキュリティ・キー] オプションをクリックします。

2. [Edit] をクリックして、必要に応じて説明やタイトルを変更します。

システムログ・タイプ

管理者がシステム・ログへのエントリ・タイプを追加したり変更する必要が発生することは、あまりありません。各エントリは、個別のユーザによる ExtraView メタデータ変更の使用状況を監視し、だれがどのメタデータを変更したかを監査するために使用されます。システム・ログ自体は、[システム制御] 管理メニューから表示することができます。

ユーザ向けスタートページリストの管理

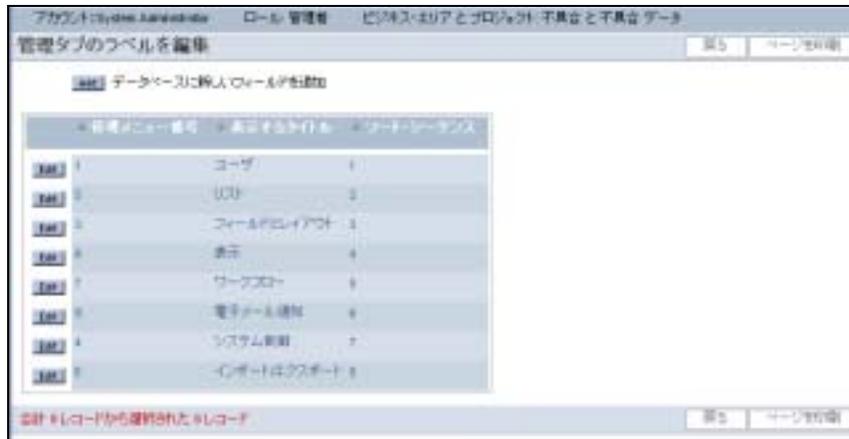
この機能を使用する前に、USER_DEFINED_START_PAGE という動作設定を YES にしておかなければなりません。この機能により管理者は新規にスタートページを追加して有効にすることができます。スタートページとは、ユーザがサインオンに成功した後に到達するページです。利用可能なデフォルト・ページは、ホームページ、Issue の追加画面、検索/レポート画面、管理画面です。これ以外のページが必要となることはあまりありませんが、必要に応じてこの画面を使って追加することができます。新しいエントリを追加する前に、使用すべき呼び出し規則を知っておく必要があります。これらは ExtraView の内部にあり、Action および Option という用語で定義されます。新しいスタートページが必要な場合、ExtraView サポートと相談してこれらの値を定義することをお奨めします。



スタートページのリスト

[Administration]メニューのタイトルの変更

このオプションが使われることはあまりありませんが、これにより管理者がメニューのタイトル変更やローカライズを行うことができます。このオプションを画面に表示させたくない場合は、CF_ADMIN_MENUS というセキュリティ権限キーを使用して無効にすることができます。



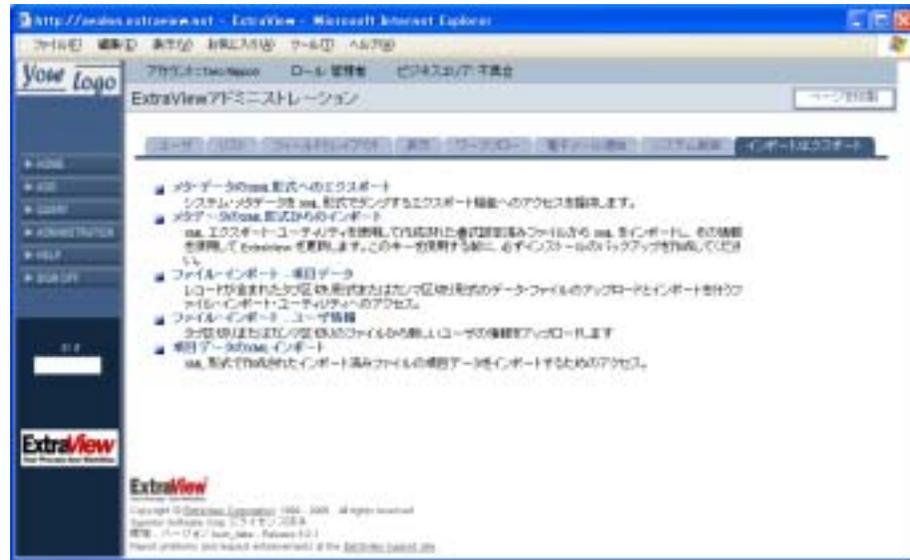
管理画面のオプションのタイトルを変更

タイトルの変更やローカライズを行うには、この機能にアクセスし、編集ボタンをクリックします。ここでタイトルの変更またはローカライズされたタイトルを指定することができます。タイトル変更後に更新を行うと、直ちに管理画面に新しいタイトルが表示されます。

インポート/エクスポートの管理

概念

このセクションでは、ExtraView でデータやメタデータをインポートまたはエクスポートするための管理機能について説明します。



XML のインポートとエクスポートの基本

メタデータのエクスポートとインポート

注: インポート機能を使用する前に、標準機能を使用してデータベース全体をバックアップすることを強くお勧めします。インポートしたメタデータ、レイアウト、レポート、およびユーザ・データは元に戻せませんが、処理中に失敗が発生することもあるからです。

メタデータのエクスポートは、データベース全体のバックアップとは異なります。エクスポートは、使用しているデータベースのベンダが提供するツールか、そのタスク専用に関連されたサード・パーティのツールを使用して実行します。

ExtraView 内のデータは、メタデータと issue データの 2 つに分けられます。メタデータは、製品の一部分として提供される情報、使用できる製品名の全リストなどユーザが提供するデータ、可能なステータス値の全リスト、およびユーザが設計した画面レイアウトなど、アプリケーションのサポート・データです。issue データは、追跡する項目に関連した物理データです。これには、issue の ID、特定の製品名、現在割り当てられている特定のステータス、および issue に関連するすべての履歴情報が含まれます。

ExtraView のインスタンス内でメタデータのみをエクスポートまたはインポートするには、次のようないくつかの理由があります。

- 復元できるフォームでメタデータの全部または一部のバックアップを作成するため。メタデータは XML 形式でエクスポートされるので、これはデータベース・インスタンスそのものをバックアップするのとは異なります。
- メタデータを試験または段階的環境から生産データベースへ転送するため。転送時には、更新だけを行うのか、更新と統合を一緒に行うのかを選択できます。
- 他のシステムとインタフェースできる標準形式 (XML) でデータを取得するため。メタデータをエクスポートする際に理解しておくべき、インポート全般のオプションがあります。[エクスポートされるユーザ情報を最少にする] というオプションのボックスをチェックすることができます。それによって、ユーザに関連するデータが実働サーバにおいて影響を受けないようにすることができます。パスワードや各ユーザの個人用オプションなどのユーザ・データは動的であり、ほとんどの場合、実稼動バージョンのユーザ情報をそのままの状態に残しておきたいはずです。
メタデータ転送ユーティリティを使用する際に ExtraView のスキーマを理解しておくことは、必須ではありませんが役に立ちます。
- エクスポートを実行するには、XML ファイルに送るテーブルのファミリーを選択します。このファミリーは、機能をサポートするのに必要な全データで構成されます。エクスポートされるファミリーは以下のとおりです。
- **すべてのメタデータ** – 動作設定、データ辞書、ユーザ定義フィールドの定義、レポート、リスト値などの ExtraView メタデータをサポートするテーブルがすべて含まれます。
- **レポートを除くメタデータ** – レポートを除いて、前述のオプションと同じデータをエクスポートします。このオプションにより、すべてのユーザのレポートを変更せずに実稼動サイトに保持することができます。またこのオプションは、お使いのインストールに非常に多くのレポートが含まれている場合に、データ移行の実行に必要な時間を大幅に削減するのに役立つことがあります。
- **レイアウト** – すべての画面やレポートのレイアウトの定義と、それらのサポート情報が含まれます。
- **レポート** – すべてのパーソナル・レポートおよびパブリック・レポートの定義と、フィルタ設定およびソート順序が含まれます。
- **ユーザ** – システム内の各ユーザ・アカウントに関する情報と、個々のパーソナル設定が含まれます。
- **テキスト・メッセージ** – システム内のすべてのテキスト・メッセージに関連する情報のみをエクスポートします。これは、ユーザが使用したい新しいロケール (言語) に関連するメッセージをエクスポート / インポートするときに最も多く使用されます。このユーティリティは ExtraView 内の組み込みメッセージと、ユーザが定義した独自のテキストの両方を移動します。ユーザ定義のテキストには、ユーザが作成したすべてのオブジェクトやフィールドのタイトルなどの項目が含まれます。

情報をエクスポートすると、そのファミリーに関連付けられたすべてのテーブルとそれに付随する情報もエクスポートされます。情報をインポートするときには、次の 2 つのモードがあります。

- **更新** – エクスポート画像と同じ名前およびタイプのオブジェクトがすでにあれば、エクスポートのイメージに置き換えます。
- **更新/マージ** – 更新に加え、エクスポート・ファイルに新しいデータ項目があればそれを統合します。

注: 一般的にインポートを行う際は更新/マージ 機能を使用します。新しいデータは追加され、既存のデータは更新されるので、最も望ましい結果が期待されるからです。

保存されているディスクの画像からオブジェクトをインスタンスにロードすると、必要なすべての参照整合性と固有性制限が維持されます。固有性制限の維持には、インスタンス内の特定オブジェクトの連続した値を適切に増やしたり、変更することが必要となります。参照整合性の維持では、複数のテーブルを更新することもあります。新しい値が依存する行があらかじめ存在していない場合、それらの行を追加する必要があるからです。

ターゲット・データベース内のオブジェクトを削除するときは、カスケード削除ポリシーを使用してすべての参照整合性が維持されます。つまり、インポートによってオブジェクトが削除される場合、そのオブジェクトを参照するメタデータ・オブジェクトも削除されるということです。この方針は、関連オブジェクトがインポート時に復元されることがあるため、情報が失われないようにすることを目的としています。

新しいメタデータを追加する際には、ユーザの issue データの相互関係に対して、追加のルールが適用されることがあります。その場合、既存の issue データすべてが新しい関係についてチェックされます。

エクスポート/インポート処理の一部として、ビジネス・ルールをあるインスタンスから別のインスタンスに移動させると、当該ルールはターゲットのデータベースにある既存のルールとは決してマージされません。古いルールは常に新しいルールで上書きされません。

ファミリー情報のエクスポート

| ファミリー | エクスポートされるテーブル | |
|------------------|----------------------|----------------------|
| すべての Metadata | ALLOWED_FUNCTIONS | LAYOUT_TYPE |
| | ALLOWED_VALUE_TYPE | MODULE |
| | ALLOWED_VALUES | MODULE_TYPE |
| | APPLICATION_DEFAULT | OUTPUT_TYPE |
| | AREA | PRIORITY |
| | CALCULATED_FIELD | PRIVACY_GROUP |
| | CATEGORY | PRIVACY_GROUP_USER |
| | CHART | PRODUCT |
| | CHART_PROPERTY | PRODUCT_LINE |
| | CHART_PROPERTY_GROUP | PRODUCT_PRODUCT_LINE |
| | CHART_TYPE | PRODUCT_RELEASE |
| | CUSTOMER | PROJECT |

DATA_DICTIONARY
ESCALATION_RULE
ESCALATION_RULE_ACTION
ESCALATION_RULE_ELEMENT
ESCALATION_RULE_USER
EV_FILE_IMPORT
EV_HIERARCHY
EV_HIERARCHY_LEVEL
EV_LIST_MAP
EV_RULE_TEXT
EV_TEMPLATE
EV_TEXT_LOOKUP
FILTER
FILTER_CRITERIA
FILTER_GROUP
INTEREST_LIST
INTEREST_LIST_ELEMENT
INTEREST_LIST_USER
ITEM_GROUP_TYPE
ITEM_TYPE
LAYOUT
LAYOUT_ELEMENT
LAYOUT_ELEMENT_ATTRIBUTE

レポートを
除くすべ
てのメタ
データ

ALLOWED_FUNCTIONS
ALLOWED_VALUE_TYPE
ALLOWED_VALUES
APPLICATION_DEFAULT
AREA
CATEGORY
CHART_TYPE
CUSTOMER
DATA_DICTIONARY
ESCALATION_RULE
ESCALATION_RULE_ACTION
ESCALATION_RULE_ELEMENT
ESCALATION_RULE_USER
EV_FILE_IMPORT
EV_HIERARCHY
EV_HIERARCHY_LEVEL
EV_LIST_MAP
EV_RULE_TEXT
EV_TEMPLATE

RELATIONSHIP_GROUP
REPORT
REPORT_ATTRIBUTE
REPORT_GROUP
REPORT_LAYOUT
REPORT_SECURITY_GROUP
RESOLUTION
SECURITY_GROUP
SECURITY_GROUP_USER
SECURITY_MODULE
SECURITY_PERMISSION
SECURITY_USER
SEVERITY_LEVEL
SORT_ORDER
SORT_ORDER_FIELD
START_PAGE
STATUS
STATUS_RULE
STATUS_SIGNATURE
SUBREPORT
TITLE_MAP
UDF
UDF_LIST

LAYOUT_TYPE
MODULE
MODULE_TYPE
OUTPUT_TYPE
PRIORITY
PRIVACY_GROUP
PRIVACY_GROUP_USER
PRODUCT
PRODUCT_LINE
PRODUCT_PRODUCT_LINE
PRODUCT_RELEASE
PROJECT
RELATIONSHIP_GROUP
RESOLUTION
SECURITY_GROUP
SECURITY_GROUP_USER
SECURITY_MODULE
SECURITY_PERMISSION
SECURITY_USER

| | | |
|-------|--------------------------|-----------------------|
| | EV_TEMPLATE | SECURITY_USER |
| | EV_TEXT_LOOKUP | SEVERITY_LEVEL |
| | INTEREST_LIST | START_PAGE |
| | INTEREST_LIST_ELEMENT | STATUS |
| | INTEREST_LIST_USER | STATUS_RULE |
| | ITEM_GROUP_TYPE | STATUS_SIGNATURE |
| | ITEM_TYPE | TITLE_MAP |
| | LAYOUT | UDF |
| | LAYOUT_ELEMENT | UDF_LIST |
| | LAYOUT_ELEMENT_ATTRIBUTE | |
| レイアウト | AREA | PROJECT |
| | DATA_DICTIONARY | SECURITY_GROUP |
| | LAYOUT | SECURITY_MODULE |
| | LAYOUT_ELEMENT | SECURITY_PERMISSION |
| | LAYOUT_ELEMENT_ATTRIBUTE | TITLE_MAP |
| | LAYOUT_TYPE | UDF |
| | MODULE | UDF_LIST |
| | PRODUCT | |
| レポート | AREA | PROJECT |
| | CALCULATED_FIELD | RELATIONSHIP_GROUP |
| | CATEGORY | REPORT |
| | CHART | REPORT_ATTRIBUTE |
| | CHART_PROPERTY_GROUP | REPORT_GROUP |
| | CHART_TYPE | REPORT_LAYOUT |
| | DATA_DICTIONARY | REPORT_SECURITY_GROUP |
| | EV_HIERARCHY | RESOLUTION |
| | EV_HIERARCHY_LEVEL | SECURITY_GROUP |
| | FILTER | SECURITY_MODULE |
| | FILTER_CRITERIA | SECURITY_PERMISSION |
| | FILTER_GROUP | SECURITY_USER |
| | ITEM_TYPE | SEVERITY_LEVEL |
| | LAYOUT | SORT_ORDER |
| | LAYOUT_ELEMENT | SORT_ORDER_FIELD |
| | LAYOUT_ELEMENT_ATTRIBUTE | START_PAGE |
| | LAYOUT_TYPE | STATUS |
| | MODULE | SUBREPORT |
| | OUTPUT_TYPE | TITLE_MAP |
| | PRIORITY | UDF |
| | PRIVACY_GROUP | UDF_LIST |
| | PRODUCT | |

| | | |
|----------------|----------------|------------|
| ユーザ | AREA | START_PAGE |
| | PROJECT | TITLE_MAP |
| | SECURITY_USER | |
| テキスト・ メッセージ | EV_TEXT_LOOKUP | TITLE_MAP |

項目データのインポート

XML 形式から項目データをインポートするときには、3つのモードがあります。

- **バッチ・モード。**このモードでは、XML 形式の入力ファイルが連続的に処理され、ExtraView データベース内に新しい issue を作成します。これは管理画面から実行します。
- **API コマンド。**このモードでは、API コマンドを実行します。単一の issue を HTTP データ・ストリームの一部として ExtraView に渡します。この issue は処理に成功するとデータベースに追加されます。API コマンドは成功のメッセージか失敗のエラー・メッセージを返します。
- **入力ファイルを使用したAPI コマンド。**このモードでは、API コマンドを実行します。このコマンドは、ExtraView にインポートする 1 つ以上の issue のある入力ファイルを参照します。ファイルは処理され、その結果が呼び出しコマンドに返されます。

インポートする XML データは、以下に説明するドキュメント・タイプ定義 (DTD) に従う必要があります。DTD は ExtraView とともに提供されるものであり、WEB-INF/data/xml_dtd ディレクトリに格納されています。ユーザの XML インポート・ファイルまたはデータ・ストリームから直接参照できます。命名されているファイル名は extraview_item.dtd です。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>

<!ELEMENT locale (EMPTY)>
<!ATTLIST locale region CDATA "US">
<!ATTLIST locale language CDATA "en">
<!ATTLIST locale variant CDATA "">

<!ELEMENT item_list (item*)>

<!ELEMENT item (short_descr, severity_level, priority, status, product_name,
date_created, owner, timestamp, assigned_to, privacy,
last_change_user, alt_id, area_id, project_id, category,
resolution, product_line, date_last_status_change,
date_closed, release_found, release_fixed, contact,
originator, item_id, item_udf*, item_release*, item_module*,
item_attachment* )>

<!ELEMENT item_udf (title_specifier?, name_specifier?, CDATA*)>

<!ELEMENT item_release (title_specifier?, name_specifier?,
```

```
short_descr, severity_level, priority, status, product_name,  
date_created, owner, timestamp, assigned_to, privacy,  
last_change_user, alt_id, area_id, project_id, category,  
resolution, product_line, date_last_status_change,  
date_closed, release_found, release_fixed, contact,  
originator, item_id, item_udf*)>
```

```
<!ELEMENT item_module (title_specifier?, name_specifier?, assigned_to,  
status, timestamp, rc_version, last_change_user,  
item_module_id)>
```

```
<!ELEMENT title_specifier (CDATA)>  
<!ELEMENT name_specifier (CDATA)>  
<!ELEMENT short_descr (CDATA)>  
<!ELEMENT severity_level (CDATA)>  
<!ELEMENT priority (CDATA)>  
<!ELEMENT status (CDATA)>  
<!ELEMENT product_name (CDATA)>  
<!ELEMENT date_created (CDATA)>  
<!ELEMENT owner (CDATA)>  
<!ELEMENT timestamp (CDATA)>  
<!ELEMENT assigned_to (CDATA)>  
<!ELEMENT privacy (CDATA)>  
<!ELEMENT last_change_user (CDATA)>  
<!ELEMENT alt_id (CDATA)>  
<!ELEMENT area_id (CDATA)>  
<!ELEMENT project_id (CDATA)>  
<!ELEMENT category (CDATA)>  
<!ELEMENT resolution (CDATA)>  
<!ELEMENT product_line (CDATA)>  
<!ELEMENT date_last_status_change (CDATA)>  
<!ELEMENT date_closed (CDATA)>  
<!ELEMENT release_found (CDATA)>  
<!ELEMENT release_fixed (CDATA)>  
<!ELEMENT contact (CDATA)>  
<!ELEMENT originator (CDATA)>  
<!ELEMENT item_id (CDATA)>  
<!ELEMENT rc_version (CDATA)>  
<!ELEMENT item_module_id (CDATA)>
```

```
<!ELEMENT item_attachment (CDATA)>  
<!ATTLIST item_attachment file_desc CDATA #IMPLIED >  
<!ATTLIST item_attachment file_name CDATA #IMPLIED >  
<!ATTLIST item_attachment path CDATA #IMPLIED >  
<!ATTLIST item_attachment content_type CDATA #IMPLIED >  
<!ATTLIST item_attachment file_size CDATA #IMPLIED >  
<!ATTLIST item_attachment date_created CDATA #IMPLIED >  
<!ATTLIST item_attachment created_by_user CDATA #IMPLIED >
```

リピーティング行、UDF、および添付ファイルなどの項目に関連するすべてのデータが DTD で記述されており、すべて ExtraView でインポートすることができます。

XML ファイルの例の一部を以下に示します。ここでは 2 つの issue をインポートします。このファイルは上記の DTD を参照します。この例のインポート・ファイルでは、簡略化のため添付ファイルを短縮しています。

項目のインポートに関して、以下の点に注意してください。

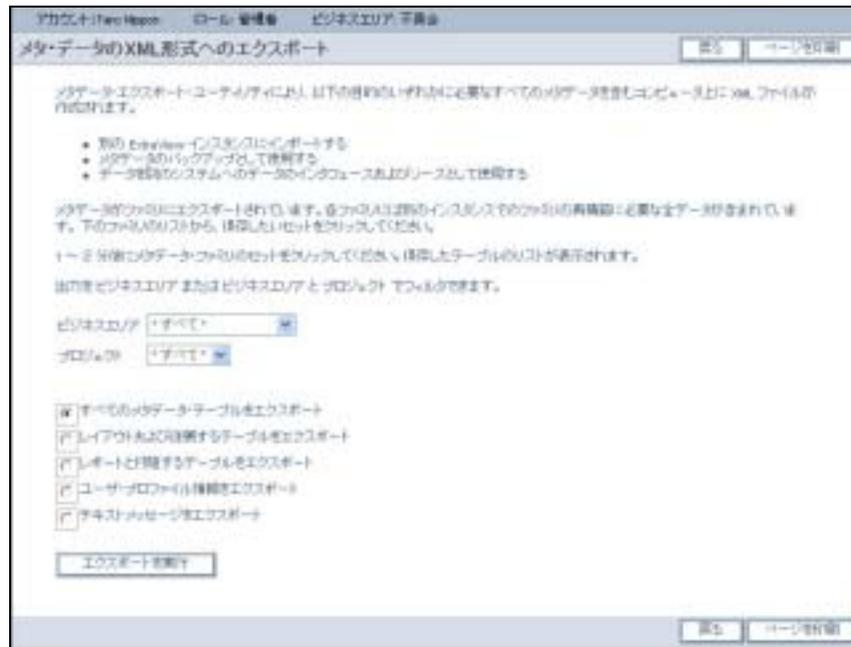
- DOCTYPE は DTD を参照しており、パスはユーザのサーバでこれが保存されているパスに対応しています。
- UDF は、名前またはタイトルによって参照できます。タイトルフィールドはインスタレーション全体で固有とは限らないので、できるだけ NAME を使用することをお勧めします。また、タイトルは DTD で指定したロケールによって変わることがあります。各ロケールに対して別々の DTD を作成し、インポートする XML ファイル内でローカライズしたタイトルを使用することができます。
- すべての文字データを CDATA タグに埋め込むことをお勧めします。
- XML では、Web インタフェース・ルールに従った構成が要求されます。例えば、ファイル - 名前 - 属性は、必ず項目 - 添付 - 属性のリストに表示されます。
- ユーザ・カスタム・メソッドの prAddPreInsert および prAddPostInsert は、各項目の挿入で実行されます。
- このインタフェース経由でレコードをインポートする場合、フィールド間の許容値は無視されます。無効な親子関係を誤って作成した場合、Web インタフェース経由でレコードを更新しようとするとその誤りが指摘されます。
- ITEM_ID は、XML 入力から読み取る issue を ExtraView コードが確認した時点で新しい issue に割り当てられます。レコードがなんらかの理由で拒否されると、ITEM_ID は破棄され、この ID を持つ issue は今後作成されません。次にインポートするレコードには、すぐ次の数が割り当てられます。
- 追加画面のレイアウト上で、あるフィールドが読み取り専用の場合(ユーザ・ロール、ビジネス・エリア、issue のプロジェクトで定義)は、項目インポート機能を考慮しています。さらに、このフィールドにデータ辞書で定義したデフォルト値がある場合、この値が挿入されます。
- 添付は、Base64 アルゴリズムを用いて暗号化する必要があります。
- その他の CDATA セクションの値は、必要に応じて Base64 に暗号化します。文字列が暗号化されているかどうかは、CDATA 文字列の先頭にあるセンチネル(“%25S”)によって示されます。暗号化は、以下のどれかが発生した場合に必要となります。
 - a. 文字列の値がセンチネル値(“%25S”)で始まっている場合。
 - b. 文字列の値に CDATA エンド・マーカ(“]]>”)が含まれている場合。
 - c. 文字列の値に非 CDATA 許容文字が含まれている場合。CDATA 許容文字は、Web ページ(<http://www.w3.org/TR/REC-xml - NT-Char>)から取得した以下の Unicode 文字の値を使用して定義します。

```
Char ::= #x9 | #xA | #xD | [#x20-#xD7FF] | [#xE000-#xFFFD] |  
[#x10000-#x10FFFF]
```


メタデータの XML 形式へのエクスポート

エクスポートにより、XML 形式のメタデータを含むフラット・ファイルが作成されます。このファイルは、異なるプラットフォームや ExtraView の異なるインスタンスの間でやりとりできます。ファイル内のオブジェクトの順序は、ユーザが定義するのではなく、ExtraView の要件によって定義されます。データのエクスポートは、データのインポートを実行し、新しいオブジェクトを作成するための要件を満たすように定義されます。つまり、すべての関連データは依存するデータに従うことになります。

このオプションは、[Administration] の [インポート/エクスポート] タブから設定できます。



ExtraView ファミリのエクスポート

エクスポートは簡単に実行できます。インストレーション全体のメタデータをエクスポートする(ビジネス・エリアとプロジェクトが有効なときは、選択リストから [*** すべて ***] オプションを選択します)ことも、個々のビジネス・エリアやプロジェクトのメタデータをエクスポートすることも可能です。

[**エクスポートされるユーザ情報を最少にする**]というオプションをクリックすると、メタデータのエクスポートに必須であるユーザ情報だけがエクスポート・ファイルに書き込まれます。これにより、いくつかの問題点が解決できる場合があります。例えば、ユーザ情報は動的である場合が多く、ユーザが頻繁にパスワードを変更する可能性があったり、管理者が実稼動システムにおいてアカウントを有効にしたり無効にしたりする可能性があるでしょう。開発システムから実稼動システムにメタデータを移行したい場合でも、多くの場合、ユーザに関連する実稼動データは元の状態で残しておきたいと考えるでしょう。

次に、以下のリストからオプションをクリックして、エクスポートするデータ・ファミリを選択します。

- すべてのメタデータ・テーブル

- レポートを除く、すべてのメタデータ・テーブル
- すべてのレイアウトと付随する情報
- すべてのレポートと付随する情報
- すべてのユーザ・プロファイル情報
- すべてのメッセージ

エクスポート・ファイルの名前を入力するよう要求されます。このファイルは、ユーザのクライアント・コンピュータのローカル・ファイル・システムに保存されます。

システム内のメタデータの量により、エクスポートには時間がかかることがあります。メタデータの量により、作成されるファイルのサイズは、数メガバイトのこともあれば、50メガバイトを超えることもあります。

エクスポート・ファイルは、ExtraView の同じインスタンスや別のインスタンスにインポートできます。また、ファイルを他のアプリケーションに統合して使用することもできます。

メタデータの XML 形式からのインポート

注: 繰り返しますが、インポート機能を使用する前に、データベースの標準機能を使用してデータをバックアップすることを強くお勧めします。インポートしたメタデータ、レイアウト、レポート、およびユーザ・データは元に戻せませんが、処理中に失敗が発生することもあるからです。

インポート・メニューは、[Administration]メニューの [インポート/エクスポート] タブの中にあります。管理者はそこでロードするファイルを指定できます。

インポート機能は、XML 形式のフラットな画像ファイルを読み取り、管理者が選択したロードするオブジェクトの要求のとおりテーブルを更新します。ユーティリティは依存関係とすべての内部番号の付け直しを必要に応じて考慮し、整合性のある正確なインスタンスの更新を行います。

データが新しいルールを遵守しているかどうかの妥当性チェックは、できるだけ早く行います。妥当性の障害によってインポートが終了しても、その影響を最小限にできるからです。

ほとんどのインポートでは、[更新/マージ] 操作を使います。この操作では、すでに存在するレコードは更新され、インポートする XML ファイルに含まれている新しいレコードはデータベースに統合されます。



インポート・プロセスの開始

画面上の指示に従ってください。画面からわかるように、主なインポート方法は次の3つです。

- [マージ] ターゲット・スキーマ内の既存のレコードはそのままにして、インポートする XML ファイル内の新しいレコードを追加します。ExtraView では、データベース内でその操作に対し新しい連続番号を使用します。
- [更新/マージ] 更新と統合を組み合わせた操作であり、ターゲット・スキーマ内にすでにあるレコードは更新され、インポートするレコードが存在しない場合は新しいレコードとして挿入されます。
- [ローカライズの更新/マージ] このモードでは、インポート・ファイルからローカライズされたメッセージのみをインポートし、メタデータの他の部分は処理しません。この操作は通常、ローカライズされたメッセージをあるインスタレーションから別のインスタレーションに移動するために使用され、更新されたローカライズ版メッセージだけを移動先のインスタレーションに提供します。

出力先データベース内のリストで、オブジェクトのタイトルなどのメタデータを変更し、これと同様のデータ変更を XML エクスポートを行ったソース・データベースで行っていない場合、ExtraView ではフィールドを再度マッピングする機会が与えられます。インポート・ファイルから新しいフィールドを作成し、それを出力先データベースに挿入する必要はありません。このチェックを実行するときは、[一致しないタイトルをマッピングする] のプロンプトにチェックが付いているかを確認してください。

チェックを実行するとき、インポートは2つの部分に分けられます。最初に、アップロードされた XML ファイルが前処理され、インポート内の各リストの値と、ターゲットの出力先データベースとが照合されます。出力先データベースに存在しない値がインポート・ファイル内にある場合、インポート・ファイル内の値と一致する値がないということが表示されます。ユーザは、インポート・ファイル内で指定された値を持たない値をターゲット・デー

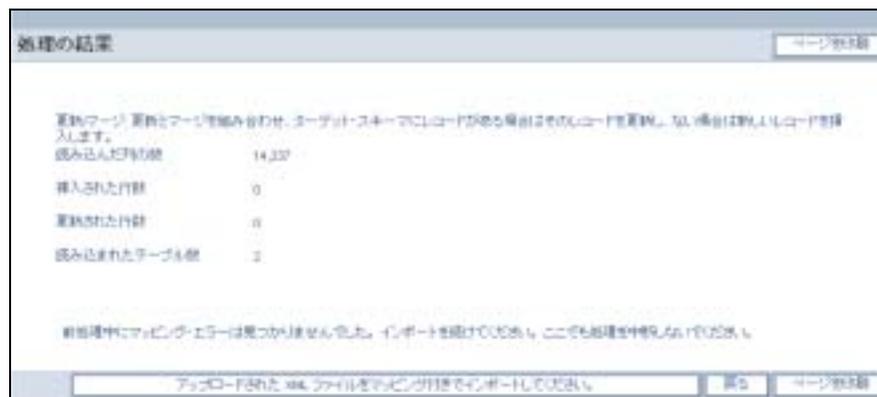
データベースから選択することができます。マッピングする値を選択した後で不一致がある場合は、インポートの第 2 段階へ進みます。ファイルが再度処理され、出力先データベースが更新され、選択したマッピングが適用されます。

データをビジネス・エリアにインポートする際、インポート処理で ID を 0 とするプロジェクトの作成が可能であり、インポート・ファイル内のプロジェクト ID が 0 である場合、プロジェクト ID に 0 が使用され、インポート先のデータベースにマッピングされます。インポート先のビジネス・エリアに既に 0 というプロジェクト ID が存在している場合、インポート・ファイル内のプロジェクト ID 0 は、ゼロ以外の新しいプロジェクト ID にマッピングされます。どの場合でも、ビジネス・エリアにあるプロジェクト・タイトルがマッピングされるプロジェクトと一致すれば、それらの決定が上書きされます。

プロジェクト ID 0 はビジネス・エリア内にあるゼロ以外のプロジェクト ID のためのレイアウト、権限、その他のオブジェクトの継承に使用され、ExtraView は継承が機能するためにプロジェクト ID 0 が常に存在するようにしているため、このことは重要です。

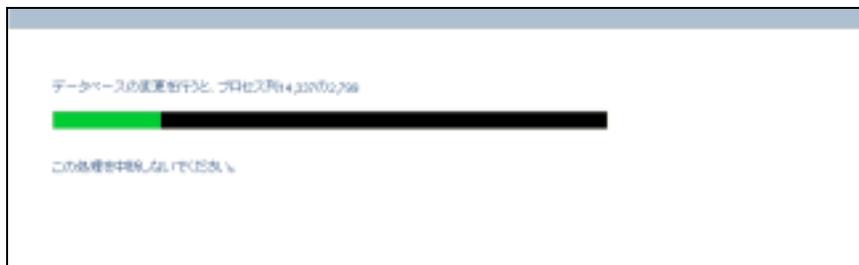
ある状況においては、インポート処理ですべてのデータをエクスポート・ファイルから解決するのが困難である可能性があります。ユーザ・データをインポートしていない場合で、インポート・ファイル内の情報にインポート先データベースに存在しないユーザへの参照が含まれている場合、インポート・エラーが発生することがあります。見つからないユーザがレイアウトなどの項目を作成または最後に更新した人であった場合、特にこの問題がはっきり表れます。ExtraViewは内部オブジェクトに接続されているユーザの参照の整合性を保つ必要があるため、それらのデータはインポートされません。

一般的に、許容値リストにある親または子の現在の値が無効であると、XMLインポート・エラーが発生してそれらはインポートされません。これによって許容値リストが不完全になる場合があります。



インポート・ファイルの前処理結果

データの前処理中やインポート中には、次のようなステータス・バーが表示されます。



インポート処理中の進捗状況バー

注: データのインポートにはある程度時間がかかります。インストレーションの規模が小さい場合は 10 分程度ですが、大規模なインストレーションの場合は 30 分以上かかることもあります。所要時間は、処理対象のファイルのサイズ、フィールド、レイアウト、権限の数などの要因、データをロードするサーバの速度に依存します。ブラウザの性能の限界により、処理の初めの段階ではフィードバックがほとんどありませんが、その間ブラウザはクライアント・マシンからサーバへインポート・ファイルをアップロードしています。この作業の間、特にレイアウトをインポートしている場合は、各ユーザが ExtraView を使用できないようにしておくことをお勧めします。データのインポート中に、ユーザをシステムからロックアウトしておくことができます。これは、[Administration]メニューの [ユーザ] タブにある [ユーザアクセスの有効化 / 無効化] を使って行います。

注: インポート・ファイルを ZIP 形式で圧縮しておく、インポート操作の実行時間を短縮できます。XML ファイルであれば、元のファイル・サイズの 10% 未満にまで大幅に圧縮されます。ExtraView は ZIP ファイルの名前と XML ファイルの名前が同じであれば、ZIP ファイルに含まれている XML ファイルを探します。

注: いったんインポート操作を開始したら、中断はしないでください。実際にインポートが開始すると、ユーザがブラウザを終了しても ExtraView はサーバ操作をキャンセルしません。



インポート・データのサマリ画面

インポート・プロセス内でのユーザ・データの取り扱い

ユーザは ExtraView を使用する際、頻繁にパーソナル設定を変更します。例えば、ユーザはホーム・ページ・レポートや、タイムスタンプの表示形式、あるいはその他多く

の属性の 1 つを変更することがあります。エクスポートする開発システムおよび本稼動システムにインポートするメタデータは、最近変更したユーザ・データを無効にする可能性があります。OMITTED_IMPORT_USER_COLUMNS という動作設定により、管理者は特定の列を無視できるように設定できます。このフィールドの値は、セキュリティ・ユーザ・オブジェクトのインポート時に、更新から除外される列名のカンマ区切りリストです。このリストに追加できる値には、以下のようなものがあります。

| 列名 | 意味 |
|-----------------------|-------------------------------------|
| LAST_NAME | ユーザの姓 |
| FIRST_NAME | ユーザの名前 |
| SECURITY_PASSWORD | ユーザのパスワード |
| JOB_TITLE | ユーザの職位 |
| WORK_TELEPHONE | 職場の電話番号 |
| HOME_TELEPHONE | 自宅の電話番号 |
| CELL_PHONE | 携帯電話の番号 |
| FAX | ファクス番号 |
| PAGER | ポケット・ベルの番号 |
| COMPANY_NAME | 会社名 |
| ADDRESS_LINE1 | 住所 1 行目 |
| ADDRESS_LINE2 | 住所 2 行目 |
| CITY | 市区町村 |
| STATE | 県 |
| POSTAL_CODE | 郵便番号 |
| COUNTRY | 国名 |
| LAST_ACCESS_DATE | ユーザが最後に ExtraView にアクセスしたときのタイムスタンプ |
| EMAIL | 電子メール・アドレス |
| EMAIL_FORMAT | 受信電子メールの形式 |
| LANGUAGE | 表示言語 |
| DATE_FORMAT | 日付の表示形式 |
| TIMEZONE | ユーザのタイムゾーン |
| NOTIFY_ON_OWN_UPDATES | 更新時のユーザへの通知 |
| USER_ROLE | ユーザの現在のロール |
| DRILLDOWN_REPORT | ユーザがレポートをドリルダウンする場所 |
| VARIANT | ロケールのバリエーション |
| REPORT_EXPANDED_QUERY | 標準または圧縮されたクエリ・フィルタ |
| AREA_ID | ユーザの現在のエリア |
| PROJECT_ID | ユーザの現在のプロジェクト |
| TWENTY_FOUR_HOUR_TIME | 12 時間または 24 時間形式で時刻を表示 |
| REPORT_1_ID | ホーム・ページ・レポート 1 |
| REPORT_2_ID | ホーム・ページ・レポート 2 |
| REPORT_3_ID | ホーム・ページ・レポート 3 |
| HTTP_CHARSET | ブラウザの文字セット |
| REGION | ロケールの地域 |
| CHART_FONT | グラフのフォント |
| STYLESHEET | ブラウザ内のテキスト・サイズ |
| MS_OFFICE_CHARSET | MS Office アプリケーションへの出力文字セット |

メタデータのインポート中のエラー・ログ

XML の更新が実行されると、エラーのテキスト・ログがサーバ上に作成されます。各エラー・エントリには、テーブル、行番号、その時点で使用していたデータ、および例外メッセージなどの役立つ情報が可能な限り含まれます。このエラー・ログは、ブラウザのサマリ画面に表示されます。

エラー・ファイルは、次の名前ですべてのシステムの一時的ディレクトリに格納されます。

```
<time_in_ms>_<user_id>_XML_ERRORS.txt
```

以下に例を示します。

```
1026520070671_JEFF.SYKES_XML_ERRORS.txt
```

エラー・メッセージはすべて、次の行で開始します。

```
::XML_UPDATE_ERROR::
```

その後新しい行が追加され、最後は次の行で終わります。

```
::END_XML_UPDATE_ERROR::
```

この後に新しい 2 行の文字が続きます。エラーの例を以下に示します。

```
::XML_UPDATE_ERROR::  
An error occurred updating row 125 of ITEM_MODULE with this data:  
{blah = blah, this = that, you = them}  
  
Exception:  
java.sql.SQLException: ORA-00904: invalid column name  
::END_XML_UPDATE_ERROR::  
  
::XML_UPDATE_ERROR::  
An error occurred updating row 126 of ITEM_MODULE with this data:  
{blah = blah, this = those, you = me}  
  
Exception:  
java.sql.SQLException: ORA-00904: invalid column name  
::END_XML_UPDATE_ERROR::
```

エラー・ファイル内にマルチバイト文字を保存できるようにするため、エラー・ファイルは標準のテキストとしては作成されません。標準のエディタでファイルを開くと、ファイル内のメタデータの大部分で、2 番目の文字がヌルであることに気づくでしょう。

メタデータのインポート中に拒否されたレコードの取り扱い

ExtraView が XML インポート・ファイルを処理していて、更新ルーチンを開始すると、更新を妨げるエラーが発生した場合、障害のある XML ノードのデータがキャプチャされ、新しい XML ファイルを作成するのに使用されます。このファイルは元のファイルと同じ構造ですが、正常に更新できない項目が含まれています。更新処理中にエラーが発生しなかった場合、このファイルは空なので、更新処理の終了時に削除されます。

このファイルは、次の名前でシステムの一時ディレクトリに保存されます。

```
<time_in_ms>_<user_id>_XML_REJECTS.xml
```

以下に例を示します。

```
1026520070671_JEFF.SYKES_XML_REJECTS.xml
```

XML エクスポートおよび XML インポートを使用したインスタンスの更新

XML エクスポートおよび XML インポートの処理は、ExtraView の実働インスタンスの更新を容易に行えるように設計されています。いくつかの理由で更新が必要である場合があります。

- ビジネス・エリア、プロジェクト、レイアウト、ロジック、レポートなどのフォームにおいて新しい機能を開発中であるが、ExtraView の実働インスタンスに変更を加えたくない場合
- ExtraView ソフトウェアの新しいリリースを入手しており、使用中のアプリケーションに対して新しいリリースをテストした後に、本稼働中のシステムをアップグレードしたい場合

これらの作業を実行するには、反復可能かつ回復可能なプロセスを提供することが重要です。以下の推奨事項に従うことにより、作業を達成するための確実な手法が得られます。状況に応じて、また許容される危険度のレベルに従って、以下に示す推奨事項はある程度簡素化することができます。これらの手順を簡素化したい場合、ステージング・インスタンスを経由せずに開発インスタンスを実働インスタンスに直接移行することができます。

インスタンスの種類

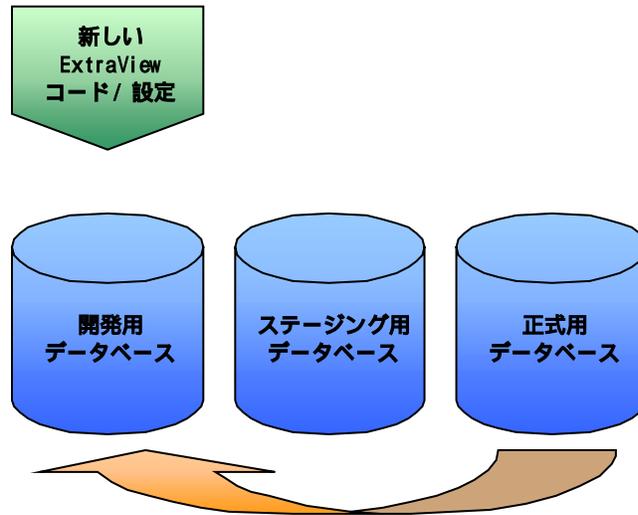
- **実働環境** – issue の本番処理を行うための ExtraView のサーバ・インスタンス
- **ステージング環境** – 実働データのコピーと ExtraView の開発システムのコピーがある中間のサーバです。このインスタンスでは ExtraView のメタデータを変更しないでください。この環境は、変更を実働環境に適用する前に、ExtraView の機能を検証する目的でのみ使用されます。
- **開発環境** – ステージング環境に変更を適用する前に、すべての変更を構成に反映させるための ExtraView のインスタンスです。

手順 1 開発インスタンスを作成する

- データベース・バックアップ手順に従って、実働データベースのダンプを取得し、新しい開発データベースのデータベース・スキーマを作成します。
- ExtraView のアップグレードを行う場合、実行すべきデータベース・アップゲ

ロード・スクリプトがあれば、ここで開発データベースに対して実行してください。

- ExtraView アプリケーション・コードをインストールし、新しい開発データベースに接続するようコードを構成して、アプリケーション・サーバを起動します。



開発インスタンスの作成

手順 2 構成作業を実施する

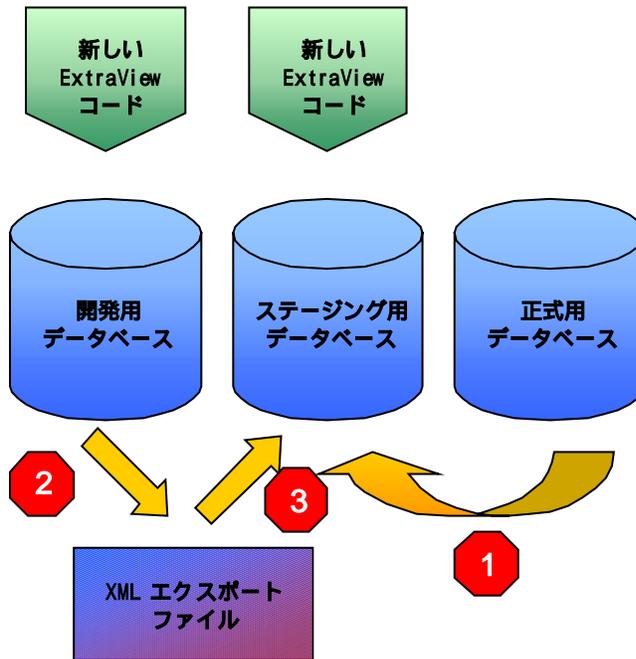
開発環境内で、すべての構成作業およびテストを実行し、導入予定のシステムを完全に開発します。

手順 3 開発環境をステージング環境に移行する

この手順の目的は、すべての品質保証および最終テストを実行できる、完全な稼動システムを取得することです。

- 実働データベースのバックアップ・コピーをもう 1 つ取得します。
- 新しいステージング・データベースを作成し、本番データを新しいデータベースにインポートします。
- ExtraView のアップグレードを行う場合、実行すべきデータベース・アップグレード・スクリプトがあれば、ここでステージング・データベースに対して実行してください。ステージング環境の ExtraView データベースのバージョン番号が、開発環境からインポートしようとするデータベースのバージョン番号と同一であることが非常に重要です。
- XML エクスポート機能を使用して、ExtraView メタデータをエクスポートします。
- XML インポート機能を使用して、ExtraView メタデータをステージング・データベースにインポートします。

- ExtraView コードをアップグレードしている場合、ここでインストールを行い、アプリケーション・サーバを再起動します。



開発インスタンスのステージング・インスタンスへの移行

手順 4 ステージング・データベースにある ExtraView 環境全体の品質を調査する

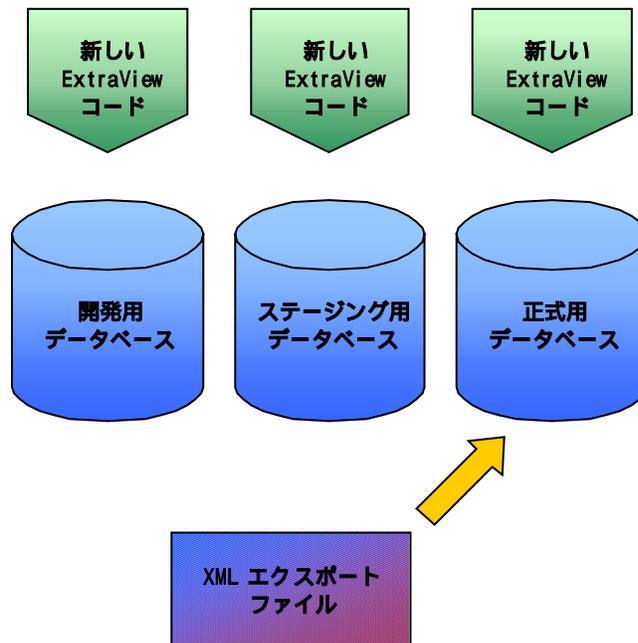
これはプロセス上極めて重要な手順であり、期待どおりの結果が取得できることを確認し、最終的に本稼動環境で得られる結果が正確に予測できることを確認します。

注: ここでは ExtraView の構成を変更しないでください。問題が生じた場合、もう一度手順 1 からやり直してください。

手順 5 実働データベースをアップグレードする

- アップグレード中にユーザがアクセスできないよう、実働データベースを停止します。
- 実働データベースのバックアップを取得します。
- ExtraView をアップグレードしていて、実行すべきデータベース・アップグレード・スクリプトがある場合、ここで実働データベースに対して実行します。ステージング環境の ExtraView データベースのバージョン番号が、開発環境からインポートしようとするデータベースのバージョン番号と同一であることが非常に重要です。

- 実働データベースにおいて XML インポート機能を使用して、手順 3 で作成された XML エクスポート・ファイルをインポートします。
- ExtraView コードをアップグレードしている場合、ここでインストールを行い、アプリケーション・サーバを再起動します。
- 管理者アクセスを使用して、実働環境が正しく稼働していることを確認します。



実働インスタンスの更新

これで、ExtraView の実働インスタンスのアップグレードが完了します。

項目データの XML インポート

バッチ・モード

この機能は、[Administration] メニューの [インポート/エクスポート] タブにある [項目データのXMLインポート] という機能で実行します。この機能にアクセスすると、次のような画面が表示されます。

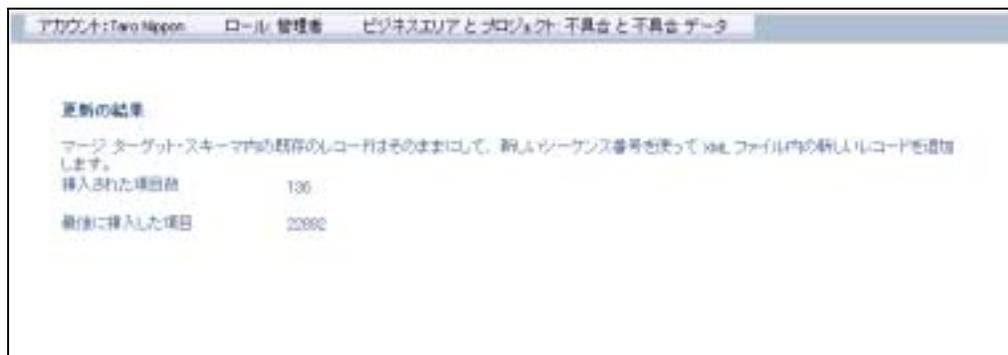


XML 項目ファイルをロードするためのバッチ・インタフェース

現時点では、[マージ] 機能でのインポートにしか対応しておりません。将来のバージョンでは、他の方法による項目データのインポートにも対応していく予定です。

[参照] ボタンを使用して、インポートする項目データを含む XML ファイルを指定します。次に、[XML ファイルをアップロード] をクリックします。XML データ・ファイルがサーバにアップロードされるのを待ちます。ファイルのサイズによっては、少々時間がかかることがあります。

注: 大きなファイルのインポートにかかる時間を短縮するため、入力ファイルを ZIP 形式で圧縮し、その ZIP ファイルをアップロードしてもかまいません。ExtraView では、アップロードされた ZIP ファイルを自動的に解凍します。



バッチ XML インポートの結果画面

ファイルの処理中には、進捗状況を知らせるステータス・バーが表示されます。処理が完了すると、上のような画面が表示されます。インポート・ファイル内にエラーがあれば、結果画面に表示されます。

API コマンド

このコマンドについては、『ExtraView コマンドライン・インターフェイスおよび アプリケーション・プログラミング・インタフェース・ガイド』で詳細を説明しています。

xml_insert という API 操作では、XML 形式の入力から、ExtraView データベース内に新しいレコードを作成します。この入力 は HTTP データ・ストリームの一部として作成されたものでも、あるいは XML 形式のファイルからの入力でもかまいません。

構文:

```
http://www.myserver.com/evj/ExtraView/ev_api.action?
user_id=username
&password=password
&statevar=insert_xml
&xml_file_name=filename | &xml_string=xml_data
&template_file=file.html
```

- xml_file_name または xml_string のどちらかを入力しますが、両方は使用しないでください。コマンド実行時に存在するファイルからの入力であれば、xml_file_name を使用します。挿入するデータが HTTP リクエストの一部として提供される場合は、xml_string を使用します。この文字列には、解析される XML データが含まれます。
- template_file は、戻り値文字列の生成に使用するテンプレート名です。通常、このテンプレート・ファイルは、サーバの WEB-INF/user_templates ディレクトリ内に格納されます。操作が正常に完了すると、このテンプレートのパラメータは以下の変数名に置き換えられます。

| タグ | 説明 |
|---------------------------|---------------------|
| __ID__ | 最後に挿入された項目の項目番号 |
| __NUMBER_ITEMS_INSERTED__ | 挿入された項目の番号 |
| - | |
| __ITEM_TITLE__ | ITEM_ID 辞書エントリのタイトル |

ユーザ・テンプレートの作成方法の詳細は、『ExtraView コマンド・ライン・インタフェースおよびアプリケーション・プログラミング・インタフェース・ガイド』のテンプレートに関するセクションを参照してください。

テンプレート・ファイルがリクエストされていない場合、コマンドは HTTP を経由して呼び出しプログラムへ完了メッセージを返します。

エラーで完了したときに返される文字列には、次の形式の error.html ユーザ・テンプレートに値が入れられたエラー・メッセージが含まれています。

```
error-message "at line=xxx and column number=yyy"
```

xxx および yyy は、XML 構文解析ツールによって返される値です。

一例として、次のメッセージが返されたとします。

```
"The end-tag for element type "ITEM" must end with a '>' delimiter at line=8 and column number=9"
```

- API の 1 回の呼び出しでは、XML_STRING に 1 つのレコードしか挿入できま

せん。入力が 1 つのファイル内にあるときは、1 回の操作でのレコード数に制限はありません。

項目データのインポート・エラー

| エラー・メッセージ | 説明 |
|---|--|
| Ambiguous Area title: <i>title</i> | XML 内のビジネス・エリアのタイトルがデータベース内で固有ではありません。代わりにビジネス・エリアの名前を使用してください。 |
| Ambiguous Module title: <i>title</i> | そのタイトルを持つモジュールが固有ではありません。この場合は衝突を避けるためにモジュール名を使用してください。 |
| Ambiguous Project title: <i>title</i> | XML 内のプロジェクトのタイトルがデータベース内で固有ではありません。代わりにプロジェクトの名前を使用してください。 |
| Ambiguous Repeating record title: <i>title</i> | そのタイトルを持つリピーティング行が固有ではありません。この場合は衝突を避けるために名前を使用してください。 |
| Ambiguous UDF title: <i>title</i> | そのタイトルを持つ UDF が固有ではありません。この場合は衝突を避けるために UDF 名を使用してください。 |
| Bad zip file or invalid XML tag at beginning of file | ExtraView が XML データを含む ZIP ファイルを読み取ることができません。または、ファイルの先頭にある XML タグが無効です。 |
| Cannot dereference list entry for ddname [<i>value</i>] | データ辞書名の <i>value</i> に対応するリスト値がありません。 |
| End Attachment tag outside Attachment | 添付終了タグは添付データの最後に置く必要があります。 |
| End item tag outside item | 項目終了タグは項目データの最後に置く必要があります。 |
| End module tag outside module | モジュール終了タグはモジュール・データの最後に置く必要があります。 |
| End <i>name</i> tag outside <i>name</i> | 名前終了タグは名前データの最後に置く必要があります。 |
| End Repeating record tag outside Repeating record | リピーティング行終了タグは、リピーティング行データの最後に置く必要があります。 |
| End UDF tag outside UDF | UDF 終了タグは UDF データの最後に置く必要があります。 |
| Illegal NAME construct ignored | 有効な名前構造を使用してください。 |

| | |
|--|--|
| Invalid characters in the title value:[<i>value</i>] | タイトルの値に不正な文字が含まれています。 |
| No dentry for dereferenced name: <i>dd_name</i> | <i>dd_name</i> に対応するデータ辞書エントリがありません。 |
| No Area with title: <i>title</i> | そのタイトルを持つビジネス・エリアがデータベース内に存在しません。 |
| No Module with title: <i>title</i> | そのタイトルを持つモジュールが存在しません。 |
| No product name for module: <i>name</i> | モジュールを追加するときは、必ず XML 内の PRODUCT_NAME フィールドを使用する必要があります。 |
| No product name for release: <i>name</i> | このフィールドに依存するリピーティング行を追加するときは、必ず XML 内の PRODUCT_NAME フィールドを使用する必要があります。 |
| No Project with title: <i>title</i> | そのタイトルを持つプロジェクトがデータベース内に存在しません。 |
| No Repeating record with title: <i>title</i> | そのタイトルを持つリピーティング行が存在しません。 |
| No such XML file: <i>file_name</i> | 入力した XML ファイルが存在しないことを示しています。 |
| No UDF with title: <i>title</i> | そのタイトルを持つ UDF がデータ辞書内に存在しません。 |
| Nothing to convert from XML to DB; quitting | 入力した XML ファイルが空のようです。 |
| Unrecognized end element tag: <i>name</i> | その名前の終了タグが、その名前の開始タグと一致していません。 |
| Unrecognized start element tag: <i>tag_name</i> | 要素タグ名が有効ではありません。 |
| WARNING: this source locale: [<i>locale</i>] is not available in target system | ExtraView のインストール内に存在しないロケールを使おうとしていることを DTD が指摘しました。 |
| Validation exception: <i>exception</i> | 一般検証例外 (<i>exception</i> を参照)。 |

ファイル・インポート- Issue データ

ファイル・インポート・ユーティリティを使用することにより、管理者はクライアント・コンピュータからタブ区切りファイルまたはカンマ区切りファイルをアップロードして、そのファイル内のフィールドや値を ExtraView の値にマッピングし、データを検証して最終的にそのデータをインポートします。新しい issue としてデータをアップロードするか、データを使用して既存の issue を更新することができます。この機能へのアクセスは、セキュリティ権限キー CF_FILE_IMPORT で制御されます。インポートは、ビジネス・エリアおよびプロジェクトごとに個別の処理として動作するため、インポート・ファイルは単一のビジネス・エリアおよびプロジェクトのみをターゲットとします。インポート対象のフィールドは、適切

な追加レイアウトまたは当該ビジネス・エリアおよびプロジェクト用の組み込みレイアウトの1つに存在していなければなりません。

一般に、インポートするファイルには、ExtraView に追加すべき他のシステムのデータが含まれています。Microsoft Excel は、インポートに適した形式でデータを作成するのに役立つツールです。以下のプロセスを実行します。

- ファイルをインポートしたりアップロードするためのテンプレートを作成します。
- ExtraView は、アップロードするファイルと ExtraView データベースの両方にあるフィールドに対して、自動的にマッピングを行います。
- ExtraView は、アップロードするファイルと ExtraView データベースの両方にあるフィールド値に対して、自動的にマッピングを行います。
- マッピングの結果が表示されるので、フィールドまたはフィールド値のマッピングを修正します。
- このとき、アップロードされたデータを検証し、アップロード実行前のファイルにエラーがないことを確認します。
- エラーがある場合はそれを修正して、同じテンプレートにファイルを再度アップロードします。
- 最後に、インポートを実行してレコードを挿入します。

注: ExtraView では、データをインポートする際にフィールドが必須かどうかを区別しません。また、データをインポートするときにフィールドの値が適切で許容される関係になっているかも見ません。ただし読み取り専用のフィールドについては無視しないので、編集画面のレイアウトで読み取り専用になっているフィールドをインポートする方法について、このセクションで後ほど説明します。また、Web インタフェースまたは CLI を経由してこのようなレコードを編集し更新しようとする、適切な検証が実行されるので、その時点でこのタイプのエラーがあれば修正する必要があります。



ファイル・インポート・メニュー

アップロード・ファイルの作成

| ID | タイトル | アーティスト | 発売日 | 商品名 | 優先度 | コスト | ステータス | | |
|-------|---------|----------------------------|---------------|------------|-----------|---------|-------|------------|------|
| 10487 | ソフウェア | インタフェース・セジュール | Taro Hiron | 2003/11/16 | T rackler | Low P 3 | 4.2.3 | Small Inc. | 新規 |
| 10487 | ソフウェア | インタフェース・セジュール | Taro Hiron | 2004/2/3 | T rackler | Low P 3 | 4.2.3 | Dig Corp | 新規 |
| 10485 | ソフウェア | データベース | Taro Hiron | 2003/8/6 | T rackler | Low P 3 | 4.2.2 | | リリース |
| 10021 | ソフウェア | A single system uses rpt | Jerry Duncz | 2004/1/16 | T rackler | Low P 2 | 4.2.2 | | オープン |
| 10027 | ソフウェア | How wings will fly, that's | Chris Roberts | 2003/11/16 | T rackler | Low P 3 | 4.2.2 | Making Inc | 新規 |
| 10029 | ソフウェア | How wings will fly, that's | Chris Roberts | 2004/2/6 | T rackler | Low P 2 | 4.2.2 | | 新規 |
| 10026 | パッケージング | Save it to a file with a g | Chris Roberts | 2004/1/16 | T rackler | Low P 3 | 4.2.2 | ABC | 新規 |
| 10021 | ソフウェア | A single system uses rpt | Jerry Duncz | 2003/1/16 | T rackler | Low P 2 | 4.2.3 | | 新規 |
| 10022 | ソフウェア | Save it to a file with a g | Jerry Duncz | 2004/1/16 | T rackler | Low P 2 | 4.2.2 | | 新規 |

Excel で作成したアップロード・ファイルの例

図の上の矢印は、スプレッドシートの 1 行目を指しています。それぞれの列に、入力の一部であるフィールド名が入っています。スプレッドシートの残りの行には、フィールド名に対応するデータが含まれています。以下の点に注意してください。

- インポート・ファイル内のフィールドには、ExtraView 内のフィールドと異なる名前が付いていることがあります。しかし、これらの名前が同じであれば(大文字・小文字を区別せずに比較した場合)、ExtraView はインポート・ファイルのフィールドを固有のデータ辞書へ自動的にマッピングします。
- ExtraView は、表示タイプがリスト、タブ、ポップアップ、またはユーザであるフィールド内の値を自動的にマッピングしようとします。このとき、大文字と小文字は区別しません。例えば、*open* という名前のインポート・ファイルのステータスは、*Open* という ExtraView のステータス値に自動的にマッピングされます。ExtraView によって値がマッピングできない場合は、レコードをアップロードする前にマッピングを行う必要があります。
- インポート・ファイル内の、表示タイプがリスト、タブ、ポップアップ、またはユーザであるフィールド内の値は、データをインポートする前に ExtraView 内に存在していなくてはなりません。ExtraView がレガシー・システムから不具合のあるデータを受け継ぐおそれがあるため、ExtraView は新しい値を自動的に作成しません。ただし、ExtraView では存在しない値から有効な値へのマッピングをユーザが行うことは可能です。
- 日付フィールドをインポートする場合、日付の書式は重要であり、インポートを実行しているユーザの日付の書式と一致しなければなりません。一致しない場合、インポート・ファイルの日付書式が不確実であるため、ExtraView があいまいな日付に遭遇する可能性があります。書式を一致させるためには、ユーザは各自のパーソナル・オプション画面に入り、表示される書式の中からインポート・ファイルの書式に一致する日付の書式を選択すべきです。リスト内にインポート・ファイルの書式と一致するものがない場合は、**カスタム日付マスク**を選択し、日付の書式をカスタム書式指定用フィールドに入力してください。カスタム日付マスクの指定については、本書の付録 A を参照してください。
- あるフィールドのデフォルト値がデータ辞書で設定されている場合、インポート・ファイル内に値がなければ、そのデフォルト値がすべてのレコードの中に挿入

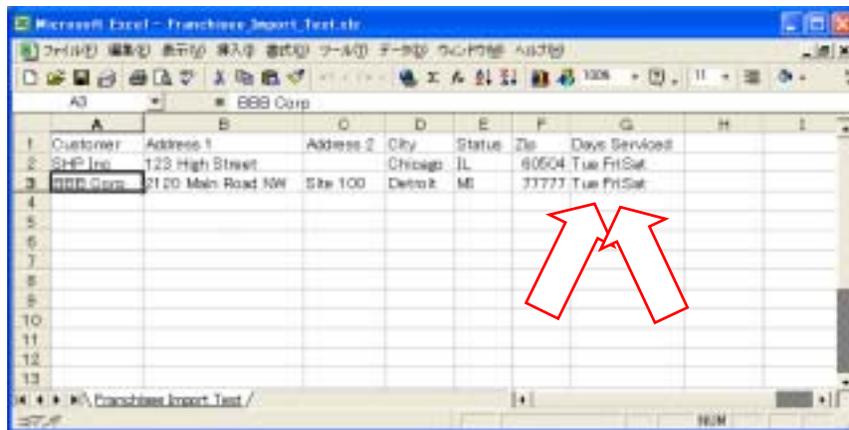
されます。

スプレッドシートの作成が終わったら、Excel の [ファイル]、[名前を付けて保存] メニューで、テキスト(タブ区切りファイル)または CSV(カンマ区切りファイル)のどちらかをファイル・タイプとして選択し、保存します。

注: インポートできるファイルのサイズは 20,000,000 バイトまでで、レコード 1 件につき 100 フィールドまでです。インポートするデータが非常に大きい場合は、複数のインポート・ファイルに分割して、個別に処理を行った方が効率的です。

複数値フィールド

インポートするフィールドが複数値タイプの場合は、インポート・ファイル内で特別な準備が必要です。インポートするすべての値は、ファイルの区切り文字(タブまたはカンマ)の間に存在する必要があります。ただし ExtraView では、異なる値の区別が可能です。これを行うには、DEFAULT_TEXT_REPORT_DELIMITER という名前の動作設定で、システム全体の区切り文字を使用します。この設定のデフォルト値は “:” です。この区切り文字を使用して値を区別します。例えば、*Sun, Mon, Tue, Wed, Thu, Fri, Sat* の曜日のリストがあるとします。レコード内で有効なデータ値を *Tue, Fri, Sat* と指定する必要がある場合は、スプレッドシートで *Tue:Fri:Sat* というエントリを使用します。



| | A | B | C | D | E | F | G | H | I |
|----|-----------|-------------------|-----------|---------|--------|-------|-------------|---|---|
| 1 | Customer | Address 1 | Address 2 | City | Status | Zip | Days Served | | |
| 2 | SHE Inc | 123 High Street | | Chicago | IL | 60604 | Tue Fri Sat | | |
| 3 | ABC Store | 2120 Main Road NW | Site 100 | Detroit | MI | 73777 | Tue Fri Sat | | |
| 4 | | | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | | | |
| 6 | | | | | | | | | |
| 7 | | | | | | | | | |
| 8 | | | | | | | | | |
| 9 | | | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | | | |
| 13 | | | | | | | | | |

複数値フィールドのインポート

テキスト・フィールド

テキスト・エリア、ログ・エリア、出力テキスト の表示タイプにマッピングされるフィールドには、復帰文字(ASCII 13)を含む値をインポートできるようにするための特別な扱いがあります。この文字は通常、1 行のデータの終了を示すために多くのアプリケーションで使用されています。これは、復帰文字の後のデータが新しいレコードであることを意味しています。残念ながら、Excel その他のアプリケーションからカンマ区切りファイルやタブ区切りファイルをエクスポートすると、これらの復帰文字がレコードの終了として扱われます。Excel と ExtraView のインポート機能の両方に対応した、この問題の是正方法は次のとおりです。

1. 復帰文字で区別された新しい行が、引用文字列(二重引用符のみ)の内側にあるかを確認します。これらはそのままレコードに挿入されます。詳しく説明すると、復帰文字は Unix ファイル内には存在せず、またブラウザは改行文字を受け取ったときにのみ正しく動作するので、復帰文字は ExtraView によって破棄されます。

2. タブ文字は、引用符で囲んだレコード(タブ区切りの場合)または別の場所(カンマ区切りの場合)に挿入できます。これらはそのままレコードに挿入されます。
3. 二重引用符をフィールドに入れるには、この二重引用符を二重にします。つまり、""が1つの引用文字を表します。ただし、1つの単語の中で二重引用符が最初の非空白文字ではないのであれば、フィールドの中に二重引用符を入れることもできます。したがって、abc"def は修正が不要ですが、“abcdef” は修正が必要となります。

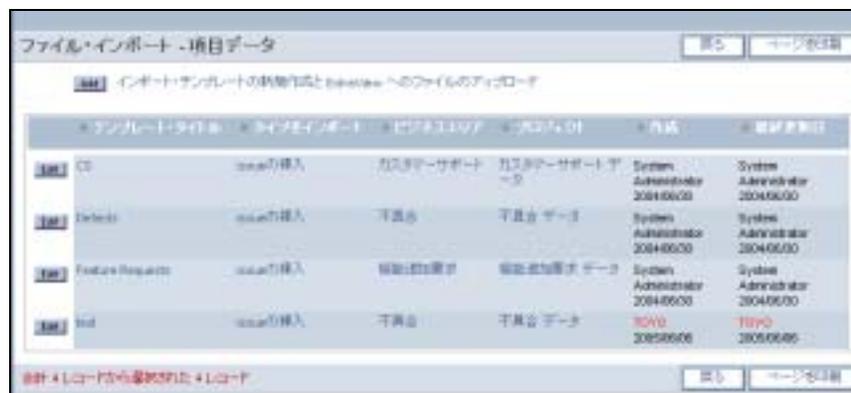
最大フィールド・サイズ

インポートするフィールドには、フィールドのタイプに応じて次のような最大サイズの制限があります。

| フィールド/フィールド・タイプ | 最大サイズ |
|---------------------------------|-----------|
| [リスト・フィールドのタイトル] (メタデータとしてロード) | 100 バイト |
| [ユーザID] (メタデータとしてロード) | 30 バイト |
| [ユーザの名] (メタデータとしてロード) | 128 バイト |
| [ユーザの姓] (メタデータとしてロード) | 128 バイト |
| タイトル | 255 バイト |
| 代替ID | 30 バイト |
| UDF テキスト・フィールドの表示タイプ | 256 バイト |
| UDFテキスト・エリア、ログ・エリア、出力テキストの表示タイプ | 約 31k バイト |

データのマッピングとインポートの実行

ExtraView の[Administration]メニューからファイル・インポート・ユーティリティを起動します。次の画面が表示されます。



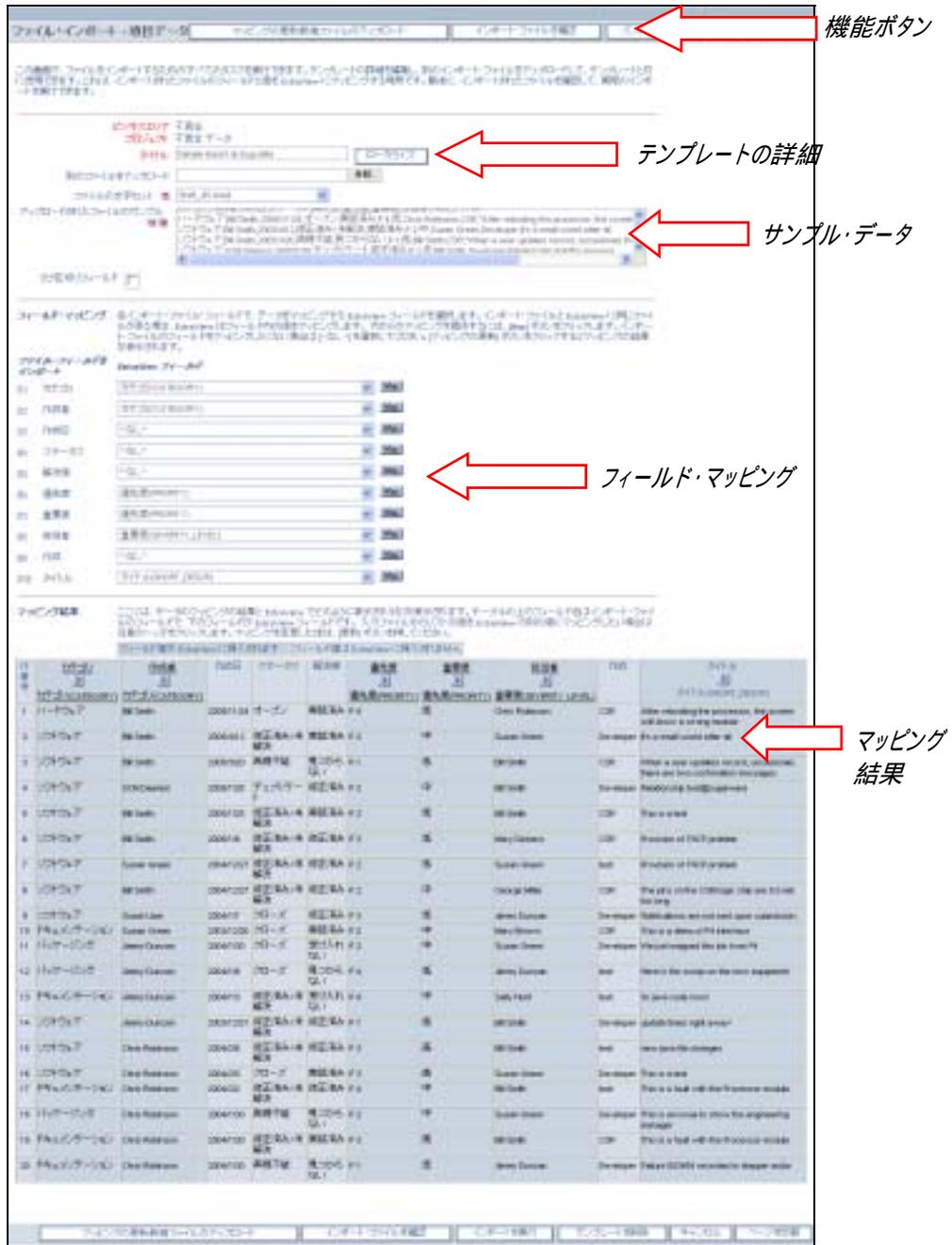
ファイル・インポート・ユーティリティ

新しいインポート・テンプレートを作成すると、次の画面が表示されます。テンプレート名を入力し、アップロードするファイルを選択するだけです。インストレーションでビジネス・エリアとプロジェクトを使用している場合は、これらの選択リストが画面に表示されます。いったん特定のビジネス・エリアとプロジェクト用のテンプレートを作成すると、変更はできません。

テンプレートを新しいレコードの作成に使用するか、既存のレコードの更新に使用するかを選択します。選択には、[モードを選択]のプロンプトを使用します。

インポート・テンプレートの作成

次のようなインポートのメイン画面が表示されます。



インポート画面

機能ボタン – 以下の機能を実行します。

- [マッピングの更新/新規ファイルのアップロード] – フィールド・マッピング・セクションでフィールドのマッピングを変更したり、[Map] ボタンを使用して値のマッピングを変更するか新しいファイルをアップロードする場合、このボタンをクリックすると画面が更新され、結果セクションが改めて表示されます。
- [インポート・ファイルを確認] – この機能は、インポート・ファイルの各行をチェックして、入力ファイル内のエラーを表示します。このエラーをソース・ファイルで修正し、インポートを実行する前に再度ファイルをアップロードします。この操作

は、インポート画面を終了しなくても行えます。インポート・ファイルにエラーがまったくなくなるまで、必要があれば随時インポート・ファイルを検証し、ファイル内のエラーを修正し、再度ファイルをアップロードすることができます。

- **[インポートを実行]** – マッピングが完了してデータが検証されたら、このボタンによって最終検証を実行し、データを ExtraView にインポートします。ExtraView は、新しい ID も含めて、アップロードした各行に対し新しい issue を作成します。
- **[テンプレートを削除]** – 現在のテンプレートとすべてのマッピングを削除します。
- **[キャンセル]** – テンプレートのリストを表示したファイル・インポートの初期画面に戻ります。

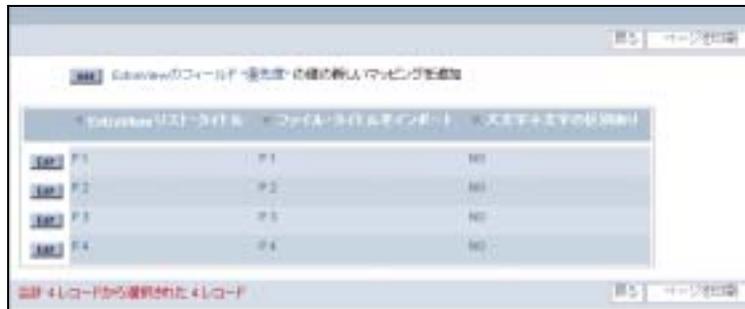
テンプレートの詳細 – テンプレートのタイトルを表示するとともに、別のファイルをテンプレートにアップロードすることができます。インストレーションでビジネス・エリアとプロジェクトを使用している場合は、これらが現在のインポート・テンプレートとして表示されます。

サンプル・データ – このセクションには、アップロードしたファイルのデータ・サンプルが表示されます。このテキスト・ボックス内でデータの編集はできませんが、ソース・データに戻って修正を行う必要があります。

フィールド・マッピング – インポート・ファイル内の各フィールド・ヘッダの固定フィールド名と、その列をマッピングできる ExtraView 内の使用可能な全フィールドを示した選択リストが表示されます。インポートに有効なフィールドであるためには、そのフィールドが追加画面のレイアウトが、該当するビジネス・エリアおよびプロジェクトの埋め込みレイアウトの 1 つ (インポートを実行しているユーザの現在のロールのために使用されている場合) に存在していなければなりません。フィールドは、フィールドを更新できるようにセキュリティ権限を設定していることが条件です。また、ID フィールドへのマッピングはできません。ExtraView では ID フィールドが維持されるので、外部ソースからこのフィールドに値を割り当てることは絶対にできません。追加画面レイアウトでの読み取り専用フィールドの取り扱いについては、このセクションで後ほど説明します。以前のシステムのフィールドを識別しているキーを保持したい場合、通常はレコード識別子を ALT_ID にマッピングして対応します。

ExtraView では、インポート・ファイル内のフィールド名を編集画面レイアウト上のフィールドのデータ辞書タイトルと比較することにより、インポート・ファイル内のフィールドを編集画面レイアウト上のフィールドとマッピングします。この比較では、大文字と小文字を区別しません。一致が検出されると、ExtraView は ExtraView のフィールドをマッピングで選択されたフィールドとして設定します。この選択を無効にして、フィールドに合った選択を自分で行うことができます。これには、フィールドを [* なし *] にマッピングして、インポート中にこのフィールドをスキップすることも含まれます。

フィールドがマッピングされるのと同じ方法で、ExtraView は表示タイプがリスト、タブ、ポップアップのどれかであるフィールドに値をマッピングしようとします。ユーザ・タイプのフィールドはここではマッピングできません。検証を実行すると、どのフィールド値がマッピングされていないかがわかります。値をフィールドにマッピングするには、フィールドの右側にある [Map] ボタンをクリックします。表示される画面は、次のようになります。



フィールド値のマッピング

[Add] をクリックして新しいマッピングを作成するか、既存のマッピングを編集します。マッピングで大文字と小文字を区別するかしないかを選択します。

注意する点は、null 値のフィールドを ExtraView の特定の値にマッピングしたり、値をデフォルトとして設定されている以外の値にマッピングできることです。それによって、インポートするデータを柔軟に変更できます。

注: フィールド・マッピングはテンプレート内で保持されます。つまり、複数のマッピングを設定し、その設定を別のインポート・ファイルでも使用したい場合は、同じテンプレートを再利用すれば済みます。

マッピング結果 – 画面のこのセクションには、インポートを実行した際にどの値がどのレコードに挿入されるかが表示されます。データをインポートする際にスキップされるフィールドや、ExtraView データベースの特定のフィールドに挿入される特定の値は、色分けで表示されます。

既存の Issue の更新

ファイル・インポート・ユーティリティには、ファイルをアップロードして、その後 ExtraView 内の既存の issue を更新する機能があります。この機能を実現するには、インポート・ファイル内のキー・フィールドが ExtraView 内の既存のキー・フィールドと一致しなければなりません。使用可能なキー・フィールドは、ID フィールドまたは ALT_ID フィールドの 2 つだけです。また、ExtraView では ALT_ID フィールドを固有の値に制限していないため、ユーザは値が固有であるようにしなければなりません。通常これは、ALT_ID フィールドにユーザ・カスタム・コードを使用することにより実現されます。

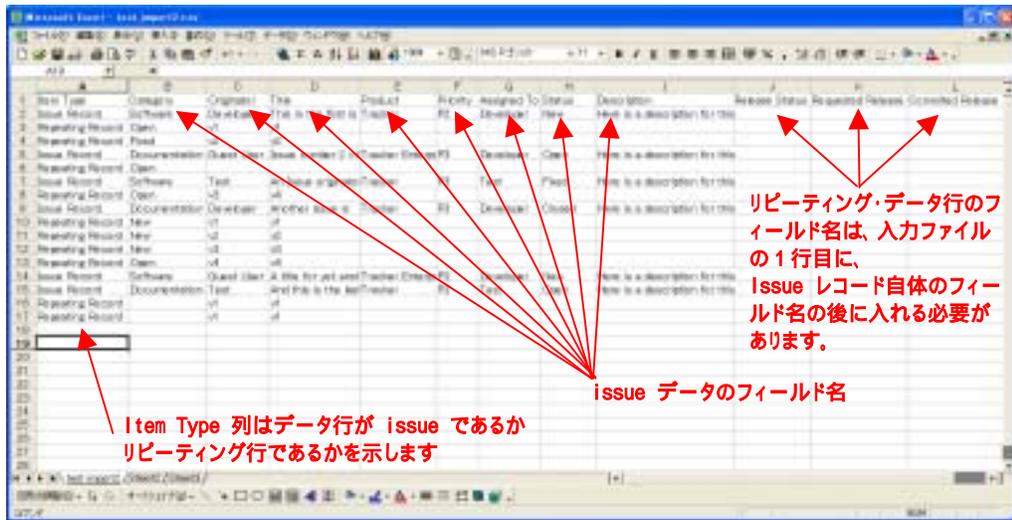
リピーティング行データのインポート

ご使用の ExtraView のインストレーションが、定義されたプロセス内でリピーティング行を使用するように構成されている場合、入力ファイルの作成においてリピーティング行フィールドを記述し、そのリピーティング行に対してデータを提供するよう、特別な配慮が必要です。次の図に構造を示します。



インポート・ファイルの構造

作成するインポート・ファイル内において、この構造はカンマ区切り値ファイルの作成に使用する Excel で次のスクリーンショットのように反映されます。



リピーティング行データのあるインポート・ファイル

リピーティング行を含むインポート・ファイルを作成するときは、以下の相違点に注意してください。

- フィールド名の入るヘッダ行の最初の列の値は [Item Type] です。
- データの各行の最初は、その行のデータ・タイプです。有効なエントリは [Issue

Record] または **[Repeating Record]** のどちらかです。

- データの 1 行目の 2 列目以降には、**[Issue Record]** データのフィールド名が入ります。
- 1 行目の最後の方の列には、**リピーティング行**データのフィールド名が入ります。これらの行の見出しの下には、必ずしも値があるとは限りません。
- **[Issue Record]** タイプの各行には、フィールド名に対応する列見出しの下の各フィールドに値を入れます。
- **[Repeating Record]** タイプの各行には、**リピーティング行**の値のすぐ後に、2 列目のデータから各フィールドの値を入れます。

ExtraView の issue に保存される**リピーティング行**データには、各データ行に対して固有の ID がある場合とない場合があります。動作設定 ENFORCE_UNIQUE_RELEASES により、固有 ID の有無を制御します。この設定が YES である場合、

- インポートしようとする**リピーティング行**データのフィールドの 1 つを、ExtraView フィールドの RELEASE_FOUND にマッピングします。
- RELEASE_FOUND にマッピングされているフィールドの値は、インポート・ファイルの各 issue の行ごとに固有である必要があります。
- RELEASE_FOUND フィールドへの書き込み許可が必要です。

インポートの方針

レガシー・データの問題

レガシー・システムからデータをインポートする場合は、いくつかの理由により問題が発生することがしばしばあります。具体的な問題を以下に挙げます。

- レガシー・システム内のデータが「クリーン」であることは、ほぼありえません。例えば、ExtraView のリスト値となるエントリを要求されているとします。データの手入力は間違いが起きることが多く、異なるエントリへのマッピングが困難になります。ExtraView では、複数の入力値をリスト値にマッピングできます。
- すべてのユーザをレガシー・システムから ExtraView に移動させたくない場合も考えられます。例えば、ExtraView の issue を作成した従業員がすでに退職している場合は、その人の分まで ExtraView のライセンスを購入したくないでしょう。その場合は、ExtraView でユーザ・アカウントを作成してそのアカウントを無効にするか、ExtraView でユーザ名を別の人にマッピングします。
- ExtraView の優れた機能をフルに活用するには、ワークフローと取得したデータ項目を、有意義な方法で変更した方がよいかもしれませんが、すべてのレガシー・データがこの環境の値を持っているわけではありませんが、履歴のためにインポートしたいこともあるでしょう。ExtraView ではそれが行えます。
- issue を更新するモードのときに読み取り専用データをインポートしたい場合は、一時的にそのフィールドを読み取り/書き込み可能に変更し、データをインポートしてから、そのフィールドを読み取り専用に変更します。

ID フィールド

レガシー・システムからデータをインポートするときに特に注意が必要なフィールドが、ID フィールドです。ExtraView のライセンスには、レガシー番号をそのまま保持したいと考える人もいるかもしれませんが、ExtraView では、固有の連続番号を使用する必要があります。この要件を容易に満たすには、ALT_ID というテキスト・フィールドを ExtraView のデータ辞書で定義します。使用しているレガシー・フィールドを ExtraView のこのフィールドにマッピングして、移行を行っている間、レイアウト上に保持します。このフィールドは、最終的に ExtraView のレイアウトから削除してかまいません。

その他に特別な扱いが必要なフィールド

レコードを ExtraView に挿入したり、ExtraView によって更新する場合、自動的に維持されるフィールドがいくつかあります。これらは、Web ベースのインタフェースである API や CLI を経由して挿入したり、更新することができません。しかし、レガシー・データをインポートする際には、これらのフィールドから値をインポートする必要も出てきます。ExtraView はこのようなニーズにも対応しています。ただし、そのフィールドが追加画面レイアウト上にあり、インポート・ユーティリティに対応するための書き込みアクセス権を持っていることが条件です。このようなフィールドの処理については、次の表のとおりです。

| データ辞書フィールド名 | 処理 |
|-------------------------|--|
| DATE_CREATED | これがインポート・ファイル内に存在しマッピングされると、入力された値が挿入されますが、そうでない場合は現在の日付と時刻が使用されます。 |
| DATE_CLOSED | これがインポート・ファイル内に存在しマッピングされ、issue のステータスが STATUS_CLOSED_NAME という動作設定で定義されたステータスと同じであれば、入力された値が挿入されますが、そうでない場合は値が挿入されません。 |
| DATE_LAST_STATUS_CHANGE | これがインポート・ファイル内に存在しマッピングされると、入力された値が挿入されますが、そうでない場合は現在の日付と時刻が使用されます。 |
| LAST_CHANGE_USER | これがインポート・ファイル内に存在しマッピングされると、入力された値が挿入されますが、そうでない場合は現在のユーザ ID が使用されます。 |
| ORIGINATOR | これがインポート・ファイル内に存在しマッピングされると、入力された値が挿入されますが、そうでない場合は現在のユーザ ID が使用されます。 |
| TIMESTAMP | これがインポート・ファイル内に存在しマッピングされると、入力された値が挿入されますが、そうでない場合は現在の日付と時刻が使用されます。 |

ビジネス・エリアとプロジェクト

インポート・ユーティリティは、1つのビジネス・エリアおよびプロジェクトにしかデータをインポートしません。複数のビジネス・エリアやプロジェクトにデータをマッピングしたりインポートすることはできません。また、メインの項目構造とリピーティング行構造に対して、同時にインポート機能を使用することもできません。複雑な構造を取り扱うための方法は、ExtraView で別に用意されています。ここで説明するユーティリティは、単純構造のインポートを目的としており(この方法によって、インポート全体の約 80% に対処できます)、使用方法も迅速かつ簡単です。複雑なデータ移行を行う場合は、XML インポート・ユーティリティか、CLI の `evimport` 機能の使用を検討してください。

複数のエリアやプロジェクトにデータをインポートする際の方針としては、インポート・ファイル内でデータをエリアやプロジェクトごとに分割し、個別にインポートします。

読み取り専用フィールド

たいいていの場合、インポートするデータは使用している追加画面レイアウト全体で書き込み可能です。インポートに使用するレイアウトは以下によって定義されます。

- インポート・テンプレートによって定義されるビジネス・エリア(ご使用のインストレーションでビジネス・エリアを使用している場合)
- インポート・テンプレートによって定義されるプロジェクト(ご使用のインストレーションでビジネス・エリアとプロジェクトを使用している場合)
- インポートを実行するユーザの現在のロール。通常これは、`admin` などの管理ロールです。

インポートの方針

単純なファイルをインポートする場合は、作成済みの追加画面レイアウトを使用し、その内容を反映したインポート・ファイルを作成するだけです。

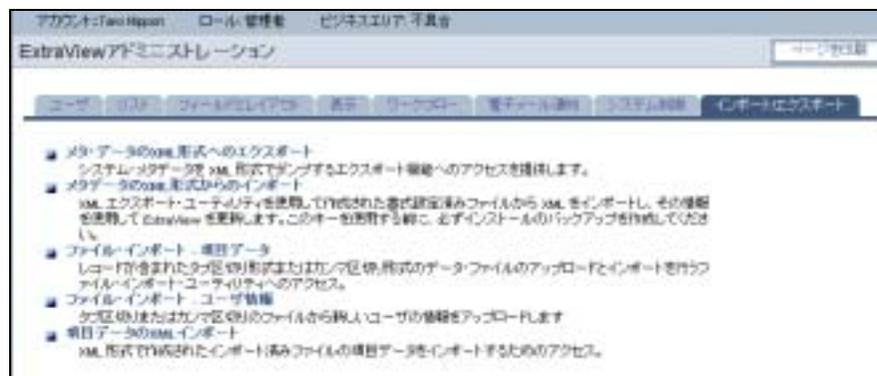
しかし、管理ロールが追加画面のすべてのフィールドを持っているだけでなく、またすべてが書き込み可能でない場合もあります。また、使用しているシステムが、複数のビジネス・エリアやプロジェクトがあるなど比較的複雑な場合もあります。このようなときは、以下に示す方針に従うのが賢明です。特に、各 `issue` に関するメタデータが大量に含まれている高度なトラッキング・システムからデータをインポートする必要がある企業に適しています。

- `import` または同様の名前を付けた新しいユーザ・ロールを作成します。
- これに対して新しいユーザ・ロールが新しい追加画面レイアウトを作成します。これを最も手早く行うには、ロールの追加画面または編集画面のレイアウトで希望に近いものを選択し、そのレイアウトの編集画面上のユーザ・ロールを新しいユーザ・ロールに変更してから、レイアウトをこのロールの追加画面として保存します。
- この新しいレイアウトでフィールドが書き込み可能であることを確認します。
- 現在のロールを新しいユーザ・ロールに変更します。
- インポートを実行します。

ファイル・インポート – ユーザ・データ

ユーザ・データのインポート・ユーティリティにより、管理者はタブ区切りまたはカンマ区切りのファイルを自分のクライアント・コンピュータからアップロードできます。ファイル内のフィールドと値は ExtraView の値にマッピングされ、データが検証されてから最終的にインポートされます。アップロードされるデータは新しいユーザ・データとしてインポートされます。このユーティリティを使用して既存ユーザのデータを更新することはできません。この機能へのアクセスは、セキュリティ権限キー CF_USER_FILE_IMPORT により制御されます。

ユーザ・データ・ファイルのインポート・ユーティリティはその多くが前述した issue データのインポートと同様であるため、このセクションでは両者の違いに焦点をあてます。



ユーザ・データのインポート

ユーザ・データのインポートを選択すると、issue データのインポートの場合と同様に、別のアップロード・ファイルで再利用可能なテンプレートを作成できます。これは次のスクリーン・ショットのように示されます。



新規ユーザの追加アップロードのテンプレート

テンプレート作成後の手順は以下のとおりです。

- ユーザ・データを含むデータ・ファイルをアップロードします。
- インポート・ファイルのフィールドを ExtraView のフィールドとマッピングします。
- データを検証します。
- データをインポートします。

すべてのマッピング操作は、issue データのインポートの場合と同じです。ExtraView のフィールドとマッピング可能なフィールドを以下に示します。

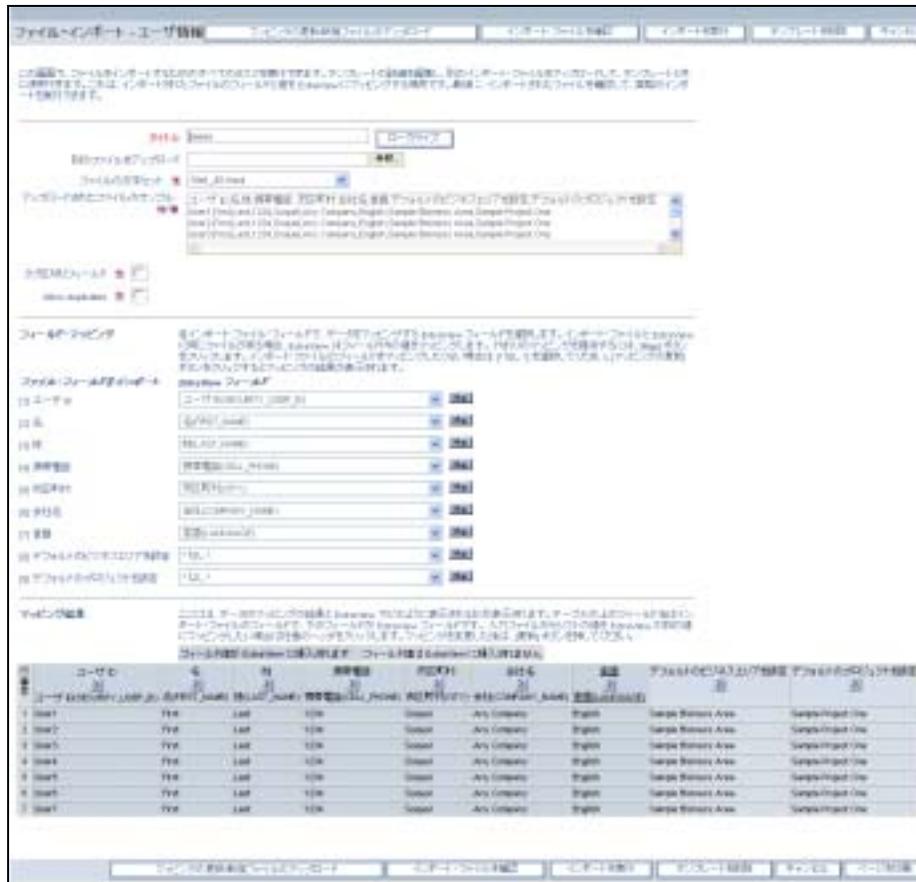
| フィールド | 用途 |
|-------------------|--|
| ADDRESS_LINE1 | ユーザの所在地の 1 行目。指定しない場合は空白になります。 |
| ADDRESS_LINE2 | ユーザの所在地の 2 行目。指定しない場合は空白になります。 |
| ALPHA_TIMEZONE | ユーザのタイムゾーン。指定しない場合、動作設定 DEFAULT_TIMEZONE に設定した値が使用されます。 |
| AREA_ID | ユーザのデフォルトのビジネス・エリア。指定しない場合、インポートを実行したユーザの現在のビジネス・エリアにユーザが配置されます。 |
| CELL_PHONE | ユーザの携帯電話の番号。指定しない場合は空白になります。 |
| CHART_FONT | ユーザが生成するグラフに使用されるフォント。指定しない場合、動作設定 DEFAULT_CHART_FONT の値が使用されます。 |
| CITY | ユーザの市区町村。指定しない場合は空白になります。 |
| COMPANY_NAME | ユーザの会社名。指定しない場合は空白になります。 |
| COUNTRY | ユーザの国。指定しない場合は空白になります。 |
| DATE_FORMAT | ユーザの日付形式。指定されない場合、動作設定 DEFAULT_DATE_FORMAT の値が使用されます。 |
| DRILLDOWN_REPORT | デフォルトの値は <i>QUICKLIST</i> です。有効な値は <i>QUICKLIST</i> と <i>DETAILED</i> です。 |
| EMAIL | ユーザの電子メール・アドレス。指定しない場合は空白になります。 |
| EMAIL_FORMAT | このフィールドのデフォルト値は HTML です。有効な値は HTML、TEXT、BRIF、VERY_BRIF であり、それぞれ HTML、テキスト、要約テキスト、要旨テキストに対応します。 |
| ENABLED_USER | このフィールドのデフォルト値は Y です。無効の状態で作成したい場合、値を D にしてください。 |
| FAX | ユーザのファックス番号。指定しない場合は空白になります。 |
| FIRST_NAME | ユーザの名。指定しない場合は空白になります。 |
| HOME_TELEPHONE | ユーザの自宅の電話番号。指定しない場合は空白になります。 |
| HTTP_CHARSET | ユーザの文字セット。指定しない場合、動作設定 HTTP_CHARSET の値が使用されます。 |
| JOB_TITLE | ユーザの職位。指定しない場合は空白になります。 |
| LANGUAGE | 言語は DEFAULT_LANGUAGE の設定値をデフォルトとします。小文字で記述することに注意してください。別の値を設定する場合、適切なロケールが作成されていることを確認してください。 |
| LAST_NAME | ユーザの姓。インポート・ファイルの必須フィールドです。 |
| MS_OFFICE_CHARSET | Microsoft Office 製品に情報を出力する場合のユーザ |

| | |
|--------------------------------|---|
| NOTIFY_ON_OWN_UPDATES PAGER | <p>の文字セット。指定しない場合、動作設定 MS_OFFICE_CHARSET の値が使用されます。Office 2003 より前の Microsoft Office のバージョンを稼働させている場合のみ、この設定が機能します。デフォルト値は Y です。N に設定することもできます。ユーザのポケットベルの番号。指定しない場合は空白になります。</p> |
| PASSWORD_EXPIRY_DATE | <p>ユーザのアカウントが期限切れとなる日付。値を指定しない場合、パスワードの期限は切れません。</p> |
| PASSWORD_INTERVAL | <p>ユーザのパスワード期限切れまでの日数。指定しない場合のデフォルトは 0 で、このときパスワードの期限は切れません。</p> |
| POSTAL_CODE | <p>ユーザの郵便番号。指定しない場合は空白になります。</p> |
| PRIVACY_GROUP | <p>各ユーザは複数のプライバシー・グループに所属することができます。したがって、プライバシー・グループのインポートには、他のほとんどのユーザ・フィールドとは異なる構文が必要になります。上述の「リピーティング行データのインポート」というタイトルのセクションを参照してください。そこには ExtraView にユーザ・ロールをインポートするためのスプレッドシート・データの構成方法が示されています。フィールドのタイトルには、プライバシー・グループと指定します。</p> |
| PROJECT_ID | <p>ユーザのデフォルト・プロジェクト。指定しない場合、ユーザはインポートを実行したユーザの現在のプロジェクトに配置されます。プロジェクトは指定した AREA_ID に対して有効でなくてはなりません。</p> |
| RECORDS_PER_PAGE | <p>デフォルトは 20 で、ホームページ・レポートに表示されるレコードの件数です。</p> |
| REGION | <p>言語は DEFAULT_REGION の設定値をデフォルトとします。大文字で記述することに注意してください。別の値を設定する場合、その地域に適切なローケルが作成されていることを確認してください。</p> |
| REPORT_1_ID | <p>ユーザのホームページに配置したい 1 番目のレポートの ID を設定します。ID は内部の値であり、種々のレポートの ID を参照したい場合、データベースに SQL 文を使用する必要があります。例えば</p> <pre>select * from report</pre> <p>とすると、すべてのレポートとその REPORT_ID が表示されます。デフォルト値はどのレポートも特定しない、ヌルです。REPORT_ID は内部の値で、ExtraView の 1 つのコピーからデータがエクスポートされ、別のインスタンスにインポートされることにより、インスタンス間でデータの一貫性が保たれていないことに注意してください。したがって、このフィールドにデータをインポートする際は、ExtraView のコピー先インスタンスの REPORT_ID しか使用できません。</p> |
| REPORT_2_ID | <p>2 番目のホームページ・レポートの ID を示すこと以外</p> |

| | |
|-----------------------|--|
| REPORT_3_ID | は、REPORT_1_IDと同様です。 3番目のホームページ・レポートのIDを示すこと以外は、REPORT_1_IDと同様です。 |
| SECURITY_USER_ID | これは必須フィールドであり、ユーザ・レコード全体のキー・フィールドです。1文字から30文字までの長さの英数字でなくてはなりません。ユーザIDには英数字のほか、ピリオド('.')およびアンダースコア('_')を含めることができます。 |
| START_PAGE_ID | デフォルト値は0です。指定可能な値は以下のとおりです。 0 ホーム・ページ 1 クエリ画面 2 Issue 追加画面 |
| STATE | 管理者がこのリストに値を追加できることに注意してください。 |
| STYLESHEET | ユーザの県。指定しない場合は空白になります。このフィールドのデフォルト値は <i>小</i> です。その他、 <i>中</i> および <i>大</i> を指定可能です。設定値はユーザ・アカウントのフォント・サイズに該当します。 |
| TWENTY_FOUR_HOUR_TIME | デフォルト値は <i>N</i> です。ユーザに24時間形式の時刻を使用させたい場合は <i>Y</i> に設定してください。 |
| USER_ROLE | 各ユーザは複数のロールを持つことができます。したがって、ロールのインポートには、他のほとんどのユーザ・フィールドとは異なる構文が必要になります。上述の「 リピーティング行データのインポート 」というタイトルのセクションを参照してください。そこには ExtraView にユーザ・ロールをインポートするためのスプレッドシート・データの構成方法が示されています。フィールドのタイトルには、 <i>ロール</i> と指定します。 |
| VARIANT | ユーザの別の型。指定しない場合、動作設定 の値が使用されます。 |
| WORK_TELEPHONE | ユーザの職場の電話番号。指定しない場合は空白になります。 |

以下のスクリーンショットは、フィールドのマッピング、データの検証、およびインポートを実行する画面を表します。詳細な情報を得るには、再度前述のセクションを参照してください。

issue データのインポートとは異なる点として、**[重複を許可]**というプロンプトがあります。これがチェックされていると、**[名前]**と**[姓]**の組み合わせ、または**[電子メール・アドレス]**の値の重複が許可されます。チェックされていない場合は、重複が確認されると、その値はインポート段階で拒否されます。



ユーザーの検証およびインポート

データを検証してインポートを実行すると、前述のセクションでの説明と同様にフィードバックが返されます。

注: セキュリティ上、ユーザーの初期パスワードは無作為の値に設定され、デフォルトを特定の値にしていません。パスワードは管理者によって個別に設定するか、カスタマイズした処理により設定する必要があります。

注: 新しいユーザーを追加するとライセンス許可ユーザー数に違反する場合、エラーが出力され、データベースへの更新は行われません。ただし、ユーザーのライセンス・タイプを指定していない場合、フローティング・ライセンスが設定されるため、ほとんどの場合はユーザーをロードする際のライセンス制約が適用されません。また、ENABLED_USER フィールドの値を D に設定することにより、無効にされた状態のユーザーをロードすることができます。

注: 電子メール・アドレスまたは名前と姓の組み合わせについて、重複するデータが入力ファイルに含まれているか、ユーザーが重複して作成されてしまう場合、エラーが出力され、レコードは拒否されます。

管理レポート/クエリ・オプション

概念

このセクションでは、システムの利用者に許可されるレポート・オプションと許可されないレポート・オプションに関する情報を管理者に提供します。

クイックリストと詳細レポート

クイックリストのレイアウトと詳細レポートのレイアウトに限り、システム内のビジネス・エリアごとに定義できます。これらのレポートは、画面レイアウトを作成したり保守するのと同様の方法で、レイアウト・エディタ内で定義します。実行時に作成されるクイックリストや詳細レポートは、利用者の現在のビジネス・エリアとプロジェクトに依存します。次のセキュリティ権限キーを覚えておくと、クイックリストや詳細レポートを作成したり保守するときに役立ちます。

| セキュリティ・キー | 説明 |
|-------------------------|--|
| PR_RESOLUTION.QUICKLIST | ユーザ・ロールによるクイックリスト・レポートへのアクセスを制御します。ほとんどのユーザ・ロールにこの権限が与えられます。 |

レポート・レイアウトを作成するときに覚えておきたいいくつかのポイントがあります。

- レイアウト・リストに VIEW_BUTTON というフィールドがあります。これを使用すると、詳細レポートへのドリルダウン・ボタンを画面上に置くことができます。クイックリストでは頻繁に使われますが、詳細レポートそのものにはまったく使用されません。
- レイアウト・リストに HISTORY_BUTTON というフィールドがあります。これを使用すると、履歴レポートへのドリルダウン・ボタンを画面上に置くことができます。このボタンを画面上に置くには、PR_RESOLUTION.MENU_HISTORY セキュリティ・キーの読み取り許可を利用者が持っていないとできません。
- レイアウト・リストに EDIT_BUTTON というフィールドがあります。これを使用すると、issue 編集画面へのドリルダウン・ボタンを画面上に置くことができます。
- レイアウト・リストに DELETE_BUTTON というフィールドがあります。これを使用すると、issue の削除機能をレポート上に置くことができます。issue を削除するには、PR_RESOLUTION.DELETE_BUTTON セキュリティ・キーの権限を利用者が持っていないとできません。
- レイアウト要素の Highlight 属性を使用して、一部のフィールドで表示色を変更することができます。例えば、重要な issue を赤で表示することができます。これを行う場合、使用する色は HIGHLIGHT_COLOR という動作設定で定義します。

- レイアウトの1つのフィールド内で、Highlight などレイアウト上の別のフィールドとの間に依存関係がある場合、両方のフィールドがそのレイアウト上になくてもなりません。

ExtraView がフィルタ値を記憶する方法

セッションの間でも、ExtraView は詳細検索画面上のフィルタ値を記憶しています。ユーザは ExtraView の使用を再開する際、中断した箇所に戻りたいことがしばしばあるので、これは時間を節約できる機能です。また、1回のクリック操作だけでフィルタは消去されます。

ただしこれは、フィルタをサポートしているメタデータを管理者が変更したり、あるユーザのフィールドへのアクセスを管理者が削除することもありうるという点が問題です。この問題に対処するため、管理者が検索レイアウトなどのメタデータを変更した場合には、記憶したフィルタ値をすべて削除します。

グラフ

[クエリレポート] 画面からグラフ作成へのアクセスや、個別のグラフ・タイプ作成へのアクセスを完全に制御できます。これらはすべて、次の表で説明するセキュリティ権限キーによって制御されます。

| セキュリティ・キー | 説明 |
|----------------------------|--|
| SR_PERSONAL_CHART | このセキュリティ権限キーは、パーソナルな目的でグラフを作成し保存するためのアクセスを許可します。読み取り許可が必要です。 |
| SR_PUBLIC_CHART | このセキュリティ権限キーは、パブリックな目的でグラフを作成し保存するか、個別のユーザ・ロールで使用することを目的に保存するためのアクセスを許可します。読み取り許可が必要です。 |
| PR_RESOLUTION.STATUS | issue のステータスに基づいてグラフを作成できるようにするには、このセキュリティ権限キーの読み取り許可が必要です。 |
| PR_RESOLUTION.PRODUCT_NAME | issue の製品名フィールドに基づいてグラフを作成できるようにするには、このセキュリティ権限キーの読み取り許可が必要です。 |
| PR_RESOLUTION.RELEASE | リピーティング行に基づいてグラフを作成できるようにするには、このセキュリティ権限キーの読み取り許可が必要です。ご使用のインストレーションでリピーティング行を使用していない場合、またはリピーティング行の使用に基づいてグラフを作成する意味がない場合は、このキーの許可を N に設定します。 |

ExtraView ホーム・ページ画面のカスタマイズ

ユーザは、ホーム・ページを自分用にカスタマイズできます。ホーム・ページは次のセクションで構成されます。

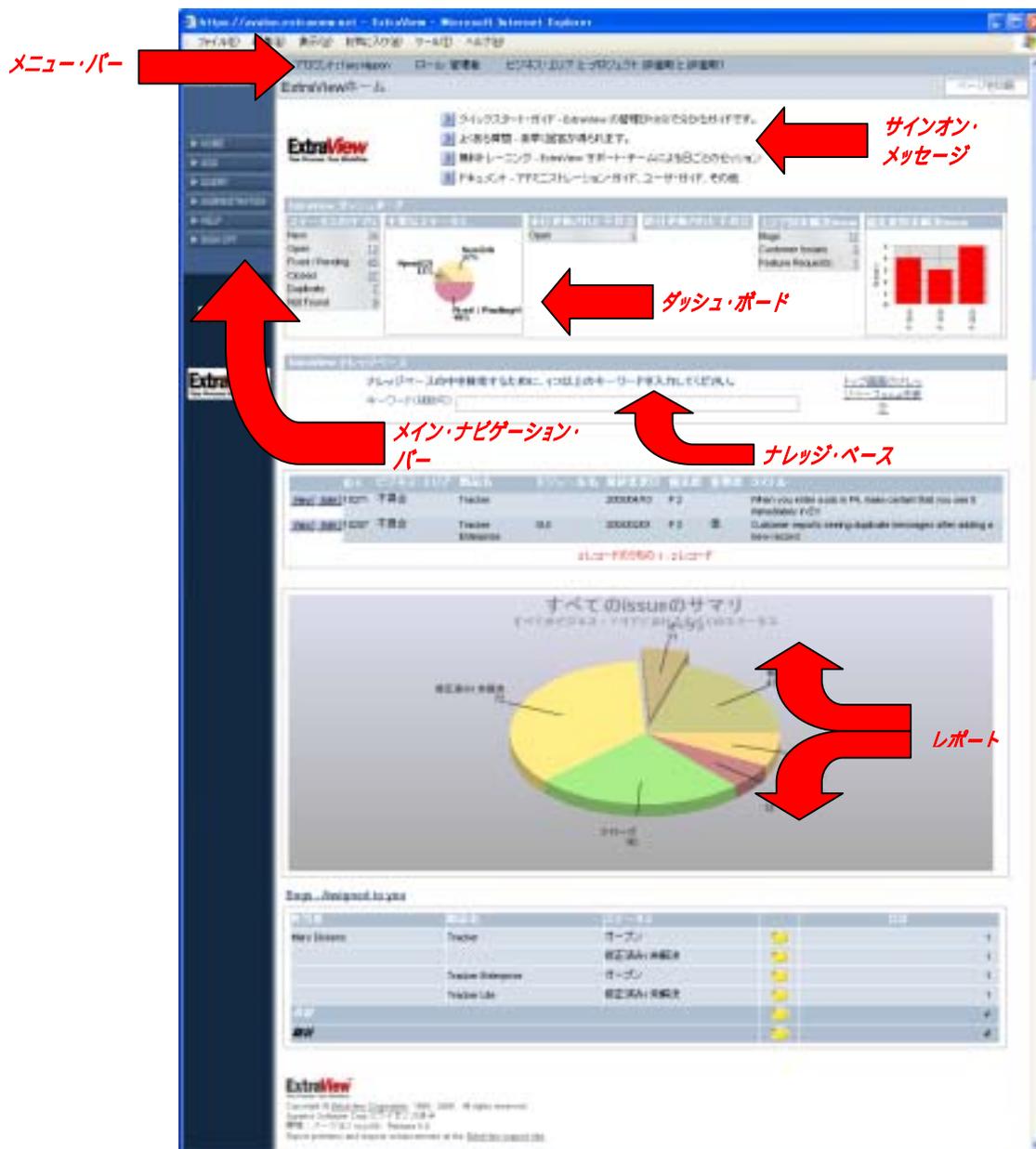
- キー・オプションと、ユーザが ID を知っている issue にすばやくアクセスするための入力エリアがあるナビゲーション・バー。
- 画面のメニュー・バーにあるオプションのリスト。ユーザは、次の機能の一部または全部にヘッダからアクセスできます。
 - [アカウント詳細] – ユーザのアカウント設定とオプション。
 - [ユーザ・ロール] – そのユーザのロールを変更するための画面を表示します。これは、ユーザにロールを変更する権限がある場合にのみ表示されます。
 - [ビジネス・エリアとプロジェクト] – 新しいデフォルトのエリアやプロジェクトを選択するための画面を表示します。これも、ビジネス・エリアまたはプロジェクトを変更する権限をユーザが持っている場合にのみ表示されます。
- システム管理者が事前定義したサインオン・メッセージ。
- 任意指定の専用ダッシュボード。カスタム・コードで作成されており、セキュリティ権限キー SR_DASHBOARD_ON_HOME_PAGE により、ユーザ・ロールごとに有効/無効を設定します。
- ナレッジベースの任意指定の検索ボックス。セキュリティ権限キー SR_KB_ON_HOME_PAGE により、ユーザ・ロールごとに有効/無効を設定します。
- 最大 3 つの事前定義したレポートのリスト。
- ユーザが自分のホームページ上で参照するレポートを選択できるセクション。ユーザはさらに、参照許可が与えられているレポートの実行が可能です。このレポートは別のウィンドウに表示されます。このセクションは、ユーザに [クエリ] 画面を使用する権限がある場合にのみ表示されます。その権限はセキュリティ権限キー SR_SET_HOME_PAGE_REPORTS により制御されます。この機能を使用して、ユーザに自分のホームページ・レポートの選択を許可するか、または管理者だけにユーザのホームページ・レポートの選択を許可することができます。

注: ホーム・ページは、HOME_PAGE_REFRESH_SECONDS という動作設定で定義した時間(秒数)に応じて、自動的に更新されます。この設定は、[表示]タブの [レポートとクエリの設定] 管理メニューにあります。

ホームページの構成にあたっては、管理者とユーザの両者とも注意を払わなければなりません。ユーザがシステムから適切なパフォーマンスが得られていると確信するために、ホームページのパフォーマンスは非常に重要です。推奨される検討事項を以下に示します。

- 管理者やユーザが多くのレポート(数百種類以上)を持っている場合、SR_SET_HOME_PAGE_REPORTS 権限キーへのアクセスをOFF にすることをお勧めします。

- ダッシュボード・レポートは、実行速度が非常に高速であるレポートのみで構成すべきです。
- 個別のレポートとグラフについても、かなり高速である場合にのみホームページに配置すべきです。例えば、膨大な量の1年間のデータを日単位でグラフにまとめると、そのデータを月単位で表示した同じグラフよりも多くの処理時間を要しますが、それほど多くの情報が提供されるわけではありません。
- LIMIT_HOMEPAGE_QUERY_ROWS という動作設定の値を 20 に保ち、ユーザが数百または数千に及ぶデータ行を繰り返し各自のホームページに出力しないようにしてください。
- MINIMUM_SEARCH_FIELDS の値を 2 または 3 程度に設定し、ユーザがキーワード以外にいくつかのフィルタを選択しなければならないようにしてください。これにより、フィルタがデータ・テーブルにインデックスを指定するため、検索が高速になり、レポート速度が高速になります。
- HOME_PAGE_REFRESH_SECONDS の値を 900 より大きい値に設定して、あまり頻繁にユーザのホームページが更新されないようにしてください。



ホーム・ページ画面

アカウントの詳細の編集

ユーザのアカウントの詳細を編集することにより、システムに日付を入力する方法、パスワードの形式、他のユーザに対して表示されるユーザ情報、電子メールによる通知、1ページに表示されるレコード数などの各種表示オプションを制御できます。

アカウントの詳細を編集するには

1. **[アカウント:]** リンクまたはユーザ名をクリックし、更新したいオプションをプルダウン・メニューから選択します。



ホーム・ページの**[アカウント]**メニュー

次の画面が表示されます。



パーソナル・オプションの**[パスワード]**画面

2. 使用しているパスワードが認証されたら、**[ユーザの詳細を変更]**画面に新しい情報を入力します。この画面の他のタブに移動し、任意のフィールドを更新することもできます。
3. 入力が完了したら、**[ユーザを更新]** ボタンをクリックします。

注:

- 太字のフィールドは必須です。
- 該当する権限を持っている管理者の場合、ロールの変更、プライバシー・グループへのアクセスの変更、デフォルトのビジネス・エリアおよびプロジェクトの選択を行うための画面のエリアのみがユーザに対して表示されます。
- 開始ページの変更オプションは、動作設定 `USER_DEFINED_START_PAGE` が YES に設定されている場合のみ表示されます。これによってユーザは、ホーム・ページ、[Issue の追加] 画面、[レポート] 画面、[Administration] 画面の中から、ExtraView にサインオンしたとき最初に表示される画面を選択できます。ただし画面が表示されるまでに、ユーザがこの画面にアクセスする許可を持っていることが条件です。
- ホーム・ページに表示されるレポートは 3 つまで選択できます。画面上の**[レポート]**タブから選択します。

ユーザーの情報を変更: TARON (有線)

ユーザー名: BENITH

姓: Ben

姓: Smith

パスワード: [masked]

パスワードを再入力: [masked]

主電子メールアドレス: benith@corp.com

職位: Development Engineer

会社名: Superior Software Corp

住所: 209 Mount Hermon Road

市区町村: Scotts Valley

州: Ca

郵便番号: 95006

国: USA

動機電話番号: (831) 461-7100

自宅電話番号: (831) 461-7100

携帯電話: (831) 461-7100

Fax: (831) 461-7100

携帯電話: (831) 461-7100

ユーザーフィールド 1: [empty]

ユーザーフィールド 2: [empty]

ユーザーフィールド 3: [empty]

ユーザーフィールド 4: [empty]

ユーザーフィールド 5: [empty]

個人情報の変更画面

カスタム URL にリンクされたレポート

ExtraView のレポートには、システムの外部で作成されたレポートや、社内で作成されたカスタム・コードを含むレポート(API経由)にアクセスできる機能があります。管理者はこれらのリンクを作成し、レポートをパブリック・レポートとして保存することによって、一般ユーザにもレポートを提供することができます。

この機能を使用する場合、またはこの機能を無効にしたい場合にはセキュリティ権限キーの SR_PERSONAL_LINKED_REPORT および SR_PUBLIC_LINKED_REPORT により、ユーザに独自のパーソナル・リンク・レポートの作成を許可するか、またはパブリック・リンク・レポートの作成を許可するかを設定することができます。

カスタム URL にリンクされたレポートはどのようなタイプの出力でも生成可能であり、ブラウザに直接出力しない場合もあるため、カスタム URL にリンクされたレポートをホームページ上に配置すべきではありません。それが必要である場合には、ユーザ・カスタム・プログラム機能を使用して、類似したレポートをホームページに配置することができます。

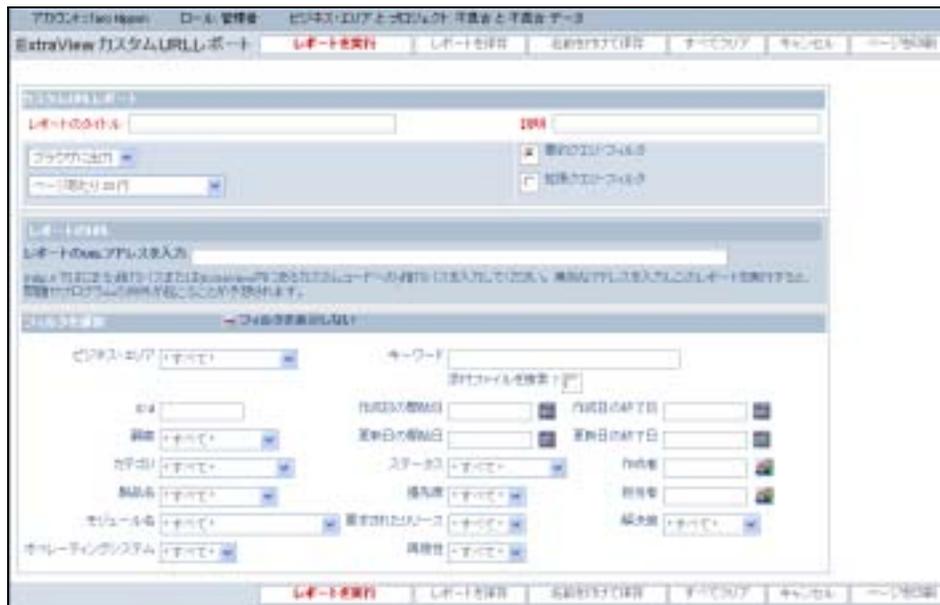
レポートへのリンク

[クエリレポート] 画面でリストから [新しいカスタム URL レポートを作成] オプションを選択し、**GO** ボタンをクリックします。



[クエリレポート] 画面

次の画面が表示されます。



[レポートへのリンク] 画面

- APIを経由して作成したカスタム・レポートへリンクするには、レポート・タイトルとレポート説明を入力してから、所定のフィールドに URL を入力します。
- URL には ExtraView の外部 URL への完全パスを指定できます。この場合、URL は **http://** で始まっていなければなりません。ExtraView 内の相対パスを指定している場合は option と action に渡したい値を入力します。

例えば、異なるサーバの完全 URL 上にレポートを設定する場合、レポートの URL アドレスは次のようになります。

```
http://www.myserver.com?param1=xxx&param2=yyy
```

相対 URL を設定して ExtraView 自体の中にレポートを生成したい場合、URL は次のようになります。

```
?p_option=search.SearchReportDetailDisplay&p_action=doRunDetailed&id=10200
```

実際にはこのレポートは 10200 という ID を検索する詳細レポートを実行します。

- 希望のフィルタを選択します。これらは ExtraView で内部的に生成されるレポートにのみ利用可能であることに注意してください。ただし、これら进行处理して外部 URL に渡すためにユーザ・カスタム・コードのイグジットが使用される場合を除きます。
- **[レポートを実行]** ボタンをクリックするか、レポートを **[保存]** します。

注: ExtraView はカスタム URL レポートの作成時に、入力された URL の妥当性をチェックしません。有効な URL が入力されているか、ユーザの責任で確認してください。不正な URL を入力した場合、実行時のプログラム例外エラーが発生することになります。

画面上のフィルタのオン/オフを切り替えるには、 や  のボタンを使うことができます。

無効化された値の検索

ユーザが無効化されたリスト値をフィルタに使用して、検索結果を得る必要がある場合があります。例えば、ユーザ・アカウントが無効にされたユーザに割り当てられた issue を検索したい場合などです。

この機能は、詳細クエリ・モードからアクセスできます。詳細クエリ・モードにおいて、リストに無効化されたエントリが含まれていると、値のリストには[* 無効化されたエントリを表示 *] というラベルの付いたエントリが現れます。このエントリを選択すると、画面が更新され、有効な値と同様に無効化された値がすべて表示されます。[* 無効化されたエントリを表示しない *] というリスト・エントリをクリックすると、リストから無効化された値を取り除くことができます。

エージング・レポートとステータス権限キー

エージング・レポートの一部としてのプロセスを通して issue の傾向や動向を見るとき、ワークフローを通して issue の動向を表す一部のビューのみを参照すると誤解が生じる可能性があります。そのため、エージング・レポートでは STATUS.xxxx 権限キーを使用しておらず、ユーザにはステータス値として取り得る値がすべてレポート上に表示されま

す。この動作が望ましくない場合は、SR_PUBLIC_AGING、SR_PERSONAL_AGING および SR_USERGROUP_AGING の各権限キーを使用して、すべてのエージング・レポートへのユーザ・アクセスを無効にしてください。

レコード・セレクト

この機能により、ボタンをクイックリストの出力に配置することができ、このボタンを使用してレポート上にある任意の issue を選択し、その選択に基づいた演算を実行することができます。次の画面は、クイックリスト・レポート上で[レコード・セクタを有効にする]というボタンをクリックした結果を示しています。

The screenshot shows the 'ExtraView クイックリスト・レポート' interface. At the top, there is a button labeled 'レコード・セクタを有効にする' (Record Selector). Below it, a table lists various issues with columns for 'Issue ID', 'Business Area', 'Status', 'Issue Name', 'Module', and 'Assignee'. Each row has a checkbox in the first column. A red arrow points to the 'レコード・セクタを有効にする' button, and two other red arrows point to the checkboxes in the table. The table contains the following data:

| Issue ID | Business Area | Status | Issue Name | Module | Assignee | |
|----------|---------------|--------|---|--------------------|----------|--------------|
| 10405 | 不具合 | オープン | This is a Coca-Cola issue reported by the customer when they were performing research into issue #20322 | Tracker Enterprise | GU | Bill Smith |
| 10240 | カスタマーサポート | オープン | Customer reports a problem with the widget | Tracker | GUI | Mary Brown |
| 10300 | カスタマーサポート | オープン | Customer needs help | Tracker Enterprise | GUI | Greg Oskberg |
| 10272 | 不具合 | オープン | This will be mapped to EV | Tracker Enterprise | GUI | Greg Oskberg |
| 10264 | 不具合 | オープン | New entry point to be created | Tracker | GUI | Mary Brown |
| 10215 | 機能追加要望 | オープン | We need to add a new prompt to the screen to ask for the user name | Tracker | GUI | Mary Brown |

レコード・セクターのメカニズム

ユーザは任意のチェックボックスをクリックしてレコードを選択するか、または[このページにあるすべてのレコードに対してチェックを付けるかチェックを外すには、ここをクリックしてください] をクリックすることができます。ボックスをチェックした後にユーザが[詳細レポート] ボタンまたは[issue のグループ化] ボタンを選択すると、それらの issue と共に詳細レポートが表示されるか、または選択された issue がグループ化を行うための演算に対する入力として使用されます。

レコード・セクタ・オプションを使用するには、以下に示す設定が必要です。

データ辞書

EV_RECORD_SELECTION というラベル・フィールドがデータ辞書に存在していなければなりません。このフィールドは事前設定されています。

| | |
|-------|--|
| 権限 | この機能を使用したいロールごとに、PR_RESOLUTION.EV_REPORT_SELECTION という権限キーの読み取り権限を YES に設定します。 |
| レイアウト | この機能を使用したいクイックリストのレイアウトごとに、EV_REPORT_SELECTION フィールドを1行目の1列目に配置します。 |

レポートからの issue の一括更新

この機能は issue の一括更新を行うものなので、エンドユーザに対してこの機能へのアクセス権を与えることはお勧めしません。1回の誤った更新によって、数百件または数千件の issue に影響する可能性があり、それを取り消すことは非常に困難であるか不可能です。この機能は、次のようなタスクで頻繁に使用されます。

- issue の担当者を別の担当者に割り当て直すとき。
- 「オープン」の issue をあるリリースから次のリリースへ割り当て直すとき。
- 多数の issue のフィールドを単一の特定値に設定するとき。

この機能へのアクセスは、動作設定 PR_RESOLUTION.MASS_UPDATE_ISSUES によって制御します。

この機能を使用できるように許可が設定されている場合、クイックリスト・レポート、詳細レポート、およびユーザが作成したカスタム・レポートに [Issue の一括更新] ボタンが表示されます。このボタンにより、使用できるフィールドのリストをバッチまたは一括で更新できます。

この方法では更新できないフィールドもあります。更新できるのは、書き込みアクセス権のあるフィールドおよび表示タイプが「リスト」、「ポップアップ」、「タブ」、「チェックボックス」、「テキスト」、「通貨」、「数値」、「小数」、「日付」、「日」および「ユーザ」のフィールドだけです。更新可能なフィールドは、現在のビジネス・エリアおよびプロジェクトの編集レイアウト上に存在するフィールドです。現在のビジネス・エリアおよびプロジェクトの範囲外のフィールドを更新することはできません。ただし、一括更新の対象としてフィールドを選択したクエリに他のビジネス・エリアおよび/またはプロジェクトのレコードが含まれている場合、フィールドが特定のエリア/プロジェクトの編集レイアウト上にあると想定し、フィールドは更新されます。

一括更新の実行は ExtraView 内のバックグラウンド・プロセスです。処理が開始されると、中断することはできません。これによりいくつかの利点があります。それは、ExtraView が複数の一括更新処理の同時実行(これはデータ整合性の問題やデータの破壊を引き起こすことがあります)を回避し、通信ネットワークの断裂や処理中のクライアント・コンピュータのクラッシュなどの問題を防止するための重要な手段となることです。

この機能を使用するには、次の操作を実行します。

- まず、レポートを準備します。
- レポートのメニュー・バーの [issue の一括更新] ボタンをクリックします。

- 一括更新処理を1回行うごとに、1 つから 5 つのフィールドを更新できます。フィールドを選択した後で、 ボタンを使用して追加のフィールドを更新処理に加えることができます。フィールドを削除したい場合は、2 番目以降のフィールドに表示される  ボタンを使用できます。
- 追加したフィールドごとに、新しい値の入力を求めるプロンプトおよび更新されるすべての issue のリストが表示されます。このリストから更新の対象外としたい issue のチェックを外すことができます。
- 各 issue が更新されたことを知らせる標準通知を送信したい場合は、**[メールを生成]** ボタンをチェックする必要があります。更新とその電子メール通知の非常に大きなリストを作成しなければならない可能性があるため、この設定はデフォルトでは電子メールを送信しない設定にします。
- **[全レコードを更新]** をクリックします。多数の issue を更新している場合、処理に少し時間がかかる場合があります。1 つの issue につき 1 ~ 3 秒程度です。

注: 更新しているフィールドが多数の値を持つ複数値フィールドまたはリピーティング行の一部である場合、更新によって、更新するフィールドの値の既存のリストに新しい値が追加されます。

注: フィールドの値を **[* なし *]** に更新しようとする、ExtraView はこれが有効なエントリであるかを、そのフィールドが必須かどうか、あるいは **[Visible If]** レイアウトのセル属性が適用されるかどうかに基づいてチェックします。そのフィールドが必須の場合、**[* なし *]** は値のリストに表示されません。フィールドに **[Visible If]** 制限が適用される場合、ExtraView が **[Visible If]** ルールに違反する方法でフィールドを更新しようすると、エラーになります。

注: この一括更新操作は取り消しできないため、**[全レコードを更新]** ボタンを押す前によく検討してください。

注: データベース・リソースを節約するため、ExtraView では一回の一括更新機能で更新できる issue の数を 5,000 までとしています。これより多くの更新を行う必要がある場合は、複数回に分けて更新を実行してください。

注: 更新しようとする値が処理を行うユーザの現在のユーザ・ロール、ビジネス・エリア、プロジェクトの *required* および *required if* レイアウト・セル属性に違反しない限り、複数のビジネス・エリアとプロジェクトにまたがって issue を更新することも可能です。また、ユーザの現在のユーザ・ロール、ビジネス・エリア、プロジェクトにおける issue の許容値の関係に違反することはできません。条件に違反した場合、issue が更新できない理由を示すエラー・メッセージが表示されます。

注: 複数のビジネス・エリアおよび/またはプロジェクトに渡って issue を更新することができますが、それにより 1 つ以上のエリア/プロジェクトの *編集* レイアウトに存在しないフィールドの一括更新が試行されることとなります。その場合、そのエリア/プロジェクトの値は更新されず、エラーも発生しません。

注: 更新レコードのリストを生成するクエリに詳細クエリ・インターフェースまたは *or* 接続詞が使用されている場合、一括更新機能では一部のレコードが更新されません。この現象の単純な解決策として、フィルタの各部分を *or* を使用せずに順番に指定してリストを作成し、更新を実行します。

例:この例では、特定の製品について「オープン」の issue をすべて、ある担当者から別の担当者に再割り当てできる方法を示しています。

[製品]、[担当者]、[ステータス] をフィルタとして使用するクイックリスト・レポートを用意します。結果のレポート出力から [issue の一括更新] ボタンを押します。

次のような画面が表示されます。



更新するフィールドの選択

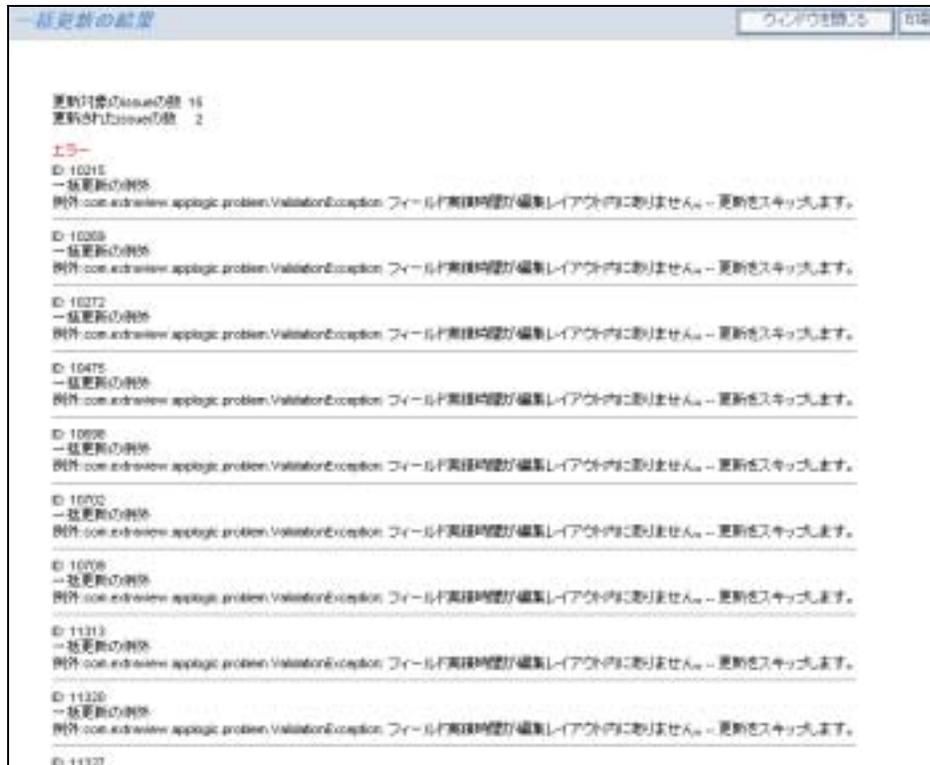
リストから [担当者] フィールドを選択すると、画面が更新され、次のような表示になります。



一括更新画面

[選択したフィールドに対して新しい値を指定してください] というラベルの選択リストから、issue を割り当て直したい担当者を選択します。更新に含めるかどうかを確認する issue を表示でき、さらに任意の issue のチェックを外すことができます。* ボタンを押すことにより、1つ以上のフィールドを一括更新に追加することができます。

更新しようとするフィールドが別のフィールドに依存する場合 (例えば、[モジュール] フィールドは [製品] に依存する場合があります)、親フィールドの入力を求められた後、子



一括更新の結果でのエラー表示

レポートからの Issue の複製

これは、インストラクション内の 1 つのプロジェクトから別のプロジェクトへ issue の複製のみを行う手順です。複製先プロジェクトは異なるビジネス・エリア内にあっても構いません。複製の操作は、前述のセクションで記述した一括更新機能から行います。この機能を実行するには、ユーザのロールが PROJECT フィールド(PR_ADD_PROBLEM.PROJECT および PR_RESOLUTION.PROJECT) に対する読み取り権限および書き込み権限を持っている必要があります。

前述のセクションの手順に従って、更新可能なフィールドのリストからプロジェクト・フィールドを選択します。現在のビジネス・エリアとプロジェクト内でのこのフィールドへの書き込み権限を、管理者から与えられている必要があります。プロジェクト・フィールドを選択すると、以下のような画面が表示されます。

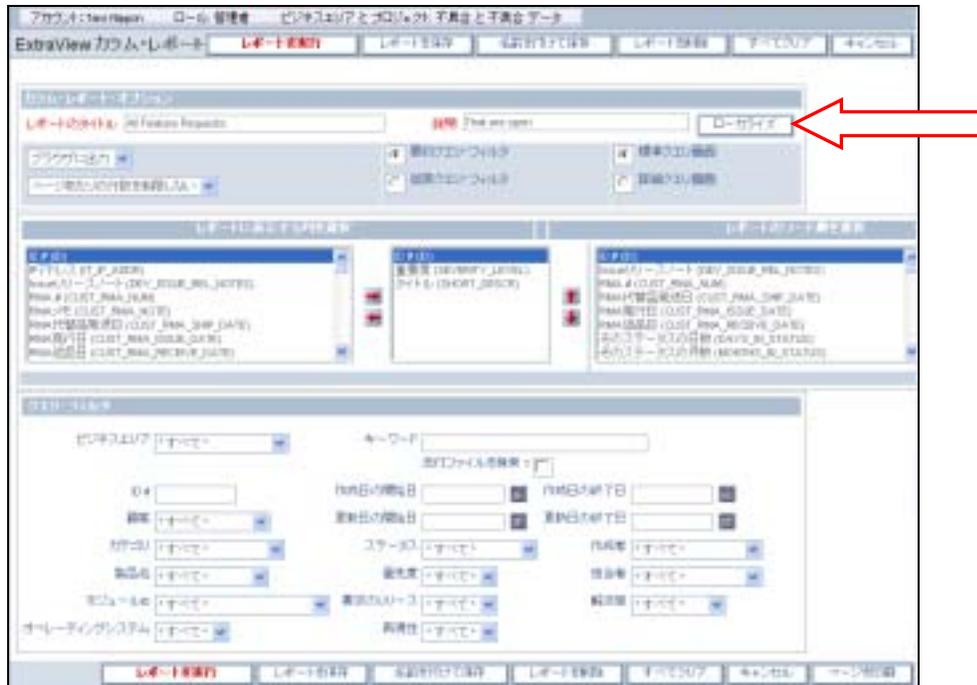


あるプロジェクトから別のプロジェクトへの issue の一括複製

- 複製処理の前に、表示された issue の複製に同意しなければなりません。
- 新しく作成される issue を格納する複製先のビジネス・エリアおよびプロジェクトを選択します。
- プロジェクトを選択した場合、さらにフィールドを追加選択してエリア・フィールドの範囲を越えた更新を行うことはできません。
- [すべてのレコードを複製] ボタンをクリックして処理を続行します。
- [メールを生成] チェックボックスがチェックされていても、一括複製操作により電子メール通知は生成されません。

レポートのローカライズ

管理者であるユーザ (すなわちユーザの現在のロールは動作設定 ADMIN_OVERRIDE_ROLE で定義したロールと同じ) がローカライズを有効にすると、レポートの編集時、次の画面のように [カスタム・レポート]、[サマリ・レポート]、[グラフ] 画面の一番上にプロンプトが追加されます。



レポートの説明のローカライズ

[ローカライズ] ボタンは、ユーザが定義した各ロケールのレポートに関する説明をローカライズするのに使用できます。ただし、レポート・タイトルはローカライズできません。これは、個々のレポート・タイトルがシステム全体で固有でなくてはならないためです。

データ量の多い検索の制御

大容量のデータベースを使う場合、実行するレポートのデータ量を制御し、ユーザが何十万というレコードを返すような検索を繰り返し実行するのを制限したいと考えるかもしれません。以下に示す動作設定を使って、適切な制限を設定することができます。

- ALLOW_UNLIMITED_SEARCH – この動作設定を使用して、データベース上で無制限の検索を実行できないようにすることができます。これを NO にすると、次の LIMIT_QUERY_ROWS と連動して使用されます。
- LIMIT_QUERY_ROWS – 単一のユーザ検索により返される行の数の制限が設定されます。ALLOWED_UNLIMITED_SEARCH が YES である場合、この設定は影響しません。
- MINIMUM_SEARCH_FIELDS – この設定は、ユーザ検索が実行される前に、任意の数のフィルタを選択することをユーザに強制するために使用されます。通常は 2 または 3 に設定することにより、一度にデータベースの小さいセクションのみが検索されるように制御することができます。

キーワード検索

以下に示すアクションにより、キーワード検索を有効にすることができます。

- キーワードという組み込みフィールドをクエリ・フィルタ・レイアウト上に配置します
- これは通常の PR_RESOLUTION.KEYWORD セキュリティ権限キーの対象であるため、機能にアクセスできるロールを制御することができます。
- さらに、PR_RESOLUTION.SEARCH_ATTACHMENTS というセキュリティ権限キーが用意されています。これがあるユーザ・ロールに対して有効な場合、キーワード検索の下にチェックボックスが表示されます。このボックスにチェックを入れると、issue の添付ファイルに対しても入力されたキーワードが検索されます。
- ALLOWED_ATTACH_SEARCH_FILE_EXT – この動作設定では、検索対象の添付ファイルのタイプを制御します。例えば、データベースに容量の大きい画像ファイルがある場合、キーワード検索の対象にするのは無意味です。
- ALLOW_SEARCH_TEXT_UDFS – これを YES に設定すると、表示タイプが TEXT であるすべてのユーザ定義フィールドがキーワード検索対象に含まれます。
- SEARCH_ATTACH_THRESHOLD – 添付ファイルのキーワード検索を利用する際に大容量の検索を回避するための、もう一つの制御方法です。ExtraView は初めにキーワード検索対象となる添付ファイルの総容量を計算します。サイズ(バイト単位)がこの設定値よりも大きい場合、ExtraView はユーザに検索を実行したいかどうか確認します。

Microsoft ドキュメントのキーワード検索

Word や Excel などの Microsoft ドキュメントは **UTF-16LE Unicode 16-bit LittleEndian** という文字セットを使って格納されています。これらのドキュメントのキーワード検索を行いたい場合は、アップロードの際に上記の文字エンコードを指定してドキュメントを保存してください。これはアジアの言語では非常に重要です。アルファベットでの検索の多くは、Microsoft ドキュメントで文字セットを正しく指定しなくても正しく動作します。

レコードと行

ExtraView でのレポート上の行とレポート上のレコードとの区別を理解することが重要となる場合があります。両者の意味上の違いを使用して、ExtraView がレポート上のレコードの正確な数を返す場合と、レコードの数に正確に対応するまたは対応しないとみられる行のセットを返す場合とが区別されます。

これらの相違は、クエリによって1つのレコードが複数回にわたってレポートに返される場合、または同じレコードを複数回にわたってレポート上でカウントする場合に生じます。この現象は、データ内に一対多の関係がある場合に発生します。またこの現象は、以下の2つの場合に最も多く発生します。

- リピーティング行レコードを使用するレポートを作成して、そのレポートのソート用にリピーティング行フィールドを使用する場合。リピーティング行レコードで

ソート用にフィールドを使用すると、リピーティング行が発生するたびにレポート上に行が生成されます。したがって、1つの issue に3つのリピーティング行がある場合、各レコードごとに3つの行が生成されます。

- レポート階層を使用する場合。上記の場合と同じように、階層内のあるレベルに属する1つのレコードに複数の子レコードがある場合があり、子のレベルにおいてフィールドによるソートを行うと、レコードごとにレポート上に1つずつ行が生成されます。

レポート式

レポート式は、レポート出力にのみ配置される新しいフィールド値を計算または導出するために使用されます。例えば、レポートの2つのカラムに保持されている値を乗算して、計算された新しい値を導きたいことがあるかもしれません。もう1つの例として、ある日付を他の日付から減算して、2つのイベントの間の日数を計算する場合があります。

レポート式は最初に、レポート上に配置されるデータ辞書内のフィールドを作成することによって定義されます。実際の計算または式は、フィールドのデフォルト値に定義されるか、またはレポート内のフィールドとともに保存される属性に定義されます。デフォルト値を使用すると、それ以上の設定を行わずに、多くのレポートにわたって共有可能な計算済みフィールドを定義することができます。しかしながら、1つの式タイプ・フィールドをデータ辞書に定義して、それを多くのレポート上でさまざまな用途のために再利用することができます。これを実現するには、使用したい任意のレポート上のフィールドを選択して、そのフィールドの[別タイトル]および[式]の属性を使用し、そのレポートでの用途を変更します。

レポート式の構文

式の一般的な構文は、ANSI-92 SQL 式のサブセットに適合しており、算術、文字列、および日付のデータ型を持ちます。これには 2項演算子および単項演算子が含まれ、標準の優先規則を伴います。また、括弧を使用してサブ式をグループ化することもできます。

それぞれの型のリテラルがサポートされているので、完全な ANSI 構文の使用は確約されませんが、各データ型に対して特定の値が使用できるようにするには十分でしょう。

変数名はデータベースのフィールドを示している場合があります。各変数は `$$$DD_NAME$$$` フォームにあり、標準¹の ExtraView フィールド名または特殊変数を示している場合があります。通常、変数名の仕様はレポート値(タイトルまたはレンダリングされたフォーム)を参照します。しかし式の中では、レンダリングされたフォームではなく変数の値が使用されます。下記の列挙型に関する注意も参照してください。

制限

式をデータ辞書内のリピーティング行フィールドに使用することはできません。

¹ 標準 == LAYOUT.xxx でも RANGE.xxx でもなく集約関数でもない

変数の列挙型への参照

列挙型(表示タイプがリスト、ポップアップ、チェックボックス、およびタブであるフィールド)は文字列変数としてのみ参照可能であり、その場合タイトルが式の中で使用されません。リストタイプのフィールドは、単一の値をもつ場合のみ参照可能です。

式の評価

可能である限り、レポート式は ExtraView により次の2つのレベルの処理によって評価されます。

- 詳細レポートクエリ内の選択リストの構成方法
- レポート行におけるレンダリングのための詳細な式の値の取得

構文のチェックには、単一引用符付き文字列、二重引用符付き文字列、括弧、および「キャスト」機能の試験が含まれています。構文のチェックは、属性がレポートの一部として入力および保存される前に行われます。

ヌル値

式の中にヌル値が存在すると、結果となる式全体の値がヌルとしてレンダリングされます。

式のエラー処理

それぞれのレポート式はそれが含まれているレポートの更新または実行が許可される前に、構文がチェックされ変数の参照が検証されます。データベースの値を参照しなければ決定できない式もあるため、このときユーザが誤った式を作成してしまう場合があります。

例

1. issue のタイムスタンプから現在時刻までの経過時間を、日数で計算します。

```
$$sysdate$$ - $$date_field$$
```

2. 消費税のレートを 8%として総売却価額を計算します。

```
$$currency_field$$ * 1.08
```

レポート・フィールドのタイトル

式フィールドのレポート固有のタイトルに対応するため、ALTERNATE_FIELD_TITLE 属性がサポートされています。この属性は、ユーザが EXPRESSION タイプのエントリなどのデータ辞書のエントリを共有している場合に、コラム見出しを作成するうえでの困難さを軽減します。ALTERNATE_FIELD_TITLE 属性はレポート・ビルダの GUI 内に表示され、ユーザが簡単な選択機構によってレポートのタイトルを定義できるようにしています。

セッション変数の使用

データ辞書内に定義されたセッション変数は、レポート式の置換変数として使用することができます。参照されるセッション変数はそれぞれ、レポートの実行時フィルタを使用して設定しなければなりません。

セッション変数を式内で使用するためには、日付、日、またはテキストフィールドのように、互換性のある表示タイプで定義されていなければなりません。

例

表示タイプが日付である REPORT_AS_OF セッション変数を参照する実行時フィルタの場合、次の式で現在の日付と REPORT_AS_OF に指定された実行時フィルタ値との間の日数が計算されます。

$$$$SYSDATE$$ - $$REPORT_AS_OF$$$$

関連 issue の例

このセクションでは実際の関係グループを設定する方法について、実動システムを提供する管理およびレポートとともに1つ1つの手順を示します。この例では、顧客とカスタマーサポートとの関係を示し、ExtraView 社から "best data" サンプル・サイトの一部として入手可能な設定を使用します。ここに記述する設定は以下のとおりです。

1. 関係グループを作成する。
2. フィールドを配置して、issue を[issue を追加]画面および[issue を編集]画面に関係づける。
3. 2つのビジネス・エリア、*顧客* および *カスタマーサポート* の間のリンクを作成する。
4. 追加されたカスタマーサポート issue がその issue を報告した顧客と自動的に関連付けられるようにロジックを作成する。
5. 関連するissueのレコードを顧客編集画面および顧客詳細レポートに配置して、カスタマーサポート issue を顧客レコード内から参照できるようにする。
6. レポート階層を作成して、ユーザがカスタム・レポートを生成できるようにする。
7. サンプル階層レポートを作成する。

"best data" サイトには、*顧客* および *カスタマーサポート* というビジネス・エリアがあります。各ビジネス・エリアには *追加* レイアウトと *編集* レイアウトに加えて *詳細レポート* レイアウトがあります。それらはこの構成で使用されます。

手順 1 - 関係グループを作成する

本書に記述された機能を使用して、個々の issue の作成時にそれらを結合する情報を保持する関係グループを設定します。お使いの ExtraView のインストール内に定義さ

れたデフォルトの関係グループを、その目的で使用することができます。この関係グループの特徴は、以下になるはずですが。

| | |
|---------|--------------|
| 関係グループ名 | BEST_DATA_RG |
| タイトル | 一般的な関係グループ |
| タイプ | 一対多 |

手順 2 - フィールドをレイアウトに配置する

フィールドをデータ辞書に定義し、それを *カスタマーサポート* ビジネス・エリアの *追加画面* および *編集画面* に配置します。このフィールドを使用して、カスタマーサポートから顧客への関係が作成されます。

| | |
|--------|--------------|
| フィールド名 | MY_PARENT_ID |
| タイトル | 親 Issue |
| 表示タイプ | テキスト・フィールド |

次にこのフィールドにレイアウト・セル属性を指定します。それにより関係をどのように形成するかが詳細に指定されます。

| | |
|-------------------------|--------------|
| RELATIONSHIP_GROUP_NAME | BEST_DATA_RG |
| RG_RELATION | PARENTS |
| VISIBLE_IF | ID = -1 |

このフィールドに対して読み取り権限および書き込み権限が存在する必要があります。ただし、具体的な要求に従って、このフィールドに手動でデータを入力したくない場合や、値が手順 4 で自動的に保持されるためその値を可視にしたい場合があるかもしれません。そのような場合は、フィールドのレイアウト・セル属性を `VISIBLE IF ID = -1` のように指定することができます。当然ながら、issue の ID が負の数になることはないため、当該フィールドは決して可視にはなりません。

手順 3 - ビジネス・エリアのリンクを作成する

ここで使用する例では、これはビジネス・ルールの `<== link ==>` により達成されます。"best data" サイトを使用すると、ルールは以下のようになります。

```
<== link customerLink ==> AREA='Customers', CUST_LIST=CUST_LIST
```

"best data" サイトには、入力された `CUST_NAME` の値に基づいて自動的に `CUST_LIST` フィールドに値を追加するユーザ・カスタム・コードがあります。お使いのイ

ンストールによって、これが必要である場合と必要でない場合があります。どちらであるかご不明な場合は、ExtraView 社のサポート・チームにお問い合わせください。

手順 4 - 顧客をカスタマーサポートに関連付ける

これはもう1つのビジネス・ルールによって達成でき、ここではこの目的で <== refresh ==> ルールを使用します。このルールは以下の2つのタスクを実現します。

- 顧客レコードからの値をカスタマーサポートへと関連付け、CUST_LIST フィールドから顧客名を選択した後、ユーザは担当者名 (CUST_CONTACT_NAME)、顧客電話番号 (CUST_PHONE_NUMBER)、顧客電子メール・アドレス (CUST_EMAIL) など、issue の他のフィールドをいくつか参照することができます。
- issue の関係フィールドにデータを書き込みます。この例の場合には、MY_PARENT_ID フィールドとなります。

全体のルールは以下のとおりです。

```
<== refresh ==>
# rules to set the customer fields in the Customer Issues area
if (CUST_LIST={CHANGED}) {
  CUST_CONTACT_NAME           = (customerLink).CUST_CONTACT_NAME;
  CUST_PHONE_NUMBER           = (customerLink).CUST_PHONE_NUMBER;
  CUST_ADDRESS                 = (customerLink).CUST_ADDRESS;
  CUST_EMAIL                   = (customerLink).CUST_EMAIL;
  CUST_PHONE_CELL              = (customerLink).CUST_PHONE_CELL;
  CUST_CONTRACT_NUM            = (customerLink).CUST_CONTRACT_NUM;
  CUST_CONTRACT_SIGN_DATE      = (customerLink).CUST_CONTRACT_SIGN_DATE;
  CUST_CONTRACT_RENEWAL_DATE   = (customerLink).CUST_CONTRACT_RENEWAL_DATE;
  CUST_CONT_ACT_REN_DATE       = (customerLink).CUST_CONT_ACT_REN_DATE;
  MY_PARENT_ID                 = (customerLink).ID;
}
```

関係が自動的に生成されているのはルールの最後の行であり、そこでは顧客レコードの ID を取得してそれを MY_PARENT_ID フィールドに配置していることに注意してください。その他のステートメントでは、顧客 issue のの中から顧客データの概要を示しています。

手順 5 - 関連 issue の表示を作成する

関連 issue の表示を使用して、現在表示しているレコードに関連するすべてのレコードが表示されます。ここに示す例では、これを使用して顧客レコードを参照する際にある顧客に属しているすべての issue を表示します。

複数の関連する issue を1つの *追加* または *編集* の画面に設定することができますが、ここに示す例では、組み込みの RELATED_ISSUE_DISPLAY のみを使用することになります。

ここで、issue が更新される際に作成されるレコード・リンクがあるので、これらのリンクの結果を確認する必要があります。通常は、これらの関連 issue の表示を、*詳細レポート*、*編集画面* およびその他のレポートで参照したいと考えるでしょう。

最初に、関連 issue の表示を顧客 ビジネス・エリア内に作成します。これを行うには、[Administration]->[フィールドとレイアウト]->[画面とレポートのレイアウト・エディタ] に進み、ビジネス・エリアとして 顧客 を選択します。ここで 埋め込みレイアウトとして使用する 関係issue レイアウト というレイアウトをこのエリアに追加します。これが RELATED_ISSUE_DISPLAY です。このレイアウトを編集し、次の画面のように一連のフィールドをレイアウト上に作成します。



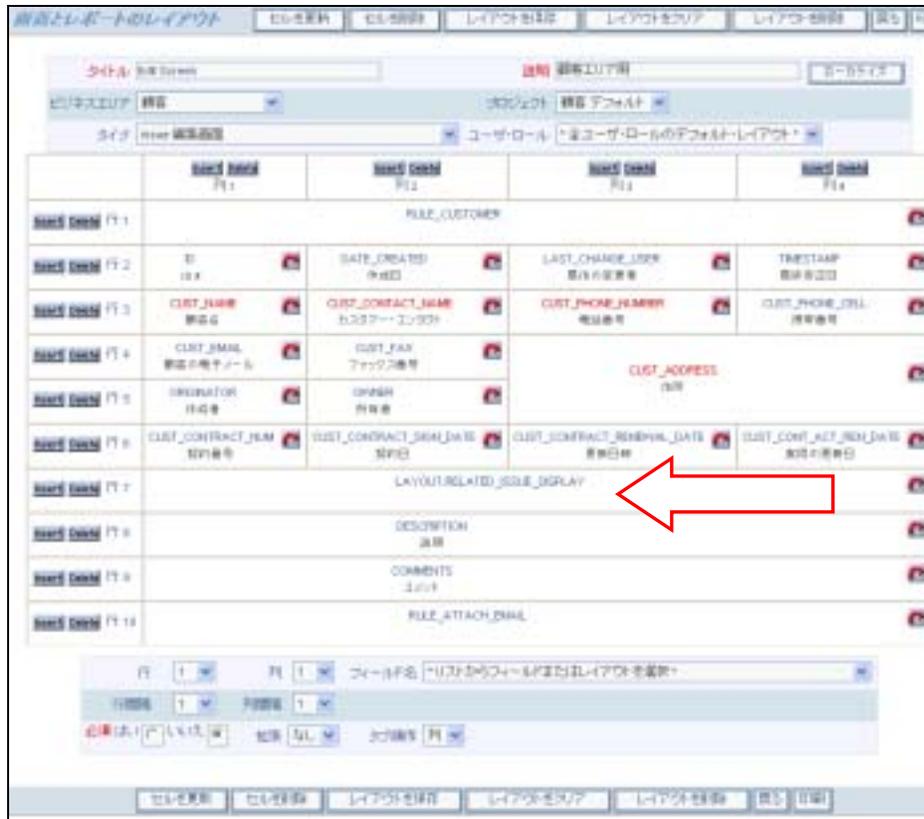
顧客ビジネス・エリアでの関連する issue の表示

ブラウザ内では、このレイアウトに対して生成された HTML コードによってこのレイアウトにあるすべてのカラムが同じ幅を持つ結果となるため、各フィールドにレイアウト・セル属性を追加して、最も適切な幅を設定します。ここでは次の設定を使用します。

| フィールド | レイアウト・セル属性 |
|--------------|------------|
| EDIT_BUTTON | Size = 7 |
| ID | Size = 10 |
| STATUS | Size = 15 |
| PRODUCT_NAME | Size = 15 |
| CATEGORY | Size = 15 |
| SHORT_DESCR | |

SHORT_DESCR フィールドにはレイアウト・セル属性が定義されていないことに注意してください。これはレイアウト内の最後のカラムであるため、利用可能な領域をすべて使用して、ブラウザが許容する限度までフィールド幅が拡張されます。これにより、最適な効果が得られます。

これで関連 issue が表示されたので、参照したいレイアウトの中でこれを使用する必要があります。通常、これは少なくとも編集画面のレイアウトおよび詳細レポート・レイアウトになりますが、これを他のレイアウトに含めることも妥当である場合があります。下の例では、フィールドを顧客ビジネス・エリアの編集画面レイアウトに組み込んでいます。

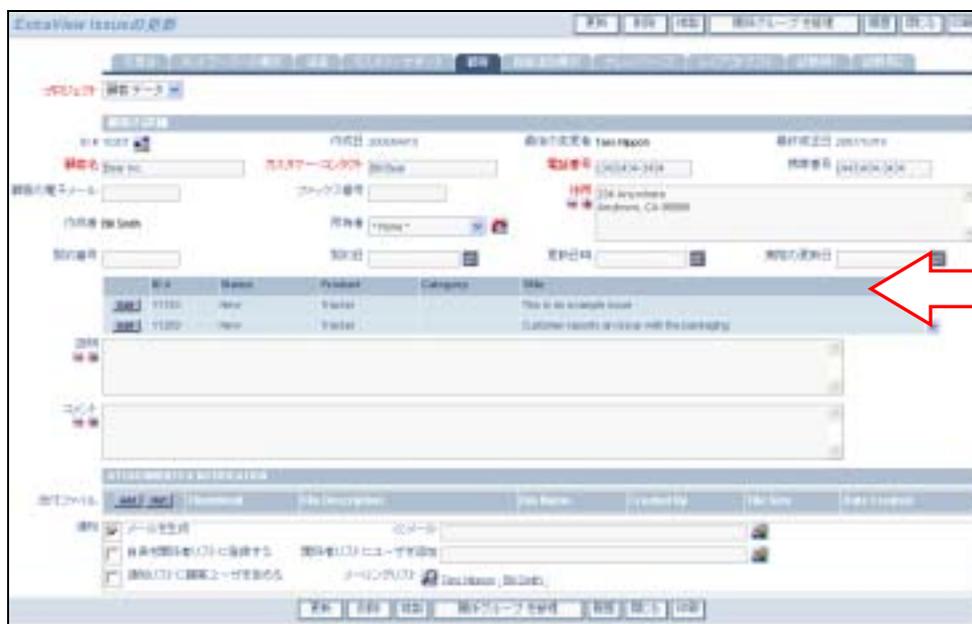


編集レイアウトに組み込まれた関連する issue の表示

この関連 issue の表示を正しい関係グループにリンクすること、そしてレコードを関連付けたい関係の性質を定義することが不可欠です。ここではこれを行うために、レイアウト・セル属性をこの RELATED_ISSUE_DISPLAY に追加します。この例では、次の属性を使用します。

| レイアウト・セル属性 | 値 | 用途 |
|------------------------------------|--------------|--|
| Height | 15 | 関連する issue が表示されるスクロール可能な領域を、約 15 文字の高さに設定します。これにより、最初の1つか2つのレコードにしか関心がない場合に、非常に長いリストの中央部が表示されるのを避けることができます。 |
| RELATIONSHIP_GROUP_NAME | BEST_DATA_RG | これはここで使用する関係グループの名前です。 |
| RELATIONSHIP_GROUP_RELATION_TYPE | CHILDREN | 関係グループに属するすべての顧客のレコード全部ではなく、現在の顧客の子レコードのみを参照したいので、ここではCHILDREN を選択します。 |
| RELATIONSHIP_GROUP_REFERENCE_FIELD | | デフォルト値は ID フィールドであり、これを <i>顧客</i> と <i>カスタマーサポートissue</i> とを関連付けるために使用しているため、ここではこれを設定していません。 |

関連 issue の表示を作成し、それを *編集* 画面レイアウトに埋め込むと、*顧客*レコードの編集の際に以下のように表示されます。



顧客レコード内の関連する issue

同じ顧客レコードを詳細レポートで参照すると、次のように表示されます。

The screenshot shows a software interface titled "ExtraView 詳細レポート" (ExtraView Detailed Report). It displays a customer record for ID # 10007, created on 2005/04/18. The interface includes several data sections:

- Customer Information:**

| 項目 | 値 | 顧客名 |
|--------------|-------------|------------------|
| ステータスの値 | 10007 | New Ac. |
| 更新日時 | 作成日 | 最終更新日 |
| 2005/04/18 | 2005/04/18 | 2007/11/29 09:16 |
| 作成者 | 最終の変更者 | 担当 |
| 001546 | Tara Minton | |
| カスタマーサポート | 電話番号 | ファックス番号 |
| 001 909 3434 | 047434-3434 | |
| | | 顧客の電子メール |
| | | 住所 |
| | | 234 Arroyo Vista |
| | | Arroyo, CA 95020 |
- Related Issues Table:**

| 項目 | ステータス | 題名 | カテゴリ | タイトル |
|-------|-------|---------|------|---|
| 11153 | 新規 | Tracker | | This is an example issue. |
| 11201 | 新規 | Tracker | | Customer reports an issue with the marketing. |

関連 issue の表示を含む詳細レポート

手順 6 レポート階層の作成

設定された関係を利用するユーザ独自のレポートをユーザが作成できるようにしたい場合、この手順が必要となります。詳細レポートでレポートの目的を満たすのであれば、この手順および次の手順を実行する必要はありません。レポート階層の目的は、レポート用に関係を定義して、その関係に基づいてレポート出力に必要なあらゆるフィールド、および必要なあらゆるフィルタを含むカラム・レポートを作成できるようにすることです。ここでは顧客issueを顧客の子レコードとしてレポート出力したいので、ベース・レベルが顧客であり、1番目レベルがカスタマーサポートである階層を作成します。

レポート階層を作成するには、[Administration]->[表示]->[レポート階層]に進みます。これは2段階の処理になり、最初に階層を作成して、次にレベルを階層に追加します。レポート階層には最大で8レベルまで追加できますが、ほとんどの場合、レポート階層はベース・レベルの他に1つまたは2つのレベルを持つことになるでしょう。このセクションの例としてどのように階層を作成したかを以下に示します。

The screenshot shows the "レポート階層" (Report Hierarchy) configuration screen. It contains two input fields:

- 既定データベース名 (Default Database Name): []
- 表示するタイトル (Title to Display): []

Buttons for "新しい階層を追加" (Add New Hierarchy), "キャンセル" (Cancel), and "印刷" (Print) are visible at the top and bottom of the screen.

新しいレポート階層の追加

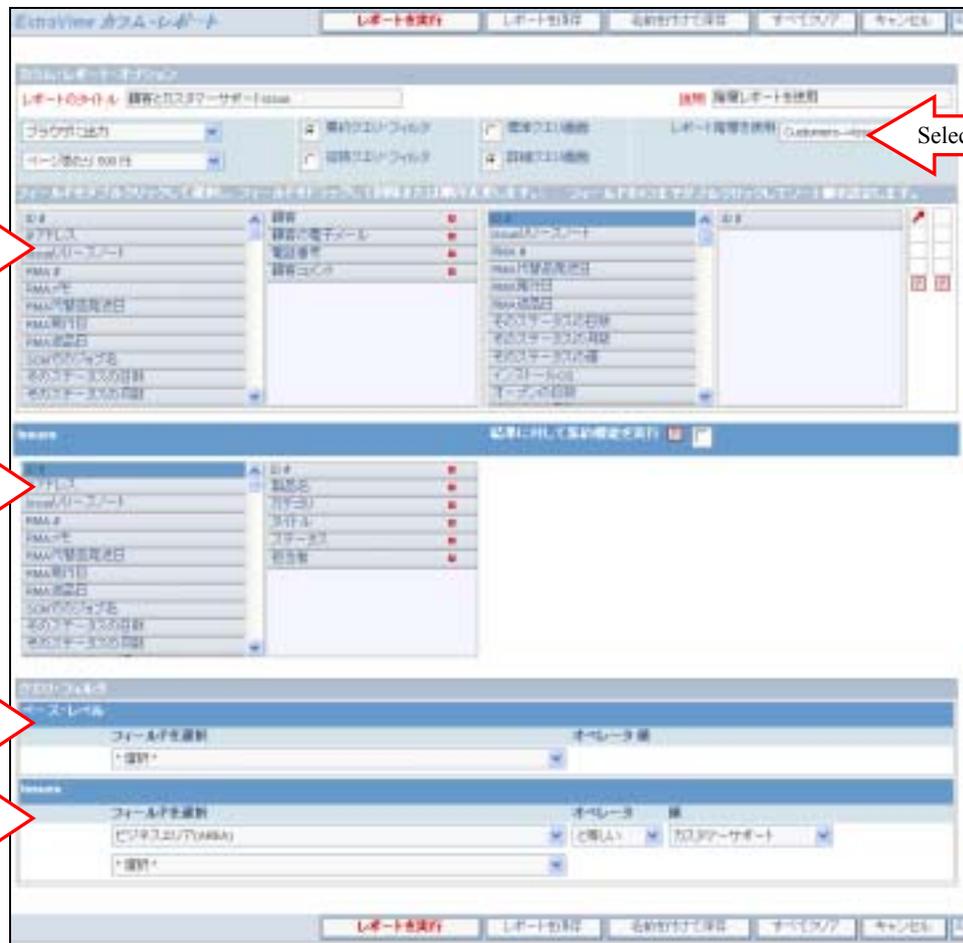
次に、[レポート階層] 画面のリスト・ボタンを使用して、この例で必要なレベルをもう 1 つ追加します。このスクリーン・ショットは、顧客レベルの中に顧客issueを示すためにどのようにレベルを追加したかを示します。

1 番目のレベルをレポート階層に追加する

階層レベルでは、次に作成されるべきレベルがデフォルトになります。特別な理由がない限り、これを変更しないでください。選択される関係グループ名は、BEST_DATA_RG グループのタイトルである 汎用関係グループです。ここではこのレベルでベース・レベルの子を表示したいので、これを関係タイプに設定します。

手順 7 階層レポートを作成する

階層レポートは詳細クエリ・モードにおいてのみ作成できます。詳細クエリ・モードに入ったとき、1つ以上のレポート階層が定義されていれば、**カラム・レポート・オプション**のセクションに**レポート階層を使用**というタイトルの選択リストが表示されます。ここに示す例では、この前の手順で作成した顧客->issue の階層を参照して選択します。これを選択すると画面が更新され、階層のベース・レベルとして選択可能なカラムのセットが表示されて、階層の各レベルごとにカラムのセットが表示されます。この例では、2つのカラム・セットが現れます。同様に、ベース・レベル(顧客)に使用されるフィルタ・セット、カスタマーサポートレベルに使用されるフィルタ・セットの2つのフィルタ・セットが表示されます。この画面を以下に示します。



階層を使用するレポートを作成する

これで表示したいベース・レベルのフィールドを選択し、表示したい *issue* フィールドを選択しました。スクリーンショット上のレポート・フィルタは、ベース・レベルに対するフィルタがないこと、つまりすべての顧客レコードが選択されることを示しています。ここでビジネス・エリア = カスタマーサポートのフィルタを *issue* レベルのフィルタに適用し、レポート出力にある他のビジネス・エリアからのレコードを除去します。このレポート実行後の出力は、以下ようになります。

顧客とのスママナーレポート Issue

41/100-100050の1-41/100-100050

メッセージ + 修正済み
2017/09/08 15:37:50 午前 に New Report により作成

| ID | 種別 | 顧客とのスママナーレポート 修正履歴 | 顧客ID/ID | 修正日 | 修正内容 | 修正者 | 修正時刻 | |
|-------|---------|--------------------|---------|--------------------|------------|-----|--|--------------------|
| 18308 | Comment | | 10086 | Tracker Enterprise | 1ページ 追加 | | The box insert needs to be printed on different colored paper | 修正済み 2017/09/08 |
| 18308 | Comment | | 10087 | Tracker Enterprise | ソフトウェア | | Customer reports seeing duplicate messages after adding a new record | 修正済み 2017/09/08 |
| 18328 | Comment | | 10086 | Tracker Enterprise | ソフトウェア | | Now Computing report in edit message when adding a record | 修正済み 2017/09/08 |
| 18353 | Comment | | 10522 | Tracker | 1ページ 追加 | | Needs to know how enclosures are processed literally | 修正済み 2017/09/08 |

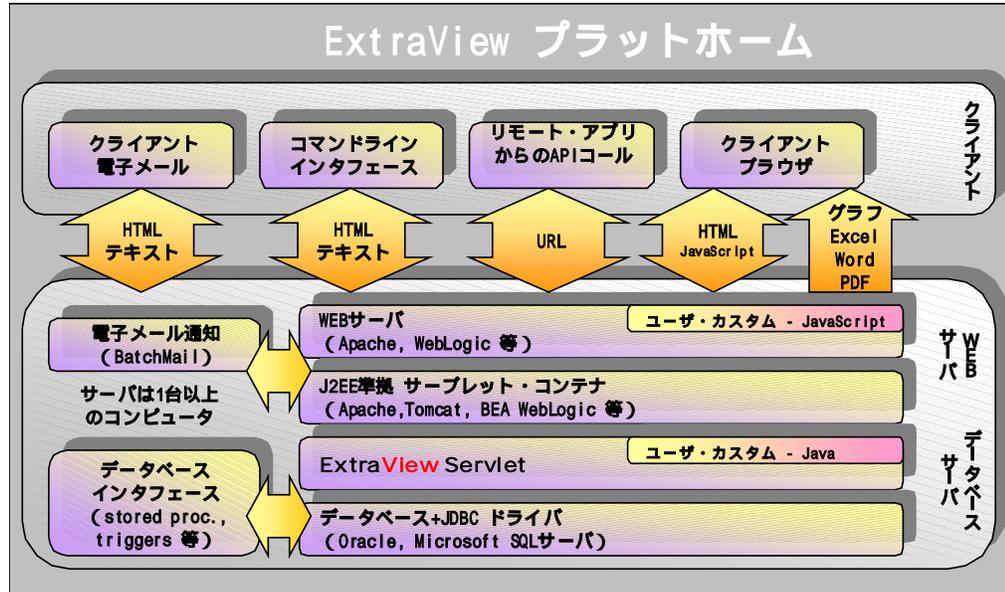
41/100-100050の1-41/100-100050

階層レポートの出力

レポートのベース・レベルでフィールドが省略されていることに注意してください。これは `FILL_IN_REPEATING_RECORDS` という動作設定によって制御されています。これが `YES` に設定されると、フィールドは省略されます。値が `NO` の場合、レポートの各行に値が繰り返し表示されます。

ExtraView のカスタム・コーディング拡張

ExtraView の最も強力な機能の一つとして、ユーザ独自の“ユーザ・カスタム”コードを追加することにより、ExtraView に組み込まれた機能を拡張したり変更できる点が挙げられます。これについての詳細は、『ExtraView コマンド・ライン・インタフェースおよびアプリケーション・プログラミング・インタフェース・ガイド』に記載されています。本書では簡単な説明だけを行います。



ExtraView のアーキテクチャ

Java カスタム・コーディング

Java カスタム・コーディングは、標準の ExtraView コードの動作を補完したり変更するものです。ExtraView の多くの組み込み機能では、ユーザ・カスタム・モジュール内のメソッドへのコード終了が発生します。このメソッド内にユーザ・カスタム・コードが存在しない場合、ExtraView は動作を継続します。ユーザ・カスタム・コードがメソッド内に存在する場合は、そのコードが実行されます。

ExtraView 内部で提供される UserCustom.java クラス内で、プログラマはこのクラスから継承を行い、関係するメソッドに優先して使用することができます。

ユーザ・カスタム・コードを挿入できるのは、次のような位置です。

- オブジェクト(画面など)の表示の前後。
- オブジェクト(画面など)の画面更新の前後。
- データ・リストの内容の変更時。
- ボタン ([関係グループ] ボタン、[削除] ボタン、[複製] ボタンなど)をクリックしたときの機能の変更時。

- 電子メール通知機能の変更時。
- issue の更新の前後。
- issue の削除の前。
- APIによる関数呼び出し。

ユーザ・カスタムの Java コードを作成するには、完全な Java 開発環境と JDK が必要です。さらに、Borland の JBuilder または Eclipse などの IDE を使用することをお勧めします。

注: ExtraView では、ユーザ・カスタム・コードを導入するには弊社に相談していただくよう強くお願いしております。ExtraView の環境は複雑なので、Java 言語によるプログラミングの経験と、ExtraView の内部構造に関する十分な理解の両方が揃っていないと、ExtraView のユーザ・カスタム拡張の設計および構築はうまくいきません。

注: ユーザ・カスタム・コードをインストールした ExtraView 環境でエラーが発生する場合は、その問題を ExtraView のサポートへ報告する前に、ユーザ・カスタム・コードを削除した状態でもエラーが発生するかどうかを確認することをお勧めいたします。

JavaScript カスタム・コーディング

JavaScript カスタム・コーディング関数は、一般に追加画面や編集画面の個別のフィールドから呼び出します。JavaScript には、次のような多くの機能があります。

- ユーザによるフィールド入力の検証。
- フォーム上の多数のフィールド値の比較を含む複雑な検証。
- 機能のロジックに従って、メッセージをポップアップすることにより、ユーザに警告を出します。

ユーザ・カスタムの JavaScript は、UserJavaScript.js という 1 つのファイルに入れられます。このファイルは、ご使用の Web サーバのツリー構造にある /user_javascript ディレクトリ内にあります。

JavaScript 関数は、ユーザの画面上にフォームが生成された時点でクライアント・ブラウザにダウンロードされます。ユーザが関数を呼び出すときにサーバの呼び出しが不要なので、とても効率的です。コードはブラウザ内で実行されます。

ほとんどの JavaScript カスタム関数は、HTML MODIFIER を使用してフィールドのレイアウト・セル属性内で定義されます。この HTML 変更子は、ユーザがサーバの特定の場所に作成した JavaScript 関数を呼び出します。

例えば、編集画面上の *product_code* というフィールドのエントリが、常に大文字でサーバへ送信されているかを確認したい場合は、次の操作を行います。

- 編集画面の *product_code* フィールドで、レイアウト・セルの属性を定義します。タイプは HTML Modifier、値は次のとおりです。

```
onclick='checkUpperCase()';
```

- user_javascript ファイル内で、次のようにユーザ・カスタムの JavaScript 関数を

作成します。

```
<script language=JavaScript>  
function checkUpperCase() {  
    var s = document.editForm.product_code.value;  
    document.editForm.product_code.value = s.toUpperCase();  
}  
</script>
```

ExtraView のヘルプ

組み込みのヘルプ・システム

ExtraView アプリケーションには、総合的な HTML ベースのヘルプ・システムが含まれており、ナビゲータ・フレームの [Help] ボタンをクリックすることにより、いつでもアクセスできます。さらに、アプリケーション全体にわたって、多くのツール・チップと状況依存のリンクが定義されています。

ツール・チップのある画面のラベルにマウス・カーソルを置くと、マウス・カーソルの横にこのラベルの機能を定義した小さなウィンドウが表示されます。このようなラベルにより、ユーザに対してヘルプのヒントを定義することができます。ラベルの上でマウス・ボタンをクリックすると、ヘルプ・システム内の特定のページに移動します。画面名の管理セクションで特定のページを定義していない場合は、[ヘルプ索引] ページに移動します。このページは、システムの詳細情報へのリンクで構成されています。



ExtraView のヘルプ画面

独自のヘルプ・システムの定義

ExtraView 内で独自のヘルプ・システムを開発するのは簡単です。ExtraView の組み込みシステムと完全に分けることも、組み込みシステムと完全に置き換えることも可能です。

デフォルト・ヘルプ・システムのパス

標準ヘルプ・システムの HTML ファイルは、ExtraView がインストールされているインストール・ディレクトリ内の en_US/help というパス名のディレクトリに格納されています。へ

ヘルプ・システムの組み込み画像は、デフォルトで en_US/images というパスに格納されています。ヘルプ・システムのメニュー・ボタンは、システムの標準画像ディレクトリに格納されていますので、注意してください。

独自のヘルプ・システムにパスを定義する

ヘルプ・システム全体を開発する場合は、[Administration] の [システム制御] メニューにある [環境設定] メニューで動作設定 HELP_HOME を設定することをお勧めします。

次に、このディレクトリ内に通常の index.html ファイルを設定し、そこからシステム全体をセットアップすることができます。

メイン・メニューで [Help] ボタンをクリックすると、新しいウィンドウが開いてこのページにアクセスします。

独自のヘルプ・システムへのアクセス

ページを移動するための内部リンクを設定したヘルプ・ファイルを作成することができます。また、データ辞書の各フィールドでヘルプURL を使用することにより、[Issue の追加] や [Issue の編集] などの各画面のそれぞれのフィールドに、状況依存のヘルプを表示することができます。

さらに、標準の HTML ブックマーク規則を使用して、データ辞書からヘルプ・ページ内の特定の場所へドリルダウンすることもできます。

ExtraView のシステム・ログ

ExtraView には、情報、アクティビティ、エラーを記録する 4 つの主要なログがあります。

- **サインオン・ログ。**すべてのサインオンおよびサインオフのアクティビティと、権限のないアクセスを記録します。このログの詳細と使用方法については、本書のユーザ管理に関するセクションを参照してください。
- **システム・ログ。**すべてのメタデータ・トランザクションを記録します。このログの詳細と使用方法については、本書のシステム・コントロールに関するセクションを参照してください。
- **アプリケーション・サーバ・ログ。**ExtraView servlet へのそれぞれのアクセスの開始と終了を記録します。このログには、だれがどのアクセスを実行し、アクセスにどれだけ時間がかかったかの記録が残されます。
- **BatchMail ログ。**ExtraView からの電子メール通知の送信状況を記録します。

アプリケーション・サーバ・ログ

アプリケーション・サーバ・ログは ExtraView に常駐していません。管理者は通常、サーバのファイル・システムからこのログにアクセスします。もう1つの方法として、管理者はシステム・ログ機能を使用してログを参照することができます。ファイル・システムから直接ログにアクセスすると、エディタでログを見ることができます。システム・ログ画面からアプリケーション・サーバ・ログを見る場合は、ログ全体の参照のみが可能です。

ログ・ファイルへのパスは、ExtraView の Configuration.properties ファイルで指定します。このファイルは通常、デフォルトで ExtraView の WEB-INF ディレクトリに格納されています。パスは、LOG_FILE_PATH_NAME というエントリで定義されます。例えば、ExtraView の Apache Tomcat インストールのホーム・ディレクトリが /evj だとすれば、ログ・ファイルへのパスは /evj/tomcat/webapps/golden411/WEB-INF/logs のようになります。

Configuration.properties ファイル内で定義できるパラメータとそれぞれの意味のリストを以下に示します。

| パラメータ | 説明 |
|-----------------------------|--|
| LOG_FILE_PATH_NAME_ABSOLUTE | 絶対フルパス名(ディレクトリとファイル名) |
| LOG_FILE_PATH_NAME | 相対パス名(ディレクトリとファイル名) |
| LOG_FILE_DIR_ABSOLUTE | 絶対ディレクトリ名(ディレクトリのみ) |
| LOG_FILE_DIR | 相対ディレクトリ名(ディレクトリのみ) |
| LOG_FILE_NAME | ログ・ファイルのファイル名。何も指定していない場合、ログ・ファイルの名前は error.log になります。 |

| | |
|------------------------|---|
| WEB_SERVER_NAME | インスタンス名(名前に .log が付きます) |
| LOG_FILE_MAX_SIZE | ログ・ファイルの最大サイズ(キロバイト数)。ログ・ファイルがこのサイズを超えると自動的にアーカイブされ、新たなログ・ファイルが作成されます。古いログには、LOG_TIME_AT_CREATION で設定した規則によってファイル名が付けられます。クラスタ化したアプリケーション・サーバ環境で作業している場合、クラスタ上のすべてのノードが 1 つのログ・ファイルを共有します。デフォルトの最大サイズは 20,000 です。 |
| LOG_FILE_MAX_RETAINED | 最も古いログ・ファイルが削除されるまで保持されるログ・ファイルの最大数。デフォルトは 10 です。 |
| LOG_FILE_MANAGE_SCRIPT | このスクリプトはログ・ファイルを削除する代わりに呼び出されます。ログ・ファイルのスクリプトとファイル名は別のプロセスで実行されます。ファイル名は単一のパラメータとしてスクリプトに渡されます。 |
| XML_LOG_FLAG | これが真の場合、ログは XML 形式になります。デフォルトは偽なので、ログ・ファイルはプレーン・テキストになります。 |
| LOG_TIME_AT_CREATION | これが真の場合、ログの名前に DATETIME スタンプが付きます。作成時に名前の変更は行われません。デフォルトは偽です。 |
| DEFAULT_LOG_LEVEL | <p>起動時に DEBUG_LEVEL を設定します。</p> <p>ログに転送されるメッセージのレベルは、デバッグ・レベルによって制御されます。これは 1 ~ 12 の数字であり、数字が大きいほどログ・ファイルに多くの情報が書き込まれます。デフォルトは 6 です。この数字は理由もなく増やしてはなりません。システム性能に影響があるとともに、ログ・ファイルのサイズが急激に大きくなっていくことがあるからです。</p> <p>ログに送られるメッセージのレベルは次の URL で制御しますが、ドメインとアプリケーションの名前は該当する名前に置き換えます。</p> <p>http:// server.extraview_domain.com /ExtraView/evSignon?DEBUG=6</p> <p>[システム制御] 管理メニューの [システムデバッグ & ユーザ・カスタム設定] で動作設定 ALLOW_DEBUG_URL を YES に設定していない限り、ユーザおよび管理者はこの URL にアクセスする権限がありません。</p> |

注 : LOG_FILE_PATH_NAME_ABSOLUTE 、 LOG_FILE_PATH_NAME 、 LOG_FILE_DIR_ABSOLUTE、または LOG_FILE_DIR でパスを指定していない場合、ログ・ファイルの場所は java.tmpdir になります。

アプリケーション・サーバ・ログ・ファイルの形式

プレーン・テキストのログ・ファイルは、一般に次のように表示されます。

| | | | | | |
|--|----------|---|------|---|--|
| 2003-07-17 | 17:45:46 | [| info |] | ExtraView.,6544,Thread-31,>>>>Entering |
| service,security.LoginDisplay.getMenu,sc,0,tmem,126,fmem,75,,,,uid,SHOYDIC,nid,http://avalon.extraview.net/med ON WS_A: | | | | | |
| 2003-07-17 | 17:45:46 | [| info |] | ExtraView.,6544,Thread-31,>>>>Leaving |
| service,security.LoginDisplay.getMenu ,sc,0,tmem,126,fmem,75,cc,22,time,20,uid,SHOYDIC,nid,http://avalon.extraview.net/med ON WS_A: | | | | | |
| 2003-07-17 | 17:45:46 | [| info |] | ExtraView.,6544,Thread-21,>>>>Entering |
| service,security.LoginDisplay.getMain,sc,0,tmem,126,fmem,75,,,,uid,SHOYDIC,nid,http://avalon.extraview.net/med ON WS_A: | | | | | |
| 2003-07-17 | 17:45:46 | [| info |] | ExtraView.,6544,Thread-21,>>>>Leaving |
| service,security.LoginDisplay.getMain ,sc,0,tmem,126,fmem,75,cc,22,time,10,uid,SHOYDIC,nid,http://avalon.extraview.net/med ON WS_A: | | | | | |
| 2003-07-17 | 17:45:46 | [| info |] | ExtraView.,6544,Thread-31,>>>>Entering |
| service,Display.doEditDisplay,sc,0,tmem,126,fmem,75,,,,uid,SHOYDIC,nid,http://avalon.extraview.net/med ON WS_A: | | | | | |
| 2003-07-17 | 17:45:46 | [| info |] | ExtraView.,6547,Thread-29,>>>>Leaving |
| action ,sc,1,tmem,126,fmem,72,cc,24,time,54,uid,SHOYDIC,nid,http://avalon.extraview.net/med ON WS_A: | | | | | |
| 2003-07-17 | 17:45:47 | [| info |] | ExtraView.,6547,Thread-15,>>>>Entering |
| service,security.LoginDisplay.getMenu,sc,1,tmem,126,fmem,82,,,,uid,SHOYDIC,nid,http://avalon.extraview.net/med ON WS_A: | | | | | |
| 2003-07-17 | 17:45:47 | [| info |] | ExtraView.,6547,Thread-29,>>>>Entering |
| service,security.LoginDisplay.getMain ,sc,2,tmem,126,fmem,82,,,,uid,SHOYDIC,nid,http://avalon.extraview.net/med ON WS_A: | | | | | |
| 2003-07-17 | 17:45:47 | [| info |] | ExtraView.,6547,Thread-29,>>>>Leaving |
| service,security.LoginDisplay.getMain ,sc,2,tmem,126,fmem,82,cc,24,time,10,uid,SHOYDIC,nid,http://avalon.extraview.net/med ON WS_A: | | | | | |
| 2003-07-17 | 17:45:47 | [| info |] | ExtraView.,6547,Thread-15,>>>>Leaving |
| service,security.LoginDisplay.getMenu ,sc,1,tmem,126,fmem,82,cc,24,time,27,uid,SHOYDIC,nid,http://avalon.extraview.net/med ON WS_A: | | | | | |
| 2003-07-17 | 17:45:47 | [| info |] | ExtraView.,6547,Thread-15,>>>>Entering |
| service,Display.doEditDisplay,sc,1,tmem,126,fmem,76,,,,uid,SHOYDIC,nid,http://avalon.extraview.net/med ON WS_A: | | | | | |
| 2003-07-17 | 17:45:48 | [| info |] | ExtraView.,6545,Thread-31,>>>>Leaving |
| service,Display.doEditDisplay ,sc,0,tmem,126,fmem,74,cc,25,time,1842,uid,SHOYDIC,nid,http://avalon.extraview.net/med ON WS_A: | | | | | |
| 2003-07-17 | 17:45:48 | [| info |] | ExtraView.,6548,Thread-15,>>>>Leaving |
| service,Display.doEditDisplay ,sc,1,tmem,126,fmem,82,cc,25,time,1322,uid,SHOYDIC,nid,http://avalon.extraview.net/med ON WS_A: | | | | | |
| 2003-07-17 | 17:45:48 | [| info |] | ExtraView.,6544,Thread-21,>>>>Entering |
| service,security.LoginDisplay.doMenuLoadDone,sc,0,tmem,126,fmem,81,,,,uid,SHOYDIC,nid,http://avalon.extraview.net/med ON WS_A: | | | | | |
| 2003-07-17 | 17:45:48 | [| info |] | ExtraView.,6544,Thread-21,>>>>Leaving |
| service,security.LoginDisplay.doMenuLoadDone ,sc,0,tmem,126,fmem,81,cc,25,time,10,uid,SHOYDIC,nid,http://avalon.extraview.net/med ON WS_A: | | | | | |
| 2003-07-17 | 17:45:49 | [| info |] | ExtraView.,6547,Thread-29,>>>>Entering |
| service,security.LoginDisplay.doMenuLoadDone,sc,0,tmem,126,fmem,81,,,,uid,SHOYDIC,nid,http://avalon.extraview.net/med ON WS_A: | | | | | |
| 2003-07-17 | 17:45:49 | [| info |] | ExtraView.,6547,Thread-29,>>>>Leaving |
| service,security.LoginDisplay.doMenuLoadDone ,sc,0,tmem,126,fmem,81,cc,25,time,10,uid,SHOYDIC,nid,http://avalon.extraview.net/med ON WS_A: | | | | | |
| 2003-07-17 | 17:46:08 | [| info |] | ExtraView.,6537,Thread-24,>>>>Entering |
| service,search.SearchDisplay.doDisplay,sc,0,tmem,126,fmem,81,,,,uid,SHOYDIC,nid,http://avalon.extraview.net/med ON WS_A: | | | | | |
| 2003-07-17 | 17:46:08 | [| info |] | ExtraView.,6537,Thread-24,>>>>Leaving |
| service,search.SearchDisplay.doDisplay ,sc,0,tmem,126,fmem,77,cc,25,time,400,uid,SHOYDIC,nid,http://avalon.extraview.net/med ON WS_A: | | | | | |

- 各エントリはタイムスタンプから始まります。
- 「>>>>Entering Service」の各メッセージには対応する「>>>>Leaving Service」というログ・エントリがあります。これによって、ExtraView への各リクエストを、リクエストが出された時点からリクエストが処理され ExtraView がタスクを完了した時点まで追跡することができます。
- 「>>>>Leaving service」エントリには、サーバ上でリクエストを実行するのに要した時間が示されます。
- ファイルはカンマ区切りファイルです。ログ・ファイルの情報をソートおよび抽出して分析したい場合は、Microsoft Excel などのツールにログ・ファイルを簡単にインポートできます。

ファイルの形式は次のとおりです。

タイムスタンプ、ログ・エントリ・タイプ、servlet 名、セッション ID、スレッド #、開始/終了、クラスと実行メソッド、サービス・カウント、サービス・カウント値、使用可能総メモリ量、使用可能総メモリ量の値、[使用可能空きメモリ量、使用可能空きメモリ量の値、キャッシュ・カウント、キャッシュ・カウント値、時間、時間値]、ユーザ ID、ユーザ ID 値、ネットワーク ID、ネットワーク ID 値

| パラメータ | 説明 |
|-------------|--|
| タイムスタンプ | エントリの日付と時刻。 |
| ログ・エントリ・タイプ | 通常のエントリは INFO と表示されます。ERROR や WARNING などのエントリが表示されることもあります。 |
| servlet 名 | 常に ExtraView です。 |
| セッション ID | セッションの固有の識別子。 |
| スレッド # | このタスクが実行のために使用しているスレッド番号。 |
| 開始/終了 | タスクがこれから開始するのか終了するのを示します。 |
| クラスと実行メソッド | クラスのパスと、実行されているクラス内のメソッド。 |
| サービス・カウント | このリクエストを受信した時点でサービスを待機しているプロセスの数。この数が小さいほど、システムの性能は向上します。短時間でこの数字が 5 を超えることもありますが、これはユーザがタスクを実行するためにマシンのリソースを待っていることを意味します。この数字が常時大きい場合は、複数のアプリケーション・サーバを設定して負荷を分配するのがよい解決策です。 |
| 使用可能総メモリ量 | このアプリケーション・サーバに割り当てられている総メモリ量。通常は、管理者がアプリケーション・サーバの起動スクリプトで設定します。 |
| 使用可能空きメモリ量 | 未使用のメモリ量。この値が非常に低下した場合、メモリ不足エラーが発生することがあります。このような状況になったら、このアプリケーション・サーバに割り当てる総メモリ量を増やしてください。 |
| キャッシュ・カウント | このリクエストを実行した時点でのキャッシュ内のユーザ・セッションの総数。この時点でサインオンしているユーザ数とだいたい同じです。 |
| 時間 | リクエストの実行に要した時間(ミリ秒)。 |
| ユーザ ID | リクエストを出したユーザのユーザ ID。 |
| ネットワーク ID | リクエストを出したアプリケーション・サーバ・クラスタ内のネットワーク ID とノード名。 |

アプリケーション・サーバ・ログ内のエラー

ログ内のエラーは、不測のイベントやプログラミング・エラーが発生した場合に ExtraView によって生成されます。すべてのエラーが致命的な訳ではありません。実際、エラーが発生した ExtraView のユーザにまったく何の影響もないようなエラーもログの中にはあります。しかし、ExtraView ではログの中にプログラミング・エラーや例外が発生するのを最小限に抑えるよう努めています。ログの例外は次のようなエラーとして表示されます。このエラーは、ExtraView のプレリリース版に含まれていたプログラミング・エラーによるものです。

```
2003-07-07 12:22:07 [ info ] ExtraView.,5388,Thread-15,>>>Entering
service.admin.LayoutDisplay.doEdit,sc,0,tmem,126,finem,106,,,,uid,ADMIN,nid,http://avalon.extraview.net/med ON WS_A:
2003-07-07 12:22:09 [ ERROR] PSP: Invocation Target is:java.sql.SQLException: ORA-00001: unique constraint (MED.PK_TITLE_MAP) violated
2003-07-07 12:22:09 [ ERROR] PSP: SQL was: insert into title_map (title_map_key, language, region, variant, text, date_created, last_date_updated,
last_updated_by_user, created_by_user) values (?, ?, ?, ?, SYSDATE, SYSDATE, ?, ?)
2003-07-07 12:22:09 [ ERROR] PSP: Bind Values are: '6436','ja','JP','','null','ADMIN','ADMIN'
2003-07-07 12:22:09 [ ERROR] PSP: SQL State is:23000
2003-07-07 12:22:09 [ ERROR] Exception = java.sql.SQLException: ORA-00001: unique constraint (MED.PK_TITLE_MAP) violated
java.sql.SQLException: ORA-00001: unique constraint (MED.PK_TITLE_MAP) violated

    at oracle.jdbc.dbaccess.DBError.throwSQLException(DBError.java:180)
    at oracle.jdbc.ttc7.TTIOer.processError(TTIOer.java:208)
    at oracle.jdbc.ttc7.Oall7.receive(Oall7.java:543)
    at oracle.jdbc.ttc7.TTC7Protocol.doOall7(TTC7Protocol.java:1451)
    at oracle.jdbc.ttc7.TTC7Protocol.parseExecuteFetch(TTC7Protocol.java:862)
    at oracle.jdbc.driver.OracleStatement.executeNonQuery(OracleStatement.java:1839)
    at oracle.jdbc.driver.OracleStatement.doExecuteOther(OracleStatement.java:1764)
    at oracle.jdbc.driver.OracleStatement.doExecuteWithTimeout(OracleStatement.java:2354)
    at oracle.jdbc.driver.OraclePreparedStatement.executeUpdate
      (OraclePreparedStatement.java:421)
    at sun.reflect.GeneratedMethodAccessor13.invoke(Unknown Source)
    at sun.reflect.DelegatingMethodAccessorImpl.invoke(DelegatingMethodAccessorImpl.java:25)
    at java.lang.reflect.Method.invoke(Method.java:324)
    at com.extraview.util.PreparedStatementProxy.invoke(PreparedStatementProxy.java:91)
    at oracle.jdbc.driver.SProxy1.executeUpdate(Unknown Source)
    at com.extraview.util.Message.insertOneTitle(Message.java:611)
    at com.extraview.util.Message.insertTitle(Message.java:580)
    at com.extraview.applogic.layout.LayoutElementAttribute.executeTransaction
      (LayoutElementAttribute.java:244)
    at com.extraview.applogic.layout.LayoutElement.insertAttributes(LayoutElement.java:495)
    at com.extraview.applogic.layout.LayoutElement.executeTransaction(LayoutElement.java:344)
    at com.extraview.applogic.layout.Layout.insertElements(Layout.java:1388)
    at com.extraview.applogic.layout.Layout.executeTransaction(Layout.java:1131)
    at com.extraview.applogic.ftool.LayoutDbMaster.executeSave(LayoutDbMaster.java:390)
    at com.extraview.applogic.ftool.LayoutDbMaster.saveLayout(LayoutDbMaster.java:303)
    at com.extraview.presentation.ftool.FlexibleLayout.service(FlexibleLayout.java:494)
    at com.extraview.presentation.admin.LayoutDisplay.doEdit(LayoutDisplay.java:362)
    at sun.reflect.GeneratedMethodAccessor24.invoke(Unknown Source)
    at sun.reflect.DelegatingMethodAccessorImpl.invoke(DelegatingMethodAccessorImpl.java:25)
    at java.lang.reflect.Method.invoke(Method.java:324)
    at ExtraView.service(ExtraView.java:250)
    at javax.servlet.http.HttpServlet.service(HttpServlet.java)
    at org.apache.tomcat.facade.ServletHandler.doService(Unknown Source)
    at org.apache.tomcat.core.Handler.invoke(Unknown Source)
    at org.apache.tomcat.core.Handler.service(Unknown Source)
    at org.apache.tomcat.facade.ServletHandler.service(Unknown Source)
    at org.apache.tomcat.core.ContextManager.internalService(Unknown Source)
    at org.apache.tomcat.core.ContextManager.service(Unknown Source)
    at org.apache.tomcat.modules.server.Ajp13Interceptor.processConnection(Unknown Source)
    at org.apache.tomcat.util.net.TcpWorkerThread.runIt(Unknown Source)
    at org.apache.tomcat.util.threads.ThreadPool$ControlRunnable.run(Unknown Source)
    at java.lang.Thread.run(Thread.java:536)

2003-07-07 12:22:10 [ info ] ExtraView.,5388,Thread-15,>>>Leaving
service.admin.LayoutDisplay.doEdit,sc,0,tmem,126,finem,109,cc,1,time,2630,uid,ADMIN,nid,http://avalon.extraview.net/med ON WS_A:
```

ExtraView サポート・チームでは、ExtraView でエラー状態が発生したユーザに対して、アプリケーション・サーバ・ログを調べてからサポート・チームにログを送信するようお願いすることがあります。弊社のサポート・チームは、エラー・エントリからどこでエラーが発生したかを特定できます。また、この情報を使ってプログラミング・エラーをデバッグし、修正します。

BatchMail ログ

BatchMail は、ご使用のサーバが起動すると同時に起動する別の Java プログラムです。このプログラムには、ExtraView から電子メール通知が出力されるとその通知を処理するコードが含まれています。ExtraView は、ユーザの SMTP メール・サーバには直接電子メール通知を送信しません。これは、なんらかの理由でサーバがダウンしてしまった場合、ExtraView がいつまでも応答を待つことになるからです。

そうならないように、ExtraView ではそれぞれの電子メール通知を一時ディレクトリに送ります。BatchMail プログラムが常駐するメール・ディレクトリのパスは、ExtraView の Configuration.properties ファイルで指定します。このファイルは、ExtraView の WEB-INF ディレクトリに格納されています。パスは、MAILBOX というエントリで定義されます。例えば、ExtraView の Apache Tomcat インストールのホーム・ディレクトリが /evj だとすれば、ログ・ファイルへのパスは /evj/tomcat/webapps/golden411/WEB-INF/BatchMail/logs のようになります。

BatchMail ログ・ファイルからの抜粋を以下に示します。

```
2003-07-18 15:47:52 [ ALERT] mail.send() executed ExtraView Notification [10000]: Unassigned- Newly reported issue concerning XY module
to-->ed@baumanns.org in 0 seconds
2003-07-18 15:51:18 [ ALERT] mail.send() executed ExtraView Notification [10001]: Unassigned- bug created by sweng1, assigned to qaeng1
to-->ed@baumanns.org in 0 seconds
2003-07-18 15:56:15 [ ALERT] mail.send() executed ExtraView Notification [10001]: Unassigned- bug created by sweng1, assigned to qaeng1
to-->ed@baumanns.org in 0 seconds
2003-07-18 18:06:07 [ ALERT] mail.send() executed Open[19397]-[P 3]-[Admin Admin] overriding value for title
to-->leeann@extraview.com in 0 seconds
2003-07-18 18:06:09 [ ERROR] Error Occured ... javax.mail.SendFailedException: Sending failed;
nested exception is:
    javax.mail.SendFailedException: Invalid Addresses;
nested exception is:
    javax.mail.SendFailedException: 550 unknown user

2003-07-18 18:06:09 [ ERROR] Error Occured processing file 19397HtmlQA1058576763923.html for dpuiia@extraview.com
2003-07-18 18:06:09 [ ERROR] Renaming /usr/local/extraview/BatchMail/mailbox/_19397HtmlQA1058576763923.html
to /usr/local/extraview/BatchMail/mailbox/_19397HtmlQA1058576763923.html
2003-07-18 18:07:15 [ ALERT] mail.send() executed Open[19398]-[P 3]-[Admin Admin] overriding value for title
to-->lpultz@extraview.com in 0 seconds
2003-07-18 18:07:15 [ ALERT] mail.send() executed Open[19398]-[P 3]-[Admin Admin] overriding value for title
to-->robbie@extraview.com in 0 seconds
2003-07-18 18:07:15 [ ALERT] mail.send() executed Open[19398]-[P 3]-[Admin Admin] overriding value for title
to-->support@extraview.com in 0 seconds
```

BatchMail ログ内のエラー

エラーが発生した場合、ログに特定のエラーを表示します。上記のログに示したエラーでは、ユーザが不明となっています。エラーが発生した場合、電子メール通知ファイルは名前が変更されてサーバに残ります。

変更後のファイル名は、元のメールの先頭に「_」という文字を加えた名前になります。

付録 A – 日付と時間の形式

概要

ExtraView の各ユーザは、日付と時間の形式を設定できます。日付と時間の形式により、出力テキストまたは HTML で日付と時間を表示する方法とユーザが入力したときに解析する方法が決まります。ユーザは [パーソナル・オプション] 画面で自分の日付と時間の形式を選択できます。内蔵の形式から 1 つを選択するか、[日付形式] を [カスタム日付マスク] の値に設定し、自分のマスクを [カスタム日付マスク] という名前のフィールドに入力します。

ローカライズ可能な日付と時間の形式

日付と時間は世界中で表示が異なります。ExtraView ユーザは、使用するロケールに応じた日付/時間形式の 1 つを選択できます。下記の日付と時間の形式は、ユーザの現在のロケール設定により表示が変わります。次の表に、ExtraView で使用されている日付形式の名前と、[English/US] ロケールでの表示例を示します。

| 形式名 | 説明 | 例 |
|----------------|-------------------|----------------------------------|
| SHORT | 時間を省略した短い表示 | 12/30/02 |
| MEDIUMDATE | 時間を省略した中くらいの長さの表示 | Dec 30, 2002 |
| LONGDATE | 時間を省略した長い表示 | December 30, 2002 |
| FULLDATE | 時間を省略した詳細表示 | Monday December 30, 2002 |
| SHORTDATETIME | 時間付きの短い表示 | 12/30/02 1:15 PM |
| MEDIUMDATETIME | 時間付きで中くらいの長さの表示 | Dec 30, 2002 1:15 PM |
| LONGDATETIME | 時間付きの長い表示 | December 30, 2002 1:15 PM |
| FULLDATETIME | 時間付きの詳細表示 | Monday December 30, 2002 1:15 PM |

標準日付/時間解析形式

特定の日付と時間の形式が日付の解析に使用するパターンとして、ExtraView に組み込まれている場合があります。日付が標準形式の 1 つで入力された場合、エラーなしに

解析されます。カスタム日付マスクを使用して、日付/時間エントリをカスタム・マスク・パターンを含むように拡張します。

標準化された日付/時間解析形式を以下に示します。

| 形式 | 例 |
|-----------------------|-------------------------|
| MM/dd/yy | 04/21/03 |
| dd/MM/yy | 21/04/03 |
| MM/dd/yyyy | 04/21/2003 |
| dd/MM/yyyy | 21/04/2003 |
| dd-MMM-yy | 21-April-03 |
| dd-MMM-yyyy | 21-April-2003 |
| yyyy/MM/dd HH:mm:ss z | 2003/04/21 10:23:34 PST |
| yyyy/MM/dd HH:mm:ss | 2003/04/21 10:23:34 |
| yyyy/MM/dd | 2003/04/21 |
| yyyy-MM-dd HH:mm:ss | 2003-04-21 10:23:34 |
| yyyy MM dd HH:mm:ss | 2003 04 21 10:23:34 |
| MM-dd-yyyy HH:mm | 04-21-2003 10:23 |
| yyyy-MM-dd | 2003-04-21 |
| MM/dd/yy HH:mm | 04/21/03 10:23 |
| MM/dd/yy HH | 04/21/03 10 |
| yy-MM-dd | 03-04-21 |
| MMM dd yyyy | April 21 2003 |
| MMM dd, yyyy | April 21, 2003 |
| MMM. dd yyyy | Apr. 21 2003 |
| MMM. dd, yyyy | Apr. 21, 2003 |

カスタム日付マスク

カスタム日付マスクは、ExtraView ユーザに非常に高い柔軟性を提供しますが、カスタム日付マスクを使用する日付と時間の表示は、ユーザの現在のロケール設定に関係なく、同じようにフォーマットされます。表示内の月名や日などのテキスト文字列は、ロケールによって変わります。

フォームへの日付の値の入力では、ExtraView の標準日付形式の 1 つまたはカスタム日付マスクを使用してユーザが定義した形式を使用できます。

カスタム日付マスクは、以下から選択した句読点またはパターン文字の連続で構成されます。

| 文字 | 日付または時間コンポーネント | 使用方法 | 例 |
|----|----------------|---------------|---------------|
| Y | 年 | YYYY, YY | 1996; 96 |
| M | 月/年 | MMMM, MMM, MM | July; Jul; 07 |
| d | 日/月 | dd | 10 |
| E | 日/週 | EEEE, EE | Tuesday; Tue |
| a | 午前/午後表示 | a | PM |
| k | 時間(1 ~ 24) | kk | 24 |

| | | | |
|---|------------------|----|------------------------|
| h | 午前/午後の時間(1 ~ 12) | hh | 12 |
| m | 分 | mm | 30 |
| s | 秒 | ss | 55 |
| z | タイムゾーン | Z | 太平洋標準時; PST; GMT-08:00 |
| Z | タイムゾーン | Z | -0800 |

パターン文字は、その数字によって正確な表示が決まるため、通常繰り返されます。

- **テキスト:** フォーマットは、パターン文字の数が 4 以上の場合、フル・フォームが使用され、それ以外の場合は、短縮または省略フォームを使用できる場合は短縮または省略フォームが使用されます。解析する場合は、パターン文字の数に関係なく、両方のフォームが受け入れられます。
- **数値:** フォーマットは、パターン文字の数は最小桁数となり、数がより少ない場合は、値に 0 が追加されます。解析する場合、パターン文字の数は、2 つの隣り合うフィールドを区切るために必要な場合以外は無視されます。
- **年:** フォーマットは、パターン文字の数が 2 の場合、年は 2 桁に切り詰められ、それ以外の場合、数字として解釈されます。解析する場合、パターン文字の数が 2 より大きい場合、桁数にかかわらず、年は文字どおりに解釈されます。このため、パターン「MM/dd/yyyy」、「01/11/12」を使用して解析すると、「Jan 11, 12 A.D」になります。

短縮した年のパターン（「y」または「yy」）で解析する場合、ExtraView はある世紀に関連する短縮された年を解釈します。ExtraView では、ユーザ入力から解析された日付の年は、1000 を超えているかどうかを必ず確認されます。1000 を超えていない場合は、その年に 1900 または 2000 を加えることで、より合理的な値に調整されます。解析結果が現在の年以下である場合には 2000 が加えられ、その他の場合は 1900 が加えられます。

例えば、パターン「MM/dd/yy」を使用すると、Jan 1, 1997 と表示され、文字列「01/11/03」は Jan 11, 2003 と解釈され、文字列「05/04/64」は May 4, 1964 と解釈されます。

月: パターン文字の数が 3 以上の場合、月はテキストとして解釈され、それ以外の場合は、数字として解釈されます。

- **一般的なタイムゾーン:** タイムゾーンは、名前がある場合はテキストとして解釈されます。GMT オフセット値を表すタイムゾーンの場合、次の構文が使用されます。

```

GMTOffsetTimeZone:
    GMT Sign Hours : Minutes
Sign: one of
-
Hours:
    Digit
    Digit Digit
Minutes:
    Digit Digit

```

Digit: one of
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

Hours は、0 ~ 23 の間、Minutes は、0 ~ 59 の間でなければなりません。この形式は、ロケールに依存せず、数字は Unicode 標準の Basic Latin ブロックから取る必要があります。

解析する場合、RFC 822 タイムゾーンも受け入れられます。

- **RFC 822 タイムゾーン:** フォーマットは、RFC 822 の 4 桁タイムゾーン形式が使用されます。

RFC822TimeZone:
Sign TwoDigitHours Minutes
TwoDigitHours:
Digit Digit

TwoDigitHours は、00 ~ 23 の間でなければなりません。その他の定義は、一般的なタイムゾーンと同じです。

解析する場合、一般的なタイムゾーンも受け入れられます。

付録 B – セキュリティ権限キー

| 権限キー | 説明 |
|--------------------------|---|
| CF_ADMIN_MENU | 管理タブのラベルを編集します。 |
| CF_ALL_BEHAVIOR_SETTINGS | このリストからすべての動作設定の完全なリスト(アルファベット順)の表示と修正を行うことができます。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_ALLOW_CHANGE_ROLE | メニューバーにロール: の変更オプションを表示します。 |
| CF_ALLOWED_VALUES | 許容値リストの保守のための画面へのアクセス。許容値リストの保守は、子リスト保守画面から個別に行うこともできます。 |
| CF_ALLOWEDLOCALES | このインストール内でのユーザが設定できるロケールのリストを保守します。ロケールが定義されていても、翻訳済みメッセージを作成しなければならないことがあります。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_ALLOWEDVALUE_TYPE | 2つのフィールド間の親子階層関係の定義と指定を行います。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_API_SETTINGS | APIを使用して ExtraView にアクセスする動作設定を保守するための設定画面へのアクセス。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_AREA | 事前定義の [ビジネス・エリア] フィールドのビジネス・エリアのリストを保守します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_CATEGORY | 事前定義の [カテゴリ] フィールドのカテゴリのリストを保守します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_COMPANY_SETTINGS | 会社の名前、所在地、および連絡先情報を設定するための管理画面にアクセスします。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_DATA_DICTIONARY | フィールドのタイトル、表示タイプ、基本動作、およびデフォルト値の修正など、事前定義フィールド、ユーザ定義フィールド、およびその他のオブジェクトの作成および保守を行うためのデータ辞書へのアクセス。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_DEBUG_SETTINGS | デバッグ・オプションとユーザ・カスタム・クラス名の動作設定にアクセスします。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_DISPLAY_INFO | ExtraView の画面とレイアウト内で使用されるフォントと色の動作設定にアクセスします。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_DISPLAY_SETTINGS | 画面とレイアウトの表示方法に影響する動作設定の制御と設定を行います。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |

| 権限キー | 説明 |
|-------------------------------|---|
| CF_EMAIL_SETTINGS | 電子メールの動作設定の設定と管理を行います。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_ENABLE_DISABLE_USER_ACCESS | 保守のために ExtraView システムを休止させるための管理オプションにアクセスします。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_ENVIRONMENT | ExtraView にアクセスするための物理パスと URL 情報を保守する動作設定にアクセスします。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_ESCALATION_RULES | エスカレーション・ルール |
| CF_EXPIRE_PASSWORD | このキーで、管理者がユーザ・アカウント内のパスワードを失効させることを可能にするためのアクセスを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_FILE_IMPORT | レコードが含まれたタブ区切り形式またはカンマ区切り形式のデータ・ファイルのアップロードとインポートを行うファイル・インポート・ユーティリティへのアクセス。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_HIERARCHY | レポート階層 |
| CF_HIERARCHY_LEVEL | レポート階層レベル |
| CF_INSTALLATION_DETAILS | ExtraView インストールの基本動作設定を設定します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_INTEREST_LIST | 関係者リストのアクセス。このキーに読み取り権限および書き込み権限を与えると、管理者以外のユーザが関係者リストの保守のためにアクセス可能となることに注意してください。このアクセスは、ユーザのパーソナル・オプション画面の通知セクションにあるプロンプトから行われます。エンドユーザにこの権限を与えると、関係者リスト保守に対するフルアクセスを持つこととなります。 |
| CF_ITEMDATA | 項目データを XML 形式のファイルにエクスポートするための管理機能にアクセスします。このファイルは、別の ExtraView スキーマへのインポートに使用できます。これを制御するには読み取りアクセス権が必要です。 |
| CF_LAYOUT | すべての画面とレポートのレイアウトの作成と変更を行います。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_LAYOUT_TYPE | 定義できる画面とレポートのレイアウトのタイプのリストを保守します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_LICENSE | ExtraView のエンド・ユーザ・ライセンス契約書 (EULA: End User License Agreement)。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_LOCALIZE | このキーにアクセスすると、ロケール固有のタイトルをメタデータ・フィールド値に追加できます。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |

| 権限キー | 説明 |
|-------------------------------------|---|
| CF_MANAGE_USER_CONNECTION | ExtraView へのユーザ接続の管理と切断を行い、ライセンスを解放し共通プールに戻します。このキーは、フローティング・ライセンス・インストールに対してのみ使用されます。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_METADATA | システム・メタデータを XML 形式でダンプするエクスポート機能へのアクセスを提供します。これを制御するには読み取りアクセス権が必要です。 |
| CF_METADATA_UPDATER | XML エクスポート・ユーティリティを使用して作成された書式設定済みファイルから XML をインポートし、その情報を使用して ExtraView を更新します。このキーを使用する前に、必ずインストールのバックアップを作成してください。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_MODULE | 製品 (PRODUCT_NAME) 内のモジュール (MODULE_ID) のリストを保守するためのアクセス。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_MODULE_TYPE | モジュール・タイプのリストの作成と管理を行います。このキーは、将来のリリースで廃止される予定です。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_OBJECT_IMPORT | XML 形式で作成されたインポート済みファイルの項目データをインポートするためのアクセス。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_PERSONAL_OPTIONS | このキーで、画面のタイトル・バーに表示される、各ユーザ・ロール(ユーザの役割)のパーソナル・オプション・リンクへのアクセスを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_PRIORITY | 事前定義の [優先度] フィールドの値のリストを保守します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_PRODUCT | 事前定義の [製品名] フィールドの値のリストを保守します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_PRODUCT_LINE | 事前定義の [製品ライン] フィールドの値のリストを保守します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_PROJECT | ビジネス・エリア (AREA) 内のプロジェクト (PROJECT) のリストにアクセスして保守します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_RELATIONSHIP_GROUP | このキーで、issue 関係グループのグローバル設定と名前へのアクセスを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_RELATIONSHIP_GROUP_DELETE_BUTTON | このキーで、関係グループから issue を削除するためのアクセスを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_RELATIONSHIP_GROUP_EDIT | このキーで、ユーザ・ロールが issue の既存の関係グループを修正できるかどうかを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |

| 権限キー | 説明 |
|--|--|
| CF_RELATIONSHIP_GROUP_EDIT _PROBLEM_BUTTON | この権限キーで、関係グループ画面に [Issue を編集] ボタンを表示するかどうかを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_RELATIONSHIP_GROUP_PROBLEM_A DD_PROBLEM_BUTTON | このキーで、ユーザ・ロールが issue の既存の関係グループに issue を追加できるかどうかを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_RELATIONSHIP_GROUP_VIEW _PROBLEM_BUTTON | この権限キーで、関係グループ画面に [View] ボタンを表示するかどうかを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_REPORT_SETTINGS | このキーで、レポートとクエリに影響する動作設定を変更する許可を付与します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_REPORT_USER | 個別のユーザによって作成されたレポートの作成と管理を行います。 |
| CF_RESOLUTION | 事前定義の [解決策] フィールドの値のリストを保守します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_SESSION_SETTINGS | このキーで、システム全体の動作設定の保守画面へのアクセスを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_SEVERITY | 事前定義の [重要度] フィールドの値のリストを保守します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_SSO_SETTINGS | SSO および LDAP サーバと連動するように ExtraView を設定します。 |
| CF_STATISTICS | このキーは、ユーザ、ユーザ・ロール、および使用パターンに関するサマリ情報へのアクセスを提供します。これを制御するには読み取りアクセス権が必要です。 |
| CF_STATUS | 事前定義の [ステータス] フィールドの値のリストを保守します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_STATUS_RULES | このキーで、ステータス変更に適用されるルールの定義画面へのアクセスを制御します。ステータスに基づいてワークフローのビジネス・ルールを設定します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_STATUS_SIGNATURES | このキーで、規制順守のためのステータス署名変更に適用されるルールの定義画面へのアクセスを制御します。再認証のワークフローのビジネス・ルールを設定します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_SYSTEM_LOG | 管理ログ内のすべてのメタデータ変更に関するレポートへのアクセスを制御します。これを制御するには読み取りアクセス権が必要です。 |
| CF_SYSTEM_LOG_TYPE | 管理ログ内のアクティビティのリスト。ソース・コード・レベルでのプログラム変更によって新しいエントリがサポートされている必要があります。 |

| 権限キー | 説明 |
|--------------------------|--|
| CF_SYSTEM_SIGNON | すべてのユーザのサインオン・アクティビティおよびサインオフ・アクティビティを追跡するログ・エントリを表示するためのアクセスを制御します。これを制御するには読み取りアクセス権が必要です。 |
| CF_TEMPLATE | issue の更新時に社内ユーザと外部ユーザとの通信で使用する電子メール・テンプレートの作成と編集を行うためのアクセスを制御します。 |
| CF_TRANSLATOR | すべてのシステム・メッセージとプロンプトを別の言語に翻訳するためのアクセスを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_UDF_LIST | ExtraView に保存されているユーザ定義フィールドの値のリストを保守するためのアクセスを制御します。このキーは全リストへのアクセスを制御する単一キーです。リストの各メンバーには、個別のセキュリティ・キーもあります。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_UPLOAD_COMPANY_LOGO | 管理者が会社ロゴのアップロードを実行できる機能へのアクセスを制御します。 |
| CF_UPLOAD_USER_TEMPLATES | このキーに書き込み権限が与えられていると、ExtraView API で使用するためのサーバ側テンプレートのアップロードが可能になります。 |
| CF_USER_FILE_IMPORT | ファイル・インポート(ユーザ情報)の機能へのアクセスを制御します。書き込み権限が与えられていると、管理者がこの機能を使用して新しいユーザを作成することができます。 |
| CF_USER_SETTINGS | このキーで、ユーザ名とユーザに関連付けられた動作設定とオプションへのアクセスを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| CF_VERSION_INFO | このキーで、ExtraView のバージョン情報とその ExtraView がサポートしているソフトウェアのバージョン情報へのアクセスを制御します。これを制御するには読み取りアクセス権が必要です。 |
| CF_VIEW_APP_SERVER_LOG | この権限キーに読み取り権限が与えられていると、システム・ログ管理画面にボタンが表示されます。このボタンを押すと、新しいウィンドウにアプリケーション・サーバ・ログが表示されます。 |
| CF_WORKFLOW_DEFAULTS | このキーで、ワークフローに関連付けられた動作設定とオプションへのアクセスを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| MENU_ADD_PROBLEM | この設定で、メイン・ナビゲーション・バーの [Add] ボタンからの [Issue を追加] のレイアウトへのアクセスを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| MENU_ADMINISTRATION | この設定で、メイン・ナビゲーション・バーの [Administration] ボタンからの管理システムへのアクセスを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |

| 権限キー | 説明 |
|---|---|
| MENU_EDIT | この設定で、[編集]画面の[更新]ボタンへのアクセスを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| MENU_DRILLDOWN_ON_NAV_BAR | この権限キーで、ナビゲーション・バーのドリルダウン・ボックスの有無を制御します。ドリルダウン・ボックスにアクセスするには読み取り権限が必要です。 |
| MENU_HOME | このキーで、ナビゲーション・バーの[Home]ボタンへのアクセスを制御します。これを制御するには読み取りアクセス権が必要です。 |
| MENU_RESOLUTION | このキーで、[クエリ]([検索とレポート])画面へのアクセスを制御します。これを制御するには読み取りアクセス権が必要です。 |
| PR_ADD_PROBLEM.ALT_ID | 代替 ID |
| PR_ADD_PROBLEM.AREA | ビジネス・エリア |
| PR_ADD_PROBLEM.ASSIGNED_TO | 担当者 |
| PR_ADD_PROBLEM.ATTACH_CONTENT_TYPE | このキーで、添付ファイル・レコードに内容タイプを表示するかどうかを制御します。これは、読み取りアクセス権を使用して表示できますが、書き込むことはできません。 |
| PR_ADD_PROBLEM.ATTACH_CREATED_BY_USER | このキーで、添付ファイルを作成したユーザの名前を表示するかどうかを制御します。これは、読み取りアクセス権を使用して表示できますが、書き込むことはできません。 |
| PR_ADD_PROBLEM.ATTACH_DATE_CREATED | このキーで、添付ファイルが作成された日付を表示するかどうかを制御します。これは、読み取りアクセス権を使用して表示できますが、書き込むことはできません。 |
| PR_ADD_PROBLEM.ATTACH_FILE_DESC | このキーで、ユーザが添付ファイルにアップロードするファイル名を入力するときに添付ファイルの説明を表示するかどうかを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| PR_ADD_PROBLEM.ATTACH_FILE_NAME | このキーで、添付ファイル・レコードに添付ファイル名を表示するかどうかを制御します。これは、読み取りアクセス権を使用して表示できますが、書き込むことはできません。 |
| PR_ADD_PROBLEM.ATTACH_FILE_SIZE | このキーで、添付ファイル・レコードにファイル・サイズを表示するかどうかを制御します。これは、読み取りアクセス権を使用して表示できますが、書き込むことはできません。 |
| PR_ADD_PROBLEM.ATTACH_HIST_TIMESTAMP | 添付ファイルがアクセスされたときにタイムスタンプを表示するかどうかを制御します。添付ファイルの履歴画面の読み取り権限キーがあると、このタイムスタンプが可視になります。 |
| PR_ADD_PROBLEM.ATTACH_LAST_UPDT_COMPANY | 添付ファイルにアクセスしたユーザの会社名を表示するかどうかを制御します。添付ファイルの履歴画面の読み取り権限キーがあると、これが可視になります。 |

| 権限キー | 説明 |
|--|--|
| PR_ADD_PROBLEM.ATTACH_PATH | このキーで、添付ファイル・レコードに添付ファイルの元のクライアント添付ファイル・パスを表示するかどうかを制御します。これは、読み取りアクセス権を使用して表示できますが、書き込むことはできません。 |
| PR_ADD_PROBLEM.ATTACH_THUMBNAIL | 添付ファイルを含むレコードが編集画面または ATTACHMENT レコードを含むレポートで参照されるときに、画像タイプの添付ファイルのサムネールを表示するかどうかを制御します。 |
| PR_ADD_PROBLEM.ATTACHMENT | これは添付ファイルの制御キーです。このキーの読み取り権限および書き込み権限がないと、添付ファイルは issue の追加画面のレイアウトに表示されません。このキーによりユーザ・ロールへの権限が与えられると、残りの添付ファイルキーにより個々のフィールドへの読み取り/書き込み権限が制御されます。 |
| PR_ADD_PROBLEM.ATTACHMENT_ADD | このキーで、添付ファイルの [Add] ボタンを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| PR_ADD_PROBLEM.CATEGORY PR_ADD_PROBLEM.CC_EMAIL | カテゴリ 追加画面に [CCメール] 入力ボックスを表示するかどうかを制御します。ユーザがこの行に電子メール・アドレスを入力できるようにするには、ユーザ・ロールにこのフィールドに対する読み取り/書き込み許可が設定されている必要があります。 |
| PR_ADD_PROBLEM.CC_EMAIL_BUTTON | 追加画面の [CCメール] 入力ボックスの横にボタンを表示するかどうかを制御します。[CCメール] ボックスに追加できるユーザのリストをユーザがポップアップ表示できるようにするには、ユーザ・ロールにこのフィールドに対する読み取り許可が設定されている必要があります。 |
| PR_ADD_PROBLEM.COMMENTS PR_ADD_PROBLEM.CONTACT PR_ADD_PROBLEM.DATE_CREATED PR_ADD_PROBLEM.DESCRPTION PR_ADD_PROBLEM.EMAIL_CUSTOMER | コメント 連絡先 作成日 説明 |
| PR_ADD_PROBLEM.EMAIL_SWITCH | このフィールドに対する読み取り許可がユーザ・ロールに設定されている場合、外部ユーザへの電子メールの送信を可能にするチェックボックスが表示されます。このキーを使用して、ユーザ・ロールの [メールを生成] チェックボックスを有効または無効にします。このキーに対する読み取りアクセス権がない場合、[メールを生成] チェックボックスは表示されず、このチェックボックスの設定は動作設定 GENERATE_EMAIL_BOX の値から取得されます。 |
| PR_ADD_PROBLEM.ID | [ID] という名前の事前定義フィールドへのアクセスを制御します。 |

| 権限キー | 説明 |
|---------------------------------------|---|
| PR_ADD_PROBLEM.INTEREST_LIST | ユーザ・ロールにこの権限キーへの書き込みアクセスがあると、追加画面の通知エリアにチェックボックスが表示され、ユーザは自分自身を作成中の issue の関係者リストに追加することができます。またユーザは入力ボックスを使用して、他のユーザを issue の関係者リストに追加することもできます。 |
| PR_ADD_PROBLEM.ITEM_ID | [ITEM_ID] という名前の事前定義フィールドへのアクセスを制御します。 |
| PR_ADD_PROBLEM.MAILING_LIST | issue の配布電子メール・リストへのアクセスを制御します。この権限キーに対する読み取りアクセス権がある場合、リストを更新するためのアイコンも使用可能になります。 |
| PR_ADD_PROBLEM.MODULE_ID | モジュール ID - このキーはフォームの [モジュール] フィールドの制御に使用されるメイン・キーです。 |
| PR_ADD_PROBLEM.ORIGINATOR | issue の作成者 |
| PR_ADD_PROBLEM.OWNER | issue の所有者 |
| PR_ADD_PROBLEM.PRIORITY | issue の優先度 |
| PR_ADD_PROBLEM.PRIVACY | issue のプライバシー |
| PR_ADD_PROBLEM.PROBLEM_RELEASE_DELETE | このキーで、現在の行を削除できるようにするチェックボックスをリピーティング行レコードに表示するかどうかを制御します。このチェックボックスを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| PR_ADD_PROBLEM.PRODUCT_LINE | 製品ライン |
| PR_ADD_PROBLEM.PRODUCT_NAME | 製品名 |
| PR_ADD_PROBLEM.PROJECT | プロジェクト |
| PR_ADD_PROBLEM.RELEASE | このキーは、リピーティング行レコードの制御キーです。このキーに対する読み取り/書き込み許可がある場合、ユーザ・ロールに対してリピーティング行構造全体が表示され、リピーティング行構造の個別のフィールドへのアクセスは各フィールドのセキュリティ権限キーによって制御されます。 |
| PR_ADD_PROBLEM.RELEASE_ASSIGNED_TO | リリースの担当者 |
| PR_ADD_PROBLEM.RELEASE_DATE_CREATED | リリースの作成日 |
| PR_ADD_PROBLEM.RELEASE_FIXED | 修正済みリリース |
| PR_ADD_PROBLEM.RELEASE_FOUND | 検出済みリリース |
| PR_ADD_PROBLEM.RELEASE_OWNER | リリースの所有者 |
| PR_ADD_PROBLEM.RELEASE_PRIORITY | リリースの優先度 |
| PR_ADD_PROBLEM.RELEASE_PRODUCT | リリースの製品 |
| PR_ADD_PROBLEM.RELEASE_RESOLUTION | リリースの解決策 |
| PR_ADD_PROBLEM.RELEASE_SEVERITY | リリースの重要度 |
| PR_ADD_PROBLEM.RELEASE_STATUS | リリースのステータス |
| PR_ADD_PROBLEM.RELEASE_TIMESTAMP | リリースのタイムスタンプ |
| PR_ADD_PROBLEM.RESOLUTION | 解決策 |
| PR_ADD_PROBLEM.SEVERITY_LEVEL | 重要度レベル |

| 権限キー | 説明 |
|--|--|
| PR_ADD_PROBLEM.SHORT_DESCR PR_ADD_PROBLEM.SHOW_PRIVATE_IN_PRIVACY_LIST | issue の簡単な説明またはタイトル このキーに対する書き込みアクセス権をユーザ・ロールに付与すると、ユーザはプライバシー・フィールドにプライベート issue を入力できるようになります。 |
| PR_ADD_PROBLEM.SHOW_PUBLIC_IN_PRIVACY_LIST | このキーに対する書き込みアクセス権をユーザ・ロールに付与すると、ユーザはプライバシー・フィールドにパブリック issue を入力できるようになります。 |
| PR_ADD_PROBLEM.STATUS PR_ADD_PROBLEM.TIMESTAMP PR_RESOLUTION.ALLOW_EDIT_CLOSED | ステータス 最終修正日 このキーへのアクセスによって、動作設定 STATUS_CLOSED_NAME. での定義に従って、ユーザ・ロールが「クローズされた」 issue を編集できるかどうかを制御します。 |
| PR_RESOLUTION.ALT_ID PR_RESOLUTION.AREA PR_RESOLUTION.ASSIGNED_TO PR_RESOLUTION.ATTACH_CONTENT_TYPE | 代替 ID ビジネス・エリア 担当者 このキーで、添付ファイル・レコードに内容タイプを表示するかどうかを制御します。これは、読み取りアクセス権を使用して表示できますが、書き込むことはできません。 |
| PR_RESOLUTION.ATTACH_CREATED_BY_USER | このキーで、添付ファイルを作成したユーザの名前を表示するかどうかを制御します。これは、読み取りアクセス権を使用して表示できますが、書き込むことはできません。 |
| PR_RESOLUTION.ATTACH_DATE_CREATED | このキーで、添付ファイルが作成された日付を表示するかどうかを制御します。これは、読み取りアクセス権を使用して表示できますが、書き込むことはできません。 |
| PR_RESOLUTION.ATTACH_FILE_DESC | このキーで、ユーザが添付ファイルにアップロードするファイル名を入力するときに添付ファイルの説明を表示するかどうかを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| PR_RESOLUTION.ATTACH_FILE_NAME | このキーで、添付ファイル・レコードに添付ファイル名を表示するかどうかを制御します。これは、読み取りアクセス権を使用して表示できますが、書き込むことはできません。 |
| PR_RESOLUTION.ATTACH_FILE_SIZE | このキーで、添付ファイル・レコードにファイル・サイズを表示するかどうかを制御します。これは、読み取りアクセス権を使用して表示できますが、書き込むことはできません。 |
| PR_RESOLUTION.ATTACH_PATH | このキーで、添付ファイル・レコードに添付ファイルの元のクライアント添付ファイル・パスを表示するかどうかを制御します。これは、読み取りアクセス権を使用して表示できますが、書き込むことはできません。 |

| 権限キー | 説明 |
|-----------------------------------|---|
| PR_RESOLUTION.ATTACHMENT | このキーは、添付ファイルの制御キーです。このキーに対する読み取り/書き込み許可がない場合、添付ファイルは [issue を編集] 画面レイアウトに表示されません。このキーによってユーザ・ロールに許可が付与されると、残りの添付ファイル・キーによって、個別のフィールドに対する読み取り/書き込み許可が制御されます。 |
| PR_RESOLUTION.ATTACHMENT_ADD | このキーで、添付ファイルの [Add] ボタンを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| PR_RESOLUTION.ATTACHMENT_DELETE | これは、添付ファイル削除ボタンの有効と無効を切り替えるためのキーです。 |
| PR_RESOLUTION.ATTACHMENT_EDIT | 以前にアップロードした添付ファイルの添付ファイル説明をユーザ・ロールが編集できるかどうかを制御します。これを制御するには書き込み許可が必要です。 |
| PR_RESOLUTION.ATTACHMENT_VIEW | 以前にアップロードした添付ファイルをユーザ・ロールが表示できるかどうかを制御します。これを制御するには読み取り許可または書き込み許可が必要です。 |
| PR_RESOLUTION.CATEGORY | カテゴリ |
| PR_RESOLUTION.CC_EMAIL | 編集画面に [CC メール] 入力ボックスを表示するかどうかを制御します。ユーザがこの行に電子メール・アドレスを入力できるようにするには、ユーザ・ロールにこのフィールドに対する読み取り/書き込み許可が設定されている必要があります。 |
| PR_RESOLUTION.CC_EMAIL_BUTTON | 編集画面の [CC メール] 入力ボックスの横にボタンを表示するかどうかを制御します。[CC メール] ボックスに追加できるユーザのリストをユーザがポップアップ表示できるようにするには、ユーザ・ロールにこのフィールドに対する読み取り許可が設定されている必要があります。 |
| PR_RESOLUTION.CLONE | 編集画面のツールバーに [複製] ボタンを表示するかどうかを制御します。issue を複製するには、書き込み許可が必要です。 |
| PR_RESOLUTION.COMMENTS | コメント |
| PR_RESOLUTION.CONTACT | 連絡先 |
| PR_RESOLUTION.DATE_CREATED | 作成日 |
| PR_RESOLUTION.DELETE_BUTTON | 編集画面に [削除] ボタンを表示するかどうかを制御します。このキーに対する書き込みアクセス権をユーザ・ロールに付与すると、ユーザは issue を削除できるようになります。 |
| PR_RESOLUTION.DESCRPTION | 説明 |
| PR_RESOLUTION.EDIT_BUTTON | ユーザ・ロールがレポートおよび電子メール内の [Edit] ボタンにアクセスできるかどうかを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |
| PR_RESOLUTION.EDIT_LOGAREA_FIELDS | [コメント] などの履歴ログ・エリアのフィールドの編集をユーザ・ロールに許可するかどうかを制御します。通常は、このキーに対する書き込みアクセス権によって、管理者だけがこの制御を与えられます。 |
| PR_RESOLUTION.EMAIL_BUTTON | ユーザ・ロールに対して [編集] 画面のツールバーに [電子メール] ボタンを表示するかどうかを指定します。 |

| 権限キー | 説明 |
|--|---|
| PR_RESOLUTION.EMAIL_CUSTOMER | このフィールドに対する読み取り許可がユーザ・ロールに設定されている場合、外部ユーザへの電子メールの送信を可能にするチェックボックスが表示されます。 |
| PR_RESOLUTION.EMAIL_FILTER_SCREEN | このキーに対する読み取り許可によって、アドホック電子メールの検索フィルタ画面へのアクセスを制御します。 |
| PR_RESOLUTION.EMAIL_SWITCH | このキーを使用して、ユーザ・ロールの [メールを生成] チェックボックスを有効または無効にします。このキーに対する読み取りアクセス権がない場合、[メールを生成] チェックボックスは表示されず、このチェックボックスの設定は動作設定 GENERATE_EMAIL_BOX の値から取得されます。 |
| PR_RESOLUTION.HISTORY_BUTTON | このキーに対する読み取りアクセス権によって、issue の履歴 (監査証跡) へのアクセスを許可します。編集画面とレポートに [履歴] ボタンを配置することができます。 |
| PR_RESOLUTION.ID | [ID] という名前の事前定義フィールドへのアクセスを制御します。 |
| PR_RESOLUTION.INTEREST_LIST | ユーザ・ロールにこの権限キーへの書き込みアクセスがあると、編集画面の通知エリアにチェックボックスが表示され、ユーザは自分自身を更新中の issue の関係者リストに追加することができます。またユーザは入力ボックスを使用して、他のユーザを issue の関係者リストに追加することもできます。 |
| PR_RESOLUTION.ITEM_ID | [ITEM_ID] という名前の事前定義フィールドへのアクセスを制御します。 |
| PR_RESOLUTION.KEYWORD | フィルタ・レイアウトの [キーワード] フィールドによって、ユーザ・ロールがキーワードによる検索を実行できるかどうかを指定します。読み取りアクセス権が必要です。 |
| PR_RESOLUTION.LAST_CHANGE_USER PR_RESOLUTION.MAILING_LIST | issue を最後に更新したユーザ issue の配布電子メール・リストへのアクセスを制御します。この権限キーに対する読み取りアクセス権がある場合、リストを更新するためのアイコンも使用可能になります。 |
| PR_RESOLUTION.MASS_UPDATE_ISSUES | レポート出力の [issue の一括更新] ボタンへのアクセスを制御します。一括更新を実行するには書き込み許可が必要です。通常、この機能は重要な社員にのみ提供されます。 |
| PR_RESOLUTION.MODULE_ID | モジュール ID - このキーはフォームの [モジュール] フィールドの制御に使用されるメイン・キーです。 |
| PR_RESOLUTION.MONTHS_IN_STATUS | issue が現在のステータスにある月数 |
| PR_RESOLUTION.MONTHS_OPEN | issue がオープンであった月数 |
| PR_RESOLUTION.OWNER | issue の所有者 |
| PR_RESOLUTION.PRIORITY | issue の優先度 |
| PR_RESOLUTION.PRIVACY | issue のプライバシー |
| PR_RESOLUTION.PROBLEM_RELEASE_DELETE | このキーで、現在の行を削除できるようにするチェックボックスをリピーティング行レコードに表示するかどうかを制御します。このチェックボックスを制御するには書き込みアクセス権が必要です。 |

| 権限キー | 説明 |
|--|--|
| PR_RESOLUTION.PRODUCT_LINE | 製品ライン |
| PR_RESOLUTION.PRODUCT_NAME | 製品名 |
| PR_RESOLUTION.PROJECT | プロジェクト |
| PR_RESOLUTION.RELATIONSHIP_GROUP | [編集] 画面の関係グループ |
| PR_RESOLUTION.RELATIONSHIP_GROUP_ID | 編集画面に関係グループ ID を表示するかどうかを制御します。 |
| PR_RESOLUTION.RELATIONSHIP_GROUP_OWNER | このキーに対する読み取りアクセス権によって、ユーザ・ロールは関係グループの所有者を表示できます。 |
| PR_RESOLUTION.RELATIONSHIP_GROUP_TITLE | このキーに対する読み取りアクセス権によって、ユーザ・ロールは関係グループのタイトルを表示できます。 |
| PR_RESOLUTION.RELATIONSHIP_GROUP_TYPE | このキーに対する読み取りアクセス権によって、ユーザ・ロールは関係グループのタイプを表示できます。 |
| PR_RESOLUTION.RELATIONSHIP_GRP_ADMIN | このキーに対する書き込みアクセス権によって、管理者は関係グループの制御にアクセスできます。 |
| PR_RESOLUTION.RELATIONSHIP_GRP_PARENT_ID | このキーに対する読み取りアクセス権によって、関係グループの親 issue を表示できます。 |
| PR_RESOLUTION.RELEASE | このキーは、リピーティング行レコードの制御キーです。このキーに対する読み取り/書き込み許可がある場合、ユーザ・ロールに対してリピーティング行構造全体が表示され、リピーティング行構造の個別のフィールドへのアクセスは各フィールドのセキュリティ権限キーによって制御されます。 |
| PR_RESOLUTION.RELEASE_ASSIGNED_TO | リリースの担当者 |
| PR_RESOLUTION.RELEASE_DATE_CREATED | リリースの作成日 |
| PR_RESOLUTION.RELEASE_FIXED | 修正済みリリース |
| PR_RESOLUTION.RELEASE_FOUND | 検出済みリリース |
| PR_RESOLUTION.RELEASE_OWNER | リリースの所有者 |
| PR_RESOLUTION.RELEASE_PRIORITY | リリースの優先度 |
| PR_RESOLUTION.RELEASE_PRODUCT | リリースの製品 |
| PR_RESOLUTION.RELEASE_RESOLUTION | リリースの解決策 |
| PR_RESOLUTION.RELEASE_SEVERITY | リリースの重要度 |
| PR_RESOLUTION.RELEASE_STATUS | リリースのステータス |
| PR_RESOLUTION.RELEASE_TIMESTAMP | リリースのタイムスタンプ |
| PR_RESOLUTION.RESOLUTION | 解決策 |
| PR_RESOLUTION.RG_EMAIL_BUTTON | [関係グループ・フィルタ] 画面の [電子メール] ボタンへのアクセスを提供します。 |
| PR_RESOLUTION.RG_MERGE_BUTTON | [関係グループ・フィルタ] 画面の [マージ] ボタンへのアクセスを提供します。 |
| PR_RESOLUTION.RG_SPLIT_BUTTON | [関係グループ・フィルタ] 画面の [分割] ボタンへのアクセスを提供します。 |

| 権限キー | 説明 |
|--|---|
| PR_RESOLUTION.SEARCH_ATTACHMENTS | このキーで、クエリ・フィルタ画面での添付ファイルの検索を制御します。このキーに書き込みアクセス権がある場合、[キーワード] フィールドの下にチェックボックスが表示され、ユーザ・ロールは添付ファイルによる検索を行うことができるようになります。 |
| PR_RESOLUTION.SEVERITY_LEVEL | 重要度レベル |
| PR_RESOLUTION.SHORT_DESCR | issue の簡単な説明またはタイトル |
| PR_RESOLUTION.SHOW_PRIVATE_IN_PRIVACY_LIST | このキーに対する書き込みアクセス権をユーザ・ロールに付与すると、ユーザはプライバシー・フィールドにプライベート issue を入力できるようになります。 |
| PR_RESOLUTION.SHOW_PUBLIC_IN_PRIVACY_LIST | このキーに対する書き込みアクセス権をユーザ・ロールに付与すると、ユーザはプライバシー・フィールドにパブリック issue を入力できるようになります。 |
| PR_RESOLUTION.START_DATE | このキーによって、ユーザ・ロールは issue の検索時にクエリ・フィルタに下限値として作成日を入力できるようになります。通常は、PR_RESOLUTION.STOP_DATE と合わせて使用されます。 |
| PR_RESOLUTION.START_UPDATE | このキーによって、ユーザ・ロールは issue の検索時にクエリ・フィルタに下限値として最終修正日を入力できるようになります。通常は、PR_RESOLUTION.STOP_UPDATE と合わせて使用されます。このフィールドが機能するためには、データ辞書設定の「フィルタ基準」が YES に設定されている必要があります。 |
| PR_RESOLUTION.STATUS | ステータス |
| PR_RESOLUTION.STATUS_HIST | このキーによって、ユーザ・ロールは issue の検索時にクエリ・フィルタに上限値として作成日を入力できるようになります。通常は、PR_RESOLUTION.START_DATE と合わせて使用されます。 |
| PR_RESOLUTION.STOP_DATE | このキーによって、ユーザ・ロールは issue の検索時にクエリ・フィルタに上限値として最終修正日を入力できるようになります。通常は、PR_RESOLUTION.START_DATE と合わせて使用されます。 |
| PR_RESOLUTION.STOP_UPDATE | このキーによって、ユーザ・ロールは issue の検索時にクエリ・フィルタに上限値として最終修正日を入力できるようになります。通常は、PR_RESOLUTION.START_UPDATE と合わせて使用されます。このフィールドが機能するためには、データ辞書設定の「フィルタ基準」が YES に設定されている必要があります。 |
| PR_RESOLUTION.TIMESTAMP | 最終修正日 |
| PR_RESOLUTION.VIEW_BUTTON | レポートに [View] ボタンを表示するかどうかを制御します。これを制御するには読み取りアクセス権が必要です。 |
| SE_LOGIN_MESSAGE | すべてのユーザのホーム・ページに表示されるサインオン・メッセージを変更するためのアクセスを提供します。この機能には書き込みアクセス権が必要です。 |
| SE_PRIVACY_GROUP | 書き込みアクセス権によって、プライバシー・グループのリストの作成と管理が可能になります。 |

| 権限キー | 説明 |
|---------------------------|--|
| SE_SECURITY_GROUP | このキーによってユーザ・ロールのリストの作成と管理を行います。書き込みアクセス権が必要です。 |
| SE_SECURITY_MODULE | セキュリティ・オブジェクトのリストの作成と保守を行います。通常、セキュリティ・オブジェクトは ExtraView によって自動的に作成されます。書き込みアクセス権が必要です。 |
| SE_SECURITY_PERMISSION | このキーで、インストレーション内のセキュリティ権限キーを更新するためのアクセスを制御します。書き込みアクセス権が必要です。このキーに対するアクセス権がない場合、セキュリティ権限を変更できません。 |
| SE_SECURITY_USER | ユーザ・アカウントとユーザ・アカウント詳細の作成と管理のためのアクセスを提供します。書き込みアクセス権が必要です。 |
| SR_ALLOW_ADVANCED_QUERIES | この設定を YES にすると、そのユーザ・ロールで詳細クエリ・オプションで構成されたレポートの作成、編集、保存、削除、実行が可能です。NO に設定すると、そのユーザ・ロールに SR_PUBLIC_COLUMN_REPORT 権限キーおよび SR_PERSONAL_COLUMN_REPORT 権限キーにより適切な権限が与えられている場合に限り、詳細クエリ・オプションで構成されたレポートの実行のみが可能です。 |
| SR_ALLOW_EXPANDED_QUERIES | ユーザ・ロールにこのキーへの読み取り権限が与えられている場合、ユーザは要約クエリと拡張クエリとを切り替えることができます。このキーがアクセス不可に設定されていると、ユーザはクエリを要約モードでのみ作成可能で、拡張モードに切り替えることはできません。 |
| SR_DASHBOARD_ON_HOME_PAGE | 読み取り権限が与えられると、そのユーザ・ロールでホームページ上の専用ダッシュボード・レポートにアクセスできます。このレポートは、ユーザ・カスタム・コードで構成しなければなりません。 |
| SR_KB_ON_HOME_PAGE | 読み取り権限が与えられると、そのユーザ・ロールでホームページから組み込みのナレッジベース・ビジネス・エリアの検索にアクセス可能です。 |
| SR_SET_HOME_PAGE_REPORTS | このキーに読み取り権限が与えられると、ユーザは自分のホームページ・レポートの選択および設定が可能です。 |
| SR_PERSONAL_AGING | 読み取り権限が与えられると、パーソナル・エージング・レポートの保存、および個人用に作成したエージング・レポートのユーザのホームページへの配置が可能です。 |
| SR_PERSONAL_CHART | 読み取りアクセス権によって、パーソナル・グラフを保存して、個人的に作成されたグラフをユーザのホームページに配置するためのアクセスを制御します。 |
| SR_PERSONAL_COLUMN_REPORT | パーソナル・レポートを作成して実行できるかどうかを指定します。読み取りアクセス権と書き込みアクセス権の両方を使用して、必要な機能を指定することができます。 |

| 権限キー | 説明 |
|-----------------------------|--|
| SR_PERSONAL_SUMMARY_REPORT | パーソナル・サマリ・レポートを作成して実行できるかどうかを指定します。読み取りアクセス権と書き込みアクセス権の両方を使用して、必要な機能を指定することができます。 |
| SR_PUBLIC_AGING | 読み取り権限が与えられると、パブリック・エイジング・レポートの保存、およびパブリック・エイジング・レポートのユーザのホームページへの配置が可能です。 |
| SR_PUBLIC_CHART | 読み取りアクセス権によって、パブリック・グラフを保存して、ユーザのホーム・ページにパブリック・グラフを配置するためのアクセスを制御します。 |
| SR_PUBLIC_SUMMARY_REPORT | パブリック・サマリ・レポートを作成して実行できるかどうかを指定します。読み取りアクセス権と書き込みアクセス権の両方を使用して、必要な機能を指定することができます。 |
| SR_PERSONAL_LINKED_REPORT | このキーにより、検索画面の[リンク・レポート]ボタンへのアクセスを制御します。 |
| SR_PUBLIC_LINKED_REPORT | 読み取りアクセス権によって、リンク・レポート機能へのアクセスを制御します。 |
| SR_PUBLIC_COLUMN_REPORT | このキーで、パブリック・レポートへのアクセスを制御します。読み取りアクセス権ではパブリック・レポートを実行でき、書き込みアクセス権ではパブリック・レポートを作成できます。 |
| SR_USERGROUP_AGING | このキーに対する読み取りアクセス権によって、現在のユーザ・ロールに作成されたエイジング・レポートを表示して実行できます。書き込みアクセス権では、それらのエイジング・レポートを作成できます。 |
| SR_USERGROUP_CHART | このキーに対する読み取りアクセス権によって、現在のユーザ・ロールに作成されたグラフを表示して実行できます。書き込みアクセス権では、それらのグラフを作成できます。 |
| SR_USERGROUP_COLUMN_REPORT | このキーに対する読み取りアクセス権によって、現在のユーザ・ロールに作成されたレポートを表示して実行できます。書き込みアクセス権では、それらのレポートを作成できます。 |
| SR_USERGROUP_SUMMARY_REPORT | 現在のユーザ・ロール用のサマリ・レポートを作成して実行できるかどうかを指定します。読み取りアクセス権と書き込みアクセス権の両方を使用して、必要な機能を指定することができます。 |

付録 C – 言語およびロケール・コード

Java でサポートされている、すなわち ExtraView でサポートされている言語およびロケールのリストを次に示します。

| 言語 | 国 | ロケール ID |
|-------------|---------|----------|
| アラビア語 | サウジアラビア | ar_SA |
| 中国語(簡体字) | 中国 | zh_CN |
| 中国語(繁体字) | 台湾 | zh_TW |
| オランダ語 | オランダ | nl_NL |
| 英語 | オーストラリア | en_AU |
| 英語 | カナダ | en_CA |
| 英語 | 英国 | en_GB |
| 英語 | 米国 | en_US |
| フランス語 | カナダ | fr_CA |
| フランス語 | フランス | fr_FR |
| ドイツ語 | ドイツ | de_DE |
| ヘブライ語 | イスラエル | iw_IL |
| ヒンズー語 | インド | hi_IN |
| イタリア語 | イタリア | it_IT |
| 日本語 | 日本 | ja_JP |
| 韓国語 | 韓国 | ko_KR |
| ポルトガル語 | ブラジル | pt_BR |
| スペイン語 | スペイン | es_ES |
| スウェーデン語 | スウェーデン | sv_SE |
| タイ語(アラビア数字) | タイ | th_TH |
| タイ語(タイ数字) | タイ | th_TH_TH |

次のリストに含まれる言語についても正常に機能すると思われませんが、Sun による Java のリリースについてのテストには含まれていません。

| 言語 | 国 | ロケール ID |
|--------|--------|---------|
| アルバニア語 | アルバニア | sq_AL |
| アラビア語 | アルジェリア | ar_DZ |
| アラビア語 | バーレーン | ar_BH |
| アラビア語 | エジプト | ar_EG |
| アラビア語 | イラク | ar_IQ |
| アラビア語 | ヨルダン | ar_JO |
| アラビア語 | クウェート | ar_KW |
| アラビア語 | レバノン | ar_LB |
| アラビア語 | リビア | ar_LY |
| アラビア語 | モロッコ | ar_MA |
| アラビア語 | オマーン | ar_OM |
| アラビア語 | カタール | ar_QA |
| アラビア語 | スーダン | ar_SD |
| アラビア語 | シリア | ar_SY |

| | | |
|----------------|----------|----------|
| アラビア語 | チュニジア | ar_TN |
| アラビア語 | アラブ首長国連邦 | ar_AE |
| アラビア語 | イエメン | ar_YE |
| ブルガリア語 | ブルガリア | bg_BG |
| ベラルーシ語 | ベラルーシ | be_BY |
| カタロニア語 | スペイン | ca_ES |
| 中国語 | 香港 | zh_HK |
| クロアチア語 | クロアチア | hr_HR |
| チェコ語 | チェコ共和国 | cs_CZ |
| デンマーク語 | デンマーク | da_DK |
| オランダ語 | ベルギー | nl_BE |
| 英語 | インド | en_IN |
| 英語 | アイルランド | en_IE |
| 英語 | ニュージーランド | en_NZ |
| 英語 | 南アフリカ | en_ZA |
| エストニア語 | エストニア | et_EE |
| フィンランド語 | フィンランド | fi_FI |
| フランス語 | ベルギー | fr_BE |
| フランス語 | ルクセンブルグ | fr_LU |
| フランス語 | スイス | fr_CH |
| ドイツ語 | オーストリア | de_AT |
| ドイツ語 | ルクセンブルグ | de_LU |
| ドイツ語 | スイス | de_CH |
| ギリシャ語 | ギリシャ | el_GR |
| ハンガリー語 | ハンガリー | hu_HU |
| アイスランド語 | アイスランド | is_IS |
| イタリア語 | スイス | it_CH |
| ラトビア語 | ラトビア | lv_LV |
| リトアニア語 | リトアニア | lt_LT |
| マケドニア語 | マケドニア | mk_MK |
| ノルウェー語(ブークモール) | ノルウェー | no_NO |
| ノルウェー語(ニーノシュク) | ノルウェー | no_NO_NY |
| ポーランド語 | ポーランド | pl_PL |
| ポルトガル語 | ポルトガル | pt_PT |
| ルーマニア語 | ルーマニア | ro_RO |
| ロシア語 | ロシア | ru_RU |
| セルビア語(キリル文字) | ユーゴスラビア | sr_YU |
| セルビア・クロアチア語 | ユーゴスラビア | sh_YU |
| スロバキア語 | スロバキア | sk_SK |
| スロベニア語 | スロベニア | sl_SI |
| スペイン語 | アルゼンチン | es_AR |
| スペイン語 | ボリビア | es_BO |
| スペイン語 | チリ | es_CL |
| スペイン語 | コロンビア | es_CO |
| スペイン語 | コスタリカ | es_CR |
| スペイン語 | ドミニカ共和国 | es_DO |
| スペイン語 | エクアドル | es_EC |
| スペイン語 | エルサルバドル | es_SV |

| | | |
|--------|--------|-------|
| スペイン語 | グアテマラ | es_GT |
| スペイン語 | ホンジュラス | es_HN |
| スペイン語 | メキシコ | es_MX |
| スペイン語 | ニカラグア | es_NI |
| スペイン語 | パナマ | es_PA |
| スペイン語 | パラグアイ | es_PY |
| スペイン語 | ペルー | es_PE |
| スペイン語 | プエルトリコ | es_PR |
| スペイン語 | ウルグアイ | es_UY |
| スペイン語 | ベネズエラ | es_VE |
| トルコ語 | トルコ | tr_TR |
| ウクライナ語 | ウクライナ | uk_UA |

付録 D – タイムゾーン

ExtraView に実装されているタイムゾーンのリストを次に示します。

| GMT への補正値 | タイムゾーン |
|------------|-------------------|
| GMT -12:00 | Etc/GMT +12 |
| GMT -11:00 | Etc/GMT+11 |
| GMT -11:00 | MIT |
| GMT -11:00 | Pacific/Apia |
| GMT -11:00 | Pacific/Midway |
| GMT -11:00 | Pacific/Niue |
| GMT -11:00 | Pacific/Pago_Pago |
| GMT -11:00 | Pacific/Samoa |
| GMT -11:00 | US/Samoa |
| GMT -10:00 | America/Adak |
| GMT -10:00 | America/Atka |
| GMT -10:00 | Etc/GMT+10 |
| GMT -10:00 | HST |
| GMT -10:00 | Pacific/Fakaofu |
| GMT -10:00 | Pacific/Honolulu |
| GMT -10:00 | Pacific/Johnston |
| GMT -10:00 | Pacific/Rarotonga |
| GMT -10:00 | Pacific/Tahiti |
| GMT -10:00 | SystemV/HST10 |
| GMT -10:00 | US/Aleutian |
| GMT -10:00 | US/Hawaii |
| GMT -9:30 | Pacific/Marquesas |
| GMT -9:00 | AST |
| GMT -9:00 | America/Anchorage |
| GMT -9:00 | America/Juneau |
| GMT -9:00 | America/Nome |
| GMT -9:00 | America/Yakutat |
| GMT -9:00 | Etc/GMT+9 |
| GMT -9:00 | Pacific/Gambier |

| | |
|-----------|-----------------------|
| GMT -9:00 | SystemV/YST9 |
| GMT -9:00 | SystemV/YST9YDT |
| GMT -9:00 | US/Alaska |
| GMT -8:00 | America/Dawson |
| GMT -8:00 | America/Ensenada |
| GMT -8:00 | America/Los_Angeles |
| GMT -8:00 | America/Tijuana |
| GMT -8:00 | America/Vancouver |
| GMT -8:00 | America/Whitehorse |
| GMT -8:00 | Canada/Pacific |
| GMT -8:00 | Canada/Yukon |
| GMT -8:00 | Etc/GMT+8 |
| GMT -8:00 | Mexico/BajaNorte |
| GMT -8:00 | PST |
| GMT -8:00 | PST8PDT |
| GMT -8:00 | Pacific/Pitcairn |
| GMT -8:00 | SystemV/PST8 |
| GMT -8:00 | SystemV/PST8PDT |
| GMT -8:00 | US/Pacific |
| GMT -8:00 | US/Pacific-New |
| GMT -7:00 | America/Boise |
| GMT -7:00 | America/Cambridge_Bay |
| GMT -7:00 | America/Chihuahua |
| GMT -7:00 | America/Dawson_Creek |
| GMT -7:00 | America/Denver |
| GMT -7:00 | America/Edmonton |
| GMT -7:00 | America/Hermosillo |
| GMT -7:00 | America/Inuvik |
| GMT -7:00 | America/Mazatlan |
| GMT -7:00 | America/Phoenix |

| | |
|-----------|-----------------------------|
| GMT -7:00 | America/Shiprock |
| GMT -7:00 | America/Yellowknife |
| GMT -7:00 | Canada/Mountain |
| GMT -7:00 | Etc/GMT+7 |
| GMT -7:00 | MST |
| GMT -7:00 | MST7MDT |
| GMT -7:00 | Mexico/BajaSur |
| GMT -7:00 | Navajo |
| GMT -7:00 | PNT |
| GMT -7:00 | SystemV/MST7 |
| GMT -7:00 | SystemV/MST7MDT |
| GMT -7:00 | US/Arizona |
| GMT -7:00 | US/Mountain |
| GMT -6:00 | America/Belize |
| GMT -6:00 | America/Cancun |
| GMT -6:00 | America/Chicago |
| GMT -6:00 | America/Costa_Rica |
| GMT -6:00 | America/El_Salvador |
| GMT -6:00 | America/Guatemala |
| GMT -6:00 | America/Managua |
| GMT -6:00 | America/Menominee |
| GMT -6:00 | America/Merida |
| GMT -6:00 | America/Mexico_City |
| GMT -6:00 | America/Monterrey |
| GMT -6:00 | America/North_Dakota/Center |
| GMT -6:00 | America/Rainy_River |
| GMT -6:00 | America/Rankin_Inlet |
| GMT -6:00 | America/Regina |
| GMT -6:00 | America/Swift_Current |
| GMT -6:00 | America/Tegucigalpa |
| GMT -6:00 | America/Winnipeg |
| GMT -6:00 | CST |
| GMT -6:00 | CST6CDT |
| GMT -6:00 | Canada/Central |
| GMT -6:00 | Canada/East-Saskatchewan |

| | |
|-----------|------------------------------|
| GMT -6:00 | Canada/Saskatchewan |
| GMT -6:00 | Chile/EasterIsland |
| GMT -6:00 | Etc/GMT+6 |
| GMT -6:00 | Pacific/Easter |
| GMT -6:00 | Pacific/Galapagos |
| GMT -6:00 | SystemV/CST6 |
| GMT -6:00 | Mexico/General |
| GMT -6:00 | SystemV/CST6CDT |
| GMT -6:00 | US/Central |
| GMT -5:00 | America/Bogota |
| GMT -5:00 | America/Cayman |
| GMT -5:00 | America/Detroit |
| GMT -5:00 | America/Eirunepe |
| GMT -5:00 | America/Fort_Wayne |
| GMT -5:00 | America/Grand_Turk |
| GMT -5:00 | America/Guayaquil |
| GMT -5:00 | America/Havana |
| GMT -5:00 | America/Indiana/Indianapolis |
| GMT -5:00 | America/Indiana/Knox |
| GMT -5:00 | America/Indiana/Marengo |
| GMT -5:00 | America/Indiana/Vevay |
| GMT -5:00 | America/Indianapolis |
| GMT -5:00 | America/Iqaluit |
| GMT -5:00 | America/Jamaica |
| GMT -5:00 | America/Kentucky/Louisville |
| GMT -5:00 | America/Kentucky/Monticello |
| GMT -5:00 | America/Knox_IN |
| GMT -5:00 | America/Lima |
| GMT -5:00 | America/Louisville |
| GMT -5:00 | America/Montreal |
| GMT -5:00 | America/Nassau |
| GMT -5:00 | America/New_York |
| GMT -5:00 | America/Nipigon |
| GMT -5:00 | America/Panama |
| GMT -5:00 | America/Pangnirtung |

| | |
|-----------|------------------------|
| GMT -5:00 | America/Port-au-Prince |
| GMT -5:00 | America/Porto_Acre |
| GMT -5:00 | America/Rio_Branco |
| GMT -5:00 | America/Thunder_Bay |
| GMT -5:00 | Brazil/Acre |
| GMT -5:00 | Canada/Eastern |
| GMT -5:00 | Cuba |
| GMT -5:00 | EST |
| GMT -5:00 | EST5EDT |
| GMT -5:00 | Etc/GMT+5 |
| GMT -5:00 | Jamaica |
| GMT -5:00 | SystemV/EST5 |
| GMT -5:00 | SystemV/EST5EDT |
| GMT -5:00 | US/East-Indiana |
| GMT -5:00 | US/Eastern |
| GMT -5:00 | US/Indiana-Starke |
| GMT -5:00 | US/Michigan |
| GMT -4:00 | America/Anguilla |
| GMT -4:00 | America/Antigua |
| GMT -4:00 | America/Aruba |
| GMT -4:00 | America/Asuncion |
| GMT -4:00 | America/Barbados |
| GMT -4:00 | America/Boa_Vista |
| GMT -4:00 | America/Caracas |
| GMT -4:00 | America/Cuiaba |
| GMT -4:00 | America/Curacao |
| GMT -4:00 | America/Dominica |
| GMT -4:00 | America/Glace_Bay |
| GMT -4:00 | America/Goose_Bay |
| GMT -4:00 | America/Grenada |
| GMT -4:00 | America/Guadeloupe |
| GMT -4:00 | America/Guyana |
| GMT -4:00 | America/Halifax |
| GMT -4:00 | America/La_Paz |
| GMT -4:00 | America/Manaus |

| | |
|-----------|-----------------------|
| GMT -4:00 | America/Martinique |
| GMT -4:00 | America/Montserrat |
| GMT -4:00 | America/Port_of_Spain |
| GMT -4:00 | America/Porto_Velho |
| GMT -4:00 | America/Puerto_Rico |
| GMT -4:00 | America/Santiago |
| GMT -4:00 | America/Santo_Domingo |
| GMT -4:00 | America/St_Kitts |
| GMT -4:00 | America/St_Lucia |
| GMT -4:00 | America/St_Thomas |
| GMT -4:00 | America/St_Vincent |
| GMT -4:00 | America/Thule |
| GMT -4:00 | America/Tortola |
| GMT -4:00 | America/Virgin |
| GMT -4:00 | Antarctica/Palmer |
| GMT -4:00 | Atlantic/Bermuda |
| GMT -4:00 | Atlantic/Stanley |
| GMT -4:00 | Brazil/West |
| GMT -4:00 | Canada/Atlantic |
| GMT -4:00 | Chile/Continental |
| GMT -4:00 | Etc/GMT+4 |
| GMT -4:00 | PRT |
| GMT -4:00 | SystemV/AST4 |
| GMT -4:00 | SystemV/AST4ADT |
| GMT -3:30 | America/St_Johns |
| GMT -3:30 | CNT |
| GMT -3:30 | Canada/Newfoundland |
| GMT -3:00 | AGT |
| GMT -3:00 | America/Araguaina |
| GMT -3:00 | America/Belem |
| GMT -3:00 | America/Buenos_Aires |
| GMT -3:00 | America/Catamarca |
| GMT -3:00 | America/Cayenne |
| GMT -3:00 | America/Cordoba |
| GMT -3:00 | America/Fortaleza |

| | |
|-----------|------------------------|
| GMT -3:00 | America/Godthab |
| GMT -3:00 | America/Jujuy |
| GMT -3:00 | America/Maceio |
| GMT -3:00 | America/Mendoza |
| GMT -3:00 | America/Miquelon |
| GMT -3:00 | America/Montevideo |
| GMT -3:00 | America/Paramaribo |
| GMT -3:00 | America/Recife |
| GMT -3:00 | America/Rosario |
| GMT -3:00 | America/Sao_Paulo |
| GMT -3:00 | Antarctica/Rothera |
| GMT -3:00 | BET |
| GMT -3:00 | Brazil/East |
| GMT -3:00 | Etc/GMT+3 |
| GMT -2:00 | America/Noronha |
| GMT -2:00 | Atlantic/South_Georgia |
| GMT -2:00 | Brazil/DeNoronha |
| GMT -2:00 | Etc/GMT+2 |
| GMT -1:00 | America/Scoresbysund |
| GMT -1:00 | Atlantic/Azores |
| GMT -1:00 | Atlantic/Cape_Verde |
| GMT -1:00 | Etc/GMT+1 |
| GMT +0:00 | Africa/Abidjan |
| GMT +0:00 | Africa/Accra |
| GMT +0:00 | Africa/Bamako |
| GMT +0:00 | Africa/Banjul |
| GMT +0:00 | Africa/Bissau |
| GMT +0:00 | Africa/Casablanca |
| GMT +0:00 | Africa/Conakry |
| GMT +0:00 | Africa/Dakar |
| GMT +0:00 | Africa/El_Aaiun |
| GMT +0:00 | Africa/Freetown |
| GMT +0:00 | Africa/Lome |
| GMT +0:00 | Africa/Monrovia |
| GMT +0:00 | Africa/Nouakchott |

| | |
|-----------|----------------------|
| GMT +0:00 | Africa/Ouagadougou |
| GMT +0:00 | Africa/Sao_Tome |
| GMT +0:00 | Africa/Timbuktu |
| GMT +0:00 | America/Danmarkshavn |
| GMT +0:00 | Atlantic/Canary |
| GMT +0:00 | Atlantic/Faeroe |
| GMT +0:00 | Atlantic/Madeira |
| GMT +0:00 | Atlantic/Reykjavik |
| GMT +0:00 | Atlantic/St_Helena |
| GMT +0:00 | Eire |
| GMT +0:00 | Etc/GMT |
| GMT +0:00 | Etc/GMT+0 |
| GMT +0:00 | Etc/GMT-0 |
| GMT +0:00 | Etc/GMT0 |
| GMT +0:00 | Etc/Greenwich |
| GMT +0:00 | Etc/UCT |
| GMT +0:00 | Etc/UTC |
| GMT +0:00 | Etc/Universal |
| GMT +0:00 | Etc/Zulu |
| GMT +0:00 | Europe/Belfast |
| GMT +0:00 | Europe/Dublin |
| GMT +0:00 | Europe/Lisbon |
| GMT +0:00 | Europe/London |
| GMT +0:00 | GB |
| GMT +0:00 | GB-Eire |
| GMT +0:00 | GMT |
| GMT +0:00 | GMT0 |
| GMT +0:00 | Greenwich |
| GMT +0:00 | Iceland |
| GMT +0:00 | Portugal |
| GMT +0:00 | UCT |
| GMT +0:00 | UTC |
| GMT +0:00 | Universal |
| GMT +0:00 | WET |
| GMT +0:00 | Zulu |

| | |
|-----------|---------------------|
| GMT +1:00 | Africa/Algiers |
| GMT +1:00 | Africa/Bangui |
| GMT +1:00 | Africa/Brazzaville |
| GMT +1:00 | Africa/Ceuta |
| GMT +1:00 | Africa/Douala |
| GMT +1:00 | Africa/Kinshasa |
| GMT +1:00 | Africa/Lagos |
| GMT +1:00 | Africa/Libreville |
| GMT +1:00 | Africa/Luanda |
| GMT +1:00 | Africa/Malabo |
| GMT +1:00 | Africa/Ndjamena |
| GMT +1:00 | Africa/Niamey |
| GMT +1:00 | Africa/Porto-Novo |
| GMT +1:00 | Africa/Tunis |
| GMT +1:00 | Africa/Windhoek |
| GMT +1:00 | Arctic/Longyearbyen |
| GMT +1:00 | Atlantic/Jan_Mayen |
| GMT +1:00 | CET |
| GMT +1:00 | ECT |
| GMT +1:00 | Etc/GMT-1 |
| GMT +1:00 | Europe/Amsterdam |
| GMT +1:00 | Europe/Andorra |
| GMT +1:00 | Europe/Belgrade |
| GMT +1:00 | Europe/Berlin |
| GMT +1:00 | Europe/Bratislava |
| GMT +1:00 | Europe/Brussels |
| GMT +1:00 | Europe/Budapest |
| GMT +1:00 | Europe/Copenhagen |
| GMT +1:00 | Europe/Gibraltar |
| GMT +1:00 | Europe/Ljubljana |
| GMT +1:00 | Europe/Luxembourg |
| GMT +1:00 | Europe/Madrid |
| GMT +1:00 | Europe/Malta |
| GMT +1:00 | Europe/Monaco |
| GMT +1:00 | Europe/Oslo |

| | |
|-----------|---------------------|
| GMT +1:00 | Europe/Paris |
| GMT +1:00 | Europe/Prague |
| GMT +1:00 | Europe/Rome |
| GMT +1:00 | Europe/San_Marino |
| GMT +1:00 | Europe/Sarajevo |
| GMT +1:00 | Europe/Skopje |
| GMT +1:00 | Europe/Stockholm |
| GMT +1:00 | Europe/Tirane |
| GMT +1:00 | Europe/Vaduz |
| GMT +1:00 | Europe/Vatican |
| GMT +1:00 | Europe/Vienna |
| GMT +1:00 | Europe/Warsaw |
| GMT +1:00 | Europe/Zagreb |
| GMT +1:00 | Europe/Zurich |
| GMT +1:00 | MET |
| GMT +1:00 | Poland |
| GMT +2:00 | ART |
| GMT +2:00 | Africa/Blantyre |
| GMT +2:00 | Africa/Bujumbura |
| GMT +2:00 | Africa/Cairo |
| GMT +2:00 | Africa/Gaborone |
| GMT +2:00 | Africa/Harare |
| GMT +2:00 | Africa/Johannesburg |
| GMT +2:00 | Africa/Kigali |
| GMT +2:00 | Africa/Lubumbashi |
| GMT +2:00 | Africa/Lusaka |
| GMT +2:00 | Africa/Maputo |
| GMT +2:00 | Africa/Maseru |
| GMT +2:00 | Africa/Mbabane |
| GMT +2:00 | Africa/Tripoli |
| GMT +2:00 | Asia/Amman |
| GMT +2:00 | Asia/Beirut |
| GMT +2:00 | Asia/Damascus |
| GMT +2:00 | Asia/Gaza |
| GMT +2:00 | Asia/Istanbul |

| | |
|-----------|----------------------|
| GMT +2:00 | Asia/Jerusalem |
| GMT +2:00 | Asia/Nicosia |
| GMT +2:00 | Asia/Tel_Aviv |
| GMT +2:00 | CAT |
| GMT +2:00 | EET |
| GMT +2:00 | Egypt |
| GMT +2:00 | Etc/GMT-2 |
| GMT +2:00 | Europe/Athens |
| GMT +2:00 | Europe/Bucharest |
| GMT +2:00 | Europe/Chisinau |
| GMT +2:00 | Europe/Helsinki |
| GMT +2:00 | Europe/Istanbul |
| GMT +2:00 | Europe/Kaliningrad |
| GMT +2:00 | Europe/Kiev |
| GMT +2:00 | Europe/Minsk |
| GMT +2:00 | Europe/Nicosia |
| GMT +2:00 | Europe/Riga |
| GMT +2:00 | Europe/Simferopol |
| GMT +2:00 | Europe/Sofia |
| GMT +2:00 | Europe/Tallinn |
| GMT +2:00 | Europe/Tiraspol |
| GMT +2:00 | Europe/Uzhgorod |
| GMT +2:00 | Europe/Vilnius |
| GMT +2:00 | Europe/Zaporozhye |
| GMT +2:00 | Israel |
| GMT +2:00 | Libya |
| GMT +2:00 | Turkey |
| GMT +3:00 | Africa/Addis_Ababa |
| GMT +3:00 | Africa/Asmera |
| GMT +3:00 | Africa/Dar_es_Salaam |
| GMT +3:00 | Africa/Djibouti |
| GMT +3:00 | Africa/Kampala |
| GMT +3:00 | Africa/Khartoum |
| GMT +3:00 | Africa/Mogadishu |
| GMT +3:00 | Africa/Nairobi |

| | |
|-----------|---------------------|
| GMT +3:00 | Antarctica/Syowa |
| GMT +3:00 | Asia/Aden |
| GMT +3:00 | Asia/Baghdad |
| GMT +3:00 | Asia/Bahrain |
| GMT +3:00 | Asia/Kuwait |
| GMT +3:00 | Asia/Qatar |
| GMT +3:00 | Asia/Riyadh |
| GMT +3:00 | EAT |
| GMT +3:00 | Etc/GMT-3 |
| GMT +3:00 | Europe/Moscow |
| GMT +3:00 | Indian/Antananarivo |
| GMT +3:00 | Indian/Comoro |
| GMT +3:00 | Indian/Mayotte |
| GMT +3:00 | W-SU |
| GMT +3:30 | Asia/Tehran |
| GMT +3:30 | Iran |
| GMT +4:00 | Asia/Aqtau |
| GMT +4:00 | Asia/Baku |
| GMT +4:00 | Asia/Dubai |
| GMT +4:00 | Asia/Muscat |
| GMT +4:00 | Asia/Oral |
| GMT +4:00 | Asia/Tbilisi |
| GMT +4:00 | Asia/Yerevan |
| GMT +4:00 | Etc/GMT-4 |
| GMT +4:00 | Europe/Samara |
| GMT +4:00 | Indian/Mahe |
| GMT +4:00 | Indian/Mauritius |
| GMT +4:00 | Indian/Reunion |
| GMT +4:00 | NET |
| GMT +4:30 | Asia/Kabul |
| GMT +5:00 | Asia/Aqtobe |
| GMT +5:00 | Asia/Ashgabat |
| GMT +5:00 | Asia/Ashkhabad |
| GMT +5:00 | Asia/Bishkek |
| GMT +5:00 | Asia/Dushanbe |

| | |
|-----------|--------------------|
| GMT +5:00 | Asia/Karachi |
| GMT +5:00 | Asia/Samarkand |
| GMT +5:00 | Asia/Tashkent |
| GMT +5:00 | Asia/Yekaterinburg |
| GMT +5:00 | Etc/GMT-5 |
| GMT +5:00 | Indian/Kerguelen |
| GMT +5:00 | Indian/Maldives |
| GMT +5:00 | PLT |
| GMT +5:30 | Asia/Calcutta |
| GMT +5:30 | IST |
| GMT +6:00 | Antarctica/Mawson |
| GMT +6:00 | Antarctica/Vostok |
| GMT +6:00 | Asia/Almaty |
| GMT +6:00 | Asia/Colombo |
| GMT +6:00 | Asia/Dacca |
| GMT +6:00 | Asia/Dhaka |
| GMT +6:00 | Asia/Novosibirsk |
| GMT +6:00 | Asia/Omsk |
| GMT +6:00 | Asia/Qyzylorda |
| GMT +6:00 | Asia/Thimbu |
| GMT +6:00 | Asia/Thimphu |
| GMT +6:00 | BST |
| GMT +6:00 | Etc/GMT-6 |
| GMT +6:00 | Indian/Chagos |
| GMT +6:30 | Asia/Rangoon |
| GMT +6:30 | Indian/Cocos |
| GMT +7:00 | Antarctica/Davis |
| GMT +7:00 | Asia/Bangkok |
| GMT +7:00 | Asia/Hovd |
| GMT +7:00 | Asia/Jakarta |
| GMT +7:00 | Asia/Krasnoyarsk |
| GMT +7:00 | Asia/Phnom_Penh |
| GMT +7:00 | Asia/Pontianak |
| GMT +7:00 | Asia/Saigon |
| GMT +7:00 | Asia/Vientiane |

| | |
|-----------|--------------------|
| GMT +7:00 | Etc/GMT-7 |
| GMT +7:00 | Indian/Christmas |
| GMT +7:00 | VST |
| GMT +8:00 | Antarctica/Casey |
| GMT +8:00 | Asia/Brunei |
| GMT +8:00 | Asia/Chongqing |
| GMT +8:00 | Asia/Chungking |
| GMT +8:00 | Asia/Harbin |
| GMT +8:00 | Asia/Hong_Kong |
| GMT +8:00 | Asia/Irkutsk |
| GMT +8:00 | Asia/Kashgar |
| GMT +8:00 | Asia/Kuala_Lumpur |
| GMT +8:00 | Asia/Kuching |
| GMT +8:00 | Asia/Macao |
| GMT +8:00 | Asia/Macau |
| GMT +8:00 | Asia/Makassar |
| GMT +8:00 | Asia/Manila |
| GMT +8:00 | Asia/Shanghai |
| GMT +8:00 | Asia/Singapore |
| GMT +8:00 | Asia/Taipei |
| GMT +8:00 | Asia/Ujung_Pandang |
| GMT +8:00 | Asia/Ulaanbaatar |
| GMT +8:00 | Asia/Ulan_Bator |
| GMT +8:00 | Asia/Urumqi |
| GMT +8:00 | Australia/Perth |
| GMT +8:00 | Australia/West |
| GMT +8:00 | CTT |
| GMT +8:00 | Etc/GMT-8 |
| GMT +8:00 | Hongkong |
| GMT +8:00 | PRC |
| GMT +8:00 | Singapore |
| GMT +9:00 | Asia/Choibalsan |
| GMT +9:00 | Asia/Dili |
| GMT +9:00 | Asia/Jayapura |
| GMT +9:00 | Asia/Pyongyang |

| | |
|------------|---------------------------|
| GMT +9:00 | Asia/Seoul |
| GMT +9:00 | Asia/Tokyo |
| GMT +9:00 | Asia/Yakutsk |
| GMT +9:00 | JST |
| GMT +9:00 | Japan |
| GMT +9:00 | Etc/GMT-9 |
| GMT +9:00 | Pacific/Palau |
| GMT +9:00 | ROK |
| GMT +9:30 | ACT |
| GMT +9:30 | Australia/Adelaide |
| GMT +9:30 | Australia/Broken_Hill |
| GMT +9:30 | Australia/Darwin |
| GMT +9:30 | Australia/North |
| GMT +9:30 | Australia/South |
| GMT +9:30 | Australia/Yancowinna |
| GMT +10:00 | AET |
| GMT +10:00 | Antarctica/DumontDURville |
| GMT +10:00 | Asia/Sakhalin |
| GMT +10:00 | Asia/Vladivostok |
| GMT +10:00 | Australia/ACT |
| GMT +10:00 | Australia/Brisbane |
| GMT +10:00 | Australia/Canberra |
| GMT +10:00 | Australia/Hobart |
| GMT +10:00 | Australia/Lindeman |
| GMT +10:00 | Australia/Melbourne |
| GMT +10:00 | Australia/NSW |
| GMT +10:00 | Australia/Queensland |
| GMT +10:00 | Australia/Sydney |
| GMT +10:00 | Australia/Tasmania |
| GMT +10:00 | Australia/Victoria |
| GMT +10:00 | Etc/GMT-10 |
| GMT +10:00 | Pacific/Guam |
| GMT +10:00 | Pacific/Port_Moresby |

| | |
|------------|-----------------------|
| GMT +10:00 | Pacific/Saipan |
| GMT +10:00 | Pacific/Truk |
| GMT +10:00 | Pacific/Yap |
| GMT +10:30 | Australia/LHI |
| GMT +10:30 | Australia/Lord_Howe |
| GMT +11:00 | Asia/Magadan |
| GMT +11:00 | Etc/GMT-11 |
| GMT +11:00 | Pacific/Efate |
| GMT +11:00 | Pacific/Guadalcanal |
| GMT +11:00 | Pacific/Kosrae |
| GMT +11:00 | Pacific/Noumea |
| GMT +11:00 | Pacific/Ponape |
| GMT +11:00 | SST |
| GMT +11:30 | Pacific/Norfolk |
| GMT +12:00 | Antarctica/McMurdo |
| GMT +12:00 | Antarctica/South_Pole |
| GMT +12:00 | Asia/Anadyr |
| GMT +12:00 | Asia/Kamchatka |
| GMT +12:00 | Etc/GMT-12 |
| GMT +12:00 | Kwajalein |
| GMT +12:00 | NST |
| GMT +12:00 | NZ |
| GMT +12:00 | Pacific/Auckland |
| GMT +12:00 | Pacific/Fiji |
| GMT +12:00 | Pacific/Funafuti |
| GMT +12:00 | Pacific/Kwajalein |
| GMT +12:00 | Pacific/Majuro |
| GMT +12:00 | Pacific/Nauru |
| GMT +12:00 | Pacific/Tarawa |
| GMT +12:00 | Pacific/Wake |
| GMT +12:00 | Pacific/Wallis |

付録 E – 文字セットの値

次の表に、ASCII-ISO 8859-1 規格に定められている ISO Latin 1 Character Entities を示します。

| 10進数 | 記号 | HTML コード | 10進数 | 記号 | HTML コード |
|------|----|----------|------|----|----------|
| 32 | | | 143 | |  |
| 33 | ! | ! | 144 | |  |
| 34 | " | " | 145 | ‘ | ‘ |
| 35 | # | # | 146 | ’ | ’ |
| 36 | \$ | $ | 147 | “ | “ |
| 37 | % | % | 148 | ” | ” |
| 38 | & | & | 149 | • | • |
| 39 | ' | ' | 150 | — | – |
| 40 | (| (| 151 | — | — |
| 41 |) |) | 152 | ~ | ˜ |
| 42 | * | * | 153 | ™ | ™ |
| 43 | + | + | 154 | š | š |
| 44 | , | , | 155 | › | › |
| 45 | - | - | 156 | œ | œ |
| 46 | . | . | 157 | |  |
| 47 | / | / | 158 | ž | ž |
| 48 | 0 | 0 | 159 | ÿ | Ÿ |
| 49 | 1 | 1 | 160 | | |
| 50 | 2 | 2 | 161 | ı | ¡ |
| 51 | 3 | 3 | 162 | ç | ¢ |
| 52 | 4 | 4 | 163 | £ | £ |
| 53 | 5 | 5 | 164 | ¤ | ¤ |
| 54 | 6 | 6 | 165 | ¥ | ¥ |
| 55 | 7 | 7 | 166 | | ¦ |
| 56 | 8 | 8 | 167 | § | § |
| 57 | 9 | 9 | 168 | ¨ | ¨ |
| 58 | : | : | 169 | © | © |
| 59 | ; | ; | 170 | ª | ª |
| 60 | < | < | 171 | « | « |
| 61 | = | = | 172 | ¬ | ¬ |
| 62 | > | > | 173 | | ­ |
| 63 | ? | ? | 174 | ® | ® |
| 64 | @ | @ | 175 | — | ¯ |
| 65 | A | A | 176 | ° | ° |
| 66 | B | B | 177 | ± | ± |
| 67 | C | C | 178 | ² | ² |
| 68 | D | D | 179 | ³ | ³ |
| 69 | E | E | 180 | ´ | ´ |
| 70 | F | F | 181 | µ | µ |
| 71 | G | G | 182 | ¶ | ¶ |
| 72 | H | H | 183 | · | · |
| 73 | I | I | 184 | , | ¸ |
| 74 | J | J | 185 | ı | ¹ |
| 75 | K | K | 186 | ° | º |

| | | | | | |
|-----|---|-------|-----|---|-------|
| 76 | L | L | 187 | » | » |
| 77 | M | M | 188 | ¼ | ¼ |
| 78 | N | N | 189 | ½ | ½ |
| 79 | O | O | 190 | ¾ | ¾ |
| 80 | P | P | 191 | ı | ¿ |
| 81 | Q | Q | 192 | À | À |
| 82 | R | R | 193 | Á | Á |
| 83 | S | S | 194 | Â | Â |
| 84 | T | T | 195 | Ã | Ã |
| 85 | U | U | 196 | Ä | Ä |
| 86 | V | V | 197 | Å | Å |
| 87 | W | W | 198 | Æ | Æ |
| 88 | X | X | 199 | Ç | Ç |
| 89 | Y | Y | 200 | È | È |
| 90 | Z | Z | 201 | É | É |
| 91 | [| [| 202 | Ê | Ê |
| 92 | \ | \ | 203 | Ë | Ë |
| 93 |] |] | 204 | Ì | Ì |
| 94 | ^ | ^ | 205 | Í | Í |
| 95 | ˘ | _ | 206 | Î | Î |
| 96 | ˙ | ` | 207 | Ï | Ï |
| 97 | a | a | 208 | Ð | Ð |
| 98 | b | b | 209 | Ñ | Ñ |
| 99 | c | c | 210 | Ò | Ò |
| 100 | d | d | 211 | Ó | Ó |
| 101 | e | e | 212 | Ô | Ô |
| 102 | f | f | 213 | Õ | Õ |
| 103 | g | g | 214 | Ö | Ö |
| 104 | h | h | 215 | × | × |
| 105 | i | i | 216 | Ø | Ø |
| 106 | j | j | 217 | Ù | Ù |
| 107 | k | k | 218 | Ú | Ú |
| 108 | l | l | 219 | Û | Û |
| 109 | m | m | 220 | Ü | Ü |
| 110 | n | n | 221 | Ý | Ý |
| 111 | o | o | 222 | Þ | Þ |
| 112 | p | p | 223 | ß | ß |
| 113 | q | q | 224 | à | à |
| 114 | r | r | 225 | á | á |
| 115 | s | s | 226 | â | â |
| 116 | t | t | 227 | ã | ã |
| 117 | u | u | 228 | ä | ä |
| 118 | v | v | 229 | å | å |
| 119 | w | w | 230 | æ | æ |
| 120 | x | x | 231 | ç | ç |
| 121 | y | y | 232 | è | è |
| 122 | z | z | 233 | é | é |
| 123 | { | { | 234 | ê | ê |
| 124 | | | | 235 | ë | ë |
| 125 | } | } | 236 | ì | ì |
| 126 | ~ | ~ | 237 | í | í |
| 127 | | | 238 | î | î |
| 128 | € | € | 239 | ï | ï |

| | | | | | |
|-----|----------|-------|-----|---|-------|
| 129 | |  | 240 | đ | ð |
| 130 | , | ‚ | 241 | ñ | ñ |
| 131 | <i>f</i> | ƒ | 242 | ò | ò |
| 132 | » | „ | 243 | ó | ó |
| 133 | ... | … | 244 | ô | ô |
| 134 | † | † | 245 | õ | õ |
| 135 | ‡ | ‡ | 246 | ö | ö |
| 136 | ^ | ˆ | 247 | ÷ | ÷ |
| 137 | ‰ | ‰ | 248 | ø | ø |
| 138 | Š | Š | 249 | ù | ù |
| 139 | ‹ | ‹ | 250 | ú | ú |
| 140 | Œ | Œ | 251 | û | û |
| 141 | |  | 252 | ü | ü |
| 142 | Ž | Ž | 253 | ý | ý |
| 143 | |  | 254 | þ | þ |

付録 F – HTML エリア・ユーティリティ

HTMLエリアは HTML のエディタとして使用でき、HTML コード・セットを知らなくても HTML を作成できます。ワープロに似た多くの機能を提供し、HTML を直接編集するように切り替えることもできます。

デフォルトでは、HTML エリアのフィールドのツールバーは次のようになっていますが、異なった様式にボタンを構成することもできます。

HTML エリア・ユーティリティはブラウザの中で実行されるスクリプトを利用しており、ブラウザのセキュリティ設定によっては、ユーザがこれらのスクリプトを実行してよいことを知らせる必要がある場合もあります。



ボタンの使い方は直感的に分かるようになっていますが、念のため次の表で説明します。ただし、異なった様式で画像が表示される場合もあります。

| ボタン | ラベル | 機能 |
|---|---------------------|--|
|  | fontName | 使用できるフォントをリストから選択します。このリストは管理者がカスタマイズできます。 |
|  | fontSize | フォント・サイズをリストから選択します。 |
|  | bold | 選択したテキストの太字表示を切り替えます。 |
|  | italic | 選択したテキストの斜体表示を切り替えます。 |
|  | underline | 選択したテキストの下線表示を切り替えます。 |
|  | justifyLeft | 選択したテキストを左端揃えにします。 |
|  | justifyCenter | 選択したテキストを中央揃えにします。 |
|  | justifyRight | 選択したテキストを右端揃えにします。 |
|  | insertOrderedList | 番号付きリストのオン、オフを切り替えます。 |
|  | insertUnorderedList | ビュレット付きリストのオン、オフを切り替えます。 |
|  | outdent | 選択したテキストのインデントを解除します。 |
|  | Indent | 選択したテキストをインデントします。 |
|  | foreColor | 選択したテキストの色を選択します。 |

| | | |
|---|----------------------|------------------------------------|
|  | backColor | 選択したテキストの背景色を選択します。 |
|  | insertHorizontalRule | 横罫線を入れます。 |
|  | insertLink | 選択したテキストのリンクを作成します。 |
|  | insertImage | 画像にリンクを挿入します (サーバで画像を使用できる必要があります) |
|  | insertTable | 定義したサイズの表を挿入します。 |
| HTML | switcher | HTML 編集モードとテキスト編集モードを切り替えます。 |
|  | browser | エディタ領域の内容を新しいブラウザ・ウィンドウでプレビューします。 |
|  | copy | テキストをクリップボードにコピーします。 |
|  | paste | クリップボードからウィンドウ内のカーソルの現在位置にペーストします |
|  | cut | 選択された領域をエディタ・ウィンドウから切り取ります。 |
|  | maximize | エディタ・ウィンドウの大きさをページ全体に最大化します。 |
|  | undo | 元に戻す |
|  | redo | やり直し |
|  | save | エディタの内容をファイルに保存します。 |
|  | selectAll | エディタ内のすべてのテキストを選択します。 |
|  | fetch | ポップアップ・ウィンドウから特定の文字を取り出します。 |
| | newPanel | ツールバーに仕切りが表示されるようにします。 |

エディタを構成する

エディタ内でユーザに示されるツールバーは、EDITOR_BUTTONS という動作設定によって制御されます。この設定は [表示]->[表示の設定] 管理メニューにあります。これはツールバー上に表示したい順序で並べられた、ボタンのラベルのリストです。デフォルトのエントリを以下に示します。

```
'fontName', 'fontSize', 'newPanel', 'bold', 'italic',  
'underline', 'newPanel', 'foreColor', 'backColor', 'insertLink',  
'insertImage', 'insertTable', 'newPanel', 'justifyLeft',  
'justifyCenter', 'justifyRight', 'newPanel',  
'insertOrderedList', 'insertUnorderedList', 'newPanel', 'copy',  
'cut', 'paste', 'newPanel', 'outdent', 'indent', 'newPanel',  
'undo', 'redo', 'newPanel', 'switcher'
```

エディタの制限

元に戻す(Undo)ボタンとやり直す(Redo)ボタンは、ブラウザの制限により Internet Explorer ではサポートされておらず、表示されません。

Apple Safari ブラウザは現時点では一部のエディタ機能をサポートしていません。Apple Computer によると、これらの機能の大部分は WebKit バージョン 420 がリリースされれば利用可能になるとのことですが、現時点では Safari ブラウザは WebKit バージョン 419.3 でリリースされています。動作しないことが判明している機能は、"FormatBlock"(<h1>、<h2>、<p> など)、"EditFont" (タイプ、サイズ)、"Strikethrough"、"Justify Full"、"Insert Horizontal Rule"、"Insert ordered and unordered lists"、"Insert Link"、"Image"、"Unlink"、および "Remove Formatting" です。

索引

1

10 進数 · 467

2

24 時間形式の時間 · 64

A

ABBREVIATED_HISTORY · 27, 220
ABBREVIATED_HOME_PAGE · 220
AD_HOC_EMAIL_FROM_ADDRESS · 296
AD_HOC_EMAIL_FROM_SENDER · 296
ADMIN_BYPASS_GROUP · 255
ADMIN_LIST_SIZE · 57, 58, 103, 104, 230
ADMIN_OVERRIDE_ROLE · 81, 260
[Administration]メニューのタイトルの変更 · 352
ADMIN ユーザ · 28, 122, 255, 323
ALLOW_ANONYMOUS_API_ACCESS · 343
ALLOW_BILEVEL_GROUPS · 255, 271
ALLOW_CHART_PRODUCT · 220
ALLOW_CHART_RELEASE · 220
ALLOW_CHART_STATUS · 220
ALLOW_DEBUG_URL · 344
ALLOW_HELP · 230
ALLOW_PASSWORD_CHG_AT_SIGNON · 82
ALLOW_SEARCH_DEACTIVATED_USERS · 220
ALLOW_SEARCH_TEXT_UDFS · 220, 221, 412
ALLOW_UNLIMITED_SEARCH · 220, 411
ALLOWED_ATTACH_SEARCH_FILE_EXT · 220, 412
ALT_ID_START_SINCE · 138
ALT_ID_STOP_SINCE · 138
Alternate field title · 176
ANONYMOUS_API_USER_ID · 343
API · 3, 16, 21, 24, 125, 177, 180, 221, 311, 343, 374, 375, 388, 401, 402, 426
APP_HOME · 131, 159, 160, 320
ATTACHMENT_HISTORY Layout · 198
ATTACHMENT_REPOSITORY_DMAX · 320
ATTACHMENT_REPOSITORY_OPT · 320
ATTACHMENT_REPOSITORY_ROOT · 321
AUTO_SCROLL_TO_EMBEDDED_LAYOUT · 255
AUTO_SIGNOFF_ON_USER_EXIT · 76, 312

B

BatchMail ログ · 430, 435
BG_ALT_COLOR · 229
BG_COLOR · 26, 229
BORDER_COLOR · 229

C

CACHE_AREA_PROJECT · 230
CACHE_COHERENCY_POLL_TIME · 312
CALENDAR_STYLE · 230
CC メール · 139
CF_ADMIN_MENU · 441
CF_ALL_BEHAVIOR_SETTINGS · 441
CF_ALLOW_CHANGE_ROLE · 441
CF_ALLOWED_VALUES · 441
CF_ALLOWEDLOCALES · 441
CF_ALLOWEDVALUE_TYPE · 441
CF_API_SETTINGS · 441
CF_AREA · 441
CF_CATEGORY · 441
CF_COMPANY_SETTINGS · 441
CF_DATA_DICTIONARY · 441
CF_DEBUG_SETTINGS · 441
CF_DISPLAY_INFO · 441
CF_DISPLAY_SETTINGS · 441
CF_EMAIL_SETTINGS · 442
CF_ENABLE_DISABLE_USER · 442
CF_ENVIRONMENT · 442
CF_ESCALATION_RULES · 301, 442
CF_EXPIRE_PASSWORD · 442
CF_FILE_IMPORT · 442
CF_HIERARCHY · 442
CF_INSTALLATION_DETAILS · 442
CF_INTEREST_LIST · 66, 99, 442
CF_ITEMDATA · 442
CF_LAYOUT · 442
CF_LAYOUT_TYPE · 442
CF_LICENSE · 442
CF_LOCALIZE · 442
CF_MANAGE_USER_CONNECTION · 443
CF_METADATA · 443
CF_METADATA_UPDATER · 443
CF_MODULE · 443
CF_MODULE_TYPE · 443

CF_OBJECT_IMPORT · 443
CF_PERSONAL_OPTIONS · 34, 443
CF_PRIORITY · 443
CF_PRODUCT · 443
CF_PRODUCT_LINE · 443
CF_PROJECT · 443
CF_RELATIONSHIP_GROUP · 274, 443
CF_RELATIONSHIP_GROUP_DELETE · 443
CF_RELATIONSHIP_GROUP_EDIT · 443, 444
CF_RELATIONSHIP_GROUP_PROBLEM_ADD_PROBLEM_BUTTON · 444
CF_RELATIONSHIP_GROUP_VIEW · 444
CF_RELATIONSHIP_GROUP_VIEW_ · 274
CF_REPORT_SETTINGS · 444
CF_REPORT_USER · 444
CF_RESOLUTION · 444
CF_SESSION_SETTINGS · 444
CF_SEVERITY · 444
CF_SSO_SETTINGS · 444
CF_STATISTICS · 444
CF_STATUS · 444
CF_STATUS_RULES · 444
CF_STATUS_SIGNATURES · 444
CF_SYSTEM_LOG · 444
CF_SYSTEM_LOG_TYPE · 444
CF_SYSTEM_SIGNON · 445
CF_TEMPLATE · 445
CF_TRANSLATOR · 445
CF_UDF_LIST · 445
CF_UPLOAD_COMPANY_LOGO · 445
CF_UPLOAD_USER_TEMPLATES · 344, 445
CF_USER_FILE_IMPORT · 390, 445
CF_USER_SETTINGS · 445
CF_VERSION_INFO · 445
CF_VIEW_APP_SERVER_LOG · 325, 445
CF_WORKFLOW_DEFAULTS · 445
Change Password · 82
CHECK_EMAIL_ADDRESS_FORMAT · 283, 296
CLI · 3, 21, 125, 177, 221, 343, 362, 378, 388, 389
CLI_EDIT_MULTI_VALUE_FIELDS · 343
CLICK_LOCKDOWN_TIMEOUT_SECS · 230
CLIENT_IP_ADDRESS_CHECK · 76, 313
CLONE_RELATIONSHIP_GROUP · 274
COMPANY_NAME · 28, 62, 86, 92, 93, 94, 95, 96, 205, 256, 323, 368
COMPANY_OVERRIDE_FIELDS · 94, 323
configuration.properties · 435
CONTACT_ADMINISTRATOR · 82
COPY_ATTACHMENT_ON_CLONE · 255
CSS_HOME · 321
CUSTOM_AUTHENTICATION · 80, 331, 334

D

DATE_CLOSED · 137
DATE_CLOSED_SINCE · 137
DATE_CREATED · 137, 289
DATE_CREATED_SINCE · 137
DATE_LAST_STATUS_ · 137
DAYS_OPEN · 137, 200
DB_TIMEZONE · 230
DEFAULT_ATTACHMENT_CHARSET · 321
DEFAULT_CHART_FONT · 64, 229
DEFAULT_DATE_FORMAT · 231
DEFAULT_FONT · 229
DEFAULT_LANGUAGE · 321
DEFAULT_REGION · 321
DEFAULT_SORT_ORDER · 221
DEFAULT_TEXT_REPORT_DELIMITER · 221, 343, 380
DEFAULT_TIMEZONE · 313
DEFAULT_VARIANT · 321
DISALLOW_AREA_0_DATA · 107, 109, 256
DISALLOW_PROJECT_0_DATA · 107, 109, 256
Display format · 177
DO NOT USE ALLOWED VALUES · 178
DOMAIN · 321
DRILLDOWN_ATTRIBUTE · 221
DTD · 359, 360, 361, 362, 377

E

EDITOR_BUTTONS · 231, 471
EDITOR_STYLE · 231
EMAIL_STYLESHEET · 297
EMAIL_ADDRESS · 139, 290, 333
EMAIL_ADMINISTRATOR_NAME · 27, 296
EMAIL_ADMINISTRATOR_USER_ID · 296
EMAIL_BCC_ARCHIVE · 296
EMAIL_CHARSET · 64, 296
EMAIL_CONTACT_ADMINISTRATOR · 296
EMAIL_CUSTOMER_BOX · 296
EMAIL_DIRECTORY · 296
EMAIL_FROM_USER_ID · 28, 296
EMAIL_FROM_USER_NAME · 297
EMAIL_MODULE_OWNER_ALWAYS · 112, 297
EMAIL_NOTIFICATION · 283, 297
EMAIL_NOTIFY_USERS_ALWAYS · 297
EMAIL_SUBJECT_TEMPLATE · 28, 285, 297
ENABLE_AREAS · 19, 321
ENABLE_COMPANY_NAME_ACCESS · 86, 93, 94, 95, 96, 256, 323
ENABLE_PRIVACY_GROUPS · 83, 86, 95
ENABLE_PRIVACY_GRP_OVERRIDE · 86, 93, 256

ENABLE_PROJECTS · 19, 321
ENFORCE_DETAILED_USER_INFO · 73, 83
ENFORCE_ONE_TO_MANY_RG · 256
ENFORCE_STATE_CHANGE_RULES ·
27, 133, 256, 259
ENFORCE_UNIQUE_RELEASES · 256
EV_ESCALATED_COUNT · 300
EV_ESCALATED_LAST · 300, 303, 304
evescalation · 300
EXCEL_CELL_CHAR_LIMIT · 221

F

FDA 21 CFR Part 11 · 236
FIELD NOT REQUIRED IF · 178
FIELD READONLY IF · 178
Field required · 179
Field Visible If · 179
FILL_IN_REPEATING_RECORDS · 221
FILTER_CHILD_VALUES · 256
FILTER_CHILD_VALUES フィールド · 146
FILTER_MODULE_BY_CATEGORY · 257
FIXED_WIDTH_FONT · 229
FOLD_TEXT_POSITION · 221, 231, 232
FOLD_WORD_POSITION · 221, 231, 232

G

GENERATE_EMAIL_BOX · 297

H

HEIGHT · 179
HELP_HOME · 321, 429
HIGHLIGHT_COLOR · 178, 229
HIGHLIGHT_COLOR_ADD · 229
HIGHLIGHT_COLOR_DELETE · 229
HIGHLIGHT_COLOR_UPDATE · 229
HIGHLIGHT_LAST_CHANGE_USER · 221
HIGHLIGHT_TIMESTAMP · 221
HOME_PAGE_REFRESH_SECONDS · 221
HTML modifier · 180
HTML エリア表示タイプ · 150
HTMLAREA_ROW_HEIGHT · 126, 232
HTML エリア · 126, 135, 150, 158, 227, 232, 288,
470
HTML ベースのヘルプ · 428
HTTP_CHARSET · 321

I

IGNORE_DEACTIVATED_USER_FIELDS · 83
IMG_HOME · 37, 43, 44, 229, 321

INSERT_REPORT_HEADERS · 221
Interest Lists · 292
IP アドレス · 76, 78, 80, 313
issue のクローズ · 264
issue の複製 · 409
issue レコード · 124
Issue レコード · 155
ITEM_TABLE_CARDINALITY · 221

J

Java · 14, 16, 320, 347, 425, 426, 435, 456
JavaScript · 14, 54, 136, 146, 180, 205, 207,
211, 212, 233, 257, 327, 426, 427
JavaScript を使用して値を更新する · 207, 233,
257

K

KEEP_FAMILY_SESSIONS_TIMEOUT · 313
KEEPALIVE_INTERVAL_SECS · 319
KEYWORD · 204, 412

L

LABEL_COLOR · 229
LABEL_WRAP_POSITION · 176, 177, 232
Layouts & Display · 172, 213
LDAP · 14, 24, 67, 311, 331, 332, 333, 334, 335,
336, 337, 338, 339, 340, 342, 444
LDAP_DEFAULT_AREA · 331
LDAP_DEFAULT_PROJECT · 331
LDAP_HOST · 331
LDAP_PSWRD · 332
LDAP_ROOT · 332
LDAP_USER_LOOKUP · 332
LICENSE_METHOD · 323
LICENSEE · 323
LIMIT_QUERY_ROWS · 220, 221, 411
LIMIT_WORD_DETAILED_RECORDS · 222
LIMIT_WORD_RECORDS · 222
LIMITED_USER_GROUP · 255
LIMITED_USER_ROLE · 27, 55, 56, 69, 85, 92,
99, 126, 245, 255, 257, 295, 296, 299, 346
LINK_MODULE_OWNER_ASSIGNED_TO ·
283
LINK_MODULE_USER · 112, 257
LOCALIZE_TITLES · 321
Log Area · 257
LOG_AREA_DISPLAY_CHARS · 126, 151, 222,
232
LOG_AREA_TEMPLATE · 151, 257

M

MANDATORY_FIELD_POST · 232
MANDATORY_FIELD_PRE · 232
MAX_SIGNON_ATTEMPTS · 80, 313, 315
Maxlength · 181
MENU_ADD_PROBLEM · 445
MENU_ADMINISTRATION · 445
MENU_DIRECTION · 32, 37, 230, 232
MENU_DRILLDOWN_ON_NAV_BAR ·
446
MENU_EDIT · 446
MENU_HOME · 446
MENU_RESOLUTION · 446
MENU_SIZE · 34, 232
MENU_TEXT_COLOR · 35, 229
MENUBAR_SEARCH_TARGET_WIN · 222
MINI_HISTORY · 140
MINIMUM_SEARCH_FIELDS · 222, 411
MONTHS_OPEN · 137
MS Office の文字セット · 64
MS_OFFICE_CHARSET · 222, 321
MULTI_LOCALE · 322, 326
MULTI_RELEASE_XML · 343
MULTI_VALUE_HIGHLIGHT_CHAR · 130,
232
MULTIPLE_FIELD_SEPARATOR · 257

N

NAV_BAR_GO_BUTTON · 232
NAV_BAR_LOGO_STYLE · 33, 52, 233
NAV_BAR_STYLE · 34, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50,
52, 53, 233
NOSPILL_SESSION_COUNT · 313
Notification · 28, 297, 435
NUM_CONCURRENT_USERS · 323
NUM_LICENSE_USERS · 323

O

OMITTED_IMPORT_USER_COLUMNS · 83,
368

P

PASSWORD_RULES · 314
POPUP_LIST_SIZE · 233
postupdate · 239, 248
PR_ADD_PROBLEM. · 447
PR_ADD_PROBLEM.ALT_ID · 446
PR_ADD_PROBLEM.AREA · 446

PR_ADD_PROBLEM.ASSIGNED_TO ·
446
PR_ADD_PROBLEM.ATTACH_CONTENT_TYPE · 446
PR_ADD_PROBLEM.ATTACH_CREATED_BY_USER · 446
PR_ADD_PROBLEM.ATTACH_DATE_CREATED · 446
PR_ADD_PROBLEM.ATTACH_FILE_DESCRIPTOR · 446
PR_ADD_PROBLEM.ATTACH_FILENAME · 446
PR_ADD_PROBLEM.ATTACH_FILE_SIZE · 446
PR_ADD_PROBLEM.ATTACH_TIMESTAMP · 446
PR_ADD_PROBLEM.ATTACH_THUMBNAI · 447
PR_ADD_PROBLEM.ATTACHMENT_AD · 447
PR_ADD_PROBLEM.CATEGORY · 447
PR_ADD_PROBLEM.CC_EMAIL · 285,
447
PR_ADD_PROBLEM.CC_EMAIL_BUTTON · 286, 447
PR_ADD_PROBLEM.COMMENTS · 447
PR_ADD_PROBLEM.CONTACT · 447
PR_ADD_PROBLEM.DATE_CREATED ·
447
PR_ADD_PROBLEM.DESCRPTION · 447
PR_ADD_PROBLEM.EMAIL_CUSTOMER · 287, 447
PR_ADD_PROBLEM.EMAIL_SWITCH ·
286, 447
PR_ADD_PROBLEM.ID · 447
PR_ADD_PROBLEM.INTEREST_LIST ·
448
PR_ADD_PROBLEM.ITEM_ID · 448
PR_ADD_PROBLEM.MAILING_LIST ·
448
PR_ADD_PROBLEM.MODULE_ID · 448
PR_ADD_PROBLEM.ORIGINATOR · 448
PR_ADD_PROBLEM.OWNER · 448
PR_ADD_PROBLEM.PRIORITY · 448
PR_ADD_PROBLEM.PRIVACY · 448
PR_ADD_PROBLEM.PROBLEM_RELEASE_DELETE · 448
PR_ADD_PROBLEM.PRODUCT_LINE ·
448
PR_ADD_PROBLEM.PRODUCT_NAME ·
448
PR_ADD_PROBLEM.PROJECT · 448
PR_ADD_PROBLEM.RELEASE · 448

PR_ADD_PROBLEM.RELEASE_ASSIGN
 ED_TO · 448
 PR_ADD_PROBLEM.RELEASE_DATE_C
 REATED · 448
 PR_ADD_PROBLEM.RELEASE_FIXED ·
 448
 PR_ADD_PROBLEM.RELEASE_FOUND
 · 448
 PR_ADD_PROBLEM.RELEASE_OWNER
 · 448
 PR_ADD_PROBLEM.RELEASE_PRIORI
 TY · 448
 PR_ADD_PROBLEM.RELEASE_PRODU
 CT · 448
 PR_ADD_PROBLEM.RELEASE_RESOL
 UTION · 448
 PR_ADD_PROBLEM.RELEASE_SEVERI
 TY · 448
 PR_ADD_PROBLEM.RELEASE_STATUS
 · 448
 PR_ADD_PROBLEM.RELEASE_TIMEST
 AMP · 448
 PR_ADD_PROBLEM.RESOLUTION · 448
 PR_ADD_PROBLEM.SEVERITY_LEVEL
 · 448
 PR_ADD_PROBLEM.SHORT_DESCR ·
 449
 PR_ADD_PROBLEM.SHOW_PRIVATE_I
 N_PRIVACY_LIST · 449
 PR_ADD_PROBLEM.SHOW_PUBLIC_IN
 _PRIVACY_LIST · 449
 PR_ADD_PROBLEM.STATUS · 449
 PR_ADD_PROBLEM.TIMESTAMP · 449
 PR_RESOLUTION.ALLOW_EDIT_CLOS
 ED · 449
 PR_RESOLUTION.ALT_ID · 449
 PR_RESOLUTION.AREA · 449
 PR_RESOLUTION.ASSIGNED_TO · 449
 PR_RESOLUTION.ATTACH_CONTENT_
 TYPE · 449
 PR_RESOLUTION.ATTACH_CREATED_
 BY_USER · 449
 PR_RESOLUTION.ATTACH_DATE_CRE
 ATED · 449
 PR_RESOLUTION.ATTACH_FILE_DES
 C · 449
 PR_RESOLUTION.ATTACH_FILE_NAM
 E · 449
 PR_RESOLUTION.ATTACH_FILE_SIZE
 · 449
 PR_RESOLUTION.ATTACH_PATH · 449
 PR_RESOLUTION.ATTACHMENT · 450
 PR_RESOLUTION.ATTACHMENT_ADD
 · 450
 PR_RESOLUTION.ATTACHMENT_DEL
 ETE · 450
 PR_RESOLUTION.ATTACHMENT_EDIT
 · 450
 PR_RESOLUTION.ATTACHMENT_VIE
 W · 450
 PR_RESOLUTION.CATEGORY · 450
 PR_RESOLUTION.CC_EMAIL · 285, 450
 PR_RESOLUTION.CC_EMAIL_BUTTON
 · 285, 450
 PR_RESOLUTION.CLONE · 450
 PR_RESOLUTION.COMMENTS · 450
 PR_RESOLUTION.CONTACT · 450
 PR_RESOLUTION.DATE_CREATED ·
 450
 PR_RESOLUTION.DELETE_BUTTON ·
 450
 PR_RESOLUTION.DESCRPTION · 450
 PR_RESOLUTION.EDIT_BUTTON · 450
 PR_RESOLUTION.EDIT_LOGAREA_FIE
 LDS · 450
 PR_RESOLUTION.EMAIL_BUTTON ·
 450
 PR_RESOLUTION.EMAIL_CUSTOMER ·
 287, 451
 PR_RESOLUTION.EMAIL_FILTER_SCR
 EEN · 451
 PR_RESOLUTION.EMAIL_SWITCH · 286,
 451
 PR_RESOLUTION.HISTORY_BUTTON ·
 451
 PR_RESOLUTION.ID · 451
 PR_RESOLUTION.INTEREST_LIST · 451
 PR_RESOLUTION.ITEM_ID · 451
 PR_RESOLUTION.KEYWORD · 451
 PR_RESOLUTION.LAST_CHANGE_USE
 R · 451
 PR_RESOLUTION.MAILING_LIST · 451
 PR_RESOLUTION.MASS_UPDATE_ISS
 UES · 451
 PR_RESOLUTION.MODULE_ID · 451
 PR_RESOLUTION.MONTHS_IN_STATU
 S · 451
 PR_RESOLUTION.MONTHS_OPEN · 451
 PR_RESOLUTION.OWNER · 451
 PR_RESOLUTION.PRIORITY · 451
 PR_RESOLUTION.PRIVACY · 451
 PR_RESOLUTION.PROBLEM_RELEASE
 _DELETE · 451
 PR_RESOLUTION.PRODUCT_LINE · 452
 PR_RESOLUTION.PRODUCT_NAME ·
 452
 PR_RESOLUTION.PROJECT · 452
 PR_RESOLUTION.RELATIONSHIP_GROUP
 · 274, 452

PR_RESOLUTION.RELATIONSHIP_GROUP_ID · 452
 PR_RESOLUTION.RELATIONSHIP_GROUP_OWNER · 452
 PR_RESOLUTION.RELATIONSHIP_GROUP_TITLE · 452
 PR_RESOLUTION.RELATIONSHIP_GROUP_TYPE · 452
 PR_RESOLUTION.RELATIONSHIP_GROUP_ADMIN · 452
 PR_RESOLUTION.RELATIONSHIP_GROUP_PARENT_ID · 452
 PR_RESOLUTION.RELEASE · 452
 PR_RESOLUTION.RELEASE_ASSIGNED_TO · 452
 PR_RESOLUTION.RELEASE_DATE_CREATED · 452
 PR_RESOLUTION.RELEASE_FIXED · 452
 PR_RESOLUTION.RELEASE_FOUND · 452
 PR_RESOLUTION.RELEASE_OWNER · 452
 PR_RESOLUTION.RELEASE_PRIORITY · 452
 PR_RESOLUTION.RELEASE_PRODUCT · 452
 PR_RESOLUTION.RELEASE_RESOLUTION · 452
 PR_RESOLUTION.RELEASE_SEVERITY · 452
 PR_RESOLUTION.RELEASE_STATUS · 452
 PR_RESOLUTION.RELEASE_TIMESTAMP · 452
 PR_RESOLUTION.RESOLUTION · 452
 PR_RESOLUTION.RG_EMAIL_BUTTON · 452
 PR_RESOLUTION.RG_MERGE_BUTTON · 452
 PR_RESOLUTION.RG_SPLIT_BUTTON · 452
 PR_RESOLUTION.SEARCH_ATTACHMENTS · 453
 PR_RESOLUTION.SEVERITY_LEVEL · 453
 PR_RESOLUTION.SHORT_DESCR · 453
 PR_RESOLUTION.SHOW_PRIVATE_IN_PRIVACY_LIST · 453
 PR_RESOLUTION.SHOW_PUBLIC_IN_PRIVACY_LIST · 453
 PR_RESOLUTION.START_DATE · 453
 PR_RESOLUTION.START_UPDATE · 453
 PR_RESOLUTION.STATUS · 453

PR_RESOLUTION.STATUS_HIST · 453
 PR_RESOLUTION.STOP_DATE · 453
 PR_RESOLUTION.STOP_UPDATE · 453
 PR_RESOLUTION.TIMESTAMP · 453
 PR_RESOLUTION.VIEW_BUTTON · 453
 preupdate · 239, 248
 PRIVATE · 68, 86, 87, 92, 93, 96
 PRODUCT_NAME_HIST · 140
 PROMO フィールド · 146
 PUBLIC · 68, 86, 87, 92, 96

R

REAUTH_REDIRECT_PARAM · 268, 315
 REAUTH_URL · 268, 315
 RECORD_COUNTER_COLOR · 229
 RECORDS_PER_PAGE · 222
 REFRESH_LIST_MAX_SIZE · 233, 257
 RELATED_ISSUE_DISPLAY · 179, 181, 182, 183, 215, 216, 223, 276, 277, 278, 280, 281, 417, 418, 419
 RELATION_GROUP_DEFAULT · 181, 274, 277
RELATIONSHIP GROUP NAME · 181
RELATIONSHIP GROUP REFERENCE FIELD · 181
RELATIONSHIP GROUP RELATION TYPE · 181, 277
 RELATIONSHIP_GROUP_EMAIL_LIMIT · 258, 274
 RELATIONSHIP_GROUP_MAX_DISPLAY · 258, 274
 RELATIONSHIP_GROUP_REMOVE_BTN · 276
 RELATIONSHIP_LINK_DISPLAY · 258, 275
 RELEASE_FOUND_HIST · 140, 142, 202
 RELEASE_SORT_ORDER · 258
 REMEMBER_BETW_TABS · 166, 168, 184, 185, 258
 · 220
 REPORT_DTL_ITEM_DATA_LAYOUT · 222
 REPORT_FILTER_BY_CURRENT_ROLE · 222
 REPORT_IN_NEW_WINDOW · 222
 REPORT_LABELS_POSITION · 222
 REPORT_REL_ISSUES_EXCEL_TEXT · 223
 REPORT_SUPPRESS_BLANK_LINES · 169, 223
 REPORT_WITH_FIXED_WIDTH_FONT · 223, 229
 RESTRICT_ROLE_BASED_REPORTS · 223
 RG_UPDATE_BILEVEL_ONLY · 271, 275, 278
 Ruler fields · 144

S

SAVE_AREA_PROJECT_CHANGES · 258
 SAVE_ROLE_CHANGES · 258

SE_LOGIN_MESSAGE · 453
SE_PRIVACY_GROUP · 453
SE_SECURITY_GROUP · 454
SE_SECURITY_MODULE · 454
SE_SECURITY_PERMISSION · 454
SE_SECURITY_USER · 454
SEARCH_ATTACH_THRESHOLD · 223, 412
SEARCH_ATTACHMENTS · 412
SECURITY_CACHE_MINUTES · 315
Selected · 183, 187
SEPARATE_WORK_FLOW · 258, 260, 269
Session Management · 77
SESSION_EXPIRE_TIME_HOURS · 76, 315, 317
SESSION_MONITOR_POLL_SECS · 319
SESSION_WARNING_INTERVAL_SECS · 315,
317
SESSION_WARNING_TIME_SECS · 315, 317
SET_EMAIL_ENCRYPTION · 297
SHOW_CLOSED_REL_GROUPS_PERIOD · 258,
275
SIGNON_PERIOD_MINUTES · 28, 80, 313,
315
SITE_URL · 322
Size · 183
SORT_SELECTED_VALUES · 158, 258
SPILL_SESSION_COUNT · 315
SQL Server · 149
SR_ALLOW_ADVANCED_QUERIES · 454
SR_ALLOW_EXPANDED_QUERIES · 454
SR_DASHBOARD_ON_HOME_PAGE ·
454
SR_KB_ON_HOME_PAGE · 454
SR_PERSONAL_AGING · 454
SR_PERSONAL_CHART · 454
SR_PERSONAL_LINKED_REPORT · 401,
455
SR_PERSONAL_REPORT · 454, 455
SR_PUBLIC_AGING · 455
SR_PUBLIC_CHART · 455
SR_PUBLIC_COLUMN_REPORT · 455
SR_PUBLIC_LINKED_REPORT · 455
SR_USERGROUP_AGING · 455
SR_USERGROUP_CHART · 455
SR_USERGROUP_COLUMN_REPORT ·
455
SSO · 14, 311, 331, 332, 333, 336
SSO_STATE · 332, 333
STATUS_CLOSED_NAME · 114, 115, 137, 258,
264, 265, 275, 388, 449
STATUS_HIST · 140
STATUS_SIGNATURES · 258, 268
STATUS_TRANSITION · 145
Style · 184
SUPPORT_LINK · 27, 233
SUPPRESS_STANDARD_EMAIL_LIST · 237,
239, 298

SYSDATE · 131, 137, 206, 243, 245, 248, 289,
304, 305, 434
SYSDAY · 137, 241, 242, 245
System Controls · 25, 79, 92, 93, 311, 322, 324,
343, 345, 352
SYSTEM_LOG_EXPIRE_TIME_DAYS · 79,
316, 324

T

TAB_FONT_OFF_COLOR · 229
TAB_FONT_ON_COLOR · 229
TAB_OFF_COLOR · 229
TAB_ON_COLOR · 230
TAB_SEPARATED_EXPORT · 233
tab-delimited files · 390
TABS_PER_ROW · 233
TEXTAREA_ROW_HEIGHT · 233
TIMESTAMP · 137
TIMESTAMP_SINCE · 137

U

UCS-2 · 326
UDF · 153
URLとして表示 · 117, 131, 159, 160, 214, 215,
341
USE_ALLOWED_VALUE_SORT_ORDER · 235
USER_CUSTOM_CLASSNAME · 344
USER_CUSTOM_ENABLE_METRICS · 344
USER_DEFINED_START_PAGE · 64, 83,
352, 400
USER_EXPIRE_TIME_HOURS · 315, 316, 317
USER_LIST_DISPLAY · 85
USER_POPUP_COLUMNS · 85
USER_SELF_REGISTRATION · 27, 85
USER_TIMEOUT_SESSION_REMOVAL
· 318
UserCustom · 344
USERNAME_DISPLAY · 27, 83, 126, 153
UTF-8 · 64, 321, 326, 327, 359, 362

V

Validate Hidden · 184
Visible if · 117, 217

W

WEEKS_OPEN · 137, 203
WINDOW_BG_COLOR · 26, 230

X

XML · 343, 354, 355, 363, 364, 365, 369
xml_insert · 375
XML のインポート · 364, 373
XML のエクスポート · 363

あ

アクセント記号付き文字 · 327
値識別子 · 244
アプリケーション・サーバ・ログ · 432, 434
アプリケーション・サーバのログ · 325
アプリケーション・サーバ・ログ · 430
アプリケーション・プログラミング・インタフェース
(API) · 21
アラウドロケール · 325

い

依存 SQL · 134
一括更新 · 405, 451
色および画像のテーマ · 43
インポート · 354
インポートの方針 · 387

え

エイリアス · 130, 157
エクスポート · 354
エスカレーション・ルール · 236, 300

お

大きなリスト · 103, 104
親 issue の定義 · 277
親 SQL · 134
親キー · 126
親テーブル · 126
親フィールド名 · 134

か

開始ページ · 64, 83, 311, 352, 400
会社情報の設定 · 24, 25, 92, 93, 311, 322, 323
会社名のセキュリティ · 92
会社ロゴ · 16, 235
カスタム・コーディング · 425
カスタム日付マスク · 438

カスタム表示タイプ · 148
カスタム・フィールド · 3, 24, 54, 64, 126, 130, 139,
140, 143, 144, 145, 149, 158, 215, 298, 299,
331, 343, 344, 401, 402, 403, 405, 410, 425,
431, 437, 438
画像フィールド · 143
画面解像度 · 22
画面レイアウト · 16, 118
環境設定 · 24, 319, 320
関係グループ · 271, 415
関係グループ・フィールド · 141
関係者リスト · 97, 98, 99, 102, 109, 117, 130, 158,
290, 291, 292, 293
関係者リストを有効にする · 130
カンマ区切りファイル · 377, 390
管理ユーザ・ロールの階層 · 96
関連 issue のリンク · 238
関連する issue の表示 · 276

き

キーワード · 412, 451, 453
キーワード・フィールド · 146
キーワード検索 · 411
許容値 · 97, 105, 125, 134, 206, 207, 208, 210,
211, 212, 361
許容値タイプ · 206
許容値の関係 · 106

く

クイックリスト · 171
クッキー · 23
組み込みレイアウト · 168, 169, 183, 187, 188, 212
グラフ · 396
グラフのフォント · 64
グローバリゼーション · 29

け

継承 · 18, 162, 166, 170, 259, 263
権限のないアクセス · 79
言語およびロケール・コード · 441, 456
検索の制御 · 411

こ

子 issue の定義 · 278
公式に基づくエスカレーション · 302
項目データのインポート · 359
項目データのインポート・エラー · 376

子キー・126
コマンドライン・インタフェース・21, 362

さ

サーバ側テンプレート・344
サーバ・ログ・430
最後の値を記憶・130, 133, 158
サインオン・ログ・324
サインオン・ページ・54
サインオン・メッセージ・226
サインオン・ログ・77, 79, 430
参照キー・126
参照テーブル・125
参照列・126

し

式・120, 242, 413, 414
式フィールド・120, 135
システム・メッセージの翻訳・326
システム・ログ・323, 324, 430
システム制御・24, 312
システム・セキュリティ・キー・351
システムデバッグ&ユーザ・カスタム設定・343, 344
システムログ・352
修飾子・244
出力テキスト・152, 229, 232, 233, 380
出力テキスト表示タイプ・126, 130, 131, 133, 152, 211
詳細レポート・171
小数・126, 150
シングル・サインオン・24, 311, 331, 332

す

数字表示タイプ・151
数字フィールド・151
数値フィールド・126
スタイル・シート・30
ステータス・114
ステータス残存時間に基づくエスカレーション・302
ステータス署名ルール・260, 268, 269, 270, 271
ステータス変更ルール・259, 260, 262, 263, 269
[* すべて *]エントリを削除・182
すべての動作設定・350

せ

製品の無効化・110

製品名・110
製品ライン・110
セキュリティ・17, 91
セキュリティ・キー・17, 18
セキュリティ権限・116, 162
書き込み専用・165
セキュリティ権限キー・107, 441
セキュリティとセッションの設定・76, 79, 311, 312
セキュリティ・モジュール・17
セッション管理・76
セッション失効コード・316
セッション変数・415
設定および構成・13

そ

ソート可能・133, 158

た

タイトル・15
タイムゾーン・63, 459
タブ・211
タブ・フィールド・126, 152
タブ区切りファイル・377, 390
タブ表示タイプ・152

ち

チェックボックス・148
チェックボックス表示タイプ・126, 148, 211

つ

通貨・126, 148, 157
通貨フィールド・136
通知・4, 27, 60, 66, 67, 80, 85, 283, 305, 306, 307

て

データ辞書・16, 119
データ辞書
画面・120
セッション変数・120
特殊変数・120
ラベル・120
データ辞書フィールド・119

テキスト・エリア・126, 130, 131, 133, 135, 152,
153, 158, 211, 232, 233, 380
テキスト・フィールド・126, 152
テキスト・エリア表示タイプ・153
テキスト・フィールド表示タイプ・152
デジタル署名・268
デバッグ・レベル・431
デフォルト・エリア・63
デフォルト・プロジェクト・19, 63
デフォルト値・80, 133, 160
デフォルトのビジネス・エリア・335
デフォルトのプロジェクト・335
電子メール・1, 4, 20, 118, 139, 282, 283, 284,
285, 286, 287, 288, 290, 296, 297, 305, 306,
307, 406
電子メール・24, 27, 28, 85, 290, 296, 408
電子メール・テンプレート・287, 288
電子メール関係者リスト・20
電子メール機能・282
 CCメール・286
 外部ユーザに対して無効にする・287
 件名をカスタマイズする・285
 システム全体の電子メール・283
 自動作成を無効にする・286
 電子メール形式の選択・306
 ユーザ自身の更新の通知・306
電子メール通知・118, 282, 283, 285, 287
電子メール通知・24
電子メール・テンプレート・287
添付ファイル・138, 196, 220, 345, 347, 361
添付ファイルの文字セット・64
電話番号の書式設定・152

と

統計情報・345, 347
動作設定・23, 24, 92, 274
ドキュメント・タイプ定義・359
特殊なアクション・246
特殊な値・245

な

[* なし *] エントリを削除・183
* なし * を削除・117
名前とタイトル・14

は

バージョン情報・347
ハイライト・178

パスワード期限・67

ひ

ビジネス・ルール・236, 237
ビジネス・ルールと電子メール・ルール・237
ビジネス・エリア・18, 19, 105, 106, 107, 108, 118,
164, 198, 199, 201, 209, 213, 237, 269, 363,
382, 384, 389, 441, 443
日付・149
日付形式・64, 335, 437
日付範囲フィールド・137
日付表示タイプ・149
日付フィールド・126, 136
日付マスク・437
日表示タイプ・149
日フィールド・126
表示・24, 34, 103, 220, 226, 228, 230
表示タイプ・126, 147
表示の設定・24, 34, 103, 230

ふ

ファイル・インポートユーティリティ・377
フィールド管理・97, 116
フィールドとレイアウト・188, 212
フィルタ基準・131, 158
フォントと色の設定・228
複数値・130, 158
複数値フィールド・380
プライベート・グループ・61, 68, 69, 83, 85, 87, 88,
89, 94, 96, 97, 335
プライマリ SQL・134
ブラウザ・22
ブラウザの [更新] ボタン・23
ブラウザの文字セット・64
ブラウザの [戻る] ボタン・23
プロジェクト・389

へ

別名が付けられたリスト・107
ヘルプ・テキスト・134
ヘルプ URL・161
ヘルプ URL・135, 429
ヘルプ・テキスト・161

ほ

ホーム・ページ・397
ボタン・フィールド・143

ボタン表示タイプ・39, 40, 148
ボタン・フィールド・142
ポップアップ表示タイプ・126, 133, 151, 211, 405

め

メールの文字セット・64
メールを生成・139
メタデータ・354
メタデータ値の翻訳・329
メニュー・バー・34
メニューのサイズ・34
メニューのテキストの色・35

も

文字セット・23
モジュール所有者・283
モジュール名・111

ゆ

ユーザ・16, 24
ユーザ・アカウント・メンテナンス・59
ユーザ・アクセスの無効化・81
ユーザ・アクセスの有効化・81
ユーザ・インタフェース・30
 背景およびテキストの色・36
 ボタン・37
 メニューのテキストの色・35
 メニューの方向・32
ユーザ・インポート・ユーティリティ・390
ユーザ・カスタム・16
ユーザ・フィールド・126, 139, 153
ユーザ・ロール・17, 18, 56, 69, 89, 90, 91, 97,
 118, 165, 168, 172, 173, 262, 270
ユーザ ID・61, 78, 236
ユーザ ID・61, 296, 324, 334
ユーザ・インタフェース・30
ユーザ管理・55
ユーザ設定・24, 82
ユーザ定義フィールド・153
ユーザの切断・77
ユーザ表示タイプ・153, 211
ユーザを無効にする・72

よ

予約語・153

ら

ライセンス方式・55
ラベル・フィールド・126, 130, 131, 133, 150, 158
ラベル表示タイプ・150

り

リスト・フィールド・126, 150
リスト管理・97
リストの値を無効・208
リストのソート・97
リスト表示タイプ・150
リピーティング・レコード・124, 155
リピーティング行・212, 385, 387
リピーティング行のフィールド制限・193
リピーティング行レイアウト・191, 193, 194, 199
リリース・リスト・113
リリース・フィールド・141
履歴フィールド・140
履歴レイアウト・195

る

ルーラー・フィールド・144
ルール・タイプ・248
ルール解析・247
ルール式・240, 242
ルール指示・237
ルールタイプ・238
ルール値・243
ルールの実行・248

れ

レイアウト・116
レイアウト・エディタ・20, 116
 エリアおよびプロジェクトのレイアウト・166
 組み込みレイアウト・168
 ユーザ・ロール・168
 リリース・レイアウト・191
 レイアウト・セル属性・176
 レイアウトの削除・186
 ロールのレイアウト・173
レイアウト・タイプ・118, 188, 189, 212, 213
レイアウト内のフィールド制限・199
レポート・20, 395
レポート・オプション・65, 66
レポート URL へのリンク・401
レポート階層・421, 422, 442
レポート式・413

レポート上での選択を許可・130, 157
レポート上の合計フィールド・117, 157
レポートとクエリの設定・220
レポートの階層・223, 224, 225

ろ

ローカライズ・327, 330
ログ・エリア・135, 151, 158, 193, 232, 233, 257,
380

ログ・エリア表示タイプ・126, 130, 131, 133, 151, 192,
211

わ

ワークフロー・24, 27, 236, 254, 255, 259, 260,
268, 269, 283
ワークフローの設定・254, 259, 260, 268, 269